

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第109集

伏原遺跡Ⅱ

都市計画道路高知山田線発掘調査報告書Ⅱ

2010.2

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

伏原遺跡Ⅱ

都市計画道路高知山田線発掘調査報告書Ⅱ

2010.2

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

序

都市計画道路高知山田線は県の中心部と土佐山田町を結ぶ幹線道路として整備が進められており、一部はあけぼの道路としてすでに開通しています。今回の調査は都市計画道路高知山田線建設に伴うもので、平成18年度から調査を実施しました。伏原遺跡が所在する長岡台地は県内でも特に遺跡が多く所在し、古墳時代には須恵器の窯跡や県内最大の伏原大塚古墳を始めとして多くの古墳など土佐の歴史を担ってきた地域であり古くから歴史と文化の息づく街として知られています。

伏原遺跡は以前から遺跡であることは知られていましたが、今回初めて発掘調査を行ったことによりこれまで知られていなかった地域の歴史がわかってきました。調査では弥生時代や古墳時代の土器が多量に出土し、当該期の竪穴式住居跡も多数確認することができました。また、遺跡の周辺には多数の古墳があることが知られており、これらの古墳と関連のあった集落であることも窺われ、貴重な成果が得られました。

永く土の中に眠っている埋蔵文化財は発掘調査を行うことにより先人の知恵や文化を語り出します。本報告書が多くのの人々に埋蔵文化財や歴史により関心と理解をもたらし、地域の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたってご配慮とご協力を頂いた地域の皆様方や関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

平成22年2月

財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター
所長 小笠原孝夫

例言

1. 本書は(財)高知県文化財団が高知県中央東土木事務所より委託を受けて平成19・20年度に実施した伏原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターが実施した。
3. 伏原遺跡は高知県香美市土佐山田町楠目字伏原に所在する弥生時代～古墳時代を中心とする遺跡である。
4. 調査面積は4,729㎡、調査期間は平成19年12月17日から平成20年8月21日であった。整理作業及び報告書作成は平成19～21年度に実施した。
5. 発掘調査・整理作業は以下の体制で行った。

平成19年度

総括：財団法人埋蔵文化財センター所長 汲田幸一
総務：次長 森田尚宏, 総務課長 戸梶友昭, 主任 谷真理子
調査総括：調査課長兼企画調整班長 廣田佳久
調査担当：主任調査員 久家隆芳, 調査員 中石 忍, 調査員 松本安紀彦

平成20年度

総括：財団法人埋蔵文化財センター所長 小笠原孝夫
総務：次長 森田尚宏, 総務課長 恒石雅彦, 主任 谷真理子
調査総括：調査課長兼企画調整班長 廣田佳久
調査担当：専門調査員 井上昌紀, 主任調査員 久家隆芳, 調査員 中石 忍,
調査員 島内洋二

平成21年度

総括：財団法人埋蔵文化財センター所長 小笠原孝夫
総務：次長 森田尚宏, 総務課長 里見敦典, 主任 弘末節子
調査総括：調査課長兼企画調整班長 廣田佳久
調査担当：主任調査員 久家隆芳

6. 本書の執筆は、担当者で分担した。Ⅰ～Ⅳ区の遺構については中石が、Ⅴ区の遺構については島内
が、久家はその他について執筆し、編集は久家が行った。現場写真は中石、松本、島内、久家が撮影
し、遺物写真は久家が撮影した。
7. 現地調査及び本報告書を作成するにあたり、伊藤幸司氏(財団法人大阪市文化財協会)、植地岳彦氏
(財団法人徳島県埋蔵文化財センター)、河合 忍氏(岡山県立博物館)、小林麻由氏(高知県香美市
教育委員会)、鳥越俊行氏(九州国立博物館)、平井泰男氏(岡山県立博物館)、平尾政幸氏(京都市埋
蔵文化財研究所)、渡辺智恵美氏(別府大学)にご教示を賜った。また、香美市土佐山田町楠目地区
の皆様にはご協力を頂いた。なお、X線CTスキャン装置の調査については九州国立博物館に協
力を得、本書に画像を掲載させて頂いた。記して感謝する次第である。
8. 遺構については、ST(竪穴式住居跡)、SK(土坑)、SD(溝跡)、P(ピット)、SG(土器棺)、SX(性格不明
遺構)等の略号を使用した。掲載している挿図の縮尺はそれぞれに記載しており、方位Nは世界測
地系による座標北である。

9. 遺物の縮尺は1/4を基本とし、一部の遺物については、1/2(鉄製品等)、1/1(石鏃等)に縮尺を変えているが、各挿図にはスケールを表示している。遺物番号は通し番号とした。

10. 発掘作業、整理作業は次の方々に行って頂いた。また、同センター諸氏より貴重な助言を頂いた。記して感謝する次第である。

発掘調査： 測量補助員 岩原明美

現場作業員 大石幸雄, 大石嘉久, 大和田延子, 岡上富子, 岡上優, 小野妙子, 小原多加, 苺谷和男, 苺谷和子, 清藤 正, 窪田泰詔, 公文朱美, 黒岩幸子, 近藤里美, 坂野奉宏, 坂本昌男, 澤村 清, 澤本昌明, 徳久道子, 中谷智賀子, 浜口和子, 比山隆雄, 宮本幸子, 山本竹利, 結城繁子

整理作業： 入野三千子, 岩原明美, 門田美知子, 齋藤美幸, 高橋由香, 西田由紀, 藤原ゆみ

11. 調査略号は「07-15KF」, 「08-15KF」とし、遺物の注記もこれによった。また、出土遺物等の資料は高知県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目次

第Ⅰ章 はじめに	
1. 調査に至る経過	1
2. 伏原遺跡周辺の地理的・歴史的環境	1
第Ⅱ章 調査の方法と調査概要	
1. 調査の方法	5
2. 調査の概要	5
第Ⅲ章 調査成果	
1. 基本層序	11
(1) I・Ⅱ区	11
(2) Ⅲ・Ⅳ区	13
(3) V区	18
2. 検出遺構と出土遺物	19
(1) ST	19
(2) SK	96
(3) SD	125
(4) P	130
(5) SG	199
(6) 石垣	207
(7) SX	207
(8) 包含層	218
第Ⅳ章 まとめ	
1. 弥生時代中期末～弥生時代後期後半	221
2. 弥生時代後期後半～古墳時代初頭	222
3. 古墳前期	223
4. 古墳後期	223
5. 古代	223
6. 近世	223
7. まとめ	224
付編 自然科学分析	
1. 伏原遺跡Ⅱ自然科学分析	271
2. 伏原遺跡Ⅱ出土鉄滓の金属学的調査	281
3. 伏原遺跡Ⅱ出土土器の胎土分析	291

挿図目次

図 1	香美市位置図	1
図 2	高知山田線関連遺跡	2
図 3	伏原遺跡周辺の主な遺跡	3
図 4	調査区・グリット設定図	6
図 5	I・II区遺構配置図	7
図 6	III・IV区遺構配置図	8
図 7	V区遺構配置図	9
図 8	I区北壁断面図	12
図 9	II区北壁断面図	14
図10	III・IV区北壁断面図	16
図11	V区北壁断面図	17
図12	ST1平面図・断面図	20
図13	ST1出土遺物実測図1	21
図14	ST1出土遺物実測図2	22
図15	ST2遺物出土状況図	23
図16	ST2平面図・断面図	24
図17	ST2出土遺物実測図1	25
図18	ST2出土遺物実測図2	26
図19	ST3平面図・断面図・カマド平面図	27
図20	ST3出土遺物実測図	28
図21	ST4～6平面図・断面図	29
図22	ST5遺物出土状況図	30
図23	ST5-P8遺物出土状況図	30
図24	ST4～6出土遺物実測図	31
図25	ST7遺物出土状況図	32
図26	ST7平面図・断面図	34
図27	ST7出土遺物実測図1	35
図28	ST7出土遺物実測図2	36
図29	ST7出土遺物実測図3	37
図30	ST8遺物出土状況図	38
図31	ST8平面図・断面図	39
図32	ST8出土遺物実測図1	40
図33	ST8出土遺物実測図2	41
図34	ST8出土遺物実測図3	42
図35	ST9平面図・断面図	44

図36	ST9出土遺物実測図	45
図37	ST11平面図・断面図	46
図38	ST11出土遺物実測図	46
図39	ST12平面図・断面図	47
図40	ST12出土遺物実測図	48
図41	ST13平面図・断面図	49
図42	ST13出土遺物実測図	49
図43	ST14平面図・断面図	50
図44	ST14出土遺物実測図	51
図45	ST15・16平面図・断面図	52
図46	ST15出土遺物実測図	53
図47	ST16遺物出土状況図	54
図48	ST16出土遺物実測図1	55
図49	ST16出土遺物実測図2	56
図50	ST16出土遺物実測図3	57
図51	ST17・19・20平面図	58
図52	ST17・19・20断面図	59
図53	ST17出土遺物実測図	60
図54	ST18平面図・断面図	61
図55	ST18出土遺物実測図1	62
図56	ST18出土遺物実測図2	63
図57	ST18出土遺物実測図3	64
図58	ST18出土遺物実測図4	65
図59	ST19出土遺物実測図	66
図60	ST20出土遺物実測図1	67
図61	ST20出土遺物実測図2	68
図62	ST19・20出土遺物実測図	68
図63	ST21平面図・断面図	69
図64	ST21出土遺物実測図1	70
図65	ST21出土遺物実測図2	70
図66	ST22平面図・エレベーション図	71
図67	ST22出土遺物実測図1	72
図68	ST22出土遺物実測図2	72
図69	ST23平面図・断面図	73
図70	ST23出土遺物実測図	74
図71	ST24平面図・断面図・出土遺物実測図	75
図72	ST25平面図・断面図	76
図73	ST25出土遺物実測図	77

図74	ST26平面図・断面図	78
図75	ST26出土遺物実測図	79
図76	ST27平面図・断面図	80
図77	ST27出土遺物実測図1	81
図78	ST27出土遺物実測図2	82
図79	ST28・29平面図・断面図	83
図80	ST28出土遺物実測図	84
図81	ST29出土遺物実測図	85
図82	ST28・29出土遺物実測図	85
図83	ST30平面図・断面図	86
図84	ST30出土遺物実測図	87
図85	ST31平面図・断面図	88
図86	ST31出土遺物実測図	89
図87	ST30・31出土遺物実測図	89
図88	ST32平面図・エレベーション図	90
図89	ST32出土遺物実測図	91
図90	SK1～4平面図・断ち割り図	93
図91	SK8・10平面図・断ち割り図	94
図92	SK25平面図・断面図・出土遺物実測図	95
図93	SK26平面図・断面図・出土遺物実測図	96
図94	SK29出土遺物実測図	97
図95	SK31平面図・断面図・出土遺物実測図	97
図96	SK33・34出土遺物実測図	97
図97	SK39平面図・断面図・出土遺物実測図	98
図98	SK40平面図・断面図・出土遺物実測図	99
図99	SK42・65出土遺物実測図	99
図100	SK55・58・61平面図・断ち割り図	100
図101	SK69遺物出土状況図	102
図102	SK69平面図・断面図	103
図103	SK69出土遺物実測図1	103
図104	SK69出土遺物実測図2	104
図105	SK69出土遺物実測図3	105
図106	SK69出土遺物実測図4	106
図107	SK70・71平面図・断面図	107
図108	SK72平面図・断面図・出土遺物実測図	107
図109	SK74平面図・断面図・出土遺物実測図	108
図110	SK75出土遺物実測図	108
図111	SK76平面図・断面図・出土遺物実測図	109

図112 SK77出土遺物実測図	110
図113 SK79・81・82平面図・断面図	110
図114 SK83平面図・断面図・出土遺物実測図	111
図115 SK86平面図・断面図	112
図116 SK93・94出土遺物実測図	113
図117 SK102平面図・断面図・出土遺物実測図	114
図118 SK104出土遺物実測図	114
図119 SK105平面図・断面図・出土遺物実測図	115
図120 SK106平面図・断面図・出土遺物実測図	116
図121 SK108平面図・断面図	117
図122 SK108出土遺物実測図	118
図123 SK114平面図・断面図	119
図124 SD 断面図	121
図125 SD 出土遺物実測図	122
図126 SD27平面図・エレベーション図	123
図127 SD27出土遺物実測図	124
図128 SD30出土遺物実測図	127
図129 P5出土遺物実測図	128
図130 P20平面図・断面図・出土遺物実測図	129
図131 P34遺物出土状況図・平面図・エレベーション図・出土遺物実測図	132
図132 P19・23・28・37平面図・断面図	139
図133 ピット出土遺物実測図	142
図134 P183遺物出土状況図・エレベーション図・出土遺物実測図	144
図135 P184平面図・エレベーション図・出土遺物実測図	145
図136 P185平面図・エレベーション図・出土遺物実測図	146
図137 ピット平面図・断面図	163
図138 ピット平面図・断面図	167
図139 ピット平面図・断面図	168
図140 ピット平面図・断面図	170
図141 P353平面図・断面図	171
図142 P265・278根石検出状況図	172
図143 ピット出土遺物実測図	175
図144 柱穴列1平面図・エレベーション図	176
図145 柱穴列2平面図・エレベーション図	177
図146 SG 位置図	180
図147 SG1・2平面図・断面図・出土遺物実測図	181
図148 SG3平面図・断面図・出土遺物実測図	182
図149 SG5平面図・断面図・出土遺物実測図	183

図150 SG6平面図・断面図・出土遺物実測図	184
図151 SG7平面図・断面図・出土遺物実測図	185
図152 SG8平面図・断面図・出土遺物実測図	186
図153 SG9～11平面図・断面図	187
図154 SG9～11出土遺物実測図	188
図155 SG10出土遺物実測図	189
図156 SG12平面図・断面図・出土遺物実測図	190
図157 SG13平面図・断面図・出土遺物実測図	191
図158 SG14平面図・断面図・出土遺物実測図	192
図159 SG15平面図・断面図	193
図160 SG15出土遺物実測図	194
図161 SG16平面図・断面図・出土遺物実測図	195
図162 石垣1出土遺物実測図	196
図163 SX1出土遺物実測図	197
図164 SX3平面図・断面図・出土遺物実測図	198
図165 SX9出土遺物実測図1	199
図166 SX9出土遺物実測図2	200
図167 SX10出土遺物実測図	201
図168 SX11平面図・断面図・出土遺物実測図	202
図169 SX12・13出土遺物実測図	204
図170 SX15平面図・断面図・出土遺物実測図	205
図171 SX21・23・24出土遺物実測図	206
図172 包含層出土遺物実測図(弥生土器)	208
図173 包含層出土遺物実測図(土師器・黒色土器・土師質土器・製塩土器)	209
図174 包含層出土遺物実測図(須恵器)	210
図175 包含層出土遺物実測図(石器1)	212
図176 包含層出土遺物実測図(石器2)	213
図177 包含層出土遺物実測図(石器3)	214
図178 包含層出土遺物実測図(石器4)	215
図179 包含層出土遺物実測図(石器5)	216
図180 包含層出土遺物実測図(鉄器類)	217
図181 弥生集落概念図	221
付編1	
図1 遺跡周辺の地形	275
付編3	
第1図 伏原遺跡内出土土器の比較(K-Ca散布図)	292
第2図 各遺跡出土土器の比較(K-Ca散布図)	292
第3図 各遺跡出土土器の比較(K-Ti散布図)	292

第4図 各遺跡出土土器の比較(Ti-Ca 散布図).....	292
第5図 伏原遺跡ヒビノキ式土器実体顕微鏡写真.....	293

表目次

付編1

表 1 微細物分析結果.....	272
表 2 炭化材樹種同定結果.....	273
表 3 遺構別種類構成.....	276

付編2

Tab.1 供試材の履歴と調査項目.....	286
Tab.2 供試材の化学組成.....	286
Tab.3 出土遺物の調査結果のまとめ.....	286

遺構一覧表目次

表1 遺構一覧表(ST).....	227
表2 遺構一覧表(ST).....	228
表3 遺構一覧表(ST).....	229
表4 遺構一覧表(ST).....	230
表5 遺構一覧表(ST).....	231
表6 遺構一覧表(ST).....	232
表7 遺構一覧表(SK).....	232
表8 遺構一覧表(SK).....	233
表9 遺構一覧表(SK).....	234
表10 遺構一覧表(SD).....	234
表11 遺構一覧表(P).....	234
表12 遺構一覧表(P).....	235
表13 遺構一覧表(P).....	236
表14 遺構一覧表(P).....	237
表15 遺構一覧表(P).....	238
表16 遺構一覧表(P).....	239
表17 遺構一覧表(P).....	240
表18 遺構一覧表(P).....	241
表19 遺構一覧表(SG).....	242
表20 遺構一覧表(SX).....	242

遺物觀察表目次

表1 遺物觀察表(ST出土土器)	245
表2 遺物觀察表(ST出土土器)	246
表3 遺物觀察表(ST出土土器)	247
表4 遺物觀察表(ST出土土器)	248
表5 遺物觀察表(ST出土土器)	249
表6 遺物觀察表(ST出土土器)	250
表7 遺物觀察表(ST出土土器)	251
表8 遺物觀察表(ST出土土器)	252
表9 遺物觀察表(ST出土土器)	253
表10 遺物觀察表(ST出土土器)	254
表11 遺物觀察表(ST出土土器)	255
表12 遺物觀察表(ST出土土器)	256
表13 遺物觀察表(ST·SK出土土器)	257
表14 遺物觀察表(SK出土土器)	258
表15 遺物觀察表(SK·SD出土土器)	259
表16 遺物觀察表(SD·P出土土器)	260
表17 遺物觀察表(P·SG出土土器)	261
表18 遺物觀察表(SG·SX出土土器)	262
表19 遺物觀察表(SX·遺物包含層出土土器)	263
表20 遺物觀察表(遺物包含層出土土器)	264
表21 遺物觀察表(土製品)	265
表22 遺物觀察表(ST出土石器)	265
表23 遺物觀察表(ST·SK他出土石器)	266
表24 遺物觀察表(ST出土金屬器)	266
表25 遺物觀察表(ST·SK他出土金屬器)	267

写真図版目次

図版 1 空中写真遠景	図版 6 I区東半上面遺構完掘狀況
図版 2 空中写真遠景	II区上面遺構完掘狀況全景
図版 3 空中写真遠景	図版 7 II区上面遺構完掘狀況
図版 4 空中写真遠景	I区下面遺構完掘狀況全景
図版 5 I・II区調査前風景	図版 8 I区東半下面遺構完掘狀況

図版 9	Ⅱ区下面遺構完掘状況	ST14南北断面
図版10	I区西半完掘状況	ST14遺物出土状況
図版11	I区東半上面遺構完掘状況	ST15・16断面
	I区西半北壁	図版22 ST16東西断面
図版12	I区東半北壁	ST16遺物出土状況
	Ⅱ区北壁	ST16床面遺物出土状況
図版13	Ⅱ区北壁	SK1・2断ち割り状況
	Ⅱ区調査風景	SK8断ち割り状況
図版14	ST7完掘状況	SK10断ち割り状況
	ST8完掘状況	図版23 SK25完掘状況
図版15	ST8遺物出土状況	SK25断面
	ST8-P5半掘状況	SK26断面
図版16	ST9完掘状況	SK26礫検出状況
	ST11完掘状況	SK39遺物(鉄製品)出土状況
図版17	ST12完掘状況	SK40断ち割り状況
	ST13完掘状況	図版24 SK69床面遺物出土状況
図版18	ST14完掘状況	SK69遺物出土状況
	ST15・16完掘状況	SK69床面焼土・台石出土状況
図版19	ST1遺物出土状況	SK69断面
	ST1東西断面西半	図版25 SK74半掘状況
	ST2完掘状況	SK76断面
	ST2遺物出土状況	SK76北東隅部のピット根石
	ST2調査区壁断面	SK77内焼土断面
	ST2南北断面	SK81半掘状況
	ST3完掘状況	SK81完掘状況
	ST3カマド付近遺物出土状況	SD1南半礫・遺物出土状況
図版20	ST3南北断面	SD1完掘状況
	ST4～6南北断面	図版26 SD3完掘状況
	ST4～6断面	SD3 H5グリッド断面
	ST5遺物出土状況	SD3 I5グリッド断面
	ST7床面遺物出土状況	SD10断面
	ST7遺物出土状況	SD13 K6グリッド断面
	ST7東西断面	SD15断面
図版21	ST9-P4根石出土状況	P19柱痕跡検出状況
	ST12カマド断ち割り状況	P145半掘状況

図版27	P163根石出土状況	ST17断面
	P183・P184遺物出土状況	ST18断面
	P183遺物出土状況	図版41 ST18遺物出土状況
	P247遺物(朱付着石器)出土状況	ST19遺物出土状況
	P278根石出土状況	ST20遺物(砥石)出土状況
図版28	SX3遺物(耳環)出土状況	図版42 ST21断面
	SX3東西断面	ST23遺物出土状況
	SX9断面	ST25断面
	SX9遺物出土状況	ST26遺物出土状況
	SX11西断面	ST29-SK1礫出土状況
	SX11東断面	ST29焼土跡検出状況
	SX11南北断面	図版43 SX13遺物出土状況
図版29	Ⅲ区完掘状況全景	SX21遺物出土状況
	Ⅳ区西半完掘状況全景	ST32完掘状況
図版30	Ⅳ区西半完掘状況	Ⅳ-3区完掘状況
図版31	Ⅳ区東半完掘状況全景	Ⅳ-4区完掘状況
	Ⅳ区東半完掘状況	包含層Z7グリッド遺物出土状況
図版32	Ⅳ区東半完掘状況	D6グリッド焼土検出状況
図版33	ST18遺物出土状況	包含層D8グリッド遺物出土状況
図版34	ST18遺物出土状況	図版44 Ⅴ区調査前風景
	ST18完掘状況	Ⅴ区完掘状況全景
図版35	ST19完掘状況	図版45 Ⅴ区完掘状況全景
	ST20完掘状況	Ⅴ区土器棺墓群検出状況
図版36	ST21床面遺構検出状況	図版46 SG1断面
	ST21完掘状況	SG2出土状況
図版37	ST23完掘状況	SG3出土状況
	ST26完掘状況	SG5断面
図版38	ST28完掘状況	SG6断面
	ST29完掘状況	SG7断面
図版39	ST31遺物出土状況	SG8出土状況
	ST30・ST31完掘状況	SG9～11出土状況
図版40	Ⅲ・Ⅳ区調査前風景	図版47 SG9出土状況
	Ⅲ区北壁	SG10出土状況
	Ⅳ区東半北壁	SG12断面
	Ⅳ区東半西壁	SG13断面

SG14検出状況	644)
SG15出土状況	図版70 出土遺物(643・645・649・652・654・657・662・667)
石垣遺物出土状況	図版71 出土遺物(669・690・693・694・698・699・706・710・711・
V区刀子出土状況	740)
図版48 出土遺物(7・10・11・28・30～33・45)	図版72 出土遺物(718・723・725・737・742～744・746)
図版49 出土遺物(34・50～53・56・59～61)	図版73 出土遺物(722・729・731・736・747・750)
図版50 出土遺物(72・75・77・84・88・95・99・100・103・123)	図版74 出土遺物(755・762～766・777)
図版51 出土遺物(124・125・127・128・130・131・133・136・142)	図版75 出土遺物(779～783・787・789・790)
図版52 出土遺物(144・146～150)	図版76 出土遺物(794・798・799・801・810・811・818・819・832)
図版53 出土遺物(161・163・164・168・170・175・177・178・180)	図版77 出土遺物(837・838・840・842・843・847・852・865・869・
図版54 出土遺物(186・188～196)	870)
図版55 出土遺物(197・199・200・204・209・225・227・231・238)	図版78 出土遺物(871～878)
図版56 出土遺物(235・239・241・243・247・250・251・262)	図版79 出土遺物(879～884・886)
図版57 出土遺物(263・264・266・267・273～275・277・292・	図版80 出土遺物(888～890・892～894・896)
293)	図版81 出土遺物(349・473・895・897・898/154・249/856・857)
図版58 出土遺物(294～300)	図版82 出土遺物(401・825/778・826/350・553・776・788・891)
図版59 出土遺物(305・308～310・312～314)	図版83 出土遺物(145・336・587・848/470・472・475・515・523・
図版60 出土遺物(320・322～327・329・331・332)	749)
図版61 出土遺物(333・334・339・345・347・348・351・352・355・	図版84 出土遺物(220・221・287・602・679・824・861・862/44・
362)	358・384・398・436・467・476・498・504・807・808・821・822)
図版62 出土遺物(365・367・369・370・372・376・377・380・381)	図版85 CTスキャン画像(295・506)
図版63 出土遺物(382・386～391・393・396・402)	図版86 CTスキャン画像(747)
図版64 出土遺物(405・408・421・422・430・433・434・439・448・	付編1
461)	図版1 種実遺体・炭化材(1)
図版65 出土遺物(462・463・475・478・484～486・495・505)	図版2 炭化材(2)
図版66 出土遺物(490・506～509)	図版3 炭化材(3)
図版67 出土遺物(517・526・545・551・552・561・565・567・569・	付編2
570)	Photo.1 椀形鍛冶滓の顕微鏡組織
図版68 出土遺物(571・572・574・576・578・579・586・595・597・	Photo.2 椀形鍛冶滓の顕微鏡組織
598)	Photo.3 椀形鍛冶滓(含鉄)の顕微鏡組織
図版69 出土遺物(599～601・605・606・618・631・638・642・	

付図目次

- 付図1 I・II区上面遺構配置図
- 付図2 I・II区下面遺構配置図
- 付図3 III～V区遺構配置図
- 付図4 伏原遺跡遺構全体図
- 付図5 周辺遺跡遺構配置図

第 I 章 はじめに

第1節 調査に至る経過

地理的・歴史的環境及び調査に至る経過等については、『伏原遺跡 I』に詳述されているため、ここでは簡単に述べる程度で留めておきたい。

国道195号道路改築事業は、高知市周辺における渋滞解消と道路網の整備等を目的として計画され、建設工事が進められている。高知市から香美市土佐山田町中組までの区間は、通称あけぼの街道として建設が進められ、一部は開通している。今回の調査は、あけぼの街道の延長として県が計画している都市計画道路高知山田線の建設に伴う調査であり、平成18年度には伏原遺跡 I、平成19年度にはひびのきサウジ遺跡の調査が実施されている。本報告分は、両調査区に挟まれた範囲についてである。

第2節 伏原遺跡周辺の地理的・歴史的環境

(1) 地理的環境

伏原遺跡の所在する香美市は高知県の中央部の東よりに位置する。平成18年(2006年)に香美郡土佐山田町と香美郡香北町と香美郡物部村の三町村が合併し、香美市となった。総面積は約538 km²であり、約9割を森林が占める。人口は約30,000人である。香美市域を物部川が流れる。物部川の水源は白髪山にあり、香美市、南国市、香南市を流れ、土佐湾に注ぐ。

遺跡は長岡台地の北東隅部に位置し、北の崖線までは約0.5km、南の崖線までは約2.5kmである。北の崖線と北の山塊の間は谷状を呈しており、土生川が流れる。土生川は新改川と合流し、国分川と合流、浦戸湾に注ぐ。台地と平野部の比高差は、南部では約10mとなる。台地の南端に立てば眼下には香長平野がひろがり、さらに太平洋まで見渡せる。

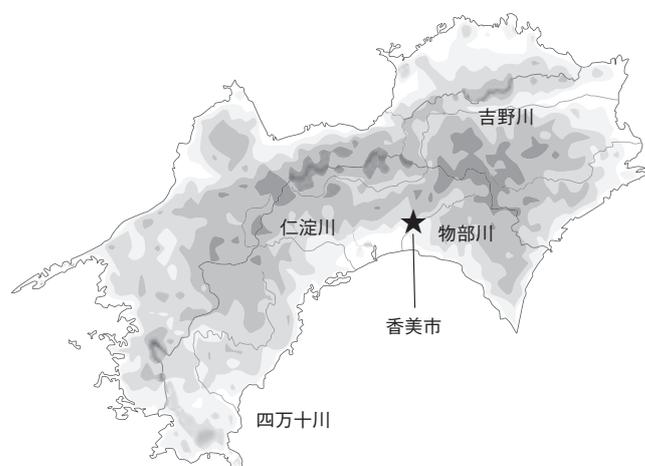


図1 香美市位置図

(2)歴史的環境

伏原遺跡の周辺は遺跡の密集する地域の一つであり、地域史のみならず県史にとっても重要な遺跡が含まれている。調査歴も古く、ひびのき遺跡は弥生時代後期後半から古墳時代初頭の土器編年であるヒビノキ式の標準遺跡として知られている。1979年にはすでにこの地域の断片的な考古資料等から各遺跡を包括した大規模集落の存在が指摘されており、今回の一連の調査ではその指摘通りとも言えるような調査成果があがっている。

弥生時代中期後半～後期初頭では、稲荷前遺跡、龍河洞洞穴遺跡がある。物部川下流域の田村遺跡群が四国でも屈指の大集落へと発展する時期であり、集中した労働力を駆使して周辺部の開発を行い、それまで遺跡の無かった地域でも見られるようになる。

弥生時代後期後半～古墳時代前期にかけては、ひびのき遺跡、ひびのきサウジ遺跡、林田遺跡、久次遺跡等で集落が検出されている。集落遺跡数が増加する時期に該当しており、周辺でも遺跡数、検出遺構数、出土遺物量も増加する。楠目談議所から現存はしないが、突線鈕三式の銅鐸が出土している。また、物部川をさかのぼった香北町美良布神社には突線鈕三式の銅鐸が二個保管されている。

当遺跡で再び竪穴住居跡が確認される古墳時代後期になると、周辺に古墳が多く築かれるようになる。六古墳からなる前行古墳群(神母古墳, 前行山1号墳, 前行山2号墳, 大元神社裏手古墳, 大元神社東側古墳, 桜ヶ谷1号墳), 四古墳からなる伏原古墳群(公文氏墓地上方古墳, 公文氏墓地東方古墳, 小倉山古墳, 鏡野学園前古墳)が存在する。また、伏原大塚古墳が存在する。台地の縁辺部に位置し、眼下に香長平野が見渡せる。一辺34mの大形方墳であり、金銅装の馬具, 装飾須恵器, 須恵器系の円

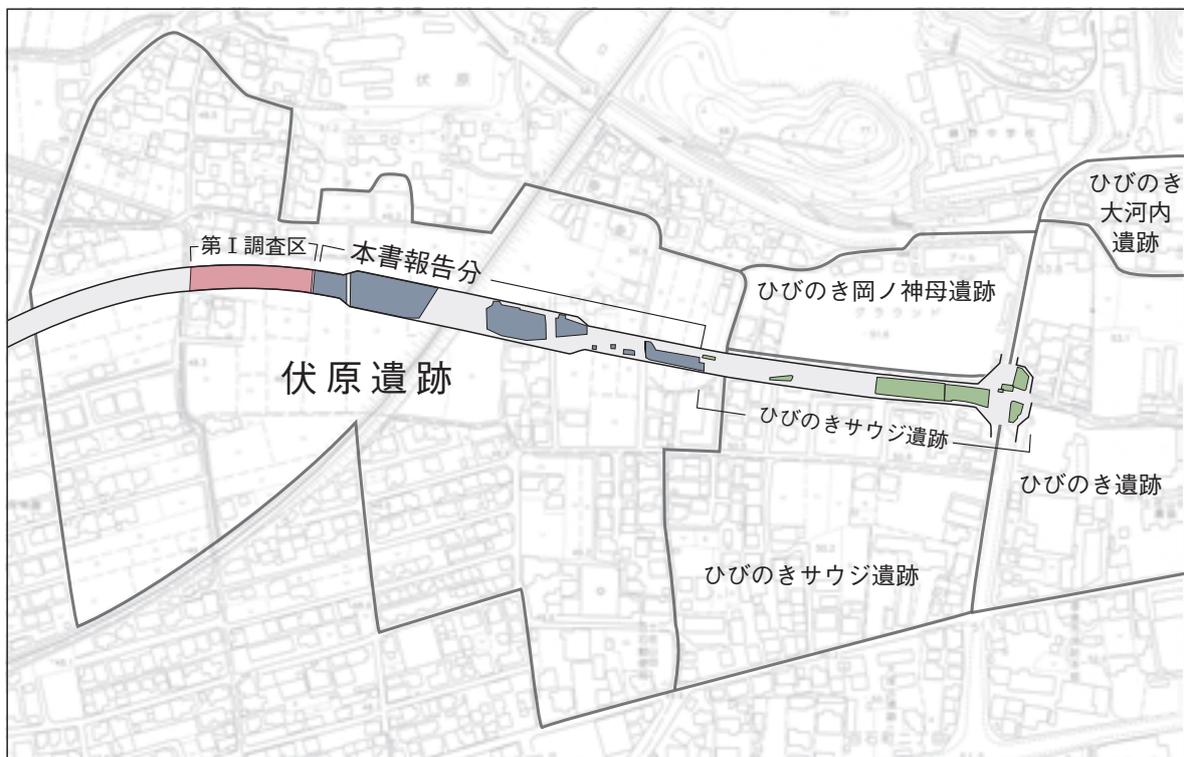
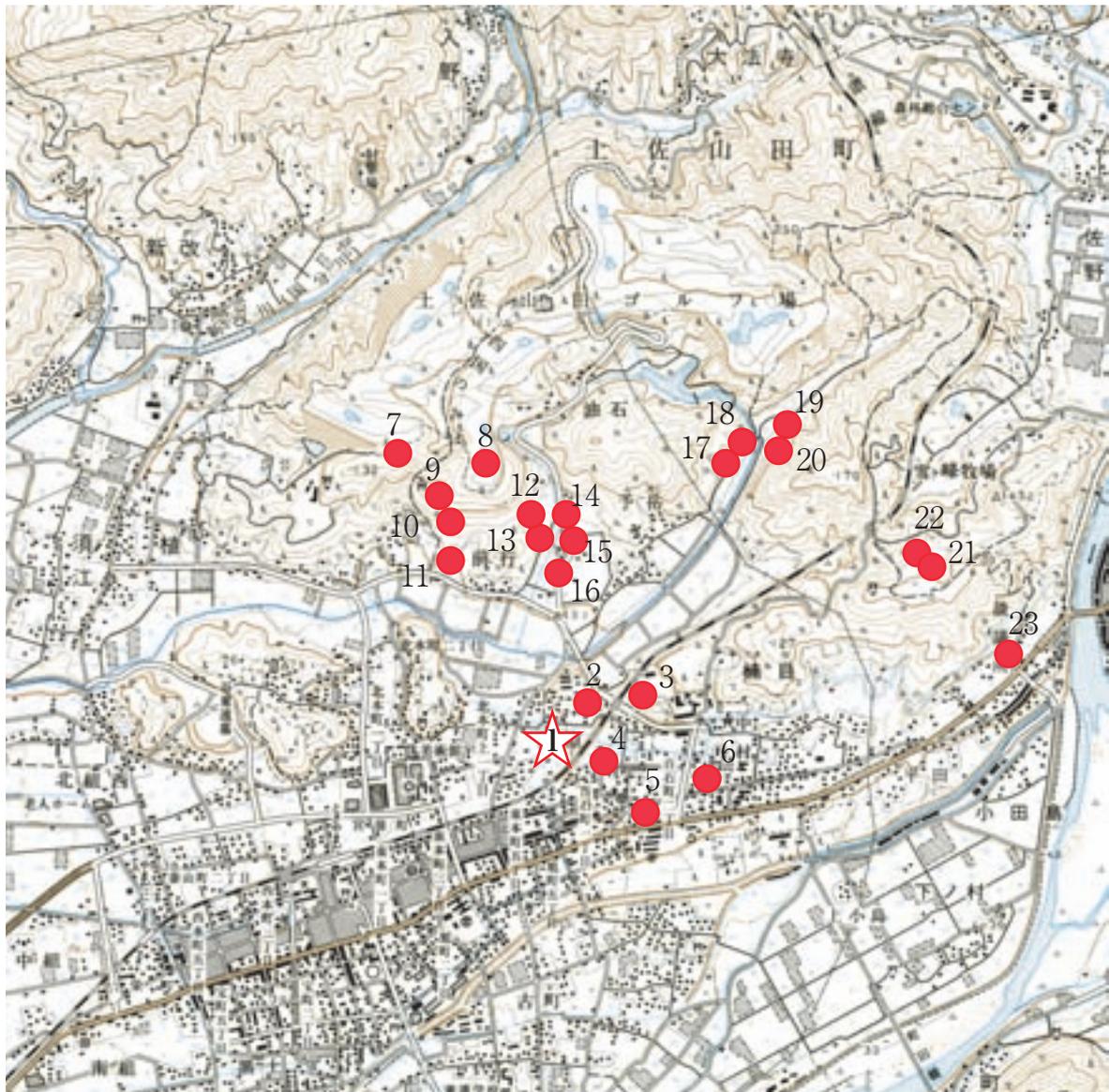


図2 高知山田線関連遺跡



遺跡番号	遺跡名	時代	遺跡番号	遺跡名	時代	遺跡番号	遺跡名	時代
1	伏原遺跡	弥生～近世	9	中沢古墳	古墳時代	17	予岳古墳	古墳時代
2	鏡野学園前古墳	古墳時代	10	溝渕古墳	古墳時代	18	予岳窯跡	古墳時代
3	小倉山古墳	古墳時代	11	桜ヶ谷古墳	古墳時代	19	長谷山2号窯跡	平安時代
4	ひびのきサウジ遺跡	弥生～近世	12	前行山1号墳	古墳時代	20	長谷山1号窯跡	平安時代
5	大塚古墳	古墳時代	13	前行山2号墳	古墳時代	21	雪ヶ峰1号墳	古墳時代
6	ひびのき遺跡	弥生・古墳時代	14	大元神社北古墳	古墳時代	22	雪ヶ峰2号墳	古墳時代
7	深坂古墳	古墳時代	15	大元神社古墳	古墳時代	23	銅鐸出土地	弥生時代
8	杖坂東古墳	古墳時代	16	神母古墳	古墳時代			

図3 伏原遺跡周辺の主な遺跡

筒埴輪が出土している。石室の規模も大きく「高知平野を代表する盟主的古墳」と位置付けられている。近年、前行古墳群の一つ大元神社古墳が発掘調査されており、高知平野全体を視野に入れた考察が行われている。古墳群中の立地の優位性、石室規模、出土遺物等から「楠目一帯を差配した小首長の墓」と位置づけられている(清家 2008)。

古代では、ひびのきサウジ遺跡、稲荷前遺跡で掘立柱建物等が発見されている。ひびのきサウジ遺跡では、「大」と刻書された土師器甕や緑釉陶器等が出土しており、一般的な集落遺跡とは異なり、官衙的な色彩を持つ。当遺跡の北部には窯跡が確認されている。また、北西部には須江古窯跡群が存在する。土生川を下れば国衙跡に容易に行ける環境に当遺跡はある。

参考・引用文献

- 『高知県ヒビノキ遺跡』1977高知県土佐山田町教育委員会
- 『土佐山田町史』1979土佐山田町教育委員会
- 『林田遺跡発掘調査報告書』1985土佐山田町教育委員会
- 『ひびのきサウジ遺跡』1990土佐山田町教育委員会
- 『稲荷前遺跡発掘調査報告書』1990土佐山田町教育委員会
- 『伏原大塚古墳』1993土佐山田町教育委員会
- 『林田遺跡Ⅰ』2002(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
- 『林田遺跡Ⅱ』2002(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
- 『林田遺跡Ⅲ』2005(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
- 『大元神社古墳発掘調査報告書』2007高知大学人文学部考古学研究室
- 『大元神社古墳発掘調査報告書 -総括編-』2008高知大学人文学部考古学研究室
- 清家 章「第四章 考察:土佐山田における古墳築造と大元神社古墳」
『大元神社古墳発掘調査報告書 -総括編-』2008高知大学人文学部考古学研究室

第Ⅱ章 調査の方法と調査概要

第1節 調査の方法

現地調査は平成19年12月17日～平成20年8月21日まで行った。調査対象地を便宜上、Ⅰ～Ⅴ区に分け調査を実施した。JR土讃線を挟み、西側がⅠ・Ⅱ区、東側がⅢ～Ⅴ区である。調査実施時点では、JR土讃線を境に伏原遺跡とひびのきサウジ遺跡となっていた。Ⅰ・Ⅱ区が伏原遺跡、Ⅲ～Ⅴ区がひびのきサウジ遺跡であったが、調査の結果から関係機関と協議のうえ、遺跡の境界を東へ移動し、伏原遺跡の範囲がひろがり、ひびのきサウジ遺跡の範囲が狭くなった。

調査は隣接地である伏原遺跡Ⅰの調査成果をもとに表土及び無遺物層は重機で掘削し、遺物包含層は人力により掘削を行った。また、遺構検出及び遺構掘削は人力で行った。世界測地系に基づく公共座標により伏原遺跡Ⅰで設置したグリッドを参考に4mメッシュを設定した。遺物の取り上げ、遺構及び遺物の出土状況の実測等は、このグリッドを使用した。東西方向はアルファベットで、南北方向はアラビア数字を用いて表した。西から東へ、Aから順番に付けていき、Zまでいくと再びAから付けた。一方、南北方向は北から南にいくにつれ数が大きくなる。4本の杭で囲まれたグリッド名は北西杭の名称で表した。

第2節 調査の概要

Ⅰ・Ⅱ区は、上面と下面の二面で遺構を検出した。上面は耕作土、床土を除去すると遺構検出面であり、主として近世の遺構を検出した。下面は、遺物包含層[Ⅱ層]を掘削すると、弥生時代、古墳時代、古代の遺構を検出できる。上面での検出遺構はいわゆるハンダ土坑を主とする。複数のハンダ土坑が対をなして存在している。形態、規模において分類が可能であり、機能差と考えられる。Ⅰ～Ⅴ区の調査区全域に分布がみられた。Ⅰ区西半部ではⅡ層の堆積がうすく、ほとんど認められない部分があった。特に北側ではその傾向が強い。礫層の上面が下面の検出面となっていることなどから、他の部分よりも多く削平を受けている可能性がある。Ⅰ区東半部はⅡ層が厚く堆積しており、人工層位で上層と下層の二層に分け、掘削を行った。若干の色調の違いから分層できる部分もあった。上層出土遺物と下層出土遺物で接合する破片もあるが、上層でも下方の遺物、下層でも上方の遺物が接合している可能性もあり、上層と下層に時期差はないとは即断できない。そして、Ⅱ層の下層上面で精査を行い、遺構の有無を確認し、Ⅲ層上面まで掘削した。その結果、下層上面でSK25を検出することができ、中面遺構として調査した。この他にも本来は中面に属するものが、下面で検出した遺構の中に含まれているものと考えられる。また、Ⅱ層として取り上げた遺物の中にも中面遺構に属するものが含まれていると考えられる。下面では、弥生時代後期、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭、古墳時代後期、古代の遺構を検出した。弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の竪穴住居跡は、張り出し部を持つやや大形の円形住居をはじめ、円形、隅丸方形のもの、長方形のものを検出した。古墳時代後期の竪穴住居跡は長方形でカマドを持つものなどを検出した。古代では、規模の比較的大きな柱穴が直線状に並んで検出したが、明確に掘立柱建物に復元できるものはなかった。

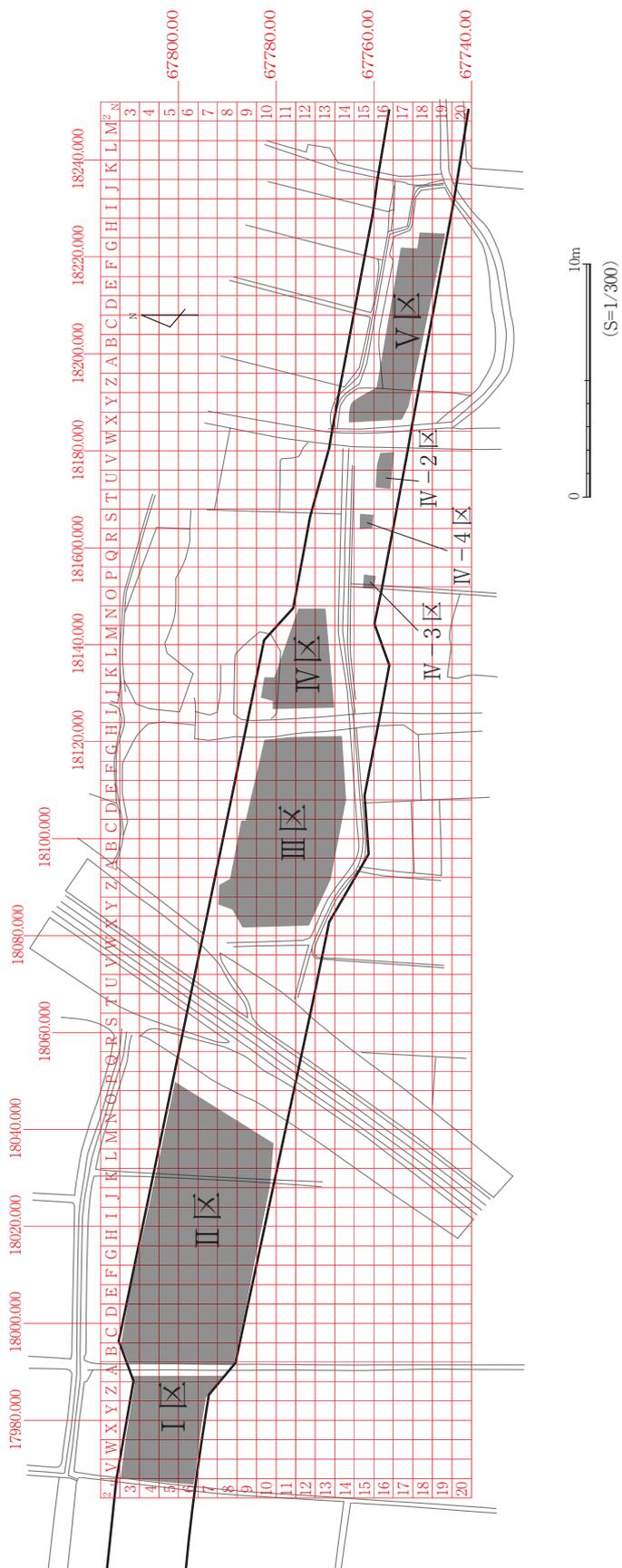


図4 調査区・グリッド設定図

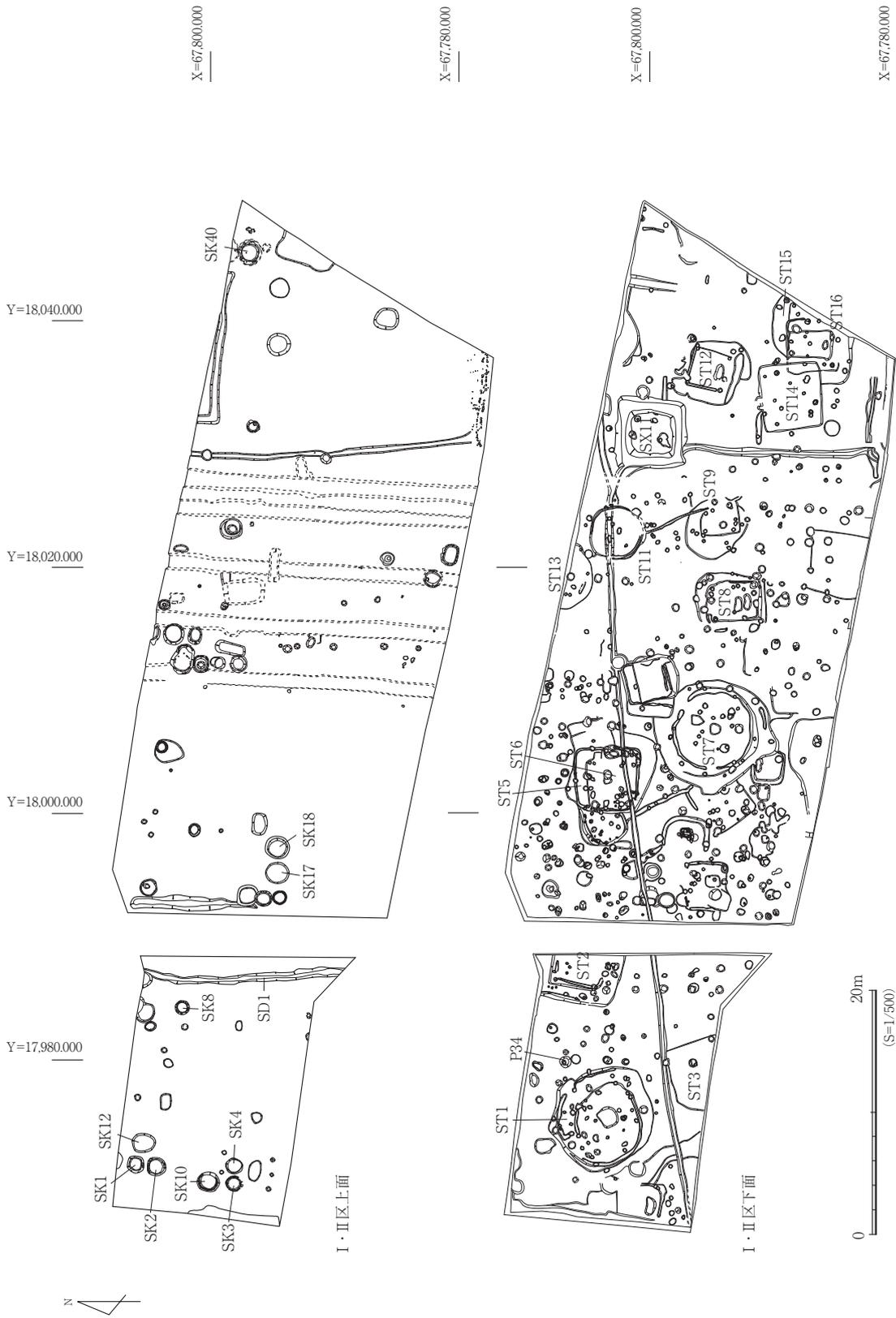


図5 I・II区遺構配置図

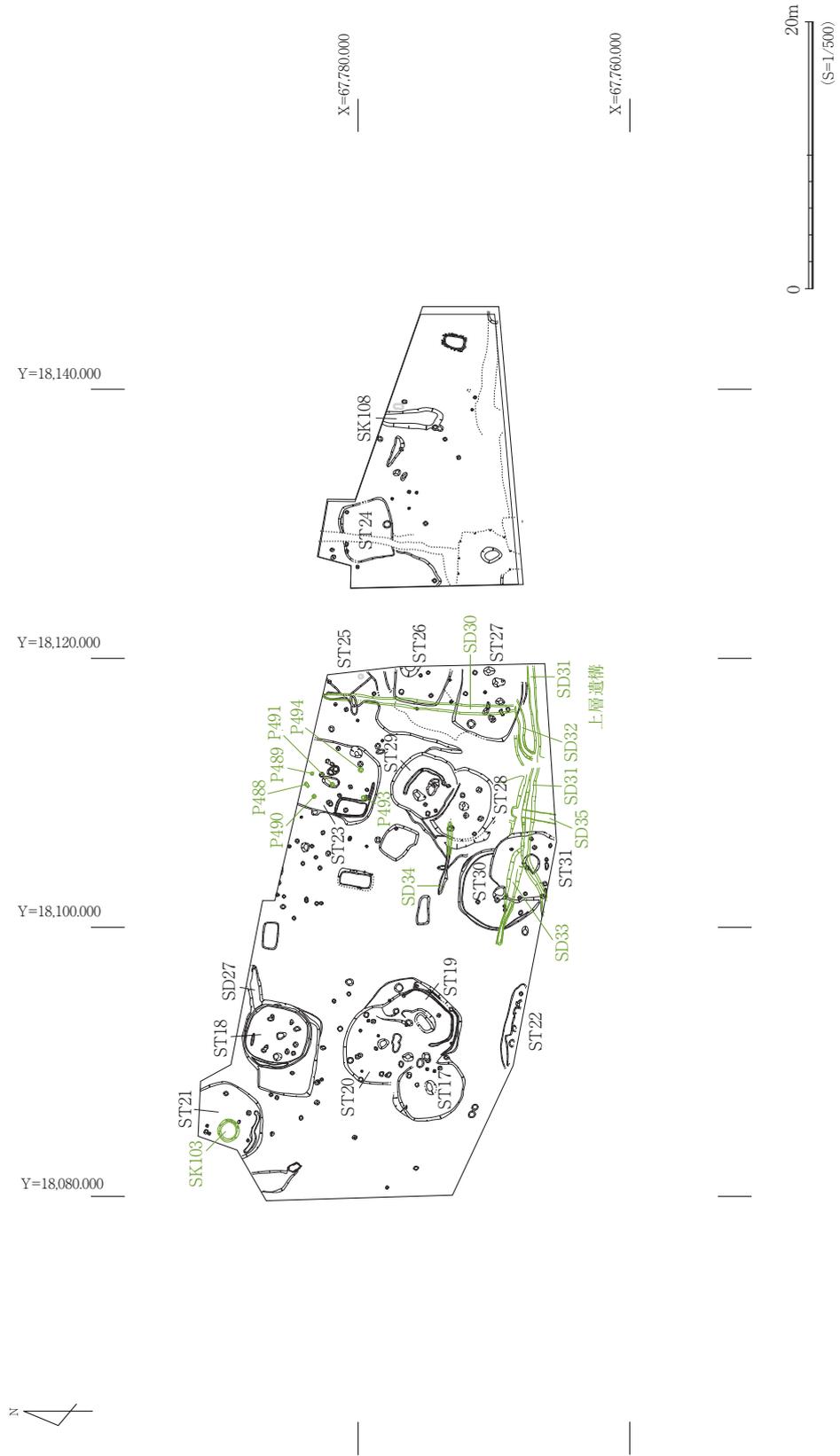


図6 III・IV区遺構配置図



図7 V区遺構配置図

Ⅲ・Ⅳ区は、宅地であったため整地土層が見られた。攪乱が多く、遺物包含層は削平されており、存在しなかった。弥生時代中期末の竪穴住居跡、溝状土坑を検出した。当調査では最古の遺構であり、当該期から本格的な開発が行われたものと考えられる。継続して古墳時代前期まで竪穴住居跡を検出した。この調査区においても弥生時代後期末～古墳時代初頭の竪穴住居跡が最も多い。この調査区から集落が始まり、居住域を西側(Ⅰ・Ⅱ区)にひろげ、古墳時代前期には再びこの調査区のみ居住域が縮小される。古墳時代前期以降は遺物は出土するが、近世以降まで明確な遺構は形成されない。古墳時代後期、古代はⅠ・Ⅱ区が中心となる。近世以降ではハンダ土坑を主として検出しており、全調査区と同様の景観がひろがっていたものと推測される。

Ⅴ区では弥生時代後期末～古墳時代初頭の土器棺墓群を検出した。周辺では同時期の竪穴住居跡はなく、墓域と居住域が分離されている。Ⅳ-2区で竪穴住居跡(ST32)が検出されているが、土器棺群よりもやや時期が古いと考えられる。大形壺、一般的な法量のもを棺として使用する。近世以降ではハンダ土坑等を検出した。出土遺物は弥生土器から近世陶磁器に至るものであり、特筆すべき遺物として刻書された土師器が出土している。

第Ⅲ章 調査成果

第1節 基本層序

各調査区とも、主として北壁で基本層序を観察した。表土・耕作土・床土をⅠ層、遺物包含層をⅡ層、地山をⅢ層とした。Ⅱ層については必要に応じ細分した。

(1)Ⅰ・Ⅱ区

Ⅰ区北壁1は西半部の基本層序である。

- ①褐灰色(10YR5/1)細砂混じりシルト[Ⅰ層:耕作土]
- ②黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト(拳大の河原石を少量含む)[Ⅱ層]
- ③黒色(10YR2/1)細砂混じりシルト(拳大の河原石を少量含む)[Ⅱ層]
- ④灰黄褐色(10YR4/2)細砂混じりシルト(拳大の河原石を少量含む)[Ⅱ層]
- ⑤にぶい黄褐色(10YR5/4)細砂混じりシルト(人頭大以下の河原石を多く含む)[Ⅲ層:地山]
- ⑥褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルトと黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトが混ざる。[遺構埋土]
- ⑦暗褐色(7.5YR3/3)細砂混じりシルトと赤褐色(2.5YR4/6)ハンダ片が混ざる。[遺構埋土]
- ⑧黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト[遺構埋土]

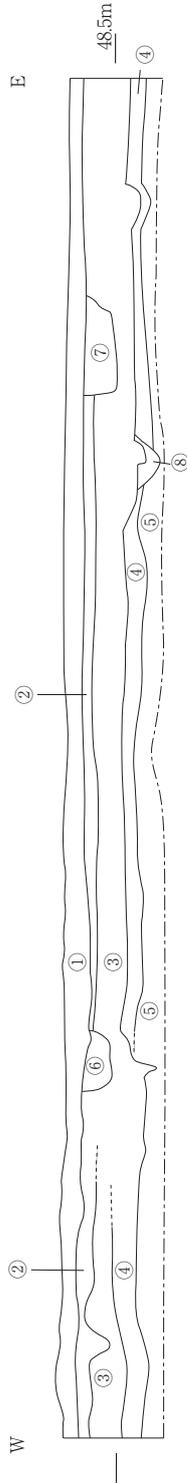
Ⅰ区北壁2は東半部の基本層序である。

- ①褐灰色(10YR5/1)細砂混じりシルト[Ⅰ層:耕作土]
- ②褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト[Ⅰ層:床土]
- ③黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト[Ⅱ層]
- ④暗褐色(10YR3/3)細砂混じりシルト[Ⅲ層:地山]
- ⑤橙色(7.5YR6/6)細砂混じりシルト[Ⅲ層:地山]
- ⑥橙色(7.5YR6/6)細砂混じりシルト(人頭大以下の礫を含む)[Ⅲ層:地山]

Ⅱ区北壁の基本層序である。

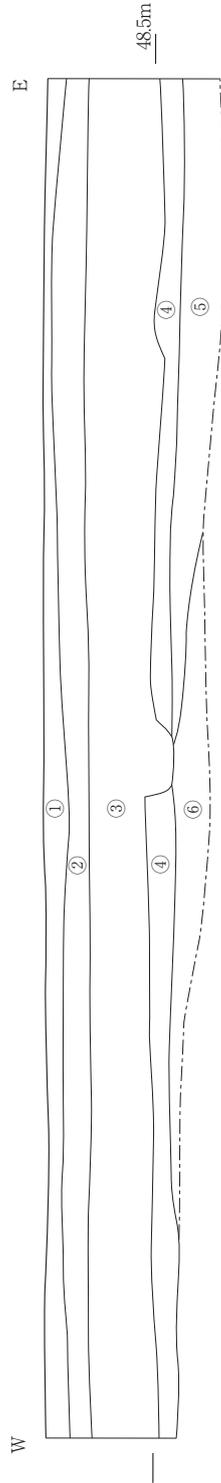
- ①黄灰色(2.5YR5/1)細砂混じりシルト[Ⅰ層:耕作土]
- ①'黄灰色(2.5YR5/1, ①層よりやや暗い色調)細砂混じりシルト[Ⅰ層:耕作土]
- ②黒褐色(2.5YR3/1)細砂混じりシルト[Ⅱ層]
- ③黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト[Ⅱ層]
- ④褐色(10YR4/6)細砂混じりシルト(下層は明赤褐色(7.5YR5/6)を呈する)[Ⅲ層:地山]
- ⑤明黄褐色(10YR7/6)と明赤褐色(10YR5/8)のハンダ片が混ざる。[遺構埋土]
- ⑥黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト(褐色(10YR4/4)シルト[Ⅲ層]をブロック状に含む)[遺構埋土]
- ⑦褐灰色(7.5YR4/1)細砂混じりシルト[Ⅰ層:床土]
- ⑧黒色(10YR2/1)細砂混じりシルト[Ⅱ層]
- ⑨黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト[Ⅱ層]
- ⑩褐灰色(7.5YR4/1)細砂混じりシルト[遺構埋土か]

I区北壁1



- ① 褐灰色 (10YR5/1) 細砂混じりシルト [I層:耕作土]
- ② 黒褐色 (10YR3/2) 細砂混じりシルト (拳大の河原石を少量含む) [II層]
- ③ 黒色 (10YR2/1) 細砂混じりシルト (拳大の河原石を少量含む) [II層]
- ④ 灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂混じりシルト (拳大の河原石を少量含む) [II層]
- ⑤ にぶい黄褐色 (10YR5/4) 細砂混じりシルト (人頭大以下の河原石を多く含む) [III層:地山]
- ⑥ 褐灰色 (10YR4/1) 細砂混じりシルトと黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルトが混ざる。[近世以降の遺構埋土]
- ⑦ 暗褐色 (7.5YR3/3) 細砂混じりシルトと赤褐色 (2.5YR4/6) ハンダ片が混ざる。[近世以降の遺構埋土]
- ⑧ 黒褐色 (10YR3/2) 細砂混じりシルト [遺構埋土]

I区北壁2



- ① 褐灰色 (10YR5/1) 細砂混じりシルト [I層:耕作土]
- ② 褐灰色 (10YR4/1) 細砂混じりシルト [I層:床土]
- ③ 黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト [II層]
- ④ 暗褐色 (10YR3/3) 細砂混じりシルト [III層:地山]
- ⑤ 橙色 (7.5YR6/6) 細砂混じりシルト [III層:地山]
- ⑥ 褐色 (7.5YR6/6) 細砂混じりシルト (人頭大以下の礫を含む) [III層:地山]



図8 I区北壁断面図

- ⑪黄灰色(2.5YR4/1)細砂混じりシルトとにぶい黄橙色(10YR6/4)細砂混じりシルト[遺構埋土]
- ⑫暗灰黄色(2.5YR5/2)細砂混じりシルト[I層:床土]
- ⑬黒色(10YR2/1)細砂混じりシルト[遺構埋土か]
- ⑭黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト[遺構埋土]
- ⑮にぶい黄褐色(10YR5/4)礫混じり粘土[Ⅲ層:地山]
- ⑯褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト[遺構埋土]
- ⑰褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト(直径10cm大の礫を含む)と
黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト(直径10cm大の礫を含む)が混ざる。[遺構埋土]
- ⑱褐灰色(10YR5/1)細砂混じりシルト[I層:床土]
- ⑲黒色(10YR2/1)細砂混じりシルト[Ⅱ層]
- ⑳褐灰色(10YR5/1)細砂混じりシルト(直径3cm大以下の礫を含む)[I層:床土]
- ㉑褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト(直径3cm大以下の礫をごく少量含む)
- ㉒黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト
- ㉓黒色(10YR2/1)細砂混じりシルト[Ⅱ層]
- ㉔黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト(直径5cm大の礫を少量含む)[SD埋土]
- ㉕褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト(直径5cm大以下の礫を多量に含む)[SD埋土]
- ㉖黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト[遺構埋土]

Ⅱ層はⅠ区西半部では層厚20cmであったものが東半部では層厚50cmとなる。今次調査区では、Ⅰ区東半部からⅡ区西半部にかけてが、遺物包含層[Ⅱ層]の最も厚く堆積していた範囲であった。また、このⅡ層は同時期の堆積ではなく、Ⅰ区東半部では中面で遺構が検出できるように少なくとも二層に分層可能である。ただし、調査段階での分層は難しく、中面として捉えることができた範囲は狭い。

下面の遺構検出面は、Ⅰ区西半部西端部付近では礫混じりの土層上面で検出することができる。この付近より以東のⅠ・Ⅱ区では砂礫層の上に堆積するシルト質の土層(Ⅰ区北壁2の④・⑤)の上面で検出することができる。Ⅰ区西半部の南壁で観察すると、Ⅰ層下には黒褐色細砂混じりシルトのⅡ層が約50cm堆積している。Ⅲ層は橙色シルトである。下面の遺構検出標高は、Ⅰ区西半部が48.3～48.5m、東半部が48.6～48.8mであり、東にいくにしたがい標高が高くなる傾向が認められ、現地表面の標高値が示す傾向と一致している。

(2)Ⅲ区・Ⅳ区

Ⅲ区の北壁の基本層序である。

- ①暗褐色(10YR3/3)粘土質シルト(現代の攪乱を含む)[Ⅰ層:表土]
- ②黒褐色(10YR3/1)シルト質粘土[Ⅱ層]
- ③黒褐色(7.5Y3/2)細砂混じり粘土質シルト[Ⅲ層:地山]
- ④にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土質シルト[Ⅲ層:地山]
- ⑤黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト(火山ガラスを多く含む)[SD27埋土]

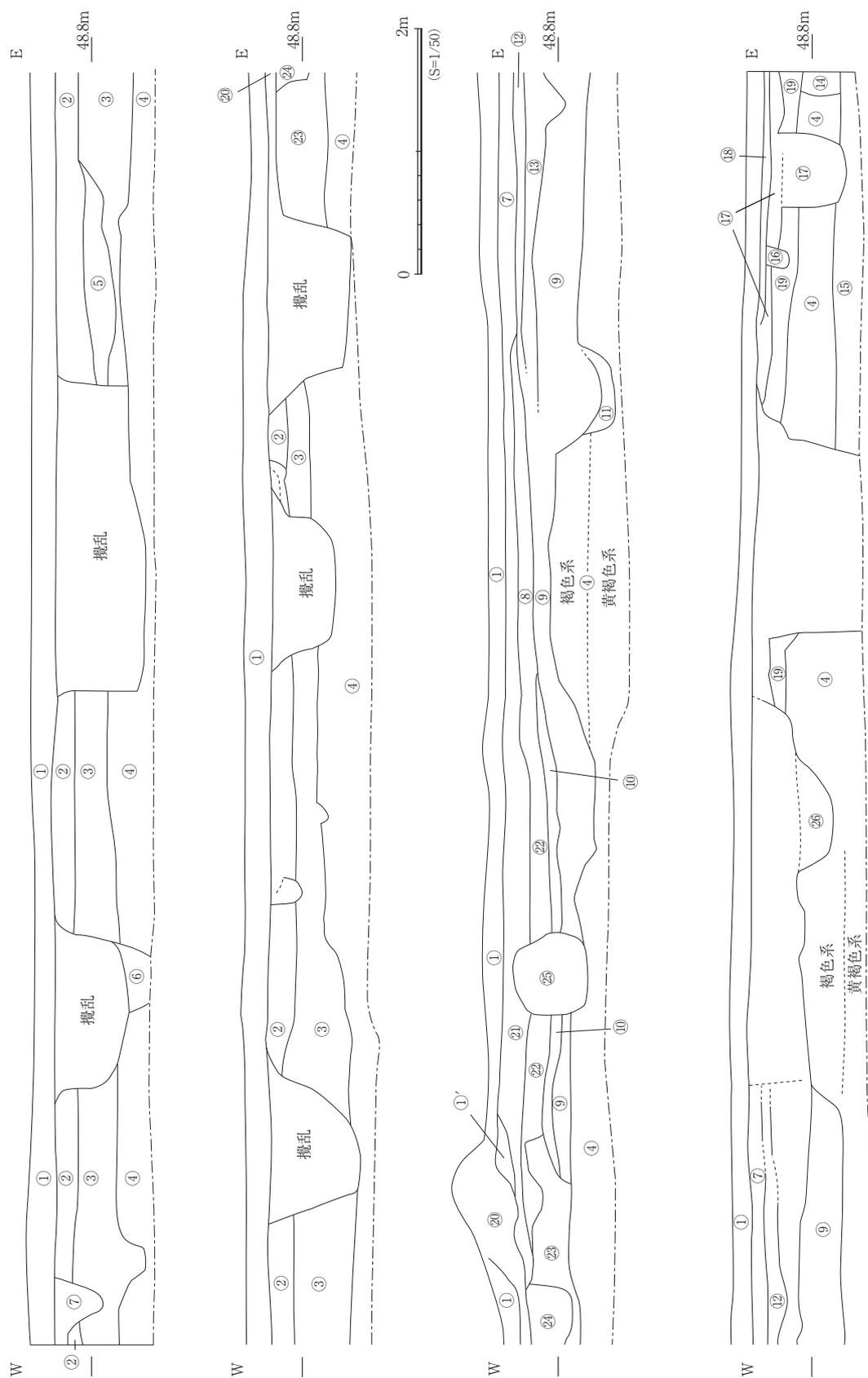
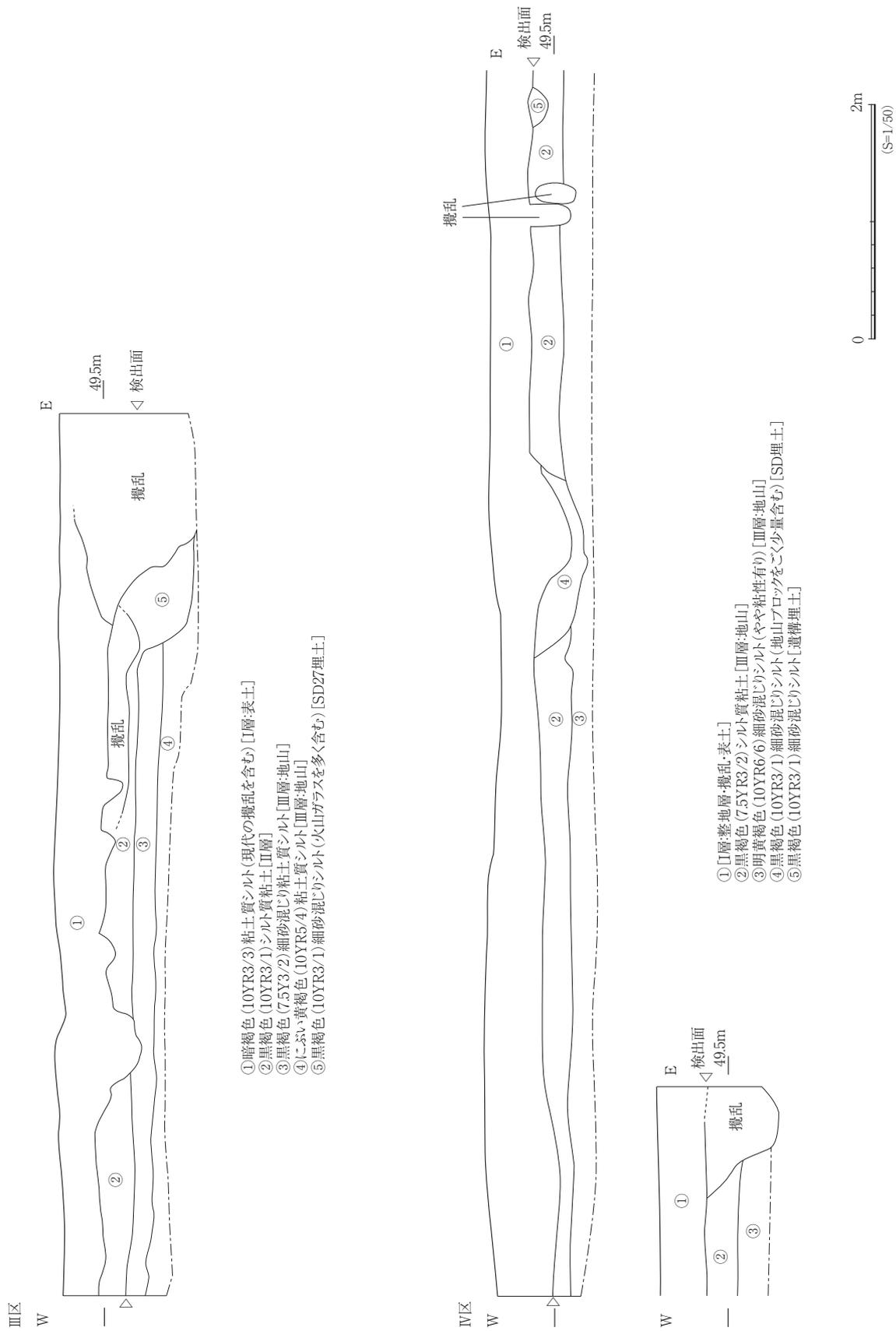
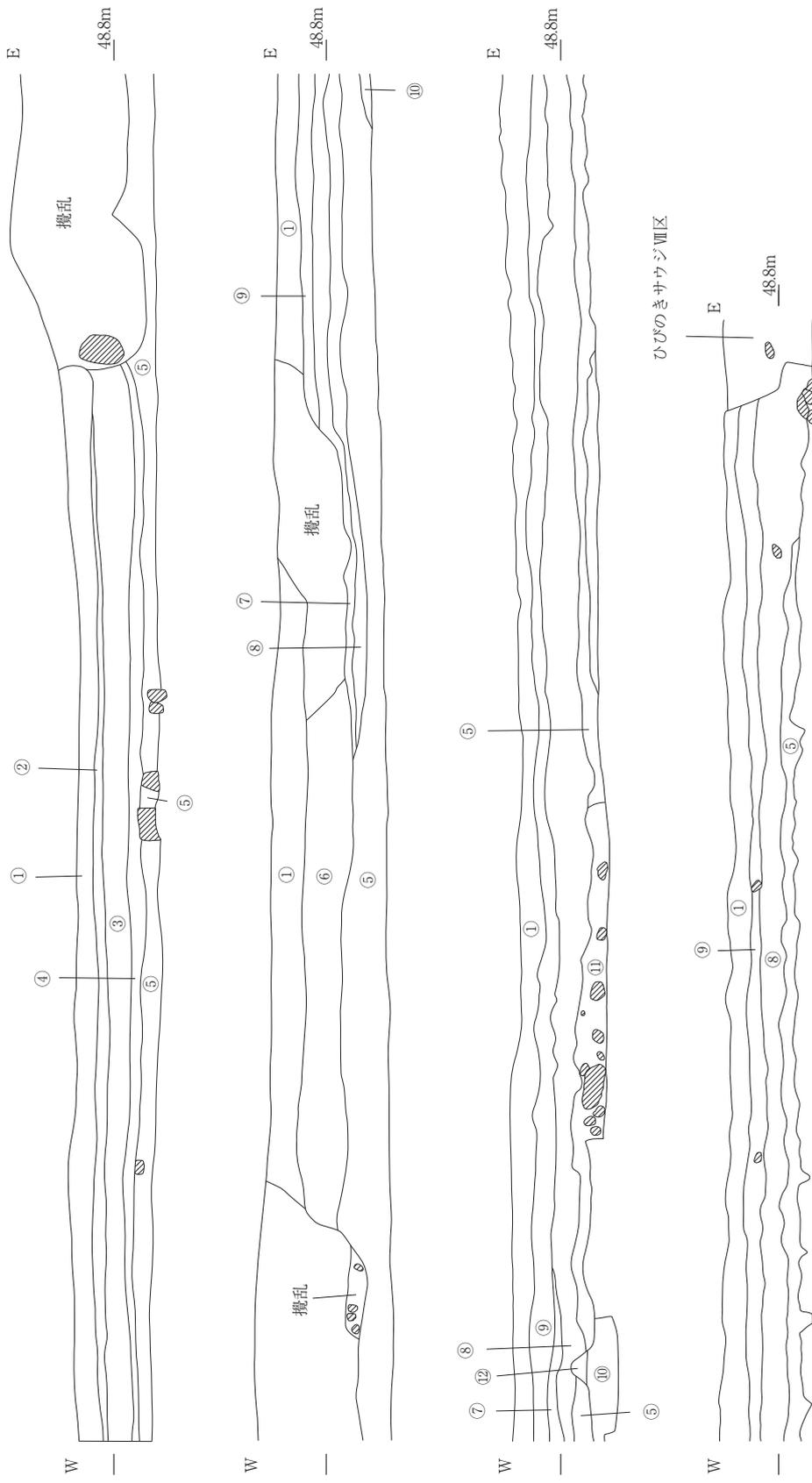


图9 II区北壁断面图

- ①黄灰色(2.5YR5/1)細砂混じりシルト [I層:耕作土]
- ①黄灰色(2.5YR5/1, ①層よりやや暗い色調)細砂混じりシルト [I層:耕作土]
- ②黒褐色(2.5YR3/1)細砂混じりシルト [II層]
- ③黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト [II層]
- ④褐色(10YR4/6)細砂混じりシルト(下層は明赤褐色(7.5YR5/6)を呈する) [III層:地山]
- ⑤明黄褐色(10YR7/6)と明赤褐色(10YR5/8)のハンダ片が集中する [近世以降の遺構埋土か]
- ⑥黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト(褐色(10YR4/4)シルト [III層:地山]をブロック状に含む) [遺構埋土]
- ⑦褐灰色(7.5YR4/1)細砂混じりシルト [I層:床土]
- ⑧黒色(10YR2/1)細砂混じりシルト [II層]
- ⑨黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト [II層]
- ⑩褐灰色(7.5YR4/1)細砂混じりシルト [遺構埋土か]
- ⑪黄灰色(2.5YR4/1)細砂混じりシルトとにぶい黄橙色(10YR6/4)細砂混じりシルト [遺構埋土]
- ⑫暗灰黄色(2.5YR5/2)細砂混じりシルト [I層:床土]
- ⑬黒色(10YR2/1)細砂混じりシルト [遺構埋土か]
- ⑭黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト [遺構埋土]
- ⑮にぶい黄褐色(10YR5/4)礫混じり粘土 [II層:地山]
- ⑯褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト [遺構埋土]
- ⑰褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト(直径10 cm大の礫を含む)と黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト(直径10 cm大の礫を含む)が混ざる [遺構埋土]
- ⑱褐灰色(10YR5/1)細砂混じりシルト [I層:床土]
- ⑲黒色(10YR2/1)細砂混じりシルト [II層]
- ⑳褐灰色(10YR5/1)細砂混じりシルト(直径3 cm大以下の礫を含む) [I層:床土]
- ㉑褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト(直径3 cm大以下の礫をごく少量含む)
- ㉒黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト
- ㉓黒色(10YR2/1)細砂混じりシルト [II層]
- ㉔黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト(直径5 cm大の礫を少量含む) [SD埋土]
- ㉕褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト(直径5 cm大以下の礫を多量に含む) [SD埋土]
- ㉖黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト [遺構埋土]





- ① 黒褐色(10YR3/2)シルト【層:表土】
- ② 黒褐色(10YR2/3)粘土質シルト(鉄分、直径3~5mm大の砂粒をわずかに含む)【II層】
- ③ 黒褐色(10YR2/2)細粒砂シルト【II層】
- ④ 黒褐色(10YR2/2)シルト(炭化物、直径2~3cm大の角礫をわずかに含む)【II層:地山】
- ⑤ 黒色(10YR1.7/1)粘土質シルト(直径2cm大の丸礫、暗褐色(10YR3/3)の直径1mm大の砂混じりの砂質シルトのブロックをわずかに含む)
- ⑥ 黒色(7.5YR2/1)粘土質シルト(鉄分、砂をわずかに含む)
- ⑦ 黒色(10YR1.7/1)粘土質シルト(炭化物、土器をわずかに含む)
- ⑧ 黒色(10YR1.7/1)粘土質シルト(鉄分、土器をわずかに含む)
- ⑨ 黒色(7.5YR2/2)シルト(土器、直径1~2cm大の丸い礫、直径1mm大の砂をわずかに含む)
- ⑩ 黒色(N1.5/)粘土質シルト(土器をわずかに含む)【SK107埋土】
- ⑪ 黒色(10YR1.7/1)粘土質シルト(黒色(N1.5/)粘土質シルトブロックを多く含む)【SX14埋土】
- ⑫ 暗青灰色(5PB3/1)粘土質シルト

図11 V区北壁断面図

Ⅳ区の北壁の基本層序である。

- ①[I層：整地層・攪乱・表土]
- ②黒褐色(7.5YR3/2)シルト質粘土[Ⅲ層：地山]
- ③明黄褐色(10YR6/6)細砂混じりシルト(やや粘性有り)[Ⅲ層：地山]
- ④黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト(地山ブロックをごく少量含む)[SD埋土]
- ⑤黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト[遺構埋土]

表土は宅地造成時の盛り土及び整地土層と判断される。調査区壁を観察すると近世以降と推測される数度にわたる整地の痕跡を見ることができる。

Ⅲ区の遺構検出面の標高は約49.3mであり、Ⅱ区からさらに0.5mほど高くなっている。中期末の集落が展開する調査区であり、丘陵部を背後にその裾部に同時期の居住域が展開する。遺構は黒褐色シルト層上面で検出できる(③層)。この層の下にはにぶい黄褐色シルト層(④層)があり、Ⅱ区はこの④層上面で下面遺構を検出していたと推定できる。Ⅱ区にくらべるとこの③層が削平されずに残存している分、遺構検出の標高が高いと考えられる。

Ⅳ区の現地表面の標高は約50mであり、宅地を造成する時の盛り土及び整地土層と判断される。遺構検出面の標高は約49.5mであり、Ⅲ区よりもさらに0.2mほど高くなっている。遺物包含層は確認していない。遺構は黒褐色シルト層上面で検出できる(②層)。一部でアカホヤの二次堆積が認められ、Ⅱ'層とした。厚いところで約20cmを測り、窪地に流れ込んだ二次堆積と考えられる。

(3)Ⅴ区

Ⅴ区の北壁の基本層序である。

- ①黒褐色(10YR3/2)シルト[I層：表土]
- ②黒褐色(10YR2/3)粘土質シルト(鉄分、直径3～5mm大の砂粒をわずかに含む)[Ⅱ層]
- ③黒褐色(10YR2/2)細質シルト[Ⅱ層]
- ④黒褐色(10YR2/2)シルト(炭化物、直径2～3cm大の角礫をわずかに含む)[Ⅲ層：地山]
- ⑤黒色(10YR1.7/1)粘土質シルト(直径2cm大の丸礫、
暗褐色(10YR3/3)の直径1mm大の砂混じりの砂質シルトのブロックをわずかに含む)
- ⑥黒色(7.5YR2/1)粘土質シルト(鉄分、砂をわずかに含む)
- ⑦黒色(10YR1.7/1)粘土質シルト(炭化物、土器をわずかに含む)
- ⑧黒色(10YR1.7/1)粘土質シルト(鉄分、土器をわずかに含む)
- ⑨黒色(7.5YR2/2)シルト(土器、直径1～2cm大の丸い礫、直径1mm大の砂をわずかに含む)
- ⑩黒色(N1.5/)粘土質シルト(土器をわずかに含む)[SK107埋土]
- ⑪黒色(10YR1.7/1)粘土質シルト(黒色(N1.5/)粘土質シルトブロックを多く含む)[SX14埋土]
- ⑫暗青灰色(5PB3/1)粘土質シルト

表土は耕作土層である。Ⅴ区の西部に、近世以降の石積み(石垣2)による土留めを行い、高低差のある平場を形成していた。上段部は畑として、下段部は水田として利用していた。なお、上段部の標高は周辺の宅地の標高とほぼ同じである。遺構検出面の標高は約48.6mである。Ⅳ区に比べると、0.7mほど低くなっている。土器棺墓が集中する調査区であり、竪穴住居跡等の遺構は認められなかったが、後世の整地作業等による削平のため、上部の遺構も削られた可能性が高い。

第2節 検出遺構と出土遺物

(1)ST

ST1

I区東部に位置する。平面形は直径約8.1mの円形を呈するが、直線的に鈍角に交わる部分も認められ多角形であった可能性がある。また、北東部には平面形が隅丸長方形の張り出し部を持つ。住居跡の西半部は検出面の色調が褐色を呈していたため、住居跡埋土の色調と近く、平面プランが不明瞭であったため、やや深めに掘り下げ検出した。そのため包含層[II層]出土遺物として取り上げたもののうち、本来は当住居跡に伴うものも含まれている。検出面から床面までの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。中央ピットは住居跡のやや南に位置する。平面形は不整形円形を呈し、規模は長軸約1.6m、短軸約1.4m、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は住居跡の埋土と同一である。床面からピットが24基検出されたが、P12、P17、P18、P19はシミであった。P2～6、P8、P9、P15、P21はその規模や配置から主柱穴であると考えられ、SK1は貯蔵穴であると考えられる。壁溝は検出されたが浅く、全周しているものか判然としない。また、張り出し部の壁に沿っては巡っていない。

出土遺物の接合関係をみると、ST1-P1出土遺物とX4グリッドの上層と中層出土遺物が接合した。下層出土遺物とX4グリッドのII層[包含層]出土遺物が接合した。V5グリッドでも、同様の接合関係がみられた。ST1-SK1出土遺物と上層出土遺物が接合した。以上のように、下層出土遺物と上層出土遺物、下層出土遺物と包含層出土遺物が接合する等、少なくとも床面から検出面までは比較的短期間で埋まったものと推測される。

図示した出土遺物は弥生土器の壺、甕、鉢、高杯、打製石包丁、砥石、鉄鏃がある。1～6は壺である。1・2は素口縁である。3は水平近くに外反し、二次口縁は一次口縁の中央付近に垂直に立ち上げる。口唇部には弱く不揃いな刻目文を施す。4は口唇部を拡張させるが、口唇部には文様は認められない。5・6は複合口縁壺である。5は二次口縁部の幅は狭く無文である。6は二次口縁部の幅はひろく、右上がりの沈線を充填した鋸歯文を施す。文様の状況から一次口縁の端部に二次口縁をのせている。また、下端は擬口縁となっている。7～9は甕である。7はほぼ完形に復原できた。この甕は口縁部を下にして出土した。底部は丸底である。外面には口縁部まで叩き目が残存する。底部付近は叩き成形後にナデ調整を施す。内面はハケメ調整である。底部付近に穿孔する。底部にも敲打痕跡が認められる。全体的にやや歪む。底部付近の穿孔、出土状況から住居の廃絶に伴う祭祀に供されたものと考えられる。10～15は鉢である。10・11は器高の高いタイプであり、口縁端部を短く外反させる。11は外面の叩き目を丁寧にハケメ調整で消している。12は口縁部が波打つなど、丁寧に欠ける。外面は叩き成形後、ナデ調整を施す。器面にはわずかに亀裂が認められる。底部付近は器面が剥離している。13は口唇部をハケ状原体で平坦にする。外面は叩き成形後、丁寧にナデ調整を施し、叩き目を消す。14の口唇部も13同様、ハケ状原体で平坦にする。外面には器面に亀裂が認められる。15は小破片のため、やや胴が張るように図示したが、形態的には10・11に類似する可能性がある。16～23は壺、甕、鉢の底部である。丸底の22以外は平底である。端部は丸みを帯びるようにナデ調整等で成形されている。17は底部以外を叩くことで底部がより突出する。外底面は軽くナデ調整を施す程度である。19は外底面に叩き目が認められる。21は外面と内面から穿孔を試みているが、ズレているため未穿孔であ

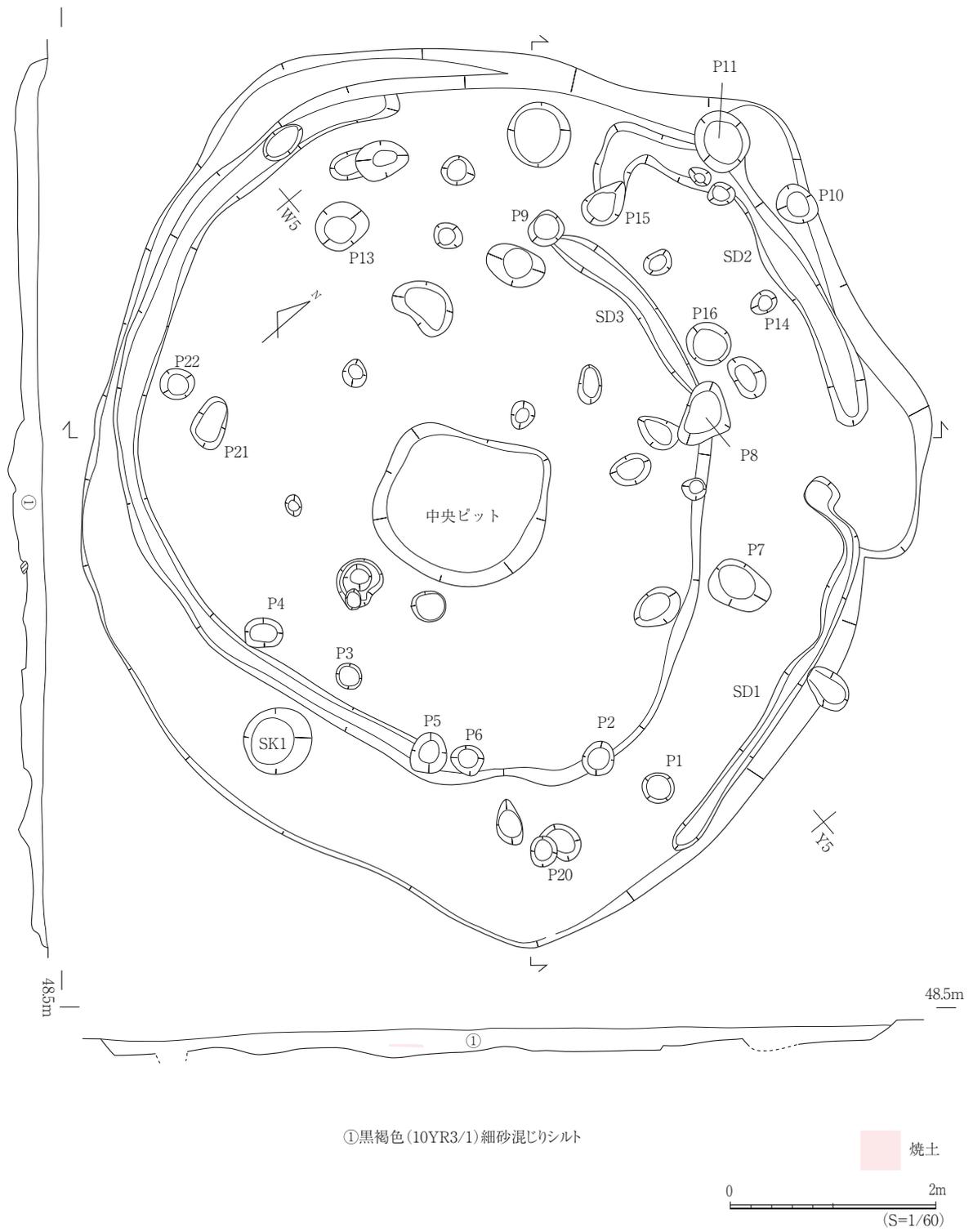


図12 ST1平面図・断面図

る。内面の穿孔痕は2カ所認められる。外面は敲打後、穿孔している。それぞれの断面は円錐状を呈している。23の外面は粗い縦方向のハケメ調整, 内面は横方向の粗いハケメ調整, 底部付近はナデ調整である。外底面は凹凸がある。24～27は高杯である。24～26は脚部から裾部にかけての破片であり, 24・25は直立で短い中実の脚柱部を持つ。26は脚柱部の接合部から裾部が大きくひろがる。円孔を穿つ。27は裾部の破片である。大きく直線的にひらき, 端部は尖らせる。外面はハケメ調整後, ミガキ調整を施し, 内面はハケメ調整である。円孔を穿つ。28はミニチュア土器である。底端部の稜線

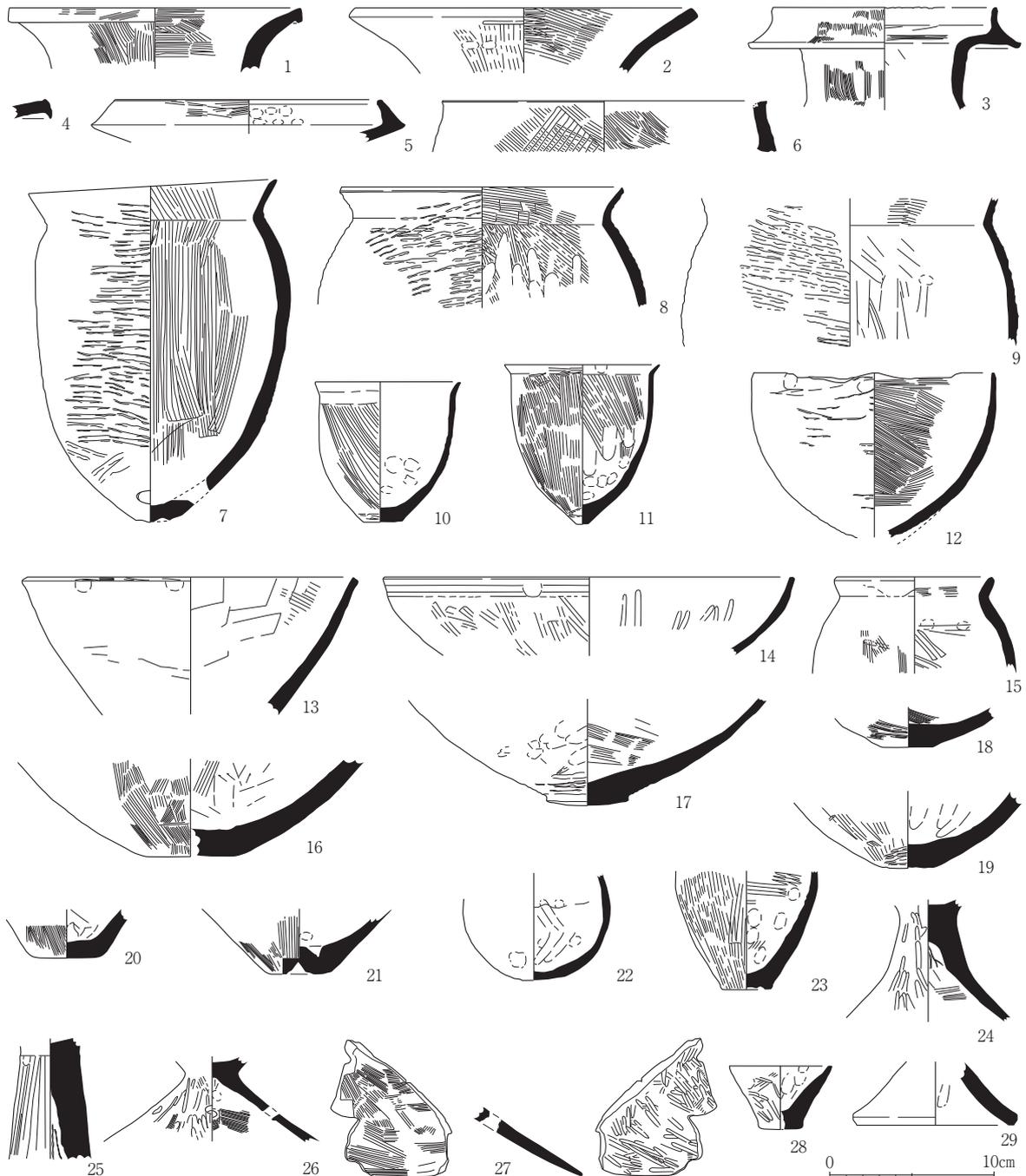


図13 ST1出土遺物実測図1

は鋭く、体部は外上方へのびる。外面はヘラ状工具でなでられており、光沢がみられる。内面は縦方向のナデ調整を施す。口縁部は摘んで成形する。30は頁岩の打製石包丁である。片刃である。両面とも剥離面を残し、両端に抉りを入れる。紐かけによる摩滅痕跡が認められる。31は砂岩の砥石である。被熱により変色している。幅広の面を主として使用している。側面の割れた面においても凸部は擦ることによって平滑になる部分があり、砥石として使用されている。また、敲打痕跡が認められる部分がある。32は砂岩の砥石であり、欠損する。平らな面を砥石として使用する。線状の使用痕が認められる。被熱により赤変する。33は砂岩の砥石である。中央ピット脇から出土した。扁平な細長い自然石を利用する。幅広の面を主として利用しており、使用のため中央部がレンズ状に凹む。鉄錆と思われる褐色を呈したものが付着している。使用頻度に差異はあるが、四面を砥石として使用する。34は圭頭式の鉄鏃であり、茎は欠損する。

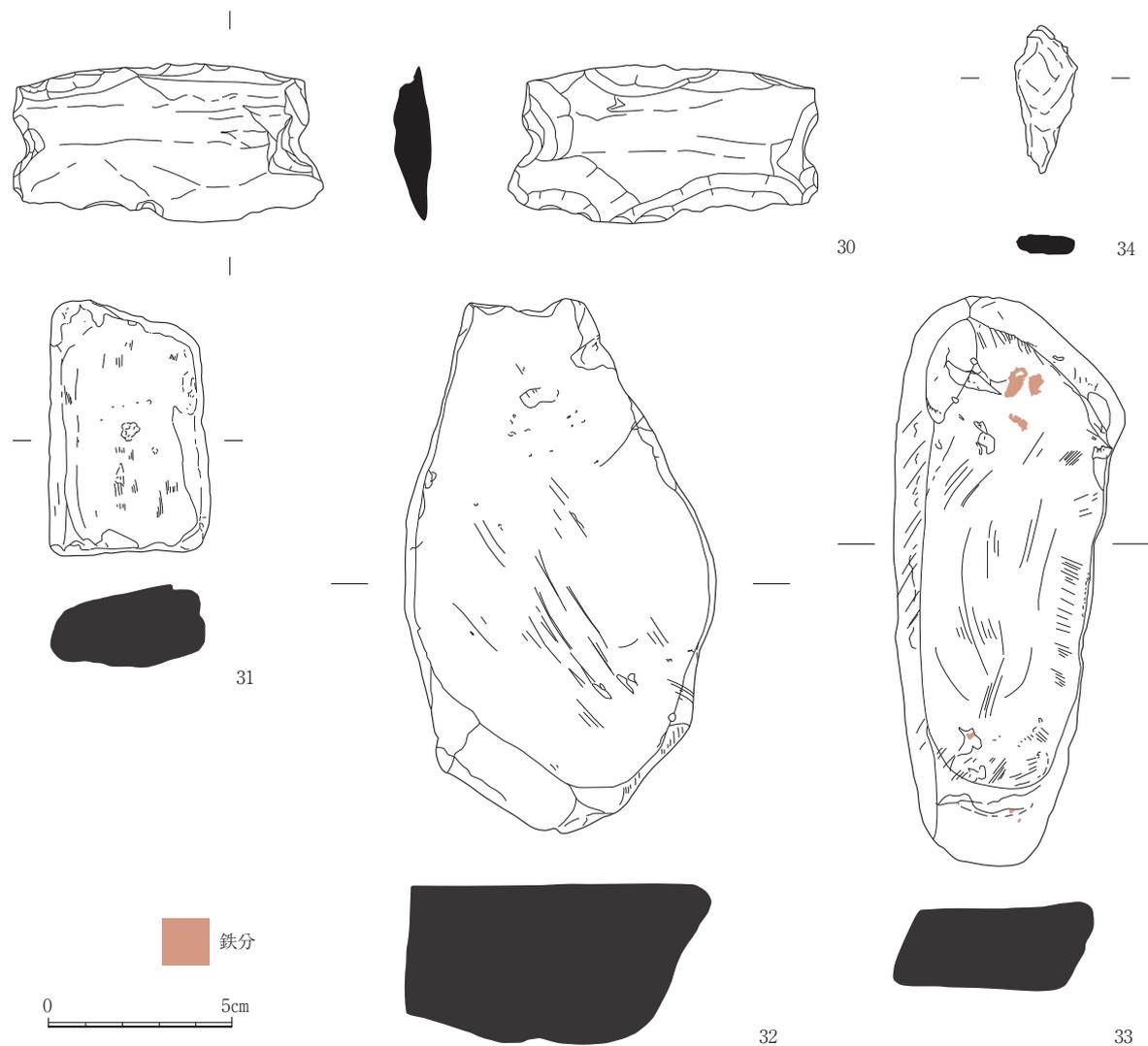


図14 ST1出土遺物実測図2

ST2

I区中央部北端に位置する。北側はハンダ土坑に切られ、東半はコンクリートの畦畔下である。I区東半部では延長を検出できなかつた。南北6.2m、東西4.1mまでしか検出できなかつたが、平面形は一辺約6.5mの隅丸方形を呈していると考えられる。検出面から床面までの深さは約0.4mを測る。埋土は基本的に黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。調査範囲内では中央ピットは検出されなかつた。ベッド状遺構は幅約1.2m、高さは約0.2mを測り、全周しているものと考えられるが、南辺のベッドは盛土成形の可能性がある。床面からはピットが7基検出され、うちP1、P5はその規模や配置から支柱穴であると考えられる。また、SK3はその規模や配置から貯蔵穴であると考えられる。壁溝は東部で検出した。床面付近で焼土を検出した。

遺物は、住居跡の北西部のベッド上面に集中していた。45・64は床面からの出土である。出土遺物の接合関係をみてみると、ST2-P3出土遺物とST2-SK1出土遺物とZ4グリッドの検出面から10～20cm出土遺物とA3・4・5グリッドの検出面から10～20cm出土遺物が接合した。45とZ4グリッドの検出面から10～20cm出土遺物とZ4グリッドのベッド内20～30cm出土遺物とZ4グリッドのベッド内30cm～床面出土遺物が接合した。Y4グリッドのII層[包含層]出土遺物とZ4グリッドの検出面から10～20cm出土遺物が接合した。Z4グリッドの0～10cm出土遺物とZ4グリッドのベッド内20～30cm出土遺物が接合した。埋土の上下層間で接合関係が認められ、少なくとも床面から検出面までは比較的短期間で埋まったものと推測される。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺、甕、鉢、高杯、須恵器である。35～46は壺である。35～38は素口縁である。口唇部はナデ調整により平坦か凹状を呈する。36の器壁は厚く、しっかりとした作りである。39～42は口唇部が拡張され、文様が施される。39には波状文、40には斜格子文、41は摩耗により観察が困難であるが波状文か、42には波状文と竹

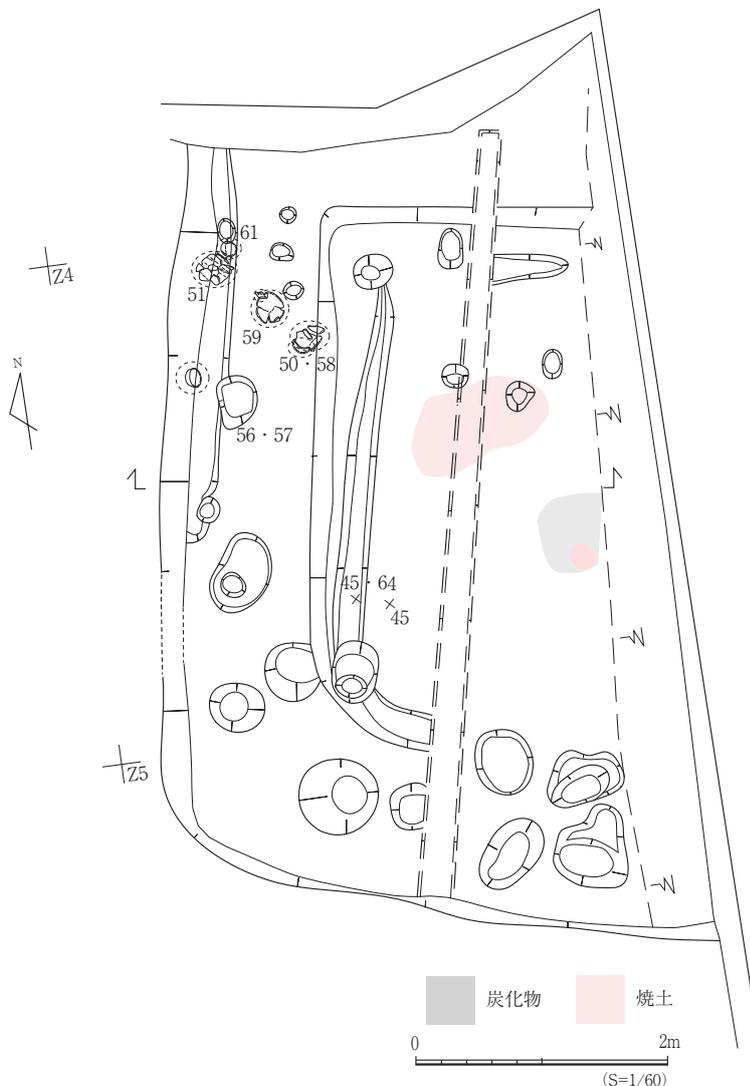
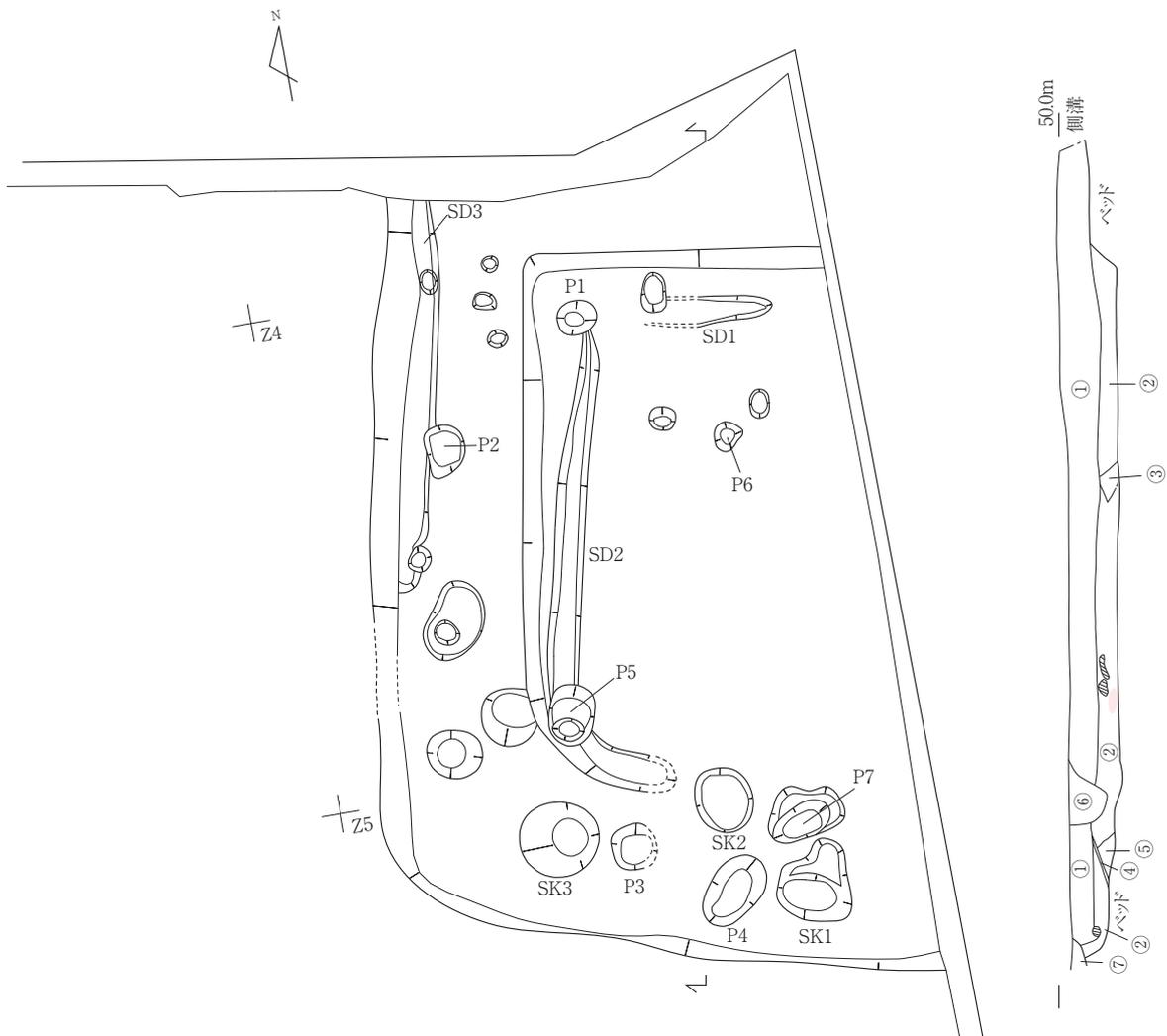


図15 ST2遺物出土状況図

管文がそれぞれ施されている。43は複合口縁壺であり、無文の二次口縁は短く直立気味である。口唇部はナデ調整により平坦面となる。44は口縁部を水平近くまで外反させる。口唇部を僅かに拡張させ、下端は丸くおさめる。口縁部内面には、鋭い工具で12条以上を単位とする沈線文を施す。胎土には雲母片を含み、在地の胎土とはやや異なる印象を持つ。45は細頸壺である。扁球形の体部に細長い頸部がつく。外面にはミガキ調整が施されており、丁寧な作りである。46は壺の片部の破片である。



- ① 黒色 (10YR2/1) 細砂混じりシルト
- ② 黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト
- ③ 明褐色 (7.5YR5/6) 焼土
- ④ 黒褐色 (7.5YR3/2) 細砂混じりシルト
- ⑤ 明褐色 (7.5YR5/6) 細砂混じりシルト [ベッド、地山か]
- ⑥ 黒色 (10YR2/1) 細砂混じりシルト [別遺構埋土]
- ⑦ 灰褐色 (7.5YR4/2) シルト (締まりなし) [SD1埋土]

焼土

0 2m
(S=1/60)

図16 ST2平面図・断面図

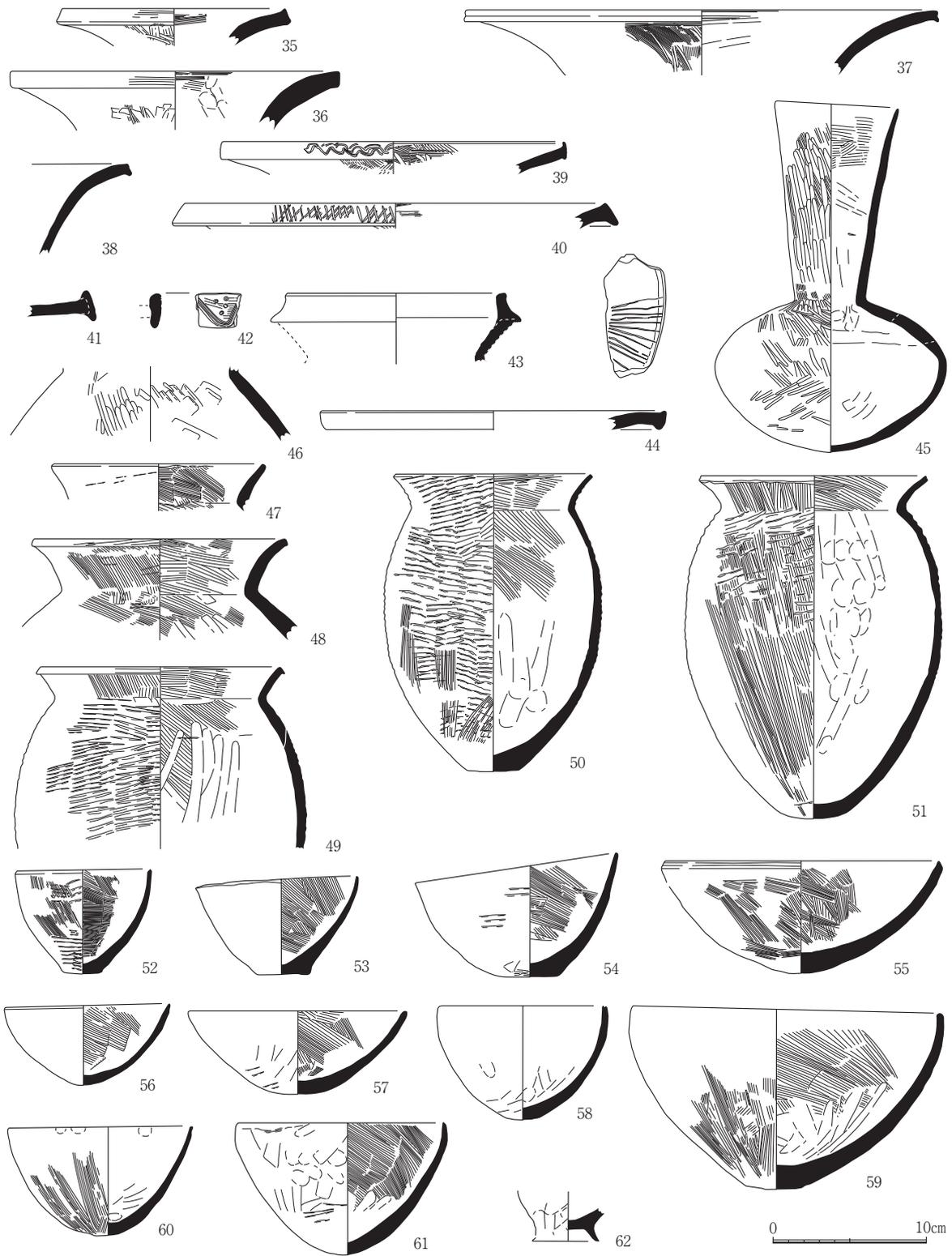


図17 ST2出土遺物実測図1

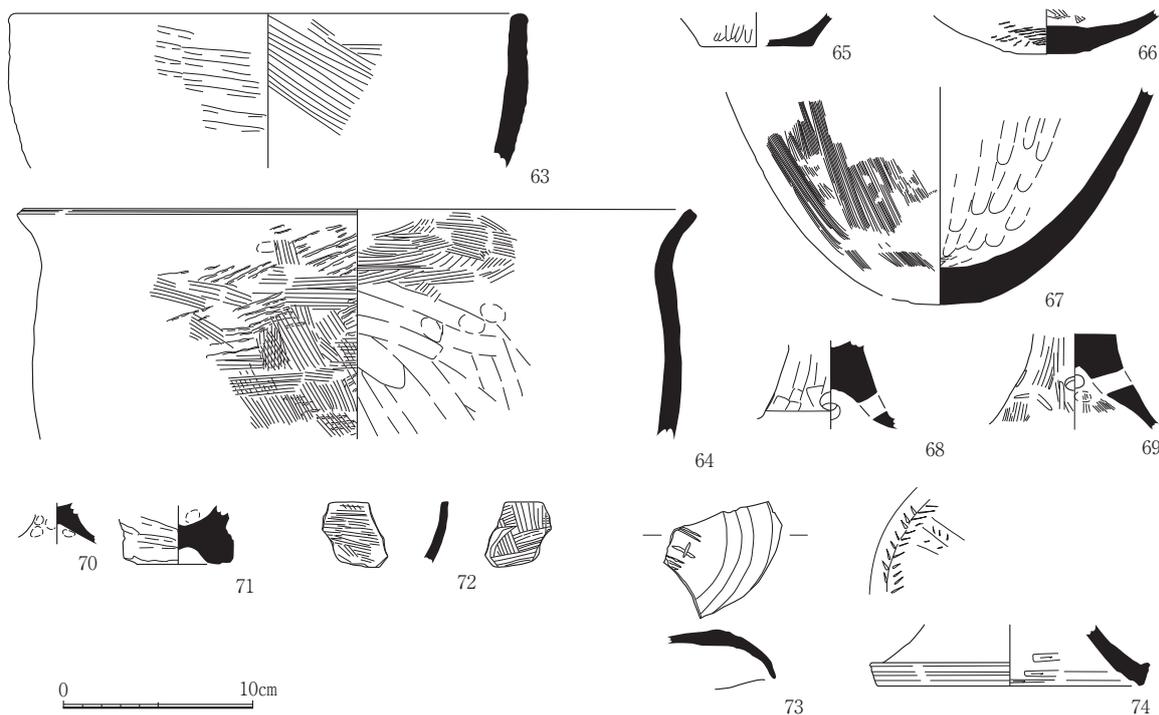
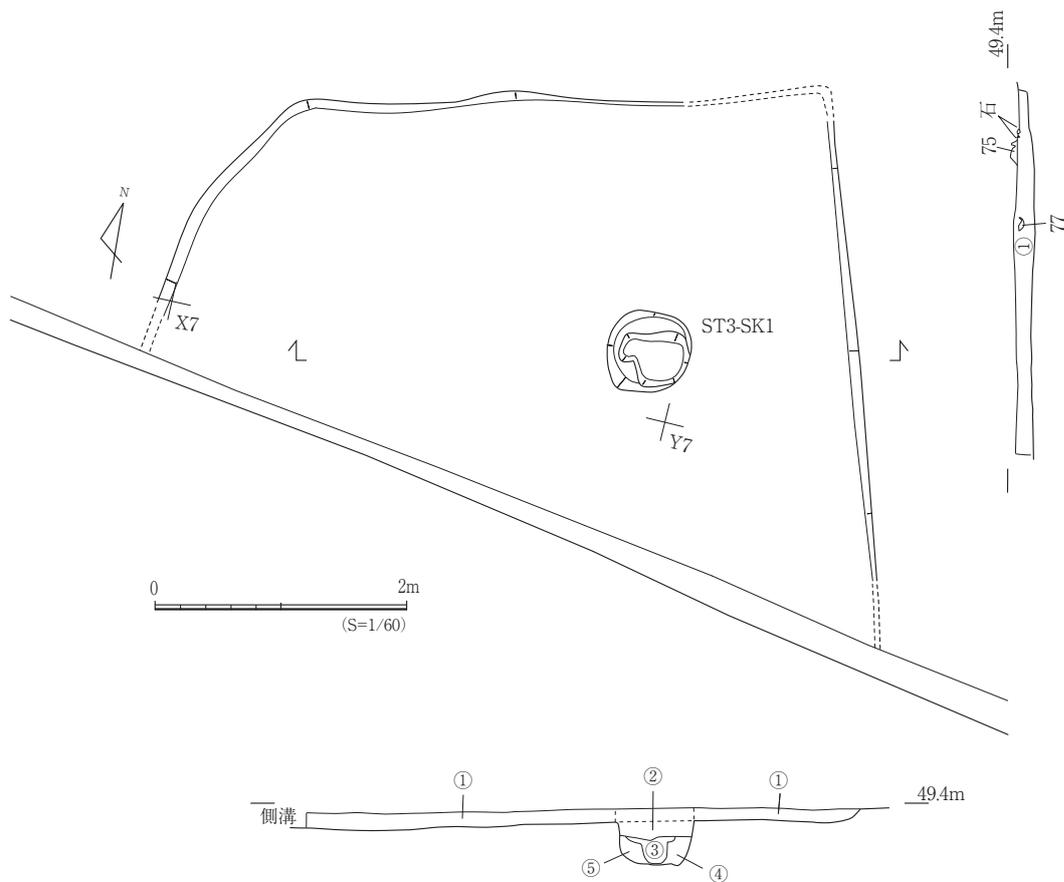


図18 ST2出土遺物実測図2

外面はミガキ調整, 内面はナデ調整を施す。搬入品の可能性がある。47～51は甕である。48は器壁が厚くしっかりとした作りである。口縁部は「く」の字状を呈する。口唇部はハケ状原体により平坦面と成す。外面は叩き成形後, ハケメ調整を施す。内面はハケメ調整である。49の口縁部は屈曲のやや甘い「く」の字状を呈する。外面には叩き目が全面に残る。口縁部のみにはハケメ調整を施し, 体部には及ばない。内面はハケメ調整後, 縦方向のナデ調整を施す。また, 肩部内面には粘土接合痕跡が認められる。50は弥生土器の甕である。底部は角のとれた平底である。口縁部は「く」の字状を呈するが, 屈曲度合いは弱い。内面は口頸部の屈曲部には稜がみられる。外面は口縁部まで叩き成形で作られ, 下半部はハケメ調整を疎らに施す。内面は下半がナデ調整, 上半はハケメ調整である。煤が付着する。51は甕である。丸底であり, 胴部の中位に最大径を持ち, 全体的に丸みを持つ。口縁部は「く」の字状に外反する。外面は叩き成形後ハケメ調整を施す。ハケメ調整は比較的, 密に施す。胴部内面はナデ調整, 口縁部はハケメ調整である。煤が付着する。52～64は鉢である。52は住居跡の南壁際から出土した。やや小さめで深い。外面の下半に叩き目を残し, 上半はナデ調整及びハケメ調整により叩き目を消している。器面に亀裂が少し見られる。内面は横方向に原体を約1cmずつ止めながらハケメ調整を施す。ほぼ完形である。53は外面底部付近に叩き目と思われる痕跡が少し見られる程度である。最終調整はナデ調整であり, 器面に亀裂が上半部を中心に認められる。口唇部はハケ状原体を押しつけ成形しており, 刻み目状を呈している部分がある。ほぼ完形である。54は丸みを持った体部である。底部は平坦部は残すが丸底を意識している。外面は叩き成形後ナデ調整, 内面はハケメ調整である。55は口径に比べ器高が低い。器壁は厚く重量感がある。底部は完全な丸底である。内外面ともハケメ調整を丁寧に施す。口唇部はハケ状原体でなでることで尖らせる。56は丸底の鉢で, 体部は丸みを帯びる。ほぼ完形である。57の底部は平坦部は残るものの丸底を意識している。外面は叩き成形後ナデ



- ①黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト(やや粘性有り,土器片を少量含む)
- ②褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト(炭化物粒,明黄褐色(10YR6/6)細砂混じりシルトをブロック状(直径5mm)に含む[地山])[ピット埋土]
- ③灰黄褐色(10YR5/2)細砂混じりシルト(炭化物粒,明黄褐色(10YR6/6)細砂混じりシルトをブロック状(直径5mm)に含む[地山])[ピット埋土・柱痕跡]
- ④褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト(明黄褐色(10YR6/6)細砂混じりシルトブロック(直径5mm)を少量含む[地山])[ピット埋土]
- ⑤褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト(明黄褐色(10YR6/6)細砂混じりシルトブロック(直径1mm大)を多く含む[地山])[ピット埋土]

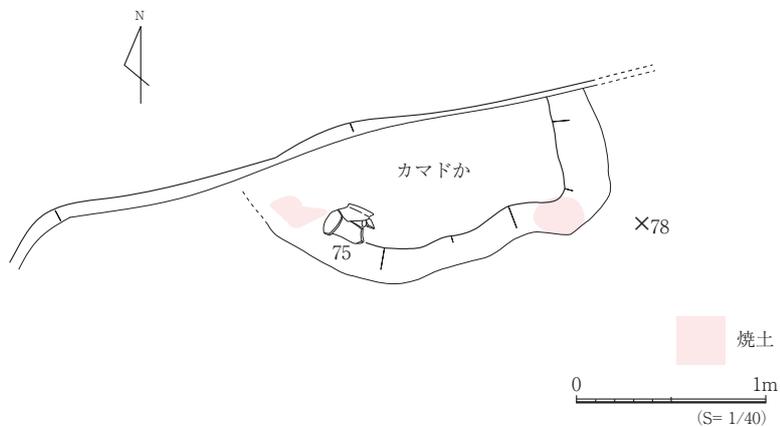


図19 ST3平面図・断面図・カマド平面図

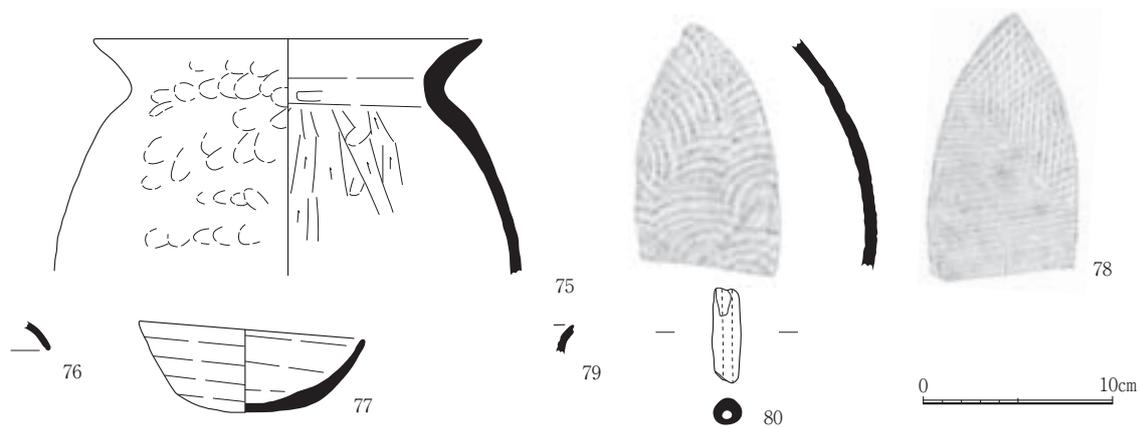
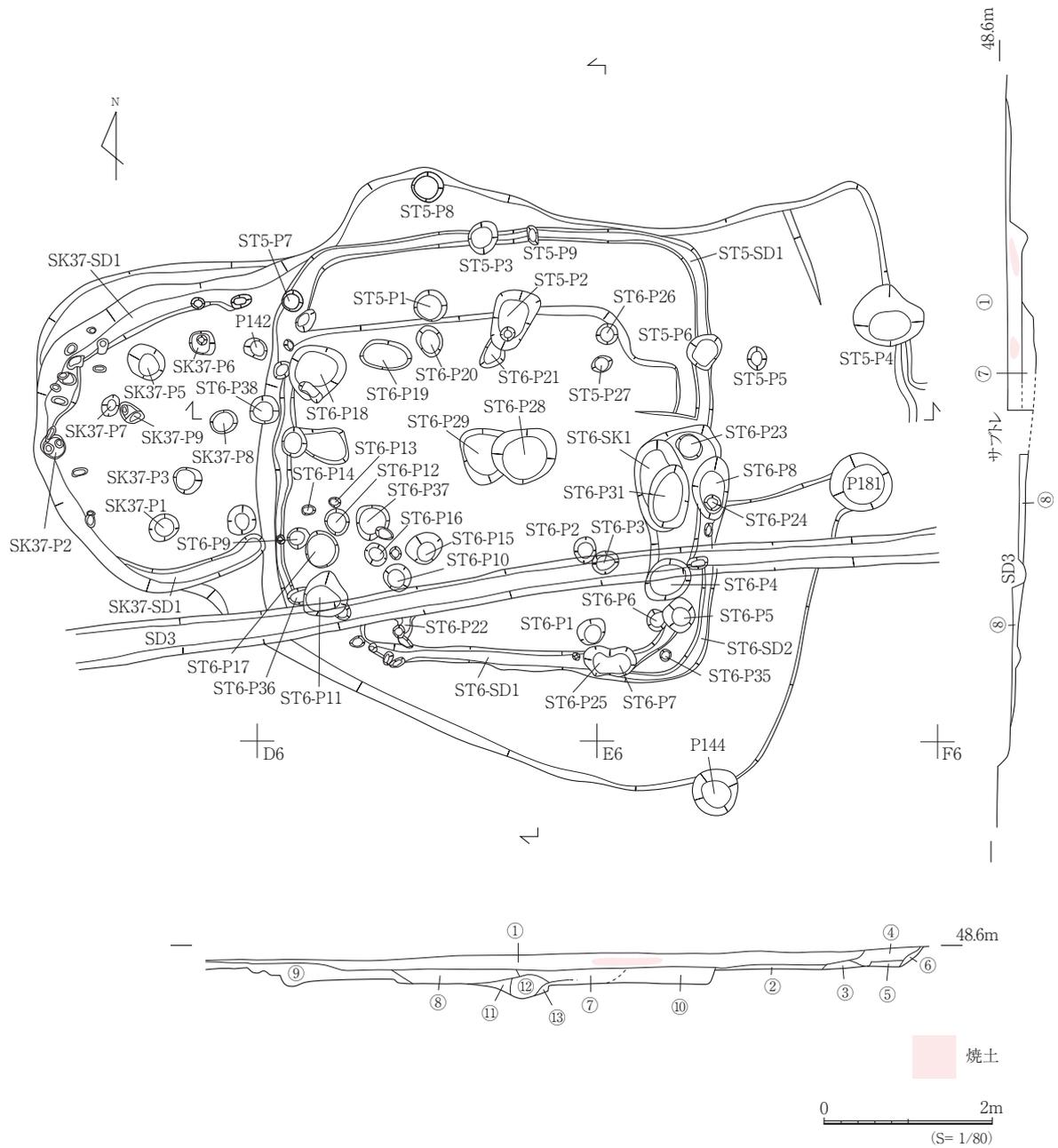


図20 ST3出土遺物実測図

調整を施し、上半部は丁寧になでる。58は内外面ともナデ調整を施す。外面には器面に亀裂がみられる。59は大形の鉢である。角のとれた平底で、体部は丸みを帯びる。口唇部は丸くおさめる。外面は下半部を中心にハケメ調整を施し、上半部はナデ調整である。器表面全面に亀裂が認められる。内面は下半部がナデ調整、上半部がハケメ調整である。ほぼ完形である。60の底部は丸底である。外面はハケメ調整、内面はナデ調整である。ほぼ完形である。61は尖底に近い丸底である。外面は叩き成形後、ハケメ調整及びナデ調整を施す。叩き目は丁寧に消される。内面はハケメ調整後、底部付近はナデ調整を施す。全体的にやや歪む。残存率が高い。62は脚付き鉢と考えられる。指頭を用いて脚部を作り出す。63は器壁が厚い。口唇部を丸くおさめる。外面には太い叩き目を残す。内面は粗いハケメ調整である。64の口縁部は緩やかに外反する。外面は叩き成形後ハケメ調整を施す。内面は口縁部がハケメ調整、体部がナデ調整である。片口鉢の可能性もある。65～67は底部である。65は甕の底部であり、高松平野からの搬入品である。66は鉢、67は壺の底部と考えられる。66は底部以外を叩き成形し、底部をナデ調整により丸底にする。67は丸底である。器壁が厚く法量が大きい。68・69は高杯である。68は短い中実の脚柱部から裾部がひろがる。円孔を穿つ。69は短い中実の脚柱部から裾部がひろがる。裾部に円孔を穿つ。外面はハケメ調整、ミガキ調整である。70はミニチュア土器であり、脚部と考えられる。71は支脚と考えられる。底部は上げ底である。外面は太く凹凸の激しい叩き目が残る。全体的に雑な作りである。72は弥生土器の体部片である。沈線文帯と三日月状の文様を組み合わせる。73・74は混入品である。73は須恵器の杯蓋である。やや凹んだ天井部から口縁部は丸みをおびてさがる。口縁端部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。歪む。

ST3

I区西部南端に位置する。南側が調査区外に出ており、南北は3.6mまでしか検出できなかった。平面形は一辺約5.2mの隅丸方形を呈していると考えられるが、北西部はややいびつな形態である。検出面から床面までの深さは約0.1mを測る。埋土は基本的にやや粘性のある黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。この住居跡に伴うピットは検出していない。ST3-SK1は床面精査時に検出したが、土層観察用のアゼで確認すると、上面から掘り込まれている可能性が高い。P28, P145, P175と柱穴列を構成する。また、北辺中央部付近には焼土がみられ、カマドと考えられるが袖石等は見られなかった。



- ① 黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト(炭化物粒,焼土,土器片を少量含む) [ST5埋土]
- ② 黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト(炭化物粒,焼土,土器片,黄褐色 (10YR5/6シルト) 地山ブロックを少量含む) [ST5埋土]
- ③ 褐灰色 (7.5YR4/1) 細砂混じりシルト(炭化物粒,地山ブロックを少量含む) [SK埋土]
- ④ 灰褐色 (7.5YR4/2) 細砂混じりシルト(炭化物粒をごく少量含む) [SK埋土]
- ⑤ 灰褐色 (7.5YR4/2) 細砂混じりシルト(炭化物粒を少量含む) [SK埋土]
- ⑥ 暗オリーブ色 (7.5Y4/3) 細砂混じりシルト[地山にSK埋土の色調がしみたもの]
- ⑦ 黒褐色 (7.5YR3/1) 細砂混じりシルト(直径1~3cm大の小礫を少量含む) [ST6埋土]
- ⑧ 黒褐色 (7.5YR3/2) 細砂混じりシルト(直径1cm大の小礫を少量含む) [ST6埋土]
- ⑨ 黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルトと灰褐色 (7.5YR4/2) 細砂混じりシルト(直径3cm大の小礫,炭化物粒をごく少量含む) [ST6埋土]
- ⑩ 黒褐色 (7.5YR3/2) 細砂混じりシルト(直径1cm大の小礫,炭化物粒を少量含む) [ST6埋土]
- ⑪ 褐色 (7.5YR4/3) 細砂混じりシルト(焼土ブロックを少量含む) [中央ピット埋土]
- ⑫ 黒色 (10YR2/1) 細砂混じりシルト(直径1cm大の小礫,炭化物粒を少量含む) [中央ピット埋土]
- ⑬ 灰褐色 (7.5YR4/2) 細砂混じりシルト[中央ピット埋土]

図21 ST4~6平面図・断面図

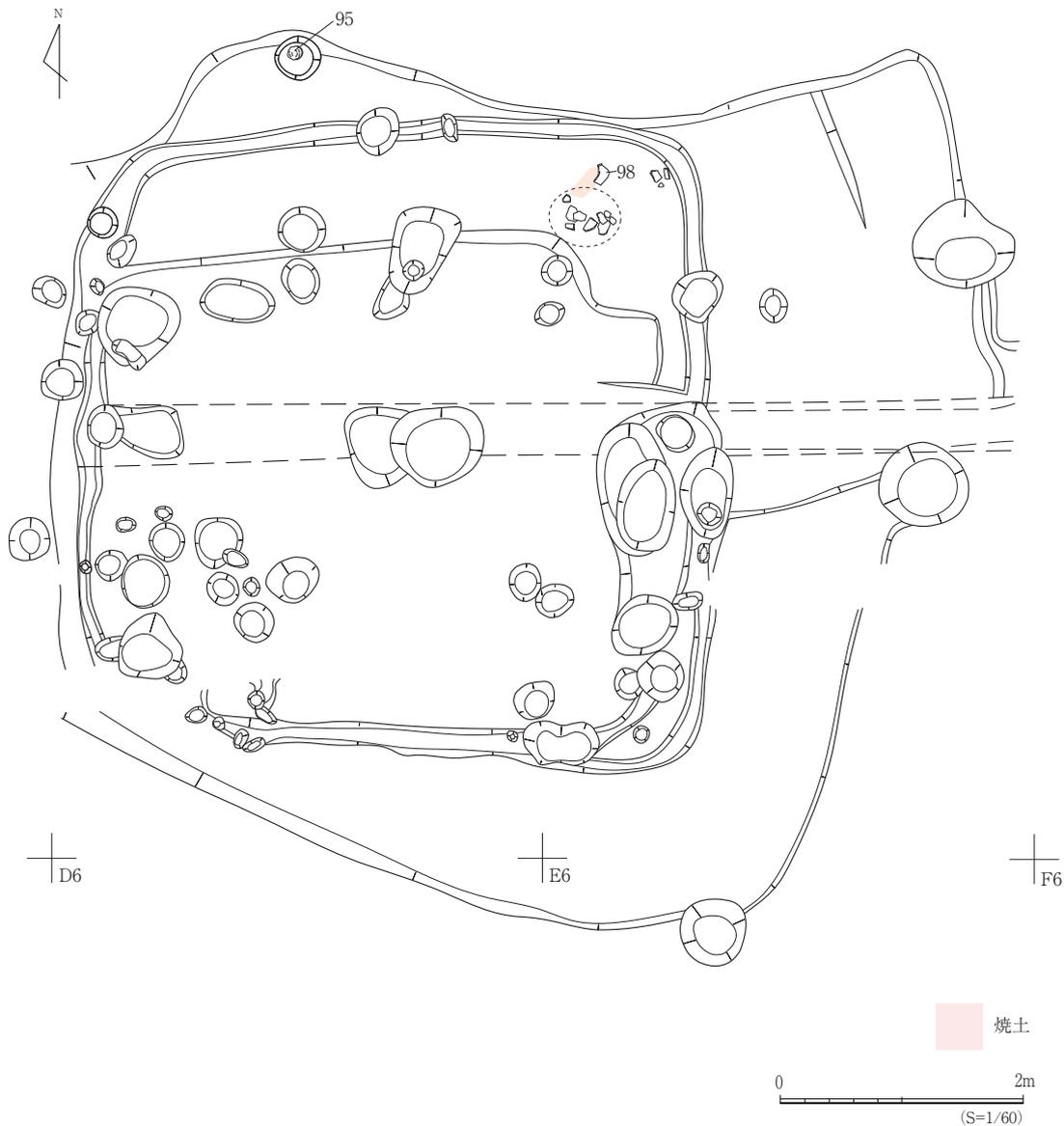


図22 ST5遺物出土状況図

図示した出土遺物は、土師器、須恵器、土錘である。75は土師器の甕である。丸みをおびた肩部から口縁部は外反し、端部を丸くおさめる。外面はナデ調整であり、内面は頸部直下までケズリ調整を施す。77は須恵器の杯身である。焼成不良であり、内外面は摩耗する。78は須恵器の壺である。外面は叩き成形後カキ目調整を施す。内面には当て具痕跡が残る。79・80はST3-SK1の出土遺物であり本STには伴わない。

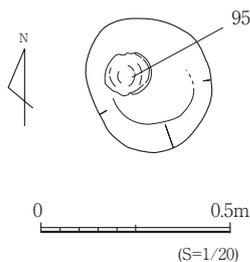


図23 ST5-P8遺物出土状況図

ST5・ST6

I区西部に位置し、複雑に遺構が重複していたため、SX0・6として掘削を始めた。SX0・6は掘り下げていくなかで、2つの住居跡となり、ST5とST6とした。各遺構の新旧関係は、SK37が

最も新しくST6が最も古いと考えられる。床面からは56基のピットと1基の土坑を検出したが、切り合い関係が複雑でいずれの住居跡に伴うものであるかは判然としない。ST5-SD1, ST6-SD1, ST6-SD2は一連のものであり、ST6の壁溝であると考えられる。またST5-P2, ST5-P4, ST5-P8, ST6-P8は出土遺物から、いずれの住居跡にも属しないと考えられる。ST5-P2は、P130, P140と柱

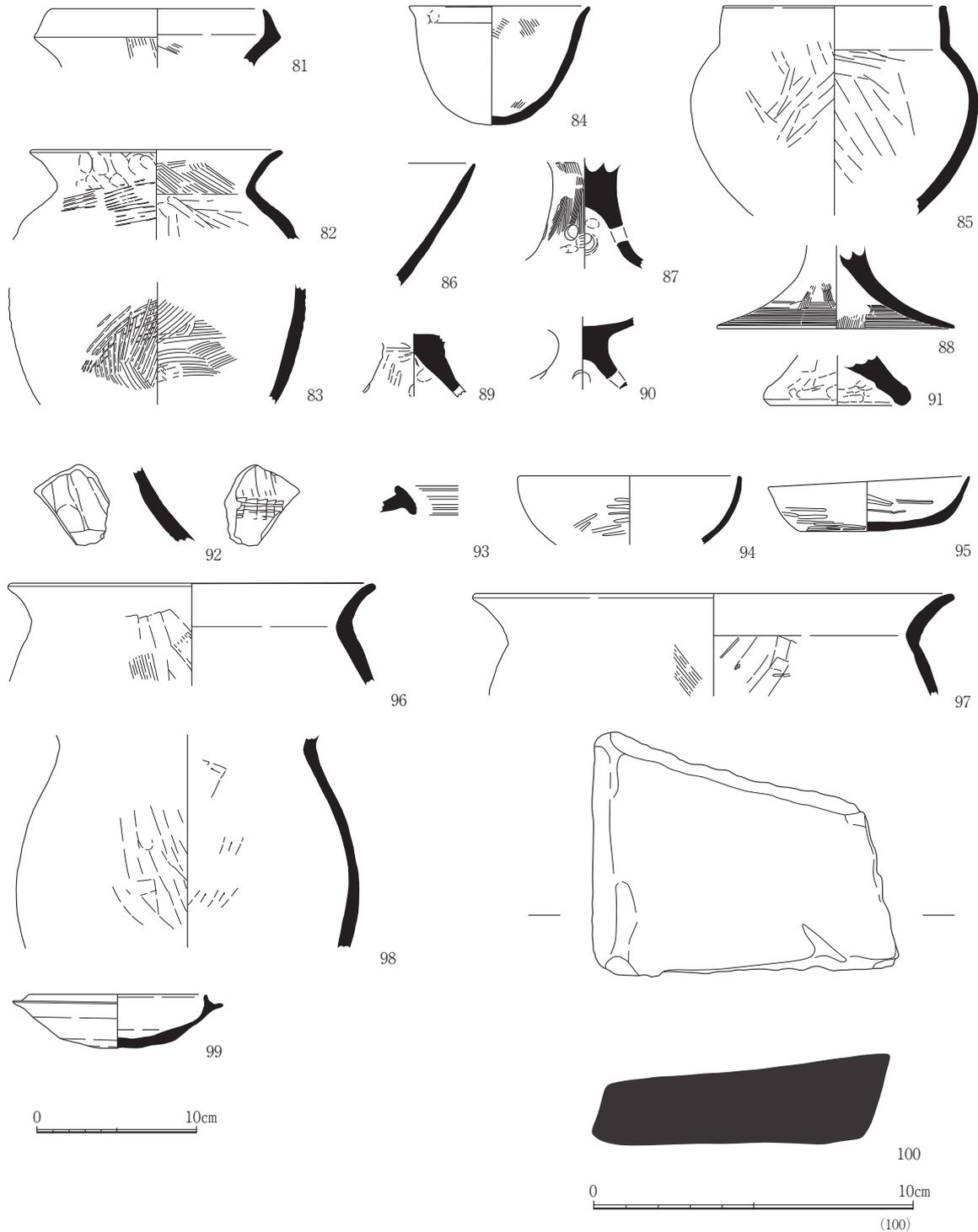


図24 ST4~6出土遺物実測図

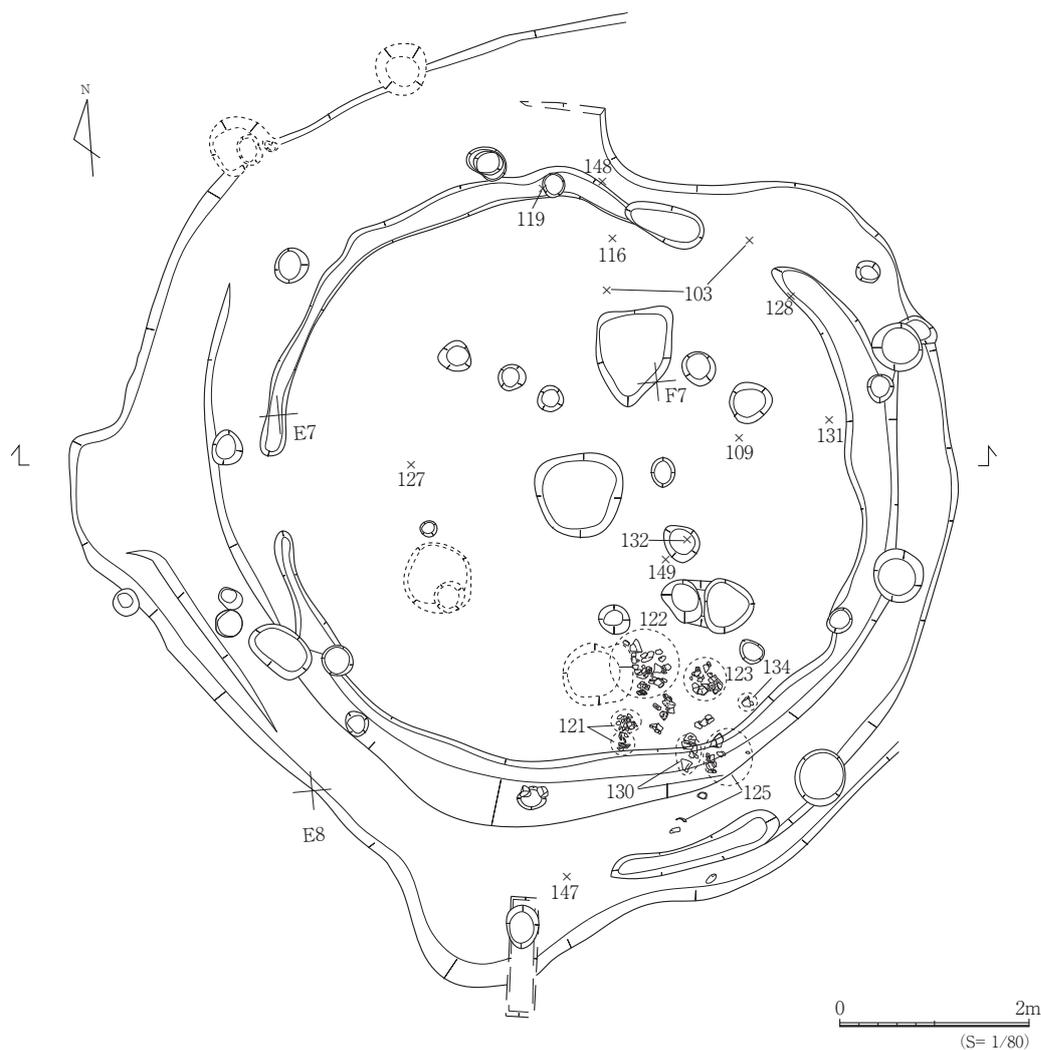


図25 ST7遺物出土状況図

穴列を構成する。

ST5は一辺約6.4mの隅丸方形を呈していると考えられ、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は2層に分層できる。①層は炭化物粒、焼土、土器片を少量含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト、②層は①層に地山ブロックを少量含む。ST6-P28が中央ピットであると考えられる。平面形は不整円形で、規模は長軸約0.7m、短軸約0.6m、検出面からの深さは約0.2mである。埋土は黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。

ST6は一辺約5.4mの隅丸方形を呈していると考えられ、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は4層に分層できる。⑦層は黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト、⑧層は黒褐色(7.5YR3/2)細砂混じりシルト、⑨層は黒褐色(10YR3/1)と灰褐色(7.5YR4/2)が混じる細砂混じりシルト、⑩層は⑧層に炭化物粒が少量混じる。ST6-P29はその規模や配置から中央ピットであると考えられる。平面形は不整円形で、規模は長軸約0.6m、短軸は約0.3mまで検出できた。検出面からの深さは約0.1mである。埋土は焼土ブロックを少量含む、褐色(7.5YR4/3)細砂混じりシルトである。壁溝は全周しており、検出面からの深さは約0.05mを測る。P5、P11、P18はその規模や配置から支柱穴であると

考えられる。

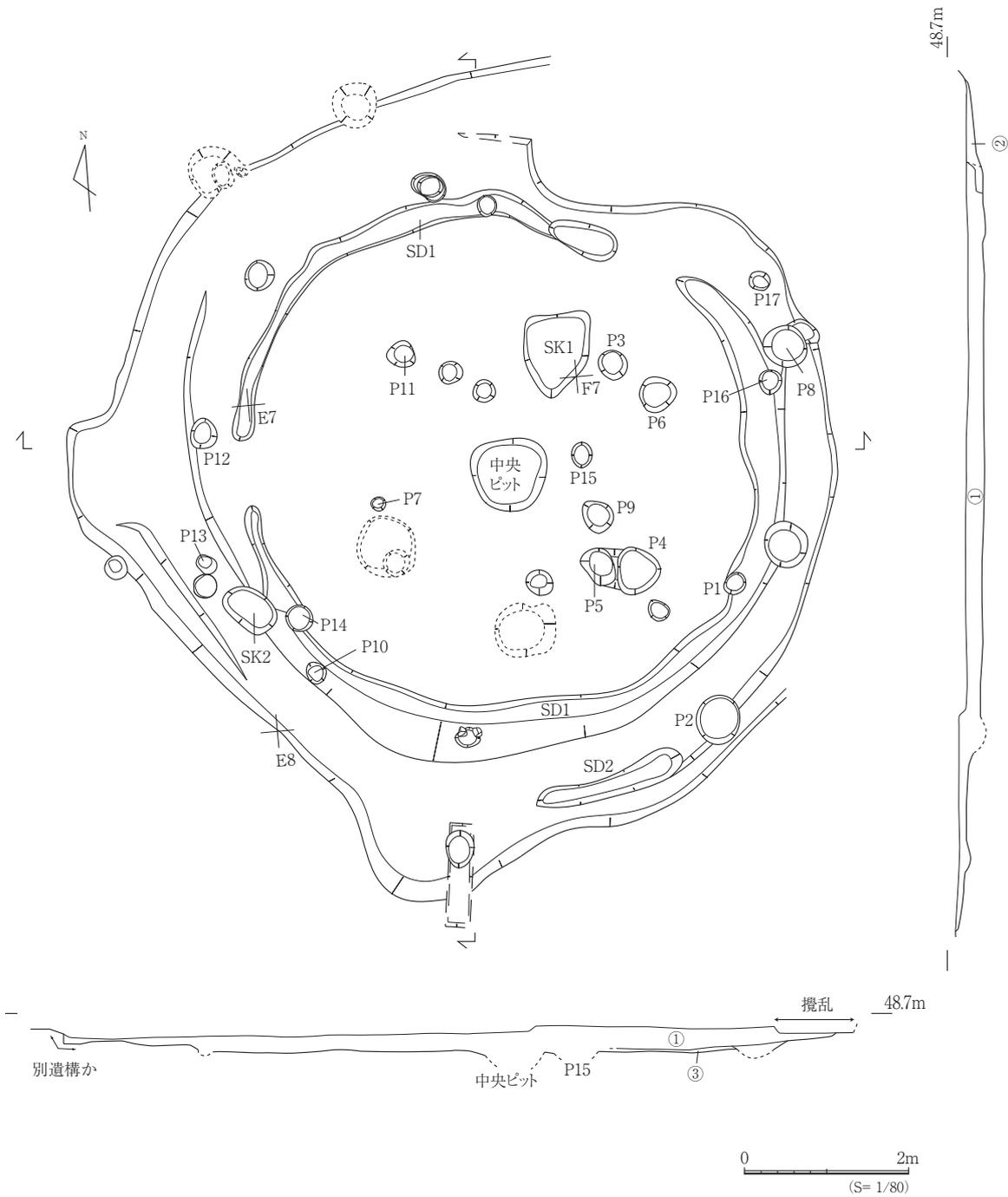
図示した出土遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、砥石である。81は弥生土器複合口縁壺であり、二次口縁は短く内傾する。82は弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状に外反する。口縁部は指頭でつまみ、成形する。体部外面には叩き目が残し、口縁部の一部にも叩き目が見られる。内面は口縁部がハケメ調整、体部がナデ調整である。84は弥生土器の鉢である。丸底で半球形の胴部を持ち、口縁部は短く外反する。内外面ともナデ調整を施す。85は弥生土器の鉢である。体部は丸みを持ち、口縁部は直立し、端部は平坦面と成す。内外面ともナデ調整を施す。外面の器面に亀裂が認められる。86は鉢か高杯の杯部である。87～90は高杯の脚部である。87・90は短い中実の脚柱部を有する。88・89は杯部の接合部から裾部が大きくひらく。87・89・90は円孔が見られ、88にはない。91は弥生土器の支脚である。手づくね成形である。92は弥生土器の壺である。簾状文が施された弥生時代中期中葉のものであり、混入品である。93は凹線文を施した壺であり、混入品である。94は土師器の椀である。外面はケズリ後ミガキ調整を施す。内面はナデ調整である。95は土師器の杯である。ST5-P8から出土した。残存率は比較的高い。外面はケズリ後ミガキ調整を施す。外底面はヘラ切り後ミガキ調整を施す。内面はミガキ調整を施す。また、内外面に赤彩を施す。96～98は土師器の甕である。96は口縁部の破片である。口縁部は緩やかに外反する。内外面ともナデ調整を施す。97は口縁部の破片である。口縁部は緩やかに外反する。内面は頸部直下までヘラケズリ調整を施す。接点はないが同一個体と考えられる破片が多くある。98は上胴部の破片である。外面はナデ調整、内面はヘラケズリ調整を施す。99は須恵器の杯身である。受け部は水平にのび、立ち上がりは短く内傾し、端部は丸くおさめる。外面底部付近は回転ヘラケズリ調整を施し、外面の上半部から内面は回転ナデ調整を施す。焼成不良である。ほぼ完形である。100は砂岩の扁平な砥石である。四面とも使用する。欠損しており、本来は細長いものと推定される。

ST7

Ⅱ区西部に位置する。平面形は円形を呈し、東西約8.8m、南北約9.3m、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は基本的に炭化物粒をごく少量含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。中央ピットは住居のほぼ中央に位置する。直径約0.9mの不整円形を呈し、検出面からの深さは約0.1mを測る。ベッド状遺構は全周しており、規模は幅約1.0m、高さは約0.2mを測る。床面からピットを21基検出したが、P1、P12、P14、P16はその規模や配置から主柱穴であると考えられる。また、内側のP5、P3、P11、(P168)も主柱穴と考えられ、立て替えの可能性もある。P2はその規模や配置から貯蔵穴であると考えられる。壁溝は一部浅い部分もあるが、全周しているものと考えられる。

出土遺物の接合関係をみてみると、D・E6グリッドの上層出土遺物とE6グリッドの10～20cm出土遺物とE6・7グリッドのベッド内出土遺物とE7グリッドの10～20cm出土遺物が接合した。F7グリッドのベッド内出土遺物とF7グリッドの10～20cm出土遺物とE・F・7・8グリッドの0～10cm出土遺物が接合した。D・E6グリッドの上層出土遺物とF6・7グリッドの20cm～床面出土遺物が接合した。埋土の上下層間で接合関係が認められ、少なくとも床面から20cmは比較的短期間で埋まったものと推測される。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺、甕、鉢、高杯、ミニチュア土器、磨製石包丁、鉄鏃、刀子、鉄鎌、鉄滓である。101～114は壺である。103は口縁部を大きく外反させ、口唇部を下方へ拡張させる。口唇部は摩耗のため判然としないが、無文である可能性が高い。104は口唇部に刻目文を施す。105は



- ①黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト (炭化物粒極少量, 土器片少量, 明黄褐色 (10YR6/6) シルト [地山] ブロックを少量含む) [ST7埋土]
- ②褐灰色 (7.5YR4/1) 細砂混じりシルトと明黄褐色 (10YR6/6) 細砂混じりシルトが混じる (炭化物粒を極少量含む) [別遺構埋土]
- ③暗褐色 (10YR3/3) 細砂混じりシルトと黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルトと明黄褐色 (10YR6/6) 細砂混じりシルトが混じる [貼り床か]

図26 ST7平面図・断面図

口唇部を若干拡張し、上端に刻目文を、口唇部には斜格子状に沈線文を充填した鋸歯文を配置する。106は短い二次口縁が僅かに外反するようにつく。口唇部は平坦面を成す。107は頸部の破片であり、刺突文を施す。108は頸部の破片であり、刺突文を施した突帯を胴部と頸部の境目に貼付する。刺突文はハケ状原体で強くつける。109・110は長頸壺の筒状を呈した頸部である。109は内外面ともハケメ調整を施す。110は外面がハケメ調整を、内面はハケメ調整後ナデ調整を施す。111・112は細頸壺である。111は高松平野からの搬入品と考えられる。113は肩部に最大径を持つ。底部は角のとれた平底である。外面は叩き成形後ハケメ調整を施す。ハケメ調整は下半部と肩部に密に施す。内面は縦方向のナデ調整を施す。また、肩部には粘土接合痕跡が認められる。114は器高は低いいため、肩部の張りが強調される。外面は叩き成形後ハケメ調整を密に施す。内面はハケメ調整を主として施す。115～123は甕である。115は小形に属する。口縁部は短く外反する。外面は叩き成形後丁寧にハケメ調整を施す。鉢の可能性もある。116は口頸部の屈曲度合いはやや弱い。外面にはやや太めの叩き目が見られる。口縁部にも体部からの一連の叩き目が認められる。口唇部は平坦面を成す部分から尖る部分もある。117の口頸部の屈曲度合いはやや弱く、口唇部は平坦面を成す。外面には太めの叩き

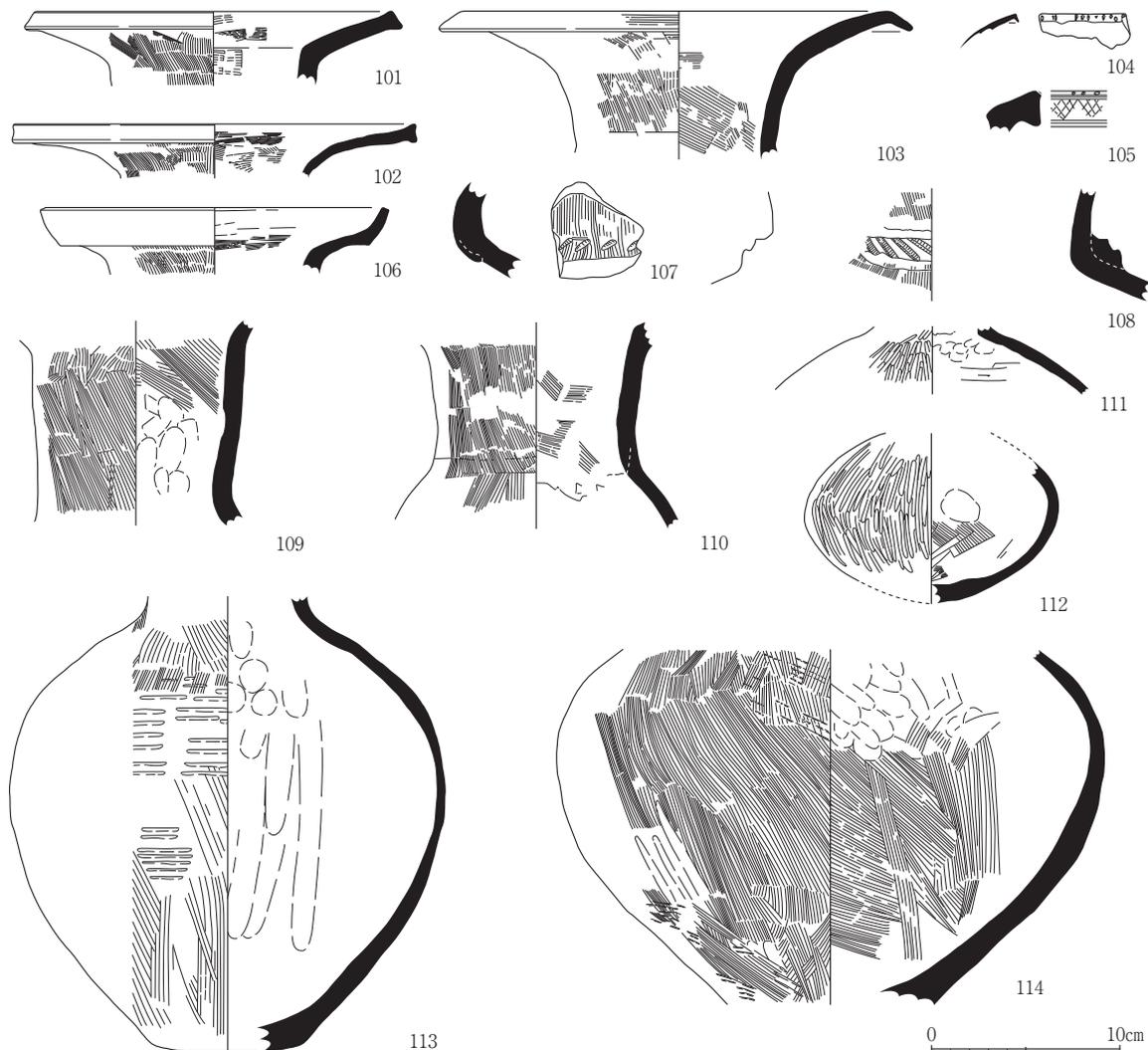


図27 ST7出土遺物実測図1

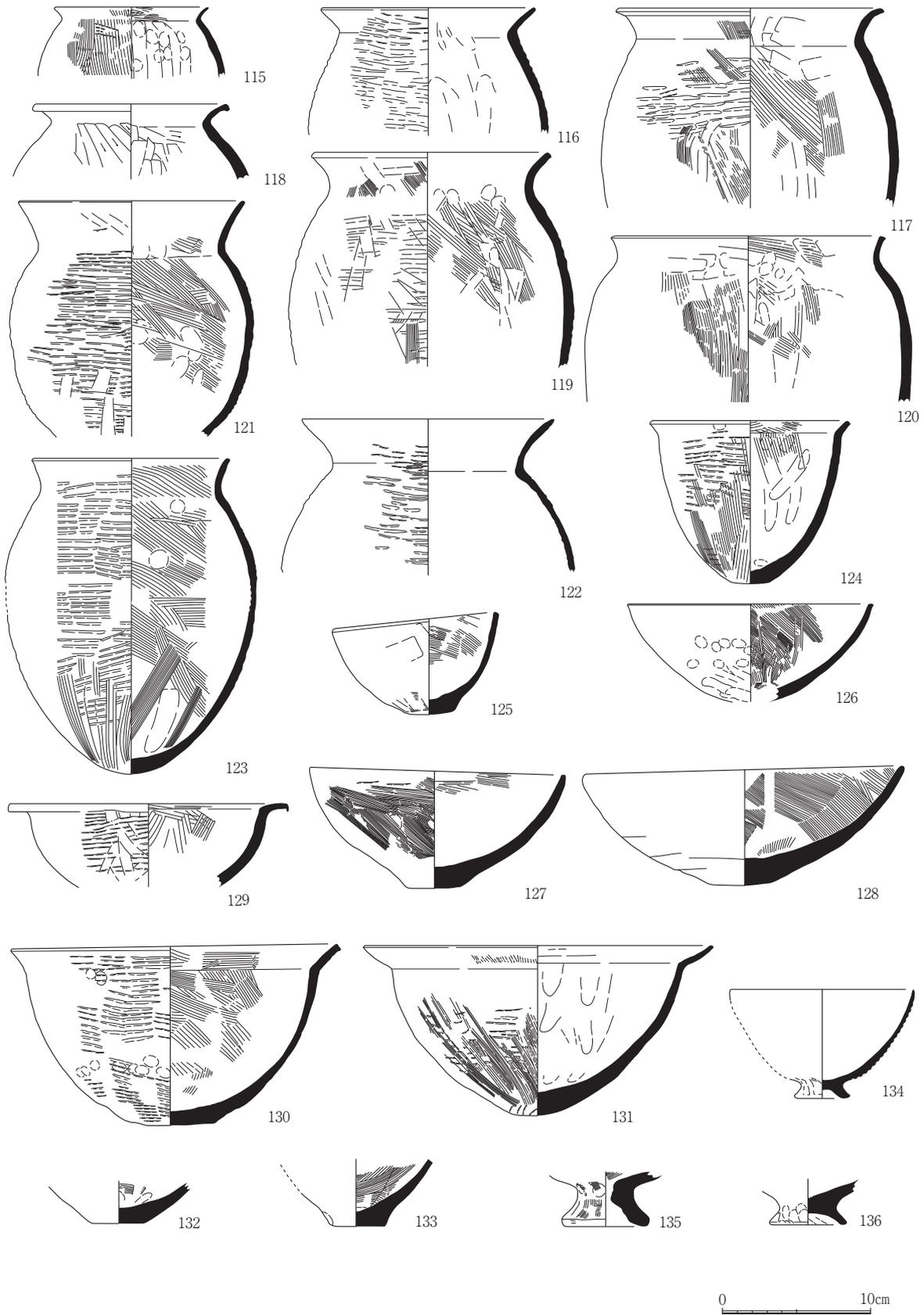


图28 ST7出土遺物実測図2

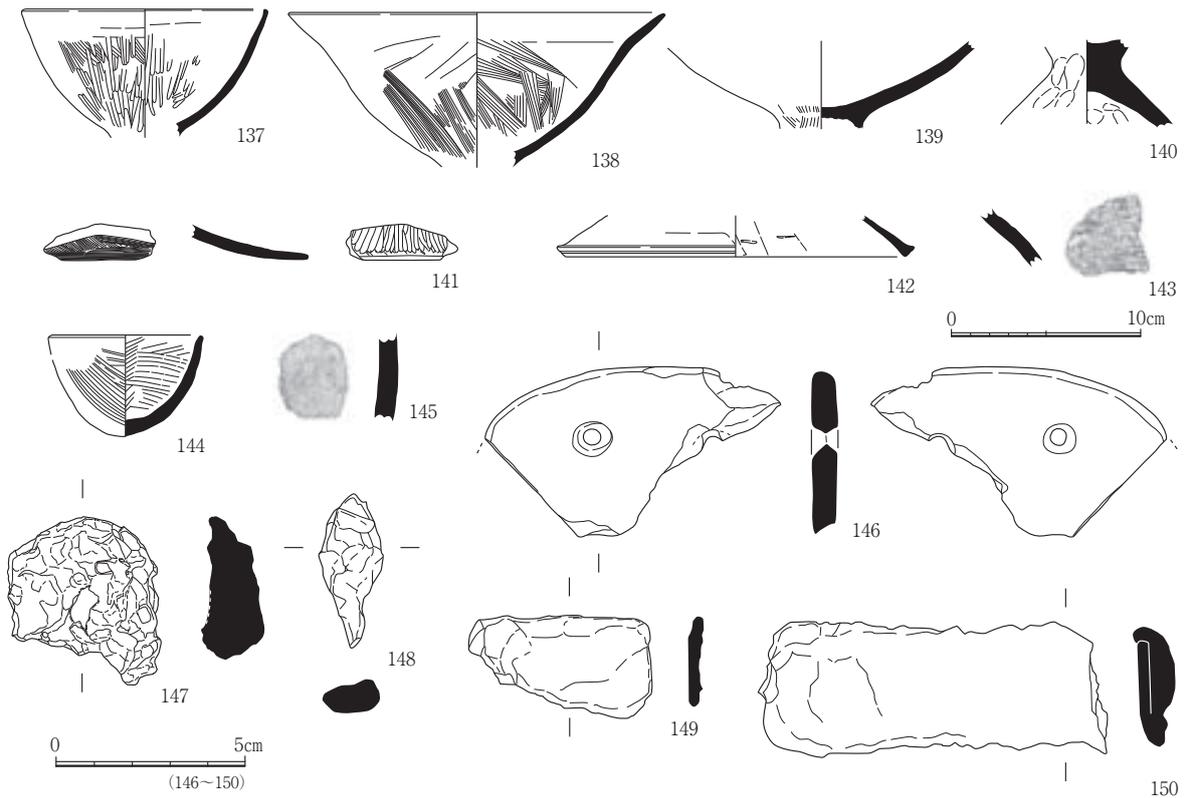


図29 ST7出土遺物実測図3

目が見られ、下半部には叩き成形後ナデ調整を施す。口縁部は体部からの一連の叩き成形後ハケメ調整を施す。119は口縁部の屈曲はやや弱く、口唇部はナデ調整により平坦面を成す。外面は太めの叩き成形であり、下半部はハケメ調整を施す。口縁部は体部からの一連の叩き成形後、ハケメ調整を施す。内面は口縁部がナデ調整、体部がハケメ調整である。120は口縁部の屈曲は弱く短い。内外面ともハケメ調整を主として施す。内面肩部には粘土接合痕跡が認められる。また、外面には煤が付着する。121の口縁部はやや長めであり、体部は球形を呈する。122も121と同様、口縁部は長めである。123の底部は完全な丸底である。体部は球形を指向し、口縁部をわずかに外反させる。外面は叩き成形後、下半部にはハケメ調整を施す。内面はハケメ調整で仕上げる。124～131は鉢である。124はやや深めの体部から口縁部は短く外反する。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。内面はハケメ調整後、ナデ調整を施す。125はやや突出した平底の底部から体部はやや湾曲しながらのびる。外面はナデ調整であり、器面に亀裂が認められる。内面はハケメ調整である。ほぼ完形である。126は浅めの鉢である。外面は丁寧なナデ調整であり、内面はハケメ調整である。全体的に丁寧な作りである。127は角のとれた平底から内湾気味に大きくひらく。口唇部にはルーズな面取りを施す。外面はハケメ調整、内面はハケメ調整後ナデ調整を施す。ほぼ完形である。128は角のとれた平底から体部は大きくひらく。口径が大きく浅い形態である。口唇部を丸くおさめる。外面はナデ調整、内面はハケメ調整である。129～131は口縁部が外反する鉢である。130はやや大きめの鉢である。体部はボール状を呈し、口縁部は外反し、端部にはルーズな面取りを施す。外面は叩き成形後、ナデ調整を施す。内面はハケメ調整である。131は丸底で体部は丸みを帯びる。外面は叩き成形後、比較的丁寧にハケメ調

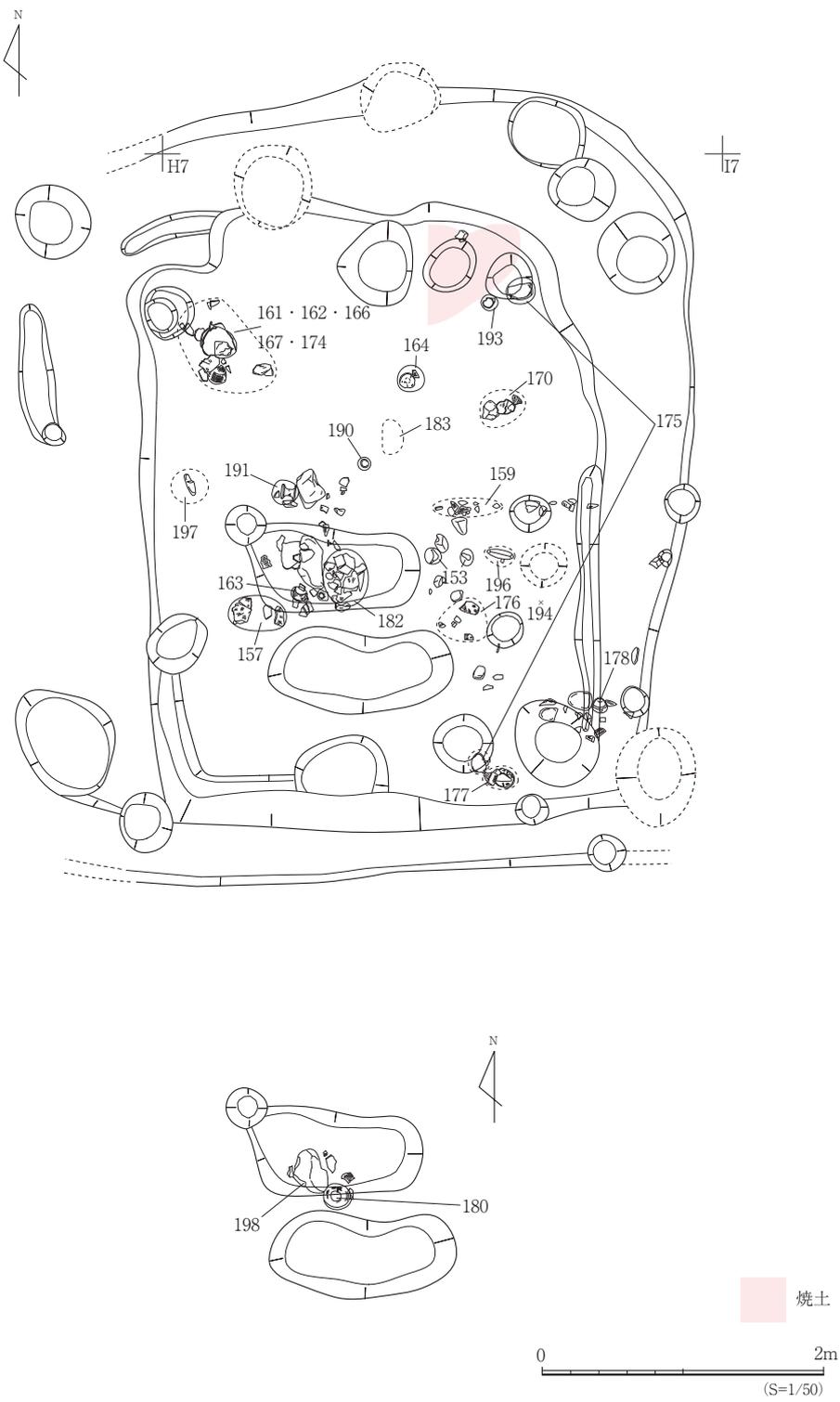
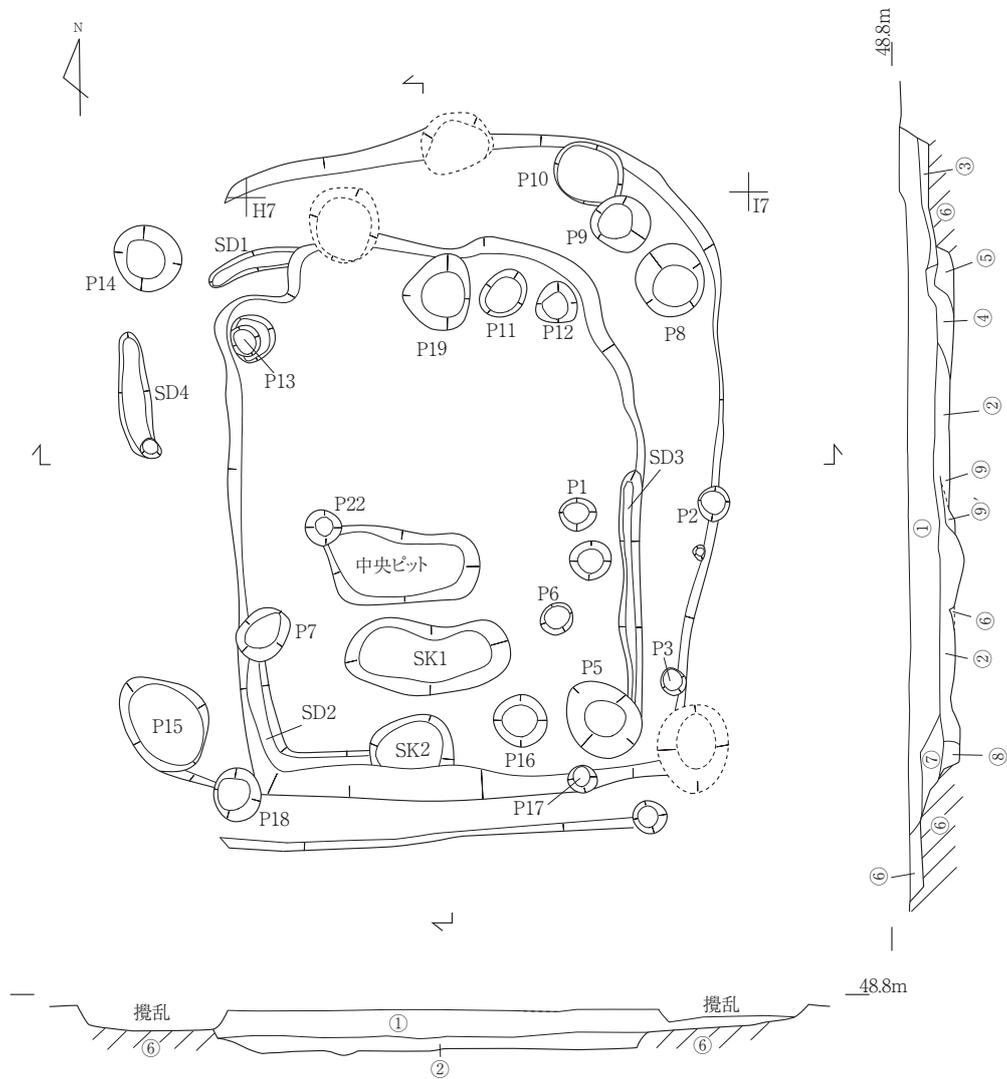


図30 ST8遺物出土状況図



- ①黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト(やや大きめの土器の破片が目立つ) [ST8埋土]
- ②黒色 (10YR2/1) 細砂混じりシルト [ST8埋土]
- ③黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト(におい黄褐色 (10YR4/3) シルトが混じる) [ST8埋土]
- ④②層に焼土粒を多く含む [ST8埋土]
- ⑤②層に明黄褐色 (10YR6/6) シルトが混ざる [ST8埋土]
- ⑥明黄褐色 (10YR6/6) シルト [地山]
- ⑦灰褐色 (7.5YR4/2) 細砂混じりシルト [ST8埋土]
- ⑧におい黄橙色 (10YR6/4) 細砂混じりシルト [ST8埋土]
- ⑨におい黄褐色 (10YR5/3)
- ⑩黒褐色 (2.5Y3/1) 細砂混じりシルト [ST8埋土]



図31 ST8平面図・断面図

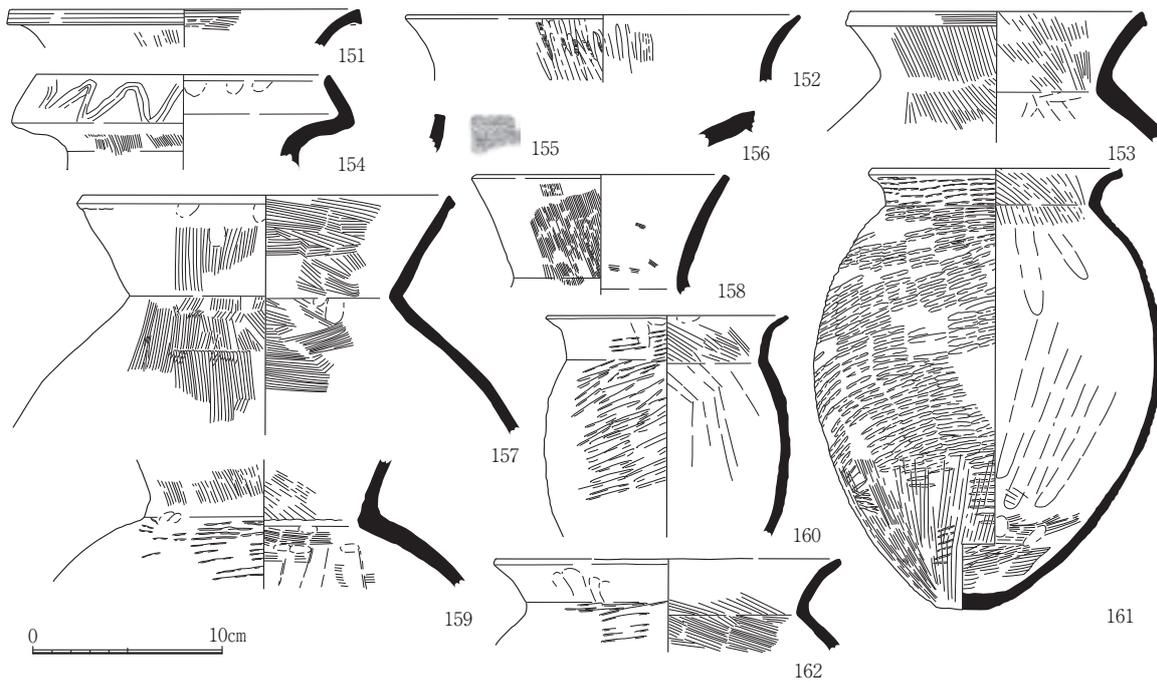


図32 ST8出土遺物実測図1

整を施す。内面はハケメ調整後、ナデ調整を施す。内底面付近には指頭圧痕が認められ、丸底化に伴うものと考えられる。132・133は底部である。134は製塩土器と考えられる。体部に比べて小さな脚部が付く。体部はきわめて脆弱である。135・136は脚部である。135は脚部の器壁が厚くしっかりとした作りであり、136は指頭でのぼして成形する。137～142は高杯である。137・138は鉢の可能性はある。140は短い中実の脚柱部から裾部が湾曲しながらのびる。残存部では円孔の有無は不明である。141は裾部の破片である。外面は丁寧なヘラミガキ調整、内面はハケメ調整である。142は高杯である。端部を外上方へつまみ上げ、端面には一条の沈線文を施す。内面はケズリ調整を施す。高松平野からの搬入品である。143は体部片、144はミニチュア土器である。145・147は混入であり、時期はすべて古代である。145は製塩土器であり、内面に布目の圧痕が認められる。147は椀形滓である。欠損する。上面、下面とも凹凸は少ない。148は圭頭式の鉄鏃であり、茎は欠損する。かなり錆膨れしている。149は刀子か。三角形を呈する。150は鉄鎌である。欠損する。長方形を呈する。隅部を若干、折り曲げる。地金部分の厚さは約2mmである。

ST8

Ⅱ区中央部に位置する。西側を攪乱に切られているため、正確な平面形は不明であるが、隅丸方形を呈すると考えられる。規模は南北約5.6m、東西は約3.9mまで検出できた。検出面からの深さは約0.4mである。埋土は基本的に黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。中央ピットは住居の南寄りに位置し、平面形は長楕円形を呈する。規模は長軸約1.2m、短軸約0.5m、検出面からの深さは約0.1mである。埋土は住居跡の埋土と同一であり、炭化物粒がごく少量含まれている。ベッド状遺構は全周しており、高さ約0.1mを測る。床面から21基のピットと、1基の土坑が検出された。そのうちP1、P5、P6、P7、P8、P9、P12、P13、P16はその規模と配置から支柱穴と考えられる。また、浅い壁溝が部分的に検出された。

出土遺物の接合関係をみてみると、157とH7・8グリッドの0～10cm出土遺物とH7グリッドのSX9の0～5cm出土遺物とH7・8グリッドの10～20cm出土遺物が接合した。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺、甕、鉢、甌、ミニチュア土器、土玉、支脚、石核、叩石、砥石、鉄器である。151～158は壺である。151・152は反転復原で図化したが大破片であり、口径にやや不安が残る。153の口頸部は「く」の字状を呈し、口唇部は面取りを施す。外面は粗いハケメ調整を施す。内面は口縁部がハケメ調整、体部がナデ調整である。154は複合口縁壺である。外面に4条1単位の波



図33 ST8出土遺物実測図2

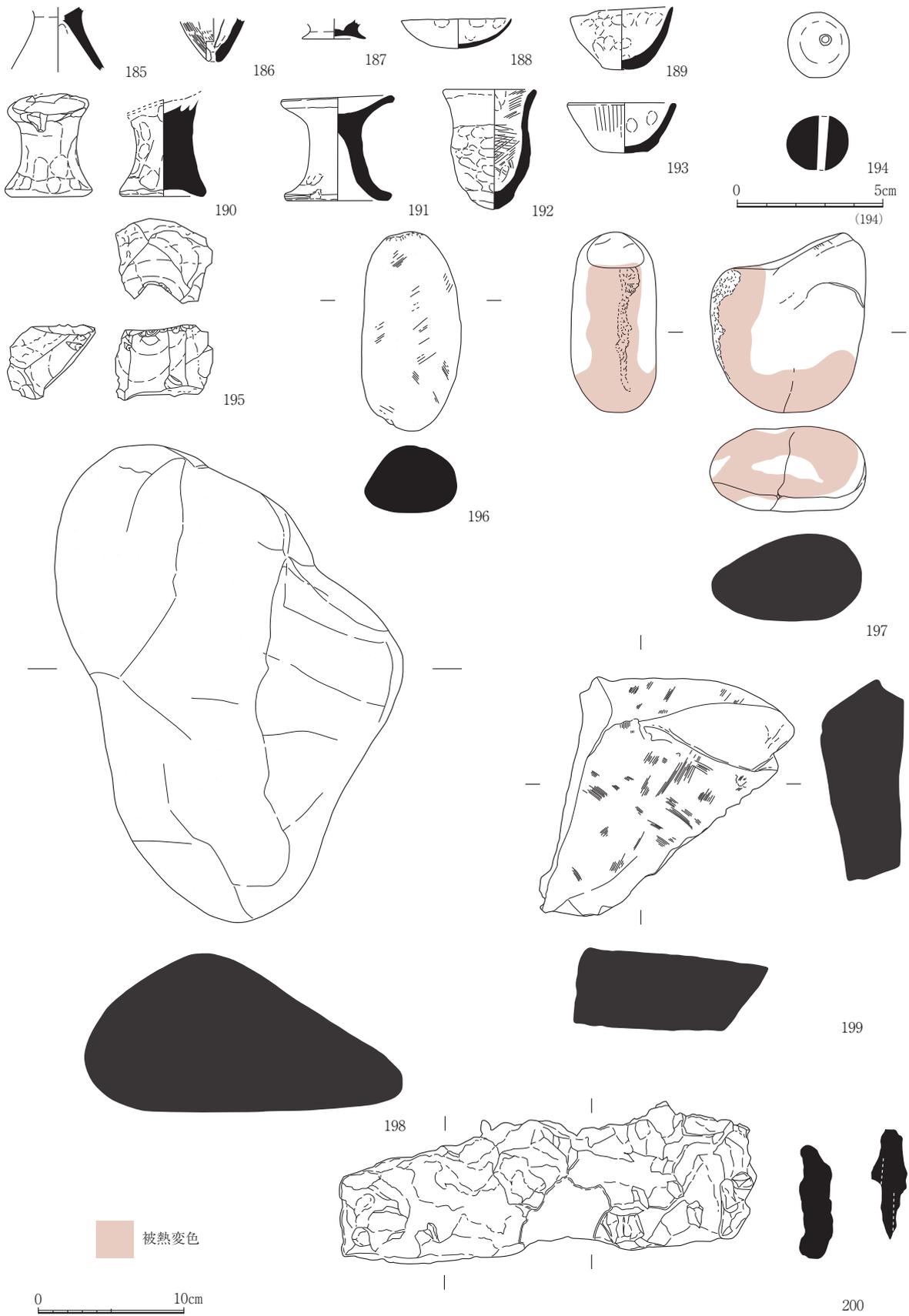


图34 ST8出土遺物実測図3

状文を1条描く。155は弥生土器の壺である。複合口縁壺の二次口縁か。外面に波状文を施す。156は口縁部片である。口唇部は強いヨコナデ調整により凹面状を呈し、わずかに下方に拡張する。157の口縁部は直線的に長くのび、端部には面取りを施す。内外面ともハケメ調整を施す。159は丸みをおびた肩部から頸部が外上方にのびる。肩部外面には叩き目がみられる。160～162は甕である。161は体部の中位に最大径を持ち、球形を指向する。口縁端を外反させ、端部は上方につまみ上げる。外面は口縁端まで叩き目がみられ、底部付近は叩き成形後にハケメ調整を施す。また、外底面にも叩き目が見られる。163～181は鉢である。163は突出した底部を持つ。外面は叩き成形であり、器面に亀裂が認められる。ほぼ完形である。164は角のとれた平底であり、体部は若干丸みを持つ。外面はナデ調整であり、器面全面に亀裂がみられる。内面はハケメ調整である。ほぼ完形である。165の外面はナデ調整である。166の口縁部はハケ状原体により平坦面と成す。外面はナデ調整であり、器面に亀裂がみられる。167の底部は平坦部を残すが、底部と体部の境目に段差は認められない。外面はナデ調整、内面はハケメ調整である。器壁はややうすい。168は小さな底部を残し、縦方向に近い角度の叩き成形を施すことで、底部の丸底化と器形を形作る。内面はハケメ調整後、ナデ調整を施す。ほぼ完形である。169は口径が大きく浅めの鉢である。外面は叩き成形後、ナデ調整を施し、内面はハケメ調整である。170の底部は凹凸はあるが、丸底となっている。外面はナデ調整であり、器面に亀裂がみられる。内面はヘラ状工具でなでる。ほぼ完形である。174は底部と体部の境目に若干段差はあるが、ほぼ丸底となる。外面はナデ調整であり、器面に亀裂がみられる。被熱により変色する。175は丸底の底部から丸みを持ち立ち上がる。口唇部は丸くおさめる。外面は叩き成形後、軽くなでる。若干、器面に亀裂が認められる。内面はナデ調整である。ほぼ完形である。177は口径に比べ器高が低く、ややイレギュラーな器形である。外底部の状況から一般的な形態の鉢の内面から乾燥前に押さえつけたため浅い鉢になったものと考えられる。ほぼ完形である。178は口縁部の外反する鉢である。外面はナデ調整であり、器面に亀裂が認められる。180は弥生土器の鉢である。ボール状の体部から口縁部は外上方へのびる。外面は叩き成形後ナデ調整を施す。内面はハケメ調整である。181は大形の鉢である。丸底で体部はボール状を呈する。叩き成形で作られ、上端部に粘土帯を追加することで外反する口縁部を成形する。182～184は底部である。183は大形壺の底部と考えられる。182・183はともに丸底である。185は高杯の脚部である。186は底部に焼成前の穿孔が認められる。187～189・192・193はミニチュア土器である。187は脚部である。188は皿状鉢であり、ほぼ完形で出土した。192は卵形の体部から長い頸部がのび、口縁部はわずかに外反する。手づくね成形で外面には指頭圧痕が目立つ。内面はハケメ調整である。ほぼ完形である。190・191は支脚である。190は中実の円柱の両端を拡張させる。上方を若干、内傾させる。わずかに煤が付着か。ほぼ完形である。191は中空の脚部から裾部がひろがる。杯部は浅い皿状を呈し、わずかに傾斜する。内外面ともナデ調整で仕上げる。若干、ススが付着か。完形である。194は土製の玉である。焼成前に穿孔する。195は緑色チャートの石核である。混入である。196・197は砂岩の叩き石である。196は棒状の自然石を利用する。両先端部、側面を使用する。全体的に火を受けている。197は側面を主として使用する。火を受け、煤が付着する。198は砂岩の台石である。199は砂岩の砥石である。光沢が出るほど使い込まれている。200は鉄鎌である。一部が欠損する。基部を折り曲げる。刃部を持つ。地金部分の厚さは約4mmである。

ST9

Ⅱ区中央部に位置する。東側を攪乱に切られており、また浅く、検出時の平面プランは不明瞭で

あった。平面形は不整形を呈し、規模は長軸約5.2m、短軸約4.2mであり、検出面からの深さは約0.1mである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。中央ピットは住居のやや南寄りに位置する。平面形は直径約0.6mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2mである。埋土は住居跡の埋土と同一である。検出したベッド状遺構は、住居跡の平面形と異なる。床面から16基のピットが検出された。そのうちP14はこの住居跡に伴うものではないと考えられる。P2, P7, P9, P12はその規模と配置から支柱穴であると考えられる。P8, P15はその規模と配置から貯蔵穴であると考えられる。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺、鉢、磨石である。201～204は壺である。205は口縁部が外反する鉢である。内面に煤が付着する。206は甕の口縁部である。207・208は底部であり、207は上げ底に仕上げ、208は脚状に作る。209は砂岩の磨石である。扁平な自然石を用い、使用することで五角形状を呈する。敲打痕、擦ることで平滑になる部分もある。ベンガラがうっすらと付着する。

ST11

Ⅱ区中央部北端に位置する。南側の一部をSK52に切られ、東西の壁は共に攪乱によって壊されている。平面形は直径約4.4mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3mである。埋土は基本的に黒褐

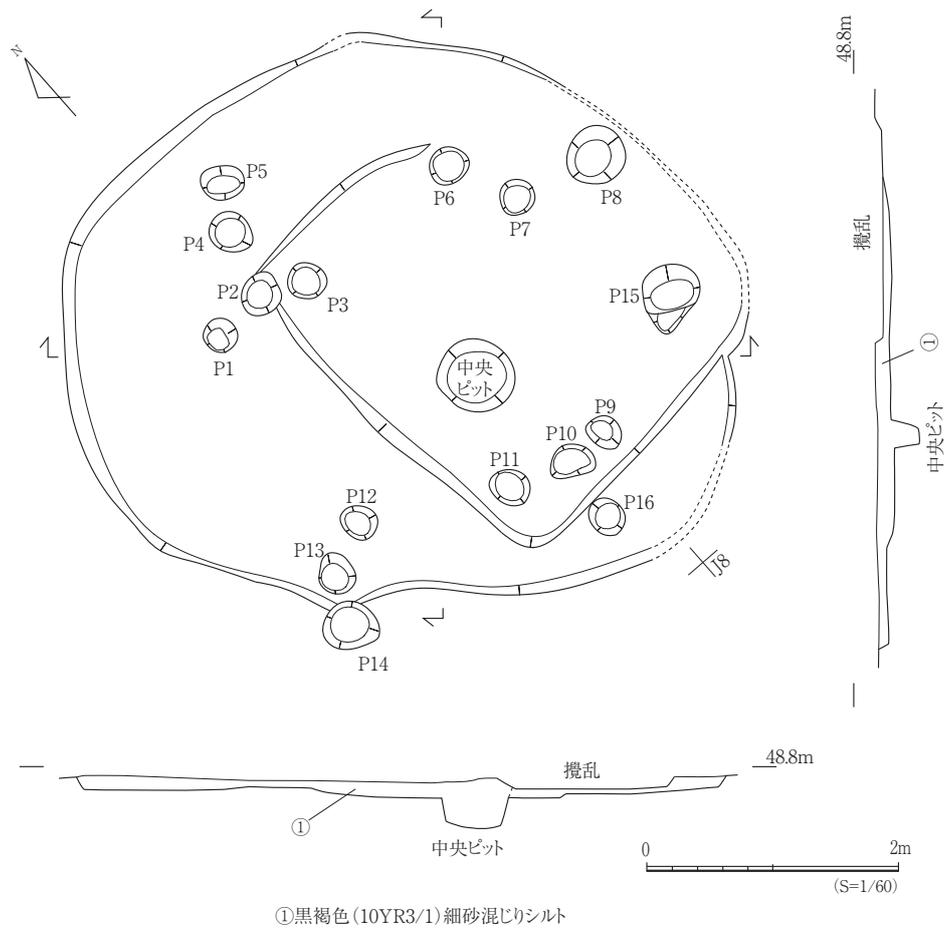


図35 ST9平面図・断面図

色(5YR2/1)極細砂混じりシルトであり、一部に焼土や炭化物を含む。中央ピットは住居の中央に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.5m、短軸約0.3m、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は炭化物粒をごく少量、焼土ブロックを少量含む褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルトである。床面から2基のピットが検出されたが、支柱穴であるかは判然としない。壁溝は北東部と南西部で検出され、本来は全周していたものと考えられる。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺と鉢である。210は壺の体部である。上胴部に最大径を持ち、

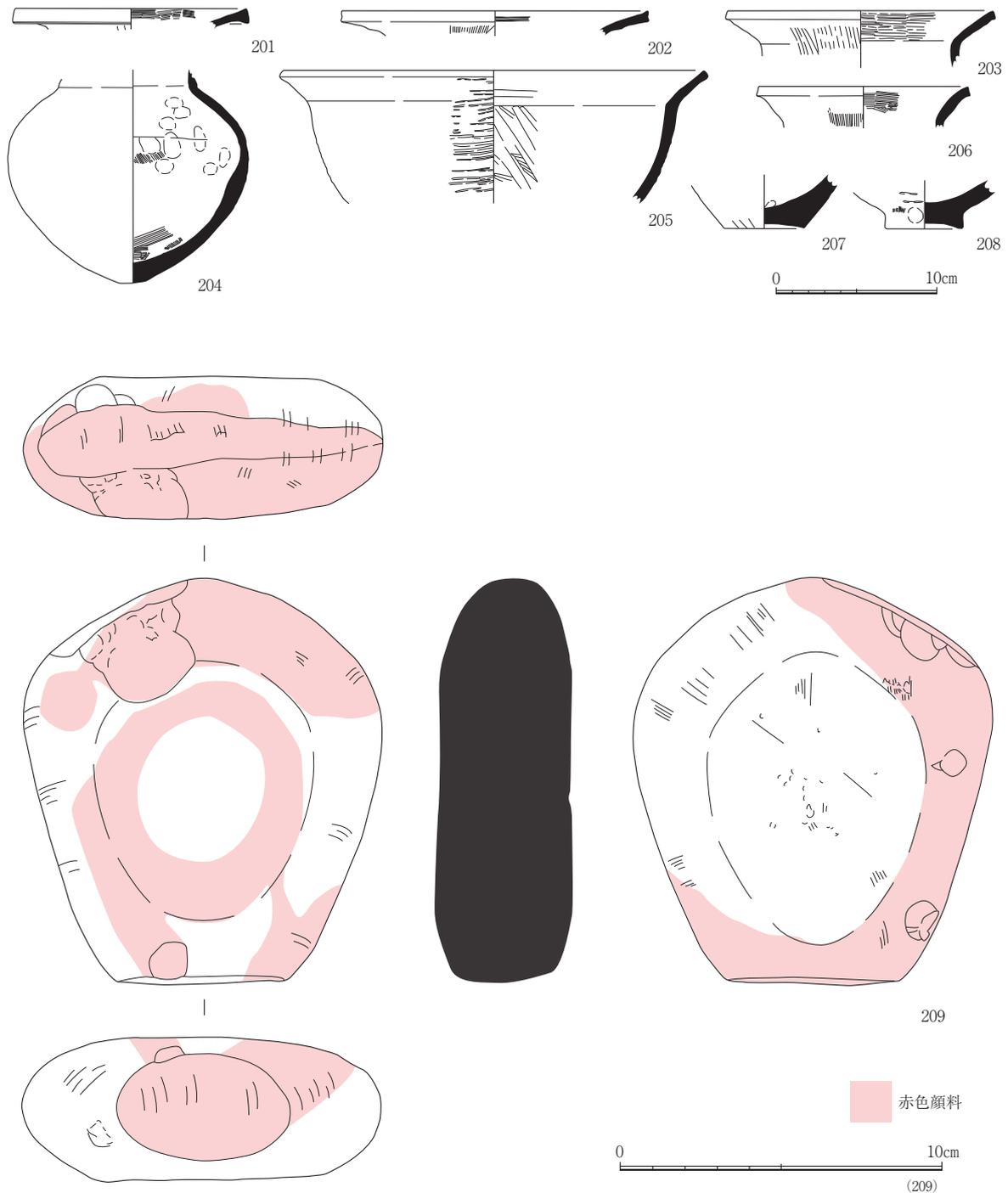


図36 ST9出土遺物実測図

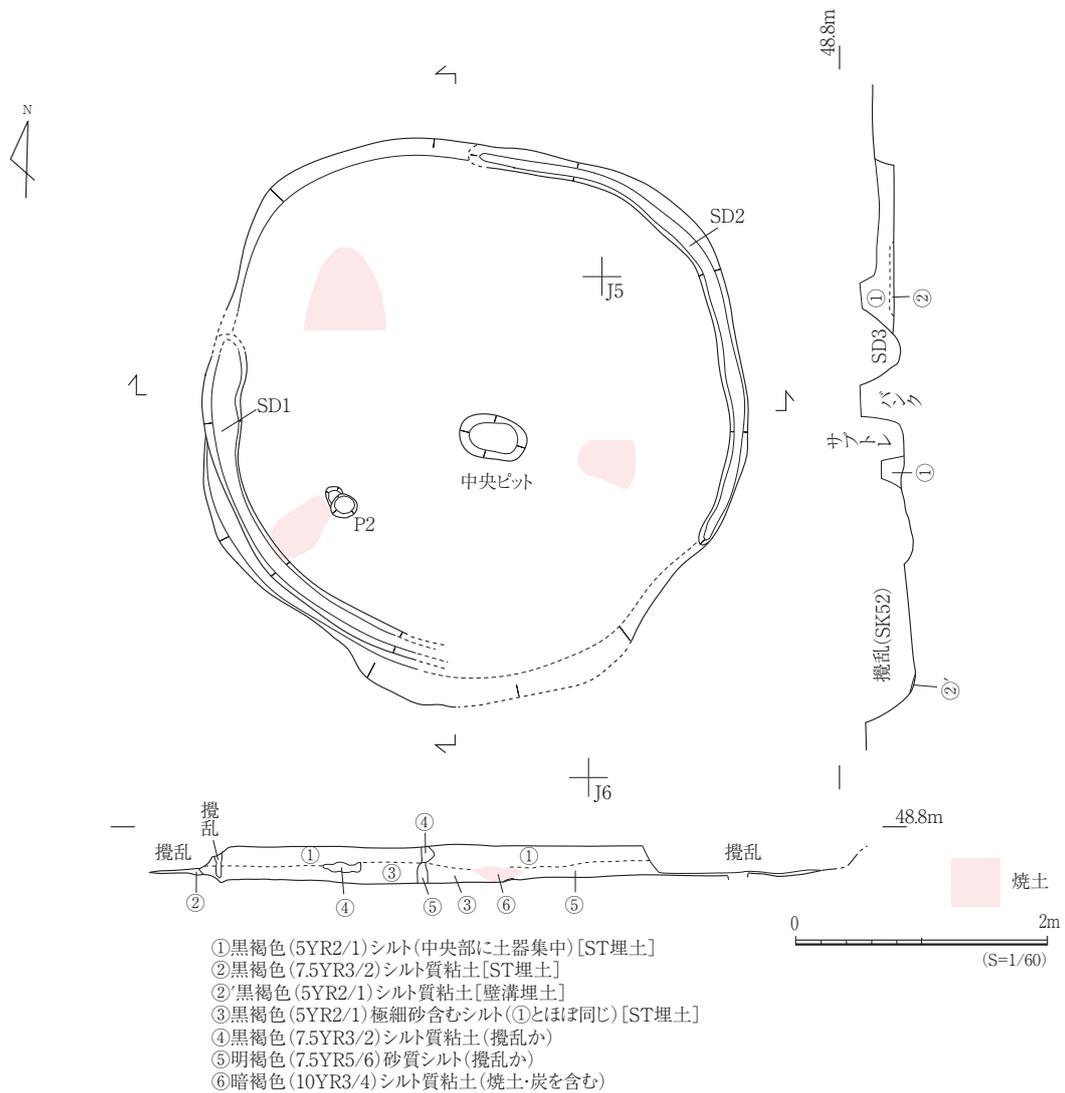


図37 ST11平面図・断面図

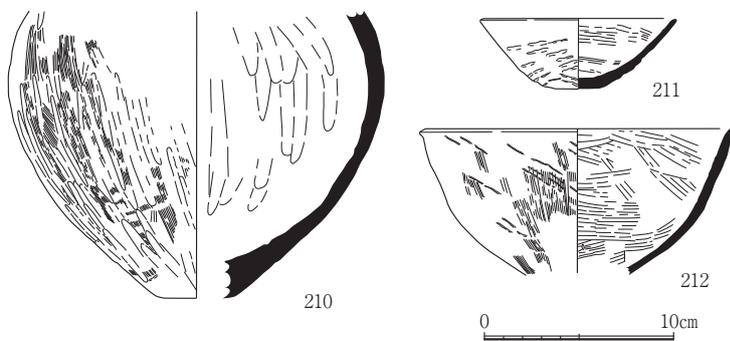


図38 ST11出土遺物実測図

肩の張った形態である。外面はハケメ調整後、縦方向のミガキ調整を施す。内面はナデ調整を基本とする。211・212は鉢である。212は底部付近で弱く屈曲し、体部は直線的にのびる。外面は叩き成形後、ハケメ調整を丁寧に施す。内面は粗いハケメ調整を施すが、強く施すことによる砂粒の移動が認められる。

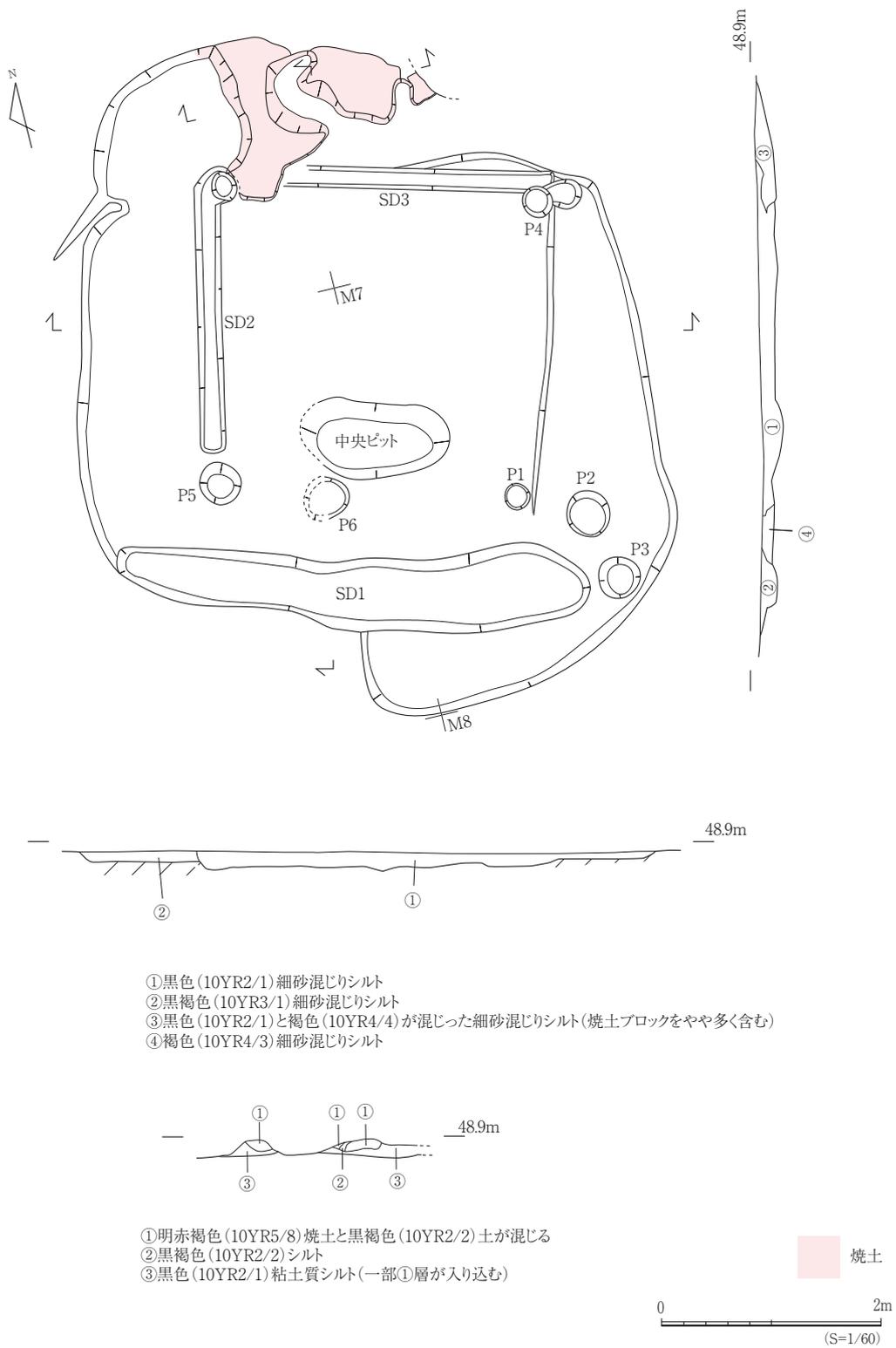


図39 ST12平面図・断面図

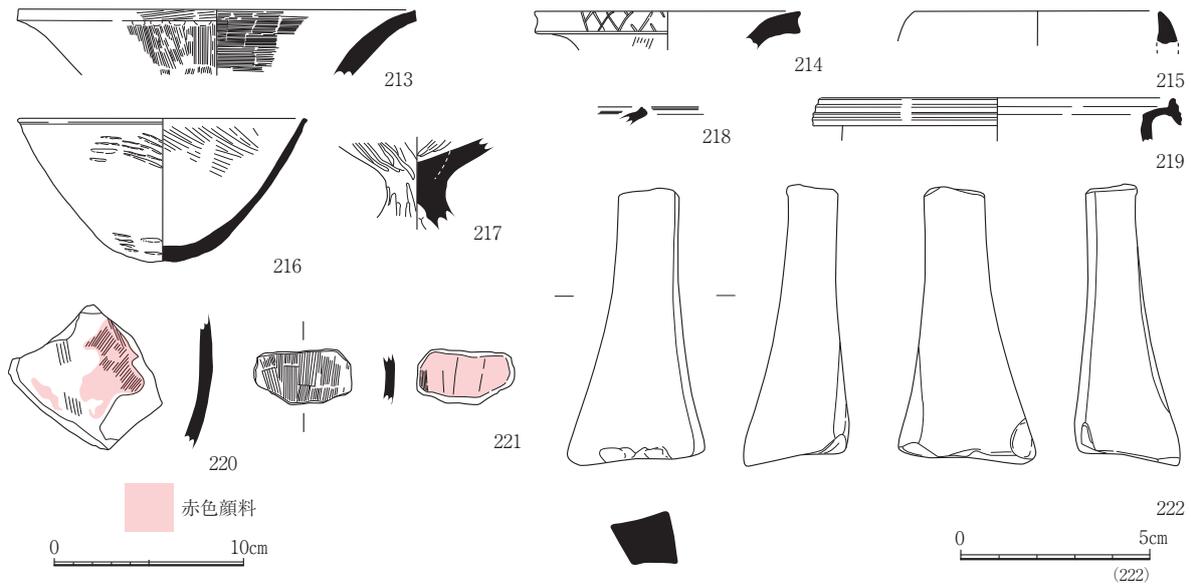


図40 ST12出土遺物実測図

ST12

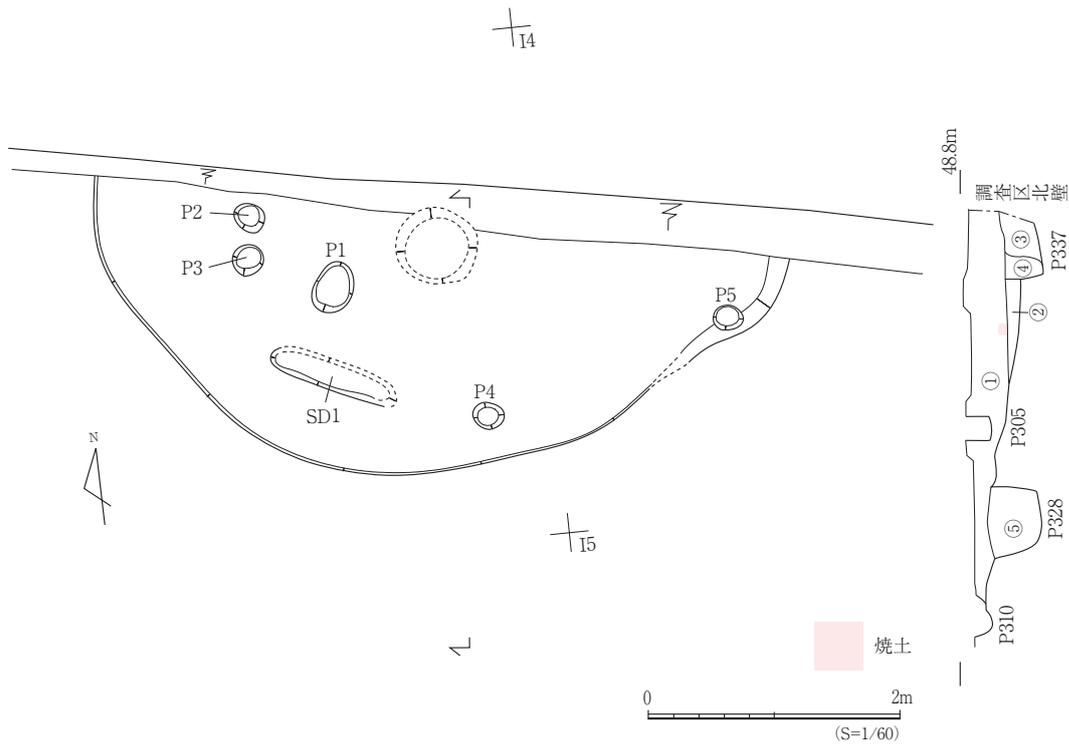
Ⅱ区東部に位置する。平面形は一辺が約5.2mの不整形を呈する。検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は基本的に黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。住居跡の北部では焼土を検出したことからカマドを伴う古墳時代後期の竪穴住居跡と考え調査を行ったが、出土遺物の多くは弥生土器であり、床面では中央ピット状の遺構、ベッド状遺構を検出した。竪穴住居跡の平面形と考えあわせると、弥生時代後期末の住居址跡と古墳時代後期のものが重複していたと考えられる。

床面からは中央ピット、ベッド状遺構、溝跡、ピットを検出した。中央ピットは住居の南寄りに位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約1.2m、短軸約0.6m、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は住居跡の埋土と同一である。ベッド状遺構は南辺以外で検出でき、高さは0.08mを測る。床面では検出した7基のピットのうち、P1、P4、P5、P7はその規模と配置から主柱穴であると考えられる。P2はその規模と配置から貯蔵穴であると考えられる。壁溝は北辺と西辺で検出でき、深さは約0.1mを測る。

図示した出土遺物は弥生土器の壺、甕、鉢、高杯、砥石である。213～215は壺である。214は口唇部に斜格子文を施す。215は複合口縁壺の二次口縁と考えられる。216は鉢である。外面は叩き成形後、ナデ調整を丁寧に施す。内面はナデ調整及びハケメ調整である。217は高杯である。内外面ともヘラミガキ調整を施す。218は甕である。口縁端部をつまみ上げる。外面に煤が付着する。讃岐地域からの搬入品である。219は凹線文を施した甕であり、混入品である。220は内面に赤色顔料が付着する。221は内面に水銀朱の付着が認められる。外面には煤が付着する。222は砂岩の砥石である。四面ともよく使われている。

ST13

Ⅱ区中央部北端に位置し、半分以上が調査区外に出る。平面形は円形を呈すると考えられる。規模は東西約5.4m、南北約2.0mまで検出できた。検出面からの深さは約0.1mである。埋土は基本的に黒色(10YR1.7/1)シルトである。床面から5基のピットが検出された。そのうちP4、P5はその規模



- ①黒色(7.5YR2/1)砂質シルト(わずかに土器片や焼土ブロックを含む)[ST13埋土]
- ②黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト[ST13埋土]
- ③黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト[P337埋土]
- ④黒色(10YR1.7/1)シルト質粘土(わずかに土器片を含む)[P337(柱痕跡)埋土]
- ⑤オリーブ黒色(5Y2/2)粘土質シルト(わずかに土器片と直径5cm大の礫をごわずかに含む)[P328埋土]

図41 ST13平面図・断面図

と配置から主柱穴であると考えられる。床面からは溝も検出されたが、極めて浅い。

図示した出土遺物は弥生土器の甕(223・224)、土製紡錘車(225)である。

ST14

Ⅱ区西部に位置し、ST16を切る。平面形は隅丸方形を呈し、規模は南北約5.1m、東西約5.1m、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は基本的に黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。床面からは11基のピットが検出された。そのうちP1, P2, P5, P9はその規模と配置から主柱穴であると考えられる。

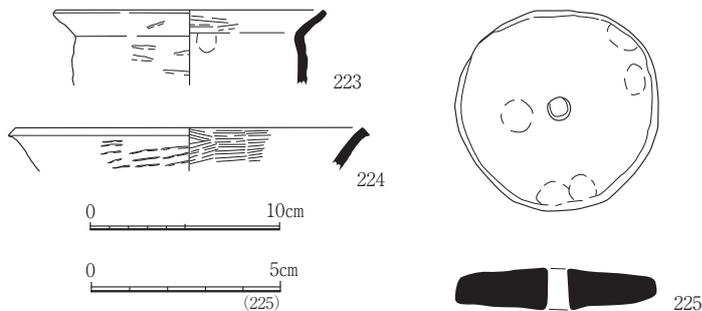
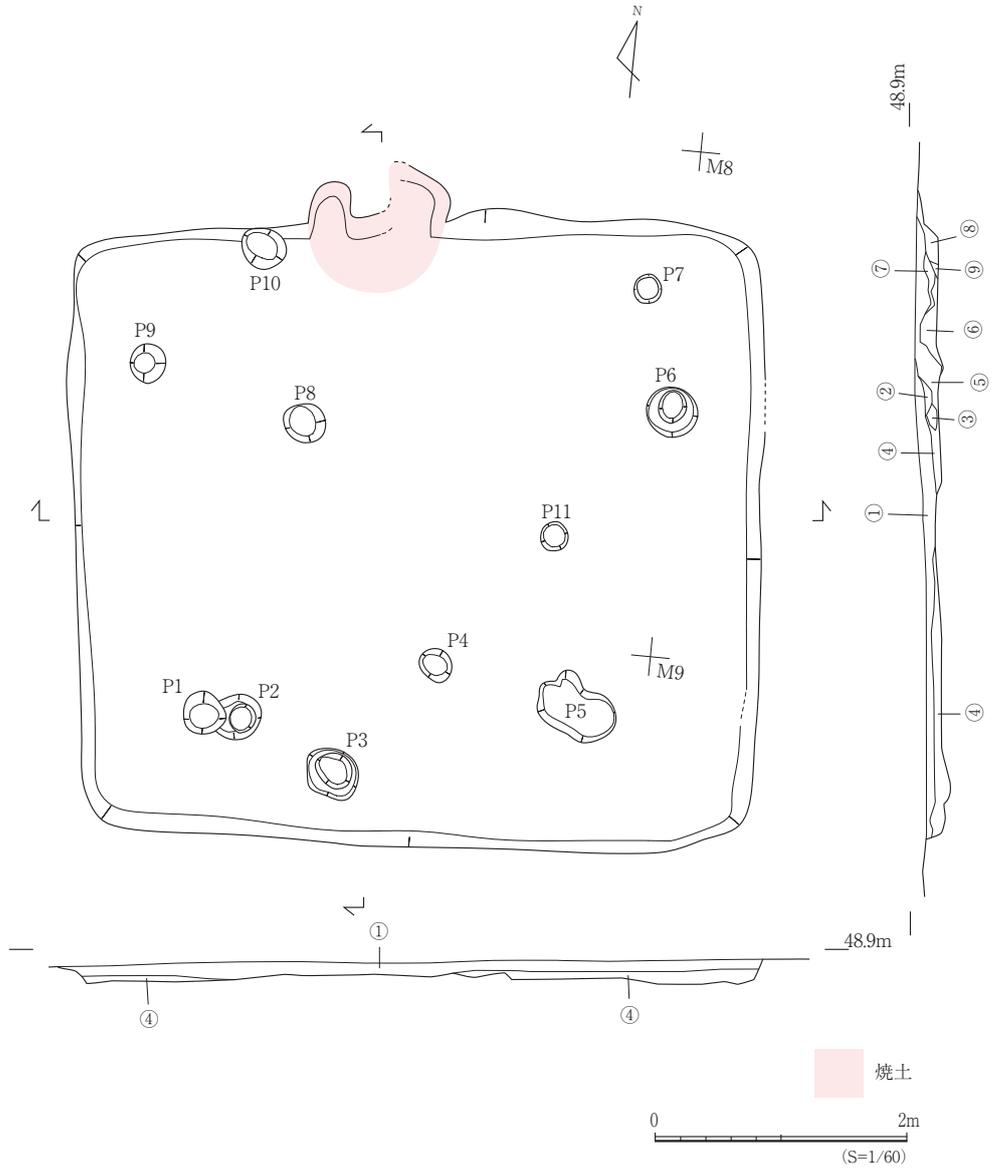


図42 ST13出土遺物実測図

図示した出土遺物は、土師器、須恵器、弥生土器、石鎌である。226は土師器甕の口縁部である。227・228は須恵器の蓋である。227の天井部はやや丸みをおび、口縁部はややひろがり気味に下がり、口縁部は丸くおさめる。天井部は回転ヘラケズリ調整後、ナデ調整を施す。その他の部位は回転ナデ調整で仕上げる。229・230は須恵

器の杯身である。231は須恵器の有蓋高杯である。焼成不良であり、全体的に摩耗している。232は須恵器の壺である。口縁端部を肥厚させる。内外面とも回転ナデ調整である。233は弥生土器の甕であり、混入品である。234は弥生土器の脚部であり、混入品である。235はサヌカイトの打製石鏃であり、混入品である。



- ①黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト [ST埋土]
- ②黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト (ハンダ粒を極少量含む) [ST埋土か]
- ③橙色 (7.5YR6/6) ハンダ [ST埋土か]
- ④黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト (にぶい黄褐色 (10YR5/4) をブロック状に含む) [ST埋土]
- ⑤黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト (ハンダ粒を含む) [ST埋土か]
- ⑥ハンダに黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルトが混ざる [ST埋土か]
- ⑦ハンダに褐灰色 (10YR4/1) 細砂混じりシルトが混じる [ST埋土か]
- ⑧ハンダ粒 (焼土か) に灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂混じりシルト (炭化物粒を極少量含む) が混じる [ST埋土か]
- ⑨明赤褐色 (5YR5/6) [ハンダ]

図43 ST14平面図・断面図

ST15

Ⅱ区西端に位置する。大部分をST16に切られ、また東部は調査区外に出るため正確な平面形や規模は不明であるが、円形を呈すると考えられる。東西は約5.0mまで、南北は約1.2mまで検出できた。検出面からの深さは約0.2mである。埋土は基本的に黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルトである。床面からは3基のピットが検出された。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺、甕、鉢、高杯、鉄鏃である。236は複合口縁壺、237は甕である。238～241は鉢である。238の体部はやや丸みを持つ。器面に亀裂が認められる。ほぼ完形である。240はやや突出した底部から丸みを持ち立ち上がる。外面は叩き成形後、ナデ調整を施す。241は弥生土器の鉢である。丸みを持つ体部から口縁端部をわずかに外反させる。外面は、叩き成形後ハケメ調整を施し、内面はハケメ調整である。242は小形の高杯である。杯部はボール状を呈し、脚部は大きくひろがる。外面はハケメ調整である。内面は下半部はナデ調整であり、口縁部付近はハケメ調整を施す。243は圭頭式の鉄鏃であり、茎を欠損する。

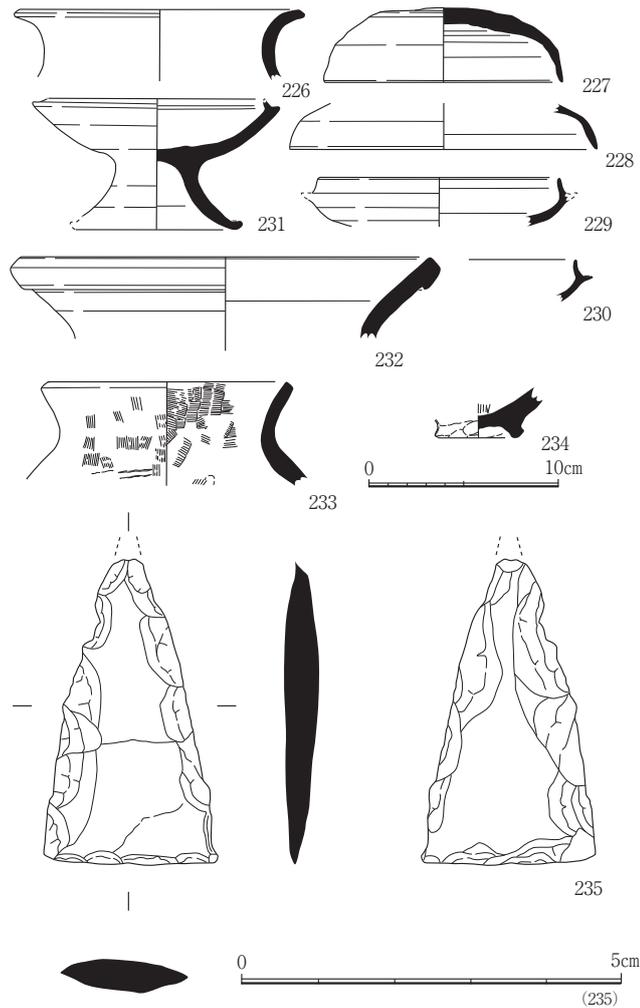
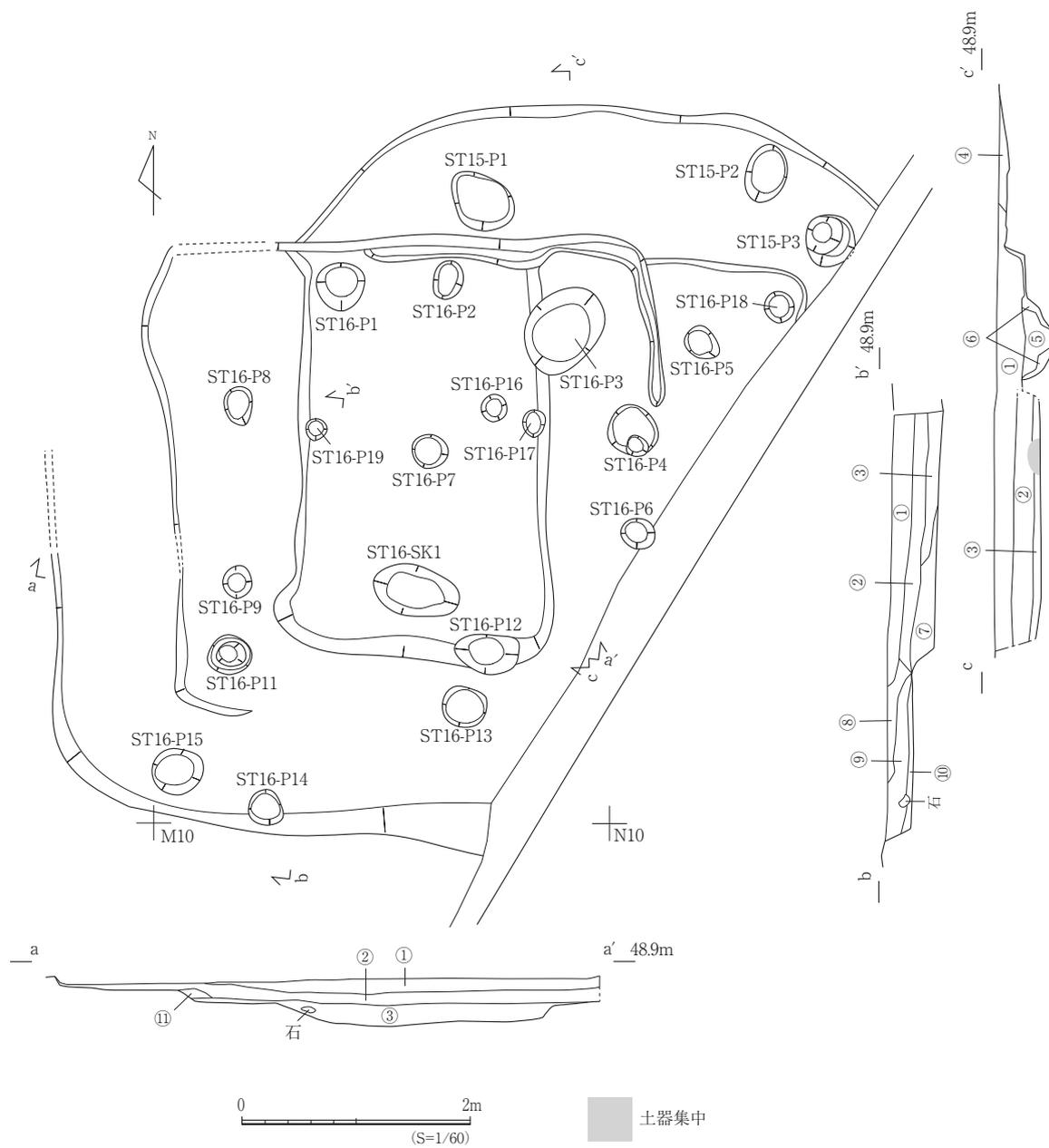


図44 ST14出土遺物実測図

ST16

Ⅱ区西端に位置し、ST15を切り、北西部はST14に切られ、東壁は調査区外に出る。平面形は隅丸方形を呈すると考えられ、規模は南北約5.2m、東西は約6.4m、検出面からの深さは約0.5mを測る。埋土は、2層に分層できる。①層は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト、②層は下層はやや褐色がかった黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。SK1はその規模と配置から中央ピットであると考えられる。埋土は黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルトである。ベッド状遺構は北辺を除く三辺で検出でき、コの字形を呈する。規模は幅約1.5m、床面からの高さは約0.3mを測る。床面からは19基のピットが検出された。そのうちP16、P17、P19はその規模と配置から支柱穴であると考えられる。SD1は壁溝と考えられるが、北東部でのみ検出された。北辺に沿って東へと伸び、ベッド状遺構へと上がり南へと方向を変える。

出土遺物の接合関係をもとめると、M8グリッドの10～20cm出土遺物とM8グリッドのベッド内



- ①黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト
- ②黒褐色 (10YR3/1) よりもやや褐色がかかる細砂混じりシルト
- ③②に明黄褐色 (10YR7/6) 細砂混じりシルトをブロック状～棒状に含む
- ④黒褐色 (10YR4/2) 細砂混じりシルト
- ⑤黒褐色 (10YR3/1) よりもやや褐色がかかる細砂混じりシルト
- ⑥灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂混じりシルト (黄褐色 (10YR5/6) 細砂混じりシルトをブロック状に含む)
- ⑦黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト (にぶい黄褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト [地山] ブロックを少量含む)
- ⑧にぶい黄褐色 (10YR5/4) 細砂混じりシルトと灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂混じりシルトが混じる
- ⑨黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト
- ⑩黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルトとにぶい黄褐色 (10YR5/4) 細砂混じりシルトが混じる
- ⑪黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト

図45 ST15・16平面図・断面図

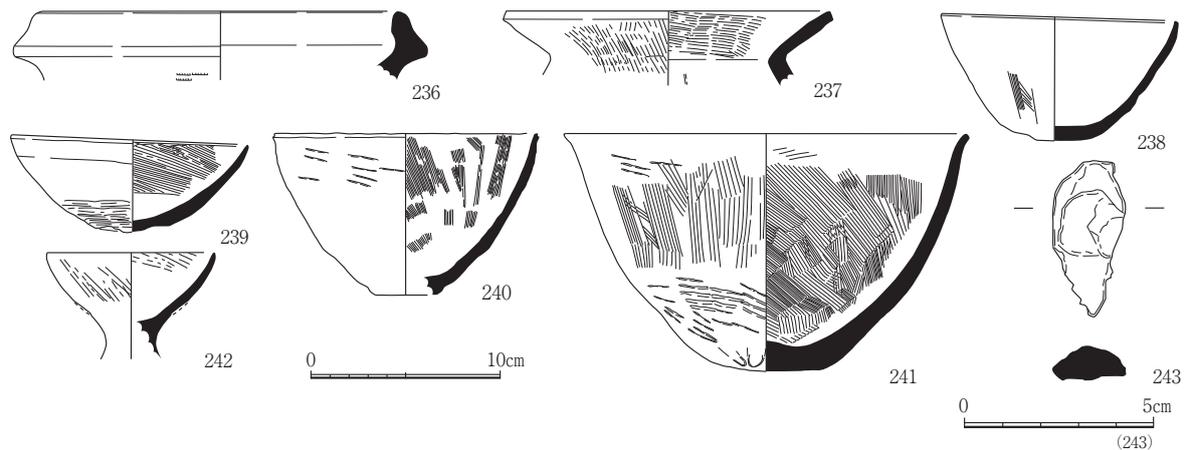


図46 ST15出土遺物実測図

の30cm～床面出土遺物が接合した。M8グリッドの20～30cm出土遺物とL・M9グリッドのバンクの0～10cm出土遺物が接合した。ST16-P16出土遺物とM9グリッドのバンクの10～20cm出土遺物とM8グリッドのバンクの10～20cm出土遺物が接合した。M8グリッドのベッド内の30cm～床面出土遺物とM8・9グリッドの20～25cm出土遺物が接合した。M8グリッドの20～30cm出土遺物とM9グリッドのバンクの0～10cm出土遺物とM9グリッドのバンクの10～20cm出土遺物が接合した。M8グリッドのバンクの30cm～床面出土遺物とM9グリッドのバンクの10～20cm出土遺物が接合した。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺、甕、鉢、高杯、支脚、ミニチュア土器、鉄鏃、袋状鉄斧である。244～251は壺である。245は口唇部に斜格子文を施す。247の体部は球形を呈し、口縁部は大きく外反する。口縁部には粘土接合痕跡がみられる。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。内面はハケメ調整、ナデ調整である。248は複合口縁壺の二次口縁である。外面に波状文を施す。250は丸底であり、体部は球形を呈する。251の体部は球形を呈し、口縁部は外上方に長めにのびる。外面は叩き成形後、ハケメ調整である。被熱変色する。252～261は甕である。252は口縁部は短く、屈曲度合いも弱い。外面は口縁部まで叩き成形を施し、内面はナデ調整である。254の口縁部は「く」の字状を呈し、端部はハケ状原体で面取りをおこなう。体部外面には叩き目が残り、口縁部は叩き目をナデ消すが部分的に残る。256は口縁部を含め外面全面に叩き目が残り、内面はハケメ調整を施す。257は口縁部まで叩き成形を施す。叩き目は太い。262～279は鉢である。262はやや深めの鉢である。外面は叩き成形後、ナデ調整を施す。ほぼ完形である。263は丸底であり、外面には亀裂がみられる。266はやや突出した小さな底部から体部は丸みを持ちのびる。内外面ともナデ調整で仕上げる。ほぼ完形である。273は深めの鉢である。底部は丸底である。外面は叩き成形後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整である。ほぼ完形である。274の底部はやや突出するが、段差がない部分もある。外面はナデ調整を施し、内面の下半部はナデ調整し、上半部はハケメ調整を施す。275は深めの鉢である。丸底である。外面は叩き成形後、ナデ調整を施す。内面はハケメ調整を施し、底部付近にはナデ調整を施す。277は器壁がやや厚い。体部はボール状を呈し、口縁部は丸くおさめる。外面は叩き成形後、ナデ調整を施す。内面の上半はハケメ調整、下半はナデ調整である。280～286は底部である。287は体部片であり、内面には水銀朱が付着する。また、外面には煤が付着する。288～291は高杯である。288は短い脚柱部



図47 ST16遺物出土状況図

から裾部がのびる。289は中実のやや細長い脚柱部から裾部がひろがる。脚柱部と裾部の境目に円孔を3カ所穿つ。291は短い脚柱部から裾部がのびる。裾部に円孔を穿つ。292は支脚である。中実の断面カマボコ形の体部から短い突起が2つのびる。背部にはわずかな隆起がみられる。腹面を中心に指頭圧痕がみられる。下半は欠損する。煤が付着し、被熱による変色が認められる。293はミニチュア土器である。294は鉄鏝か。295は袋状鉄斧である。欠損する。296は砂岩の打製石包丁である。自然面、主要剥離面を大きく残す。片刃であり、両端に抉りを入れる。紐掛けにより摩滅痕跡が認められる。297は小形の砥石であり、四面とも使用する。298・299はともに細長い砂岩の自然石を利用した叩き石である。298は両先端部に不明瞭ながら敲打痕跡を認められる。また、先端付近にうっすらとベンガラが付着する。299は先端部に敲打痕跡がみられる。

ST17

Ⅲ区南西部に位置する。北東部をST20と接し、東部はST19に切られる。検出プランが不明瞭であったため、ST19、ST20と共に上層をSX13として掘削した。平面形は楕円形を呈し、長軸約5.1m、短軸約4.6m、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は2層に分層できる。①層は炭化物粒を少量含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト、②層は焼土粒をやや多く、炭化物粒をごく少量含む褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルトである。中央ピットは住居のほぼ中央に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約1.0m、短軸約0.8m、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は住居跡の埋土と同一である。床面から7基のピットが検出された。そのうちP2、P3はシミであった。また、P1、P4、

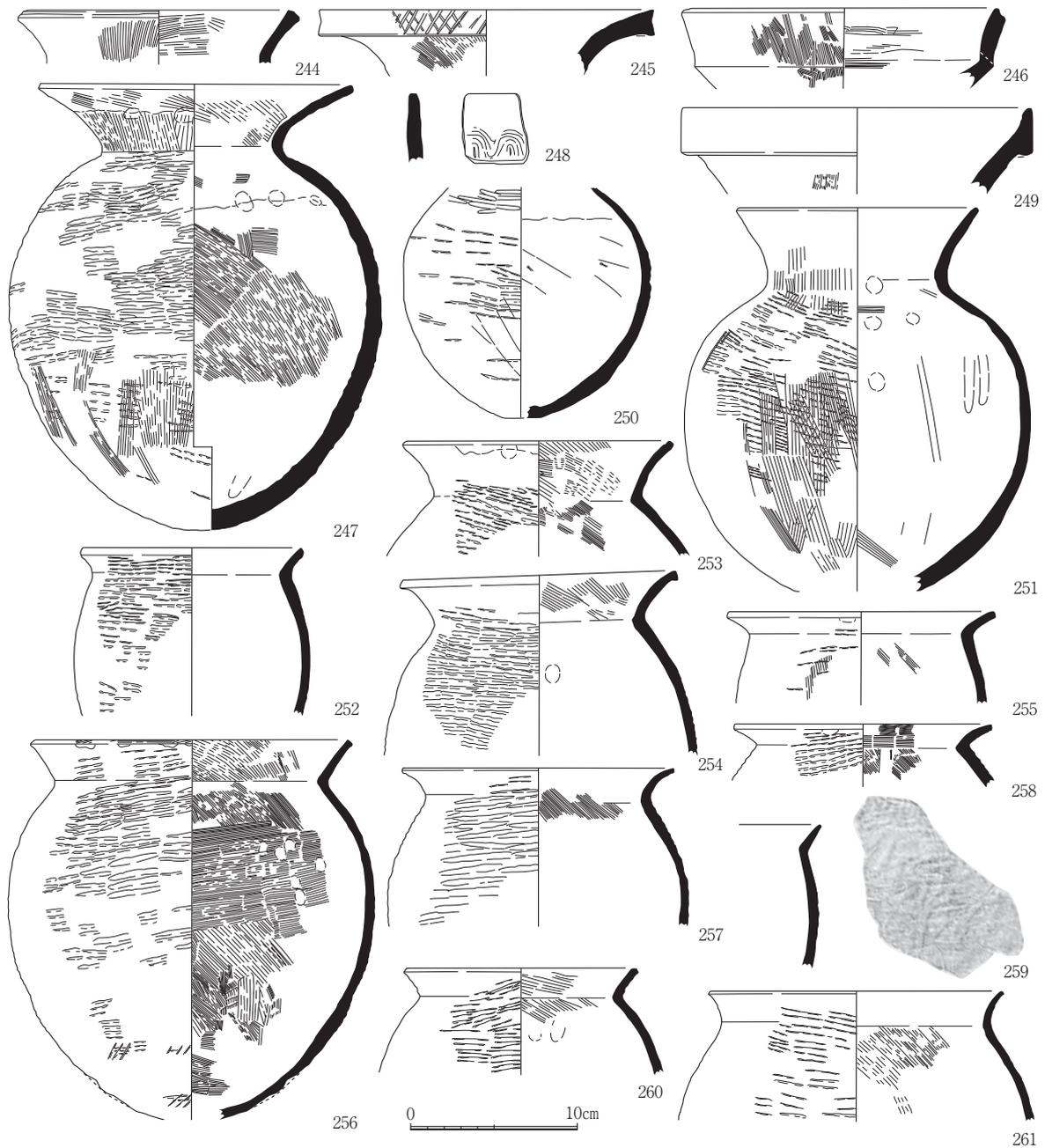


図48 ST16出土遺物実測図1



图49 ST16出土遺物実測図2

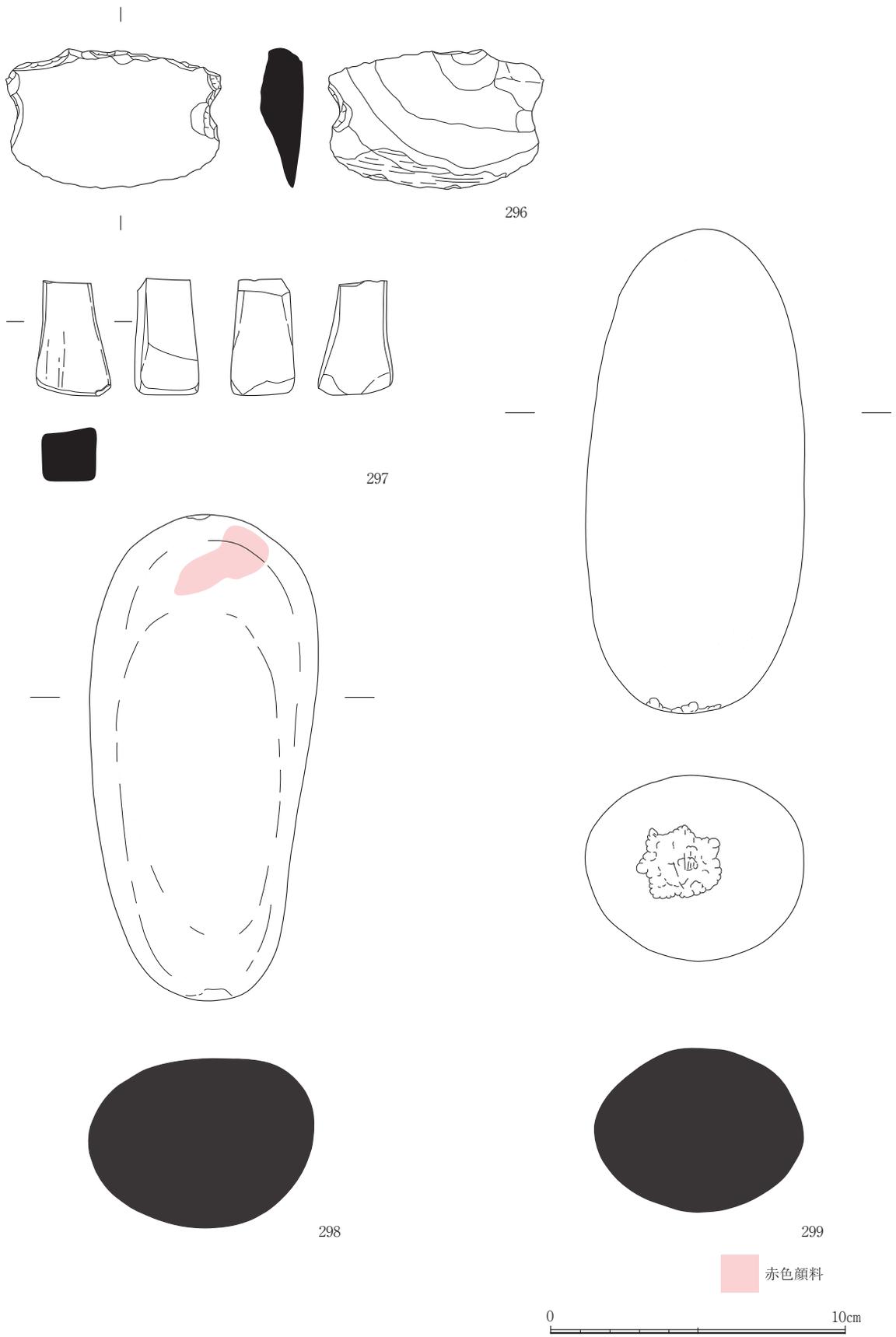


図50 ST16出土遺物実測図3

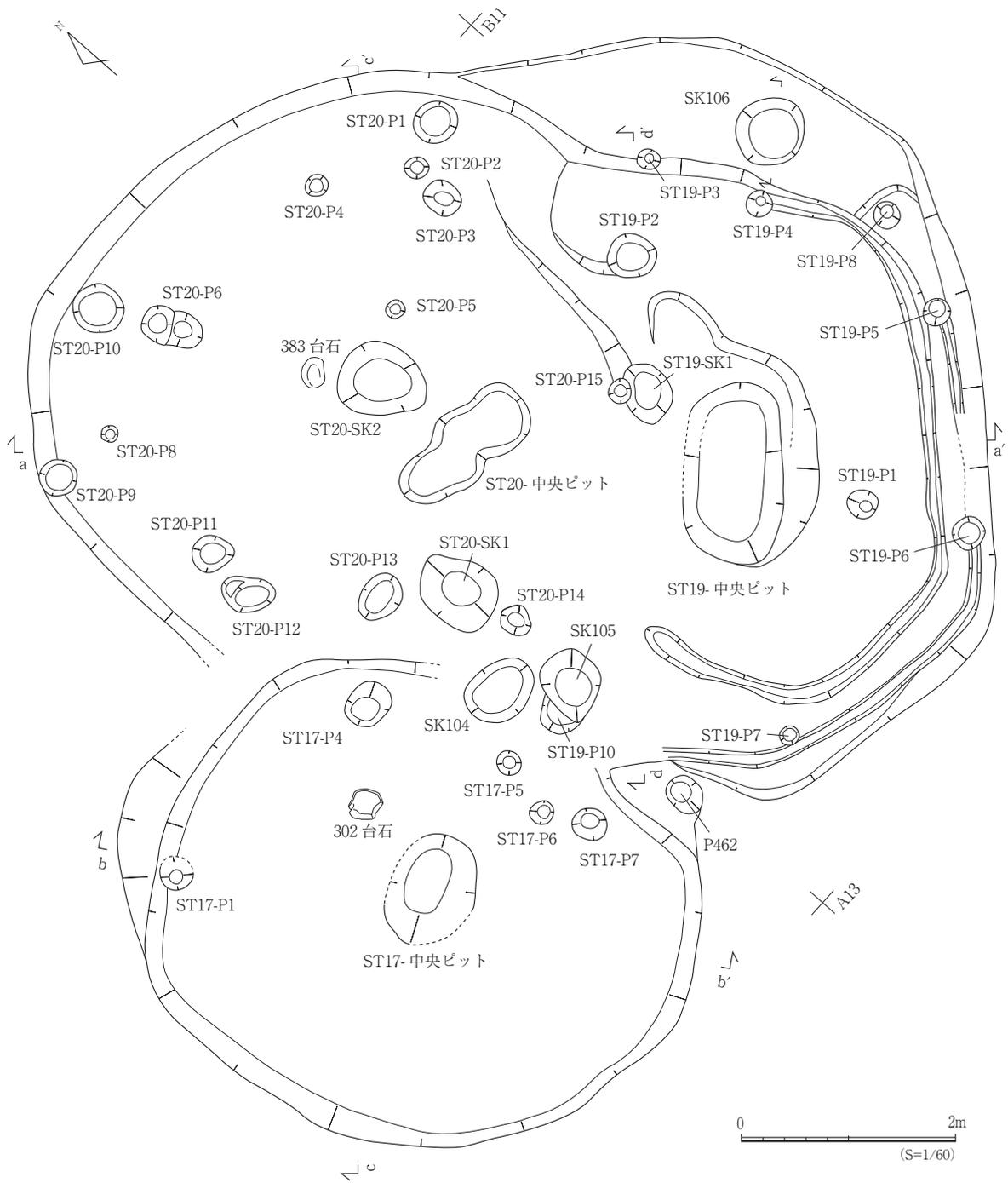


図51 ST17・19・20平面図

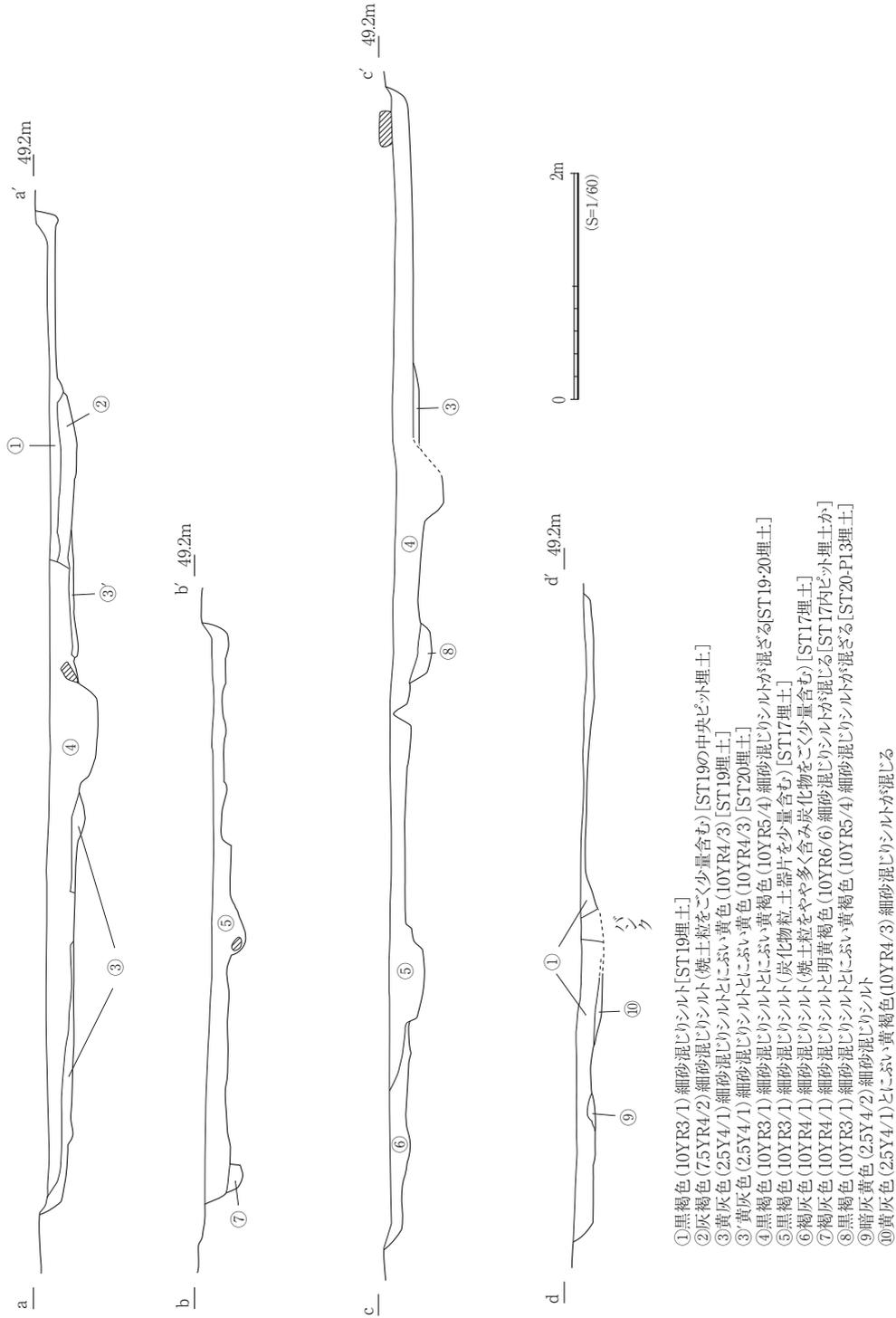


図52 ST17・19・20断面図

P6, P7はその規模と配置から主柱穴であると考えられる。

図示した出土遺物は、弥生土器の甕と台石である。300・301は弥生土器の甕である。300の口縁部は「く」の字状を呈する。口唇部を拡張し、三条の凹線文を施す。外面はナデ調整であり、内面下半部にはケズリ調整を施す。301の口縁部を水平近くまで外反させる。口唇部を拡張し、三条の凹線文を施す。外面はハケメ調整後、ミガキ調整を施す。胴部内面は下半部まではケズリ調整を施す。302は礫岩の台石である。

ST18

Ⅲ区中央部北端に位置し、SD27を切る。検出面からの深さは約0.3mを測る。平面形が長軸約5.6

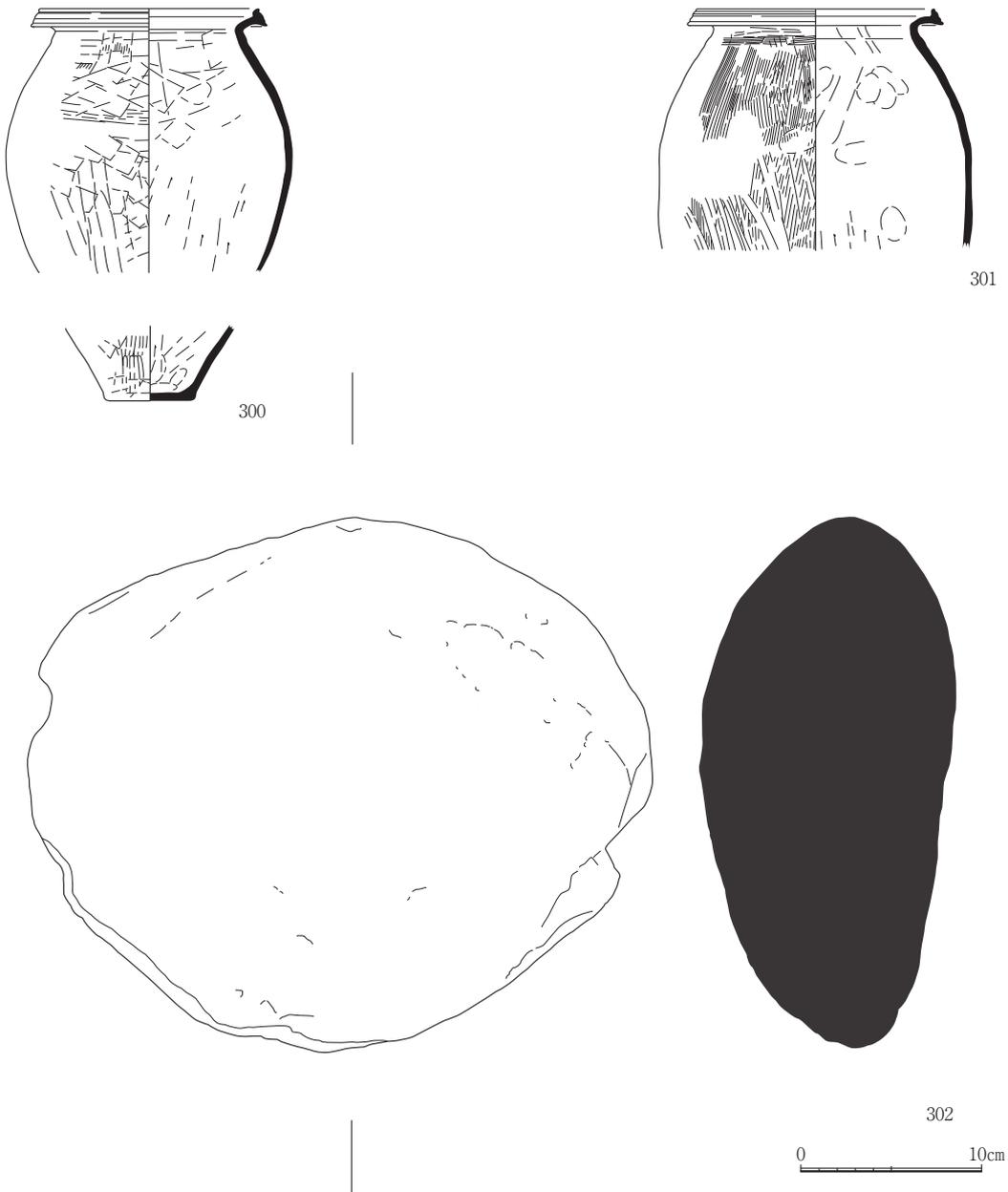


図53 ST17出土遺物実測図

m, 短軸約4.2mの隅丸長方形の住居跡が, 直径約5.4mの円形の住居跡を切っているものである。方形住居の埋土は基本的に2層に分層できる。①層は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト, ②層は炭化物を含む黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルトである。円形住居の埋土は基本的に黒褐色(2.5Y3/1)細砂混じりシルトであり, 方形住居跡の床面下に円形住居跡の埋土が約5cm残存していた。床面からは焼土塊が検出された。中央ピットは円形住居のほぼ中央に位置することから, 円形住居に伴うも

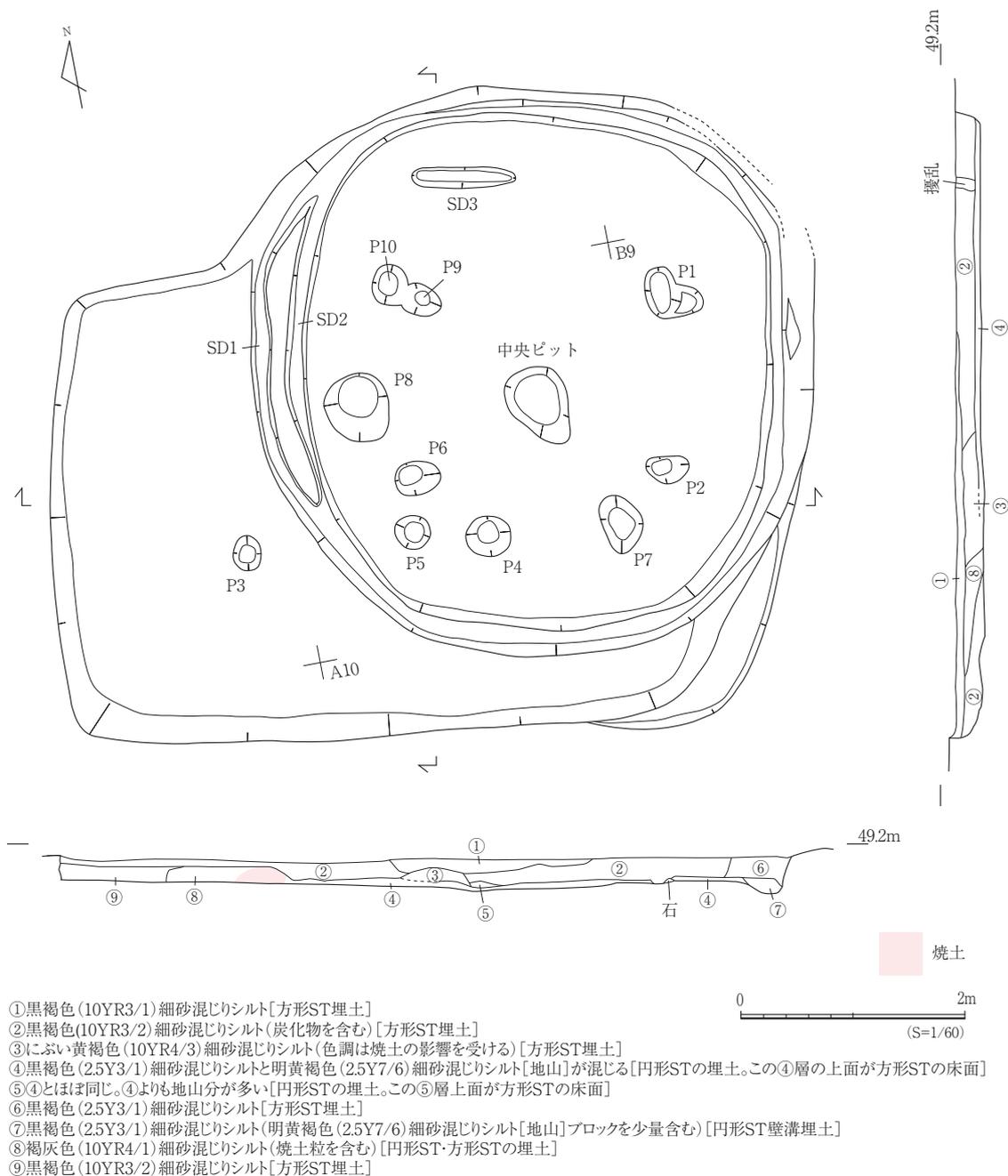


図54 ST18平面図・断面図

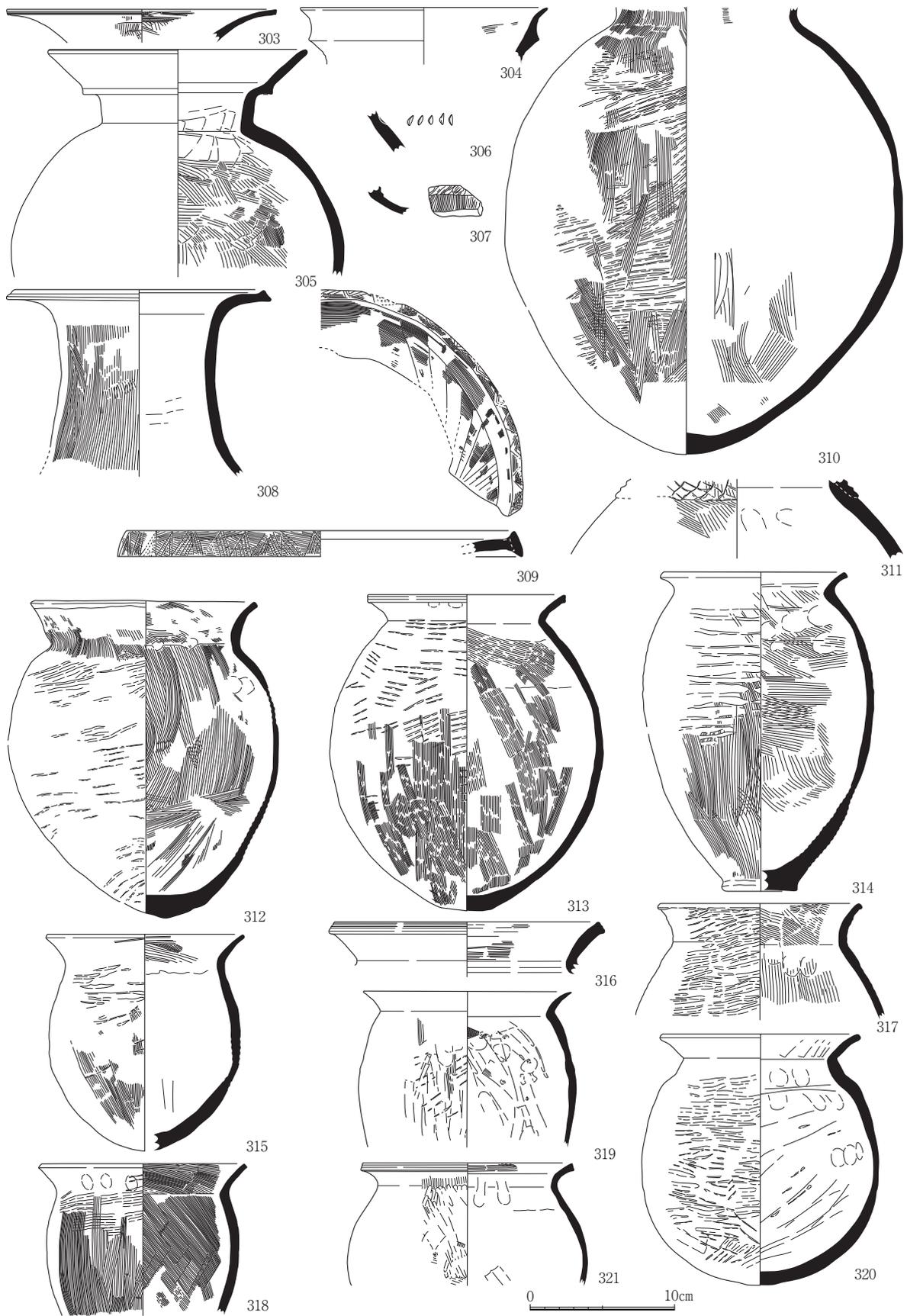


图55 ST18出土遺物実測図1

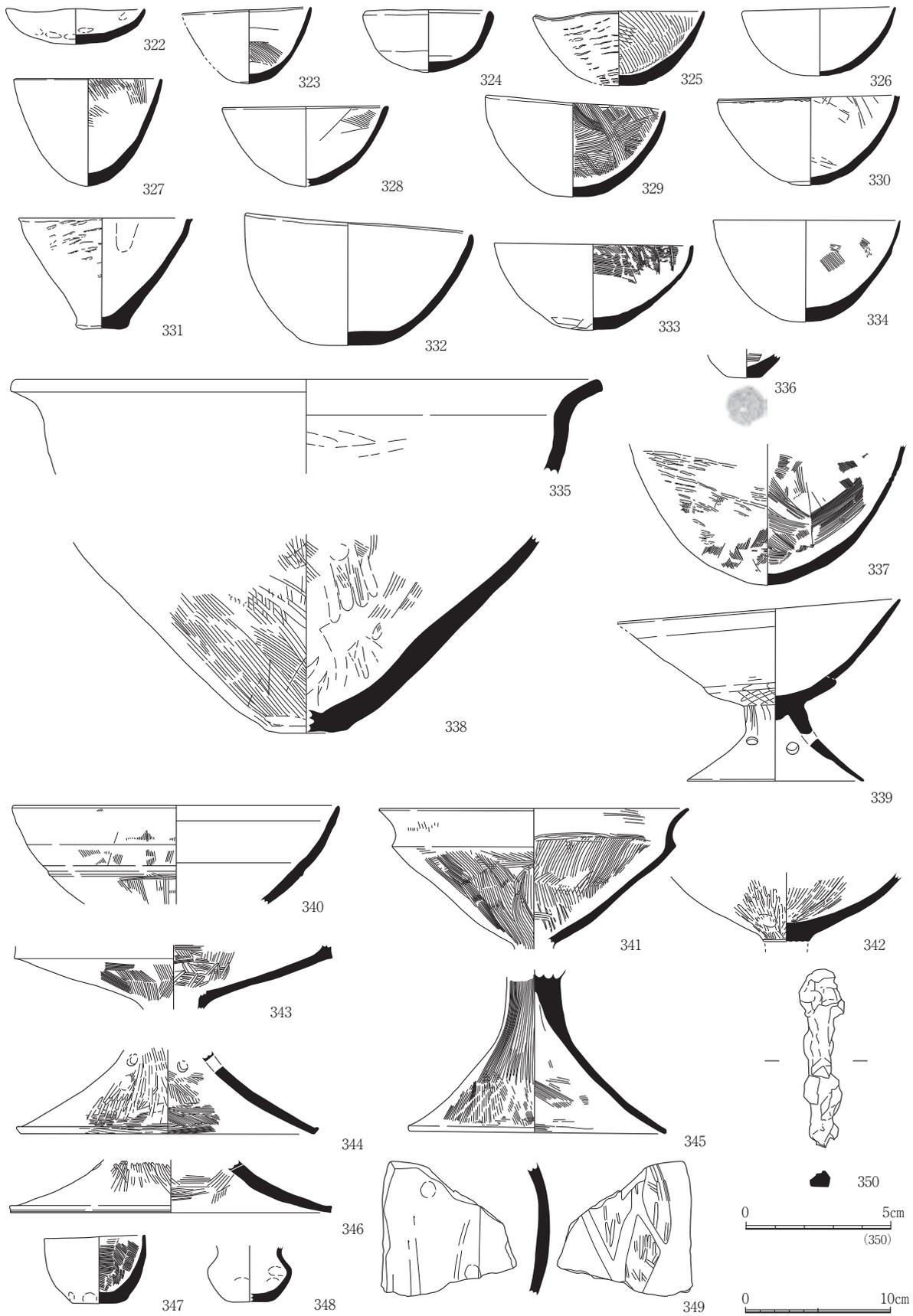


図56 ST18出土遺物実測図2

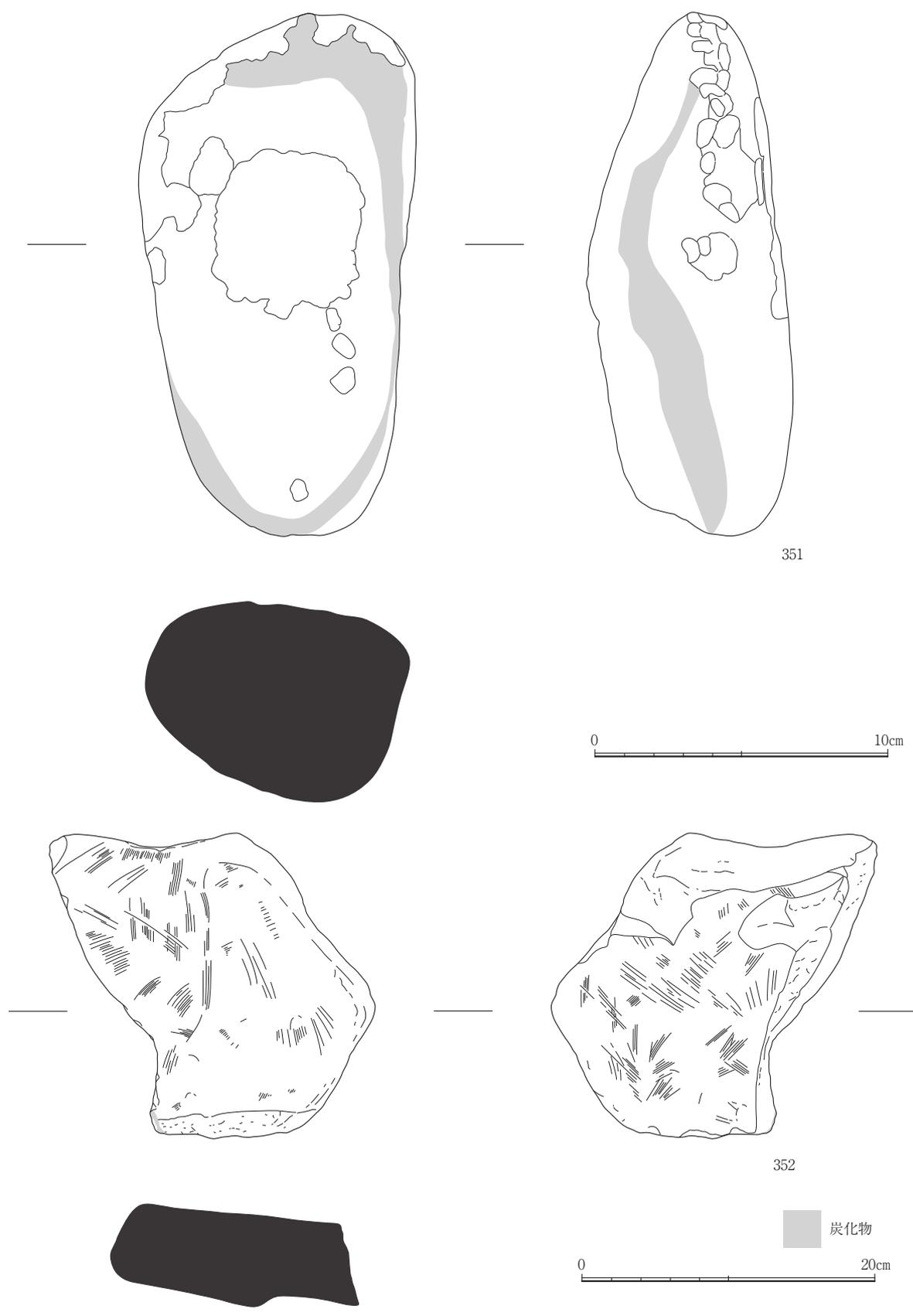


图57 ST18出土遺物実測図3

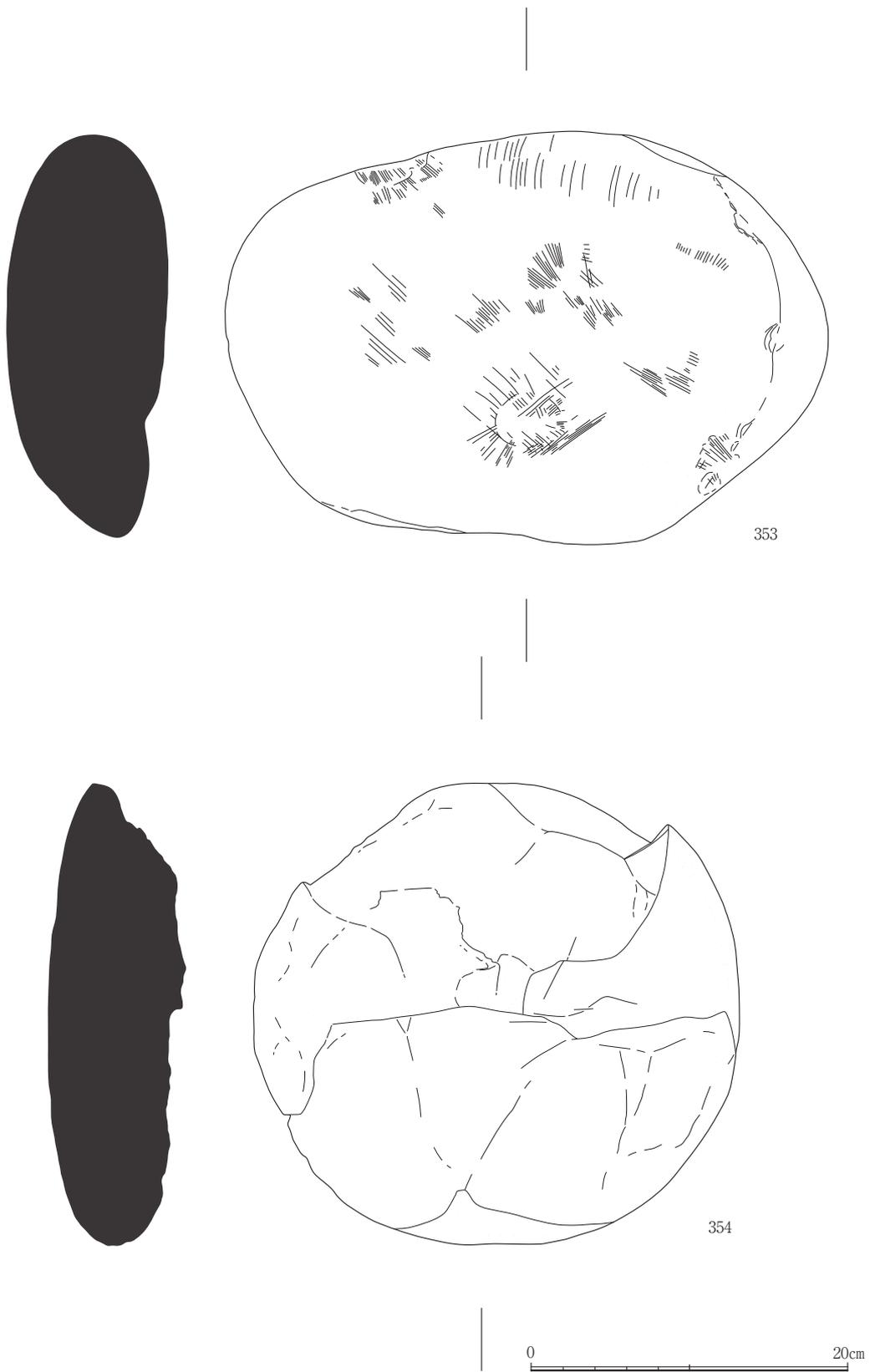


図58 ST18出土遺物実測図4

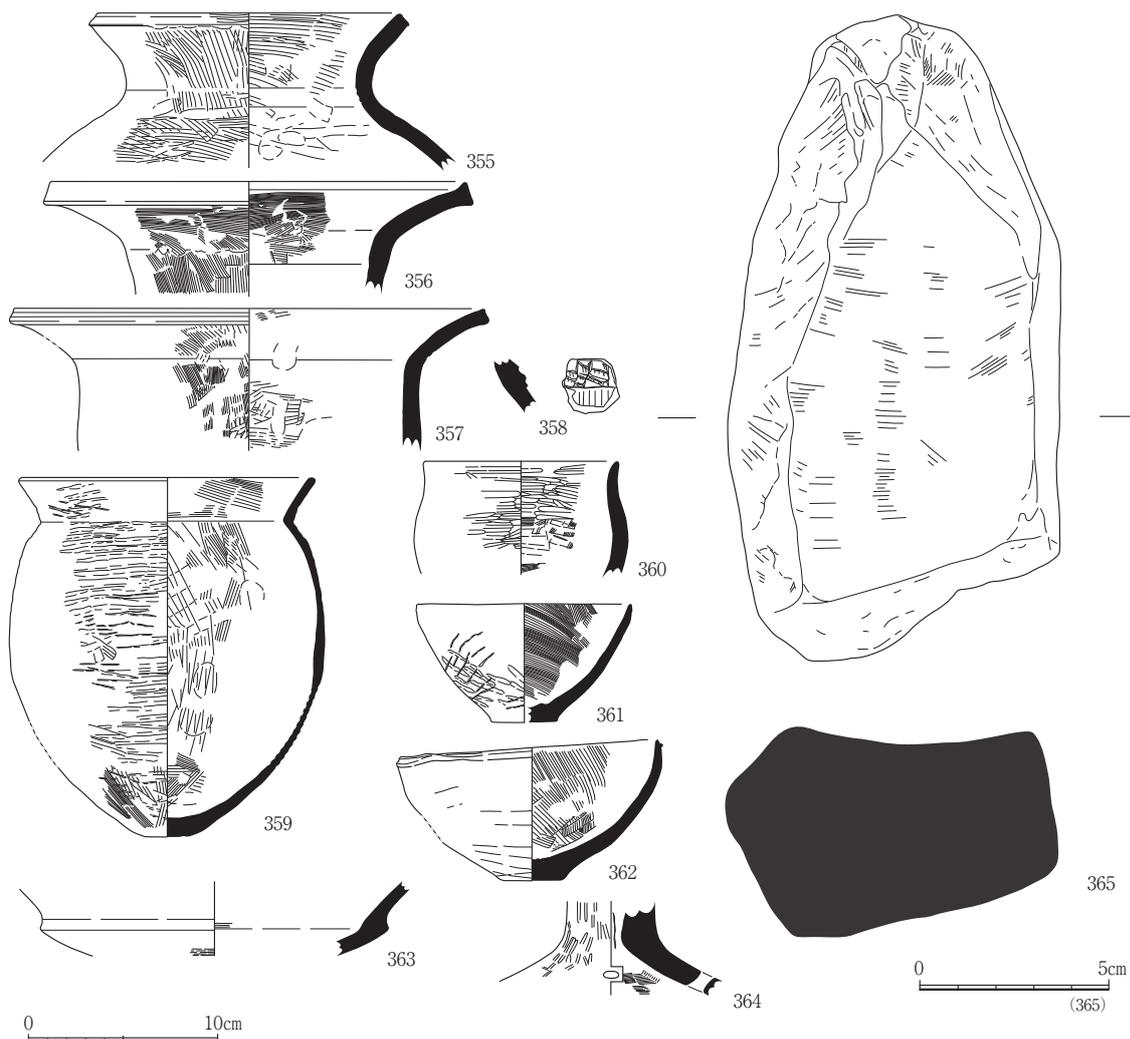


図59 ST19出土遺物実測図

のであると考えられる。平面形は不整楕円形を呈し、長軸約0.7 m、短軸約0.5 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は炭化物粒と焼土粒をごく少量含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。床面から10基のピットが検出された。そのうちP1, P2, P5, P7, P9, P10はその規模から主柱穴であると考えられるが、いずれの住居跡に伴うものか判然としない。P3は方形住居の主柱穴であると考えられる。P8はその規模と配置から円形住居の貯蔵穴であると考えられる。壁溝は円形住居の壁に沿って全周しており、西部では二条確認した。

出土遺物の接合関係をもてみると、A9グリッドのST18-SD1出土遺物とA9グリッドの15cm～床面出土遺物とA9グリッドの5～15cm出土遺物とグリッド名は無いがⅡ層[包含層]出土遺物が接合した。Z・A9・Z10グリッドの5～15cm出土遺物とZ9グリッドの15cm～床面出土遺物とA11グリッドのSX13の上層出土遺物とⅡ層[包含層]出土遺物とZ9グリッドの0～5cm出土遺物が接合した。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺、甕、鉢、高杯、鉄製品、ミニチュア土器、叩石、砥石、台石である。303～311は壺である。304・305は二重口縁壺である。304は短い外反した二次口縁がつく。305は二重口縁壺である。球形の体部から一次口縁は直立し、二次口縁が外上方にのびる。外面はナデ調整

を施し、内面は体部がハケメ調整、口縁部がナデ調整である。307・311は刻目を施した突帯が胴部と頸部の境目に貼付する。308は直立した頸部から口縁部が大きく外反する。口唇部はわずかに拡張する。口縁部内面に煤が付着する。309は水平に大きく外反する。口唇部を拡張し、鋸歯文を配置する。拡張には口縁部とは異なった粘土を意図的に使用した可能性がある。口縁部内面には沈線文を施す。312～321は甕である。312の底部は厚い丸底であり、体部は丸みをおびる。口縁部は「く」の字状を呈する。外面は叩き成形後、ナデ調整を施す。内面はハケメ調整である。口縁部は内外面ともハケメ調整である。313の体部は球形を呈し、口縁部は「く」の字状に外反する。口唇部はハケ状原体で面取り



図60 ST20出土遺物実測図1

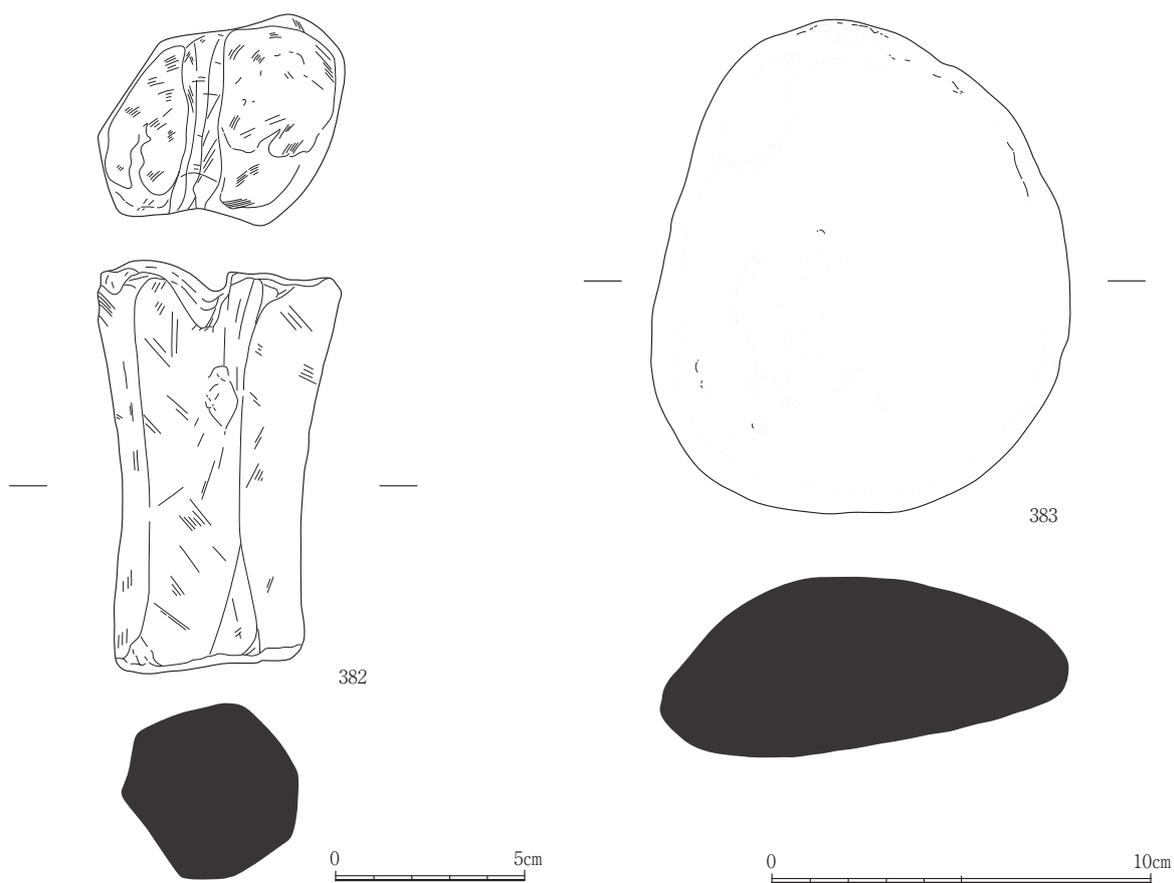


图 61 ST20 出土遺物実測図 2

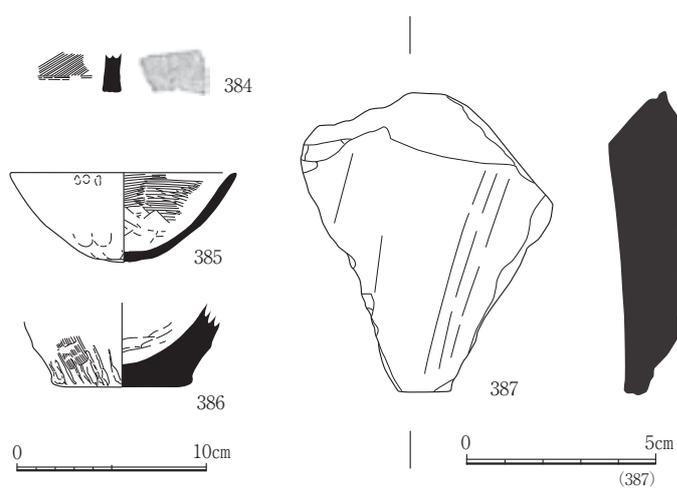
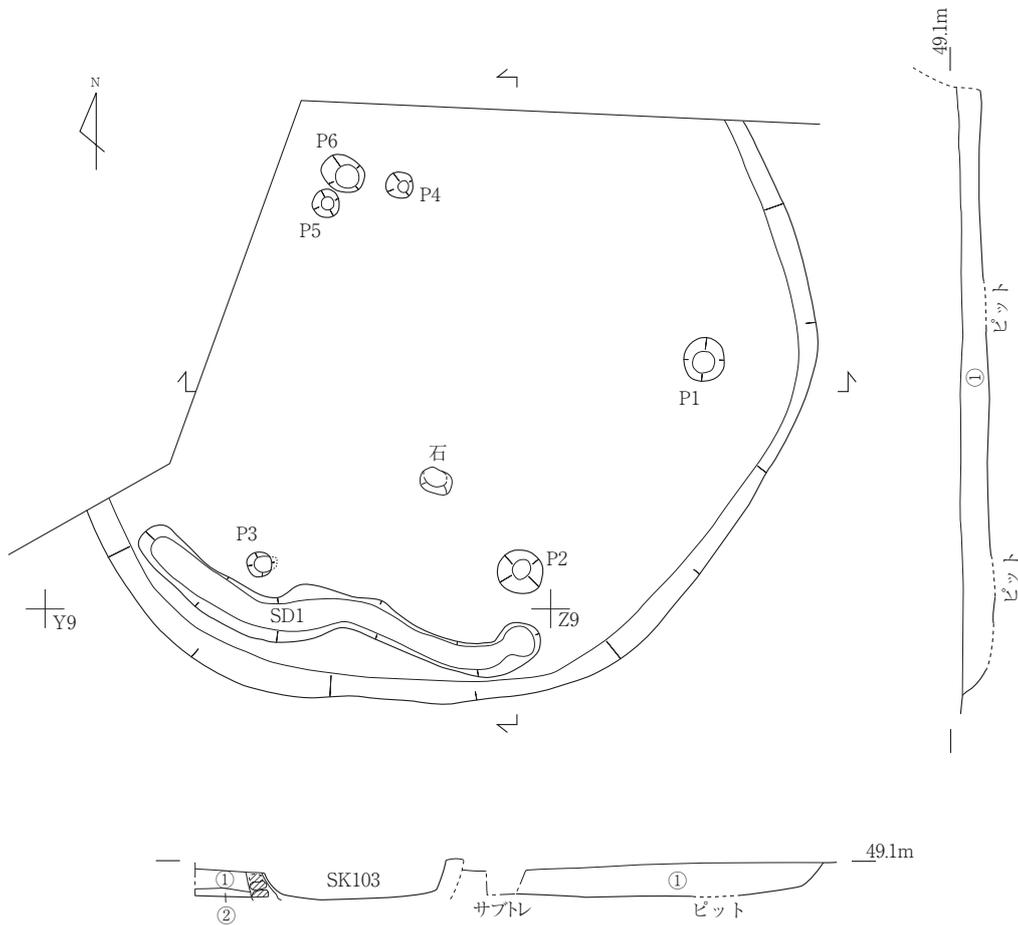


图 62 ST19・20 出土遺物実測図

を施す。外面は叩き成形後、下半部にはハケメ調整を施す。内面はハケメ調整である。また、内面上半部には粘土帯接合痕跡が認められる。314は長胴であり、底部は平底で端部がわずかに突出する。口縁部は短く外反する。外面は太めの叩き成形後、下半部を中心にハケメ調整を施す。315は小形である。丸底である。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。内面はナデ調整である。317の外面には口縁部を含め、叩き目が残る。口唇部には面取りを施す。318の口縁部は短く屈曲度合いは弱い。外面は叩き成形後、ハケメ調整を丁寧に施す。内面はハケメ調整を丁寧に施す。319の口縁部は短く外反する。外面は叩き成形後、ハケメ調整を丁寧に施す。内面は頸部付近までヘラケズリ調整を施す。320の体部は球形を呈し、丸底である。口縁部は「く」の字状を呈する。外面は叩き成形後、ナデ調整を施す。内面はケズリ調整である。322～335は鉢である。322は皿状鉢であり、指頭圧痕が目立つ。323はミニチュア土器である。外面はナデ調整、内面はハケメ調整で仕上げる。324は内外面ともナデ調整で仕上げる。外面には亀裂が認められる。全体的に歪む。325はやや浅めである。外面は叩き成形後、



- ①黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト(炭化粒ごく少量含む)[ST21埋土]
- ②褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト(明黄褐色(10YR7/1)細砂混じりシルト[地山]をブロック状に含む)[ST21埋土]



図63 ST21平面図・断面図

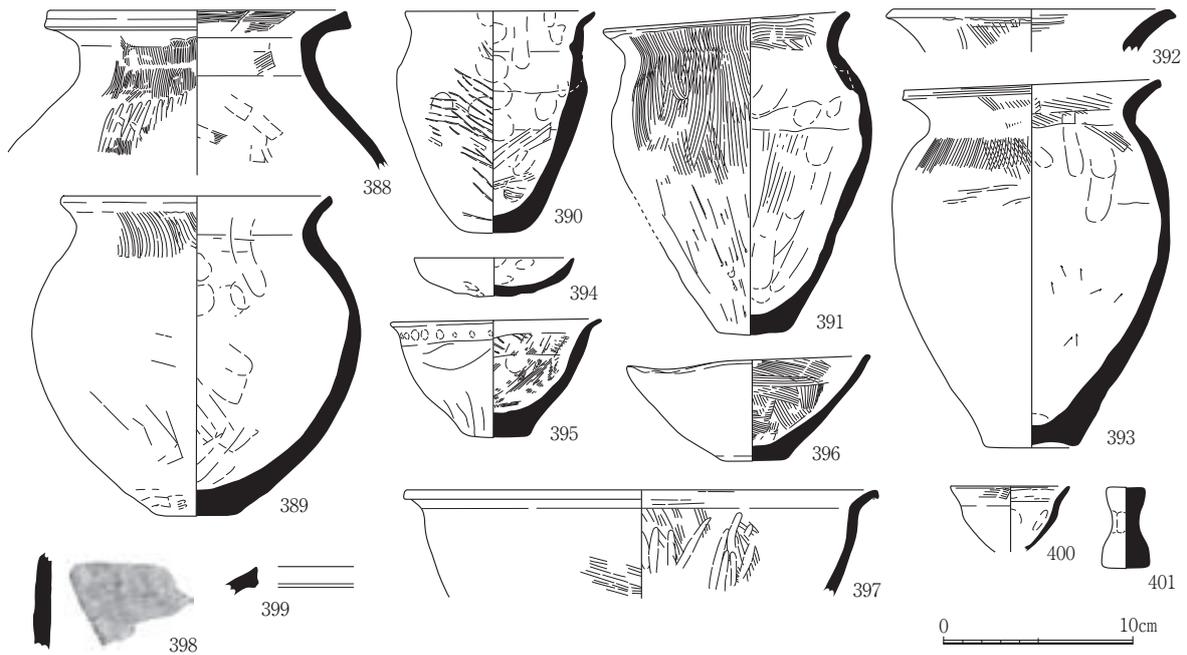


図64 ST21出土遺物実測図1

ナデ調整を施す。内面はハケメ調整である。ほぼ完形である。326は丸底であり、体部は半球形を呈する。内外面ともナデ調整である。ほぼ完形である。327は丸底であり、深めである。外面はナデ調整、内面はハケメ調整、ナデ調整である。329は角のとれた平底から体部は丸みを持ち立ち上がる。外面はナデ調整、内面は不定方向のハケメ調整を施す。331は平底で、端部はやや突出する。口唇部はわずかに凹面状を呈する。煤が付着する。332は深めの鉢である。外面は叩き成形後、丁寧なナデ調整を施す。器面に亀裂が若干認められる。内面はナデ調整である。ほぼ完形である。333の体部は外上方にのび、口縁部付近で内湾気味に曲げる。外底面は強いナデ調整を施す。334は丸底で深めである。外面はナデ調整である。叩き目かと思われる痕跡が少し認められる程度である。ほぼ完形である。335は大形の鉢である。口縁部を外反させる。内外面ともナデ調整を施す。ハケメ状に見える部分がある。336は外底面に葉脈痕跡が認められる。337は甕の底部と考えられる。外面は叩き成形後、ハケメ調整が施される。底部外面付近には凹凸は弱い指頭圧痕が認められる。内面は不定方向のハケメ調整を施す。338は大形壺の底部である。底部は角のとれた平底であり、全体の法量に対してやや小さめの印象を受ける。外面は粗いハケ

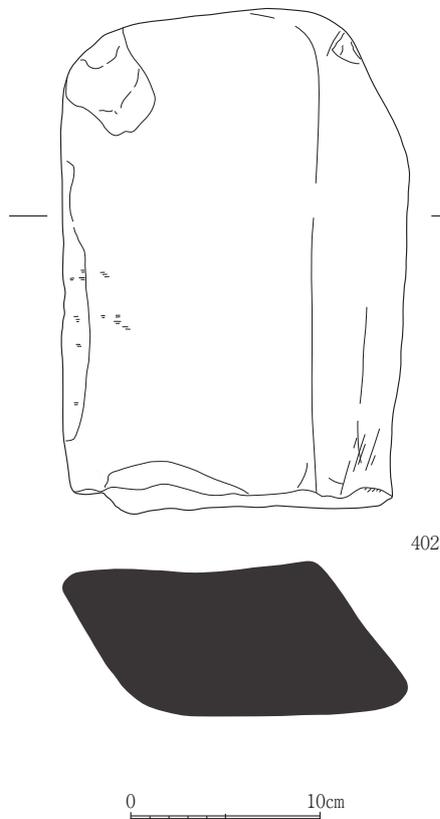


図65 ST21出土遺物実測図2

メ調整,内面はナデ調整が施される。339～346は高杯である。339は全体の形状がわかる資料である。脚部は短く,杯部は深い。口縁部は外上方へ直線的にのびる。杯部と口縁部の接合部には段部が生じる。内外面ともミガキ調整が施される。脚部は短い中空の脚柱部から裾部がスカート状にひろがる。脚柱部と裾部の境目付近に円孔を5ヵ所に穿つ。均等な配置とはなっておらず,5つのうち2つは近接しており,その他は均等な配置を試みたものと推測される。胎土は砂粒を若干含むものの,比較的精良である。340は高杯の杯部である。杯部から口縁部にかけて丸みを持つ。杯部と口縁部の接合部はわずかに段差がみられる。341は深めの杯部から口縁部は短く外反する。口縁部は丸くおさめる。杯部外面は縦方向のハケメ調整を施し,口縁部はハケメ状に見える部分もあるがナデ調整を施す。杯部内面はハケメ調整後,部分的にミガキを施す。342は杯部の破片である。内面は放射状のミガキ調整を施す。外面はハケメ調整後,ミガキ調整を施す。343は杯部の破片である。杯部は直線的に外上方にのび,口縁部は残存部から推定すると垂直気味にのびる。内面はハケメ調整,ミガキ調整を施す。外面はハケメ調整である。344～346は脚部である。344と346には円孔が認められ,345には認められない。外面は344は比較的丁寧にミガキ調整が施される。345はハケメ調整後,ミガキ調整はほとんど施されない。346はハケメ調整後のミガキ調整を疎らに施す。347・348はミニチュア土器である。347の外面はナデ調整,内面はハケメ調整で仕上げる。ほぼ完形である。348は大きめの底部に上胴部に最大径を持つ肩の張った体部がつく。頸部はほとんどなく,口縁部は外反すると推測される。内外面とも丁寧にナデ調整を施す。349は体部の破片である。外面はミガキ調整,内面はヘラケズリ調整である。外面には幅4～7mmの斜格子状の痕跡が認められ,植物質で編まれた籠状のものが被せられていたと考えられる。350は棒状を呈する鉄器である。351は砂岩の叩き石である。煤が付着する。352は砂岩の砥石である。一部を欠損する。被熱により赤色を呈する。353は礫岩の台石である。敲打等により直径約4cmの凹みが形成されている。354は礫岩の台石である。被熱により破裂している。破片は埋土中からも出土しており,破裂した直後に住居跡が埋められたと推測される。

ST19

Ⅲ区中央部に位置する。ST17, ST20と共に上層をSX13として掘削した。ST17を切り,北部

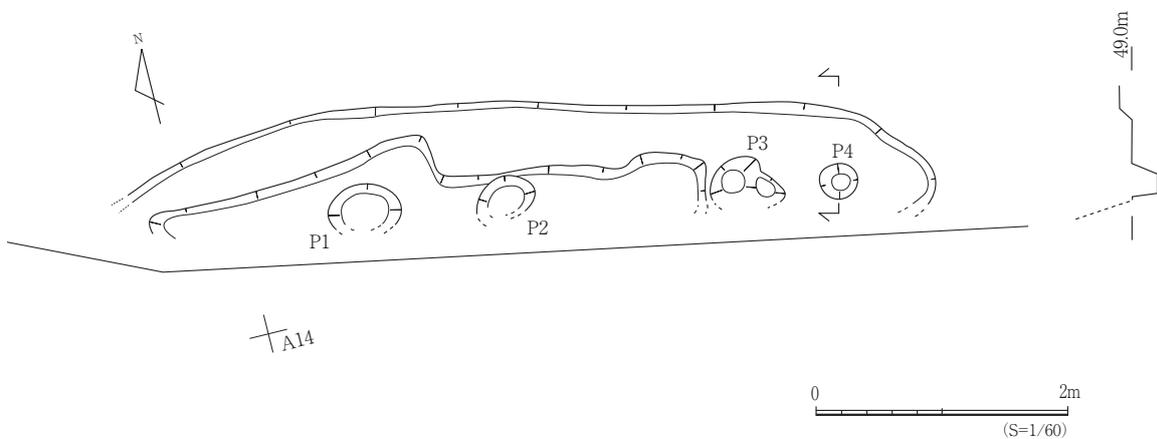


図66 ST22平面図・エレベーション図

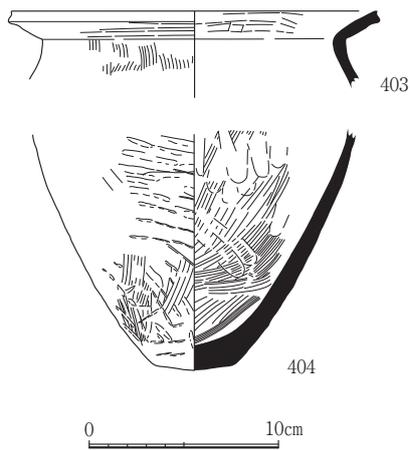


図67 ST22出土遺物実測図1

をST20に切られる。規模は長軸約7.2m、短軸約3.1mまで検出できた。検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は基本的に黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。中央ピットの平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸約2.1m、短軸約0.8m、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は焼土をごく少量含む灰褐色(7.5YR4/2)細砂混じりシルトである。床面から9基のピットと1基の土坑が検出された。そのうちP3、P4、P5、P6、P7、P8、P10、ST20-P2はその規模と配置から支柱穴であると考えられる。また、床面での検出ではなかったが、SK104、SK105、SK106はその規模と配置からST19の貯蔵穴であると考えられる。壁溝は検出できたが、本来全周するものか判然としない。また南部では二条検出しており、SD1は住居壁に沿わず内側に曲がる。ベッド状遺構は北東部で検出された。床面からの高さは約0.2mであり、幅は約1.1mである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺、甕、鉢、高杯、砥石である。355～358は壺である。355は口縁部を短く外反させ、口唇部にはハケ状原体で面取りを施す。口縁部内外面はハケメ調整である。体部外面は叩き成形後、横方向のハケメ調整を施す。器壁は厚く、しっかりとした作りである。356・357は直立気味の頸部から口縁部が大きく外反する。356は口唇部を若干、拡張する。358は頸部の破片である。刻目文を施した突帯を貼付ける。359は甕である。体部は最大径を中央部に有する。口縁部は短く外反し、端部はルーズな面取りを施す。底部は丸底を呈する。外面は叩き成形で、口縁部まで作る。下半には、ハケメ調整を施し、口縁部は軽くなでる。内面はハケメ調整を基本とするが、砂粒の移動痕跡が認められる。360～362は鉢である。360は口縁部が短く緩やかに屈曲する。外面、口縁部内面はミガキ調整を施し、全体的に丁寧な作りである。362はSX13、ST20等から出土した破片が接合した。やや突出した平底の底部から体部が丸みを持ちのび、口縁部付近で直立気味に立ち上が

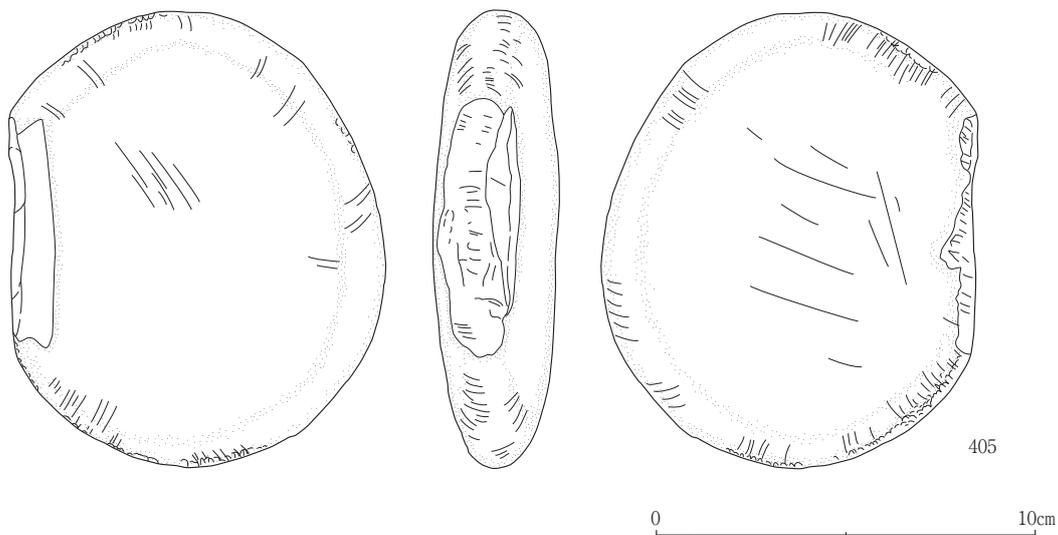
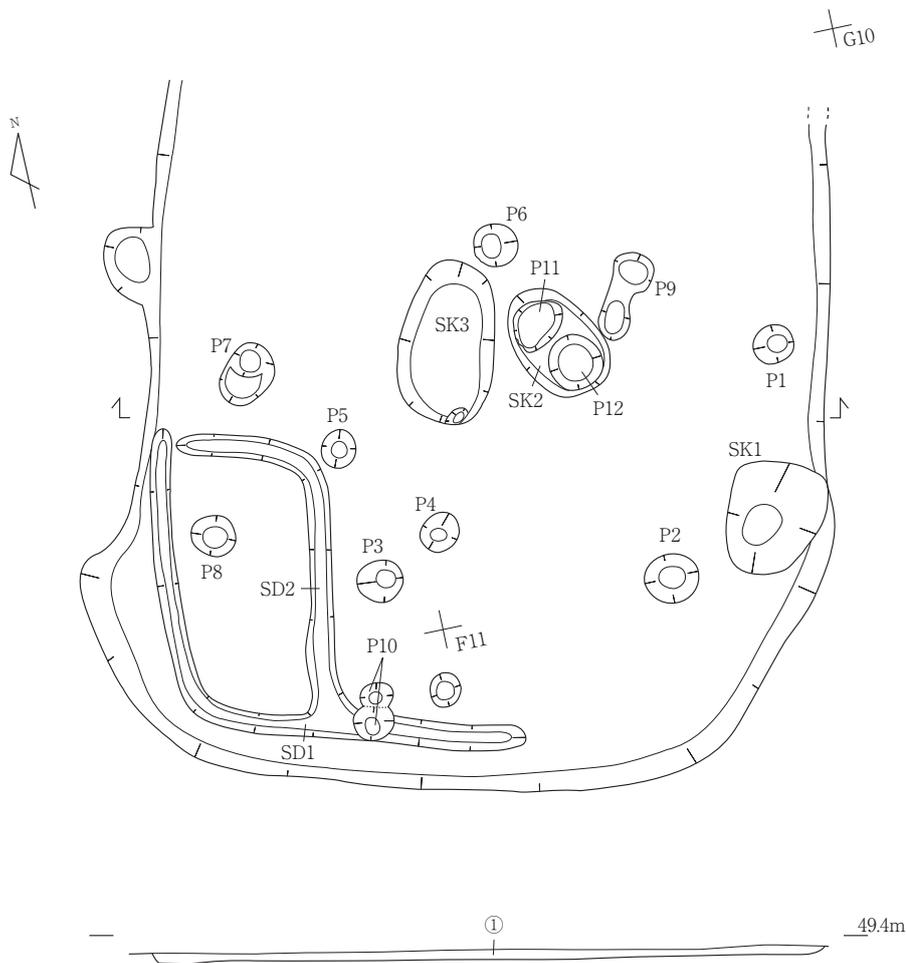


図68 ST22出土遺物実測図2

る。外面は比較的丁寧にナデ調整を施し、光沢を持つ部分もある。傾斜変換的付近より上部には器面に亀裂が認められる。内面はハケメ調整である。やや歪む。363・364は高杯である。363は杯部と口縁部の接合部に明瞭な段部を持つ。364は短い中空の脚柱部から裾部が大きくひらき、円孔を穿つ。外面はハケメ調整、ミガキ調整、内面はハケメ調整である。365は砂岩の砥石である。主として使用していた面は凹状を呈する。割れた後にも使用されており、凸部が摩滅している部分がある。

ST20

Ⅲ区中央部に位置し、南西部をST17と接し、南部でST19を切る。検出プランが不明瞭であったため、ST17、ST19と共に上層をSX13として掘削した。正確な規模と平面形は不明であるが、長軸約6.0



①黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト(火山ガラスを多く含む)



図69 ST23平面図・断面図

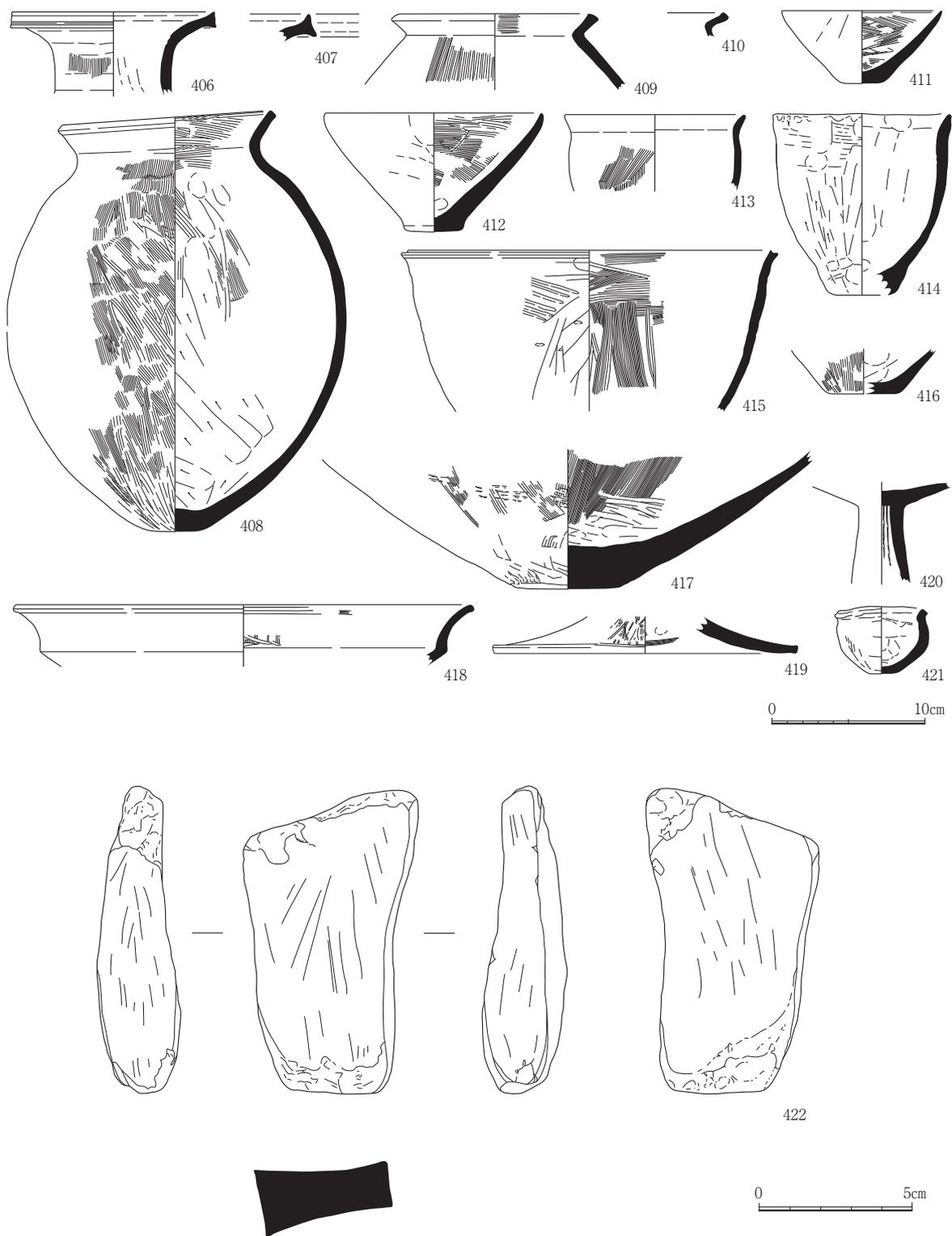


图70 ST23出土遗物实测图

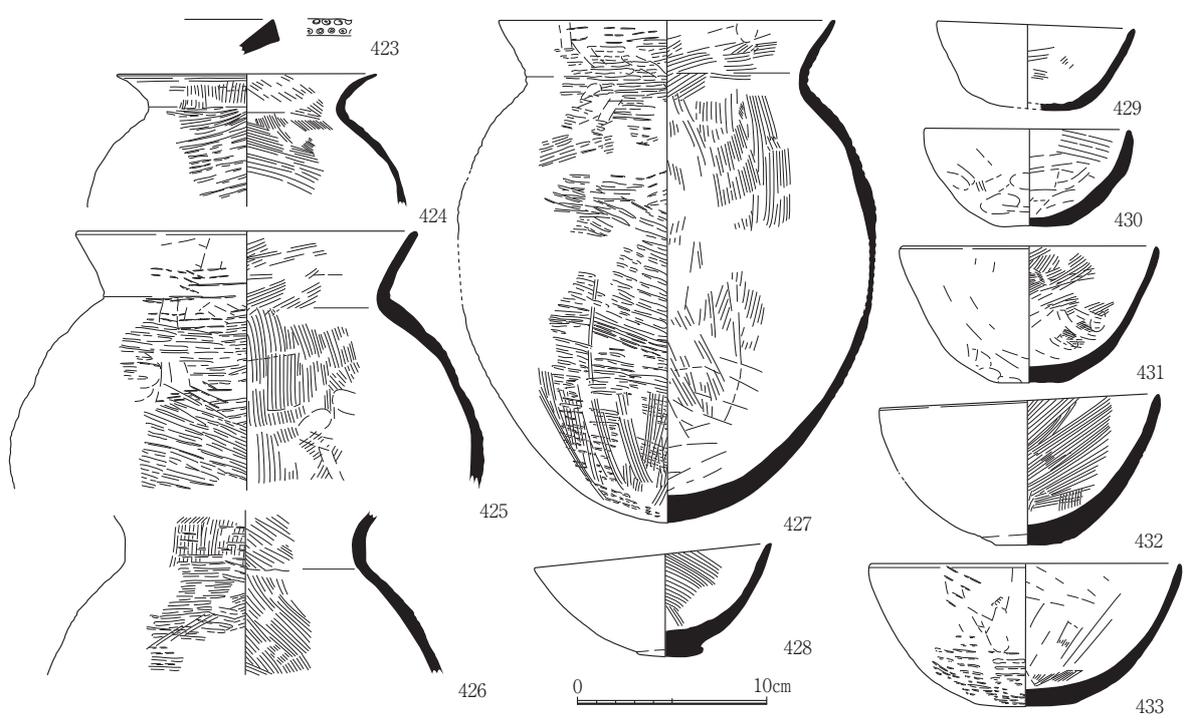
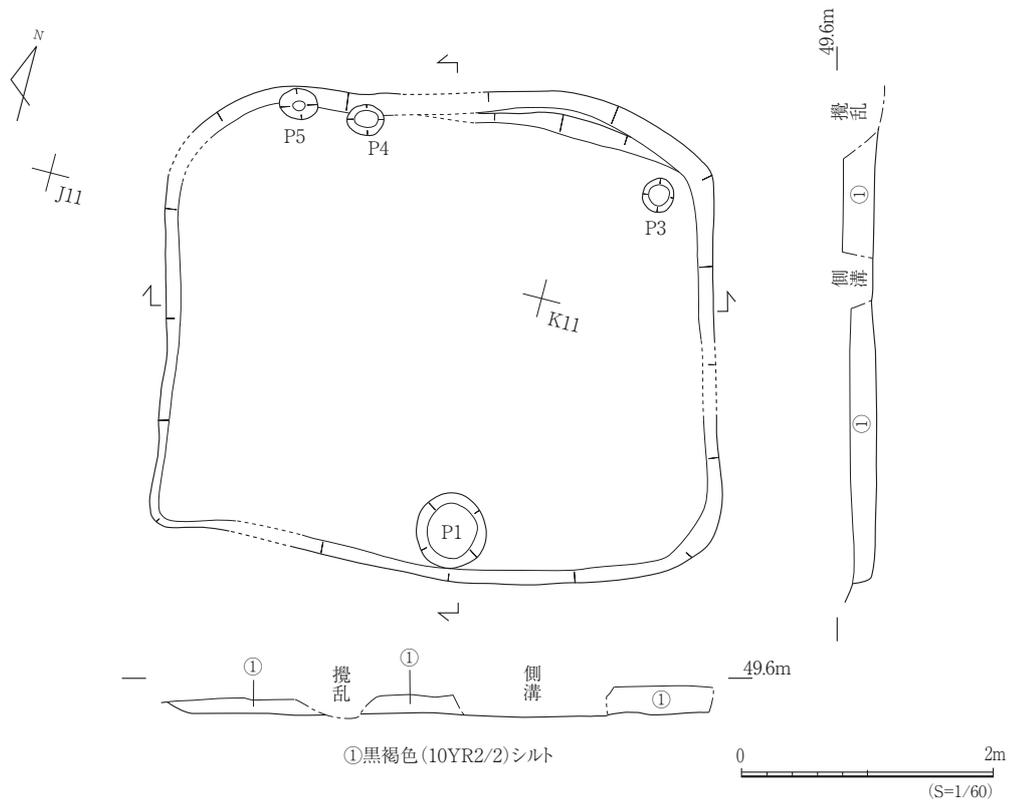


図71 ST24平面図・断面図・出土遺物実測図

m, 短軸約5.4mの楕円形を呈すると考えられる。検出面からの深さは約0.2mである。埋土は炭化物片を含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。中央ピットは住居跡の南寄りに位置する。平面形は不整長楕円形を呈し, 規模は長軸約1.4m, 短軸約0.6m, 検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は住居跡の埋土と同一である。床面からピットが15基と土坑が2基検出されたが, そのうちP2はST19に伴うものである可能性が高い。P3, P6, P9, P12, P15はその規模や配置から主柱穴であると考えられる。

出土遺物の接合関係をみてみると, Z・A11グリッドのバンクの20cm～床面出土遺物とA12グリッドのSX13の上層出土遺物が接合した。Z11グリッドのバンクの15cm～床面出土遺物とZ11グリッドのSX13の上層出土遺物が接合した。

図示した出土遺物は, 弥生土器の壺, 甕, 鉢, 鉄鏃, 砥石, 台石である。366～369は壺である。370～375は甕である。371は接点はないものの同一個体と推定される。底部は丸く, 口縁部は短く外反する。口縁部まで叩き成形で作られ, 下半部には縦方向のハケメ調整を丁寧に施す。内面はハケメ調整を全面に施す。372は弥生土器の甕である。体部は球形を呈し, 底部はほぼ丸底である。口縁部は「く」の字状を呈するが, 屈曲度合いは弱い。外面は口縁部まで叩き成形で作られ, 下半部には叩き成形後ハケメ調整を施す。内面はハケメ調整である。やや歪む。373は口頸部の破片である。屈曲度合いは弱いが比較的大きく外反し, 口唇部はハケ状原体で平坦面とする。外面には太めの叩き目が残る。

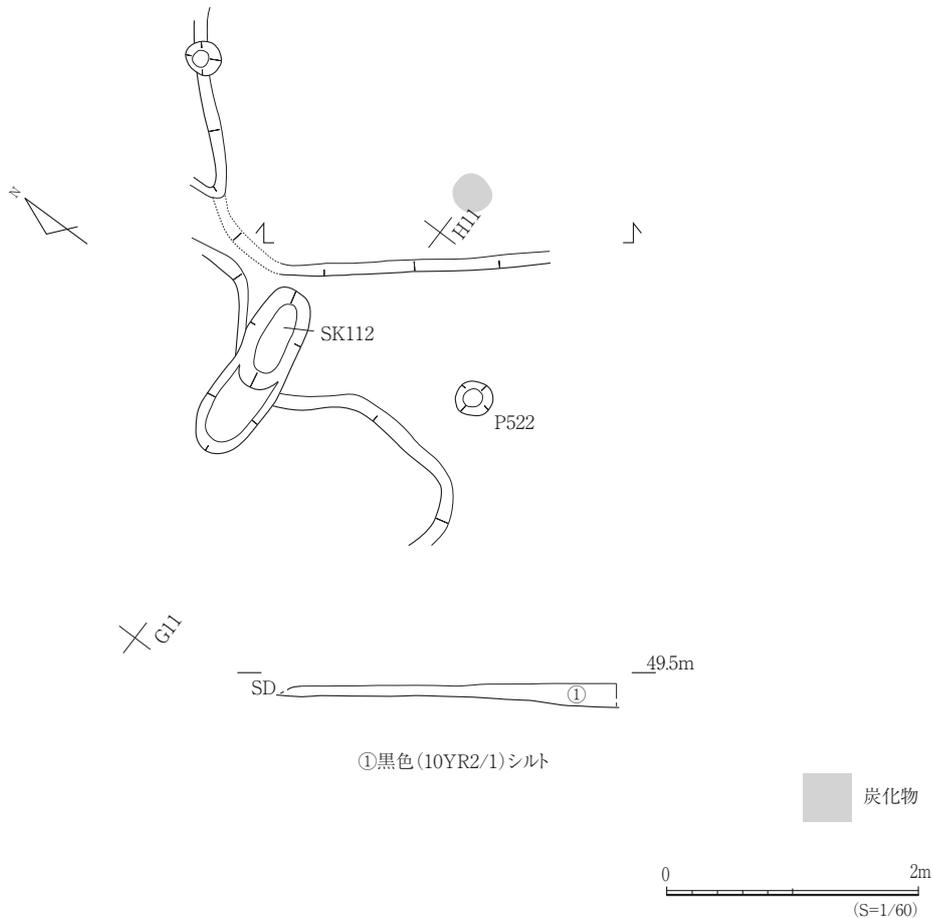


図72 ST25平面図・断面図



図73 ST25出土遺物実測図

375 は法量のやや大きめの甕である。中位に最大径を持つ。叩き成形後、下半部と口縁部付近にハケメ調整を施す。内面の最終調整は基本的にはナデ調整であるが、口縁付近はハケメ調整を施す。また、肩部内面には粘土接合痕跡をわずかに認めることができる。376～378 は鉢である。376 の体部は半球形を呈し、口唇部を尖らせる。内外面ともハケメ調整である。全体的に器壁は厚い。ほぼ完形である。377 は丸底で体部は半球形を呈し、口縁端部付近でわずかに内湾させる。外面は叩き成形後、ナデ調整を施す。内面はハケメ調整である。378 は注口を持つ鉢である。口縁部をわずかにひろげることで注口を形成する。外面は叩き成形後、丁寧にハケメ調整を施す。内面にはハケメ調整を施す。379・380 は底部である。379 は甕の底部であり、丸底である。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。ハケメは外底面にまで及ぶ。内面はナデ調整であり、底部付近には指頭圧痕が認められる。381 は柳葉式の鉄鏝であり、茎は欠損する。382 は砂岩の砥石である。目は細かい。側面は使用により七面となる。両端は欠損するが、一方は使用により溝状を呈する。383 は砂岩の台石である。敲打痕跡と推定される使用痕がみられる。やや小さめの台石である。384～387 はST19とST20 が重複した部分から出土した遺物であり、どちらの住居跡に属するかは判然としない。384 は複合口縁壺の二次口縁と考えられ、下端面は擬口縁となる。振幅の緩やかな波状文と三角形状を呈する波状文を上下に配置する。385 は鉢である。386 は底部である。外面端部付近に刻み目がみられる。粘土を接合する時に接合面積をひろげるために施したものか。被熱により変色する。387 は砂岩の砥石である。大部分を欠損する。使用面は凹む。

ST21

Ⅲ区の北西部に位置する。北西部が調査区外に出るため、南北4.7 m、東西5.1 mまでしか検出できなかった。検出面からの深さは約0.2 mを測る。正確な平面形は不明であるが、円形を呈するものであると考えられる。埋土は基本的に炭化物粒をごく少量含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。床面からピットが6基検出されたが、そのうちP1、P2、P3、P6はその規模や配置から支柱穴であると考えられる。SD1は壁溝であると考えられるが、周辺の住居跡のものとは比べ幅が広い。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺、甕、鉢、ミニチュア土器、砥石である。388・389は壺である。388は短い頸部から口縁部が外反する。端部はナデ調整により凹面状を呈する。外面はハケメ調整が丁寧に施され、一部にはミガキ調整が認められる。内面は口縁部がハケメ調整、それ以外はナデ調整である。390～393は甕である。390は小形の甕である。角のとれた平底、上胴部に最大径を持つ体部、緩やかに外反する口縁部である。外面は叩き成形後、ナデ調整である。口縁部の一部にはハケメ調整がみられる。内面は下半部がハケメ調整、上半部がナデ調整である。肩部内面には粘土接合痕跡が認められる。393は上胴部に最大径を持つ。口縁部は「く」の字状に外反し、端部は平坦面と成す。外面はナデ調整を基本とし、口縁部付近にハケメがみられる。内面は下半部はヘラケズリ調整を、上半部はナデ調整を施し、肩部付近にはハケメ調整を施す。また、粘土帯接合痕跡が認められる。器面は被熱により非常に荒れる。394～397は鉢である。394は皿状を呈し、手づくねで成形される。外面には

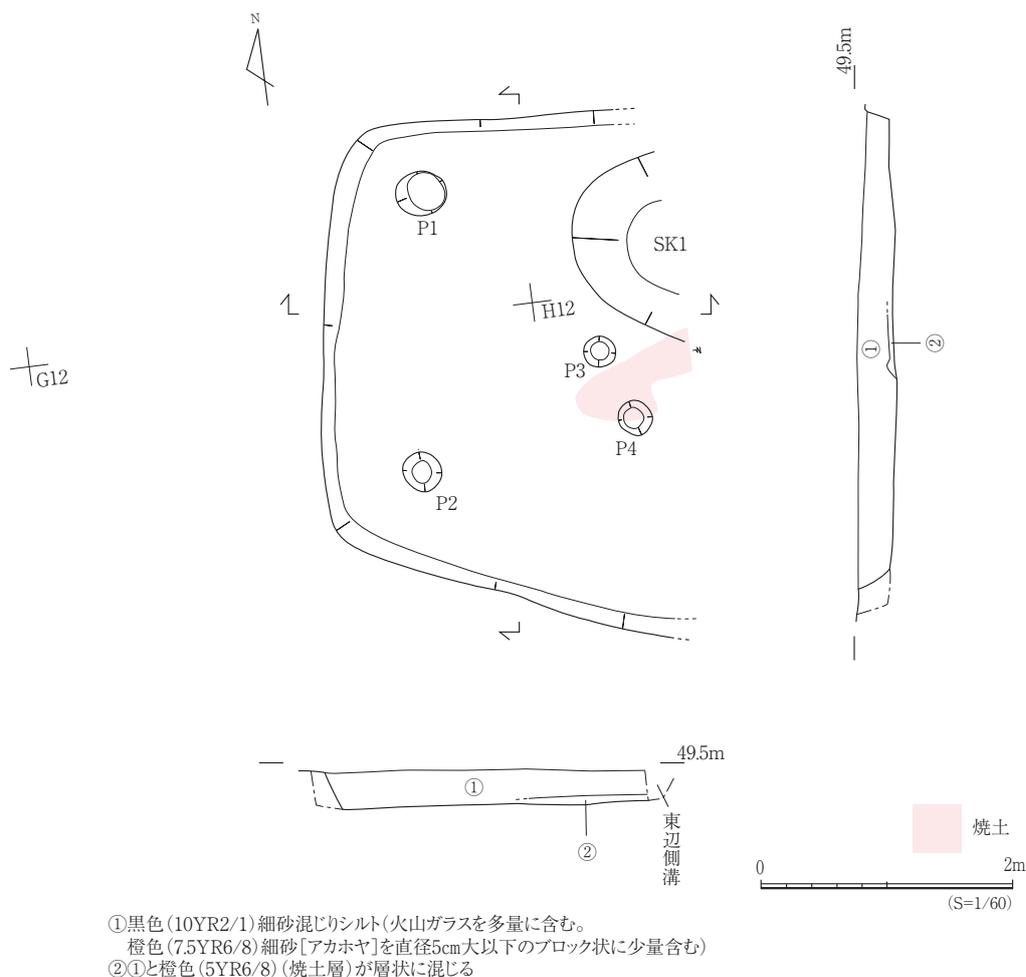


図74 ST26平面図・断面図

指頭圧痕が多くみられる。395は突出した平底の底部から丸みを帯びながら立ち上がり、口縁部を外反させる。外面はヘラ状の工具でなでられ、内面はハケメ調整である。外面にはヘラ状工具により沈線で葉状に描く。ほぼ完形である。396は角のとれた平底であり、底部と体部の境目がわずかに屈曲し、底部を意識する。口唇部は指頭により平坦に作られ、端部をわずかにつまみ出す。外面はナデ調整であり、若干器面に亀裂がみられる。内面はハケメ調整である。ほぼ完形である。397は口縁部を外反させ、端部はハケ状原体で面取りする。外面はハケメ調整、内面はハケメ調整後、ミガキ調整を施す。398は体部の破片であり、外面に櫛描直線文と櫛描波状文を施す。櫛目は細いがタッチは粗い。399は甕の口縁部片か。口唇部は強い横ナデ調整により凹面状を呈する。搬入品の可能性がある。400・401はミニチュア土器である。400は手づくね成形である。口縁部を外反させる。器壁はきわめて薄い。401は中央部が細い円柱状を呈する。402は砂岩の大形砥石である。横断面形は平行四辺形を呈する、長い自然石を利用する。四面とも使用している。線状に使用痕跡が認められる部分がある。熱を受けているものと推定される。

ST22

Ⅲ区の南端に位置する。大部分が調査区外に出るため、正確な平面形は不明である。南北0.8 m、東西6.3 mまで検出した。検出面からの深さは約0.2 mを測る。床面からはピットが4基検出された。検出時の平面形から住居跡として調査したが、住居跡でない可能性がある。

図示した出土遺物は弥生土器の甕、叩石である。403は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は平坦面を成す。体部外面はハケメ調整、口縁部及び内面はナデ調整である。404は底部の破片である。底部は角のとれた平底である。外面は叩き成形後、ハケメ調整である。叩き目の方向は底部付近では急角度を示す。内面は粗いハケメ調整である。405は楕円形の扁平な砂岩の自然石を利用した叩石である。一側面が敲打により大きく割れている。また、上端と下端にも敲打痕跡がみられる。

ST23

Ⅳ区の西部に位置する。検出時は住居跡と考え調査したが、住居跡であるかは疑わしい。平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。規模は東西約5.4 mを測るが、北側が調査区外に出るため、南北は約5.4 mまでしか検出できなかった。検出面から床面までの深さは約0.1 mを測る。埋土は基本的に火山ガラスを多く含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。床面からピット12基、土坑が2基検出されたが、いずれも主柱穴ではないと考えられる。SD1はその形状から壁溝ではないと考える。また、SK2は半裁時に2基のピットであることが確認でき、P11、P12として完掘した。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺、甕、鉢、高杯、ミニチュア土器、砥石である。406～408は壺で

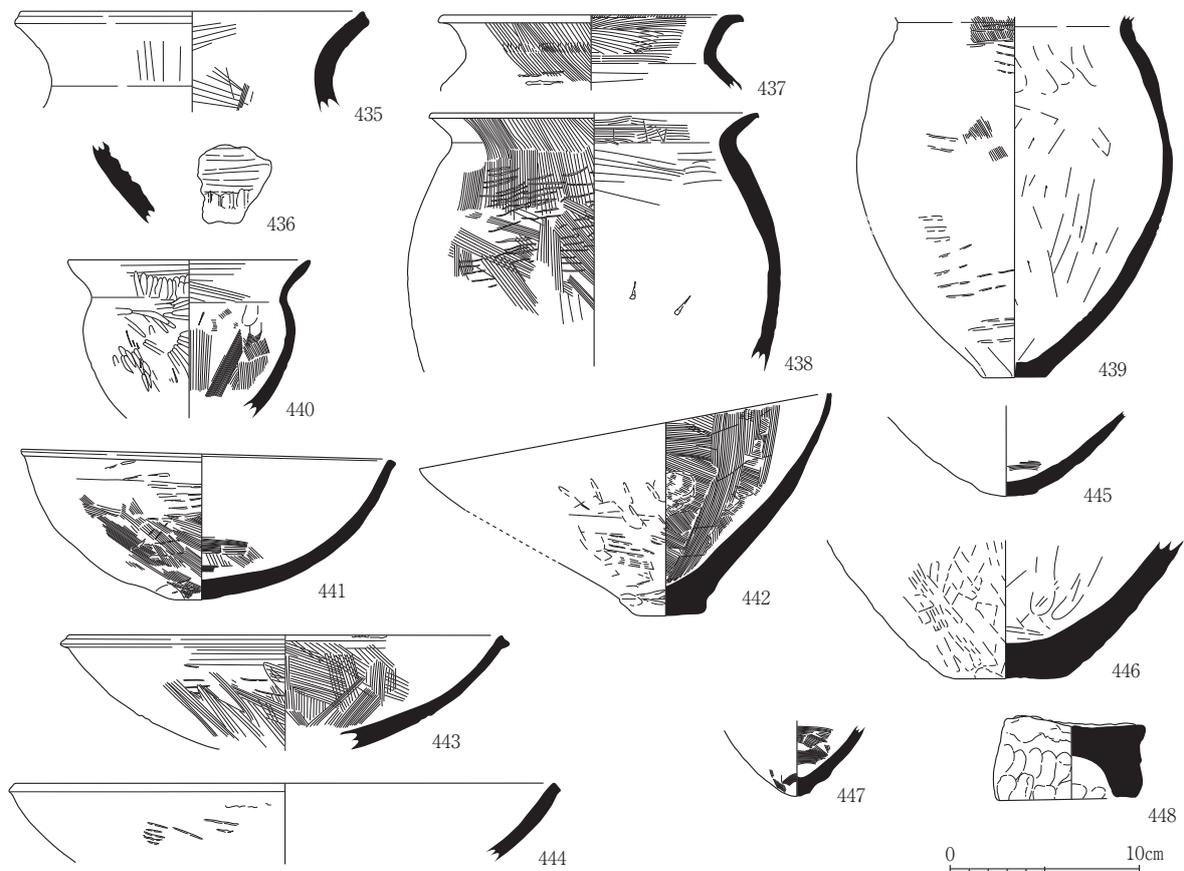


図75 ST26出土遺物実測図

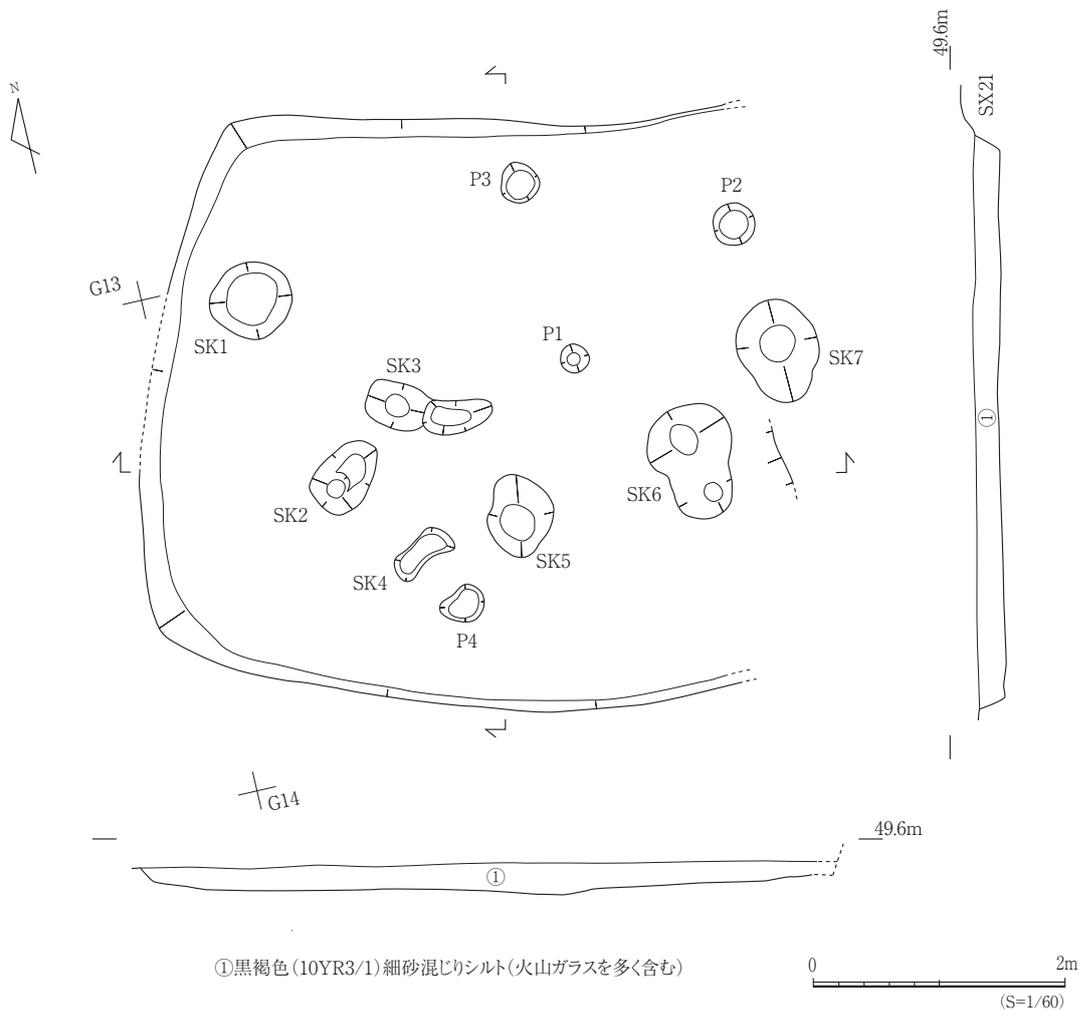


図76 ST27平面図・断面図

ある。406は直立する頸部から口縁部が大きく外反する。口唇部は横ナデ調整により凹面状を呈し、上下にわずかに拡張する。408は壺である。底部は角のとれた平底であるが、丸底に近い。外面はハケメ調整であり、叩き目は確認できなかった。ハケメは下から上にむけ施し、器面から原体を離さずにそのまま下方向に施す部分がある。体部はやや長めの球形を呈する。口縁部は「く」の字状を呈する。搬入土器か。409・410は甕である。409は口縁部を短く「く」の字状に外反させる。口唇部は、ハケ状原体により面取りを施す。口頸部に粘土塊が付着する。外面はハケメ調整、内面はナデ調整である。搬入品である。410は口縁端部をつまみ上げる。讃岐地域からの搬入品である。411～415は鉢である。411はやや小形の鉢である。平底から体部は直線的にのびる。外面はナデ調整、内面はハケメ調整である。412はやや突出した平底から体部は直線的にのびる。外面はナデ調整、内面はハケメ調整とナデ調整を併用する。413は口縁部が短く外反し、体部は丸みをおびる。414は深いタイプの鉢である。体部はあまりひろがらず上方にのび、口縁部は指頭により作り出すため、凹凸がある。外面はケズリ調整、内面はナデ調整である。特徴的な鉢である。415はやや大形の鉢である。口唇部はナデ調整により凹状を呈する。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。内面はハケメ調整である。416・417は底

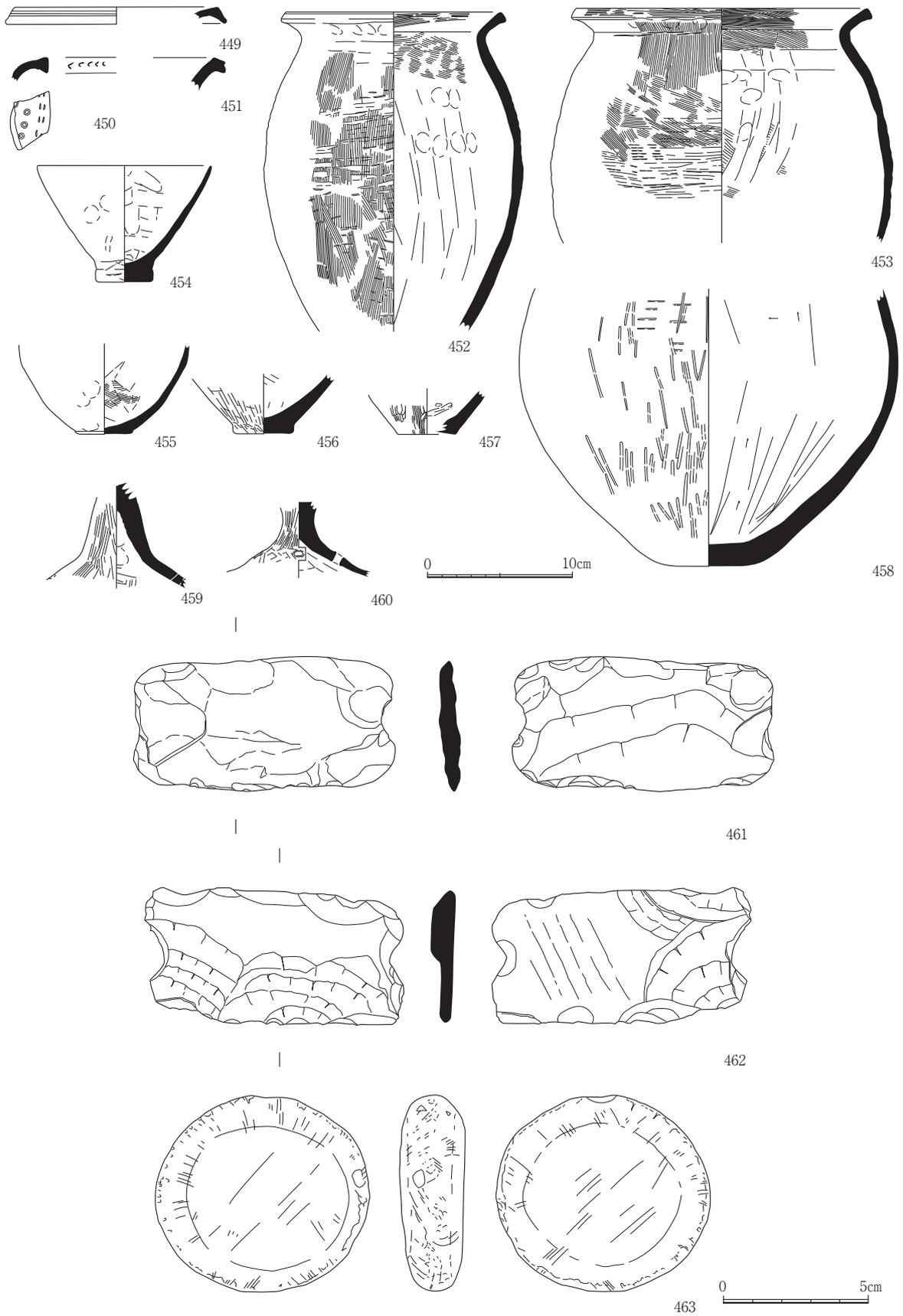


图77 ST27出土遺物実測図1

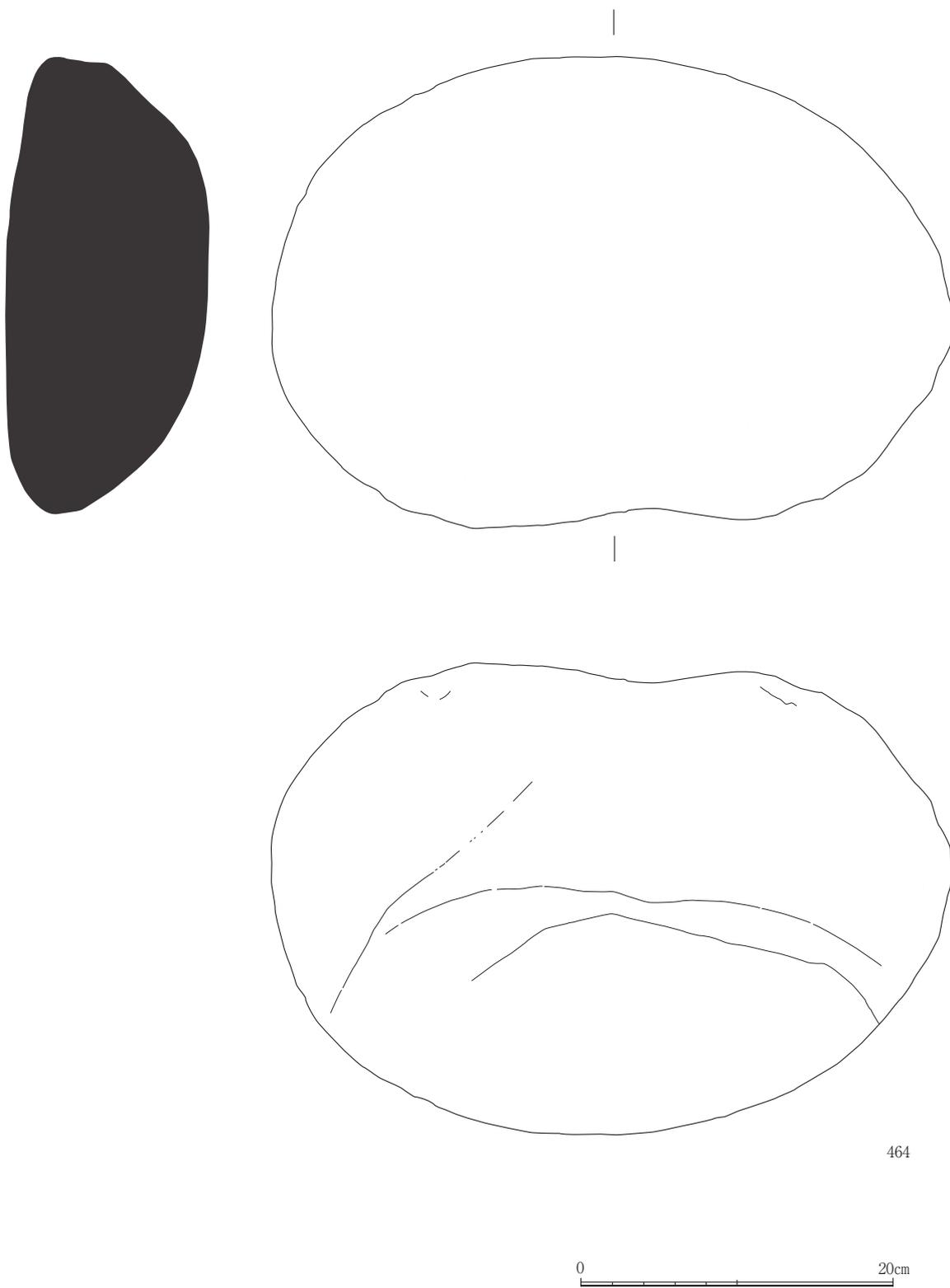


图78 ST27出土遺物実測図2

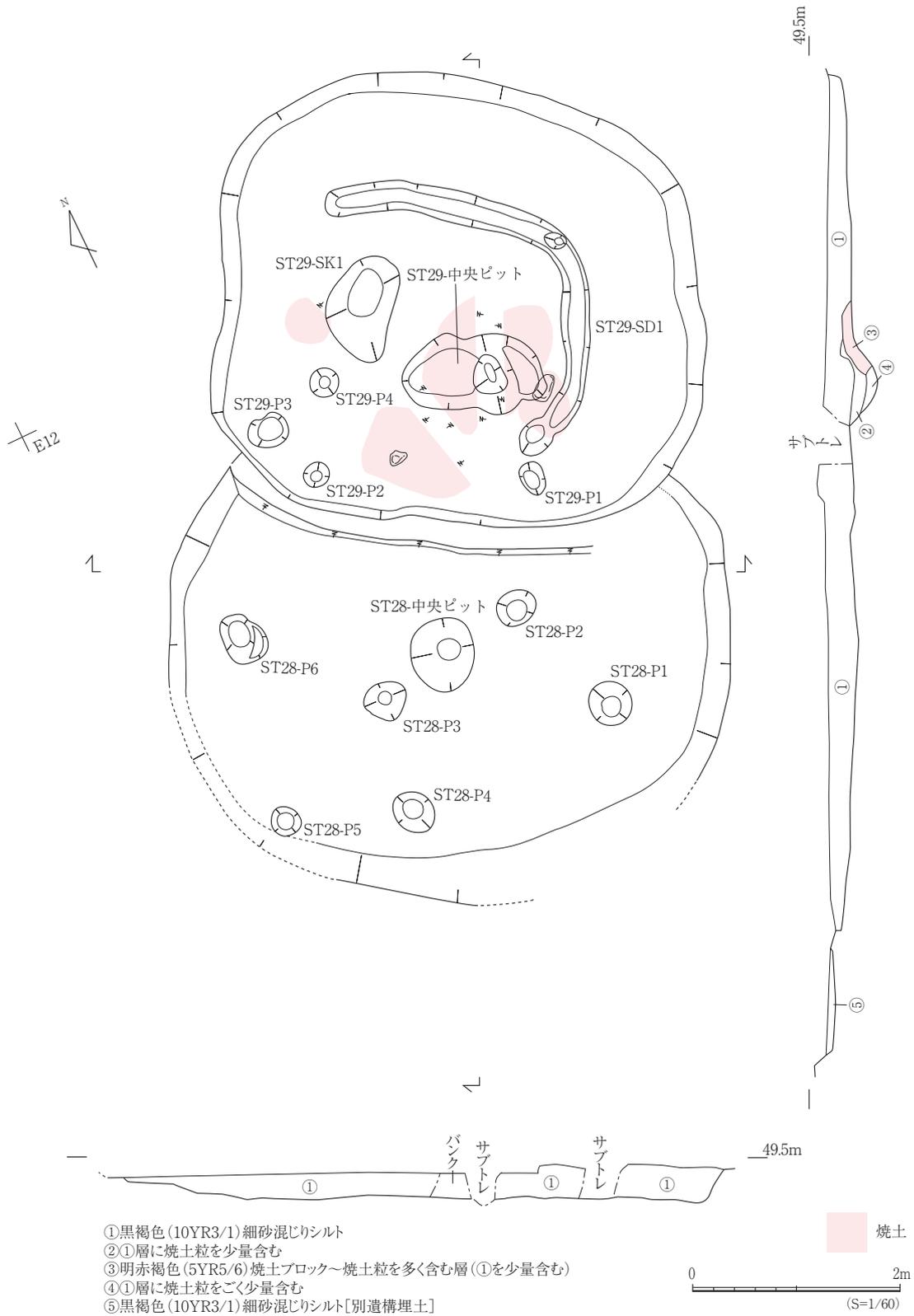


図79 ST28・29平面図・断面図

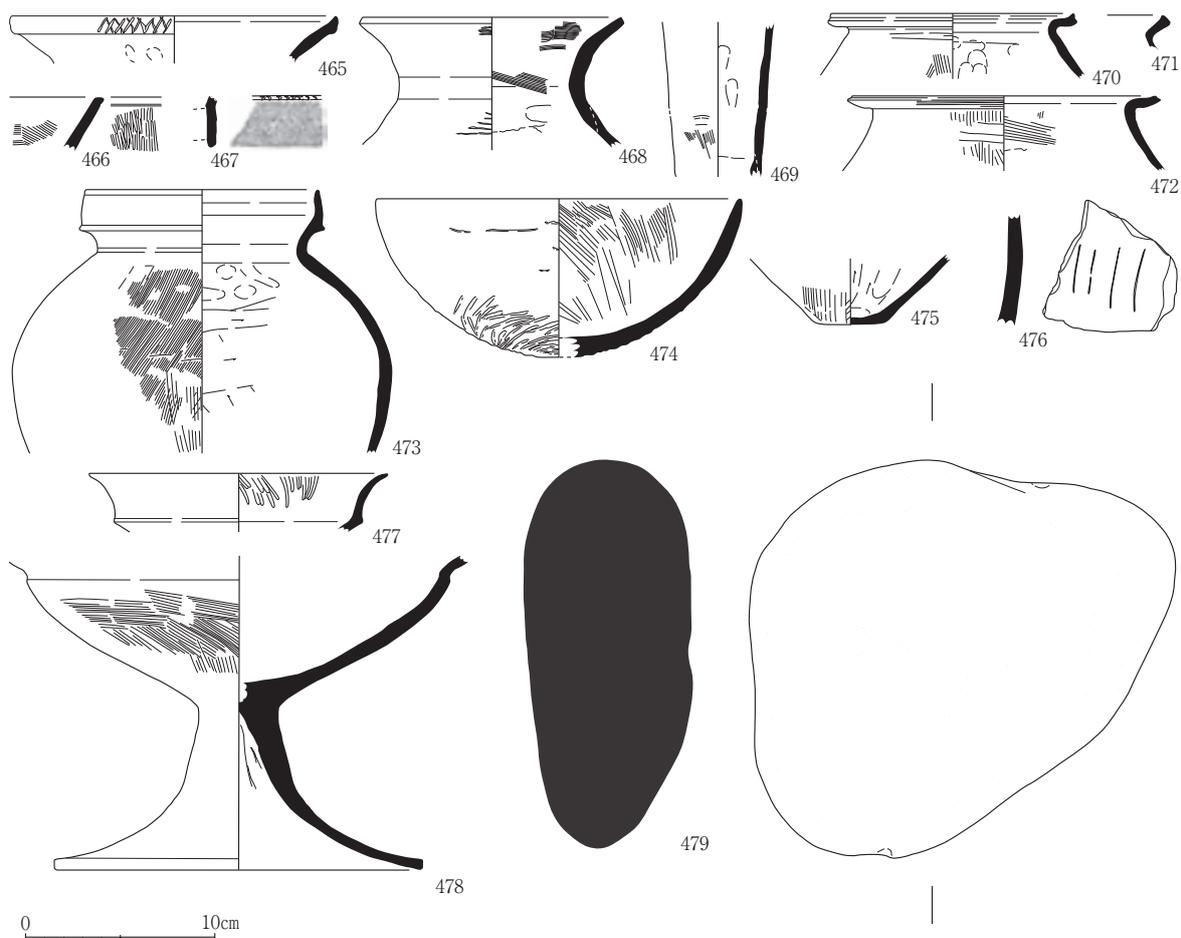


図80 ST28出土遺物実測図

部である。416の外底面は平滑な平底である。体部外面はハケメ調整後、ミガキ調整を施す。搬入品と考えられる。417は大形壺の底部である。丸みを帯びた平底であり、体部は外上方へのびる。外面は叩き成形後、ハケメ調整及びナデ調整を施す。内面はハケメ調整を施し、内底面には指頭圧痕が明瞭に残る。418～420は高杯である。419は裾部の破片である。外面はハケメ調整後、ミガキ調整を施す。内面はハケメ調整である。420は中空の細長い脚柱部であり、内面にはしほり目がみられる。421はミニチュア土器である。丸底、中に最大径を持つ体部、口縁部は短く外反する。内外面ともナデ調整で仕上げる。422は砥石である。

ST24

IV区の中央部に位置し、平面形は隅丸方形を呈する。規模は南北約3.9m、東西約4.3m、検出面から床面までの深さは約0.2mを測る。床面からピット5基が検出されたが、そのうちP2はシミであった。いずれのピットも浅く、主柱穴であるかは判然としない。

出土遺物の接合関係のみてみると、J・K10グリッドの0～10cm出土遺物とST24-P1出土遺物とJ11グリッドのバンクの10cm～床面出土遺物とK11グリッドの10cm～床面出土遺物が接合した。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺、甕、鉢である。423は壺である。口唇部をわずかに肥厚させ、竹管文を二段に配置する。424～427は甕である。425は器面の凹凸が激しく、歪む。体部外面には叩

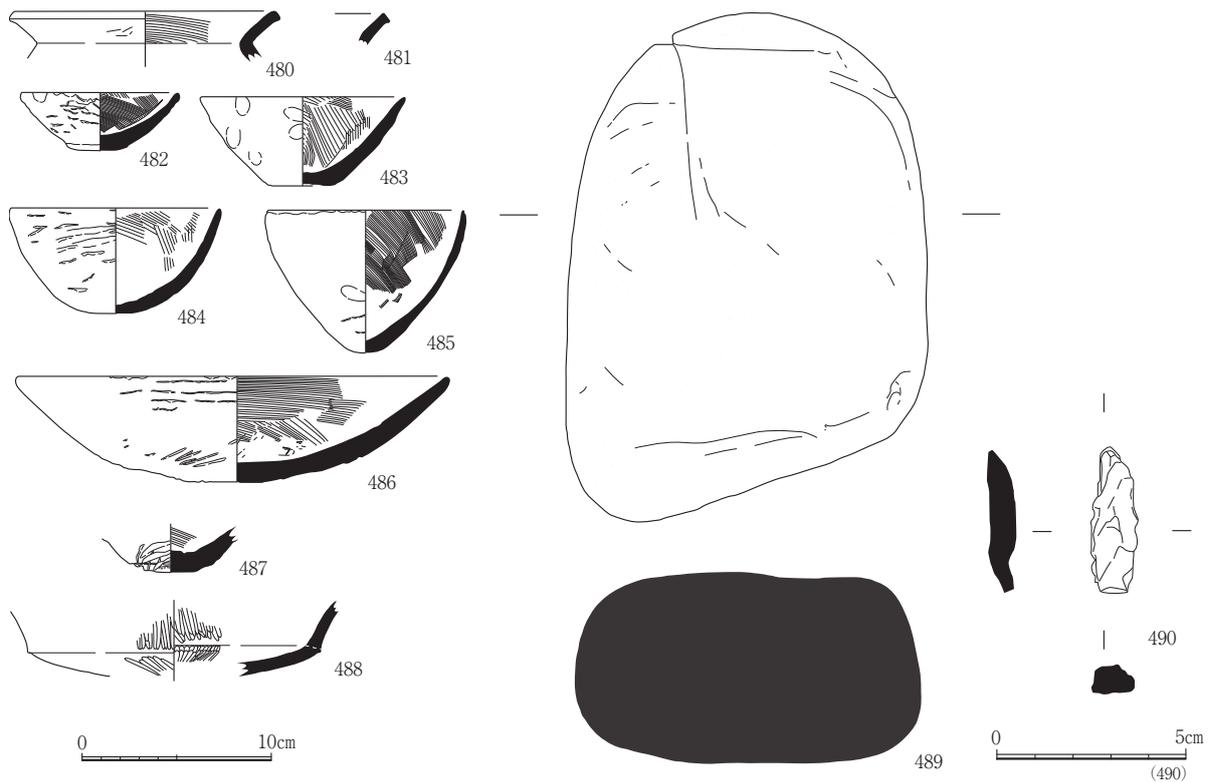


図81 ST29出土遺物実測図

き目を残し、口縁部は叩き目をナデ消す。内面はハケメ調整である。426は頸部の屈曲は弱い。体部外面は叩き目が残存し、口縁部は叩き成形後ハケメ調整を施す。内面はハケメ調整である。427の体部は球形を呈し、口縁部は「く」の字状に屈曲する。底部は丸底である。外面は叩き成形後、下半部にはハケメ調整を施す。内面はハケメ調整である。428～433は鉢である。428は平底である。外面はナデ調整、内面はハケメ調整である。429は丸みを持った平底である。外面はナデ調整、内面はハケメ調整であり、器壁はうすい。430は丸みを持った平底である。体部は内湾しながらのびる。外面には指頭圧痕が顕著に認められる。内面はナデ調整及びハケメ調整である。やや雑な作りである。外面体部には煤が付着し、内底面にはおこげが付着する。ほぼ完形である。431は深めの丸底の鉢である。外面はナデ調整、内面はハケメ調整である。器壁はうすい。432は丸みをおびた平底で半球形の体部を持つ。外面はナデ調整であり、器面に亀裂が認められる。内面はハケメ調整である。433は丸底の深めの鉢である。外面は叩き成形後、ナデ調整を施し、下半部には叩き目が残存する。内面はナデ調整及びハケメ調整である。

ST25

IV区の中央部に位置する。大部分が調査区外に出るため正確な平面形や規模は不明であるが、南北約3.2m、東西約2.6mまで検出

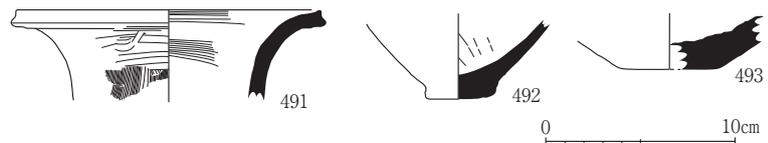


図82 ST28・29出土遺物実測図

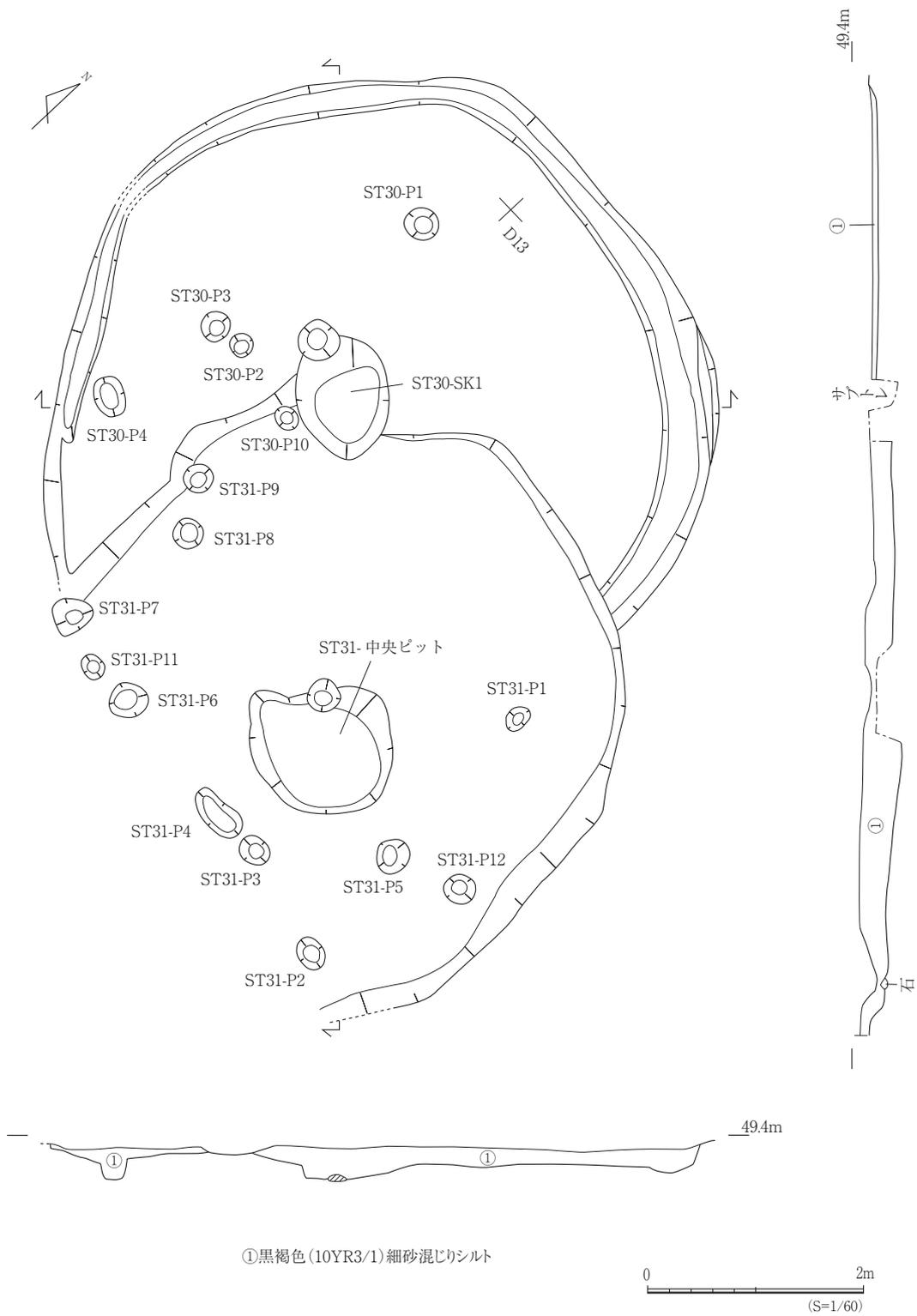


図83 ST30平面図・断面図

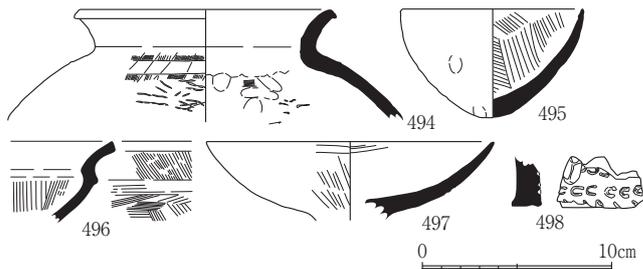


図84 ST30出土遺物実測図

できた。検出面から床面までの深さは約0.1 mを測る。調査できた部分の形状から平面形は隅丸方形であったと考える。ベッド状遺構は南部でのみ検出でき、幅約0.9 m、高さは約0.02 mを測る。P522はこの住居に伴うものと考えられ、その規模や配置から支柱穴の可能性はある。

図示した出土遺物は、弥生土器の支脚（434）である。中空の脚部に短い突起が付き、背面にはつまみが作られる。外面には叩き目が残存し、内面にはしぼり目がみられる。使用により被熱痕が認められる。

ST26

IV区の中央部に位置する。約半分が調査区外に出るため正確な平面形は不明であるが、隅丸方形を呈すると考えられる。規模は南北約4.0 mであり、東西は約2.6 mまで検出できた。検出面から床面までの深さは約0.2 mを測る。埋土は橙色(7.5YR6/8)細砂(アカホヤ)をブロック状に少し含み、火山ガラスを多量に含む黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。床面からは4基のピットと1基の土坑が検出されたが、P1、P2はその規模や配置から支柱穴であると考えられる。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺、甕、鉢、支脚である。435・436は壺である。436は微隆起突帯、浮文を貼付している。437～439は甕である。437は口縁部の破片である。口唇部はハケ状原体により平坦面を成し、外方へ突出させる。438は丸みをおびた体部から口縁部は外反する。口唇部はハケ状原体により面取りを施す。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。内面は胴部下半にケズリ調整を施す。439は体部最大径を中位に持つ。不安定な平底である。外面はやや荒れており調整等の観察は困難であるが、叩き成形後にナデ調整を施しており、比較的丁寧に叩き目をナデ消している。内面は下半部をヘラケズリ調整を施し、上半部には指頭圧痕が目立つ。440～444は鉢である。口縁部が外反する鉢である。外面はハケメ調整後、ミガキ調整を施す。内面はハケメ調整である。441は浅めの鉢である。丸底であり、体部は丸みを持ちのびる。口唇部にはルーズな面取りを施す。外面は叩き成形後、丁寧にハケメ調整を施す。ハケメ調整がやや疎である。口縁部付近の器面には亀裂がみられる。内面は底部がハケメ調整、体部がナデ調整である。ほぼ完形である。442は突出した底部を持ち、体部は直線的にのびる。外面はナデ調整であり、ごくわずかではあるが器面に亀裂が認められる。内面はハケメ調整である。443の口唇部は横ナデ調整により凹面状を呈する。内外面ともハケメ調整である。445～447は底部である。446は大形壺の底部である。445・447は鉢の底部か。448は支脚である。器壁は厚く、中空である。上面は傾斜を持ち、中央部は若干凹む。手づくね成形である。煤が付着する。完形である。

ST27

IV区の中央部に位置する。検出時は住居跡と考え調査したが、住居跡であるかは疑わしい。西側が一部調査区外に出るが、平面形は南北約4.7 mであり、東西は約5.4 mの隅丸方形を呈すると考えられる。検出面から床面までの深さは約0.2 mを測る。埋土は火山ガラスを多量に含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

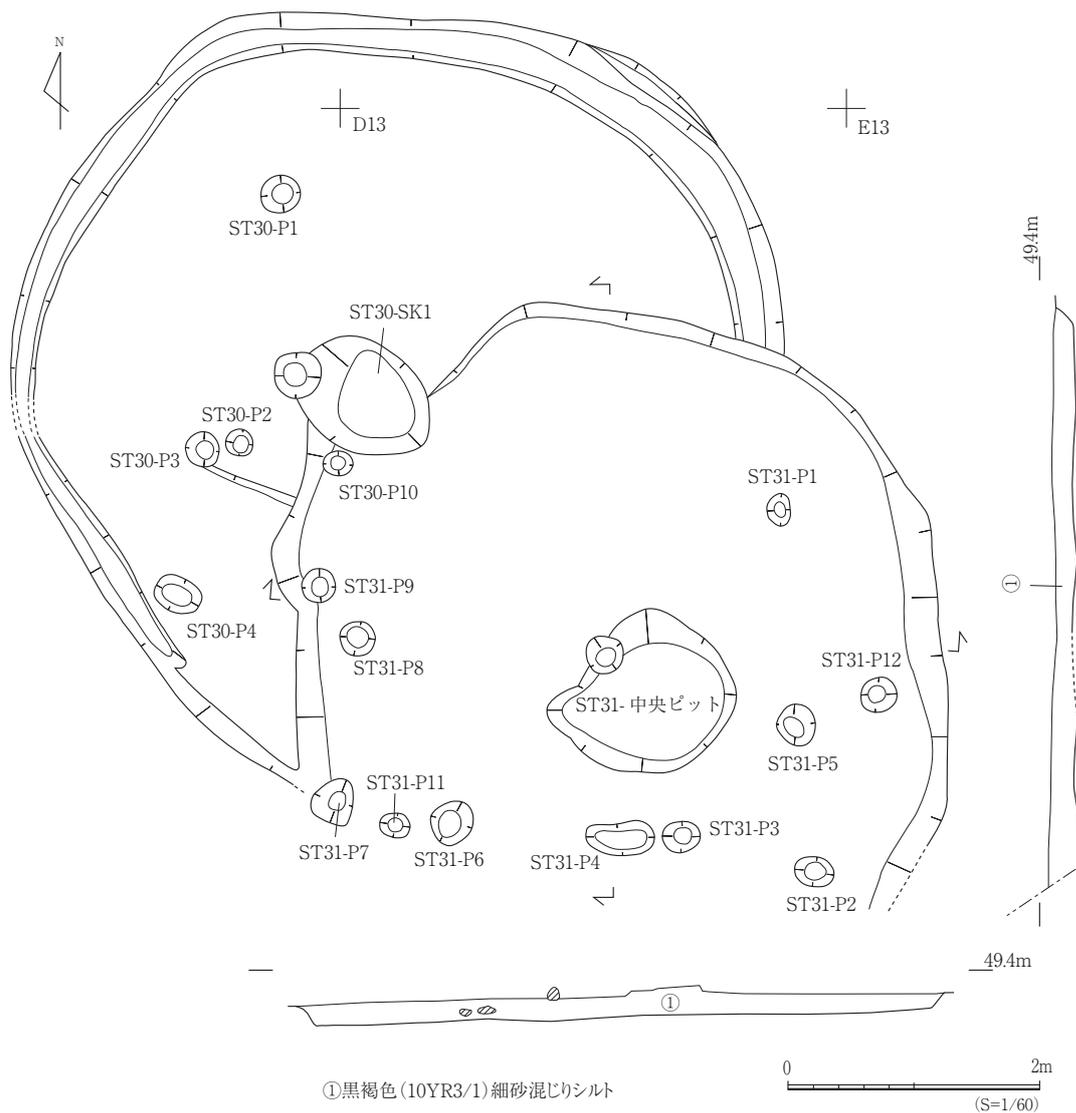


図85 ST31平面図・断面図

出土遺物の接合関係をみてみると、G13グリッドの10cm～床面出土遺物とG13グリッドのSX21の上層出土遺物と接合した。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺、甕、鉢、高杯、打製石包丁、叩石、台石である。449～451は壺である。449は口唇部を下方へ拡張させる。450は口唇部を下方に拡張させ、半裁竹管文を施す。口縁部外面には、半裁した植物の茎等を使用して短い双線を連続して施す。また、円形のスタンプ文を二段以上施す。451は口縁部の小破片であり、口唇部上面を面取りし、下端部をつまみ出す。外面に煤が付着している。452・453は甕である。452の胴部は長い。口縁部の屈曲度合いは弱く、口唇部はハケ状原体でなで、わずかに拡張させる。体部外面は叩き成形後、下半部にハケメ調整を施す。上半部には太めの叩き目が残る。内面はナデ調整を基本とする。粘土帯の接合痕跡が器壁の凹凸からわかる。453はやや大形の甕である。口縁部は短く、「く」の字状に屈曲する。口唇部はハケ状原体により面取りを施す。外面は叩き成形後、上半部にハケメ調整を施す。太めの叩き目が残る。454は鉢である。

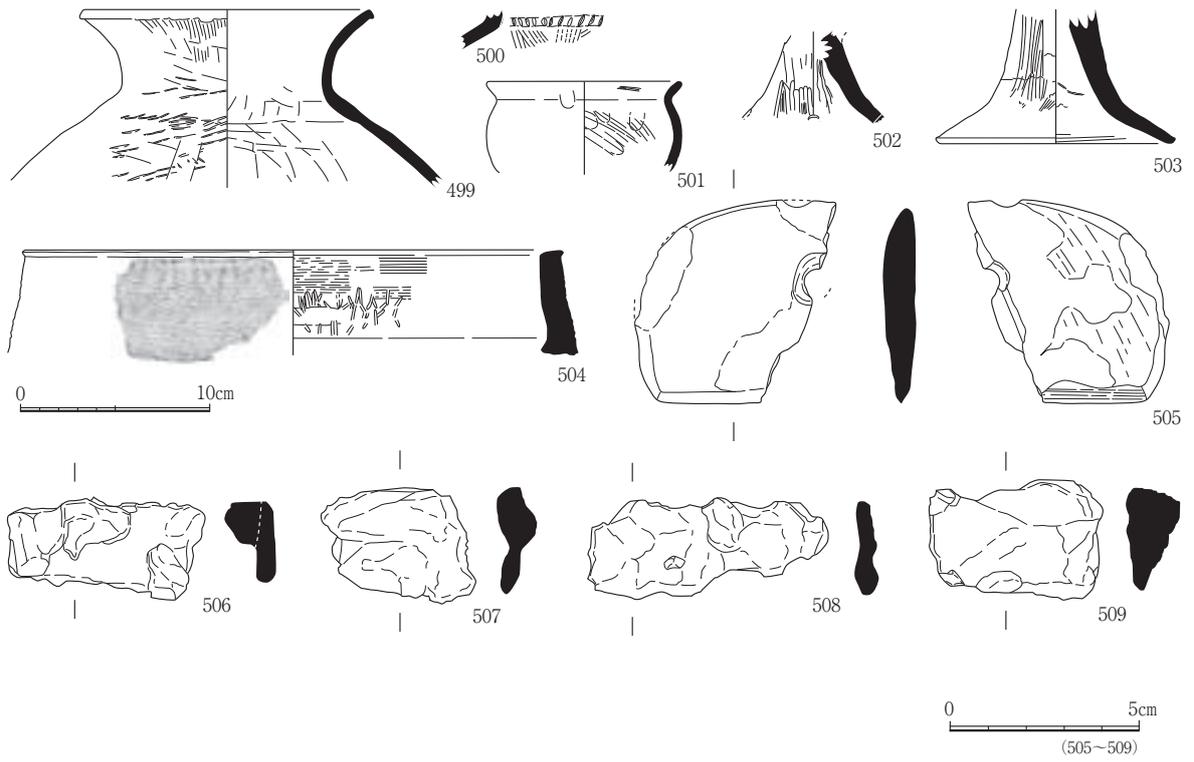


図86 ST31出土遺物実測図

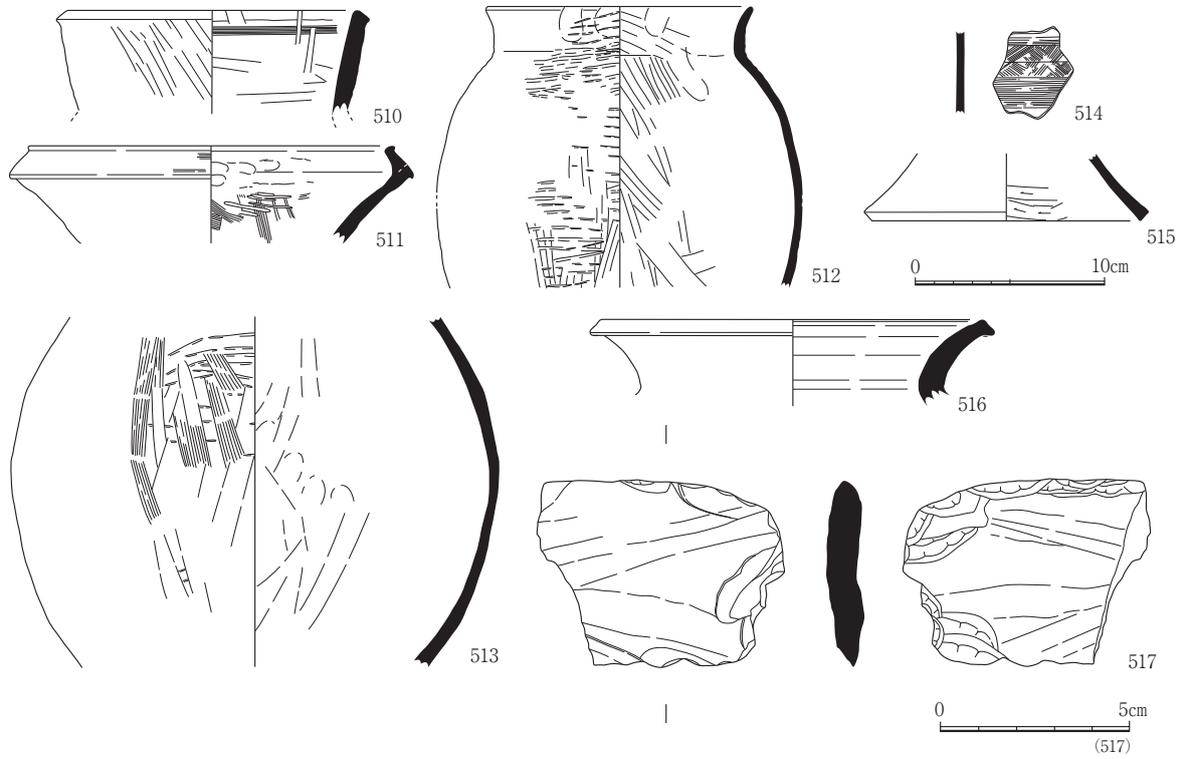


図87 ST30・31出土遺物実測図

突出した平底から体部は直線的にのびる。外面はナデ調整であり、器面には亀裂がみられる。455～458は底部である。455は鉢であり、外面の器面には亀裂が認められる。456は鉢の底部と考えられ、外面にはミガキ調整を施す。457は甕の底部であり、上げ底である。外面は縦方向のハケメ調整後、ミガキ調整を施す。内面はナデ調整である。搬入品である。459・460は高杯である。459は、上半部が中実で下半部が中空の脚柱部から裾部が湾曲気味にひろがる。裾部に小さめの円孔を穿つ。460は細く短い中実の脚柱部から裾部が大きくひろがる。裾部に円孔を穿つ。461・462は打製石包丁である。463は扁平な楕円形の砂岩を利用した叩石である。側面を主として使用する。464は砂岩の台石である。

ST28

IV区の西部に位置し、北部をST29に切られるが、平面形は不整円形を呈すると考えられる。規模は東西約5.4mであり、南北は約3.3mまで検出できた。検出面から床面までの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。中央ピットは住居跡のほぼ中央に位置する。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸約0.7m、短軸約0.6m、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は火山ガラスと炭化物粒を少量含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。床面からは6基のピットが検出され、うちP1、P4、P6、ST29-P1、ST29-P2はその規模や配置から支柱穴であると考えられる。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺、甕、鉢、高杯、台石である。465～469は壺である。465は口唇部を上方へ拡張し、斜格子文を施す。467は加飾壺の二次口縁である。上端部には「C」字状の刺突文を、外面には波状文を施す。また、内面は擬口縁となる。468は頸部から口縁部にかけてゆるやかに

外反し、口唇部には面取りを施す。外面は叩き成形後、ナデ調整を施す。469は長頸壺の頸部である。胎土は比較的精良である。470～473は甕である。470は口縁部を短く屈曲させ、口唇部をつまみ上げる。肩部内面には指頭圧痕が認められる。讃岐地域からの搬入品である。471は口縁部を短く屈曲させ口唇部をつまみ上げる。讃岐地域からの搬入品である。472は口縁部を強く屈曲させ、口唇部を軽くつまみ上げる。口縁部外面は屈曲により、若干膨らむ。体部外面は、ハケメ調整か。口縁部は内外面ともナデ調整を施し、一部はハケメ状を呈する。肩部内面はハケメ調整を施すが、わずかに指頭圧痕がみられる。搬入品である。473の口縁部は短く外反した後、段部を持ち直立する。口唇部は丸くおさめる。体部最大

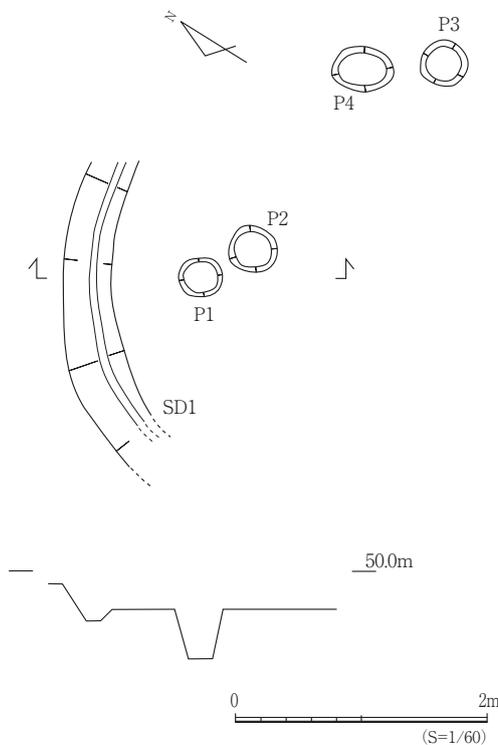


図88 ST32平面図・エレベーション図

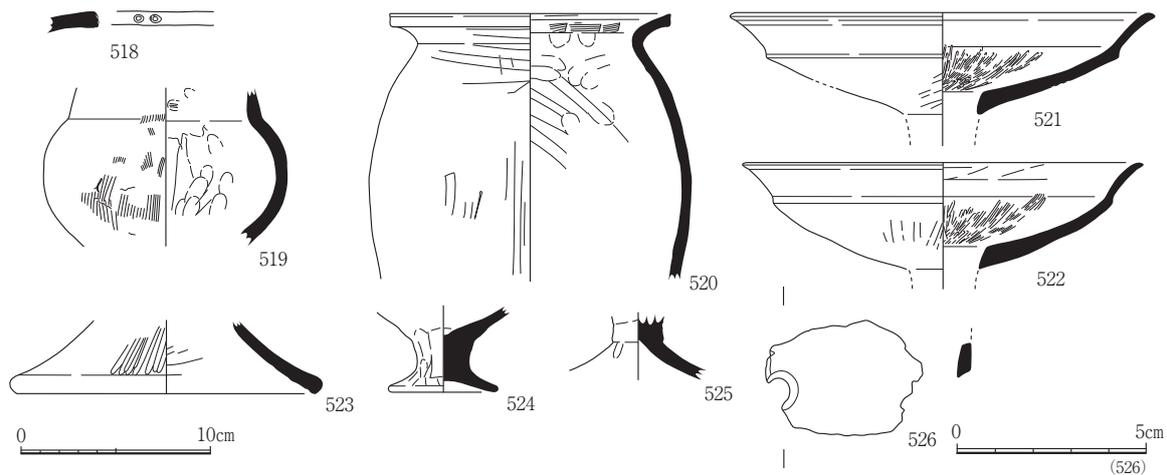


図89 ST32出土遺物実測図

径部に横方向の短線をヘラ状工具で描く。内面は最大部径より下半は横方向のケズリ調整を、上半はナデ調整を施すが指頭圧痕が残る。搬入品である。474は鉢である。丸底で体部はボール状を呈する。外面下半部は叩き目が残存し、上半部は叩き目を丁寧にナデ消している。また、上半部の器面には亀裂が若干みられる。475は473の底部か。外面はミガキ調整、内面はケズリ調整である。476は体部片であり、外面にヘラ状工具で五条以上の沈線を描く。477・478は高杯である。478の杯部は丸みを持ち大きくひろがり、口縁部は短く大きく外反する。脚部は中空の脚柱部から裾部が大きくひろがり、端部には面取りを施す。杯部外面はハケメ調整後、ミガキ調整を施す。脚柱部は縦方向のミガキ調整を施す。479は砂岩のやや小さめの台石である。

ST29

IV区の西部に位置し、ST28を切る。平面形は隅丸方形を呈し、規模は南北約4.3m、東西約4.6m、検出面から床面までの深さは約0.2mを測る。埋土は火山ガラスを少し含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。中央ピットは住居跡のやや南寄りに位置する。平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸約1.3m、短軸約0.7m、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は住居跡の埋土に焼土を含むものであり、一部焼土が非常に多い層が見られる。焼土はこれ以外にも中央ピット周辺から数カ所塊で検出された。床面からは5基のピットと1基の土坑が検出され、うちP4、P5はその規模や配置から支柱穴であると考えられる。またP1、P2はST28の支柱穴であると考ええる。

図示した出土遺物は、弥生土器の甕、鉢、高杯、台石、鉢である。480・481は甕である。481の口唇部は凹面状を呈する。搬入品である。482～486は鉢である。482は浅いやや小形の鉢である。角のとれた平底から体部は外上方へのびる。外面は叩き成形後、ナデ調整を施す。器面には亀裂がみられる。483の底部はやや上げ底で、角がとれる。外面はナデ調整、内面はハケメ調整である。484は丸底であり、体部は丸みをおびる。外面は叩き成形後、ナデ調整を施す。器面には亀裂がみられる。内面は、下半部がナデ調整、上半部がハケメ調整である。ほぼ完形である。485は深い鉢である。底部は尖底状を呈し、不安定である。外面は叩き成形後、ナデ調整である。器面には亀裂が若干認められる。内面はハケメ調整である。486は皿状を呈する鉢である。外面下半には叩き目が残存し、底部付近はナデ調整で仕上げる。上半部は叩き成形後、ナデ調整である。内面の下半部はナデ調整であり、上半部は

ハケメ調整である。完形に近い。487は底部である。小さな底部の周囲を渦巻き状に叩き目が残る。488は高杯である。内外面とも放射状に丁寧なミガキ調整を施す。489は砂岩の台石である。490は鉦の刃部であり、若干上方に反る。491～493はST28とST29が重複する部分で出土した遺物であり、いずれの竪穴住居跡に属すかは判然としない。491は弥生土器の壺であり、口唇部は凹面状を呈する。外面には煤が付着する。492・493は弥生土器の底部である。492は突出した平底の鉢の底部である。493は壺の底部であり、角のとれた平底である。

ST30

IV区の西部に位置し、ST31と切り合う。平面形は直径約6.0mの不整円形を呈し、検出面から床面までの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。SK1は中央ピットであると考えられ、住居跡のほぼ中央に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸約1.3m、短軸約0.8m、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は住居跡の埋土と同一である。床面からは4基のピットが検出され、うちP1、P3、ST31-P9はその規模や配置から支柱穴であると考えられる。壁溝はST31に切られる部分以外からは検出されており、本来全周しているものと考えられる。

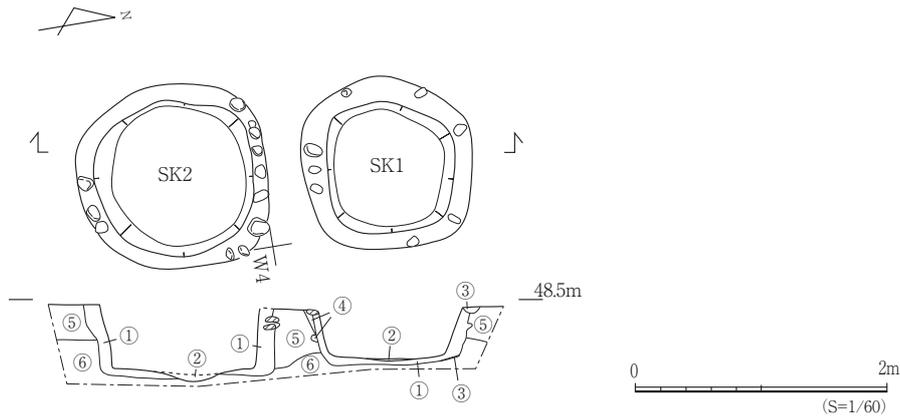
図示した出土遺物は、弥生土器の壺、鉢、高杯である。494は壺である。丸みを持った体部から口縁部は短く外反する。外面は叩き成形後、ナデ調整を丁寧に施す。内面は指頭圧痕が顕著に残り、肩部には粘土接合痕跡がみられる。495は丸底の鉢である。外面はナデ調整であり、内面はハケメ調整である。496・497は高杯である。496は杯部から口縁部の破片であり、口縁部は大きく外反する。外面はハケメ調整を施し、内面は杯部がハケメ調整、口縁部がナデ調整である。497は高杯の杯部であり、浅い。外面は粗いハケメ調整、内面はナデ調整である。498は壺か。外面に棒状の浮文、半裁竹管文を二段施す。また、下端面は擬口縁となる。

ST31

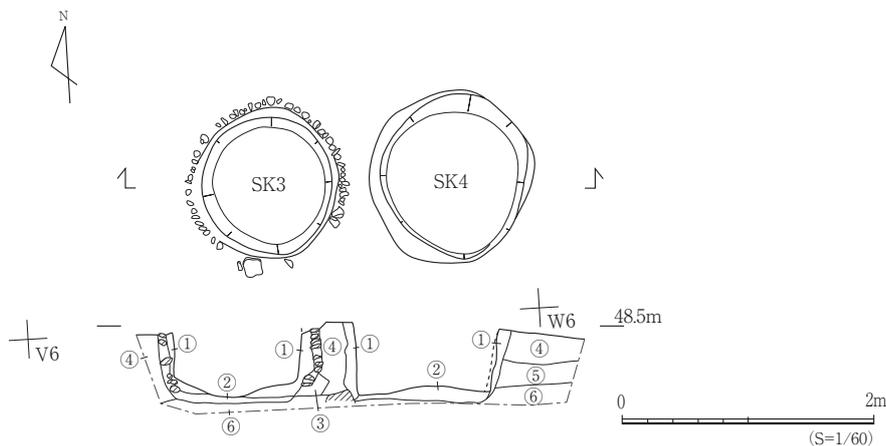
IV区の西部に位置する。ST30と切り合うが、検出時は一つの住居跡として掘削した。床面がST30の床面より一段低くなるため、ST30床面精査時にST31のプランを検出することができた。南側が調査区外に出るため正確な規模は不明であるが東西約5.2m、南北約4.5mまで検出でき、平面形は不整円形を呈するものと考えられる。検出面から床面までの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。中央ピットは住居跡のやや南寄りに位置する。平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸約1.3m、短軸約1.2m、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は住居跡の埋土と同一である。床面からは12基のピットが検出され、うちP1、P5、P6、P8はその規模や配置から支柱穴であると考えられる。また、P9はST30の支柱穴であると思われる。D13グリッドの20cm～床面出土遺物とC13グリッドのⅡ層[包含層]出土遺物が接合した。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺、鉢、高杯、器台、磨製石包丁、鉄器である。499・500は壺である。499は短い頸部から口縁部が外反する。体部外面は叩き成形後、ナデ調整を施す。内面にはナデ調整を施す。粘土接合痕跡が認められる。500は屈曲部に刻目文を施す。501は口縁部が外反する小形鉢である。502・503は高杯である。502は中空であり、外面は縦方向のミガキ調整を施す。内面にはしぼり目がみられる。503は中空の脚柱部にあまりひろがらない裾部がつく。外面は脚柱部がハケメ調整であり、裾部はナデ調整である。内面はナデ調整である。504は器台の口縁部か。口唇部は面取りを施す。下端面は擬口縁となる。外面には櫛描波状文を二段施す。内面はハケメ調整後、ミガキ調整を施す。505は磨製石包丁である。半分ほどが欠損する。506～509は鉄器である。506は摘み鎌か。両

端を折り曲げる。507・508は刀子か。地金の厚さ約3mmであり、下方にいくにつれ薄くなる。刃部か。508は基部にむかい幅が狭くなる。茎か。509は長方形の鉄片であり、地金の厚さは約3mmである。510～517はST30・ST31が重複した部分から出土した遺物であり、いずれの竪穴住居跡に属すかは判然としない。510・511は壺である。510は直口壺である。口唇部は横ナデ調整により平坦面と成す。外面は粗いハケメ調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整である。511は複合口縁壺である。二次口縁が短く内傾する。口唇部はルーズな面取りを施す。外面はナデ調整を基本とし、内面はハケメ調整

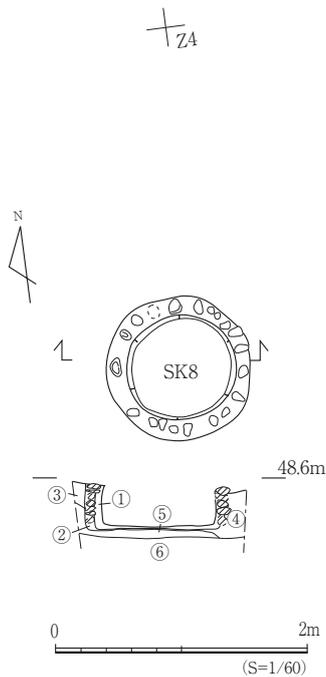


- ①黄橙色(10YR7/8)明赤褐色(2.5YR5/6)〔ハンダ〕
- ②褐灰色(5YR4/1)細砂混じりシルト(ハンダブロックが多く混じる)
- ③明赤褐色(2.5YR5/6)〔ハンダ〕
- ④橙色(2.5YR6/8)〔ハンダ〕
- ⑤にぶい黄橙色(10YR1.7/1)細砂混じりシルト(やや粘性あり、しまりはあまりない。直径3cm大の礫を少量含む)〔II層〕
- ⑥にぶい黄橙色(10YR6/4)細砂混じりシルト(人頭大以下の礫を含む)〔地山〕

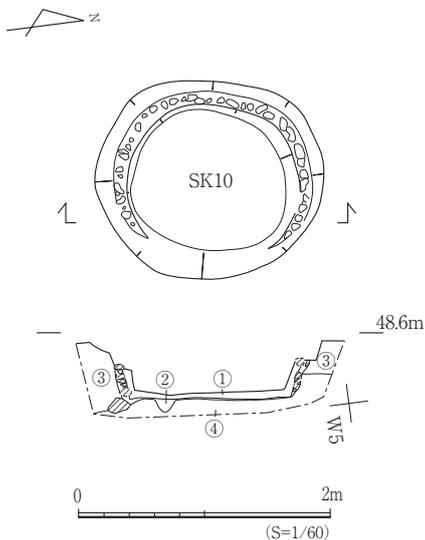


- ①明赤褐色(10YR6/6)〔ハンダ〕
- ②黒色(10YR2/1)細砂混じりシルト(にぶい赤褐色(2.5YR5/4)ハンダの一部か、層状に分布する)
- ③にぶい赤褐色(2.5YR5/4)細砂混じり粘土(ハンダの赤土か)
- ④黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト(SK1・2の断ち割り図⑤と同じ)〔II層〕
- ⑤にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト〔地山〕
- ⑥にぶい黄褐色(10YR7/4)細砂混じりシルト(人頭大以下の礫を多く含む)〔地山〕

図90 SK1～4平面図・断ち割り図



- ① 橙色 (7.5YR6/8) [ハンダ]
- ② 黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト [ハンダ土坑の掘り形]
- ③ 黒褐色 (10YR3/2) 細砂混じりシルト [Ⅱ層]
- ④ 黒色 (10YR2/1) 細砂混じりシルト [別遺構埋土]
- ⑤ 橙色 (7.5YR6/8) 細砂混じりシルト (SK3・4 断ち割り図⑤に対応) [地山]
- ⑥ にぶい黄橙色 (10YR6/4) 細砂混じりシルト (人頭大以下の礫を多く含む) [地山]



- ① 橙色 (7.5YR6/8) [ハンダ]
- ② 黒褐色 (10YR3/2) 細砂混じりシルト (①のハンダが混じる) [ハンダ土坑の掘り形]
- ③ 黒色 (10YR1.7/1) 細砂混じりシルト (SK1・2の断ち割り図⑤と同じ) [Ⅱ層]
- ④ にぶい黄橙色 (10YR6/4) 細砂混じりシルト (人頭大以下の礫を多く含む) [地山]

図91 SK8・10平面図・断ち割り図

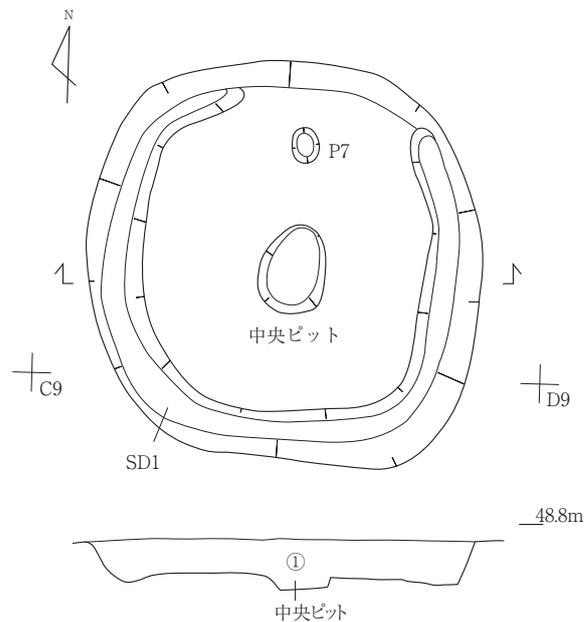
後,部分的にミガキ調整を施す。512は甕である。口縁部の屈曲度合いは弱く短い。口縁部まで叩き成形で作られ,一部にはハケメ調整を施す。口縁部は叩き成形後,指頭により形を整える。内面は粗いハケメ調整を基本とするが,下半部にはミガキ調整を施す。513は甕の体部である。外面は叩き成形後,下半部を中心にハケメ調整を施す。特に底部付近は密に施す。内面はナデ調整及びハケメ調整を施す。514は体部片であり,外面に細かな櫛描文を施す。櫛描直線文帯の間に三角形を組み合わせた文様を描く。515は高杯の裾部である。端部は面取りを施し,外面はナデ調整を,内面にはケズリ調整を施す。高松平野からの搬入品である。516は須恵器の壺である。内外面とも回転ナデ調整を施す。混入品である。517は頁岩の打製石包丁であり,半分ほどが欠損する。両面とも主要剥離面を大きく残す。片刃であり,背部は刃潰し加工を行う。

ST32

Ⅳ-2区で検出した竪穴住居跡である。トレンチ調査であったため,全体の1/5程度を検出したのみである。直径約4.5mの平面形が円形の住居跡と推測できる。検出面から床面までの深さは約0.2mである。床面からは壁溝,支柱穴を検出した。

図示した出土遺物は,弥生土

器の壺, 甕, 高杯, 磨製石包丁である。518・519は壺である。518は口唇部に2個1対の竹管文を施す。519は小形壺の体部である。外面はハケメ調整, 内面はナデ調整を施す。520は甕である。体部は最大径を中位に持ち, あまり張らない。口縁部は大きく外反し, 端部には面取りを施す。外面にはハケメ調整, 内面にはナデ調整を施す。521～523は高杯である。521は外方へのびる杯部から口縁部は大きく外反する。杯部内面は放射状にミガキ調整を施し, 口縁部にはナデ調整を施す。外面は粗いハケメ調整後, ミガキ調整を施す。円盤充填技法である。522と同一個体の可能性がある。523は高杯の裾部である。端部は面取りを施し, 外面にはミガキ調整を, 内面にはケズリ調整を施す。高松平野からの搬入品である。524は脚部である。中実の脚柱部から裾部は短くひらく。内外面ともナデ調整を施す。



① 褐灰色(7.5YR4/1)細砂混じりシルト(直径2cm大以下の礫を少量含む)

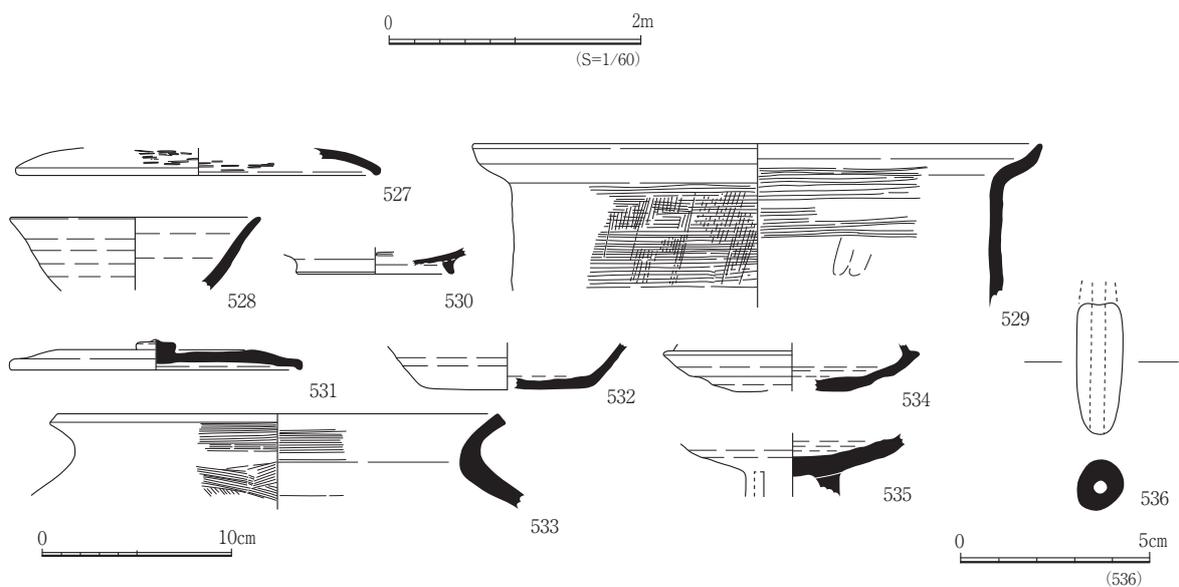


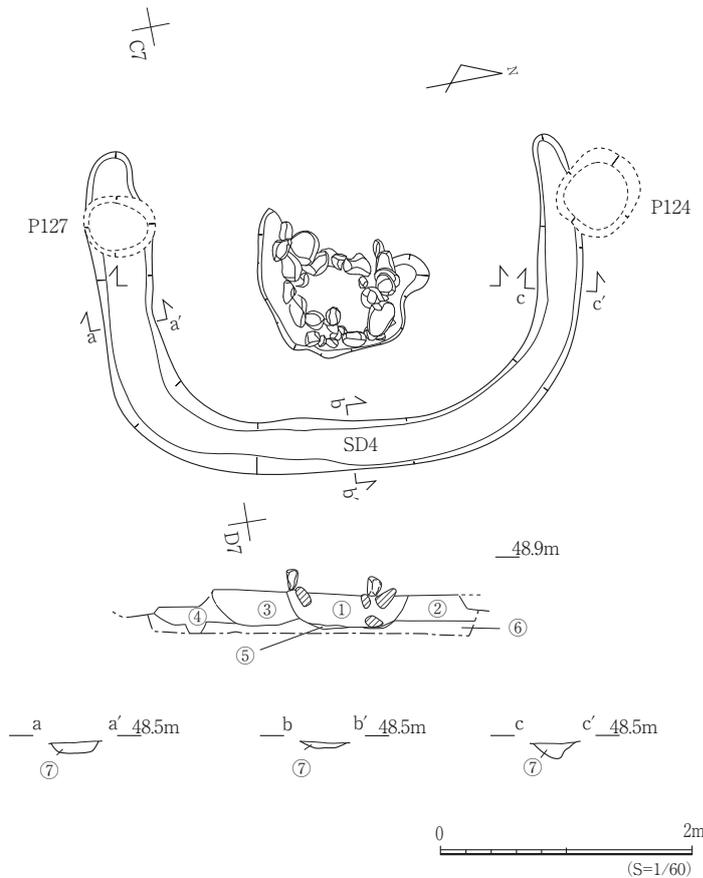
図92 SK25平面図・断面図・出土遺物実測図

525は弥生土器の高杯である。短い中実の脚柱部から裾部が大きくひろがる。外面はミガキ調整及びナデ調整であり、内面はナデ調整である。煤が付着する。526は磨製石包丁の破片である。頁岩である。

(2)SK

SK1

I区の西端にあり、SK1に隣接するいわゆるハンダ土坑である。平面形は直径約1.2mの円形で、検出面からの深さは約0.4mである。壁は厚さ4～7cmのハンダブロックが多く混じる褐灰色(5YR4/1)細砂混じりシルトが1～2cmの厚さで認められることから、廃棄時に底を抜こうとした可能性がある。上層は直径10～20cm大の円礫を含む黒褐色(10YR2/3)シルトであり、下層は円礫が混じる締まりのないハンダ塊である。



- ①黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト(土器片を少量含む)[SK26埋土]
- ②にぶい黄褐色(10YR4/3)細砂混じりシルト(土器片を少量含む)
- ③暗褐色(10YR3/3)細砂混じりシルト(土器片を少量含む)
- ④褐色(7.5YR4/3)細砂混じりシルト(明褐色(10YR6/6)細砂混じりシルトをブロック状に含む)
- ⑤灰黄褐色(10YR4/2)細砂混じりシルト
- ⑥明褐色(7.5YR5/6)シルト(直径1cm大の礫を少量含む)[地山]
- ⑦黒褐色(10YR2/3)粘土質シルト(少量細砂混じる)

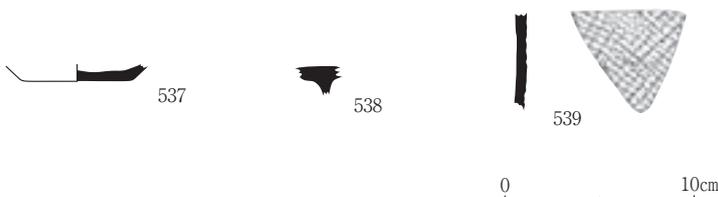


図93 SK26平面図・断面図・出土遺物実測図

可能性がある。上層は直径10～20cm大の円礫を含む黒褐色(10YR2/3)シルトであり、下層は円礫が混じる締まりのないハンダ塊である。

SK2

I区の西端にあり、SK1の南に隣接して存在する。直径約1.2mの円形プランを呈するハンダ土坑であり、検出面からの深さは約0.5mを測る。壁は厚さ10～14cm、底は厚さ約5cmのハンダで固められている。検出面のハンダ上部には円礫が塗り込められており、壁中にも一部礫が認められた。床面中央部は凹み、ハンダが認められないことから廃棄時に底が抜かれた可能性がある。埋土は大きく分けて二層に分層できる。上層は黒褐色(10YR2/3)シルトであり、下層は円礫が混じる締まりのないハンダ塊である。

SK3

I区の西端にあり、SK4に隣接するハンダ土坑である。平面形は直径約1.1mの円形で、検出面からの深さは約0.4mである。壁は厚さ5～10cm、

底は厚さ約10cmのハンダで固められている。壁には円礫が塗り込められており、掘り方は直径約1.3mの円形を呈する。床面中央部は凹み、ハンダが認められないことから廃棄時に底が抜かれた可能性がある。埋土は大きく分けて二層に分層できる。上層は直径10～20cmの円礫を非常に多く含む黒褐色(10YR2/3)シルトであり、下層は円礫が混じる締まりのないハンダ塊である。

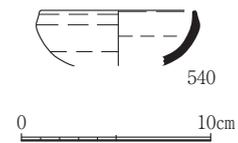


図94 SK29出土遺物実測図

SK4

I区の西端にありSK3の東側に隣接する直径約1.2mの円形プランを呈するハンダ土坑であり、検出面からの深さは約0.5mを測る。壁は厚さ8～10cmのハンダで固められているが、底は壁と異なり、にぶい赤褐色(2.5Y5/4)ハンダの一部が層状に分布する黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルトである。図示していないが、弥生土器の甕の口縁部片等が出土している。

SK5

I区中央部にあり、SK6の西に接する平面形が楕円形のハンダ土坑である。長軸約0.7m、短軸約0.6m、検出面からの深さは約0.1mを測る。底はハンダで固められているが、壁のハンダは崩落し一部ブロック状に残るのみである。埋土は黒褐色(7.5YR2/2)細砂混じりシルトである。

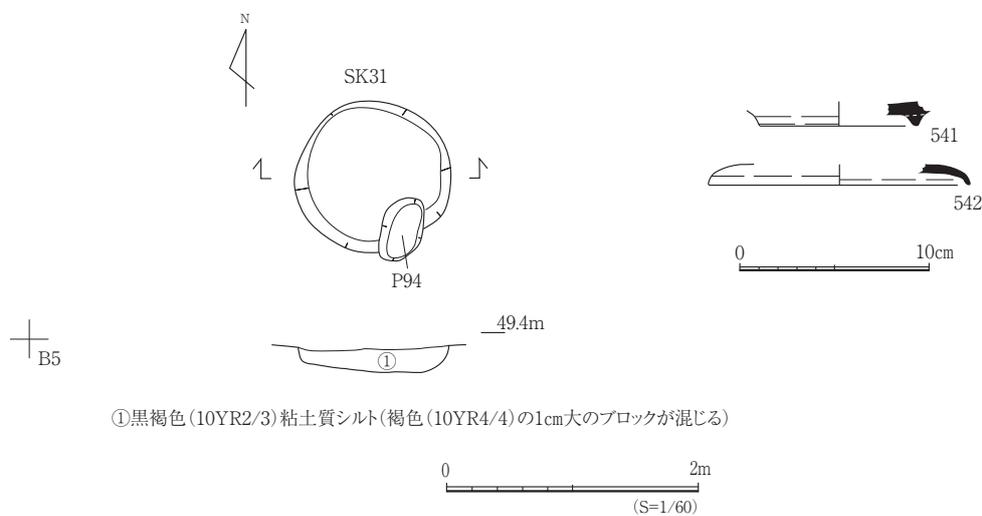


図95 SK31平面図・断面図・出土遺物実測図

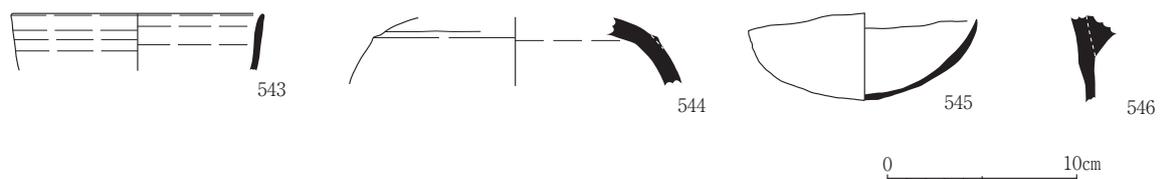
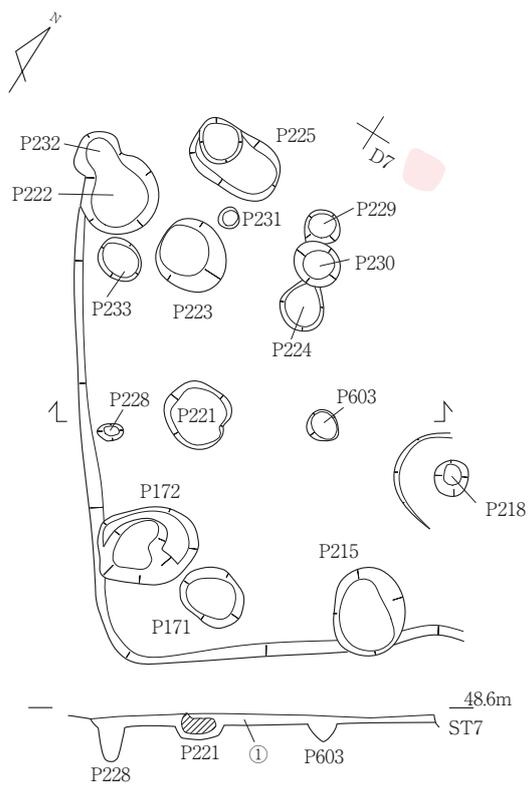


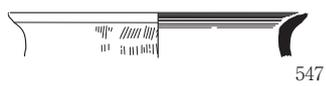
図96 SK33・34出土遺物実測図



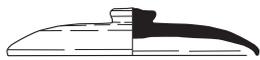
①黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト



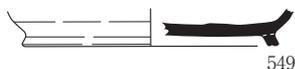
焼土



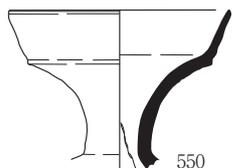
547



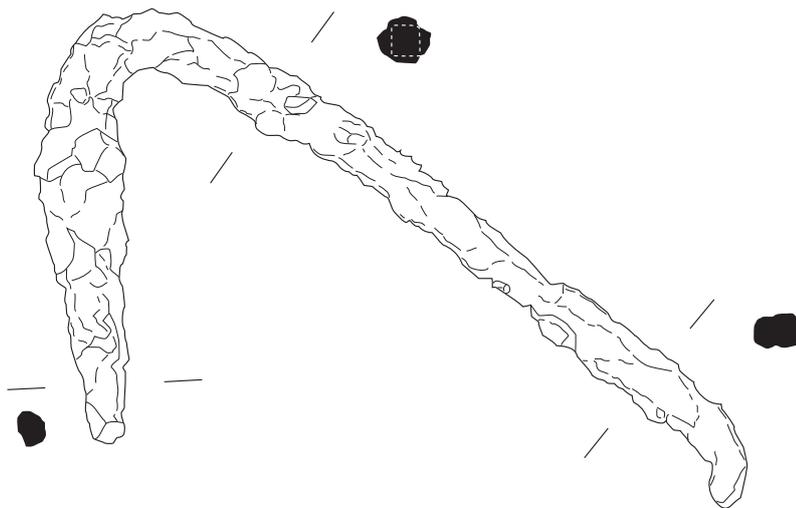
548



549



550



551



図97 SK39平面図・断面図・出土遺物実測図

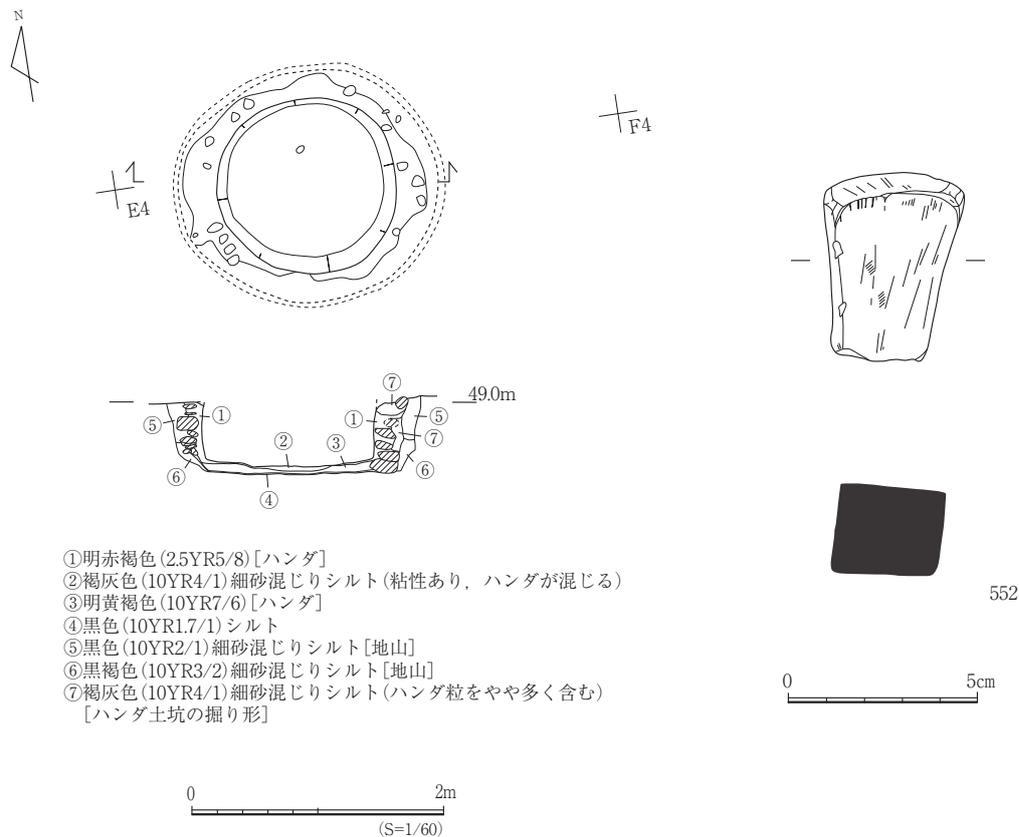


図98 SK40平面図・断面図・出土遺物実測図

SK6

I区中央部にあり、SK5の東に接するハンダ土坑である。北東部がSK13に切られており、また壁のハンダは崩落し一部ブロック状に残るのみであるため大きさは明確ではないが、直径約1.5mの円形であろう。検出面からの深さは約0.3mを測り、底はハンダで固められている。埋土は極暗褐色(7.5YR2/3)シルトであり、5～10cmの円礫を含む。図示していないが、弥生土器の甕、鉢の口縁部片、須恵器の把手等が出土している。

SK7

I区中央部にある。半分以上が調査区外に出ており、また東側をSD1に切られていることから大きさは明確でないが、概ね直径約1.3mの円形であろう。埋土は明赤褐色(5YR5/8)ハンダをブロック状に含む黒褐色(10YR2/2)砂混じりシルトである。

SK8

I区中央部にある平面形が円形のハンダ土坑である。直径約0.8m、検出面からの深さは約0.3mである。壁は厚さ5～8cm、底は厚さ2～3cmのハンダで固められている。壁には円礫が塗り込め

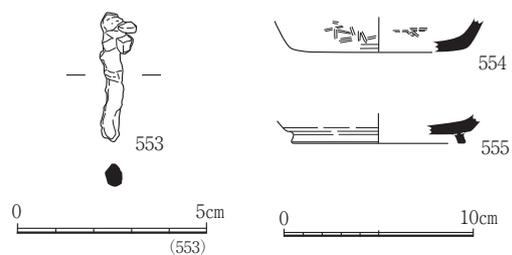


図99 SK42・65 出土遺物実測図

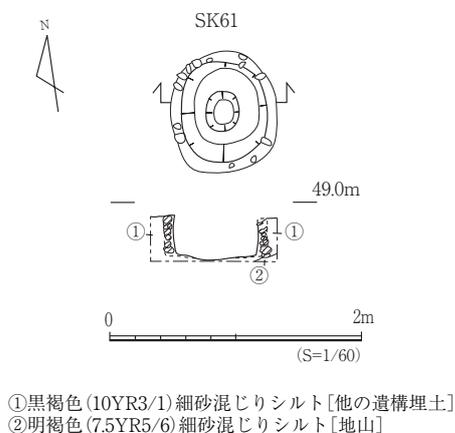
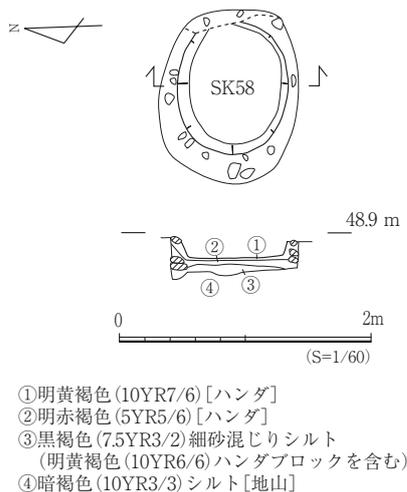
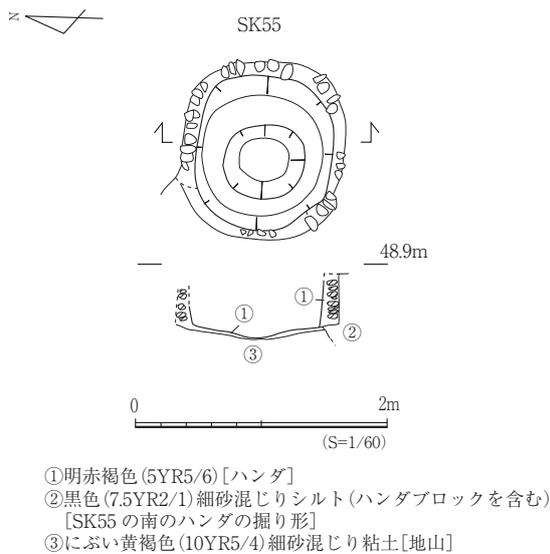


図 100 SK55・58・61 平面図・断ち割り図

られており、掘り方は約 1.1 m の円形を呈する。埋土は直径 10～20 cm の円礫を含む黒褐色(7.5YR2/2)細砂混じりシルトである。

SK9

I 区西部にある。平面形が隅丸長方形で、長軸約 1.3 m、短軸約 0.9 m、検出面からの深さは約 0.1 m を測る。埋土は極暗褐色(7.5YR2/3)シルトである。図示していないが、土師器の播磨型甕の口縁部片等が出土している。

SK10

I 区の西端にあり、SK3 に近接するハンダ土坑である。平面形は直径約 1.3 m の円形で、検出面からの深さは約 0.4 m である。検出時はハンダが見えていなかったが、検出面より深さ約 10 cm にてハンダで固められた壁がみられた。壁の厚さ 5～7 cm、底の厚さ 3～6 cm のハンダで固められている壁には円礫が塗り込められており、掘り方は直径約 1.8 m の円形を呈する。埋土は大きく分けて二層に分層できる。上層は直径 10～20 cm の円礫を含み、1 cm 大のハンダをブロック状に含む極暗褐色(7.5YR2/3)シルトであり、下層は円礫が混じる締まりのないハンダ塊である。

SK12

I 区の西端にあり、SK1 の東に近接する。平面形は楕円形で規模は長軸 1.9 m、短軸は 1.5 m、検出面からの深さは 0.3 m を測る。埋土は直径 10～20 cm 大の円礫を多く含む黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトである。

SK13

I 区中央部にあり、SK6 を切っている。底はハンダで固められているが、壁のハンダは無い。埋土の違いで SK6 と分けることができず、また半分以上が調査区外に出ているため、大きさは明確ではないが、直径約 1.5 m の円形であろう。検出面からの深さは約 0.3 m を測り、埋土は極暗褐色(7.5YR2/3)シルトであり、5～10 cm の円礫を含む。

SK14

I 区の西端にあり、SK4 の南に近接する。平面形は楕円形で規模は長軸約 1.7 m、短軸は約 1.0 m、検出面からの深さは約 0.1 m を測る。埋土は炭化物を極少量含むにぶい黄褐色 (10YR4/3) 細砂混じりシルトである。図示していないが、弥生土器の甕の口縁部片等が出土している。

SK15

I 区の東端にあり、平面形は不整形である。規模は長軸約 2.4 m、短軸は約 1.9 m、検出面からの深さは約 0.08 m を測る。検出時にしっかりとしたプランは見ておらず、全掘後には遺構内北東部において SK20 を検出した。埋土は黄褐色 (10YR5/6) 粘土ブロックを部分的に少量含むにぶい黄褐色 (10YR5/3) 細砂混じりシルトであり、拳大の礫が少量混じる。図示していないが、須恵器の杯 B の底部片、口縁部片等が出土している。

SK16

I 区東部にあるハンダ土坑である。平面形は直径約 0.9 m の円形で、検出面からの深さは約 0.1 m である。壁にハンダは無いが、底はハンダで固められ円形に残存していた。円形の底の周囲には溝状の落ち込みが巡っており、側壁を取り除く際にできた窪みと考えられる。埋土は約 5 cm 大の河原石を非常に多く含む。

SK17

I 区中央部にあり、SK18 の西に隣接する土坑である。側壁はハンダが多く混じる黒褐色土であることから、作り替えたものと考えられる。埋土の状況より、平面形が直径約 1.8 m の円形土坑として作った後、内部に樽状のものを据え周囲を埋め戻し、平面形が直径約 1.4 m の円形土坑に作りかえたものと考えられる。検出面からの深さは約 0.4 m である。埋土はハンダと黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルトが層状になっている。

SK18

I 区中央部にあり、SK17 の東に隣接するハンダ土坑である。平面形は直径約 1.6 m の円形で、検出面からの深さは約 0.5 m である。壁は厚さ 10～20 cm のハンダで固められているが、底にはハンダは無い。側壁には箍痕が残っており、掘方内部に樽を据えた後ハンダを貼ったものと考えられる。検出面ではハンダがブロック状に混じる黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルトであるが、埋土は締まりのない橙色 (7.5YR6/8) ハンダ塊で、下層では人頭大の礫が非常に多く混じる。

SK19

I 区中央部にあるハンダ土坑である。平面形は直径約 1.3 m の円形である。検出面からの深さが約 0.2 m と浅いため、削平をうけている可能性もある。壁、床共にハンダで固められているが、南壁と床面の一部はハンダが欠落している。検出はできなかったが、ピットにより切られているものと考えられる。埋土は人頭大の礫をやや多く含む黒褐色 (7.5YR3/1) 細砂混じり粘土である。P58、P63、P74、P102 と掘立柱建物跡の一部を構成する。

図示していないが、須恵器の蓋、口縁部片等が出土している。

SK20

I 区の東端にあり、SK15 全掘後の床面で検出されたハンダ土坑である。平面形は直径約 0.7 m の円形で、検出面からの深さは約 0.1 m である。壁は削平されたと考えられ、底しか残っていない。周囲には 10～20 cm 大の河原石が巡らされている。埋土は黒褐色 (10YR3/2) 細砂混じりシルトである。

SK21

I区中央部, SK22の南に隣接するハンダ土坑である。平面形は直径約0.9mの円形で, 検出面からの深さは約0.1mである。壁, 床共にハンダで固められており, 検出面のハンダ上部には拳大の円礫が塗り込められている。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

SK22

I区中央部, SK21の北に隣接するハンダ土坑である。平面形は直径約1.0mの円形で, 検出面からの深さは約0.2mである。壁, 底共にハンダで固められており, 検出面のハンダ上部には拳大の円礫が塗り込められている。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトとにぶい黄橙色(10YR3/1)ハンダが層状に混じる。

SK23

I区中央部にSK22の北に接するハンダ土坑である。SD2, SD3を切る。平面形はSK22の外形に合わせ一部凹ませて変形させているが, 直径約1.3mの円形である。検出面からの深さは約0.3mである。壁は15~20cmのハンダで固められているが, 底にはハンダは無い。検出面のハンダ上部には拳大の円礫が塗り込められている。埋土は黒褐色(10YR2/1)細砂混じり粘土と明褐色(7.5YR5/6)ハンダ片が互層をなし, レンズ状に堆積している。

SK25

I区西部南端で検出した竪穴住居跡である。一辺が約3.1mの隅丸方形を呈し, 検出面から床面までの深さは約0.3mである。埋土は2cm大以下の礫を少量含むやや粘性のある褐灰色(7.5YR4/1)細砂混じりシルトである。床面精査時に中央ピットとピット1基, 壁溝を検出した。中央ピットは住居跡のやや南寄りに位置し, 一辺が約0.5mの隅丸方形を呈し, 深さは約0.1mを測る。埋土は住居跡

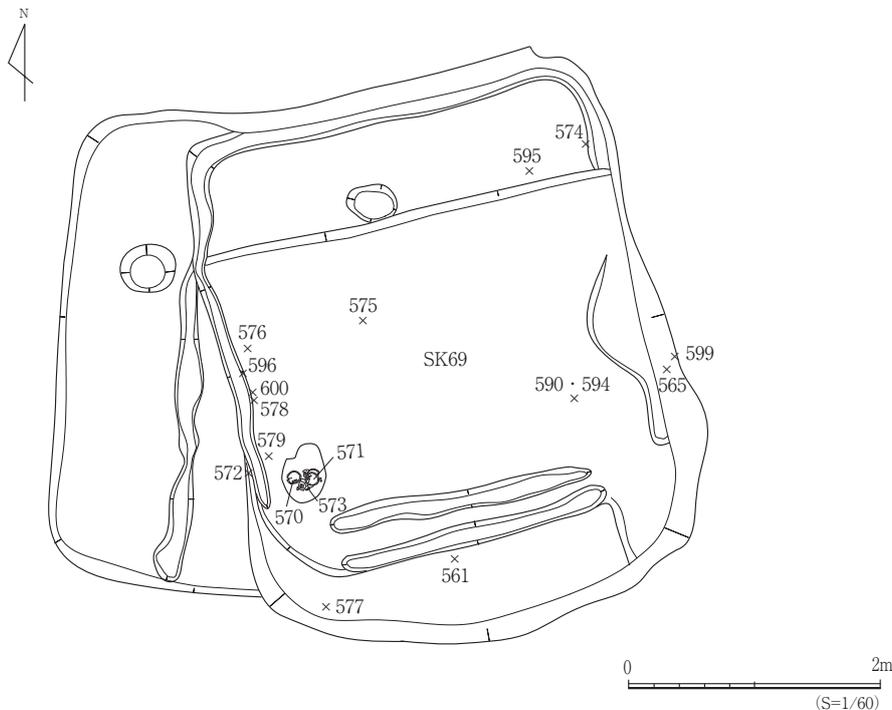


図101 SK69遺物出土状況図

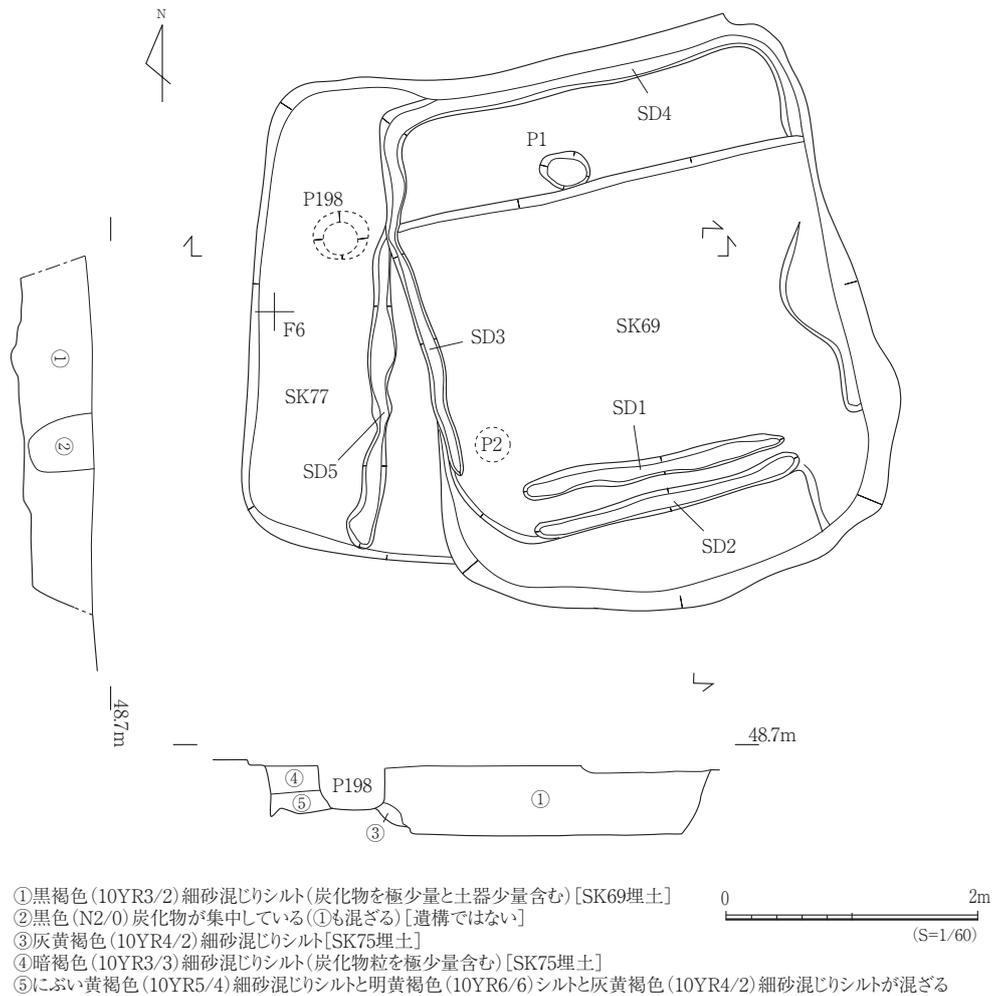


図102 SK69平面図・断面図

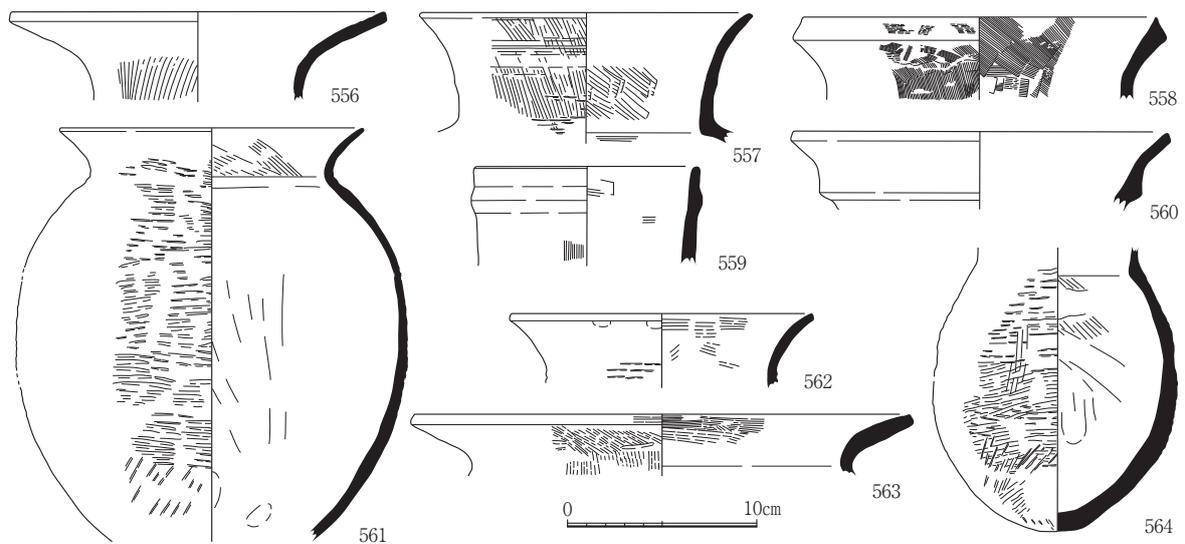


図103 SK69 出土遺物実測図1

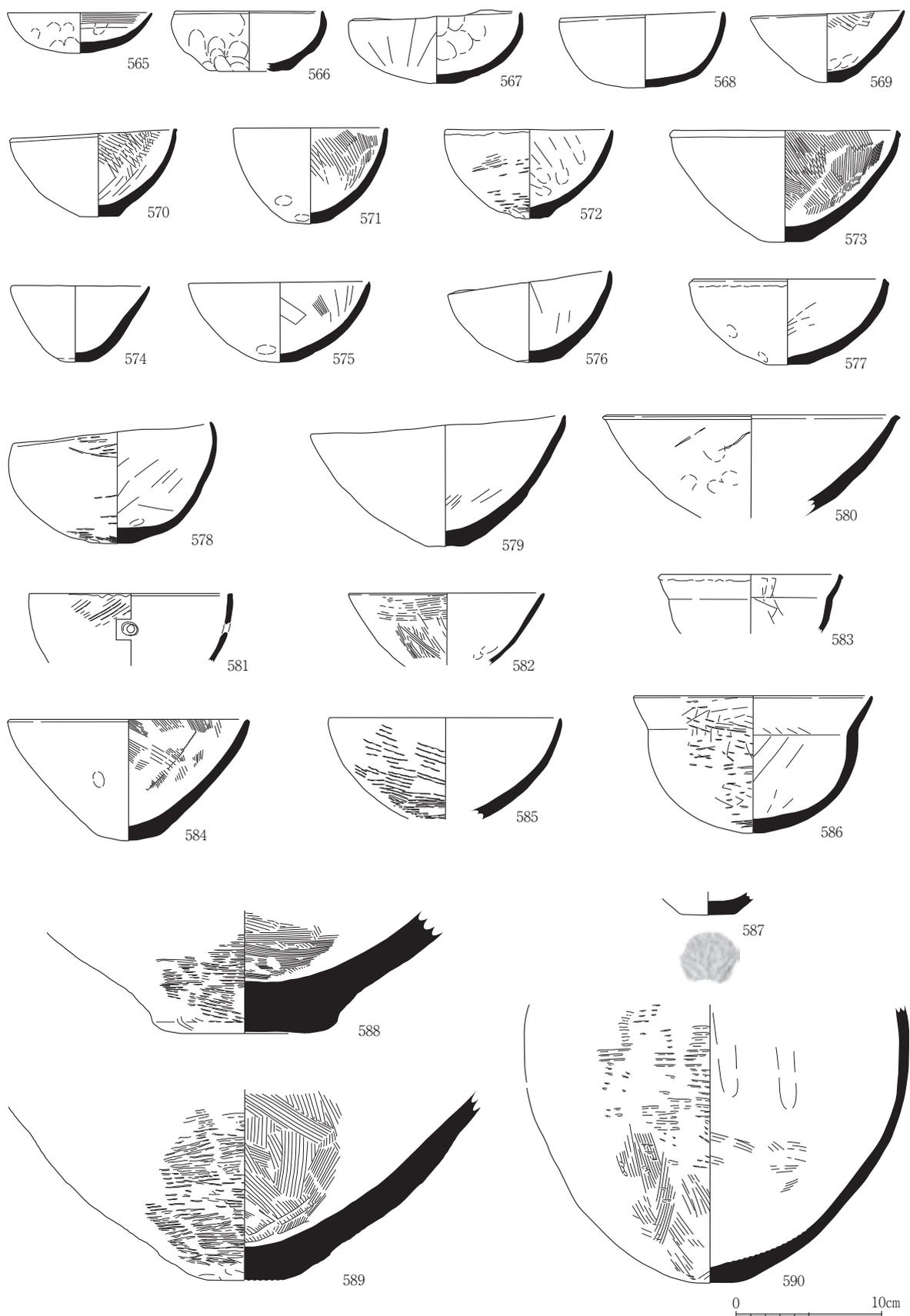


图 104 SK69 出土遺物実測図 2

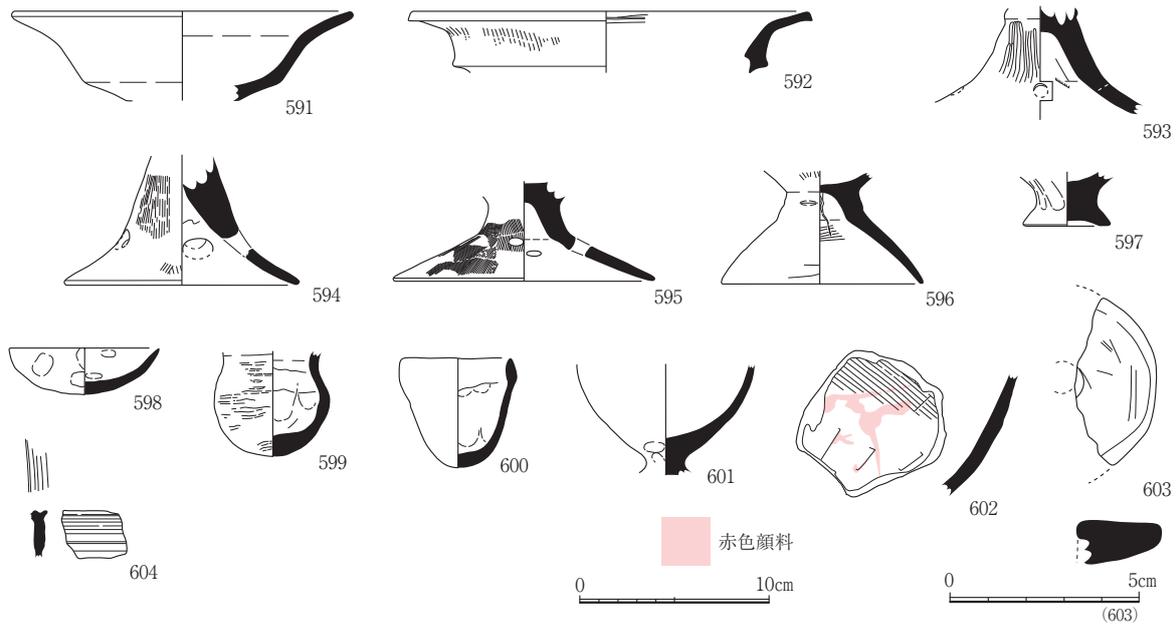


図 105 SK69 出土遺物実測図 3

埋土と同じである。ピットは平面形が直径約 0.2 m の円形で、深さは約 0.06 m である。埋土は褐灰色 (10YR4/1) 細砂混じりシルトである。壁溝はほぼ全周し、その規模は幅約 0.2 m、深さ 0.06 m を測る。埋土は住居跡埋土と同じである。

図示した出土遺物は、土師器、須恵器、土錘である。527 は土師器の蓋である。口縁端部を下方につまみ出し、端部は丸くおさめる。内外面ともミガキ調整を施す。528 は土師器の杯である。口縁端部をわずかに外反させる。内外面とも回転ナデ調整を施し、ナデ単位の凹凸が認められる。529 は土師器甕である。口縁部は大きく外反し、端部をつまみ上げる。外面は縦方向のハケメ調整後、横方向のハケメ調整を施す。内面は口縁部から肩部までは横方向のハケメ調整を施し、胴部はナデ調整である。煤が付着する。530 は黒色土器碗である。高台の断面は細めの長方形を呈する。内黒である。内面はミガキ調整である。531 は須恵器の蓋である。平らな天井部から口縁部端を下方に折り曲げ、端部を丸くおさめる。外面中央部に小さめの扁平な擬宝珠様のつまみが付く。内外面とも回転ナデ調整である。やや焼け歪む。532 は須恵器の杯である。やや摩耗する。外底面にはヘラ切り痕跡が残る。内外面とも回転ナデ調整である。533 は須恵器の壺である。口頸部は「く」の字状を呈し、口唇部は凹面状を呈する。534 は須恵器の杯身である。受け部は水平に短くのび、端部を尖らせる。立ち上がりは欠損するが、短く内傾するものと考えられる。底部は回転ケズリ調整を施す。混入品である。535 は須恵器の高杯である。脚部には杯底部まで方形の透孔を入れる。混入品と考えられる。536 は土錘である。両端は欠損する。

SK26

I 区東半部、西部に位置する。SK18 に切られる。短軸約 1 m、長軸は約 1.2 m まで検出した。深さは検出面から約 0.25 m を測り、底面は平坦である。長軸を東西方向にとる。拳大から人頭大の大きさの河原石、角礫を長方形に配置するものと推測されるが、西小口側は少ない。南側の内ラインは比較的

揃っている。図示した礫のなかにはハンダ土坑を構築しているものが含まれている可能性がある。補足調査を行いながら周辺部の掘削、遺構検出を行ったところ、SD4を検出した。この溝との位置関係、主軸方向が一致していることから、SK26は周溝、マウンドを伴う土坑墓と考えられる。

図示した出土遺物は、土師器、須恵器である。537は土師器の杯である。外底面にはヘラ切りの痕跡が認められる。やや摩耗する。537は土師器の椀か。断面形が三角形の高台がつく。539は須恵器の体部片である。外面には格子目の叩き目が残存する。図示していないが、弥生土器の鉢の口縁部片、土師器の椀の高台片、杯の底部片等が出土しているが、出土量は少ない。



図 106 SK69 出土遺物実測図 4

SK28

I区西部北端にある。北側は調査区外に出るため、正確な平面形は不明であるが、不整形であると考え。規模は東西約1.1mを測り、南北は0.7mまで検出できた。検出面からの深さは約0.3mを測る。

SK29

I区西部北端にある。北側は調査区外に出るため、正確な平面形は不明であるが、不整形であると考え。規模は東西約1.1mを測り、南北は1.1mまで検出できた。検出面からの深さは約0.2mを測る。540は須恵器の杯身か。やや小形である。口縁端部は丸くおさめる。蓋の可能性はある。

SK31

I区中央部にあり、P94に切られる。平面形は直径約1.2mの円形で、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は1cm大の褐色(10YR4/4)粘土をブロック状に含む、黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。541は土師器の杯Bである。断面形が台形の高台がつく。542は須恵器の蓋である。焼成が悪く、かなり摩耗している。図示していないが、弥生土器の鉢の口縁部片、土師器の杯あるいは皿の口縁部及び底部片が出土している。

SK32

I区中央部にある。平面形は楕円形で、規模は長軸約1.0m、短軸約0.9m、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)粘土質シルトである。図示していないが、弥生土器の甕の口縁部片が出土している。

SK33・35

I区中央部にある。北側をSD3に切られるため正確な平面形は不明であるが、直径約1.4mの円形であると考え。検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色

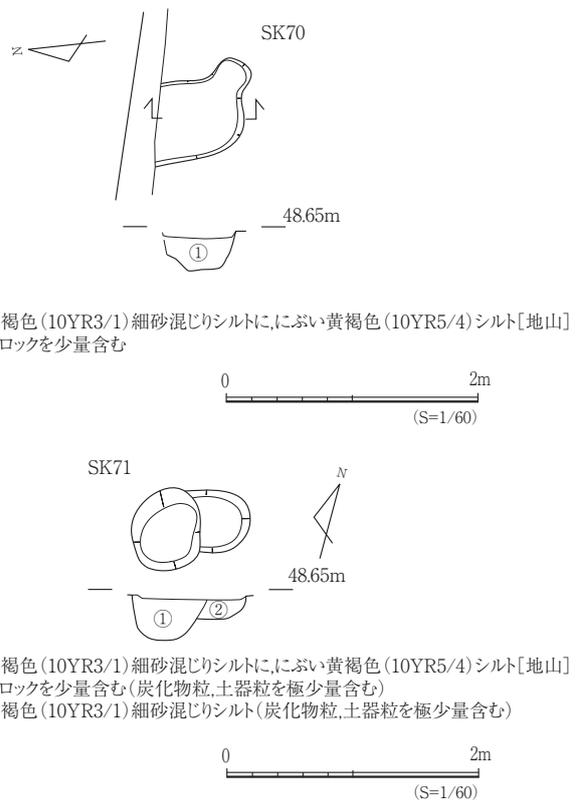


図107 SK70・71平面図・断面図

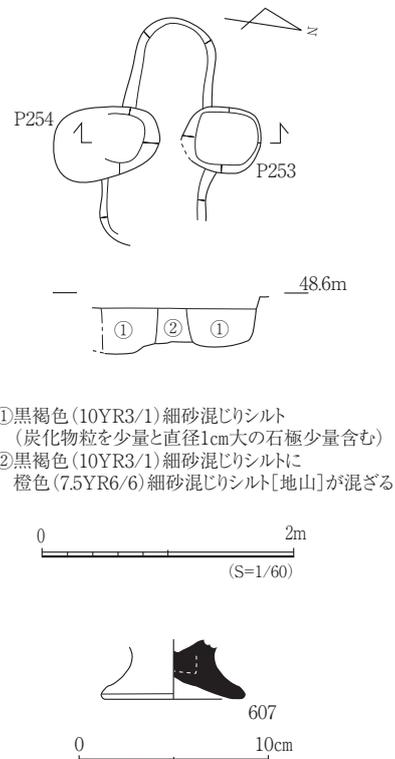


図108 SK72平面図・断面図・出土遺物実測図

(10YR2/2)シルト質粘土である。543は須恵器の杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。

SK34

I区中央部にある。南側をSD3に切られるため正確な平面形は不明であるが、楕円形であると考えられる。規模は長軸1.5m以上、短軸約1.5m、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。完掘後、床面でP113、P114を検出した。

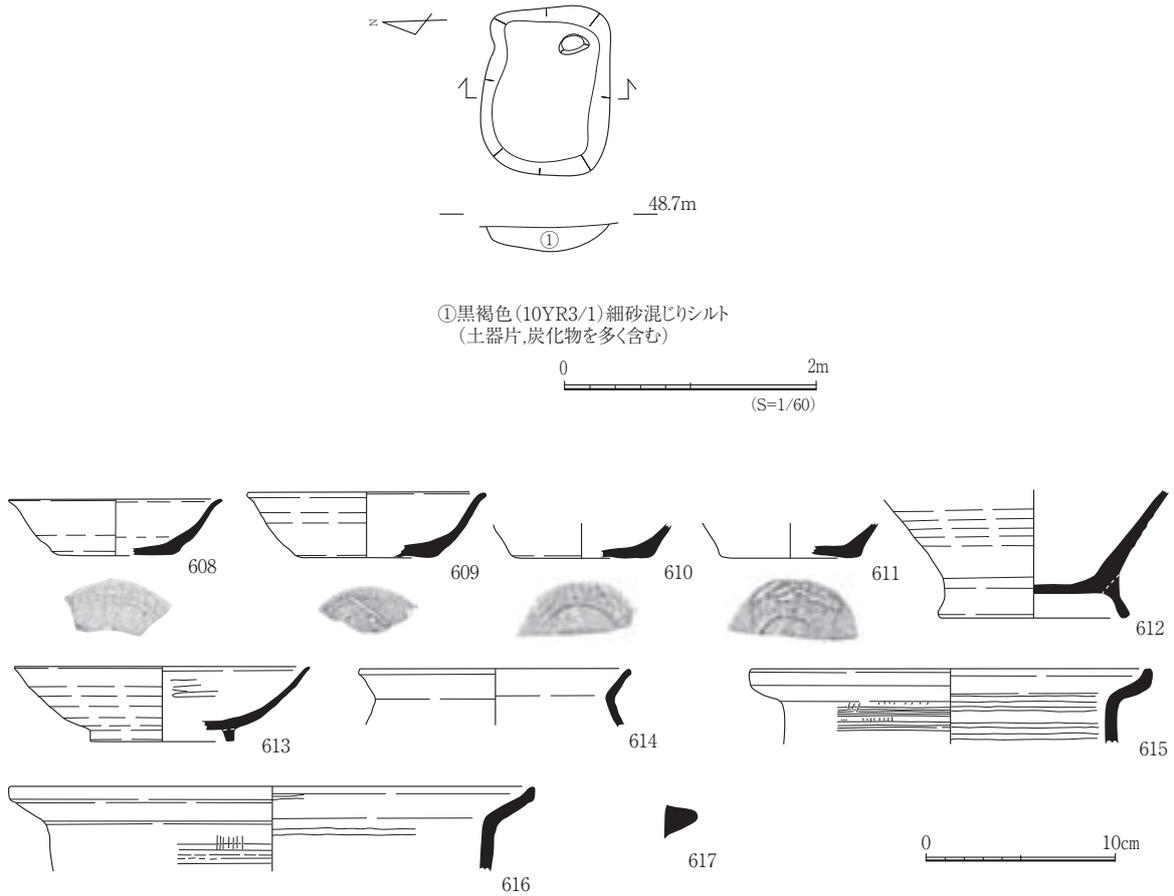


図 109 SK74 平面図・断面図・出土遺物実測図

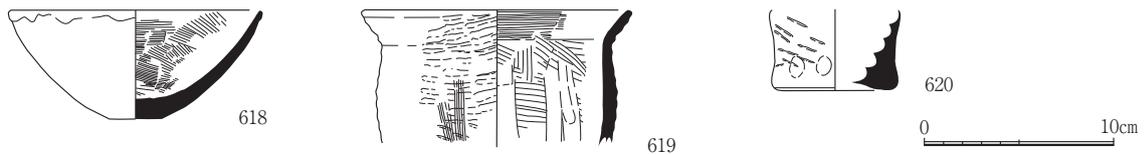


図 110 SK75 出土遺物実測図

544 は須恵器の体部である。屈曲する部分に断面形が扁平な三角形の突帯がつく。内外面とも回転ナデ調整である。545 は土師器の椀か。摩耗しており、脆い。546 は土師器の把手である。図示していないが、弥生土器の甕、鉢の口縁部片等が出土している。

SK36

I 区中央部にある。平面形は不整形で、規模は長軸約1.3m、短軸約0.6m、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)シルトである。

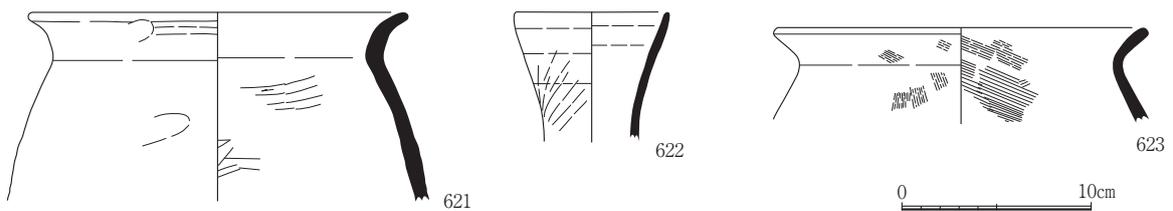
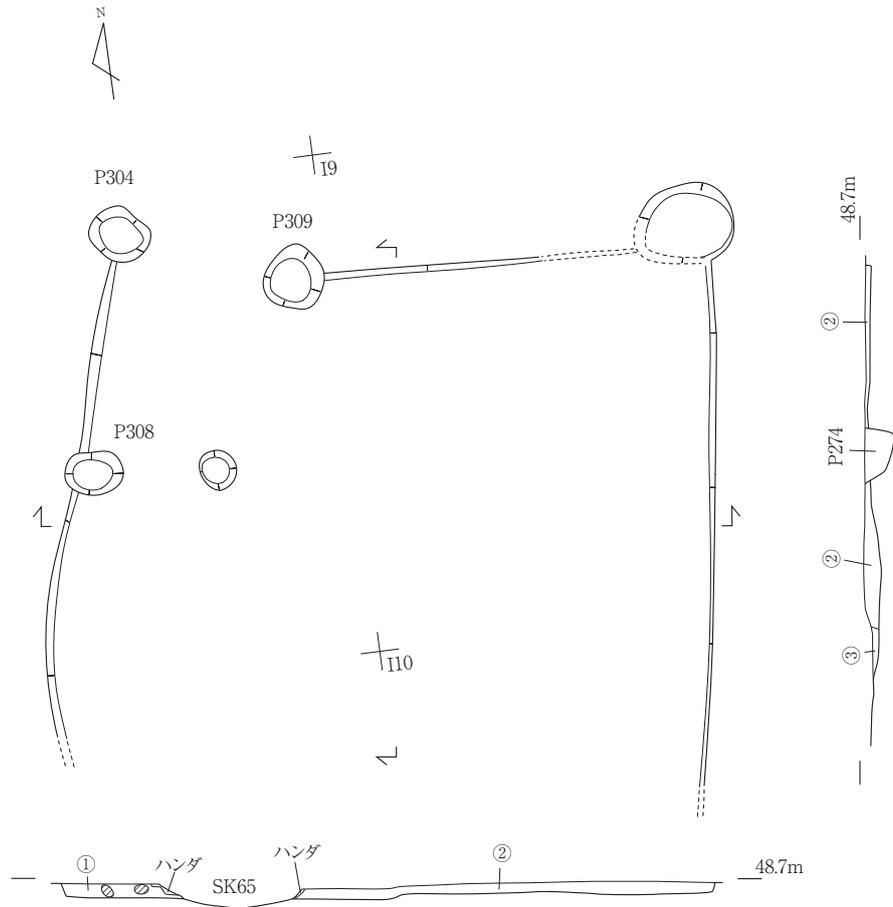


図 111 SK76 平面図・断面図・出土遺物実測図

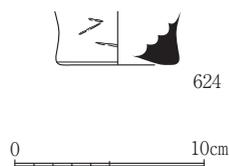
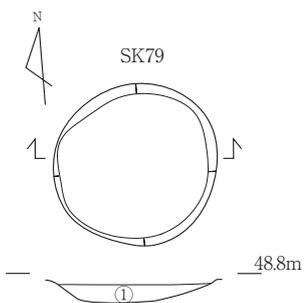
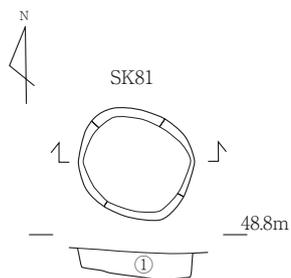


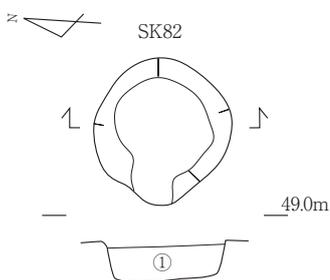
図 112 SK77 出土遺物実測図



①黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト



①黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト
(橙色(7.5YR6/6)シルトをブロック状に含む)



①黒色(10YR1.7/1)砂質シルト



図 113 SK79・81・82 平面図・断面図

SK37

一辺約 3.7 m の隅丸方形を呈していると考えられ、検出面からの深さは約 0.1 m を測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)と灰褐色(7.5YR4/2)が混じる細砂混じりシルトである。支柱穴は判然とせず、また中央ピットも検出できなかった。壁溝は非常に浅い部分もあるが、全周していると考えられる。竪穴住居跡の可能性はある。

SK38

I 区西部にある。平面形は直径約 0.5 m の円形で、検出面からの深さは約 0.2 m を測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

SK39

II 区西端に位置する。平面形は一辺 4~5m の隅丸方形を呈すると考えられるが、東側を ST7 に切られるため判然としない。南北約 3.2 m、東西は約 2.8 m まで検出した。検出面からの深さは約 0.1 m を測る。古代の竪穴住居跡の可能性はある。

547 は土師器の甕である。直立する体部から口縁部は外反する。外面はハケメ調整を施す。口縁部内面はハケメ調整、体部内面はナデ調整である。548 は須恵器の蓋である。平らな天井部から口縁部が下がり、端部を屈曲される。天井部に扁平な擬宝珠のつまみをつける。焼成不良であり、摩耗する。549 は須恵器の杯 B である。底部の縁辺部に断面形が方形の高台がつく。外底面にはヘラ切りの痕跡が認められる。焼成は悪く、摩耗する。550 は須恵器の甕である。細い頸部から口縁部は大きく外反し、屈曲して立ち上がる。屈曲部は突帯状を呈する。551 は鉄器であり、何かの柄か。膝柄状に折り曲げる。断面は部分により、台形から長方形を呈する。これらの他に図示していないが、弥生土器の甕の口縁部片、土師器の口縁部、底部片、須恵器の口縁部片等が出土している。

SK40

II 区の東端にあるハンダ土坑である。平面形は直径約 1.4 m の円形で、検出面からの深さは約 0.5

mである。壁は厚さ約10cm, 底は厚さ5cmのハンダで固められている。壁には円礫が塗り込められており、掘り方は直径約1.8mの円形を呈する。床面中央部は凹み、粘性のある褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルトとなったおり、瓦が出土したことから廃棄時に底を抜こうとした可能性がある。ハンダの底には黒色(10YR1.7/1)シルトが薄く層をなしている。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

552は砂岩の砥石である。四面とも使用する。

SK41

Ⅱ区の東端にある土坑である。平面形は直径約1.6mの円形で、検出面からの深さは約0.08mである。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

SK42

Ⅱ区の東部にあるハンダ土坑である。平面形は直径約1.8mの円形で、検出面からの深さは約0.5mである。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

553は棒状を呈した鉄器である。図示していないが、弥生土器の甕の口縁部片、搬入土器の体部片、土師器の杯あるいは皿の口縁部片等が出土している。

SK43

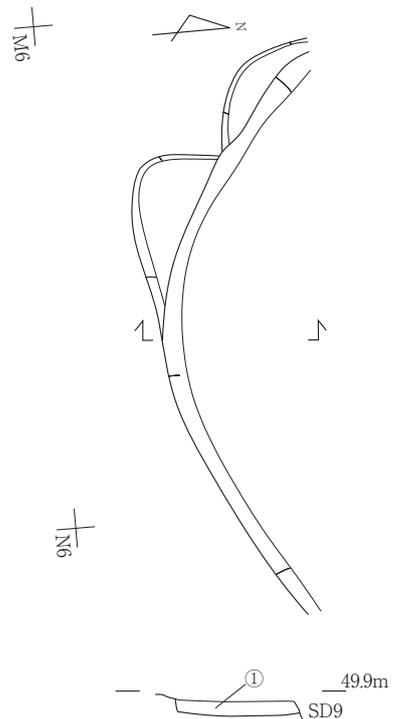
Ⅱ区の東部にある平面形が楕円形の土坑である。規模は長軸2.0m, 短軸は1.7m, 検出面からの深さは約0.2mである。埋土は5~10cmの円礫を多く含む黒褐色(10YR3/1)シルトである。図示していないが、弥生土器の甕, 鉢の口縁部片等が出土している。

SK44

Ⅱ区の中央部にあるハンダ土坑である。平面形は直径約0.8mの円形で、検出面からの深さは約0.1mである。側壁上部のみハンダが残存し、拳大の円礫が塗り込められている。埋土は黒色(10YR2/1)粘土質シルトである。図示していないが、土師器の杯の底部片, 須恵器の皿の口縁部片等が出土している。

SK46

Ⅱ区の中央部南端にある平面形が隅丸長方形のハンダ土坑である。規模は長軸1.5m, 短軸は1.0mで、検出面からの深さは約0.3mである。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。



①黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト
(橙色(10YR6/6)細砂混じりシルトをブロック状に含む)

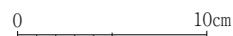


図114 SK83 平面図・断面図・出土遺物実測図

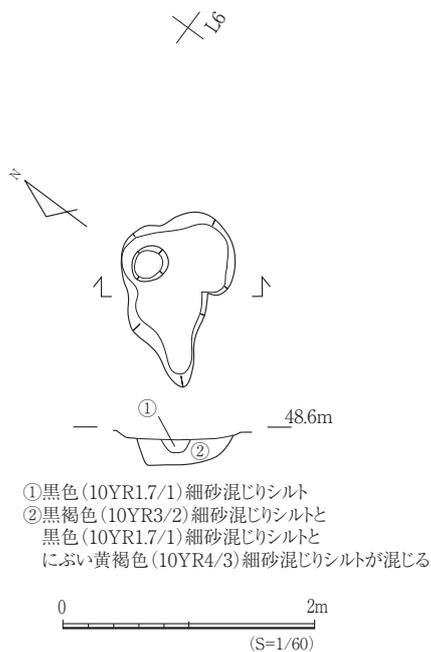


図 115 SK86 平面図・断面図

SK53

Ⅱ区の北西部にあるハンダ土坑である。平面形は直径約 1.1 m の円形で、検出面からの深さは約 0.4 m である。側壁のハンダのみ残存している。埋土は褐灰色 (10YR4/1) 砂混じりシルト質粘土である。

SK54

Ⅱ区の北西部にある平面形が楕円形のハンダ土坑である。規模は長軸 1.2 m、短軸は 0.9 m である。検出面からの深さはテラスまでが約 0.1 m、底までが約 0.4 m である。埋土は黒色 (7.5YR2/1) 砂混じりシルトである。

SK55

Ⅱ区の北西部にあるハンダ土坑である。平面形は直径約 1.1 m の円形で、検出面からの深さは約 0.5 m である。壁は厚さ約 10 cm、底は厚さ約 3 cm のハンダで固められている。壁には河原石と角礫が塗り込められており、掘り方は直径約 1.3 m の円形を呈する。床面は中央部に向かって深くなっている。埋土は灰黄褐色 (10YR4/2) 砂混じりシルト質粘土である。図示していないが、砥石が出土している。

SK56

Ⅱ区の北西部にあるハンダ土坑で SK57 を切る。平面形は直径約 1.3 m の円形で、検出面からの深さは約 0.3 m である。壁・底ともにハンダで固められているが、攪乱をうけ側壁はほとんど残っていない。壁のハンダには礫が塗り込められている。

SK57

Ⅱ区の北西部にあるハンダ土坑である。半分程度を SK56 によって切られるが、平面形は直径約 1.1 m の円形を呈すると考えられる。検出面からの深さは約 0.3 m である。壁・底ともにハンダで固められているが、残りは悪い。壁のハンダには礫が塗り込められている。

SK58

Ⅱ区の北西部にあるハンダ土坑である。東側壁を攪乱によって切られるが、平面形は直径約 1.0 m の円形を呈すると考えられる。検出面からの深さは約 0.2 m である。壁は厚さ約 10 cm、底は厚さ 5～8 cm のハンダで固められている。底のハンダは二層に分けられ、上層は壁と同じ明黄褐色 (10YR7/6) であり、下層は明赤褐色 (5YR5/6) である。壁のハンダには円礫が塗り込められている。埋土はハンダをブロック状に多く含む黒褐色 (2.5YR3/1) 砂混じりシルト質粘土である。

SK59

Ⅱ区の北西部にあるハンダ土坑である。平面形は直径約 1.4 m の円形を呈し、検出面からの深さは約 0.5 m である。壁、底ともにハンダで固められており、壁のハンダには円礫が塗り込められている。埋土はハンダをブロック状に含む黒褐色 (2.5YR3/1) 砂混じりシルト質粘土であり、下層には人頭大の礫及び瓦が投げ込まれている。

SK61

Ⅱ区の北西部にあるハンダ土坑である。平面形は直径約0.7mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3mである。壁は厚さ約5cm、底は厚さ2cmのハンダで固められている。側壁には底まで河原石と角礫が塗り込められている。底は中央に向かってわずかに深くなっていき、中央部は凹んでおりハンダが認められないことから、廃棄時に底が抜かれた可能性がある。埋土はハンダの微細片を多く含む黒褐色(10YR3/1)砂混じりシルト質粘土であり、中央部には拳大から人頭大の礫を多く含む。

SK62

Ⅱ区の西部北端にあるハンダ土坑である。半分以上が調査区外に出ているため、大きさは明確ではないが、直径約1.3mの円形であろう。検出面からの深さは約0.5mである。壁はハンダで固められている。埋土はハンダをブロック状に含む褐灰色(10YR4/1)砂混じりシルト質粘土である。

SK63

Ⅱ区の中央部北端にあり、SD9を切る。平面形は直径約0.8mの円形で、検出面からの深さは約0.2mである。

SK64

Ⅱ区の中央部にあり、SD9を切る。平面形は直径約0.8mの円形で、検出面からの深さは約0.2mである。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質粘土である。

SK65

Ⅱ区の中央部南端にあるハンダ土坑である。攪乱によって側壁は西側に一部しか残存していないが、平面形は直径約1.2mの円形と考えられる。検出面からの深さは約0.4mである。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトである。

554は土師器の杯である。内外面ともミガキ調整を施す。555は須恵器の杯Bである。断面長方形の高台が「ハ」の字状につく。混入品である。図示していないが、弥生土器の甕の口縁部片、土師器の杯あるいは皿の口縁部及び底部片、灰釉陶器片等が出土している。

SK66

Ⅱ区の中央部南寄りにある平面形が直径約1.1mの円形の土坑である。テラス状に二段になっており、埋土よりピット埋没後土坑が築かれたものとする。検出面からの深さは、テラスまでが約0.1m、底までが約0.3mである。埋土は二層に分層できる。①層は黄色のブロックと炭化物を少量含む灰黄褐色(10YR4/2)細砂混じりシルト、②層は黄色のブロックと炭化物を少量含む褐灰色(7.5YR4/1)細砂混じりシルトである。

SK67

Ⅱ区の中央部北端にあり、平面形は楕円形を呈する。規模は長軸1.2m、短軸は0.5mであり検出面からの深さは約0.1mである。埋土は3～5cm大の明赤褐色土がブロック状に混じる黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

SK68

Ⅱ区の西部にある。東側は攪乱をうけ、平面形は不明である。また西はSK49と重複しているが先後関係が不明である。規模は南北0.8m、東西0.8mまで検出した。検出面か

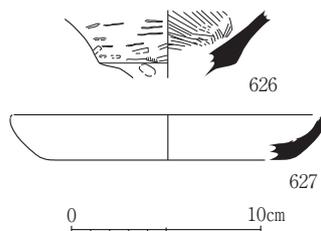


図 116 SK93・94 出土遺物実測図

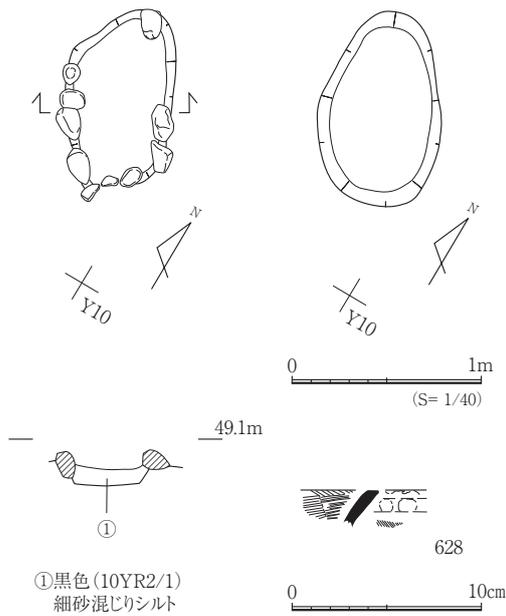


図 117 SK102 平面図・断面図・出土遺物実測図

らの深さは約 0.1 m である。埋土は 3～5 cm 大の明赤褐色土がブロック状に混じる黒褐色 (10YR2/3) 粘土質シルトである。図示していないが、弥生土器の甕, 鉢の口縁部片等が出土している。

SK69

Ⅱ区西部に位置し, SK75 を切る。平面形は隅丸長方形を呈し, 南北約 4.5 m, 東西約 3.5 m, 検出面から床面までの深さは約 0.5 m を測る。埋土は基本的に炭化物粒をごく少量, 土器片を少量含む黒色 (10YR3/2) 砂混じりシルトである。中央ピットや支柱穴は検出できなかった。ベッド状遺構は南辺と北辺で検出された。規模は幅約 0.8 m, 高さは約 0.1 m を測る。壁溝は床面では東辺を除いたコの字形で検出できた。また北側のベッド状遺構でも壁に沿って壁溝が検出された。

図示した出土遺物は, 弥生土器の壺, 甕, 鉢,

高杯, ミニチュア土器, 製塩土器, 土製紡錘車である。556～564 は弥生土器の壺である。565～586 は鉢である。565～567 は皿状を呈する。565 は外面には指頭圧痕がみられる。内面はナデ調整により平滑に仕上げ, 口縁部はハケメ調整を施す。ほぼ完形である。566 は内外面とも指頭圧痕がみられ, 外面の凹凸のほうが顕著である。また, 外面には器面に亀裂が認められる。567 は内外面ともナデ調整を施す。ほぼ完形である。568 の底部は, やや大きく安定感がある。内外面ともナデ調整を施す。外面にはごくわずかに器面に亀裂が認められる。569 は丸底であり, 体部は外上方に立ち上がる。外面はナデ調整, 内面はハケメ調整を施す。ほぼ完形である。570 は角のとれた平底であり, 体部は丸みを持つ。外面はナデ調整であり, 器面に亀裂が上半部を中心にごくわずかに認められる。内面はハケメ調整後, 底部から口縁部付近までハケメ調整を施す。ほぼ完形である。571 はわずかに底部がみられるが, 概ね丸底である。外面はナデ調整, 内面はハケメ調整を施す。外面にはわずかに器面に亀裂が認められる。572 の底部は工具で抉るように削ることで丸底を試みる。外面は叩き成形後, ナデ調整を施す。器面に亀裂が多く見られる。ほぼ完形である。573 の外面はナデ調整, 内面はハケメ調整である。外面には器面に亀裂が認められる。574 は丸底の鉢である。内外面とも摩耗のため, 調整等は不明である。ほぼ完形である。575 の体部は半球状を呈し, 丸底である。外面は叩き目状の痕跡がごくわずかに認められる程度である。内面は主としてナデ調整である。ほぼ完形である。576 の体部は半球形であり, 底部は丸底を指向するが, わずかに平らな部分が認められる。578 の平面形は楕円形を呈し, 全体的にねじれる。外面には叩き目が見られる。外底面には叩き目はみられず, 凹凸がみられる。煤が付着する。ほぼ完形である。579 は被熱によ

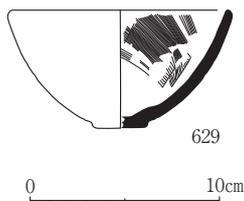


図 118 SK104 出土遺物実測図

ある。ほぼ完形である。575 の体部は半球状を呈し, 丸底である。外面は叩き目状の痕跡がごくわずかに認められる程度である。内面は主としてナデ調整である。ほぼ完形である。576 の体部は半球形であり, 底部は丸底を指向するが, わずかに平らな部分が認められる。578 の平面形は楕円形を呈し, 全体的にねじれる。外面には叩き目が見られる。外底面には叩き目はみられず, 凹凸がみられる。煤が付着する。ほぼ完形である。579 は被熱によ

り色調は赤色となり、器面も荒れている。中には直径1～5cm大の河原石が約20個入れられていた。581は直径5mmほどの穿孔が認められる。583・586の口縁部は、やや内湾気味に外反する。586は丸底、丸い体部を持つ。外底面以外は、口縁部まで叩き目が残存する。底部付近の叩き目はナデ消される。589は大形壺の底部である。外底面は指頭により丸底を目指す。外面には叩き成形後、ナデ調整を施す。内面は粗いハケメ調整である。587は弥生土器鉢の底部と考えられ、外面には複数の葉脈痕跡が重複するように残存する。591～596は弥生土器の高杯である。591・592は杯部片であり、口縁部は屈曲して外反する。593～596は脚部である。593の脚柱部は「ハ」の字状を呈し、裾部は大きくひろがる。外面は縦方向のミガキ調整である。裾部に円孔を穿つ。594は脚柱部と裾部の境目付近に円孔を穿つ。残存部から判断して四方向に穿たれていたと考えられる。595は短い脚柱部から裾部が大きくひろく。外面は細かいハケメ調整を施す。裾部には四方向に円孔を穿つ。596は短い脚柱部から裾部が湾曲してひろがる。外面には器面に亀裂が認められる。597は弥生土器の脚部である。598～600はミニチュア土器であり、完形もしくはほぼ完形である。598は皿形、599は壺形、600はコップ形である。598・600は手づくね成形、599は叩き成形後ナデ調整を施す。601は製塩土器である。小さい脚部が鉢に付く。器面は荒れ、脆弱である。602は弥生土器鉢の体部片か。内面に赤色顔料の付着が認められる。603は土製紡錘車である。604は弥生土器高杯の破片である。口縁部上面を拡張し、凹線文を施す。外面にも凹線文を施す。605は砂岩の叩き石である。やや大きめの棒状の自然石を利用する。先端部を使用する。606は台石であり、中央部が使用により凹む。

SK70

Ⅱ区西部北端に位置する。平面形は不整形を呈しており、規模は長軸0.9m、短軸約0.5mである。検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土はにぶい黄褐色(10YR5/4) [地山]ブロックを少し含む、黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。図示していないが、弥生土器の鉢、凹線文を施した甕、高杯、支脚等が出土している。

SK71

Ⅱ区北西部に位置する。平面形は不整形を呈しており、規模は長軸0.9m、短軸約0.5mである。検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は二層に分層できる。①層はにぶい黄褐色(10YR5/4)地山ブロックを少量含む、炭化物粒や土器片が極少量混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト、②層は炭化物粒や土器片を極少量含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。当初1基の土坑として検出したが、埋土や形状からピットが2基重複しているものと考えられる。図示していないが、土師器の杯あるいは皿の底

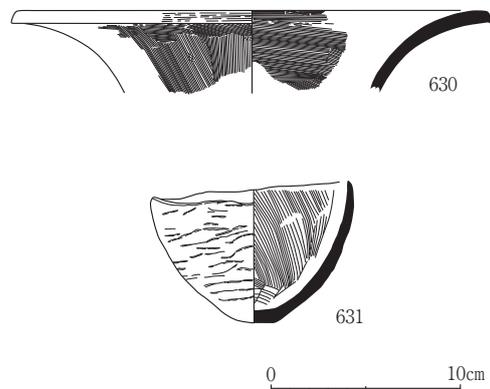
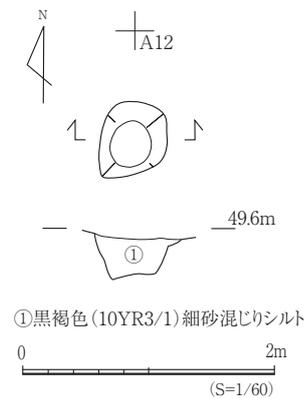


図 119 SK105 平面図・断面図・出土遺物実測図

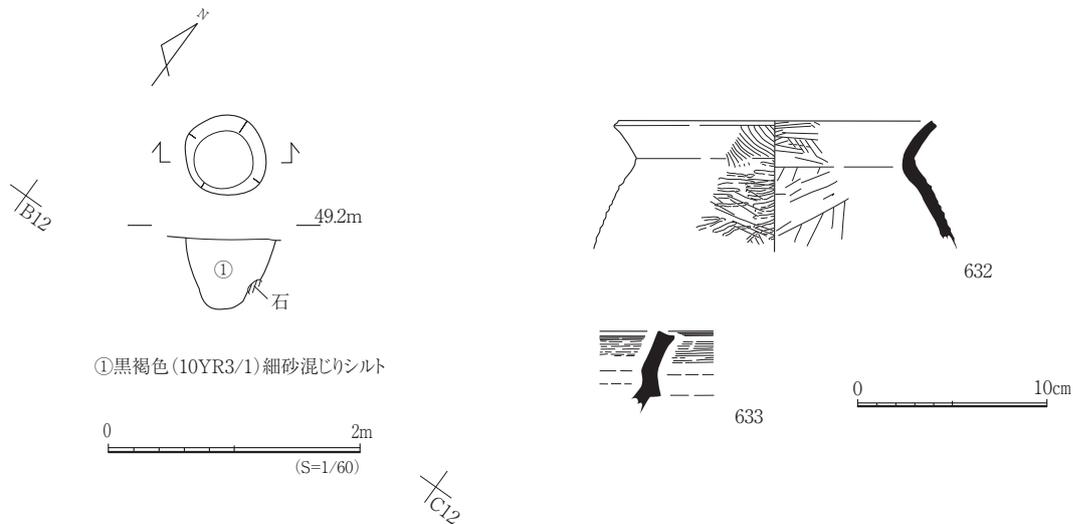


図 120 SK106 平面図・断面図・出土遺物実測図

部片, 須恵器の底部片等が出土している。

SK72

Ⅱ区北西部に位置する。平面形は不整形を呈しており, 規模は長軸 1.8 m, 短軸約 0.7 m である。検出面からの深さは約 0.2 m を測る。埋土は橙色 (7.5YR6/6) 細砂混じりシルトの地山が混ざる黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルトである。当初 1 基の土坑として検出したが, 半裁した結果から二つのピットが重複していたことが判明した。P253 と P254 として残り半分の掘削を行った。

607 は弥生土器の脚部である。器壁は厚く, 「ハ」の字にひらく。図示していないが, 弥生土器の甕, 鉢の口縁部片, 土師器の杯の口縁部片, 古墳時代後期の須恵器の杯身, 杯蓋等が出土している。

SK73

Ⅱ区北西部に位置するハンダ土坑である。SK54 と重なっていたため検出できなかったが, これも本来上面遺構である。平面形は直径約 1.4 m の円形を呈し, 検出面からの深さは約 0.3 m を測る。側壁のハンダは無いが, 床はハンダで固められ円形に残存している。円形の床の周囲には溝状の落ち込みが巡っており, 側壁を取り除く際にできた窪みと考えられる。

SK74

Ⅱ区南西部に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸約 1.3 m, 短軸約 1.0 m, 検出面からの深さは約 0.2 m を測る。埋土は土器片, 炭化物を多く含む黒褐色 (10YR3/2) 細砂混じりシルトである。

図示した出土遺物は, 土師器, 黒色土器である。608～612 は土師器の杯である。内外面は回転ナデ調整を施す。外底面にはヘラ切り痕跡がみられる。612 は高台が付く。613 は黒色土器碗である。内黒である。やや浅めであり, 底部には断面方形の高台が付く。内面はミガキ調整を施す。614～616 は土師器の甕である。617 は断面三角形を呈する。突帯か。胎土は精良である。

SK75

Ⅱ区西部に位置し, 大部分を SK69 に切られる。平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。南北は

約 3.6 m であり、東西は約 1.4 m まで検出した。検出面からの深さは約 0.2 m であり、壁は直立気味に立ち上がる。埋土は3層に分層できる。①層は炭化物粒をごく少量含む暗褐色(10YR3/3)細砂混じりシルト、②層はにぶい黄褐色(10YR3/3)細砂混じりシルトと明黄褐色(10YR6/6)シルトと灰黄褐色(10YR4/2)細砂混じりシルトが混じる、③層は灰黄褐色(10YR4/2)細砂混じりシルトである。SK69-SD5はこの遺構に伴う壁溝であると考えられる。

図示した出土遺物は、弥生土器の甕, 鉢, 支脚である。618は弥生土器の鉢である。外面はナデ調整であり、器面に亀裂が認められる。下地に叩き目がある可能性がある。619は弥生土器の甕である。やや小形であり、口縁部の外反度合いは弱い。620は弥生土器の底部である。中実の柱状を呈し、若干上げ底である。外面は叩き成形後、ナデ調整を施す。支脚か。624と同一個体か。図示していないが、弥生土器の壺, 甕, 鉢の口縁部片等が出土している。

SK76

Ⅱ区中央部南端に位置する。東西約 5.1 m であり、南北は約 4.0 m まで検出したが南側が調査区外に出る。正確な平面形は不明であるが、隅丸方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは約 0.1 m を測る。住居跡の可能性はある。埋土は基本的に黒褐色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。

621は土師器の甕である。622は須恵器の壺である。623は弥生土器の甕であり、混入品と考えられる。図示していないが、弥生土器の甕, 鉢の口縁部片, 古代の土師器甕の口縁部片等が出土している。

SK77

Ⅱ区西部南寄りに位置する。規模は南北約 7.7 m, 南北約 5.7 m まで検出したが、南側が調査区外に出、東側と西側が攪乱に切られるため、正確な平面形は不明である。検出面からの深さは約 0.05 m を測る。2カ所で焼土が検出された。住居跡の可能性はある。上層を周辺も含めた広い範囲でSX9として掘削中に石製紡錘車が出土した。

624は弥生土器の底部である。中実の柱状を呈し、若干上げ底である。外面は叩き成形後、ナデ調整を施す。支脚か。620と同一個体か。図示していないが、弥生土器の甕, 鉢の口縁部片, 須恵器の口縁部片, 粘土塊等が出土している。粘土塊はSK77内の焼土からの出土である。

SK78

Ⅱ区中央部南寄りに位置する。平面形は一辺が約 0.8 m の隅丸長方形を呈する。検出面からの深さ

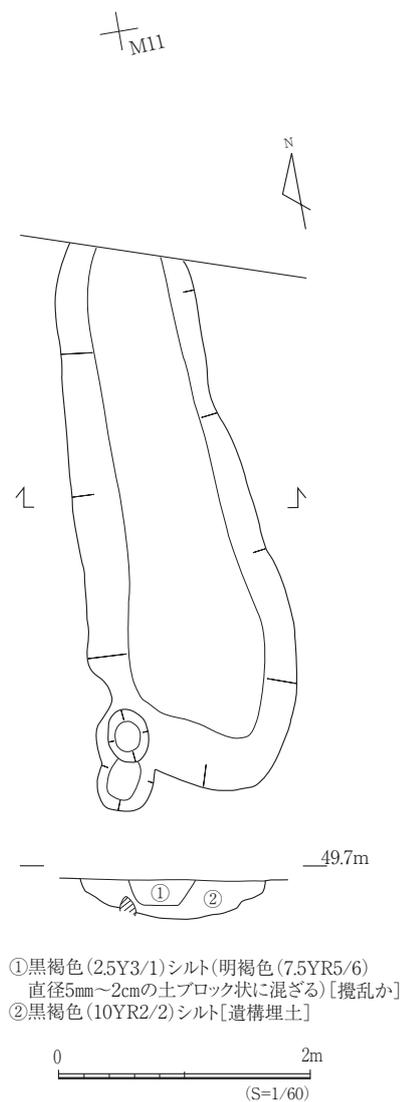


図 121 SK108 平面図・断面図

は約 0.3 m を測る。埋土は黒褐色 (10YR2/3) 砂混じりシルト質粘土である。底面の一部は深く、ピット状を呈する。

SK79

Ⅱ区南東部に位置する。平面形は直径約 1.3 m の均整のとれた円形を呈する。検出面からの深さは

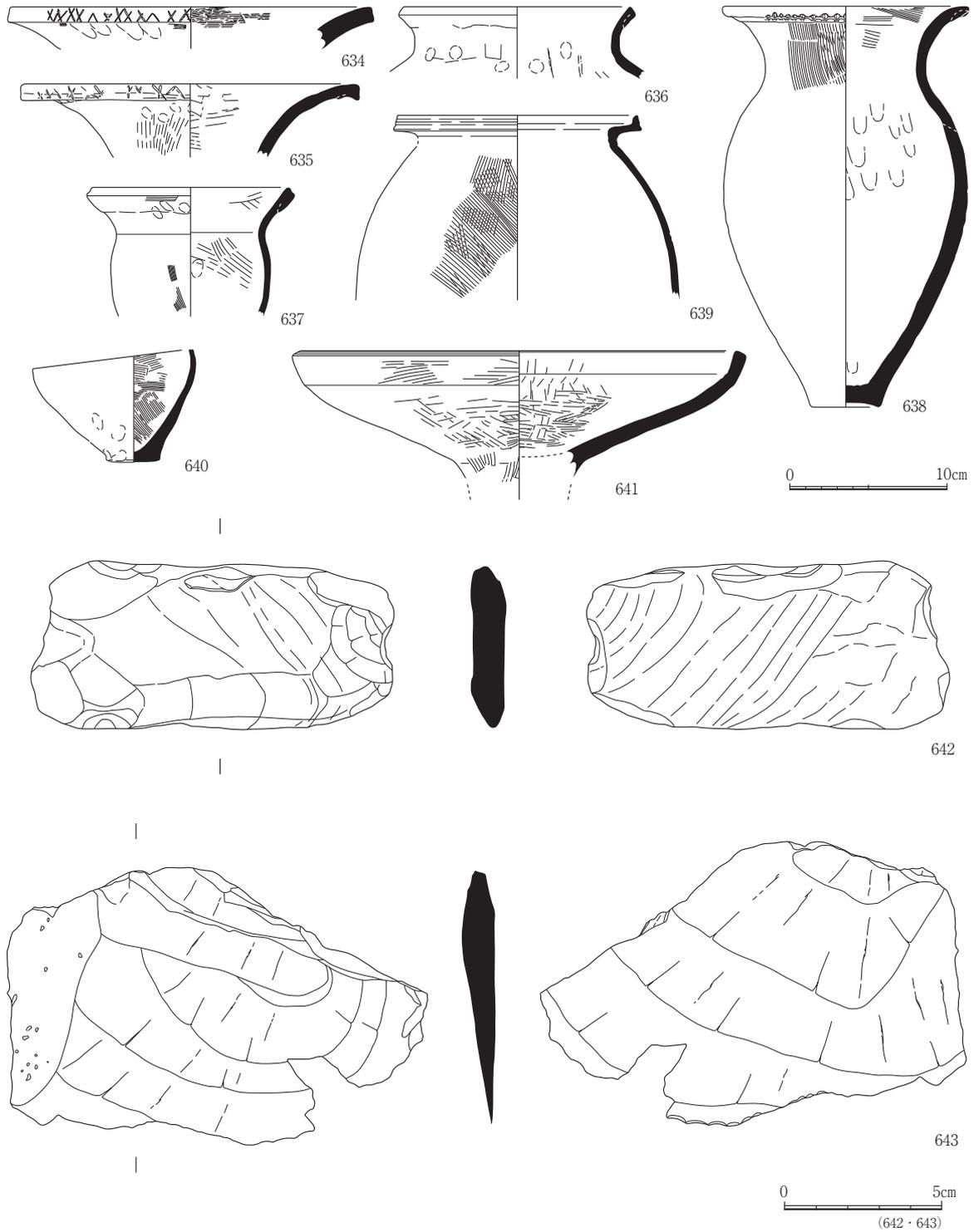


図 122 SK108 出土遺物実測図

約0.2mを測り、断面形はレンズ状である。埋土は黒褐色(10YR3/1)砂混じりシルトである。

SK80

Ⅱ区中央部北寄りに位置し、ST11と切り合うが先後関係は不明である。長軸は約0.7mであり、短軸は約0.4mまで検出した。平面形は不整形を呈すると考えられる。検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

SK81

Ⅱ区東部北端に位置するSX11の溝で囲まれた平坦部にある遺構である。平面形は直径約0.9mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は橙色(7.5YR6/6)シルトをブロック状に含む黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルトである。図示していないが、土師器の皿の口縁部片等が出土している。

SK82

Ⅱ区北東部に位置する。平面形は直径約1.1mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒色(10YR1.7/1)砂質シルトである。図示していないが、弥生土器の壺の口縁部片等が出土している。

SK83

Ⅱ区東部北端に位置し、SD7に切られる。平面形は不整形を呈すると考えられ、長軸は約4.3mであり、短軸は約1.0mまで検出できた。検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は明黄褐色(10YR6/6)細砂混じりシルトをブロック状に含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

625は弥生土器の鉢である。図示していないが、弥生土器の壺、甕、鉢の口縁部片等が出土している。

SK84

Ⅱ区中央部北端に位置し、東西を攪乱に切られる。平面形は不整形を呈すると考えられ、南北約0.5m、東西約0.5mまで検出できた。検出面からの深さは約0.1mを測る。

SK86

Ⅱ区中央部北寄りに位置し、SX11の溝で囲まれた平坦部にある。平面形は不整形を呈し、長軸約1.3m、東西約0.9m、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は二層に分層できる。①層は黒色(10YR1.7/1)細砂混じりシルト、②層は黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルトと黒色(10YR1.7/1)細砂混じりシルトとにぶい黄褐色(10YR4/3)細砂混じりシルトが混じる。図示していないが、弥生土器の甕、鉢の口縁部片等が出土している。

SK87

Ⅱ区中央部南寄りに位置し、SD13に切られる。平面形は不整楕円形を呈すると考えられ、長軸約0.7m、

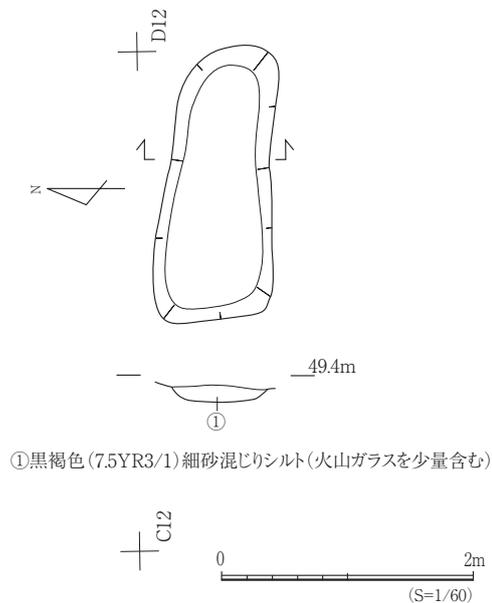


図 123 SK114 平面図・断面図

短軸約 0.4 m まで検出できた。検出面からの深さは約 0.1 m を測る。埋土は黒褐色 (10YR2/3) 粘土質シルトである。図示していないが、古墳時代後期の須恵器の杯身等が出土している。

SK88

Ⅱ区東端に位置し、東側が調査区外に出る。平面形は一辺が約 0.8 m の隅丸方形を呈すると考えられ、検出面からの深さは約 0.1 m を測る。埋土は黒褐色 (10YR3/2) シルト質粘土である。

SK89

Ⅱ区東端に位置し、東側が調査区外に出、また SK45 に切られる。平面形は不整形を呈すると考えられ、長軸約 2.0 m、短軸約 0.7 m まで検出できた。検出面からの深さは約 0.1 m を測る。図示していないが、弥生土器の甕、鉢の口縁部片等が出土している。

SK90

Ⅱ区北東部に位置し、SK42 に切られる。平面形は直径約 0.7 m の円形を呈すると考えられ、検出面からの深さは約 0.2 m を測る。埋土は黒褐色 (10YR2/2) シルト質粘土である。図示していないが、弥生土器の甕の口縁部片、搬入土器の体部片等が出土している。

SK91

Ⅱ区東部南寄りに位置する。平面形は不整形を呈し、長軸約 0.7 m、短軸約 0.3 m、検出面からの深さは約 0.2 m を測る。埋土は黒褐色 (10YR2/2) シルト質粘土である。図示していないが、弥生土器の鉢の口縁部片等が出土している。

SK92

Ⅱ区中央部北寄りに位置し、SX11 の溝で囲まれた平坦部にある。平面形は不整楕円形を呈し、長軸約 0.7 m、短軸約 0.5 m、検出面からの深さは約 0.3 m を測る。図示していないが、弥生土器の甕の口縁部片等が出土している。

SK93

Ⅱ区中央部南端に位置する。平面形は直径約 0.7 m の円形を呈すると考えられ、検出面からの深さは約 0.1 m を測る。埋土は黒褐色 (10YR2/2) シルト質粘土である。

626 は弥生土器である。屈曲して外上方へのびる。外面は叩き成形後、ナデ調整を施す。内面はハケメ調整を施す。これの他にも、図示していないが、弥生土器の甕、鉢の口縁部片、支脚片等が出土している。

SK94

V区西部に位置する。平面形は長軸 0.7 m、短軸 0.5 m の楕円形を呈し、深さは約 0.1 m である。埋土は黒色 (7.5YR2/1) 粘土質シルトである。627 は土師器の皿である。

SK95

V区西部に位置する。平面形は長軸 0.8 m、短軸 0.5 m の楕円形を呈し、深さは約 0.1 m である。埋土は黒色 (5YR1.7/1) 粘土質シルトである。図示していないが、弥生土器の甕の口縁部片等が出土している。

SK96

V区中央部に位置する。平面形は長軸 0.6 m、短軸 0.4 m の楕円形を呈し、深さは約 0.1 m である。埋土は黒色 (7.5YR2/1) シルトである。

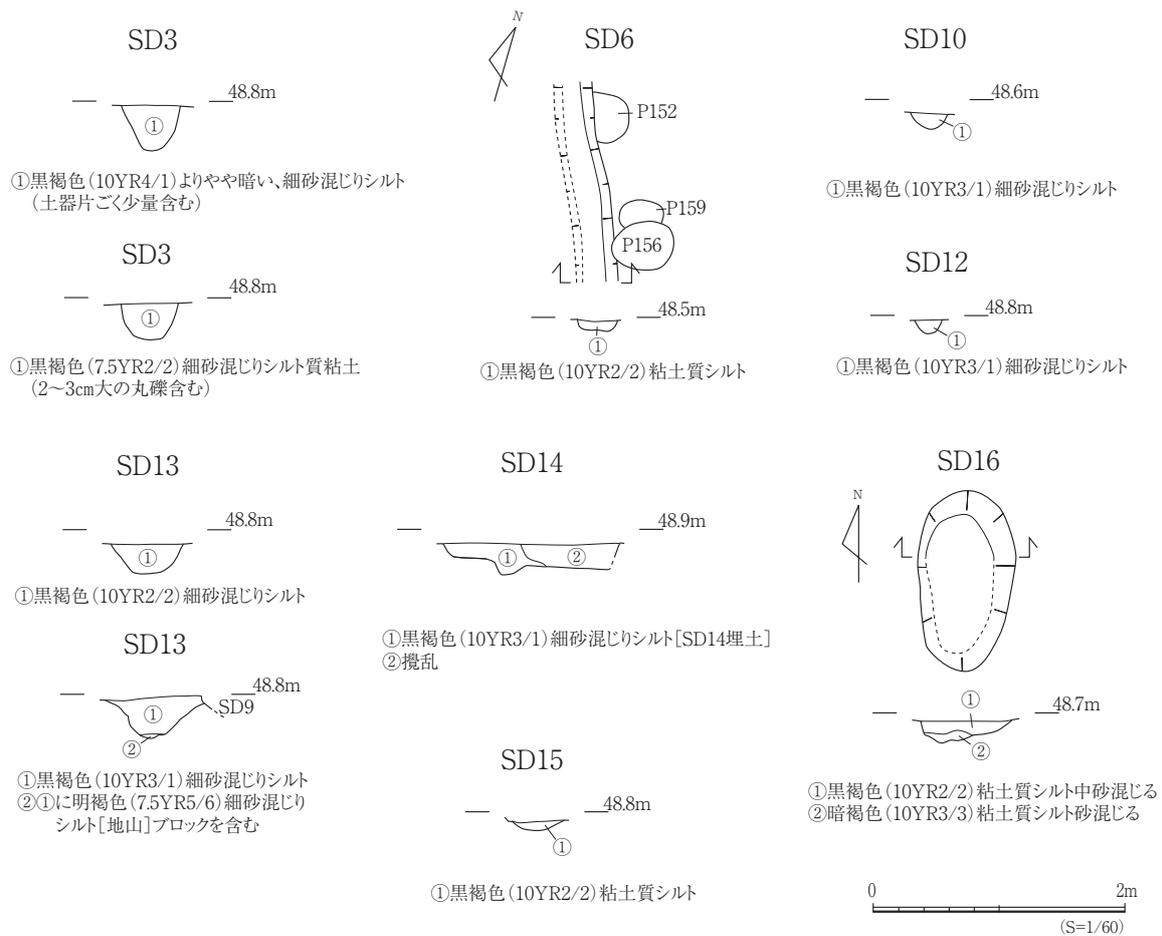


図 124 SD 断面図

SK97

V区中央部に位置するハンダ土坑である。平面形は長軸 1.3m，短軸 1.05m の方形を呈している。深さは約 0.1m である。底部から壁面までハンダが認められる。西部には不定形な掘り込みが見られる。位置関係から，SK99 と同時期に使用されていた可能性が強い。図示していないが，弥生土器の甕の口縁部片等が出土している。

SK99

V区中央部に位置するハンダ土坑である。攪乱に切られているため，不整形円形を呈している。残存長は長軸 1.6m，短軸 1.2m を測る。深さは約 0.1m である。底部のみハンダが残存している。位置関係から，SK97 と同時期に使用されていた可能性が強い。図示していないが，弥生土器の鉢の口縁部片等が出土している。

SK101

Ⅲ区の北東部に位置する。平面形は隅丸方形を呈し，長軸約 2.0 m，短軸約 1.1 m，検出面からの深さは約 0.1 m を測る。

SK102

Ⅲ区の北東部に位置する。平面形は不整形楕円形を呈し，長軸約 1.0 m，短軸約 0.7 m，検出面からの

深さは約0.1 mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。検出面では、直径10～15 cm 大の礫が遺構のラインに沿い並べられていた。

628は弥生土器の甕である。口縁端部を外方へつまみ出す。

SK103

Ⅲ区の北東部に位置するハンダ土坑である。平面形は直径約1.4 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mである。壁と底はハンダで固められている。壁には円礫が塗り込められており、掘り方は直径約1.7 mの円形を呈する。埋土中には河原石が多く含まれている。

SK104

Ⅲ区の中央部に位置する。住居跡の床面精査時に検出したもので、ST19に伴うものである可能性があり、ST19の貯蔵穴か。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.7 m、短軸約0.5 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は炭化物をごく微量含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

629は弥生土器の鉢である。突出した底部から体部は丸みをおびて立ち上がる。

SK105

Ⅲ区の中央部に位置する。住居跡の床面精査時に検出したもので、ST19に伴う可能性が高い。ST19の貯蔵穴か。平面形は不整楕円形を呈し、長軸約0.6 m、短軸約0.5 m、検出面からの深さは約0.3 mを測る。

SK106

Ⅲ区の中央部に位置する。ST19のベッド上面で検出したもので、ST19に伴う可能性が高い。ST19の貯蔵穴か。平面形は円形を呈し、直径約0.6 m、検出面からの深さは約0.5 mを測る。

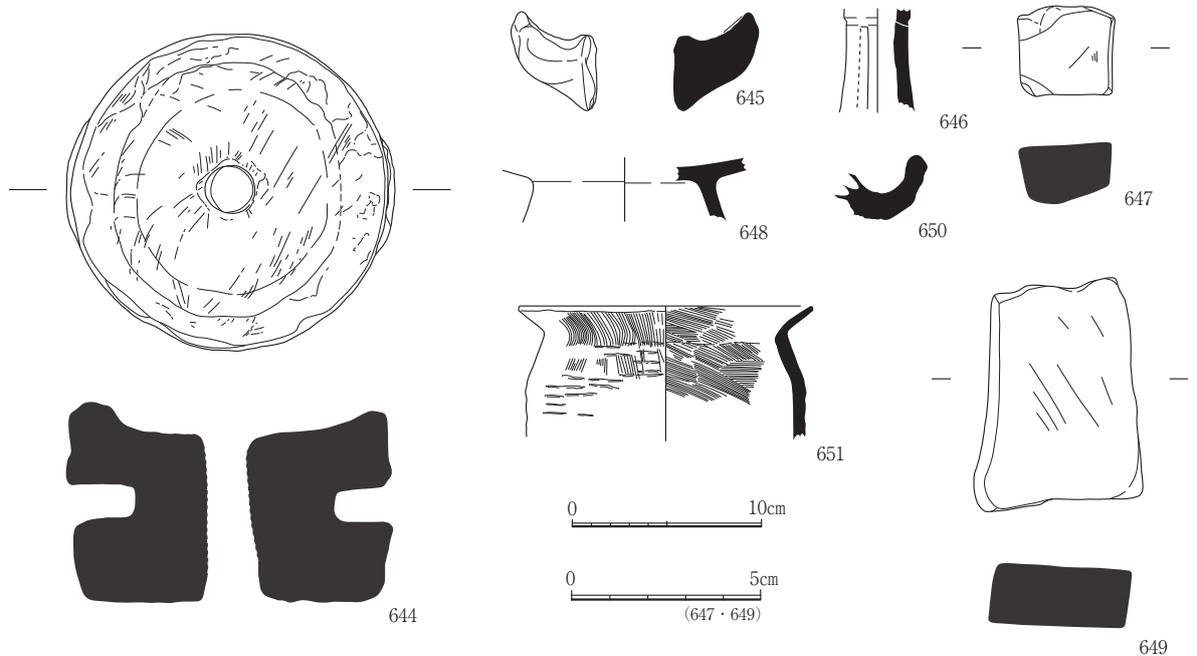


図 125 SD 出土遺物実測図

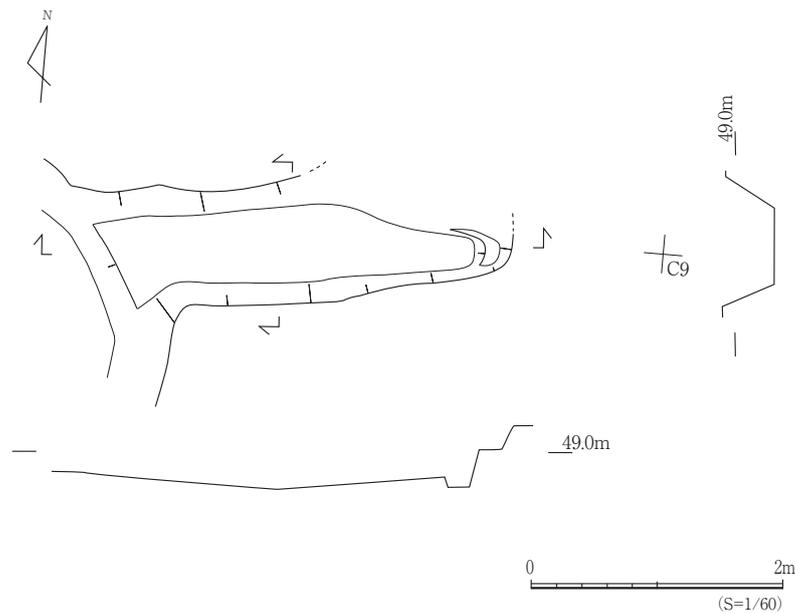


図 126 SD27 平面図・エレベーション図

SK107

V区中央部に位置する。長軸1.3m，短軸0.5m，深さ0.25mを測る。断面では，確認出来るものの平面では不鮮明である。グライ化したものか。

SK108

IV区東部に位置し，上層は一部攪乱をうけている。平面形は不整形を呈し，北側は調査区外に出る。東西約1.3m，短軸約4.3mまで検出できた。検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

出土遺物の接合関係をもとにみると，上層出土遺物と15～25cm出土遺物が接合した。図示した出土遺物は，弥生土器の壺，甕，鉢，高杯，打製石包丁，刃器である。634は壺の口縁部であり，口唇部には斜格子文を施す。635は壺の口縁部であり，水平近くまで大きく外反する。貼付口縁であり，口唇部には斜格子文を施す。636は甕である。口縁部は緩やかに外反する。貼付口縁である。内外面ともナデ調整である。637は甕である。口縁部は肩部から緩やかに外反する。貼付口縁である。638は甕である。やや上げ底であり，胴部の最大径はほぼ中位である。口縁部は緩やかに外反する。貼付口縁であり，口唇部下端に刻み目を施す。639は甕である。丸みを持った肩部から口縁部は水平近くまで外反する。口縁部は上方に拡張し，凹線文を二条施す。外面はハケメ調整であり，内面はナデ調整である。640は鉢である。わずかに突出した平底から体部は外上方にのび，口縁部付近で若干内湾させる。外面はナデ調整，内面はハケメ調整である。641は高杯である。杯部は大きくひろがり，口縁部は短く立ち上がる。口唇部はハケ状原体で面取りを施す。外面にはハケメ調整を施す。内面はミガキ調整で仕上げる。642は打製石包丁である。粘板岩か。両端に抉りを入れる。643は大形の直刃石器である。サヌカイトである。

SK109

IV区東部に位置するハンダ土坑である。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸約1.5m，短軸約1.0mを

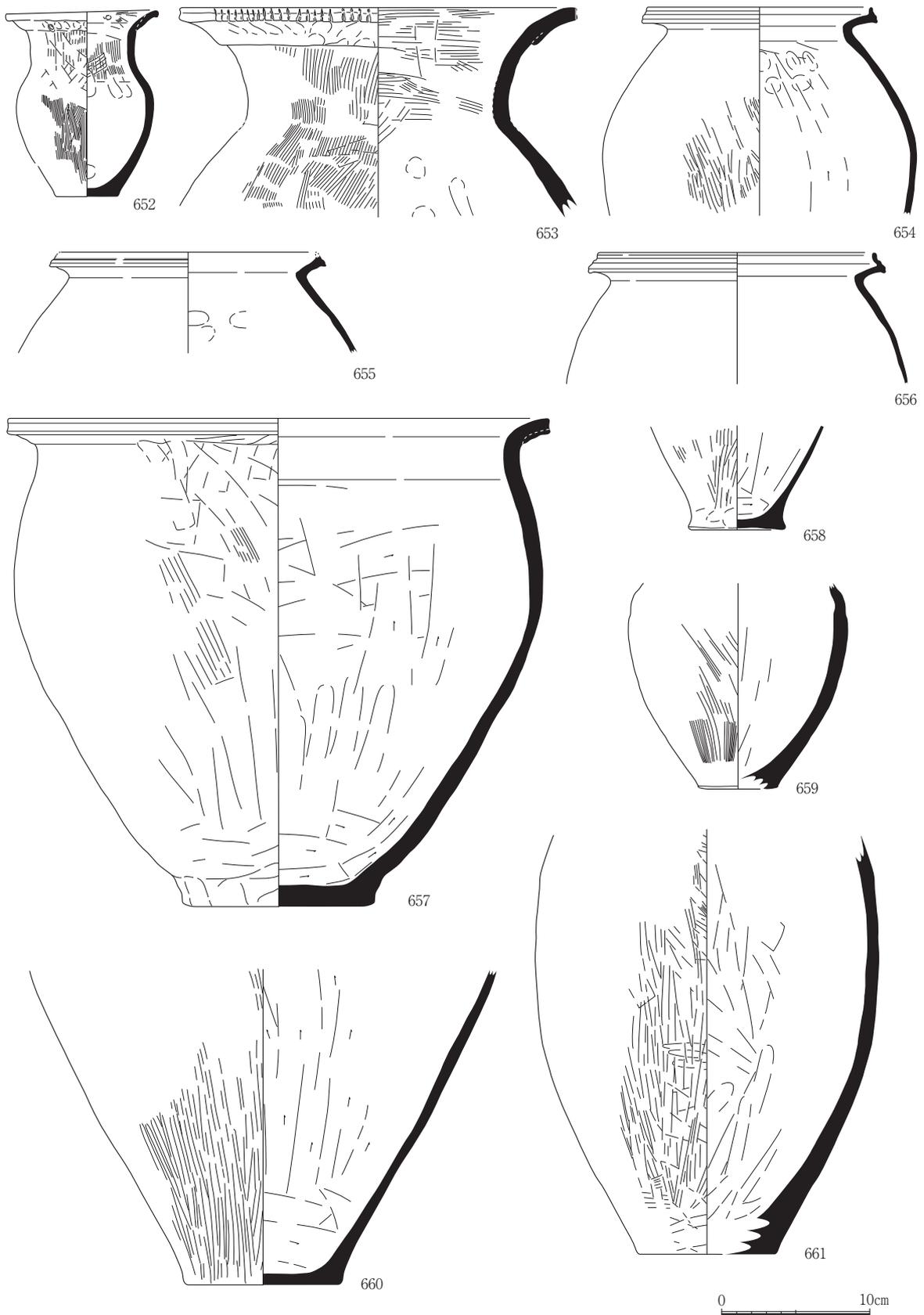


图 127 SD27 出土遺物実測図

測る。検出面からの深さは約0.3mを測る。床面は平滑ではない。

SK110

Ⅳ区東部に位置する。多くが調査区外に出るため、正確な平面形は不明である。南北は約0.8mまで、東西は約0.9mまで検出できた。検出面からの深さは約0.2mを測る。図示していないが、土師器の小形杯の口縁部片等が出土している。

SK111

Ⅳ区北西部に位置するハンダ土坑である。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸約2.3m、短軸約1.0mを測る。検出面からの深さは約0.3mを測る。壁及び底はハンダで塗り固められており、その厚さは検出面では10～20cmを測る。検出面のハンダ上部では礫が塗り込められている。ハンダの色調は黄白色を呈する。

SK112

Ⅳ区中央部北寄りに位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸約1.2m、短軸約0.4mを測る。検出面からの深さは約0.4mを測る。攪乱である。

SK113

Ⅳ区西部に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸約2.6m、短軸約2.1mを測る。検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は火山ガラスを多く含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。床面からはピットが1基検出された。平面形は直径約0.2mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3mを測る。検出時の平面プランはしっかりしていたが、浅い。遺物は少ない。

SK114

Ⅳ区西端に位置する。平面形は長方形を呈し、長軸約2.1m、短軸約0.9mを測る。検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は火山ガラスを少量含む黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルトである。図示していないが、弥生土器の甕の口縁部片等が出土している。

(3)SD

SD1

Ⅰ区の中央部で検出した南北にのびる溝である。幅約0.7m、深さ約0.4mであり、長さ約16mまで検出したが、両端とも調査区外へのびる。埋土は円礫を多く含む黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

SD2

Ⅰ区の中央部で検出した、ほぼ直線的に南北にのびる溝である。幅約1.3m、深さ約0.2mであり、長さ約9.7mを測る。瓦等の遺物が多く出土し、攪乱であると思われる。

SD3

Ⅰ区・Ⅱ区で東西方向にのびる溝である。幅約0.4m、深さ約0.2mであり、長さ約71.2mまで検出したが、両端とも調査区外へのびる。図示していないが、古代の須恵器、土師器等が全域で出土している。

SD4

Ⅰ区の西部で検出したコの字形の溝で、SK26の周溝と考えられる。幅約0.4m、深さ約0.1mであ

り、長さ約7.3 mまで検出した。本来は「口」の字形であったものを西側は包含層掘削の際にとぼしてしまった可能性がある。バンクを三ヵ所設定したが、埋土はいずれも黒褐色(10YR2/3)細砂混じり粘土質シルトである。図示していないが、弥生土器の鉢の口縁部片、古代の土師器の杯あるいは皿の底部片等が出土している。

SD5

I区中央部で検出した南北方向にのびる溝である。規模は長さ約2.1 m、幅約0.5 m、深さ約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

SD6

I区西部で検出した南北方向にのびる溝である。規模は長さ約5.1 m、幅約0.3 m、深さ約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。図示していないが、弥生土器の甕の口縁部片等が出土している。

SD7

II区の西部北端で検出した溝である。N5～L5グリッドまでは東西方向に直線的にのびるが、L5グリッドで直角に北へと曲がり、調査区外へと出る。幅約0.6 m、深さ約0.3 mであり、長さ約13 mまで検出した。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルトであり、L5グリッドでは直径2～3 cm大の円礫を非常に多く含む。

図示していないが、銘入りの瓦片が出土している。「ウエムラ」、「王子」、「片佐」等である。

SD8

II区の中央部で検出した南北方向にのびる溝である。幅約1.1 m、深さ約0.1 mであり、長さ約23 mまで検出したが、両端とも調査区外へと伸びる。埋土は黒褐色(2.5Y3/1)シルトである。J8グリッド以南では底に5 cm大の礫が多く含まれ、それ以北では20～30 cm大の礫を多く含む。上層では、一部にビニールが混入しており攪乱の可能性がある。

SD9

II区の中央部で検出した南北方向にのびる溝である。幅約0.4～0.6 m、深さ約0.1～0.2 mである。長さ約23 mまで検出したが、北端は調査区外へと伸び、南端は攪乱をうけ検出できなかった。埋土は黒褐色(2.5Y3/1)シルトである。

SD10

II区の南西部で検出した、コの字形の溝である。東側がST7と切り合うため、東辺は検出できなかったが、本来は全周していると考えられる。規模は幅約0.3 m、深さ約0.2 mを測り、長さは約6.1 mまで検出した。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。図示していないが、土師器の杯あるいは皿の口縁部片、高台片、須恵器の杯あるいは皿の口縁部片、内黒の黒色土器片が出土している。

SD11

II区の西端に位置し、東側はSD6に切られる。規模は幅約0.2 m、深さ約0.07 mを測り、長さは約1.7 mまで検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質粘土である。

SD12

II区の中央部に位置する。規模は幅約0.2 m、深さ約0.07 mを測り、長さは約8.3 mまで検出したが、浅い溝のため、南北とも明確にプランは検出できなかった。

SD13

Ⅱ区東部で、南北方向にのびる溝であり、南端は調査区外に出る。北側はSX11を切り、西へと緩やかに曲がるが、攪乱溝に切られており、延長は確認できなかった。規模は幅約0.5 m、深さ約0.2 mを測り、長さは約21.4 mまで検出した。3カ所でセクションベルトを設定し、埋土の堆積状況等を把握することに努めた。埋土は二層に分層できる。①層は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト、②層は①層に明褐色(7.5YR5/6)細砂混じりシルトがブロック状に混じる。しっかりした溝である。図示していないが、外底面に糸切り痕跡が認められる土師器片、須恵器の杯Bの高台片等が出土している。

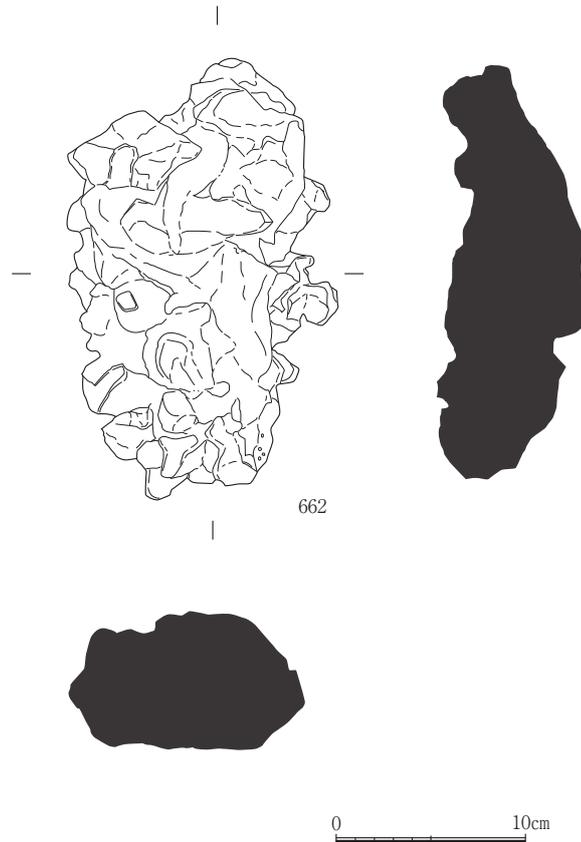


図 128 SD30 出土遺物実測図

SD14

Ⅱ区東部南端に位置する。東西方向に伸び、東端は調査区外に出る。南側は攪乱を受け、また調査区外に出るため、正確な規模は不明であるが、幅約1.5 m、長さは約9.6 mまで検出した。底からは小溝が検出された。検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。図示していないが、弥生土器の壺、鉢の口縁部片、須恵器の高台片、底部片等が出土している。

SD15

Ⅱ区東部に位置し、東西方向にのびる。幅約0.4 m、長さは約2.7 m、検出面からの深さは約0.07 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトである。完掘後、底よりP329を検出した。図示していないが、土師器の口縁部片、杯あるいは皿の底部片等が出土している。

SD16

Ⅱ区東部北端に位置し、南北方向にのびる。SX11の平坦面上で検出した。幅約0.7 m、長さは約1.4 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は二層に分層できる。①層は黒褐色(10YR2/2)中粒砂混じり粘土質シルト、②層は暗褐色(10YR2/2)粗粒砂混じり粘土質シルトである。図示していないが、須恵器の壺の口縁部片等が出土している。

SD17

Ⅱ区北東部に位置し、東西北にのびる。SX11と重複する部分があるが、先後関係は不明である。幅約0.3 m、長さは約1.9 mまで検出できた。検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。

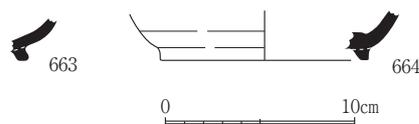


図 129 P5 出土遺物実測図

SD18

Ⅱ区北東部に位置し、南北方向にのびる。北端は調査区外に出、南端はSK41に切られるため、正確な規模は不明であるが、幅約0.8m、長さは約3.5mまで検出できた。検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)粘土質シルトである。図示していない

が、土師器の杯あるいは皿の底部片が出土している。

SD19

Ⅱ区東部北端に位置し、東西にのびる。北端は調査区外に出るため、正確な幅は不明であるが約0.5mまで検出できた。長さは約1.8m、検出面からの深さは約0.2mを測る。図示していないが、弥生土器の甕、鉢の口縁部片、搬入土器片等が出土している。

SD20

Ⅱ区東端に位置し、東西方向にのびる。規模は幅約0.2m、長さは約0.7m、検出面からの深さは約0.07mを測る。

SD21

Ⅱ区東端に位置し、南北方向にのびる。規模は幅約0.2m、長さは約1.7m、検出面からの深さは約0.1mを測る。

SD23

V区東部に位置する。SX12・SD24に沿って弧を描いている。長軸7.2m、短軸0.2mで、深さは0.1mを測る。

SD24

V区東部に位置する。長軸4.0m、短軸1.5m、深さは0.2mを測る。図示していないが、弥生土器の壺、甕、鉢の口縁部片、高杯の脚部片、土師器の杯あるいは皿の口縁部片等が出土している。古代の遺物は混入品か。

SD25

V区中央部に位置する。長さ約6.4m、幅約0.6m、深さ0.08mを測る。P413とSK97に切られている。図示していないが、弥生土器の甕、鉢の口縁部片、土師器の杯の口縁部片、糸きり痕跡が残る底部片等が出土している。

SD26

V区東部に位置する。長さ約8.0m、幅約0.8m、深さ0.1mを測る。図示していないが、土師器の杯あるいは皿の口縁部片等が出土している。

SD27

Ⅲ区中央部北端に位置するいわゆる溝状土坑である。北側が調査区外に出、西側はST18に切られるため、正確な規模は不明であるが、長さ2.2mまで検出した。幅は約0.9m、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

出土遺物は床から20cmほど浮いて出土しており、床面直上の遺物は少ない。図示した出土遺物は、弥生土器の壺、甕、鉢である。652は小形の壺である。貼付口縁であり、口縁部に円孔を穿つ。653は壺であり、口縁部は緩やかに外反する。貼付口縁であり、口唇部に刻み目を施す。外面はハケメ調整で

ある。654は甕である。口唇部を上下に拡張し、三条の凹線文を施す。外面はミガキ調整、ナデ調整である。内面にはケズリ調整・ナデ調整を施す。655は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口唇部を上下に拡張し、三条の凹線文を施す。内面には指頭圧痕が認められる。656は甕である。口唇部を上下に拡張し、三条の凹線文を施す。657は大形鉢である。しっかりとした底部から体部は立ち上がる。上胴部に最大径を持つ。貼付口縁であり外反する。外面には粗いハケメ調整を施す。内面はケズリ調整である。658は底部である。底端部を突出させる。外面はミガキ調整か。内面はケズリ調整を施す。

SD29

V区東部に位置する。長さ約1.7m、幅約0.6m、深さ0.3mを測る。埋土は黒色(2.5Y2/1)粘土質シルトである。

SD30

IV区中央部で検出した。ほぼ直線的に南北方向にのびる溝である。幅約0.7m、深さ約0.07mであり、長さ約16.7mまで検出したが、両端とも調査区外へとびる。上層遺構である。

662は椀形滓である。上面の凹凸は少ない。図示していないが、弥生土器の壺、甕、鉢の口縁部片、詳細な時期は不明だが、粘土塊等が出土している。

SD31

IV区西部～中央部の南端で検出した東西方向にのびる溝である。ST30、ST31、SD32、SD33を切る。幅約0.9m、深さ約0.2mであり、長さ約18.4mまで検出したが、両端とも調査区外へとびる。

SD32

IV区中央部の南端で検出した溝である。東から西へとび、南へと方向を変え調査区外に出る。ST27、SD30を切り、またSD31に切られる。幅約0.5m、深さ約0.1mであり、長さ約4.7mまで検出した。埋土には拳大の円礫が多く含まれる。

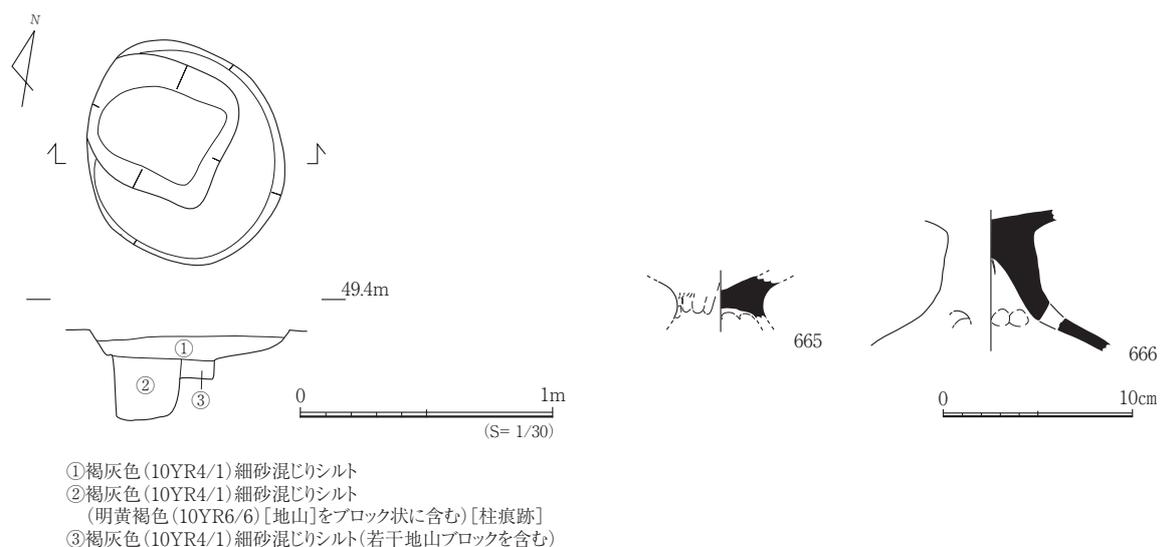


図130 P20 平面図・断面図・出土遺物実測図

SD33

IV区の西部南端で検出した東西方向にのびる溝である。ST30, 31を切り、またSD31に切られる。規模は幅約1.0 m、深さ約0.1 mであり、長さ約5.6 mを測る。埋土は基本的に暗褐色(10YR3/3)シルトであり、一部に褐色(10YR4/6)細砂が層を成している。図示していないが、古代の須恵器壺の肩部片等が出土している。

SD34

IV区西部で検出した東西方向にのびる溝で、ST28を切る。規模は幅約0.3m、長さ約5.6m、深さ約0.1 mを測る。図示していないが、弥生土器の鉢の口縁部片等が出土している。

(4)ピット(P)

P1

I区の西部に位置する。平面形は直径約0.5 mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は極暗褐色(7.5YR2/3)シルトである。

P2

I区の西部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、長軸約0.9 m、短軸約0.7 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は明褐色ハンダをブロック状に含む極暗褐色(7.5YR2/3)シルトである。

P3

I区の西部に位置する。平面形は直径約0.9 mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒褐色(7.5YR2/2)シルトである。図示していないが、古墳時代の須恵器の杯蓋が出土している。

P4

I区の西部の南端に位置する。半分調査区外に出ているが、底の形から平面形は直径0.6 mの円形を呈していると思われる。検出面からの深さは約0.5 mを測る。埋土は20 cm大の円礫を含む黒褐色(10YR2/3)シルトであり、一部に褐色土をブロック状に含む。

P5

I区の西部に位置する。平面形は直径約0.4 mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.4 mを測る。北東方向に逆ハンクしている。埋土は20 cm大の円礫を含む黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P6

I区の西端に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は直径5mm大の褐色土をブロック状に含む黒褐色(7.5YR2/2)シルトである。

P7

I区の西端に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒褐色(7.5YR2/2)粘土質シルトである。

P8

I区の西部に位置する。平面形は直径約0.5 mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は5～10cmの円礫を含む極暗褐色(7.5YR2/3)粘土質シルトである。

P9

I 区の中央部に位置する。平面形は直径約 0.5 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.3 m を測る。埋土は 5cm 大の円礫を含む黒褐色 (10YR2/3) シルトである。図示していないが、古墳時代の須恵器の杯蓋が出土している。

P10

I 区の西部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、長軸約 0.8 m、短軸約 0.5 m、検出面からの深さは約 0.2 m を測る。埋土は 10cm 大の円礫を少し含む黒褐色 (10YR2/2) シルトである。

P11

I 区の西端に位置する。平面形は直径約 0.3 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.3 m を測る。埋土はにぶい黄褐色 (10YR4/3) 細砂混じりシルトである。

P12

I 区の中央部に位置する。平面形は直径約 0.2 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.1 m を測る。埋土はハンダ片が少量混じるにぶい黄褐色 (10YR4/3) 細砂混じりシルトである。図示していないが、古代の須恵器の口縁部片が出土している。

P13

I 区の中央部に位置する。平面形は直径約 0.4 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.1 m を測る。埋土はにぶい黄褐色 (10YR4/3) 細砂混じりシルトである。

P14

I 区の東部に位置する。平面形は直径約 0.4 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.3 m を測るが、底については掘り過ぎている可能性がある。埋土は褐灰色 (10YR4/1) 細砂混じりシルトである。

P15

I 区の東部に位置する。平面形は直径約 0.4 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.4 m を測る。埋土はにぶい黄褐色 (10YR4/3) 細砂混じりシルトである。

P16

I 区の東部に位置する。平面形は直径約 0.4 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.2 m を測る。埋土は灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂混じりシルトである。

P17

I 区の東部に位置する。平面形は直径約 0.2 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.4 m を測るが、底については掘り過ぎている可能性がある。埋土は黄褐色 (10YR5/6) 粘土ブロックを少量含む褐灰色 (10YR4/1) 細砂混じりシルトである。

P18

I 区の東部に位置する。平面形は直径約 0.3 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.1 m を測る。埋土は黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルトである。図示していないが、古墳時代の須恵器の杯蓋が出土している。

P19

I 区中央部南端に位置する。平面形は直径約 0.6 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.5 m を測る。柱痕跡が残る。埋土は 2 層に分層できる。①層は黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト、②

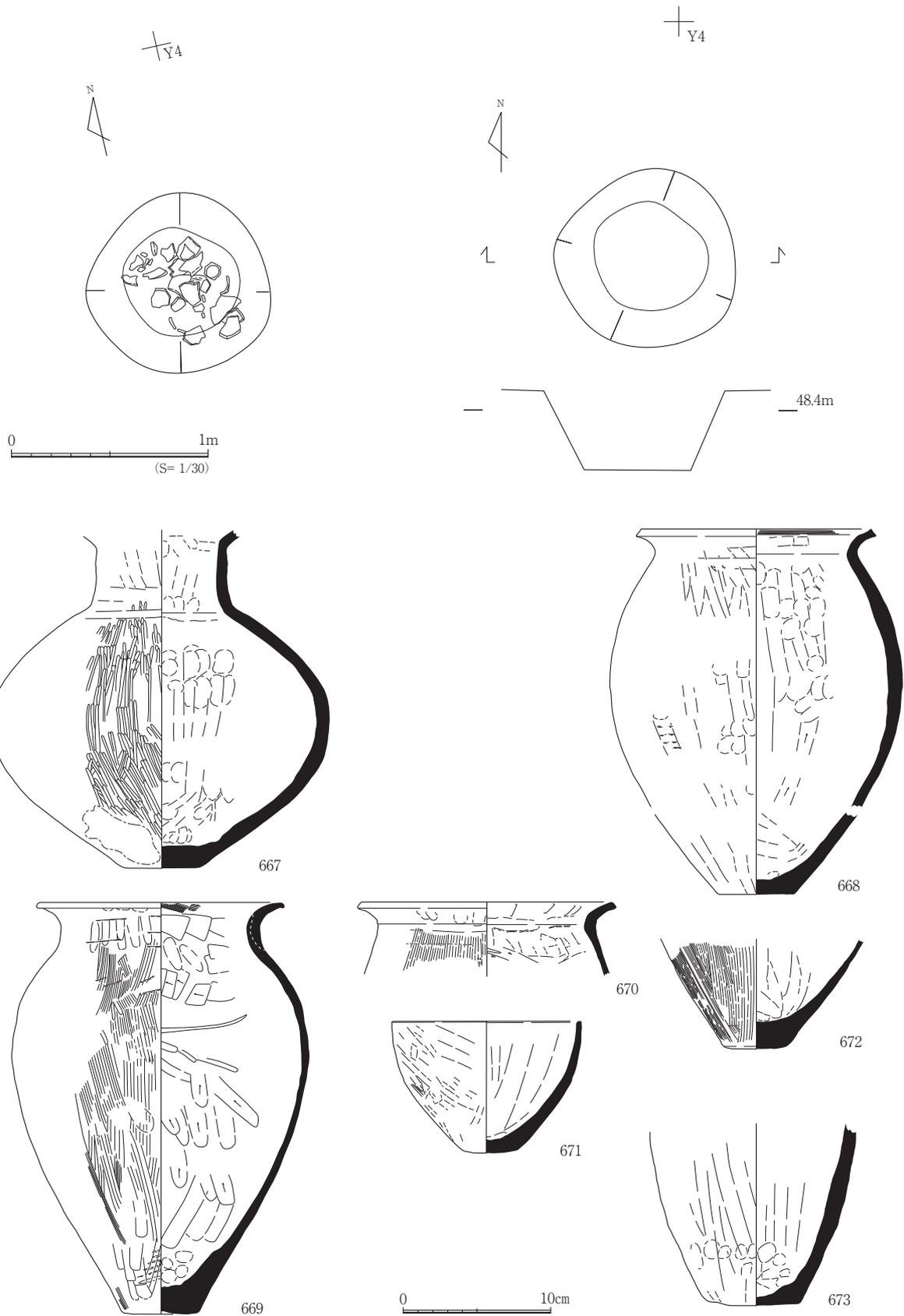


図 131 P34 遺物出土状況図・平面図・エレベーション図・出土遺物実測図

層は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトと明黄褐色(10YR6/6)細砂混じりシルトの互層である。図示していないが、弥生時代の搬入土器片が出土している。P20, P38, P40と柱穴列を構成する。

P20

I区中央部南端に位置する。平面形は直径約0.8mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.4mを測る。柱痕跡が残る。埋土は3層に分層できる。①層は褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト、②層は明黄褐色(10YR6/6)細砂混じりシルトをブロック状に含む褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト、③層は①層に若干地山ブロックを含む。P19, P38, P40と柱穴列を構成する。

P21

I区中央部南端に位置する。西側をSD1に切られているが、平面形は直径約0.6mの円形を呈すると考えられる。検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P22, P23と柱穴列を構成する。

P22

I区中央部南端に位置する。平面形は直径約0.6mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細砂混じり粘土質シルトである。

P21, P23と柱穴列を構成する。

P23

I区中央部南端に位置する。西側をSD1に切られているが、平面形は直径約0.4mの円形を呈すると考えられる。検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は明黄褐色(10YR6/6)地山ブロックを少量含む黒褐色(10YR4/1)細砂混じりシルトである。

P21, P22と柱穴列を構成する。あるいは、P37, P39と柱穴列を構成する。

P24

I区中央部に位置する。平面形は楕円形で、規模は長軸約0.5m、短軸約0.4m、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P25

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P26

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.7mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。図示していないが、古代の土師器の口縁部が出土している。

P27

I区中央部に位置する。平面形は楕円形で、規模は長軸約0.7m、短軸約0.6m、検出面からの深さは約0.4mを測る。

P28

I区中央部に位置する。平面形は楕円形で、規模は長軸約0.8m、短軸約0.6m、検出面からの深さは約0.4mを測る。ST3-SK1, P145, P175と柱穴列を構成する。

P29

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.7mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.1m

を測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P30

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。

P31

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.4mを測る。

P32

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。

P33

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は灰黄褐色(10YR4/2)細砂混じりシルトである。

P34

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.9mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.3mを測る。

667は弥生土器壺である。671は弥生土器の鉢である。角のとれた平底、丸みを持った体部がつく。口唇部はルーズな面取りを施す。内外面ともナデ調整である。外面に煤が付着する。672・673は弥生土器の底部であり、しっかりとした作りである。672の内面では砂粒の移動痕跡を観察できる。

P35

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.1mを測る。

P36

I区西部に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.4mを測る。

P37

I区中央部に位置する。西側をSD1に切られているため正確な平面形は不明であるが、直径約0.4mの円形を呈すると考えられる。検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は2層に分層できる。①層は褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト、②層は灰黄褐色(10YR5/2)細砂混じりシルトである。P23、P39と柱穴列を構成する。

P38

I区中央部に位置する。北側をSD3に切られているため正確な平面形は不明であるが、直径約0.6mの円形を呈すると考えられる。検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。P19、P20、P40と柱穴列を構成する。

P39

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細砂混じり粘土質シルトである。P23、P37と柱穴列を構成する。

P40

I 区中央部に位置する。平面形は直径約 0.5 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.3 m を測る。埋土は 3 層に分層できる。①層は褐灰色 (10YR4/1) 細砂混じりシルト、②層は明黄褐色 (10YR6/6) 細砂混じりシルト [地山] がブロック状に混じる褐灰色 (10YR4/1) 細砂混じりシルト、③層は褐灰色 (10YR4/1) 細砂混じりシルトがブロック状に混じる明黄褐色 (10YR6/6) 細砂混じりシルトである。

P19, P20, P40 と柱穴列を構成する。

P41

I 区中央部に位置し、P120 を切る。平面形は直径約 0.8 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.1 m を測る。埋土は黒褐色 (10YR2/2) 粘土質シルトである。

P42

I 区中央部に位置する。平面形は直径約 0.6 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.6 m を測る。埋土は黒褐色 (10YR2/2) 細砂混じり粘土質シルトである。

P43

I 区中央部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸約 0.6 m, 短軸約 0.4 m である。検出面からの深さは約 0.1 m を測る。埋土は黒褐色 (10YR2/3) 粘土質シルトである。

P44

I 区中央部に位置する。平面形は不整形円形を呈しており、規模は長軸約 0.7 m, 短軸約 0.6 m である。検出面からの深さは約 0.4 m を測る。埋土は黒褐色 (10YR2/2) 粘土質シルトである。

674 は土師器の皿である。内外面とも摩耗により調整は不明である。675 は土師器の杯である。口縁部を屈曲させ、端部を軽くつまみ上げる。内外面とも横方向のミガキ調整を施す。底部外面は摩耗しているが、ヘラ切り痕跡が見られる。676 は弥生土器の小形の高杯か。杯部内外面にはミガキ調整を施す。

P45

I 区中央部に位置する。平面形は直径約 0.3 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.2 m を測る。埋土は黒褐色 (10YR2/2) 粘土質シルトである。

P46

I 区中央部に位置する。平面形は直径約 0.9 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.3 m を測る。SX4 の柱穴である。埋土は黒褐色 (10YR2/2) 粘土質シルトである。

677 は土師器の杯 B である。断面長方形の高台が貼付けられる。内外面とも摩耗しており調整は不明である。678 は須恵器の杯 B である。断面長方形の高台が貼付けられる。内外面とも回転ナデ調整である。

P47

I 区中央部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸約 0.7 m, 短軸約 0.5 m である。検出面からの深さは約 0.2 m を測る。埋土は黒褐色 (10YR2/3) 粘土質シルトである。

P48

I 区中央部に位置する。西側は調査区外に出、東側は SX4 に切られるため正確な平面形は不明であるが、不整形を呈していると考えられる。規模は長軸 0.8 m 以上、短軸約 0.6 m である。検出面から

の深さは約0.1 mを測る。埋土は褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルトである。

P49

I区中央部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸約0.7 m、短軸約0.5 mである。検出面からの深さは約0.4 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

679は土師器の高台付き皿である。高台は「ハ」の字に付く。口縁部内面に沈線が一条巡る。内外面は赤彩される。図示していないが、粘土塊が出土している。

P50

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.4 mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2 mを測る。

P51

I区中央部に位置する。平面形は一辺約0.5 mの隅丸方形を呈しており、検出面からの深さは約0.4 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P52

I区中央部南端に位置し、P123を切る。平面形は直径約0.9 mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2 mを測る。底でP125を検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P53

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.6 mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルトである。

P54

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.06 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P55

I区中央部に位置する。SD1に切られるが、平面形は直径約0.3 mの円形を呈していると考えられる。検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P56

I区中央部に位置する。P26と切り合うが、先後関係は不明である。平面形は直径約0.3 mの円形を呈していると考えられ、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P57

I区中央部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸0.5 m、短軸約0.4 mである。検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P58

I区中央部に位置する。平面形は不整形円形を呈しており、規模は長軸約0.7 m、短軸約0.5 mである。検出面からの深さは約0.5 mを測る。埋土は直径5 cm大の礫を含む黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。P63、P74、P102、SK19と掘立柱建物跡の一部を構成する。図示していないが、弥生時代の搬入土器片が出土している。

P59

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.5 mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.3 m

を測る。埋土は直径5cm大の礫を含む黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

680は弥生土器の支脚である。突起部分であり、先端は丸くおさめる。指頭圧痕が顕著にみられる。うっすらと煤が付着する。

P60

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)粘土質シルトである。

P61

I区中央部に位置する。平面形は不整形を呈しており、規模は長軸約0.6m、短軸約0.5mである。検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P62

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)粘土質シルトである。

P63

I区中央部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸約0.7m、短軸約0.4mである。検出面からの深さは約0.5mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。P58、P74、P102、SK19と掘立柱建物跡の一部を構成する。

P64

I区中央部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸約0.7m、短軸約0.4mである。検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P65

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルトである。

P66

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.05mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルトである。

P67

I区中央部に位置する。P102と切り合うが、先後関係は不明である。平面形は直径約0.6mの円形を呈していると考えられ、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

P68

I区中央部に位置する。平面形は一辺が約0.5mの隅丸方形を呈しており、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルトである。

P69

掘削の結果、P104と統合した。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

P70

I区中央部に位置する。平面形は一辺が約0.6mの隅丸方形を呈しており、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P71

I区中央部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸約0.4m、短軸約0.3mである。検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P72

I区中央部に位置する。平面形は不整形を呈しており、規模は長軸約0.7m、短軸約0.6mである。検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)粘土質シルトである。掘削の結果、P73、P97と統合した。

P74

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.5mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は直径10～20cm大の礫を含む黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。P58、P63、P102、SK19と掘立柱建物跡の一部を構成する。

P75

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.6mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.5mを測る。埋土は直径5～10cm大の礫を含む黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P76

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は直径5～10cm大の礫を含む黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P77

I区中央部北端に位置する。平面形は直径約0.8mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は直径5～15cm大の礫を含む黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P78

I区中央部北端に位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)粘土質シルトである。

P79

I区中央部北端に位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)シルト質粘土である。

P80

I区中央部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸約0.9m、短軸約0.6mである。検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は二層に分層できる。①層は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルト、②層は①層より明るい黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

P81

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.5mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P82

I区東部に位置する。平面形は直径約0.5mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

681は弥生土器の脚部である。「ハ」の字状にひろがり、端部を少しつまむ。ナデ調整で仕上げられ、指頭圧痕がみられる。

P83

I区東部北端に位置する。平面形は一辺約0.4mの隅丸方形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P84

I区東部に位置する。平面形は不整形円形を呈しており、規模は長軸約0.6m、短軸約0.5mである。検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。P179と合体。

P85

I区東部北端に位置する。平面形は直径約0.7mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.3

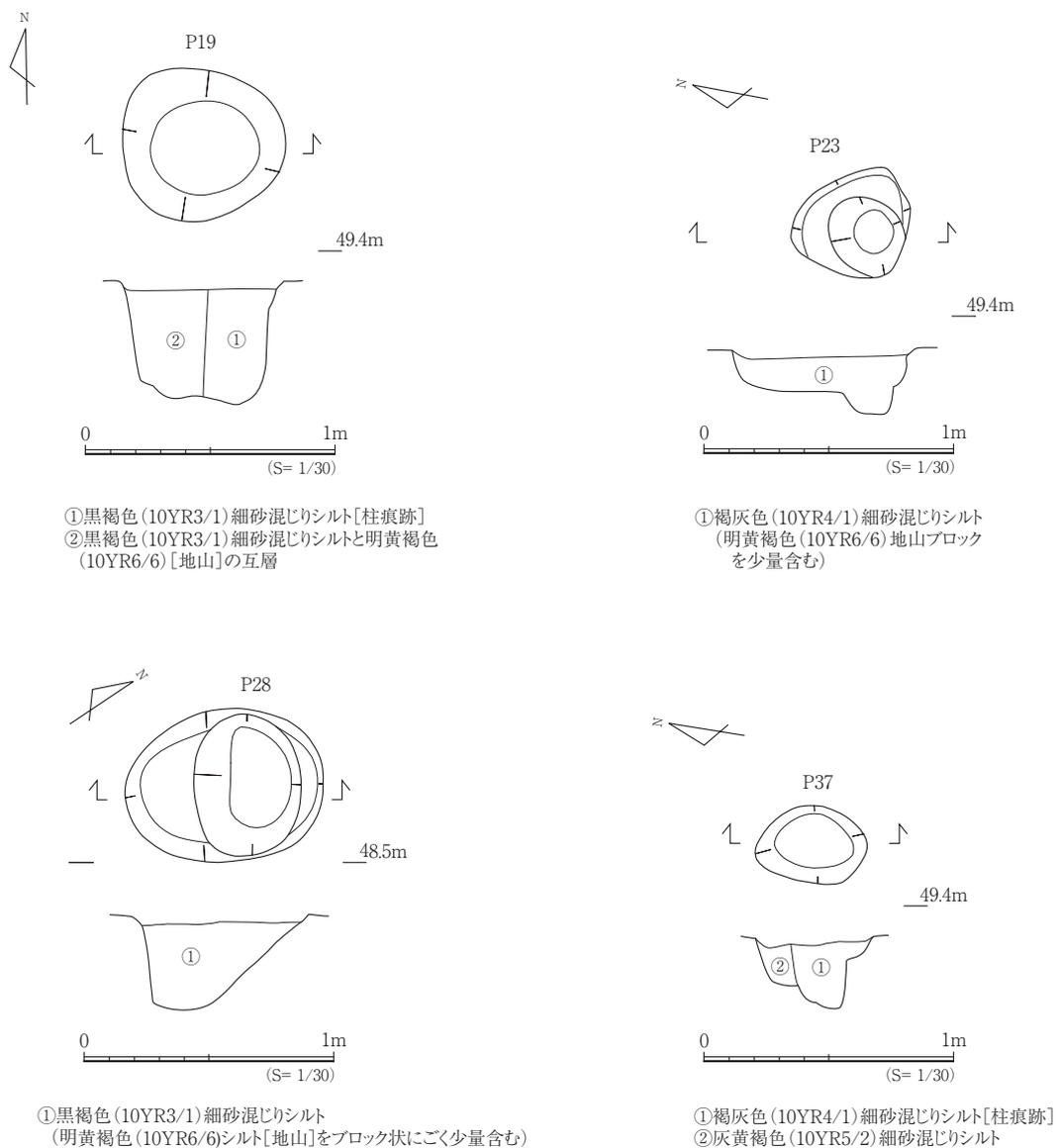


図 132 P19・23・28・37 平面図・断面図

mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)粘土質シルトである。

P86

I区東部北端に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)粘土質シルトである。

P87

I区東部に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P88

I区東部に位置する。平面形は直径約0.5mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)粘土質シルトである。

682は須恵器の杯身である。立ち上がりは短く内傾し、端部は尖る。

P89

I区東部北端に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸約0.8m、短軸約0.5mである。検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)粘土質シルトである。

P90

I区中央部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸約0.5m、短軸約0.3mである。検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P91

I区中央部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸約0.7m、短軸約0.5mである。検出面からの深さは約0.5mを測る。埋土は褐色(10YR4/4)粘土がブロック状に混じる黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

683は弥生土器の壺である。口縁部を外反させ、端部は面取りを施す。ごくわずかではあるが、凹面状を呈する。器壁は厚く、しっかりとした作りである。内外面とも細かいハケメ調整を施す。図示していないが、粘土塊が出土している。

P92

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

P93

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)粘土質シルトである。

P94

I区中央部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸約0.5m、短軸約0.3mである。検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

684は弥生土器の壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部は面取りする。口唇部にはほぼ中央に一条沈線状に見える。上半には斜線の短沈線文を密に施す。外面はミガキ調整を施す。

P95

I区中央部に位置し、P80の底で検出した。平面形は直径約0.3mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。

P96

I区中央部に位置し、P80の底で検出した。平面形は直径約0.3mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。

P98

I区中央部に位置する。平面形は不整形円形を呈しており、規模は長軸約0.7m、短軸約0.6mである。検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P99

I区中央部に位置する。平面形は不整形を呈しており、規模は長軸約0.4m、短軸約0.3mである。検出面からの深さは約0.06mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

P100

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

P101

I区中央部北端に位置する。平面形は直径約0.1mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)粘土質シルトである。

P102

I区中央部に位置する。平面形は一辺約0.6mの隅丸方形を呈しており、検出面からの深さは約0.4mを測る。掘削の結果、P69、P103と統合した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。P58、P63、P74、SK19と掘立柱建物跡の一部を構成する。

685は弥生土器の甕である。口頸部は「く」の字状に外反する。口唇部は面取りされる。口縁部内外面はハケメ調整を施す。肩部外面はハケメ調整下にうっすらと叩き目がみられる部分がある。外面には煤が付着する。

P104

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.5mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒色(10YR4/4)粘土がブロック状に混じる黒褐色(10YR2/3)シルトである。

P105

I区中央部に位置する。南側をSD3に切られるが、平面形は直径約0.7mの円形を呈していると考えられ、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P106

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.5mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

P107

I区中央部に位置する。東側をSK22に切られるが、平面形は直径約0.9mの円形を呈していると考えられる。検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P108

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

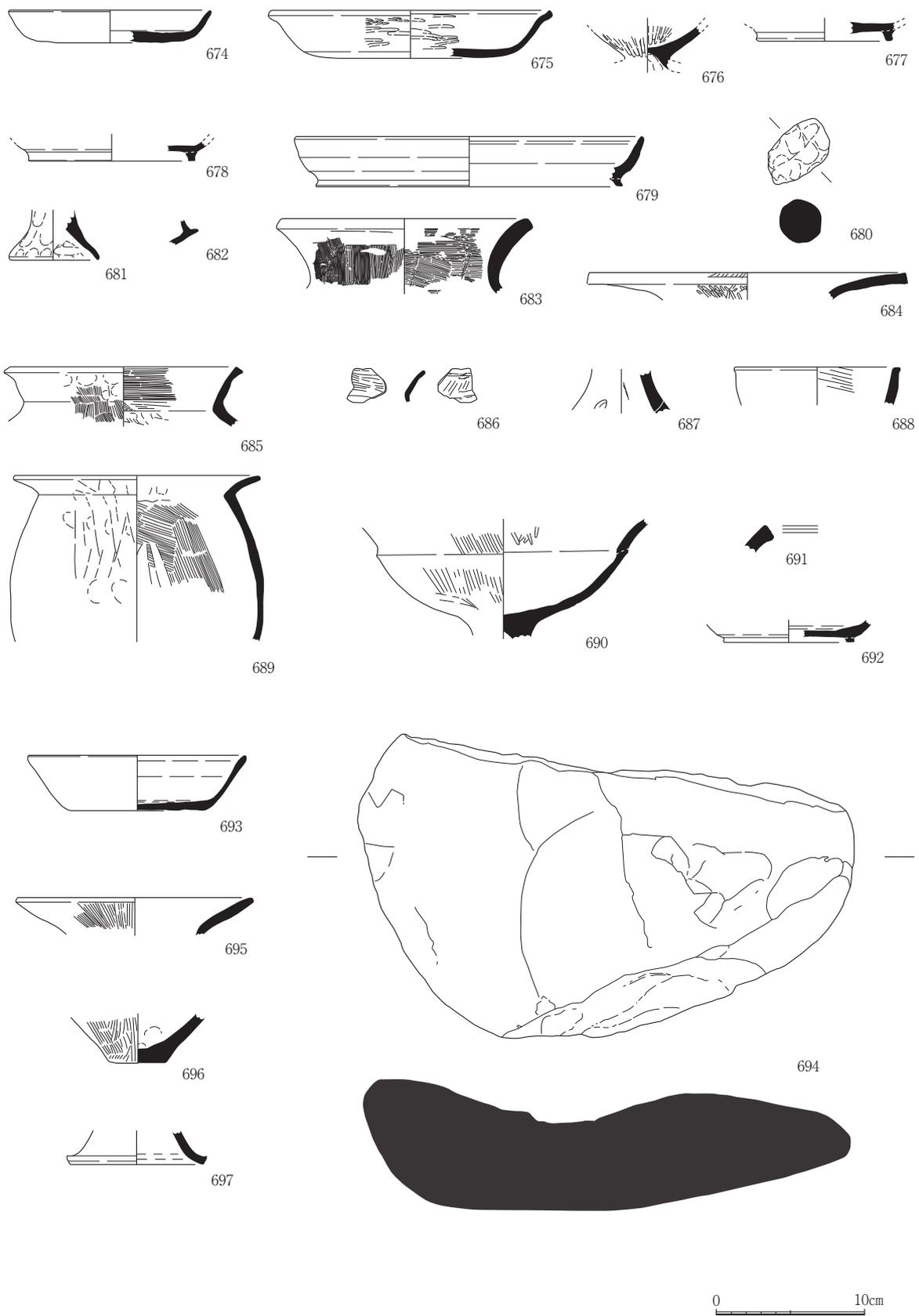


図 133 ピット出土遺物実測図

P109

I区中央部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸約0.9 m、短軸約0.5 mである。検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P110

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.2 mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P111

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.4 mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

P112

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.1 mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

P113

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.6 mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.6 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

P114

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

P115

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.2 mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P116

I区中央部に位置する。SK18に切られているが、平面形は直径約0.5 mの円形であると考えられる。検出面からの深さは約0.7 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

P117

I区中央部に位置する。SK17に切られているが、平面形は直径約0.4 mの円形であると考えられる。検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

P118

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.2 mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P119

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.6 mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.6 mを測る。埋土は褐色(10YR4/4)粘土をブロック状に含む黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P120

I区中央部に位置する。P41に切られるが、平面形は直径約0.3 mの円形であると考えられる。検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細砂混じり粘土質シルトである。

P121

I区東部に位置しP122と切りあうが、先後関係は不明である。平面形は直径約0.5 mの円形

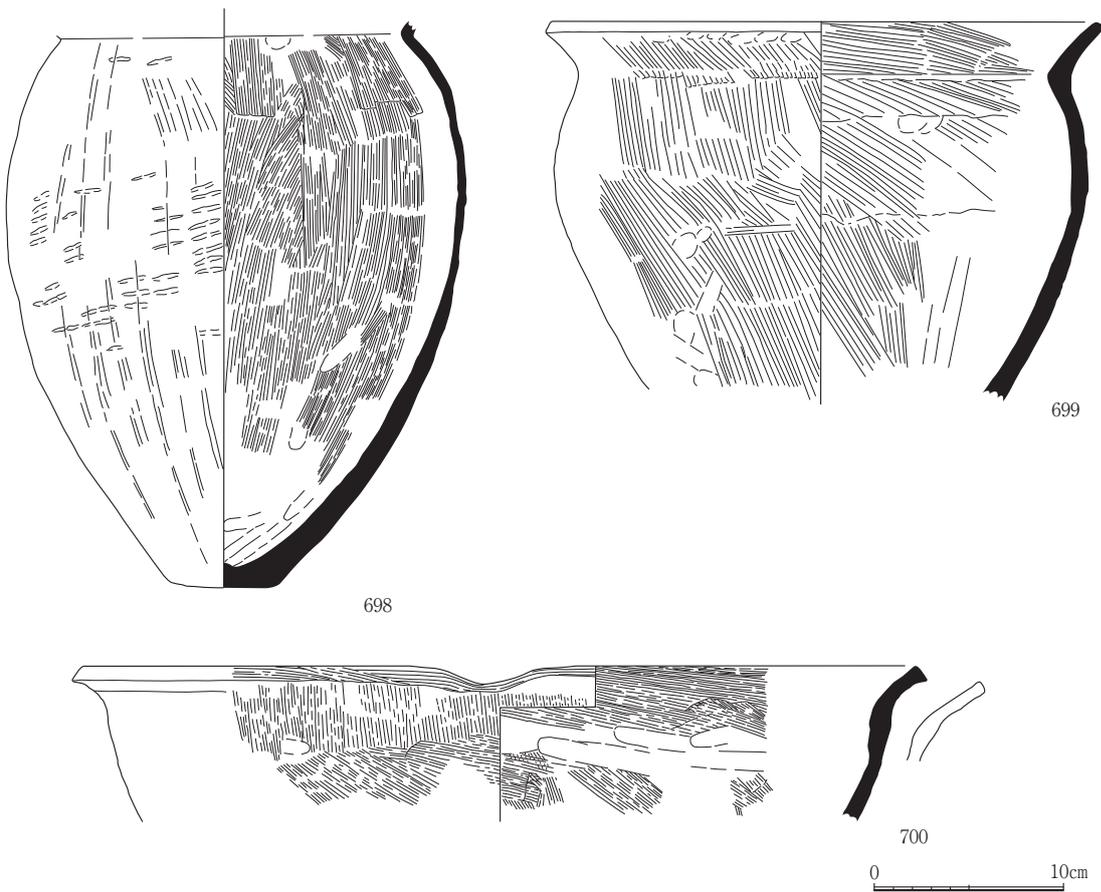
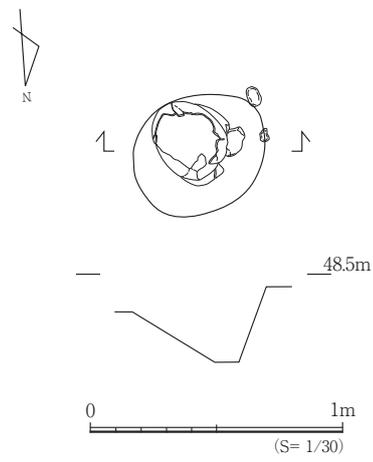
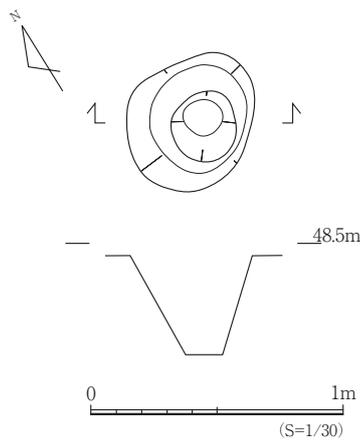


図 134 P183 遺物出土状況図・エレベーション図・出土遺物実測図

で、検出面からの深さは約 0.3 m を測る。埋土は褐色 (10YR4/4) 粘土がブロック状に混じる黒褐色 (10YR2/3) 粘土質シルトである。

P122

I 区東部に位置し P121 と切りあうが、先後関係は不明である。平面形は直径約 0.5 m の円形で、検出面からの深さは約 0.3 m を測る。埋土は直径 1cm 大の褐色 (10YR4/4) 粘土がブロック状に混じる黒褐色 (10YR2/3) 粘土質シルトである。



P123

I 区中央部南端に位置し、P52 を切る。平面形は直径約 0.7 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.4 m を測る。埋土は黒褐色 (10YR2/3) 粘土質シルトである。

P124

I 区東部に位置する。平面形は一辺約 0.7 m の隅丸方形を呈しており、検出面からの深さは約 0.1 m を測る。埋土は黒褐色 (10YR2/3) 粘土質シルトである。

P125

I 区中央部に位置し P52 の底で検出した。平面形は直径約 0.2 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.1 m を測る。埋土は黒褐色 (10YR2/2) シルト質粘土である。

P126

I 区東部に位置する。平面形は一辺約 0.6 m の隅丸方形を呈しており、検出面からの深さは約 0.5 m を測る。埋土は褐色 (10YR4/4) 粘土がブロック状に混じる黒褐色 (10YR2/2) 粘土質シルトである。

P127

I 区中央部に位置する。平面形は直径約 0.5 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.1 m を測る。埋土は黒褐色 (10YR2/3) 粘土質シルトである。

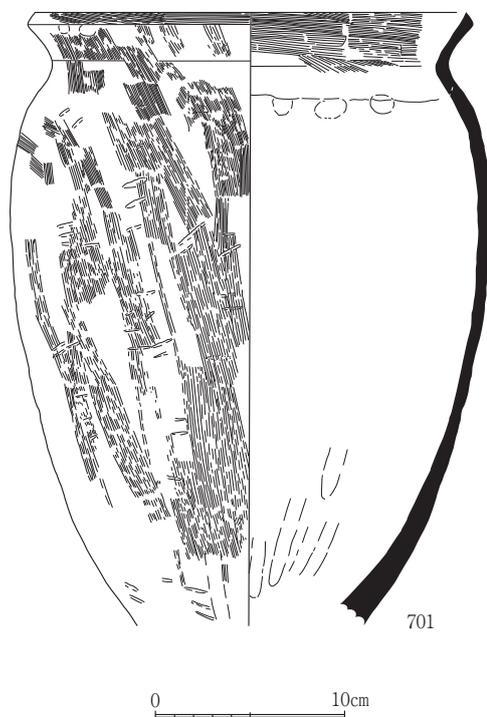


図 135 P184 平面図・エレベーション図
・出土遺物実測図

P128

I区東部北端に位置する。平面形は直径約0.6mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は褐色土がブロック状に混じる黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

686は弥生土器の甕である。口縁部の細片である。

P129

I区東部北端に位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒色(10YR1.7/1)細砂混じり粘土質シルトである。

P130

I区東部北端に位置する。平面形は不整形円形を呈しており、規模は長軸約0.7m、短軸約0.6m、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は褐色土がブロック状に混じる黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。ST5-P2, P140と柱穴列を構成する。

687は弥生土器高杯の脚部である。「ハ」の字状にひろがる。内外面ともナデ調整である。煤が付着する。

P131

I区東部北端に位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P132

I区東部北端に位置する。平面形は直径約0.6mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は褐色土がブロック状に混じる黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P133

I区東端に位置し、SD3に切られる。平面形は不整形を呈しており、規模は東西約0.5m、南北約0.2m以上、検出面からの深さは約0.2mを測る。

P134

I区東端に位置し、SD3に切られる。平面形は不整形を呈しており、規模は東西約0.3m、南北約0.2m以上、検出面からの深さは約0.2mを測る。

P136

I区東部北端に位置する。平面形は直径約0.5mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は褐色土がブロック状に混じる黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P137

I区東部北端に位置する。平面形は直径約0.6m

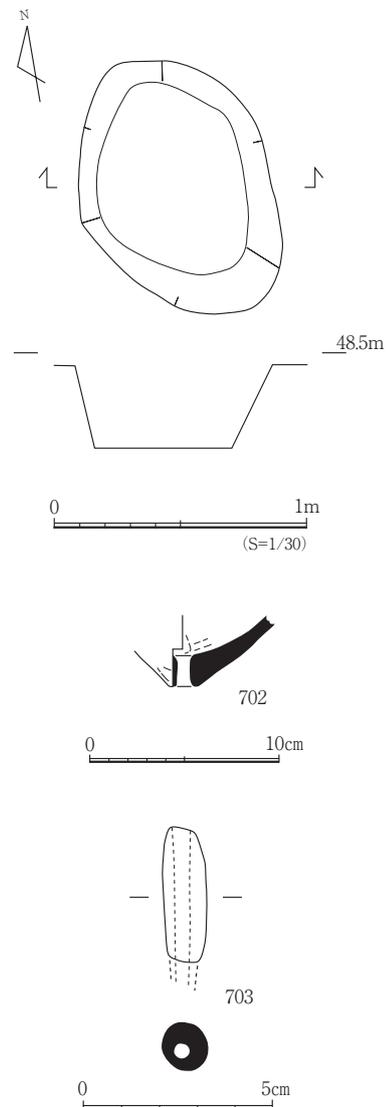


図136 P185平面図・エレベーション図・出土遺物実測図

の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.4 m を測る。埋土は褐色土がブロック状に混じる黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P138

I 区東部北端に位置する。平面形は直径約 0.4 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.1 m を測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P139

I 区東部北端に位置する。平面形は直径約 0.2 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.07 m を測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P140

I 区東部北端に位置し、P141に切られる。平面形は一辺が約 0.6 m の隅丸方形を呈しており、検出面からの深さは約 0.5 m を測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。ST5-P2、P130 と柱穴列を構成する。

688 は弥生土器の鉢である。外面は叩き成形後ナデ調整を施す。若干器面に亀裂が見られる。内面はハケメ調整である。

P141

I 区東部北端に位置し、P140に切られる。平面形は一辺が約 0.5 m の隅丸方形を呈しており、検出面からの深さは約 0.2 m を測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質粘土である。

P142

I 区東部に位置する。平面形は直径約 0.2 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.3 m を測る。ST6内。

P143

I 区東端に位置する。平面形は直径約 0.6 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.5 m を測る。埋土は褐色土がブロック状に混じる黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P144

I 区東部に位置する。平面形は直径約 0.5 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.5 m を測る。埋土は褐色土がブロック状に混じる黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P145

I 区中央部に位置する。平面形は直径約 0.5 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.3 m を測る。埋土は二層に分層できる。①層は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。②層は①層に明褐色(7.5YR5/6)シルト(地山がブロック状に混じる)である。

ST3-SK1、P28、P175 と柱穴列を構成する。

P146

I 区西部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸約 0.5 m、短軸約 0.3 m、検出面からの深さは約 0.3 m を測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

689 は弥生土器の甕である。口頸部は「く」の字状を呈し、端部はルーズな面取りを施す。口頸部の屈曲度合いは比較的シャープである。外面はナデ調整を施し、一部ハケメ状を呈する。内面はハケメ調整である。外面には煤が付着する。690 は弥生土器の高杯である。椀状の杯部から口縁部は大きく外反する。杯部はやや深めである。外面は粗いハケメ調整、ミガキ調整を施す。内面は荒れる。図示

していないが、弥生土器の搬入土器片が出土している。

P147

I区西部に位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P148

I区西部に位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P149

I区西部に位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P150

I区東部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸約0.3m、短軸約0.2m、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質粘土である。

P151

I区東部に位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は細砂混じり黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

P152

I区東部に位置し、SD6に切られる。平面形は直径約0.4mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.1mを測る。

P156

I区東部に位置し、SD6を切る。平面形は一辺約0.6mの隅丸方形を呈しており、検出面からの深さは約0.5mを測る。埋土は3～5cmの褐色土をブロック状に含む黒褐色(10YR2/2)砂混じり粘土質シルトである。

P157

I区西部に位置する。平面形は直径約0.6mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。

P158

I区西部に位置する。平面形は不整楕円形を呈しており、規模は長軸約0.9m、短軸約0.6m、検出面からの深さは約0.2mを測る。

P159

P156と合体。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

691は土師器の甕である。口唇部はハケメ状原体により面取りされ、やや肥厚する。内外面ともハケメ調整を施す。煤が付着する。

P160

I区西部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸約0.5m、短軸約0.3m、検出面からの深さは約0.2mを測る。

P161

I区中央部南端に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.02

mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。図示していないが、古代の土師器杯の口縁部片,底部片が出土している。

P162

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.5mの円形を呈しており、検出面から根石の上面までの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

692は須恵器の杯Bである。やや扁平な高台がつく。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面はヘラ切り後、ナデ調整を施す。

P163

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.8mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

693は土師器の杯である。底部から口縁部は外上方にのび、端部は丸くおさめる。内外面ともやや摩耗するが、内面にはミガキ調整を施す。また、外底面にはヘラ切り痕跡が認められる。694は砂岩の根石である。特に加工痕跡はみられないが、上面は凹んでいる。柱を安定して受けることができたと推定される。図示していないが、古代の土師器杯の口縁部片が出土している。

P164

I区中央部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸約0.4m、短軸約0.3m、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P165

I区中央部に位置する。平面形は不整楕円形を呈しており、規模は長軸約0.8m、短軸約0.6m、検出面からの深さは約0.3mを測る。

P166

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.6mの不整円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P167

I区東部に位置する。平面形は直径約0.7mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P168

I区東部に位置する。平面形は一辺約0.7mの隅丸方形を呈しており、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)シルト質粘土である。

695は弥生土器の壺である。口縁部は短く大きく外反する。外面はハケメ調整、内面はナデ調整である。696は弥生土器の底部である。平底であり、底部と体部の境目は明瞭である。外面は底部を含め、ハケメ調整を施す。

P169

I区東部に位置する。平面形は一辺約0.7mの隅丸方形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)砂混じり粘土質シルトである。

697は須恵器高杯の脚部である。「ハ」の字状を呈し、底端部をつまみ上げる。内外面とも回転ナデ調整を施す。遺物の出土量は多い。

P170

掘削の結果、P166と一緒にあった。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P171

I区東部に位置する。平面形は不整円形を呈しており、規模は長軸約0.5m、短軸約0.4m、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

P172

I区東部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸約0.8m、短軸約0.6m、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P173

I区中央部に位置する。P23と切り合うが先後関係は不明である。平面形は不整形を呈しており、規模は長軸約0.4m以上、短軸約0.3m、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

P174

I区東部に位置する。P176と切り合うが先後関係は不明である。平面形は直径約0.3mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)粘土質シルトである。

P175

I区中央部に位置する。SD3と切り合うが先後関係は不明である。平面形は直径約0.5mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。ST3-SK1、P28、P145と柱穴列を構成する。

P176

I区東部に位置する。P174と切り合うが先後関係は不明である。平面形は不整形を呈しており、規模は長軸約0.5m以上、短軸約0.3m、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P177

I区中央部に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)シルト質粘土である。

P178

I区東部に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)シルト質粘土である。

P179

掘削の結果、P84と同一遺構となった。埋土は黒色(10YR2/1)シルト質粘土である。

P180

I区東部に位置する。平面形は直径約0.5mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P181

I区東部に位置する。平面形は直径約0.7mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は暗褐色(10YR3/3)粘土質シルトである。

P182

掘削の結果、P245と同一遺構となった。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P183

I区中央部南端に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質粘土である。

698は弥生土器の甕である。体部は上胴部に最大径を持つ。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。内面はハケメ調整である。煤、おこげが付着する。699は弥生土器の鉢である。上胴部に最大径を持ち、口縁部は外反する。外反度合いはやや弱い。頸部内面は比較的シャープに屈曲する。内外面ともハケメ調整を施す。外面は下地に叩き目をうっすらと確認できる部分がある。700は大形鉢である。口縁部を外反させ、一部を注口とする。内外面ともハケメ調整を施す。

P184

I区中央部南端に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

701は弥生土器の甕である。長胴である。口縁部は「く」の字状を呈する。屈曲度合いは弱い。口縁端部をつまみ上げる。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。内面はナデ調整である。

P185

I区中央部南端に位置する。平面形は不整楕円形を呈しており、規模は長軸約1.1m、短軸約0.8m、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は褐色土をブロック状に含む黒褐色(10YR2/2)シルト質粘土である。

702は弥生土器の甑である。底部には焼成前の穿孔が認められる。703は棒状土錘である。図示していないが、古代の土師器杯の底部片が出土している。

P186

I区東部に位置し、SK26マウンドを除去後に検出した。平面形は直径約0.2mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P187

II区西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は直径0.2m、検出面からの深さは約0.05mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)砂混じり粘土質シルトである。図示していないが、古代の杯あるいは皿の底部片が出土している。

P188

II区西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は直径0.7m、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は赤褐色土が粒状に混じる黒褐色(10YR2/3)シルト質粘土である。

P189

II区西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は直径0.6m、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は赤褐色土が粒状に混じる黒褐色(10YR2/3)砂混じり粘土質シルトである。

P190

II区西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は直径0.4m、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は褐色(7.5YR4/4)シルトがブロック状に混じる黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

P191

Ⅱ区西部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸0.9 m、短軸0.6 m、検出面からの深さは約0.4 mを測る。検出時は形状より二つのピットかと思われたが、分けることが出来なかった。埋土は黒色(10YR2/1)砂混じりシルト質粘土である。

P192

Ⅱ区西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は直径0.4 m、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は赤褐色土が粒状に混じる黒褐色(10YR2/3)シルトである。

P193

Ⅱ区西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は直径0.5 m、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は明赤褐色土を粒状に含む褐灰色(7.5YR4/1)砂混じりシルト質粘土である。

P194

Ⅱ区西部に位置する。平面形は円形を呈しており、規模は直径0.4 m、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は明赤褐色土を粒状に含む褐灰色(7.5YR4/1)砂混じりシルト質粘土であり、拳大の礫を多く含む。

P195

Ⅱ区西部北寄りに位置する。平面形は円形を呈しており、規模は直径0.2 m、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は明赤褐色土が粒状に混じる黒褐色(10YR2/3)細砂混じり粘土質シルトである。

P196

Ⅱ区西部北寄りに位置する。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸0.6 m、短軸0.5 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は明赤褐色土が粒状に混じる黒褐色(10YR2/3)細砂混じり粘土質シルトであり、一部に褐色土がブロック状に混入する。

P602

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は円形を呈しており、規模は直径0.5 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は赤褐色(5YR4/8)シルトが粒状に混じる黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

P198

Ⅱ区西部北寄りに位置する。平面形は直径約0.6 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.6 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)砂混じりシルト質粘土である。

P199

Ⅱ区北西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.3 m、短軸約0.2 m、検出面からの深さは約0.07 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルト質粘土である。

P200

Ⅱ区北西部に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)砂混じりシルト質粘土である。

P201

Ⅱ区中央部西寄りに位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)砂混じりシルト質粘土である。

P202

Ⅱ区中央部西寄りに位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)砂混じりシルト質粘土である。

P203

Ⅱ区中央部西寄りに位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルト質粘土である。

P204

Ⅱ区中央部西寄りに位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)砂混じりシルト質粘土である。

P205

Ⅱ区中央部西寄りに位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)砂混じりシルト質粘土である。

P206

Ⅱ区中央部西寄りに位置する。平面形は直径約0.7mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)砂混じりシルト質粘土である。

P207

Ⅱ区北西部に位置する。平面形は不整形円形を呈し、長軸約0.7m、短軸約0.6m、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)砂混じりシルト質粘土である。

P208

Ⅱ区中央部西寄りに位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)砂混じりシルト質粘土である。

P209

Ⅱ区中央部西寄りに位置する。平面形は直径約0.6mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)砂混じりシルト質粘土である。

P210

Ⅱ区中央部西寄りに位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)シルト質粘土である。

P211

Ⅱ区西部北端に位置する。平面形は不整形を呈し、東西約1.0m、南北は約0.6mで調査区外に出る。検出面からの深さは約0.1mを測る。検出時はP212と別であったが、掘削するなかで一つのピットとなった。埋土は黒色(10YR2/1)砂混じりシルト質粘土である。

P213

Ⅱ区北西部に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)砂混じりシルト質粘土である。

P214

Ⅱ区南西部に位置する。平面形は直径約0.6mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)砂混じりシルトである。

704は須恵器の口縁部片である。口縁部からやや下がった位置に凹線文を二条施す。

P215

Ⅱ区南西部に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸約0.7 m、短軸約0.6 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は直径5～10 cm大の礫を多く含む暗褐色(10YR3/4)シルト質粘土である。出土遺物は皆無であった。

P216

Ⅱ区西部に位置する。平面形は直径約0.6mの不整円形を呈し、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は明黄褐色(10YR6/6)砂混じりシルト[地山]をブロック状に含む黒褐色(10YR3/1)砂混じりシルトであり、炭化物粒がごく少量混じる。

P217

Ⅱ区西部に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸約0.6 m、短軸約0.4 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルトである。図示していないが、古代の土師器杯の底部片が出土している。

P218

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は黒色(7.5YR2/1)粘土質シルトである。

P219

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.7 m、短軸約0.6 m、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は明黄褐色(10YR6/6)粘土[地山]をブロック状に含む黒褐色(10YR3/1)砂混じりシルトである。

P221

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は直径約0.5 mの不整円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P222

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸約0.8 m、短軸約0.6 m、検出面からの深さは約0.2 mを測る。検出時はP232と別遺構であったが、掘削を進めるうちに一緒になった。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質粘土である。図示していないが、古代の土師器杯の底部片、古代の須恵器蓋の口縁部片が出土している。

P223

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は直径約0.5 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.5 mを測る。埋土は明黄褐色(10YR6/6)細砂混じりシルト[地山]をブロック状に含む黒褐色(10YR3/1)砂混じりシルトである。

P224

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.05 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)砂混じり粘土質シルトである。

P225

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸約0.7 m、短軸約0.4 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)砂混じり粘土質シルトである。

P226

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は不整長楕円形を呈し、長軸約1.1 m、短軸約0.5 m、検出面からの深さは約0.3 mを測る。掘削を進めると2基のピットが重複していることが判明したが、新旧は不明である。埋土は黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。

P227

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は直径約0.1 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(7.5YR2/1)砂混じり粘土質シルトである。

P228

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.2 m、短軸約0.1 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P229

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.07 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。図示していないが、古代の土師器杯あるいは皿の底部片が出土している。

P230

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は直径約0.4 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P231

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は直径約0.1 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒色(7.5YR2/1)砂混じりシルト質粘土である。

P233

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.04 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)砂混じり粘土質シルトである。

P234

Ⅱ区北西部に位置する。平面形は直径約0.5 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は炭化物粒を少量含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P235

Ⅱ区北西部に位置する。平面形は直径約0.7 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.08 mを測る。埋土は炭化物粒をやや多く含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。床面からは平面形が直径約0.2 mの円形のピット状遺構が検出された。ピット状の遺構は床面からの深さは約0.2 mを測る。

P236

Ⅱ区北西部に位置する。平面形は直径約0.2 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。図示していないが、古代の土師器杯あるいは皿の底部片が出土している。

P237

Ⅱ区北西部に位置する。平面形は直径約0.4 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.4 mを測る。図示していないが、弥生時代の搬入土器片が出土している。

P238

Ⅱ区北西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.4 m、短軸約0.2 m、検出面からの深さは約0.2 mを測る。

P239

Ⅱ区北西部に位置する。平面形は不整形を呈し、長軸約0.3 m、短軸約0.2 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。

P240

Ⅱ区北西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.5 m、短軸約0.3 m、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P241

Ⅱ区北西部に位置する。平面形は直径約0.3 mの不整円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P242

Ⅱ区南西部に位置する。平面形は直径約0.2 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。

P243

Ⅱ区南西部に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸約0.9 m、短軸約0.8 mを測る。埋土は炭化物粒・土器片をやや多く含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P244

Ⅱ区南西部に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸約0.7 m、短軸約0.5 m、検出面からの深さは約0.3 mを測る。

P245

Ⅱ区南西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.4 m、短軸約0.3 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。P182と一緒にあった。埋土は地山ブロックを少量含む灰褐色(7.5YR4/2)細砂混じりシルトである。

P246

Ⅱ区西部南端に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.6 m、短軸約0.4 m、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)砂混じりシルト質粘土である。

705は弥生土器の複合口縁部壺である。二次口縁部は内傾し、端部は凹面状を呈する。外面には崩れた波状文を施す。胎土に雲母片をごく少量含む。

P247

Ⅱ区西部南端に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.9 m、短軸約0.6 m、検出面からの深さは約0.4 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質粘土である。

706は砂岩の磨石である。棒状の自然石を利用する。使用により平坦面となる部分があり、ベンガラが付着する。

P248

埋土は黒褐色(10YR2/2)砂混じりシルト質粘土である。遺構の深さは非常に浅かった。

707は弥生土器の底部である。角のとれた平底であり、外面は叩き成形、内面はナゲ調整である。

P249

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は直径約0.5 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)シルト質粘土である。

P250

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は直径約0.6 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)粘土質シルトである。

P251

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は直径約0.5 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)砂混じりシルト質粘土である。

P252

Ⅱ区西部南端に位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P253

Ⅱ区北西部に位置する。検出時はSK72としていたが、半裁後埋土の違いから2基のピットに分けP253, P254とした。平面形は隅丸方形を呈し、長軸約0.6 m, 短軸約0.5 m, 検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は炭化物粒を少量含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトで1 cm大の礫がごく少量混ざる。

P254

Ⅱ区北西部に位置し、SD3に切られる。検出時はSK72としていたが、半裁後埋土の違いから2基のピットに分けP253, P254とした。平面形は不整楕円形を呈し、長軸約0.8 m, 短軸約0.7 m, 検出面からの深さは約0.4 mを測る。埋土は炭化物粒を少量含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトで1 cm大の礫がごく少量混ざる。

P255

Ⅱ区中央部南寄りに位置する。平面形は直径約0.6 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は橙色(7.5YR6/6)細砂混じりシルトをブロック状に少量含む、黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。

P256

Ⅱ区中央部南寄りに位置する。平面形は直径約0.5 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。

P257

Ⅱ区中央部南寄りに位置する。平面形は一辺約0.6 mの隅丸方形を呈し、検出面からの深さは約0.4 mを測る。埋土は明褐色(7.5YR5/6)細砂混じりシルトをブロック状に少し含む、黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。図示していないが、古代の土師器甕の口縁部片が出土している。

P258

Ⅱ区中央部南寄りに位置する。平面形は一辺約0.7 mの隅丸方形を呈し、検出面からの深さは約0.4 mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。図示していないが、古代の土師器杯の口縁部片、杯あるいは皿の口縁部片、高台片が出土している。

P259

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は直径約0.4 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。ST8の上面で検出したため、掘りすぎている可能性がある。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。上層遺構であると考えられる。

P260

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は直径約0.2 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。ST8の上面で検出したため、掘りすぎている可能性がある。埋土は直径1～5 mm大の褐色土が粒状に混じる黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。上層遺構であると考えられる。

P261

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。ST8の上面で検出したため、掘りすぎている可能性がある。埋土は黒色(10YR2/1)砂混じりシルト質粘土である。上層遺構であると考えられる。

P262

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は直径約0.5 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。ST8の上面で検出したため、掘りすぎている可能性がある。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。上層遺構であると考えられる。

P263

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は直径約0.4 mの不整円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は炭化物粒を少量含む褐色(7.5YR4/1)細砂混じりシルトである。

P264

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.4 m、短軸約0.3 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。

P265

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は直径約0.7 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

708は砂岩の根石である。

P266

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P267

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は直径約0.6 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。709は砂岩の根石である。

P268

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は直径約0.5 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は二層に分層できる。①層は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト、②層はにぶい黄褐色(10YR5/4)細砂混じりシルトが混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。①層は柱痕跡であると考えられる。

P269

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は不整形を呈し、長軸約0.4 m、短軸約0.3 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒色(10YR1.7/1)シルト質粘土である。

P270

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は不整形を呈し、南北約1.0 m、東西約1.0 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。

P271

Ⅱ区中央部南寄りに位置する。平面形は不整円形を呈し、長軸約0.5 m、短軸約0.4 m、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルトである。

P272

Ⅱ区中央部南端に位置する。平面形は一辺約0.6 mの隅丸方形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。西端のほぼ中央が少し凹む。柱痕跡かとも思われるが、断面には柱痕跡のラインは明瞭には出ていない。埋土は黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトと橙色(7.5YR6/6)細砂混じりシルトが混じりあう。

P273

Ⅱ区中央部南端に位置する。平面形は不整円形を呈し、長軸約0.3 m、短軸約0.2 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。

P274

Ⅱ区中央部南端に位置する。平面形は一辺約0.6 mの隅丸方形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P275

Ⅱ区中央部南端に位置する。平面形は直径約0.7 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。図示していないが、古代の杯あるいは皿の底部片が出土している。

P276

Ⅱ区中央部南端に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。

P277

Ⅱ区中央部南寄りに位置する。平面形は直径約0.5 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルトである。

P278

Ⅱ区中央部南寄りに位置する。平面形は直径約0.7 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.4 mを測る。底には20 cm大の河原石を複数個、乱雑に置き、根石とする。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P279

Ⅱ区中央部南寄りに位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸約0.8 m、短軸約0.4 m、検出面からの深さは約0.4 mを測る。埋土はにぶい黄褐色(10YR5/4)細砂混じりシルトブロックを少量含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。図示していないが、古代の杯あるいは皿の底部片が出土

している。

P280

Ⅱ区中央部南寄りに位置する。平面形は直径約0.6mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は二層に分層できる。①層は黒色(10YR2/1)細砂混じりシルト②層は1～5cm大の礫を含むにぶい黄褐色(10YR5/4)細砂混じりシルトである。

P281

Ⅱ区中央部南端に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.7m、短軸約0.5m、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は炭化物粒を少量含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。上層遺構である。

P282

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は直径約0.6mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.4mを測る。ST8の上面で検出したため、掘りすぎている可能性がある。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P283

Ⅱ区中央部南寄りに位置する。平面形は直径約0.9mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2mを測る。

P284

埋土は褐灰色(7.5YR4/1)細砂混じりシルトである。

P285

Ⅱ区東部南寄りに位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。

P286

Ⅱ区東部南寄りに位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。

P287

Ⅱ区中央部南端に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P289

Ⅱ区東部南寄りに位置する。平面形は直径約0.5mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)砂混じりシルト質粘土である。図示していないが、凹線文を施した弥生土器甕の口縁部片が出土しており、混入品と考えられる。

P290

Ⅱ区東部南寄りに位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)砂混じりシルト質粘土である。

P291

Ⅱ区東部南寄りに位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸約0.5m、短軸約0.4m、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)砂混じり粘土質シルトである。

P292

Ⅱ区東部南寄りに位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.5 m、短軸約0.3 m、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)砂混じり粘土質シルトである。

P293

Ⅱ区中央部南寄りに位置する。平面形は直径約0.6 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

P294

Ⅱ区中央部南端に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。

P295

Ⅱ区東部南寄りに位置する。平面形は直径約0.2 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)砂混じり粘土質シルトである。

P296

Ⅱ区中央部南寄りに位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸約0.6 m、短軸約0.5 m、検出面からの深さは約0.5 mを測る。埋土は3～5cm大の礫を多く含む黒褐色(10YR2/2)砂混じりシルト質粘土である。

P297

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.6 m、短軸約0.5 m、検出面からの深さは約0.3 mを測る。

P298

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は直径約0.6 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。

P299

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)砂混じり粘土である。

P300

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。根石として扁平な河原石を斜めに入れている。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土である。

P301

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土である。

P302

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸約0.4 m、短軸約0.3 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)砂混じりシルト質粘土である。

P303

Ⅱ区西部南寄りに位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸約0.4 m、短軸約0.3 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)砂混じりシルト質粘土である。

P304

Ⅱ区中央部南寄りに位置する。平面形は隅丸方形を呈し、長軸約0.5 m、短軸約0.4 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。

P305

Ⅱ区中央部北端に位置する。平面形は直径約0.2 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。底はハンダで固められており、上層遺構であると考えられる。埋土は5～10cm大の礫を非常に多く含む暗褐色(10YR3/3)粘土質シルトである。

P306

Ⅱ区中央部北端に位置する。平面形は直径約0.2 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。上層遺構であると考えられる。埋土は黒褐色(10YR2/3)砂混じり粘土質シルトである。

P307

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.5 m、短軸約0.4 m、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P308

Ⅱ区中央部南端に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.4 m、短軸約0.3 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P309

Ⅱ区中央部南寄りに位置する。平面形は直径約0.5 mの不整円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は直径20cm大の角礫を含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P310

Ⅱ区中央部北端に位置し、SD3を切る。平面形は直径約0.2 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。底はハンダで固められており、上層遺構であると考えられる。埋土は5～10cm大の礫を非常に多く含む暗褐色(10YR3/3)粘土質シルトである。

P311

Ⅱ区中央部北端に位置する。平面形は直径約0.2 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。

P312

Ⅱ区東部南寄りに位置する。平面形は直径約0.4 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.4 mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)シルト質粘土である。

P313

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.4 m、短軸約0.3 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)シルト質粘土である。

P314

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は直径約0.4 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質粘土である。

P315

Ⅱ区中央部北寄りに位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質粘土である。

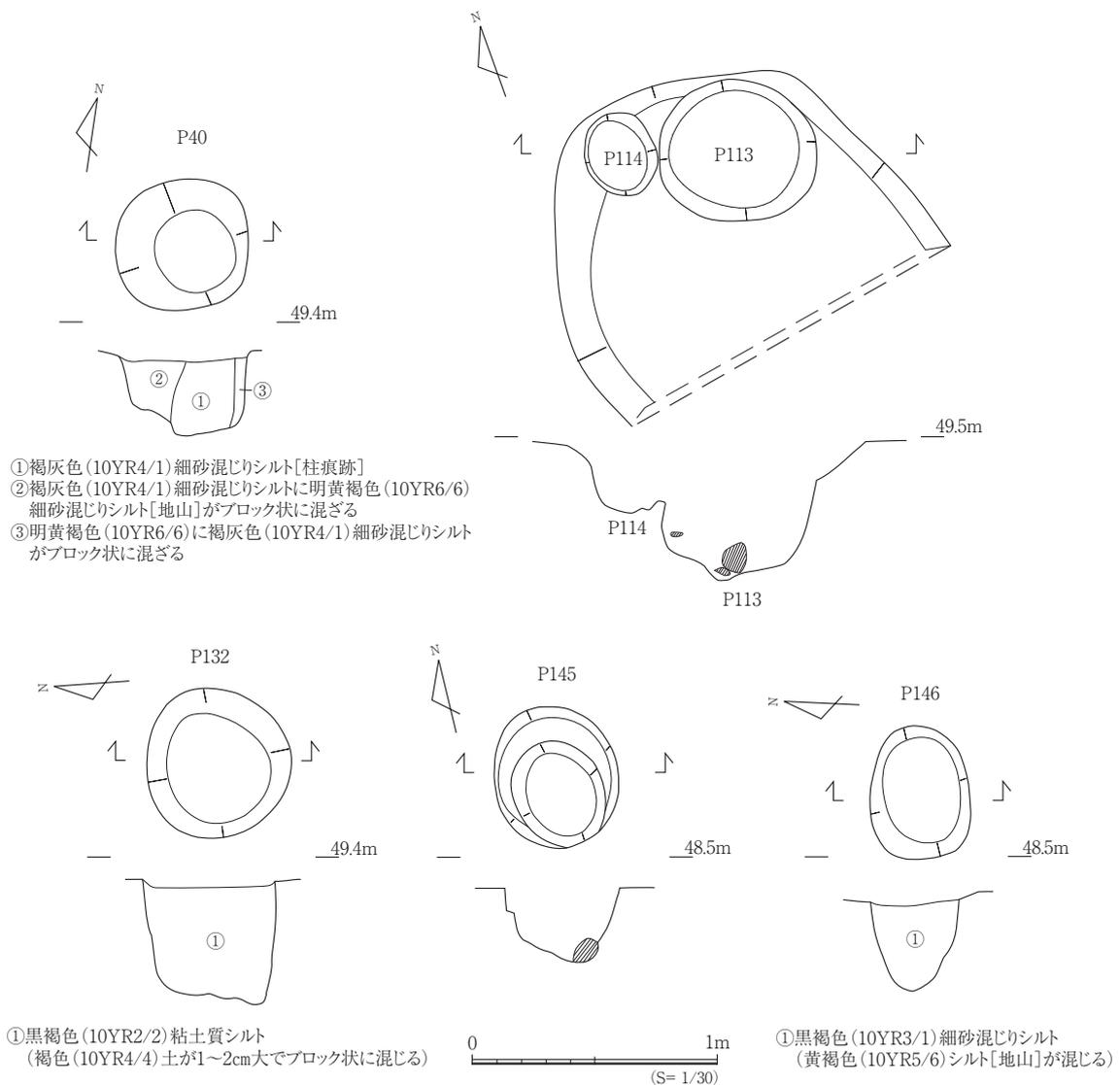


図 137 ピット平面図・断面図

P316

Ⅱ区中央部北寄りに位置する。平面形は直径約 0.2 m の円形を呈し、検出面からの深さは約 0.2 m を測る。

P317

Ⅱ区中央部北寄りに位置する。平面形は直径約 0.3 m の円形を呈し、検出面からの深さは約 0.3 m を測る。埋土は黒褐色 (10YR2/2) シルト質粘土である。

P318

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は直径約 0.5 m の円形を呈し、検出面からの深さは約 0.4 m を測る。埋土は明黄褐色 (10YR6/6) 細砂混じり粘性シルト [地山] をブロック状に含む黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルトである。

P319

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は直径約 0.5 m の円形を呈し、検出面からの深さは約 0.4 m を測る。

埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P320

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.4 m、短軸約0.3 m、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)シルト質粘土である。

P321

Ⅱ区中央部北寄りに位置する。平面形は不整形円形を呈し、長軸約0.4 m、短軸約0.2 m、検出面からの深さは約0.1 mを測る。

P322

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は直径約0.4 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)シルト質粘土である。

P323

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は直径約0.3 mの不整形円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。攪乱溝に切られる。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。図示していないが、古代の蓋が出土している。

P324

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。

P325

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は直径約0.5 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は赤褐色土を粒状に含む黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P326

Ⅱ区中央部に位置しST8を切る。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.7 m、短軸約0.5 m、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P327

Ⅱ区北西部に位置する。平面形は直径約0.6 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.4 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルト質粘土である。

P328

Ⅱ区中央部北端に位置する。平面形は隅丸方形を呈し、長軸約0.7 m、短軸約0.6 m、検出面からの深さは約0.3 mを測る。図示していないが、出土した遺物量は多い。

P329

Ⅱ区南東部に位置し、SD15の底で検出した。平面形は直径約0.2 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P330

Ⅱ区北東部に位置する。平面形は直径約0.6 mの不整形円形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は褐灰色(10YR4/1)とにぶい黄褐色(10YR5/4)の細砂混じりシルトであり、炭化物粒をごく少量含む。また、一部ににぶい黄橙色(10YR6/3)を呈した焼土が混じる。

P331

Ⅱ区北東部に位置する。平面形は直径約0.5 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.5 mを測る。埋土は黒色(10YR1.7/1)砂質シルトである。

P334

Ⅱ区北東部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.3 m、短軸約0.2 m、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は黒色(10YR1.7/1)砂混じりシルトである。

P336

Ⅱ区北東部に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸約0.3 m、短軸約0.2 m、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒色(10YR1.7/1)砂混じりシルトである。

P337

Ⅱ区中央部北端に位置する。平面形は直径約0.6 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は二層に分層できる。①層は僅かに土器を含む黒色(10YR1.7/1)シルト質粘土、②層は黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルトである。①層は柱痕跡と考えられる。

P339

Ⅱ区北東部に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(2.5Y3/1)粘土質シルトである。

P340

Ⅱ区中央部北端に位置する。平面形は直径約0.6 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.5 mを測る。埋土は炭化物粒をごく少量含む、黒褐色(10YR3/1)粘土質シルトである。

P341

Ⅱ区中央部北寄りに位置する。SK52に切られているが、平面形は直径約0.4 mの円形を呈すると考えられる。検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は炭化物粒を少量含む黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。

P342

Ⅱ区中央部北寄りに位置する。平面形は不整形を呈し、長軸約0.2 m、短軸約0.1 m、検出面からの深さは約0.06 mを測る。攪乱であると考えられる。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P343

Ⅱ区中央部北寄りに位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は灰黄褐色(10YR4/2)細砂混じりシルトと黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトが混じりあうものに、黄褐色(10YR5/6)細砂混じりシルトブロック[地山]が少量含まれる。

P344

Ⅱ区中央部北端に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.5 m、短軸約0.4 m、検出面からの深さは約0.3 mを測る。図示していないが、弥生土器の支脚片が出土している。

P345

Ⅱ区中央部北寄りに位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は炭化物粒を少量含む黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。

P346

Ⅱ区中央部北端に位置する。平面形は直径約0.2 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルトである。上層遺構であると考えられる。

P348

Ⅱ区東部北端に位置する。平面形は直径約0.4 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.05 mを測る。埋土は暗褐色(10YR3/4)シルトをブロック状に含む黒褐色(10YR2/2)中粒砂混じり粘土である。

P349

Ⅱ区中央部北寄りに位置する。平面形は直径約0.6 mの不整円形を呈し、検出面からの深さは約0.5 mを測る。埋土はにぶい黄褐色(10YR4/3)シルトブロックを含む黒色(10YR2/1)細砂混じりシルト質粘土である。出土した遺物量は多い。

P350

Ⅱ区中央部北寄りに位置する。平面形は直径約0.2 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質粘土である。

P352

Ⅱ区東部に位置する。平面形は直径約0.2 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)砂混じりシルトである。

P353

Ⅱ区東部に位置する。平面形は直径約0.5 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.4 mを測る。埋土は黄褐色(10YR5/8)シルトブロックを含む黒色(10YR2/1)シルト質粘土である。

P354

Ⅱ区南東部に位置する。平面形は直径約0.4 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.5 mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)粘土である。

P355

Ⅱ区南東部に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)粘土である。

P356

Ⅱ区東部南端に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸約0.6 m、短軸約0.5 m、検出面からの深さは約0.2 mを測る。

P357

Ⅱ区東部北端に位置する。北側が調査区外に出るが、平面形は直径約0.3 mの円形を呈すると考えられ、検出面からの深さは約0.2 mを測る。出土した遺物量はやや多い。

P358

Ⅱ区東部北端に位置する。北側が調査区外に出るが、平面形は直径約0.4 mの不整円形を呈すると考えられ、検出面からの深さは約0.1 mを測る。

P359

Ⅱ区南東部に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.05 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質粘土である。

P360

Ⅱ区東部に位置する。平面形は直径約0.4 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)粘土である。

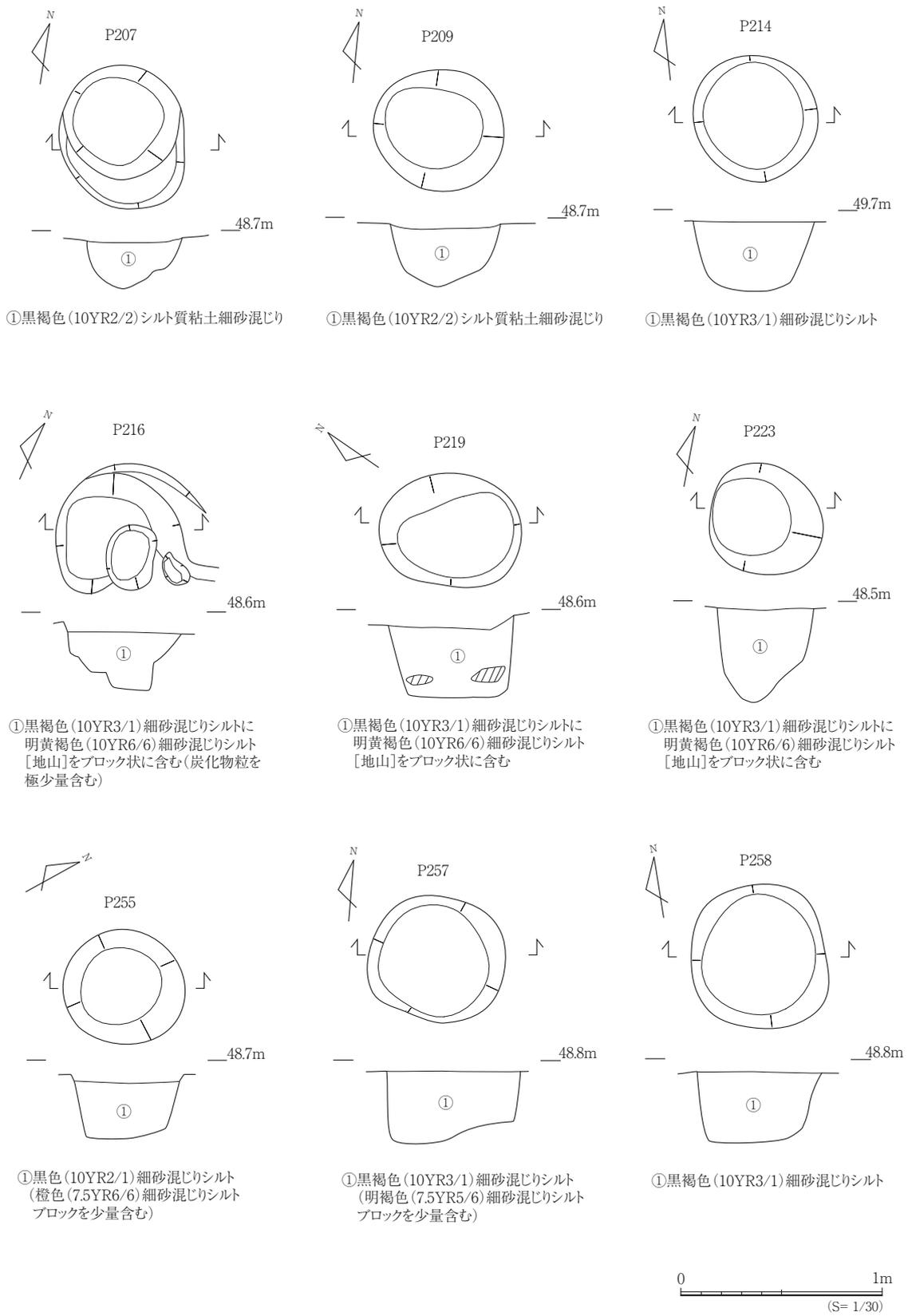


図 138 ピット平面図・断面図

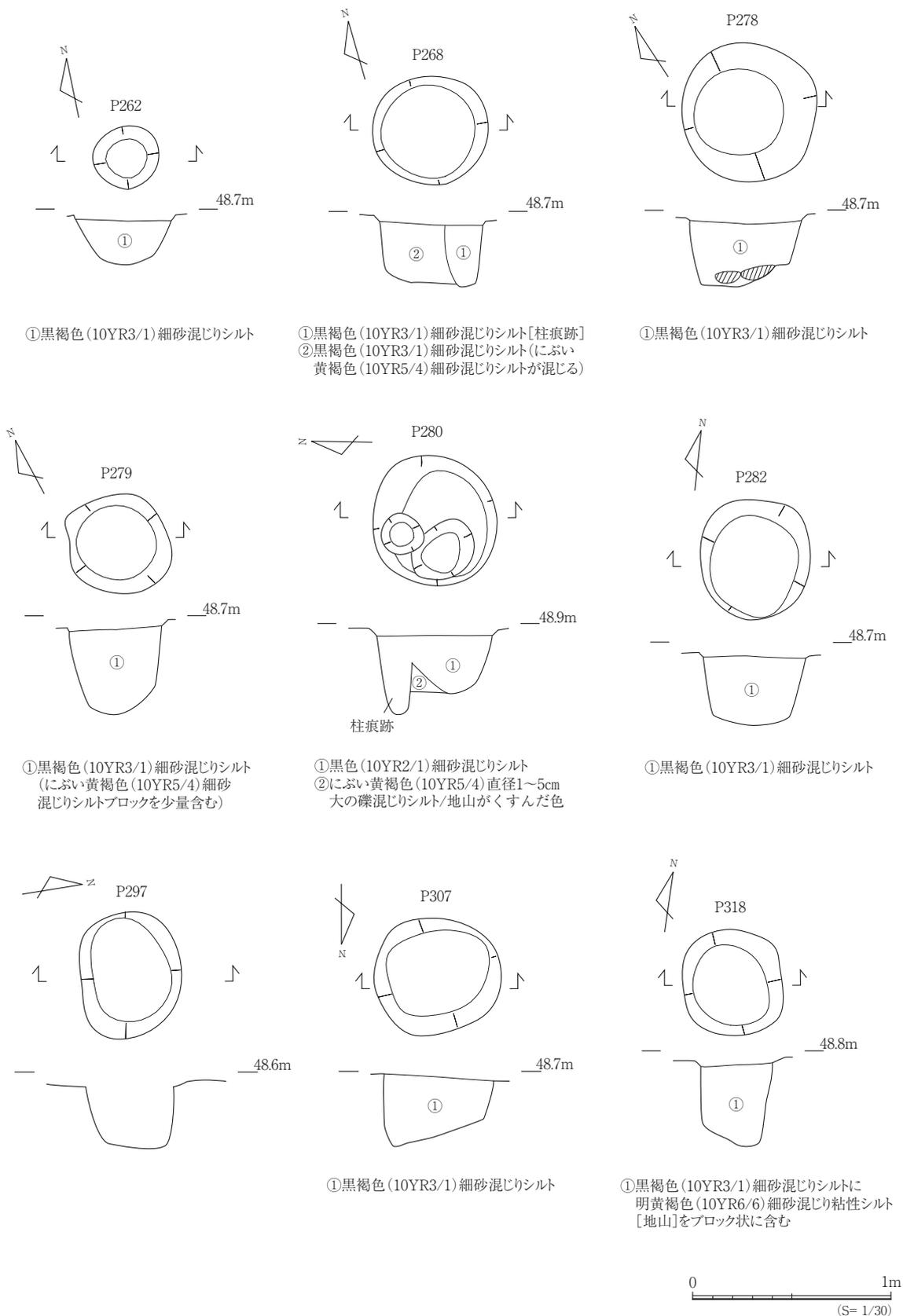


図 139 ピット平面図・断面図

P361

Ⅱ区中央部北端に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3mを測る。

P362

Ⅱ区中央部北端に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1mを測る。

P363

Ⅱ区北東部に位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質粘土である。

P364

Ⅱ区東部北寄りに位置し、SX11に切られる。平面形は不整形を呈し、南北約0.3m、東西約0.1mまで検出できた。検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

P365

Ⅱ区東部北寄りに位置し、SX11に切られる。平面形は不整形を呈し、南北約0.1m、東西約0.1mまで検出できた。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。

710は弥生土器のミニチュア土器である。外面は叩き成形後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整である。

P366

Ⅱ区東部北寄りに位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.4m、短軸約0.3m、検出面からの深さは約0.1mを測る。

P367

Ⅱ区東部北寄りに位置する。平面形は直径約0.5mの不整円形を呈し、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質粘土である。

P369

Ⅱ区中央部南寄りに位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.2m、短軸約0.1m、検出面からの深さは約0.2mを測る。

P370

Ⅱ区中央部南寄りに位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2mを測る。

P371

Ⅱ区中央部南寄りに位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.3m、短軸約0.1m、検出面からの深さは約0.07mを測る。

P372

Ⅱ区中央部南寄りに位置する。平面形は直径約0.5mの不整円形を呈し、検出面からの深さは約0.2mを測る。

P373

Ⅱ区中央部南寄りに位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1m

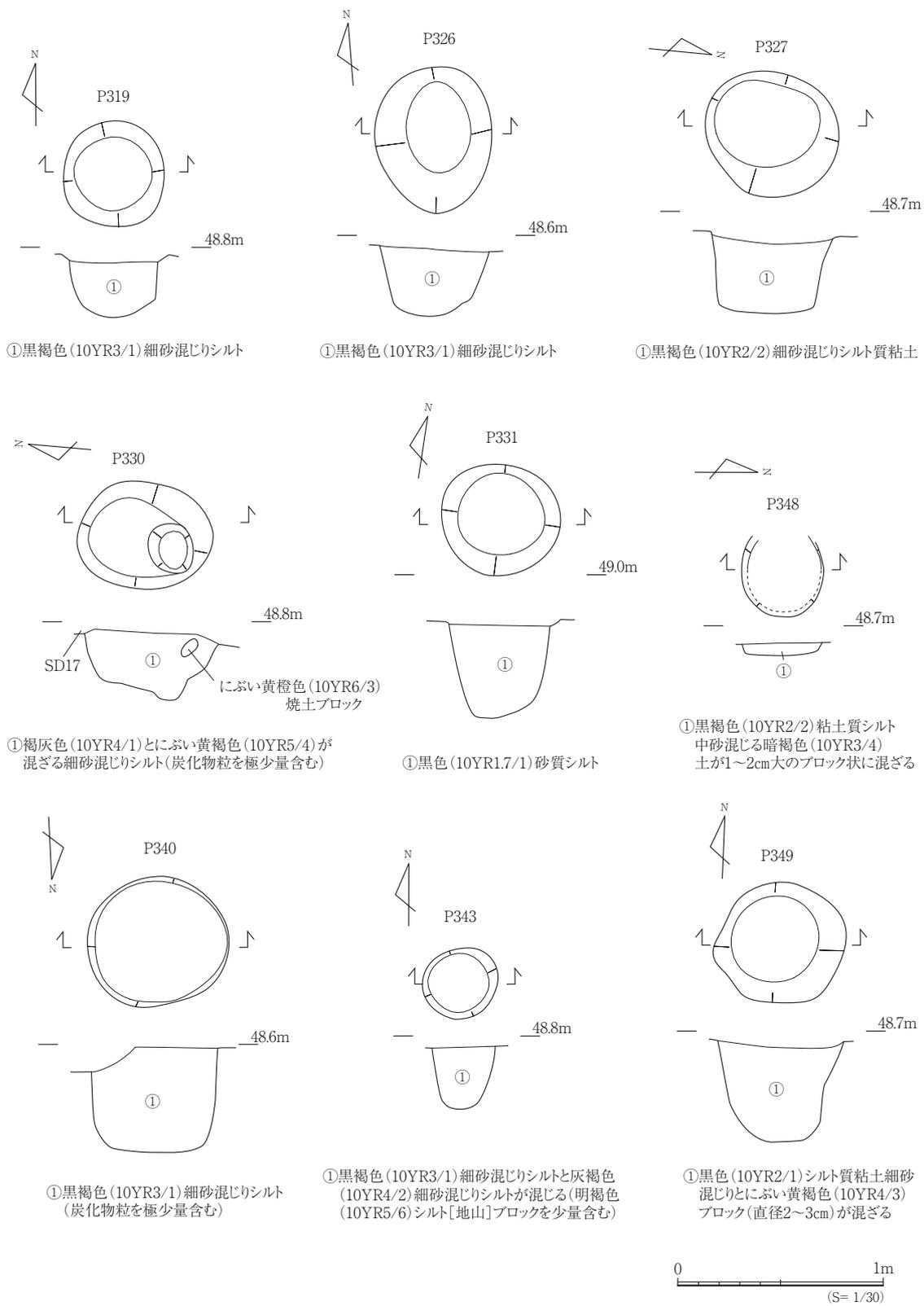


図 140 ピット平面図・断面図

を測る。

P375

Ⅱ区中央部に位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.4mを測る。

P376

Ⅱ区中央部北端に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)粘土質シルトである。

P377

Ⅱ区西部北寄りに位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.5m、短軸約0.3m、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒色(10YR1.7/1)粘土である。

P378

V区西部に位置する。平面形は直径0.15mの円形を呈し、深さは約0.15mである。埋土は黒色(7.5YR1.7/1)粘土質シルトである。

P379

V区西部に位置する。平面形は直径0.15mの円形を呈し、深さは約0.07mである。埋土は黒色(7.5YR2/1)粘土質シルトである。

P380

V区西部に位置する。平面形は直径0.2mの円形を呈し、深さは約0.15mである。埋土は黒色(7.5YR2/1)粘土質シルトである。

P381

V区西部に位置する。平面形は長軸0.35m、短軸0.25mのやや楕円形を呈し、深さは約0.05mである。埋土は黒褐色(7.5YR2/2)粘土質シルトである。

P382

V区西部に位置する。平面形は直径0.25mの円形を呈し、深さは約0.04mである。埋土は黒褐色(5YR2/1)シルトである。

P383

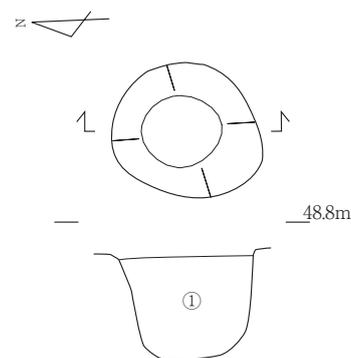
V区西部に位置する。平面形は直径0.25mの円形を呈し、深さは約0.15mである。埋土は黒色(N1.5/)シルト・黒色(N1.5/)粘土質シルトの2層である。

P384

V区西部に位置する。平面形は直径0.25mの円形を呈し、深さは約0.05mである。埋土は黒色(7.5YR2/1)砂質シルトである。

P385

V区西部に位置する。平面形は直径0.3mの円形を呈し、深さは約0.1mである。埋土は黒色(N1.5/)粘土質シルト・黒色(10YR1.7/1)シルトの2層である。



①黒色(10YR2/1)シルト質粘土(黄褐色(10YR5/8)直径5mm~1cm大ブロック状に混ざる)



図 141 P353 平面図・断面図

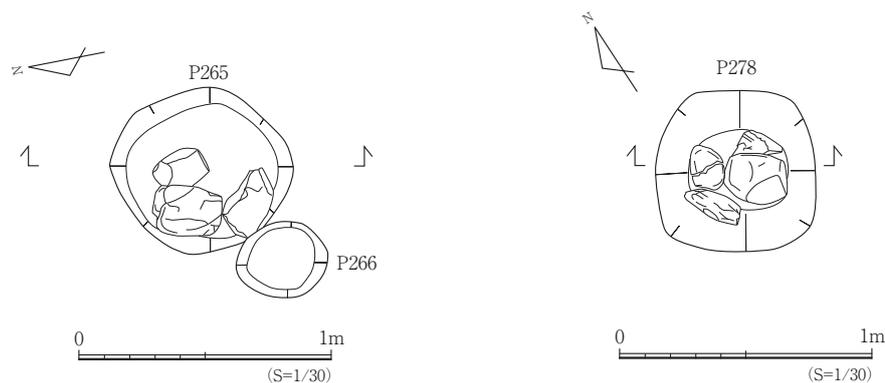


図 142 P265・278 根石検出状況図

P386

V区西部に位置する。平面形は直径0.25mの円形を呈し、深さは約0.15mである。埋土は黒色(N1.5/)粘土質シルトである。

P387

V区西部に位置する。平面形は直径0.3mのやや楕円形を呈し、深さは約0.1mである。埋土は黒色(N1.5/)粘土質シルトである。

P388

V区西部に位置する。平面形は直径0.3mの円形を呈し、深さは約0.1mである。埋土は黒色(10YR1.7/1)粘土質シルトである。

P389

V区西部に位置する。平面形は直径0.3mのやや楕円形を呈し、深さは約0.03mである。埋土は黒色(10YR1.7/1)粘土質シルトである。

P390

V区西部に位置する。平面形は直径0.2mの円形を呈し、深さは約0.1mである。埋土は黒色(10YR1.7/1)粘土質シルトである。

P391

V区中央部に位置する。平面形は直径0.35mの円形を呈し、深さは約0.05mである。埋土は黒色(N2/)粘土質シルトである。

P392

V区西部に位置する。平面形は直径0.7mの不整形な円形を呈し、深さは約0.07mである。埋土は黒色(10YR1.7/1)粘土質シルトである。P393に切られている。

P393

V区西部に位置する。平面形は直径0.2mの円形を呈し、深さは約0.05mである。埋土は黒色(10YR1.7/1)シルトである。P392内に切り込んでいる。

P394

V区西部に位置する。平面形は直径0.1mの円形を呈し、深さは約0.1mである。埋土は黒色(N1.5/)粘土質シルトである。

P395

V区西部に位置する。平面形は直径0.1mの円形を呈し、深さは約0.05mである。埋土は黒色(7.5YR1.7/1)シルトである。

P396

V区西部に位置する。P397が埋没後にP396は掘られている。平面形は直径0.3mの円形を呈し、深さは約0.3mである。埋土は黒色(5YR1.7/1)粘土質シルトである。

P397

V区西部に位置する。P396に切られている。平面形は直径0.5mの円形を呈し、深さは約0.3mである。ピットの北側では、幅15cmの柱痕と思われる凹みがある。埋土は黒色(N1.5 /)粘土質シルトである。

P398

V区中央部に位置する。平面形は直径0.3mの円形を呈し、深さは約0.1mである。埋土は黒色(10YR1.7/1)粘土質シルトである。

P399

V区中央部に位置する。平面形は直径0.35mの円形を呈し、深さは約0.2mである。ピットの北側では、幅10cmの柱痕を確認した。掘方の埋土は黒色(N1.7 /1)粘土質シルト、柱根の埋土は黒色(10YR1.7/1)シルトである。P432を切る。

P400

V区中央部に位置する。平面形は直径0.3mの円形を呈し、深さは約0.1mである。埋土は黒色(10YRY1.7/1)粘土質シルトである。

P401

V区中央部に位置する。平面形は直径0.25mの円形を呈し、深さは約0.1mである。埋土はオリーブ褐色(2.5Y4/4)シルト質砂である。

P402

V区中央部に位置する。平面形は直径0.25mの円形を呈し、深さは約0.1mである。埋土はオリーブ褐色(2.5Y4/4)シルト質砂である。

P403

V区中央部に位置する。平面形は直径0.3mの円形を呈し、深さは約0.2mである。埋土は黒色(10YR1.7/1)粘土質シルトである。

P405

V区中央部に位置する。P406が埋没後にP405は掘られている。平面形は直径0.3mの円形を呈し、深さは約0.25mである。P406を切る。

P406

V区中央部に位置する。平面形は直径0.6mの円形を呈し、深さは約0.05mである。ピットの中央部には、幅15cmの柱痕と思われる凹みがある。埋土は黒色(10YR1.7 /1)シルト質粘土である。P405に切られている。

711は頁岩の打製石包丁である。背部は直線である。明瞭な抉りはみられないが、紐ズレの痕跡が認められる。刃部には微細な剥離がみられる。形態等に疑問が残るが、石包丁とした。

P407

V区中央部に位置する。平面形は直径0.35mの円形を呈し、深さは約0.2mである。

P408

V区中央部に位置する。平面形は直径0.4mの円形を呈し、深さは約0.05mである。埋土は暗褐色(10YR3/3)シルト含む極細粒砂である。

P409

V区中央部に位置する。平面形は直径0.3mの円形を呈している。幅約0.15mの柱根と思われるピットがあり、深さは約0.3mである。掘方の埋土は黒褐色(10YR2/2)砂質シルト、柱根の埋土は黒色(N1.5/)粘土質シルトである。

P411

V区中央部に位置する。平面形は直径0.3mの円形を呈している。深さは約0.15mである。埋土は黒色(7.5YR1.7/1)粘土質シルトである。

P412

V区西部に位置する。平面形は直径0.2mの円形を呈している。深さは約0.15mである。埋土は黒色(7.5YR1.7/1)粘土質シルト・黒褐色(5YR2/1)粘土質シルトの2層である。

P413

V区中央部に位置する。平面形は直径0.35mの円形を呈している。深さは約0.05mである。埋土は黒色(10YR1.7/1)粘土質シルトである。SD25を切っている。

P414

V区中央部に位置する。残存形は直径0.5mの円形を呈し、深さは約0.1mである。埋土は黒色(5YR1.7/1)粘土質シルトである。SK97と攪乱によって切られている。

712は弥生土器の鉢である。体部は丸みを持ちながらのび、口縁部を尖らせる。外面はナデ調整を施す。内面はハケメ調整後、ミガキ調整を施す。

P416

V区中央部に位置する。埋土は黒色(2.5Y2/1)粘土質シルトである。

P417

V区中央部に位置する。平面形は直径0.2mの円形を呈し、深さは約0.15mである。埋土は黒色(2.5Y2/1)粘土質シルト・黒色(10YR1.7/1)シルト質粘土の2層である。

P421

V区東部に位置する。平面形は直径0.2mの円形を呈し、深さは約0.1mである。埋土は黒色(10YR2/1)粘土質シルトである。

P422

V区東部に位置する。平面形は直径0.2mの円形を呈し、深さは約0.1mである。埋土は黒色(10YR2/1)粘土質シルトである。

P423

V区東部に位置する。平面形は直径0.13mの円形を呈し、深さは約0.05mである。埋土は黒色(7.5YR1.7/1)シルトである。



図 143 ピット出土遺物実測図

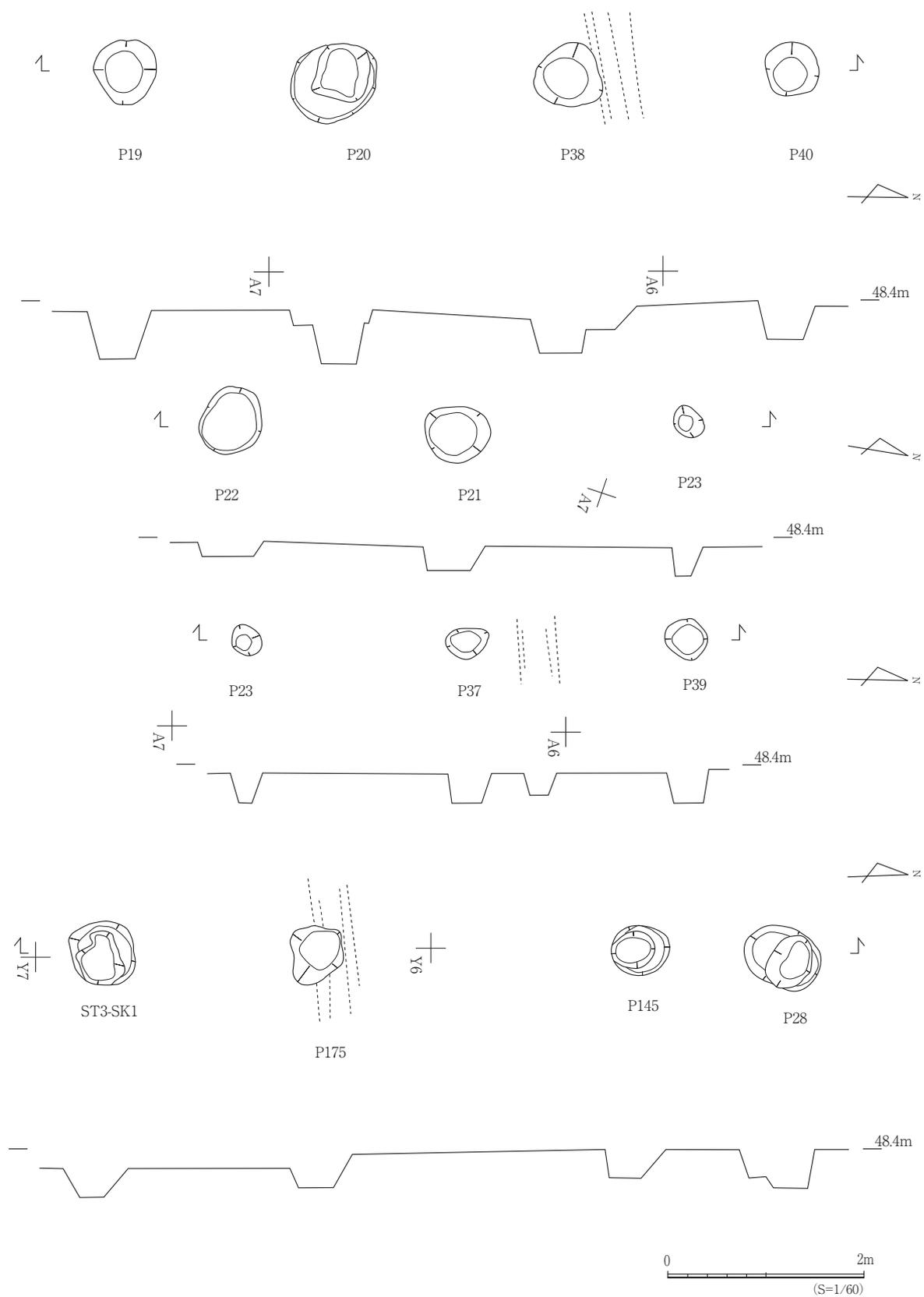


図 144 柱穴列 1 平面図・エレベーション図

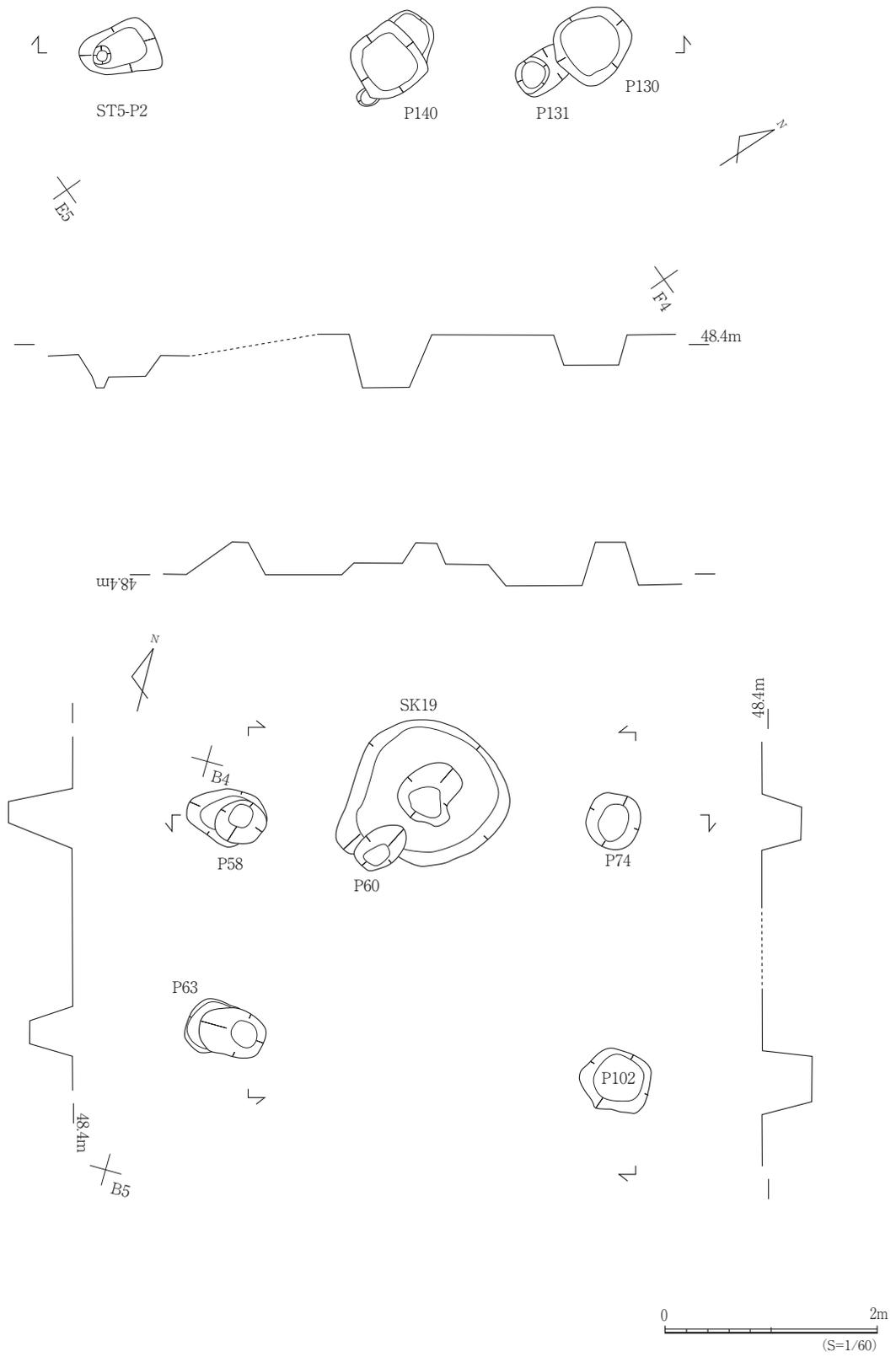


図 145 柱穴列 2 平面図・エレベーション図

P424

V区東部に位置する。平面形は直径0.15mのやや楕円形を呈し、深さは約0.05mである。埋土は黒色(10YR2/1)粘土質シルトである。

P425

V区東部に位置する。平面形は直径0.4mの円形を呈し、深さは約0.1mである。埋土は黒色(5YR1.7/1)粘土質シルトである。

P426

V区中央部に位置する。平面形は長軸1.0m、短軸0.6mの楕円形を呈し、深さは約0.1mである。埋土は黒色(5YR1.7/1)粘土質シルトである。

713は弥生土器の甕である。口唇部は短く屈曲し、わずかに肥厚する。胎土に角閃石を少量含む。搬入品である。

P427

V区東部に位置する。平面形は長軸1.0m、短軸0.6mの楕円形を呈し、深さは約0.1mである。埋土は黒色(5YR1.7/1)粘土質シルトである。

714は弥生土器の甕である。口唇部は緩やかに外反する。端部に粘土帯を貼り付けた、いわゆる添付口縁である。内外面ともハケメ調整を施す。煤が付着する。715は弥生土器の底部であり、上げ底状を呈する。716は弥生土器高杯の脚部である。緩やかにひろがる。外面はミガキ調整、内面はナデ調整である。

P428

V区東部に位置する。平面形は直径0.15mの円形を呈し、深さは約0.1mである。埋土は黒色(7.5YR1.7/1)シルトである。

P430

V区東部に位置する。平面形は直径0.25mの円形を呈し、深さは約0.1mである。埋土は黒色(N1.5/)粘土質シルトである。

P431

V区西部に位置する。平面形は直径0.2mの円形を呈し、深さは約0.05mである。埋土は黒色(10YR2/1)粘土質シルトである。

P432

V区中央部に位置する。平面形は直径0.25mの円形を呈し、深さは約0.1mである。P399に切られている。

P433

V区東部に位置する。平面形は直径0.15mの円形を呈し、深さは約0.07mである。埋土は黒色(7.5YR1.7/1)粘土質シルトである。

P434

V区西部に位置する。平面形は直径0.1mの円形を呈し、深さは約0.08mである。

P435

V区東部に位置する。平面形は直径0.2mの円形を呈する。

P436

V区東部に位置する。平面形は直径0.1mの半円形を呈し、深さは約0.07mである。

P437

V区東部に位置する。平面形は直径0.15mの円形を呈する。

P438

V区中央部に位置する。平面形は直径0.4mの円形を呈し、深さは約0.07mである。

P439

V区東部に位置する。平面形は直径0.1mの円形を呈し、深さは約0.1mである。埋土は黒色(10YR1.7/1)粘土質シルトである。

P440

V区東部に位置する。平面形は直径0.1mの円形を呈し、深さは約0.1mである。埋土は黒色(7.5YR2/1)粘土質シルトである。

P441

V区東部に位置する。平面形は直径0.35mの円形を呈し、深さは約0.05mである。埋土は灰色(N4/1)粘土質シルトである。P427に切られている。

P442

V区西部に位置する。平面形は直径0.2mの円形を呈する。SD24が埋まった後に掘られている。

P443

V区西部に位置する。平面形は直径0.1mの円形を呈する。SD24が埋まった後に掘られている。

P444

Ⅲ区の北西部に位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。

P445

Ⅲ区の中央部北寄りに位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。

P446

Ⅲ区の中央部北寄りに位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。

P447

Ⅲ区の西部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、長軸約0.4m、短軸約0.3m、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。

P448

Ⅲ区の中央部に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P449

Ⅲ区の中央部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、長軸約0.4m、短軸約0.3m、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

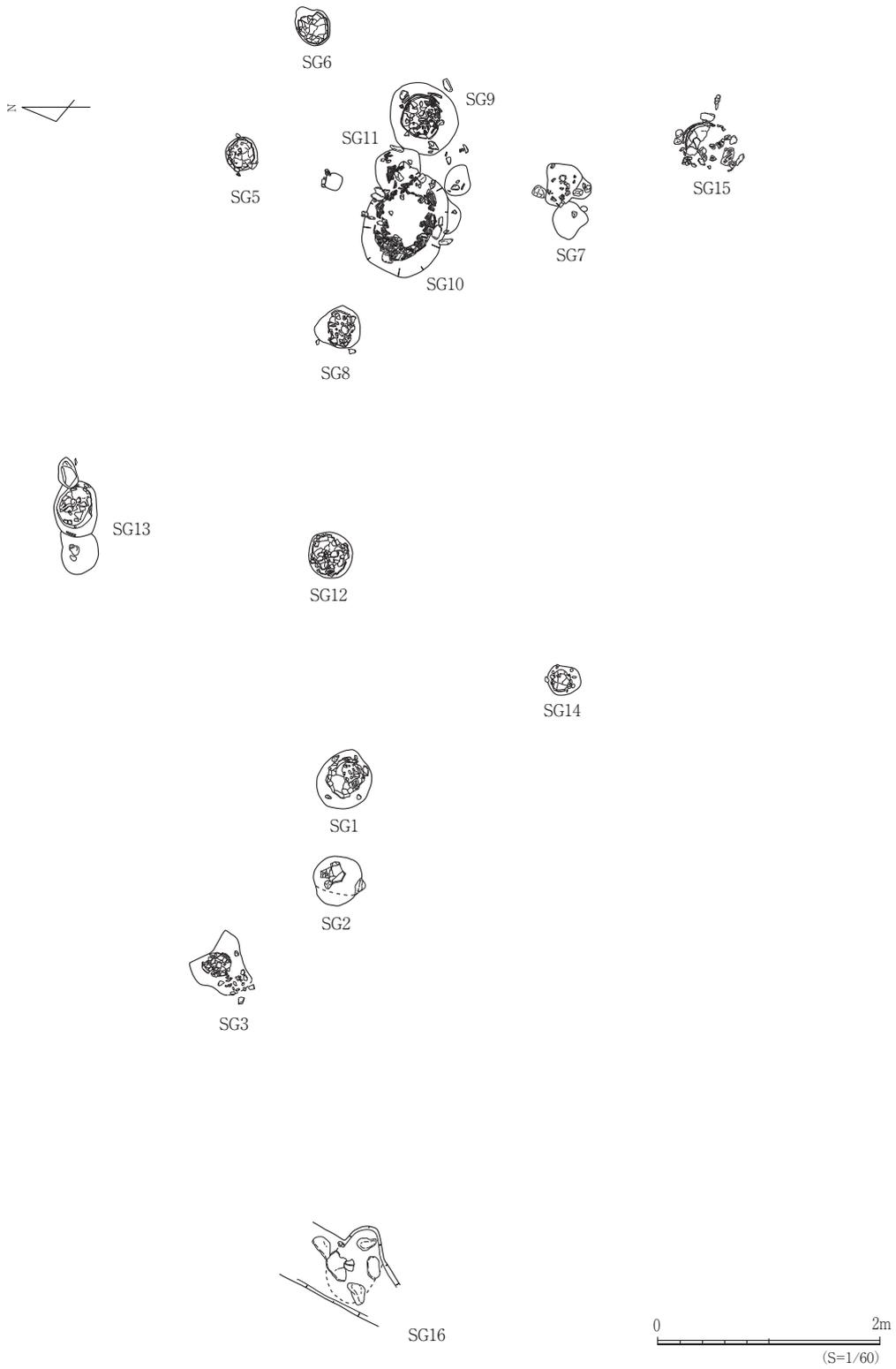


图146 SG位置图

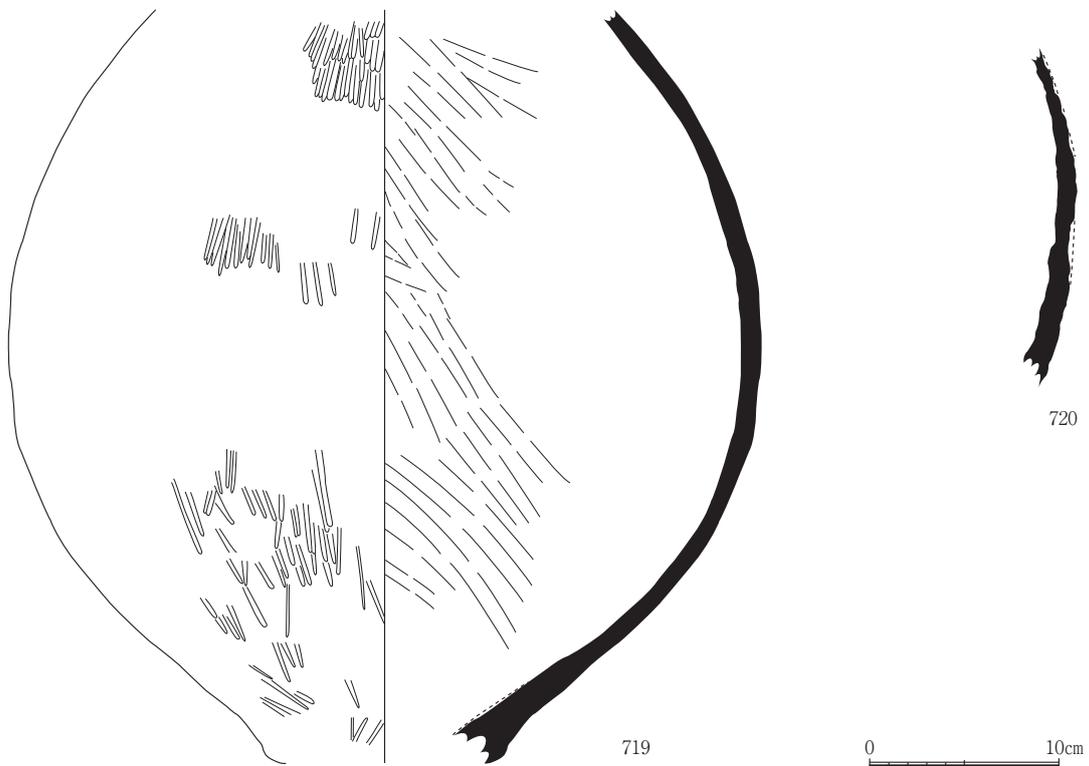
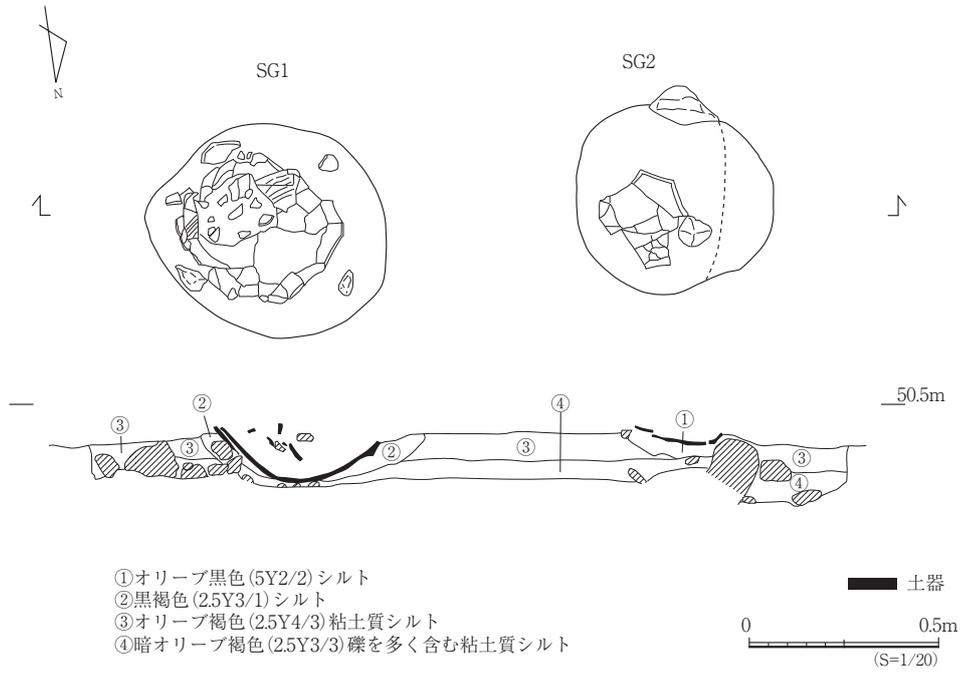


図 147 SG1・2 平面図・断面図・出土遺物実測図

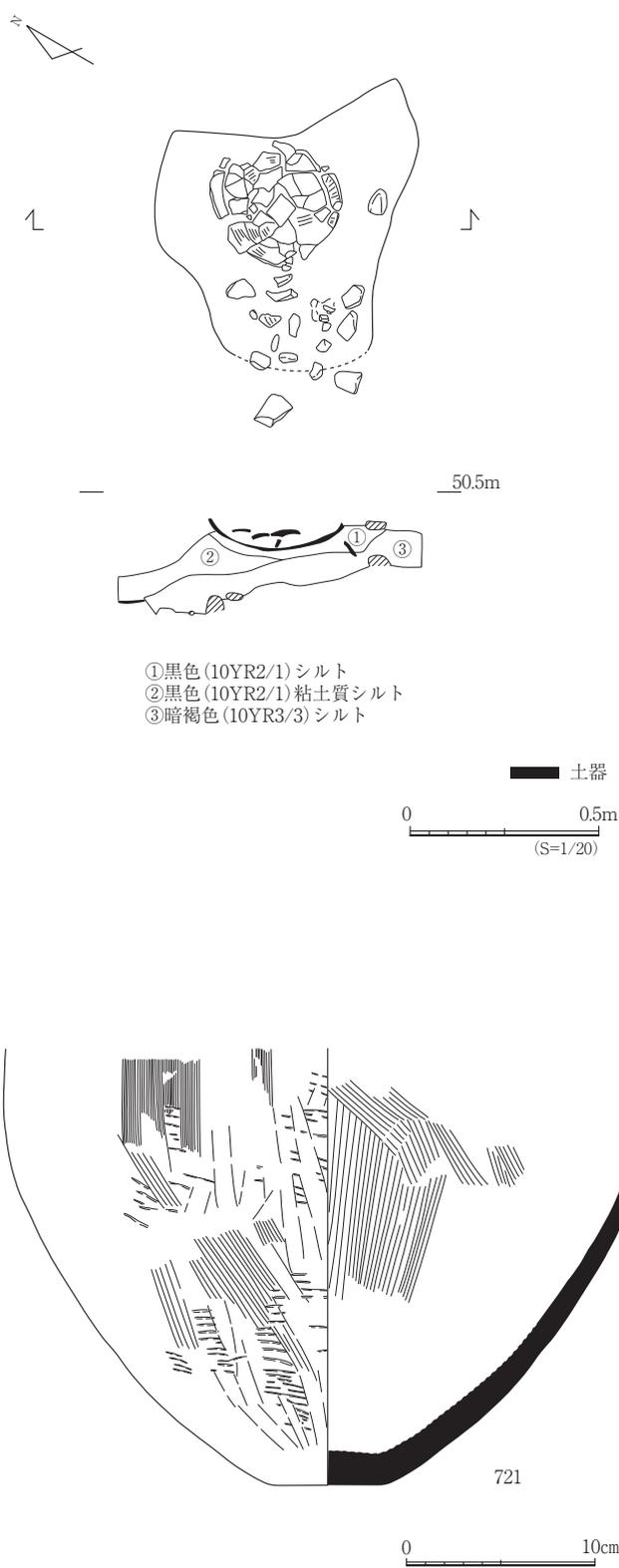


図 148 SG3 平面図・断面図・出土遺物実測図

P450

Ⅲ区の中央部に位置する。平面形は直径約 0.2 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.3 m を測る。埋土は黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルトである。

P451

Ⅲ区の中央部に位置する。平面形は不整楕円形を呈しており、長軸約 0.4 m、短軸約 0.3 m、検出面からの深さは約 0.1 m を測る。埋土は黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルトである。

P452

Ⅲ区の中央部に位置する。平面形は直径約 0.4 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.3 m を測る。

P453

Ⅲ区の中央部に位置する。平面形は直径約 0.3 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.1 m を測る。埋土は黒色 (10YR2/1) 細砂混じりシルトである。

P454

Ⅲ区の中央部に位置する。平面形は直径約 0.3 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.3 m を測る。埋土は黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルトである。

P455

Ⅲ区の中央部に位置する。平面形は直径約 0.6 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.2 m を測る。埋土は黒色

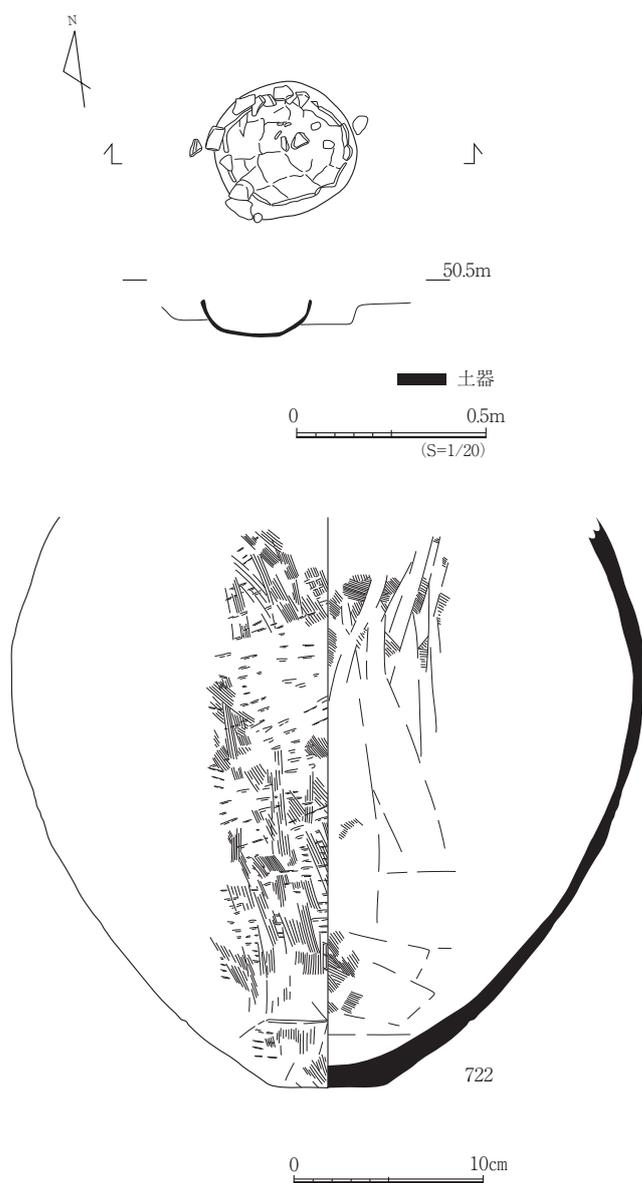


図 149 SG5 平面図・断面図・出土遺物実測図

P461

Ⅲ区の北東部に位置する。平面形は直径約 0.2 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.5 m を測る。

P462

Ⅲ区の中央部南寄りに位置する。平面形は楕円形を呈しており、長軸約 0.4 m、短軸約 0.3 m、検出面からの深さは約 0.1 m を測る。

P463

Ⅲ区の南西部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、長軸約 0.4 m、短軸約 0.3 m、検出面からの深さは約 0.2 m を測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質粘土である。

P464

Ⅲ区の西部に位置する。平面形は直径約 0.2 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.2 m

(10YR2/1)細砂混じりシルトである。

P456

Ⅲ区の北東部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、長軸約 0.3 m、短軸約 0.2 m、検出面からの深さは約 0.1 m を測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P457

Ⅲ区の北東部に位置する。平面形は直径約 0.3 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.1 m を測る。

P458

Ⅲ区の北東部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、長軸約 0.4 m、短軸約 0.2 m、検出面からの深さは約 0.3 m を測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P459

Ⅲ区の北東部に位置する。平面形は直径約 0.2 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.1 m を測る。

P460

Ⅲ区の北東部に位置する。平面形は直径約 0.4 m の円形を呈しており、検出面からの深さは約 0.3 m を測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

を測る。埋土は黒色(10YR2/1)シルト質粘土である。

P465

Ⅲ区の西部に位置する。平面形は楕円形を呈しており、長軸約0.4 m、短軸約0.3 m、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P466

Ⅲ区の南西部に位置する。平面形は直径約0.5 mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)中粒砂混じりシルト質粘土である。

717は土錘である。重量は12.3gを測る。

P467

Ⅲ区の南西部に位置する。平面形は直径約0.5 mの円形を呈しており、検出面からの深さは約0.1

mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)中粒砂混じりシルト質粘土である。

P468

Ⅳ区中央部に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。底からは角礫が出土し、根石の可能性もある。埋土は直径10 cm大の河原石を多く含む黄灰色(2.5Y4/1)細砂混じりシルトである。

P469

Ⅳ区中央部に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。SX17の床面で検出したが、SX17に伴うものであるかは判然としない。埋土は火山ガラスを多く含む黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。

P470

Ⅳ区東部に位置する。平面形は直径約0.2 mの円形を呈し、検出面からの深さ



図 150 SG6 平面図・断面図・出土遺物実測図

は約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P471

IV区東部に位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P472

IV区東部に位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P473

IV区東部に位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P474

IV区東部に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸約0.6m、短軸約0.3mを測る。検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P475

IV区中央部に位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P476

IV区東部に位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P477

IV区東部に位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3mを測る。底からは根石が出土した。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルトである。

P478

IV区東部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.4m、短軸約0.3mを測る。検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は褐色(10YR4/4)シルトがブロック状に混じ

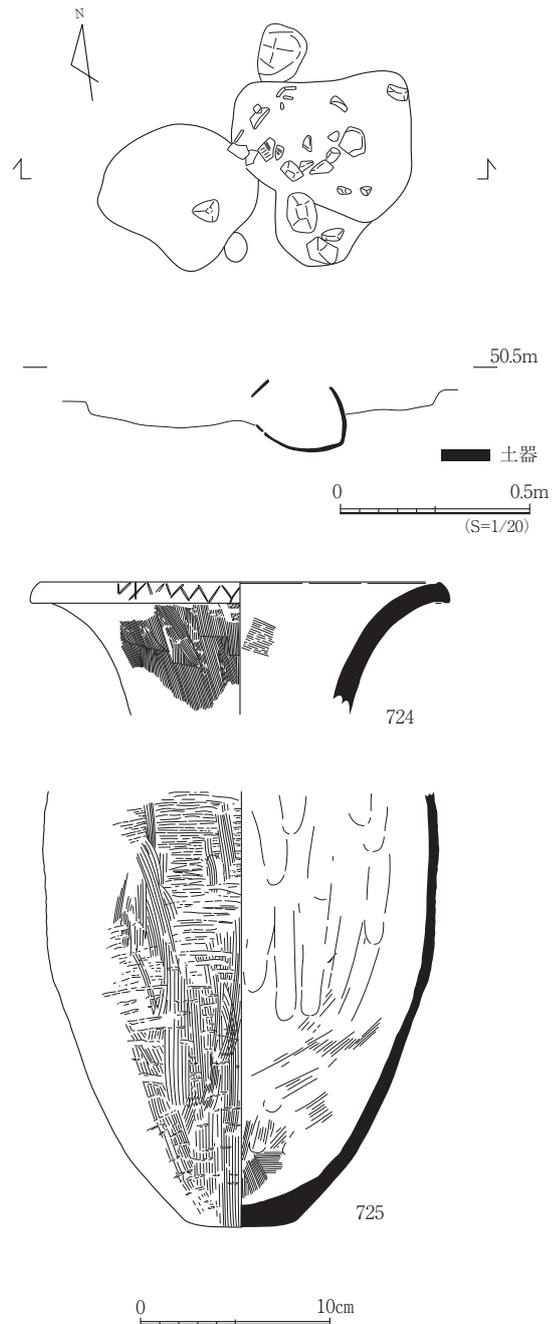


図 151 SG7 平面図・断面図・出土遺物実測図

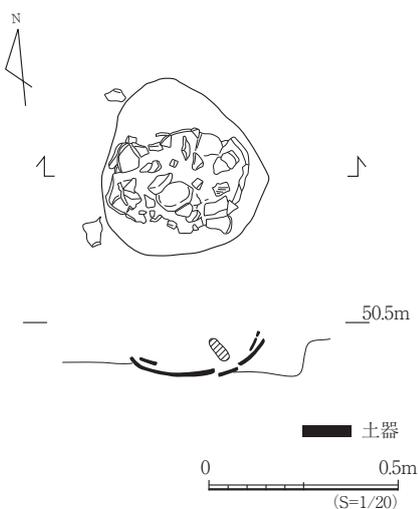
る黒褐色(10YR2/2)砂混じりシルトである。

P479

IV区東部に位置し、SK108と切り合うが先後関係は不明である。平面形は楕円形を呈すると考えられ、長軸約0.4m、短軸約0.3mまで検出できた。検出面からの深さは約0.4mを測る。底からは根石が出土した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P480

IV区東部に位置し、SK108と切り合うが先後関係は不明である。平面形は不整楕円形を呈すると考えられ、東西約0.4mであり、南北は約0.3mまで検出できた。検出面からの深さは約0.1mを測る。



P481

IV区東部に位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1mを測る。

P482

IV区東部に位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.06mを測る。

P483

IV区中央部に位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。図示していないが、弥生時代の搬入土器片が出土している。

P484

IV区東部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.6m、短軸約0.4mを測る。検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P485

IV区東部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.4m、短軸約0.3mを測る。検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P486

IV区東部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.4m、短軸約0.3mを測る。検出面からの深さは約0.4mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。



図 152 SG8 平面図・断面図・出土遺物実測図

P487

IV区東部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.3m、短軸約0.2mを測る。検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P488

IV区北西部に位置し、ST23上面で検出した。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.4m、短軸約0.2mを測る。検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。攪乱の可能性がある。

P489

IV区北西部に位置し、ST23上面で検出した。平面形は直径約0.2mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.5mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。攪乱の可能性がある。

P490

IV区北西部に位置し、ST23上面で検出した。平面形は直径約0.3mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。攪乱の可能性がある。

P491

IV区北西部に位置し、ST23上面で検出した。平面形は直径約0.3mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)シルトブロックが混じる暗褐色(10YR3/3)シルトである。攪乱の可能性がある。

P494

IV区北西部に位置し、ST23上面で検出した。平面形は直径約0.3mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は明褐色(7.5YR5/6)シルトブロックが混じる黒褐色(10YR2/3)シルトである。

P495

IV区西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.6m、短軸約0.3mを測る。検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルトである。

P496

IV区西部に位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルトである。

P497

IV区西部に位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は1cm大の褐色(7.5YR4/6)シルトブロックが混じる暗褐色(10YR3/3)シルトである。

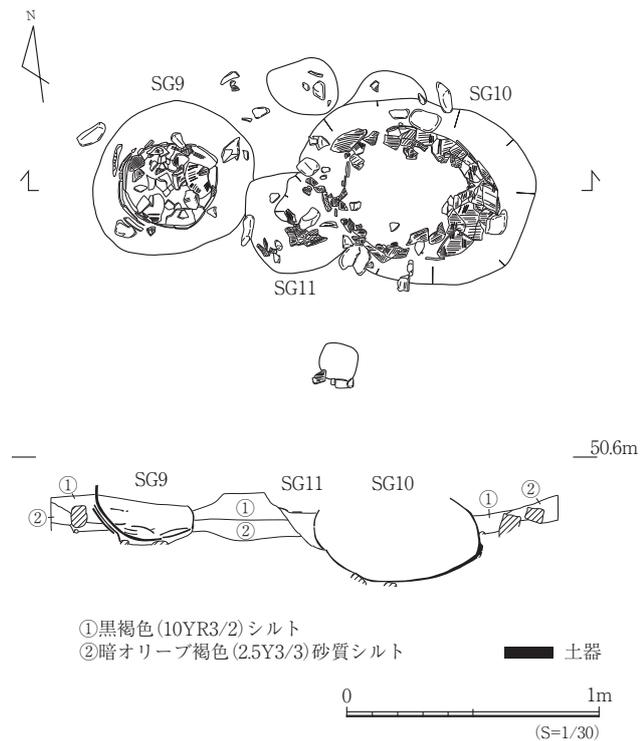


図 153 SG9～11 平面図・断面図

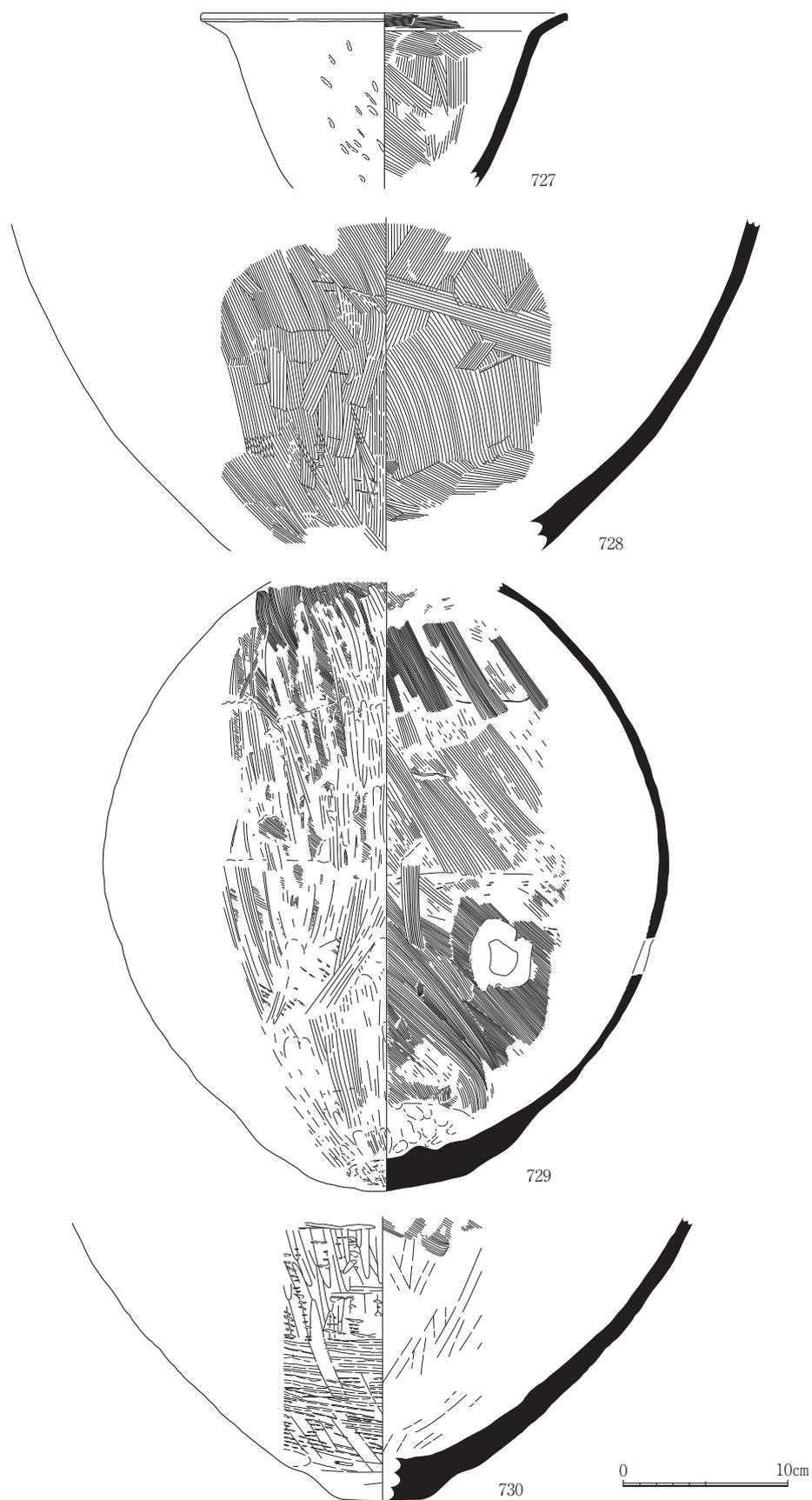


图 154 SG9 ~ 11 出土遺物実測図

P498

IV区北西部に位置する。平面形は直径約0.1mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)粘土質シルトである。

P499

IV区中央部北端に位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。



図 155 SG10 出土遺物実測図

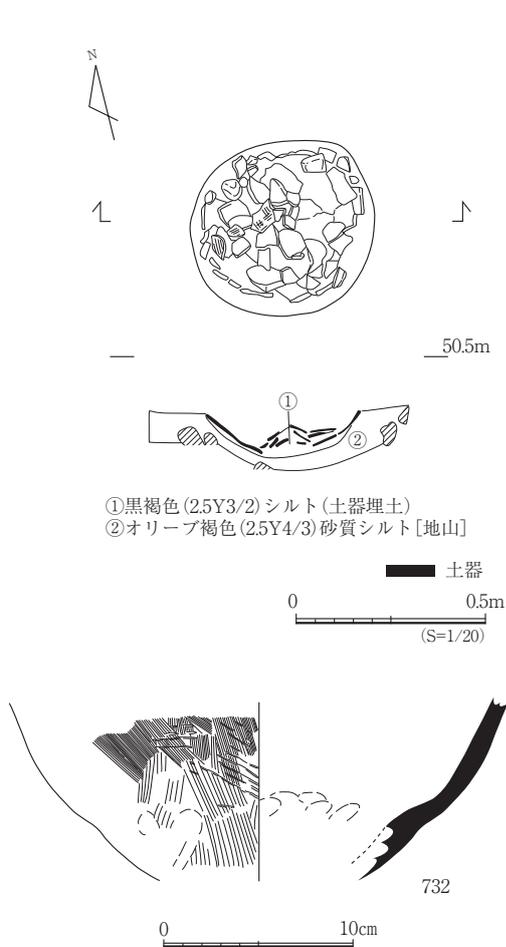


図 156 SG12 平面図・断面図・出土遺物実測図

P504

IV区北西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.3m、短軸約0.2mを測る。検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P505

IV区中央部北寄りに位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は火山ガラスを含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P506

IV区西部に位置する。平面形は直径約0.4mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルトである。

P507

IV区北西部に位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P508

IV区北西部に位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P500

IV区中央部北端に位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.06mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。シミか。

P501

IV区中央部北端に位置する。平面形は一辺約0.4mの隅丸方形を呈し、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は直径2cm以下の小礫をやや多く含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。埋土より近現代の攪乱である可能性がある。

718は鉄器である。断面は正方形を呈する。

P502

IV区中央部北寄りに位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルトである。

P503

IV区北西部に位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

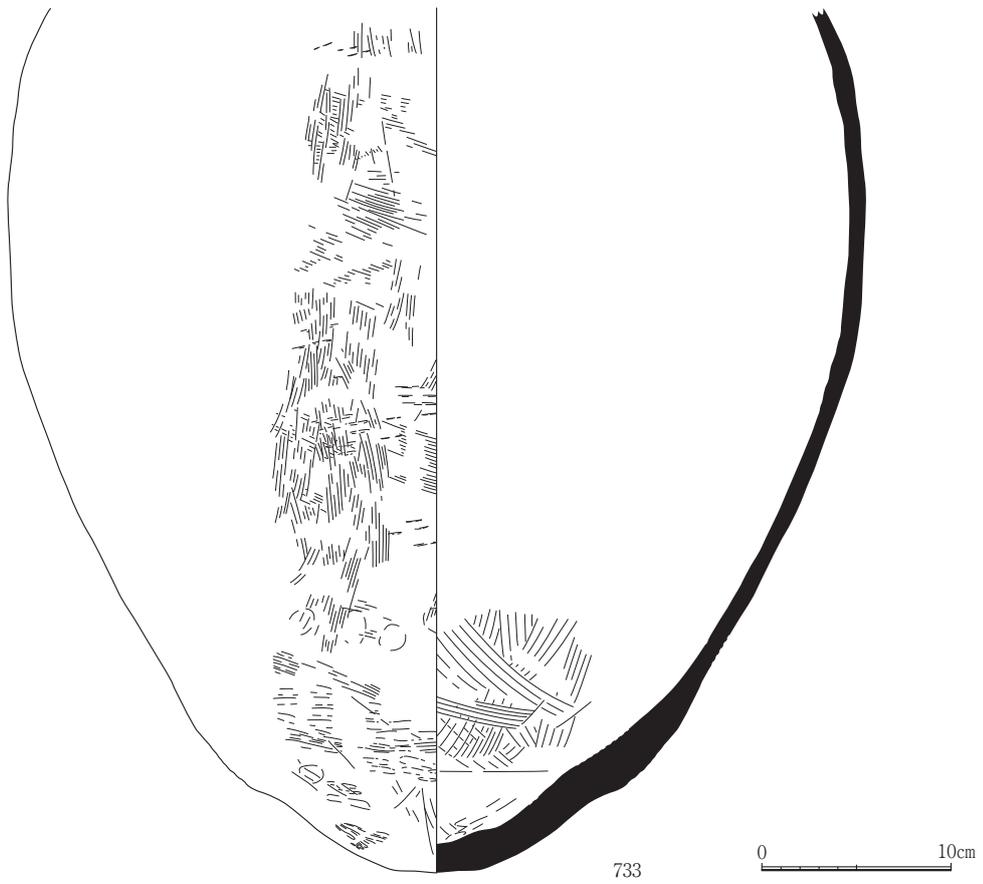
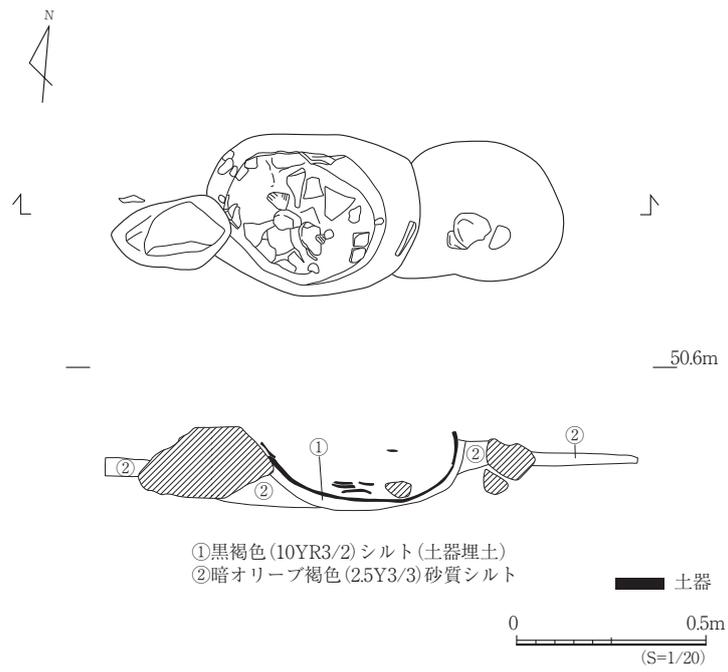


図 157 SG13 平面図・断面図・出土遺物実測図

P509

IV区北西部に位置する。平面形は直径約0.2 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P510

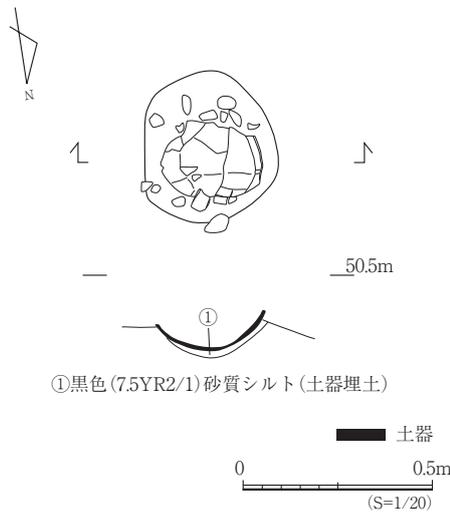
IV区北西部に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルトである。

P511

IV区北西部に位置する。平面形は直径約0.4 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。割石の立石があり、北半で礫が出土している。

P512

IV区北西部に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。



埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P513

IV区北西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.7 m, 短軸約0.6 mを測る。検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は褐色(10YR4/4)シルト質粘土がブロック状に混じる、黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P514

IV区北西部に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.4 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P515

IV区北西部に位置する。平面形は直径約0.3 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P516

IV区北西部に位置する。平面形は直径約0.2 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

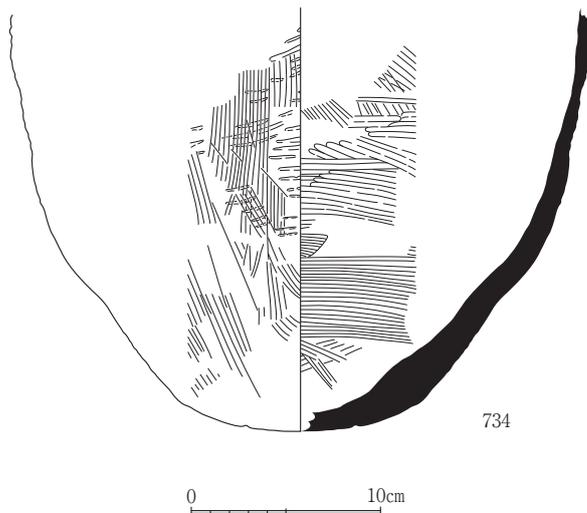


図 158 SG14 平面図・断面図・出土遺物実測図

トである。

P517

IV区北西部に位置する。大部分が調査区外に出るため、正確な平面形は不明であるが、東西約0.5m、南北約0.1mまで検出できた。検出面からの深さは約0.05mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)砂混じりシルトである。

P518

IV区北西部に位置する。北側が調査区外に出るため、正確な平面形は不明であるが、東西約0.3m、南北約0.2mまで検出できた。検出面からの深さは約0.05mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)砂混じりシルトである。

P519

IV区北西部に位置する。一部が調査区外に出るが、直径約0.3mの円形を呈すると考えられる。検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P520

IV区北西部に位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は明褐色(7.5YR5/6)のハンダをブロック状に含む黒褐色(10YR2/2)シルトである。

P521

IV区南西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.7m、短軸約0.4mを測る。検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P522

IV区北東部に位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.06mを測る。埋土は暗褐色(10YR3/3)シルトである。ST25の支柱穴である。

P523

IV区中央部に位置する。平面形は直径約0.2mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3mを測る。

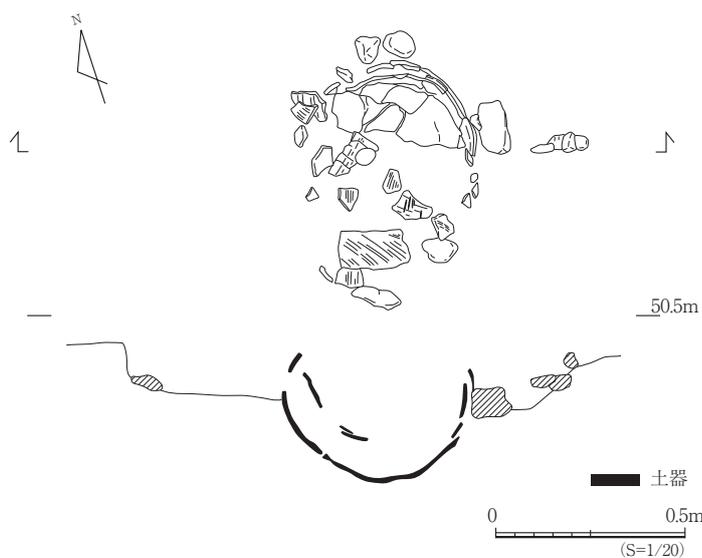


図 159 SG15 平面図・断面図

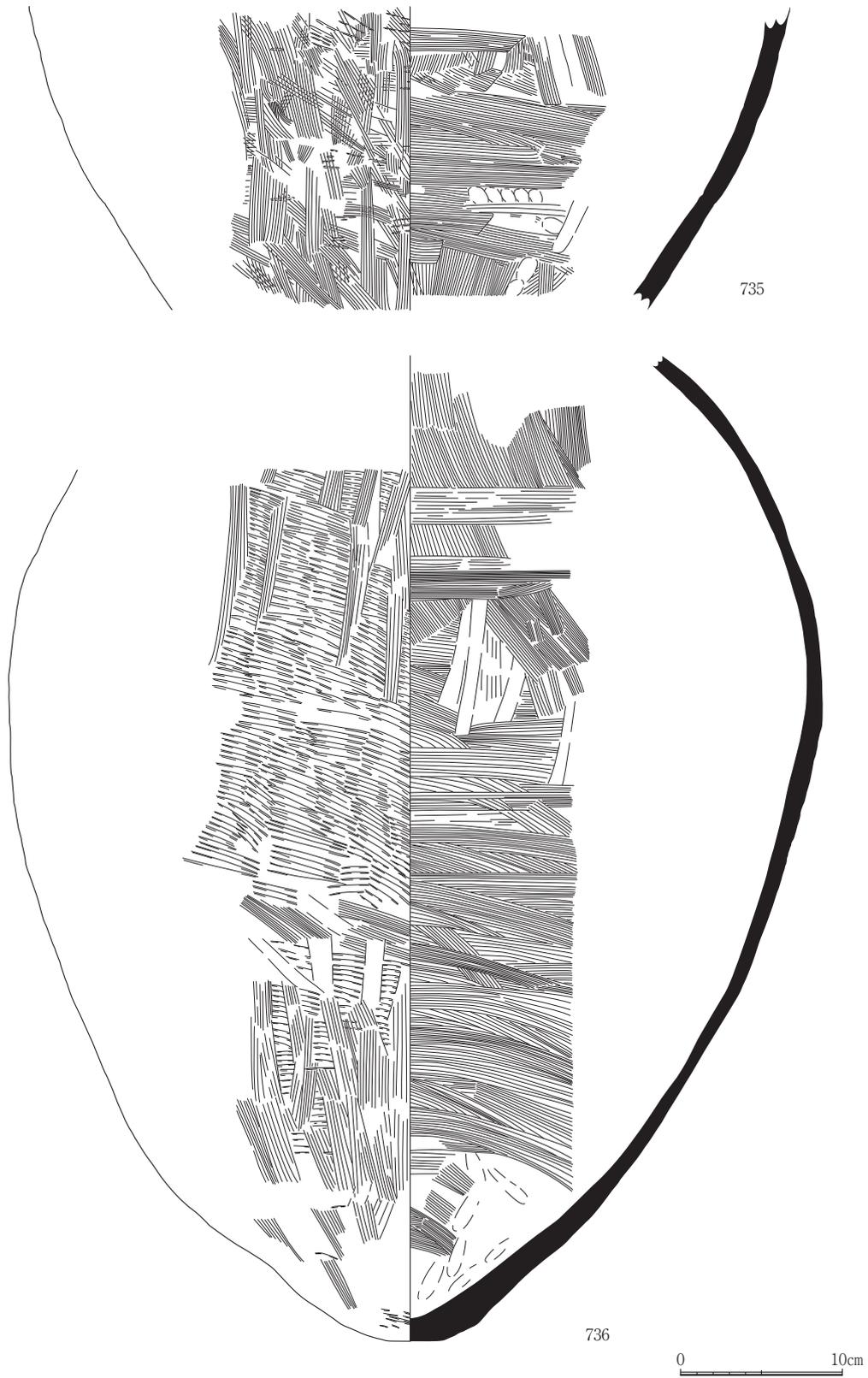


图 160 SG15 出土遺物実測図

埋土は暗褐色(10YR3/3)シルトである。

P525

Ⅳ区中央部に位置する。平面形は直径約0.2 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒色(10YR1.7/1)シルトである。灰のように細かく、しかし固い。火山灰のように石英が混じる。アカホヤ層[Ⅱ'層]を掘削して検出した。

P526

Ⅳ区中央部に位置する。平面形は直径約0.2 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒色(10YR1.7/1)シルトである。アカホヤ層[Ⅱ'層]を掘削して検出した。

P603

Ⅱ区南西部に位置する。平面形は直径約0.2 mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.1 mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。

P604

Ⅱ区北西部に位置する。平面形は直径約0.4 mの不整形円形を呈し、検出面からの深さは約0.3 mを測る。埋土は炭化物粒を少量含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。図示していないが、弥生時代の搬入土器片が出土している。

P605

Ⅱ区北西部に位置する。平面形は直径約0.6 mの不整形円形を呈し、検出面からの深さは約0.2 mを測る。埋土は炭化物粒を少量含む黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。図示していないが、古代の土師器杯の口縁部片が出土している。

P606

Ⅱ区中央部北寄りに位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸約0.4 m、短軸約0.3 m、検出面からの深さは約0.3 mを測る。

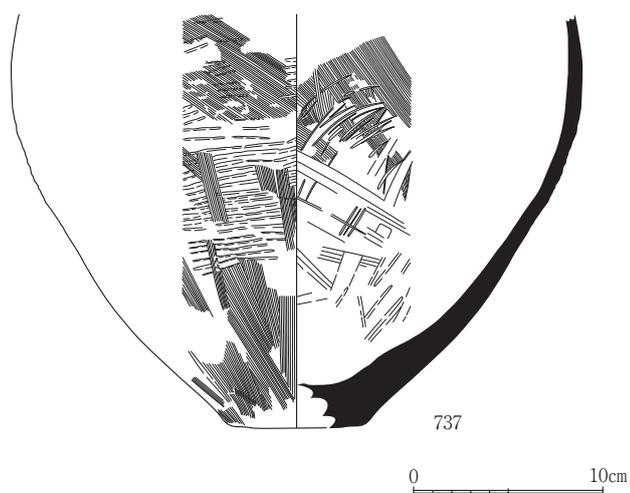
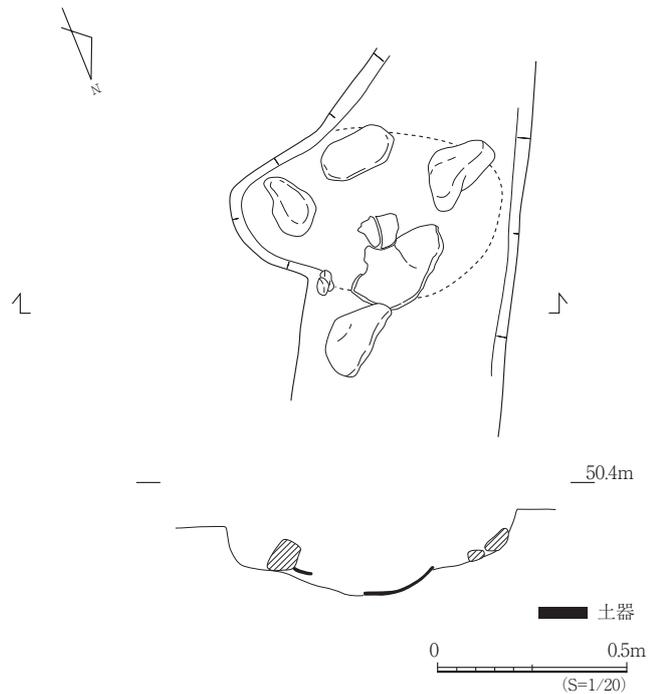


図 161 SG16 平面図・断面図・出土遺物実測図

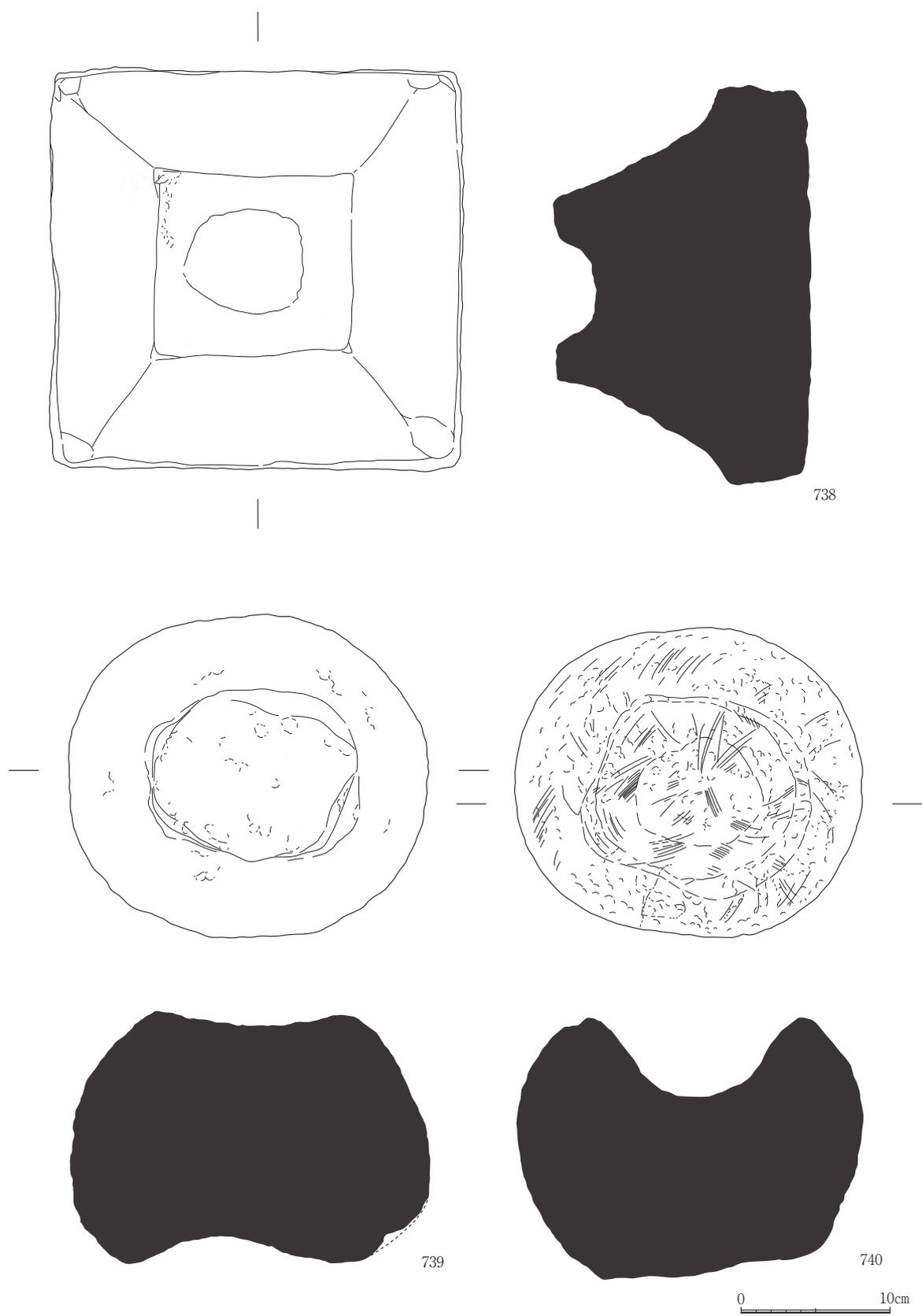


图 162 石垣 1 出土遺物実測図

P607

Ⅱ区中央部に位置する。半分以上を攪乱溝に切られるため、平面形は不明である。南北約0.4m, 東西約0.1mまで検出した。検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトである。

P608

Ⅱ区西部に位置する。平面形は直径約0.3mの円形を呈し、検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黒褐色(7.5YR2/2)シルト質砂である。

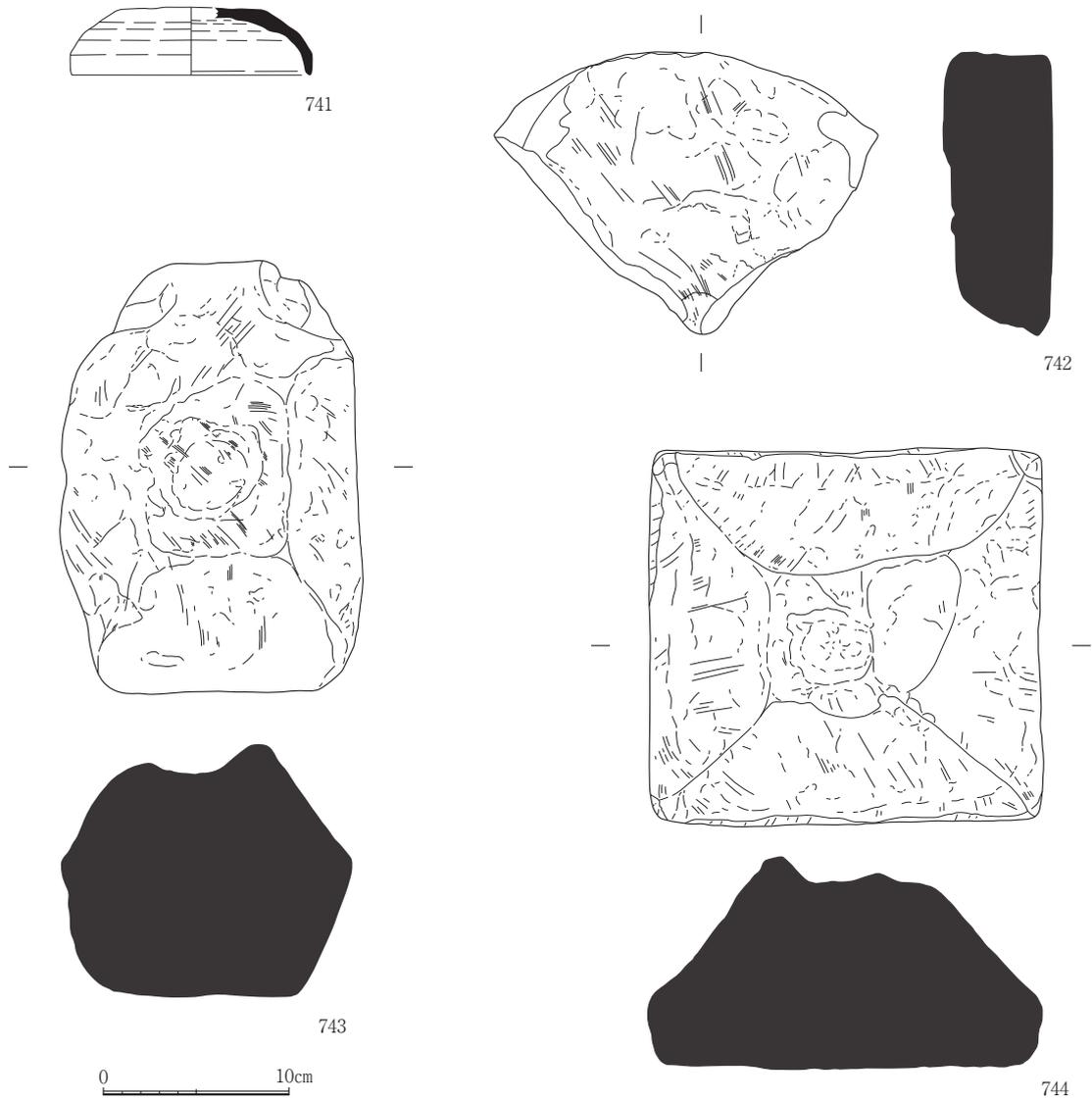
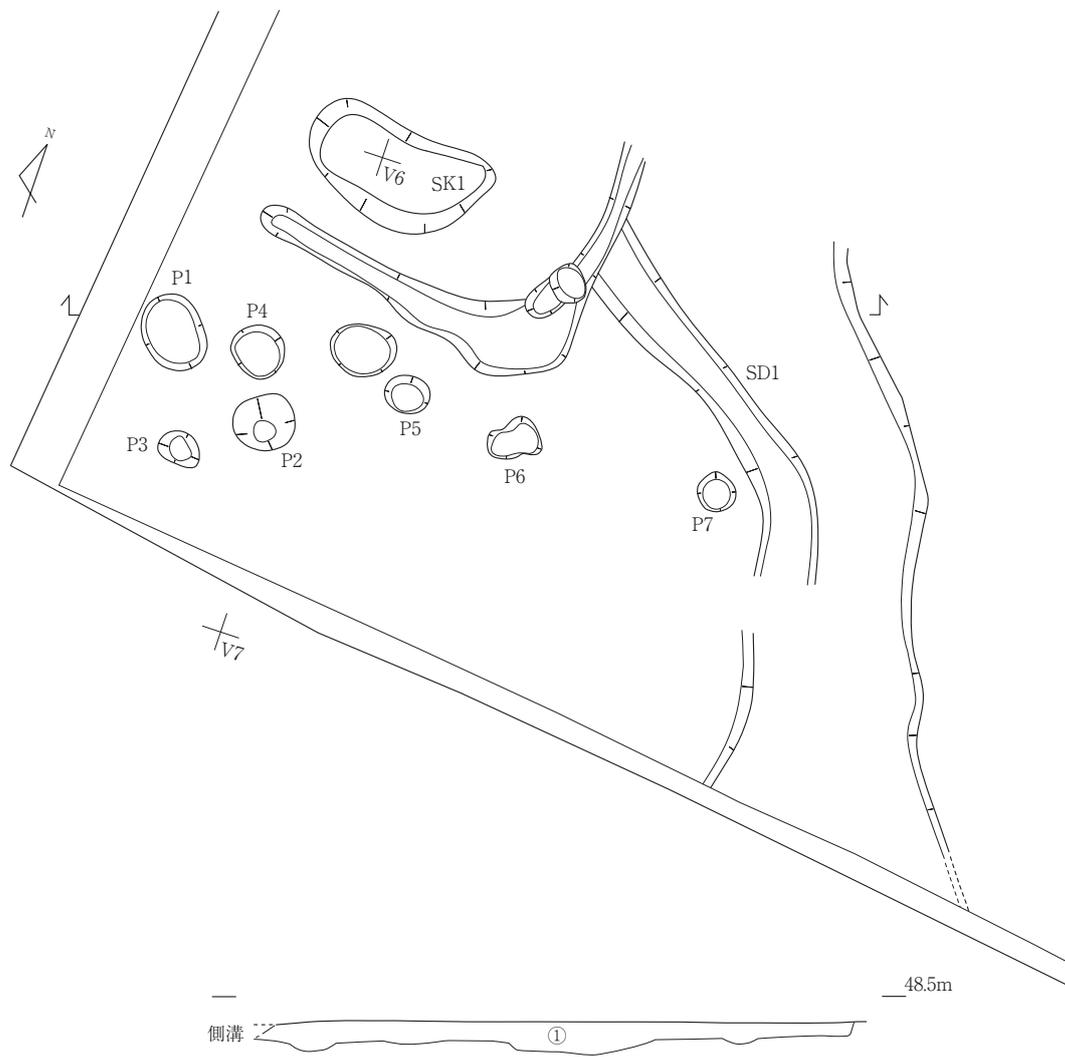


図 163 SX1 出土遺物実測図



①黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト(直径5cm大以下の小礫を少量含む)

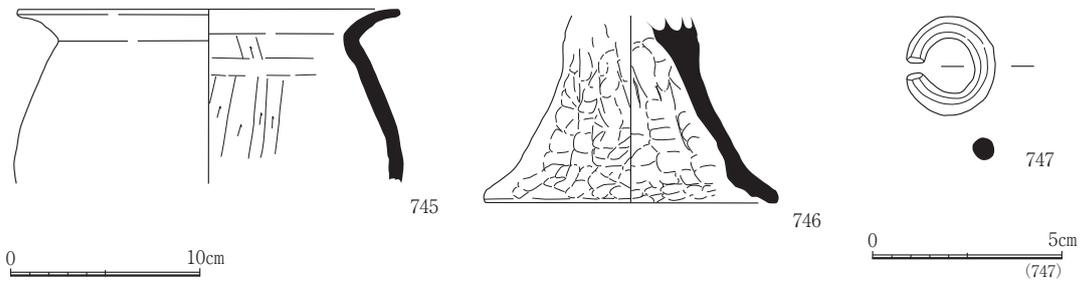


図 164 SX3 平面図・断面図・出土遺物実測図

(5)SG

SG1

V区中央部に位置する。平面形は、直径約0.4mの円形を呈し、掘り方は0.6mを測る。埋土はオリブ黒色(5Y2/2)シルト層である。埋土内に10cm大の礫を入れて、土器棺墓を固定している。

719は弥生土器の大形壺である。胴部最大径は中位よりもやや下がった位置にあり、約40cmを測る。外面はミガキ調整、内面はナデ調整である。土器棺として使用されていたと考えられる。

SG 2

V区中央部に位置する。平面形は、直径約0.25mの円形を呈し、掘り方は0.4mを測る。埋土は黒褐色(2.5Y3/1)シルト層である。上部が削られており残存状態は良くない。

720は弥生土器の壺である。残存状況は悪く、内外面とも器面は荒れている。外面は叩き成形後、ナデ調整を施す。土器棺として使用されていたと推定される。

SG3

V区中央部に位置する。平面形は、直径約0.35mのやや不整形な円形を呈している。掘り方は不明瞭で、半裁した際に埋土を確認するのみであった。埋土は黒色(10YR2/1)シルト層である。

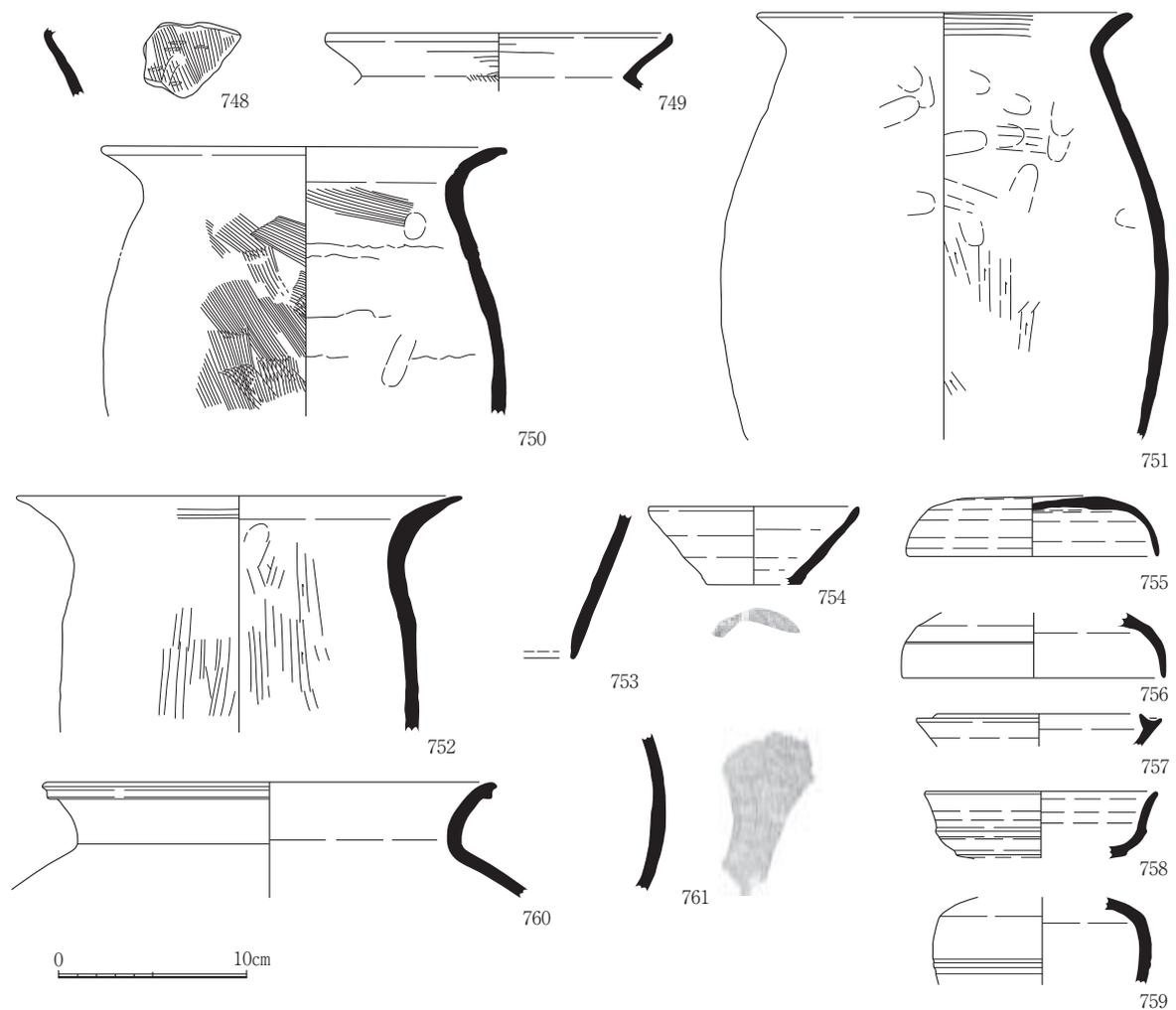


図 165 SX9 出土遺物実測図 1

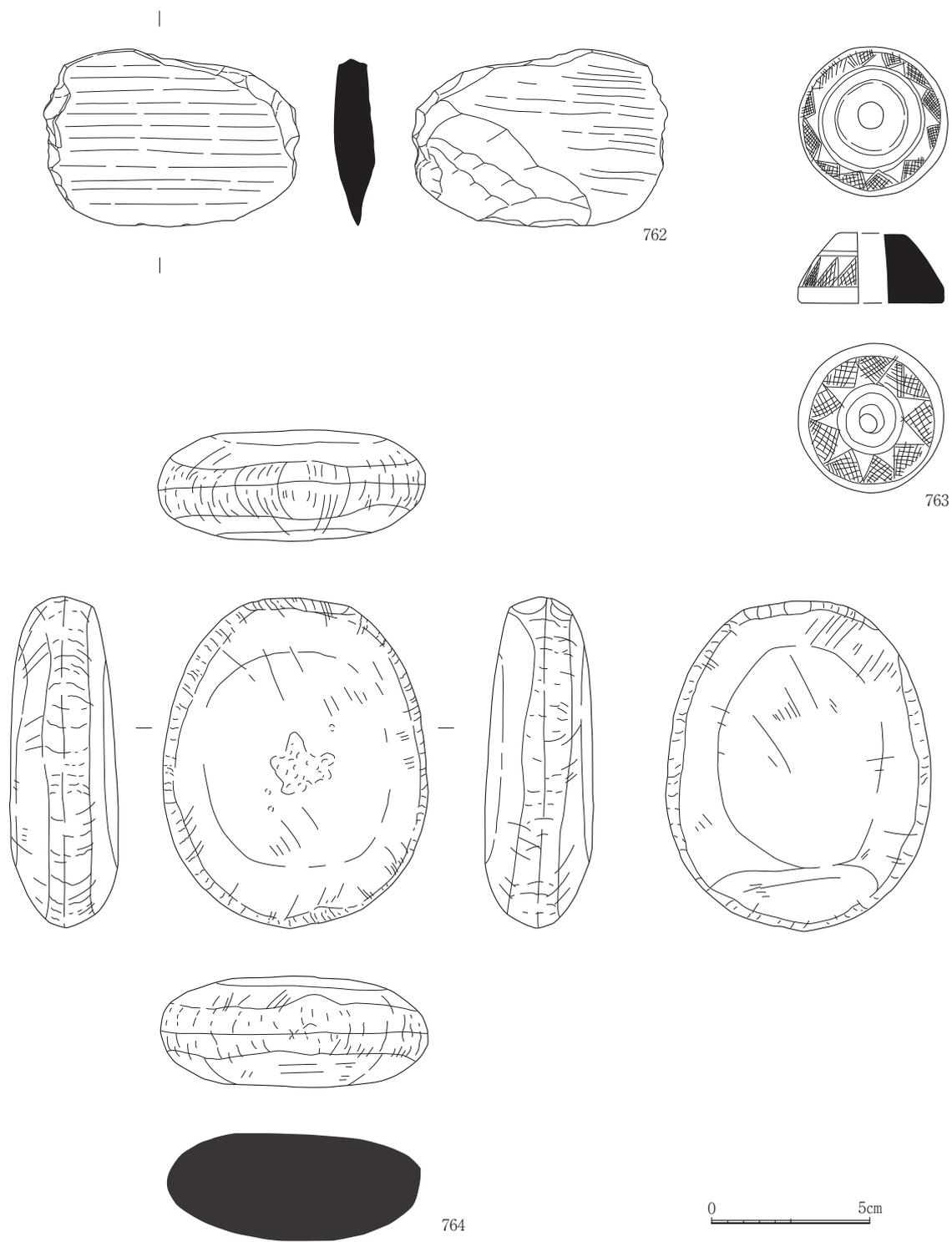


图 166 SX9 出土遺物実測図 2

721 は弥生土器の大形壺である。下半部が残存していた。胴部の最大径は約 30 cmを測る。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。内面はハケメ調整を施す。土器棺として使用されていたと考えられる。

SG4

V区中央部に位置する。検出時は土器棺墓と判断したが、土器溜りである。

SG5

V区東部に位置する。平面形は、直径約 0.3mの円形を呈している。掘り方は、0.4mを測る。地山面まで掘削して直置きしている。

722 は弥生土器の大形壺であり、上胴部から底部にかけての破片である。胴部の最大径は約 30 cmを測る。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。内面はハケメ調整後、ナデ調整を施す。土器棺として使用されていたと考えられる。

SG6

V区東部に位置する。平面形は、直径約 0.3mのやや楕円形を呈している。掘り方は、0.3 × 0.4mを測る。土器棺 5 と同様に直置きしている。

723 は弥生土器の大形壺であり、胴部から底部にかけての破片である。胴部の最大径は約 35 cmを測る。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。内面はハケメ調整・ナデ調整を施す。

SG7

V区東部に位置する。平面形は、直径約 0.25mの円形を呈している。掘り方はやや不明瞭で、0.45 × 0.3mを測る。

724 は弥生土器壺の口縁部片である。口唇部には斜格子文を施す。725 は弥生土器の甕である。胴部はあまり張らず、縦に長い。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。内面はハケメ調整・ナデ調整を施す。

SG8

V区東部に位置する。平面形は、直径約 0.35mのやや楕円形を呈している。直径 0.45mの掘り方を測る。土器の上部から石が出土しており、土器棺の直上に石を乗せていた可能性がある。

726 は弥生土器の壺である。体部は球形を呈する。胴部最大径は中位にあり、約 40 cmを測る。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。内面はハケメ調整・ナデ調整を施す。

SG9

V区東部に位置する。平面形は、直径約 0.4mのやや楕円形を呈し、掘り方は 0.6mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルトである。土器片が重複するように出土することから、複合式の土器棺墓であった可能性が高い。

727 は弥生土器の鉢である。深めの体部から口縁部は外反する。外面は叩き成形後、ナデ調整を施す。内面はハケメ調整を施す。728 は弥生土器の壺である。下半部の破片である。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。内面はハケメ調整を施す。729 は弥生土器の壺である。体部は球形を呈し、最大

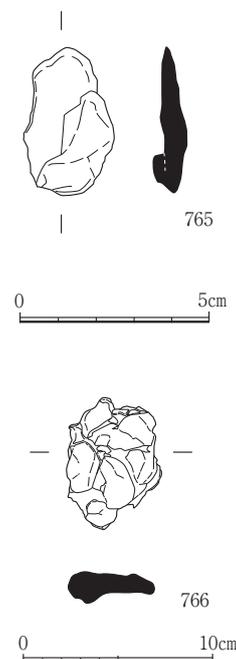


図 167 SX10 出土遺物実測図

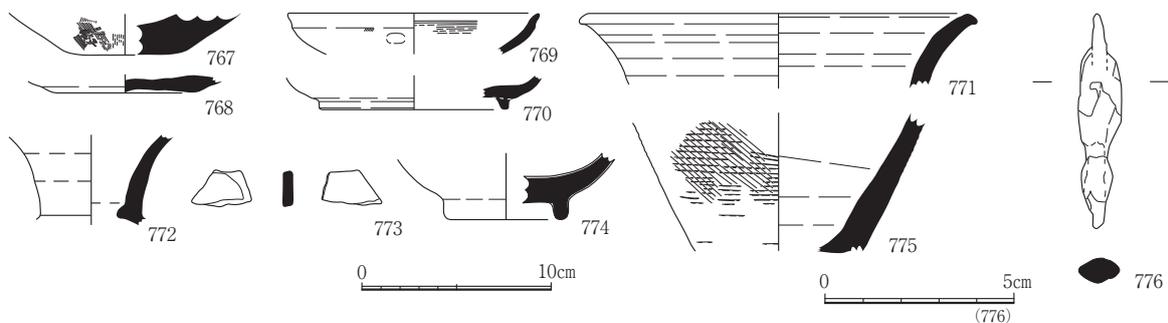
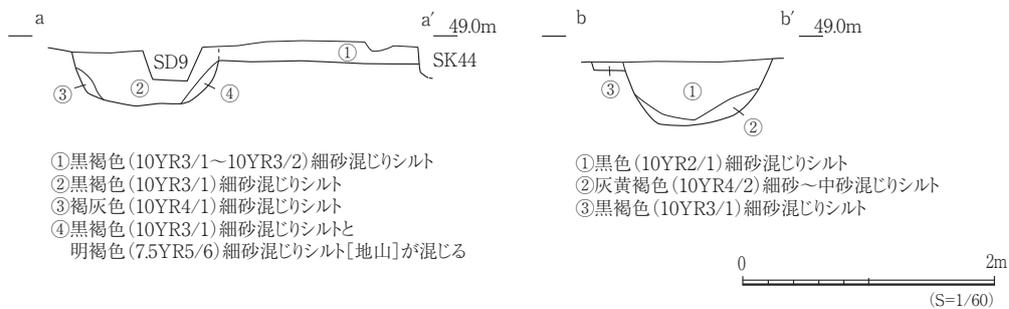
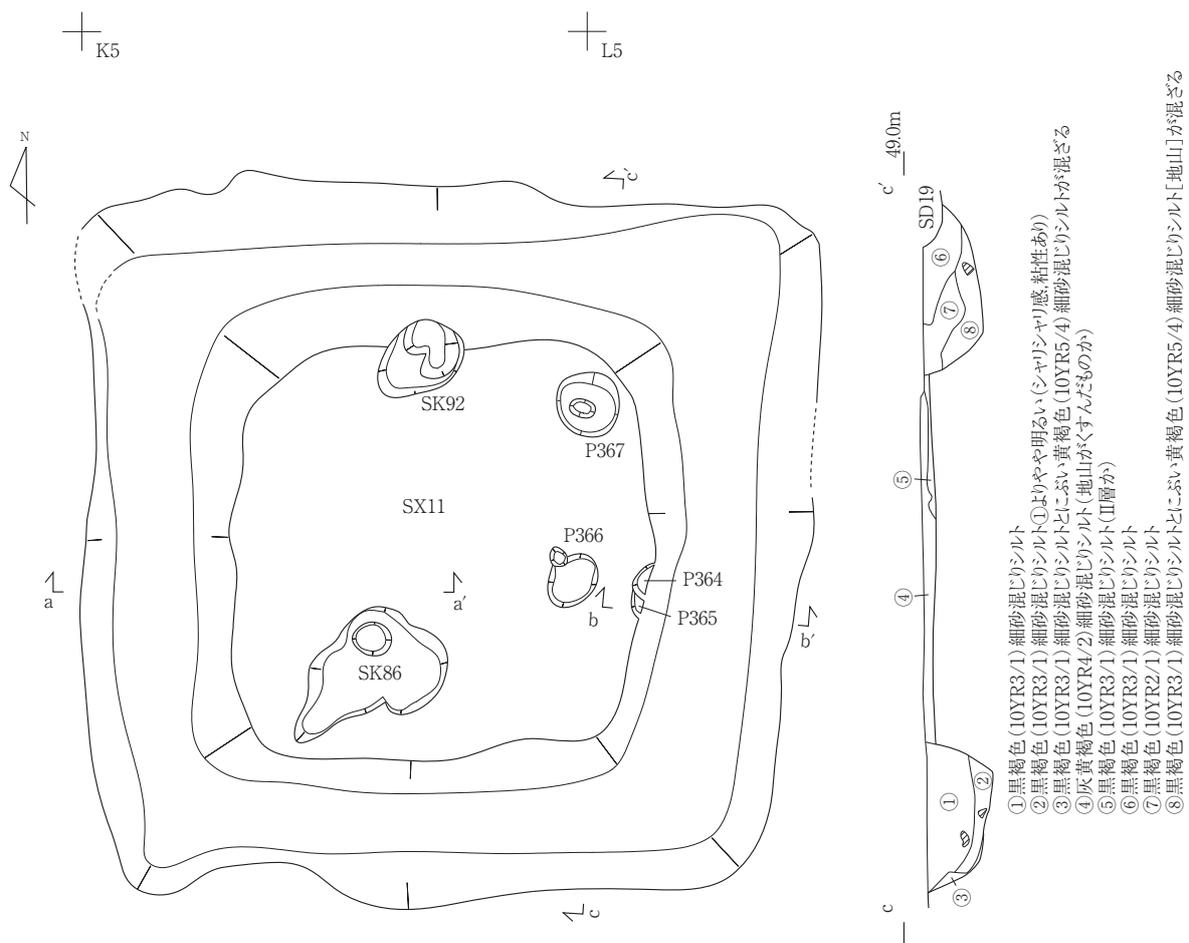


図 168 SX11 平面図・断面図・出土遺物実測図

径を体部中位に持つ。外面は叩き成形後、ミガキ調整を施す。内面はハケメ調整を施す。下半部に穿孔が認められる。730は弥生土器の底部片である。外面は叩き成形後、ハケメ調整あるいはミガキ調整を施す。内面はハケメ調整・ナデ調整を施す。内面は荒れる。

SG10

V区東部に位置する。平面形は、長軸0.7m、短軸0.5mの楕円形を呈している。掘り方は1.0×0.7mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルトである。土器底部が掘方より下層で出土していることから、横向きに固定した様子が窺えた。検出面に関しては、石をかませしており、土器を固定するためと思われる。

731は弥生土器の大形壺である。長胴であり、胴部最大径は約50cmを測る。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。内面はハケメ調整を施す。土器棺として使用されていたと考えられる。

SG11

V区東部に位置する。土器棺9・10の間にあり、土器棺墓10の蓋部である可能性が高い。

SG12

V区中央部に位置する。平面形は、直径約0.4mの円形を呈し、掘り方は0.45mを測る。埋土は黒褐色(2.5Y3/2)シルトである。

732は弥生土器の壺である。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。内面はナデ調整を施す。

SG13

V区中央部に位置する。平面形は、長軸0.5m、短軸0.35mの楕円形を呈している。掘り方は0.6×0.4mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルトである。地山の30cm大の巨礫を利用して土器を固定している。

733は弥生土器の壺である。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。内面はハケメ調整・ナデ調整を施す。内面は荒れる。土器棺として使用されていたと考えられる。

SG14

V区中央部に位置する。平面形は、直径0.25mを呈し、掘り方は0.35mを測る。埋土は黒色(7.5YR2/1)砂質シルトである。地山の巨礫を利用して土器を固定している。

734は弥生土器の壺である。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。内面はハケメ調整を施す。土器棺として使用されていたと考えられる。

SG15

V区東部に位置する。平面形は、直径0.5mを呈している。地山の礫層を掘削して土器を固定している。北側で一部土器の重複が見られるため、複合式の土器棺墓の可能性はある。

735は弥生土器の壺である。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。内面はハケメ調整を施す。736は弥生土器の大形壺である。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。内面はハケメ調整を施す。土器棺として使用されていたと考えられる。

SG16

V区中央部に位置する。底部のみの出土で残存状態は良くない。地山の礫層を掘削して土器を直置きしている。

737は弥生土器の壺である。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。内面はハケメ調整・ナデ調整を施す。土器棺として使用されていたと考えられる。

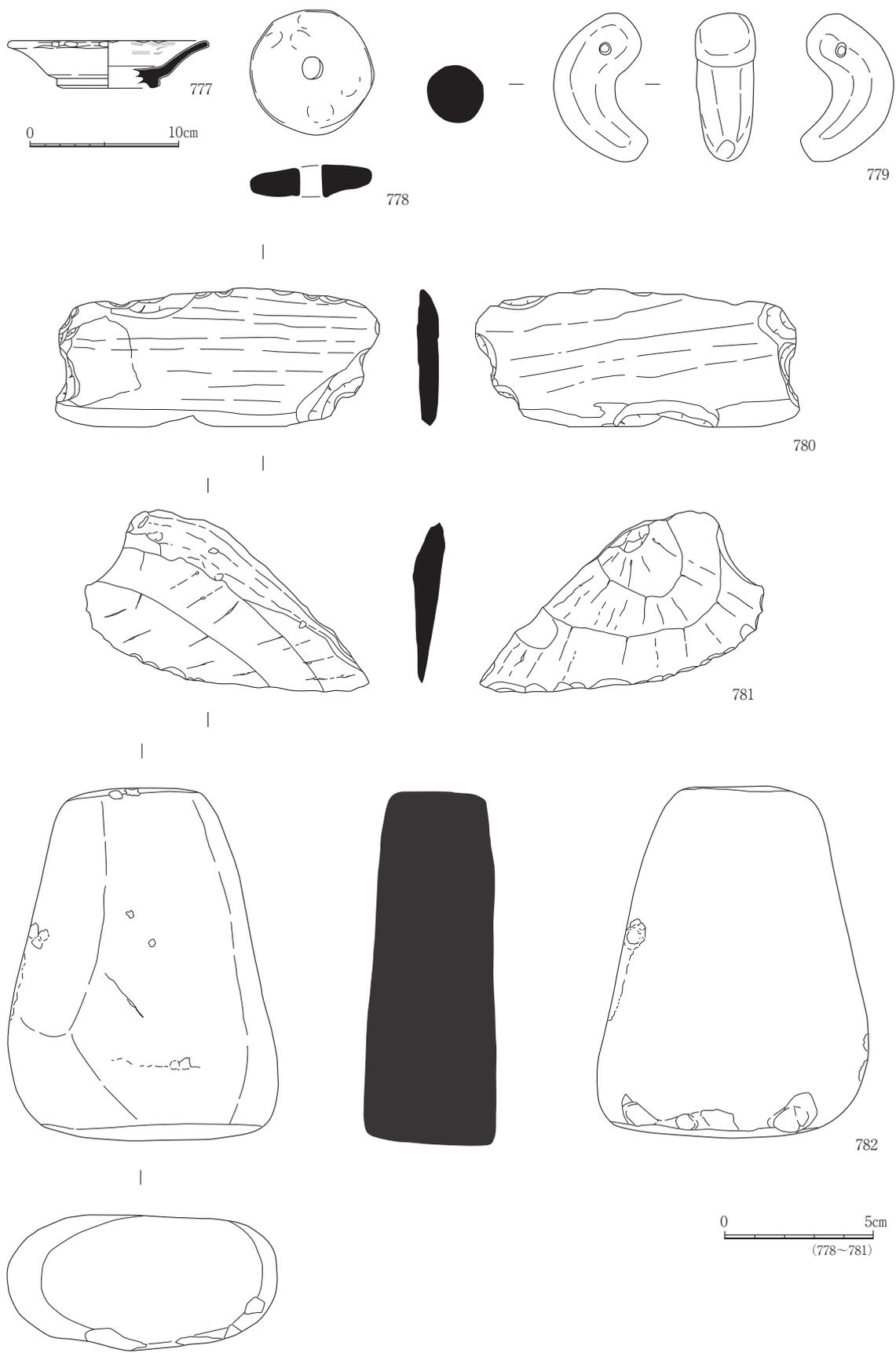


图 169 SX12·13 出土遺物実測図

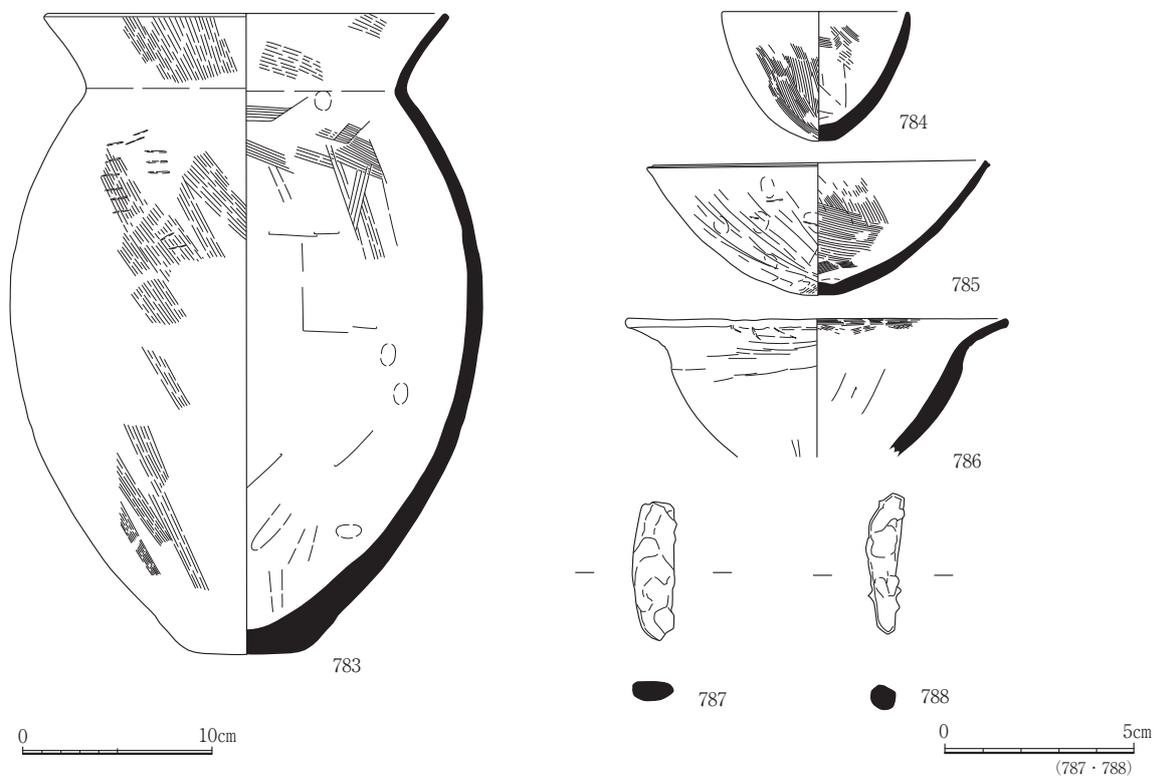
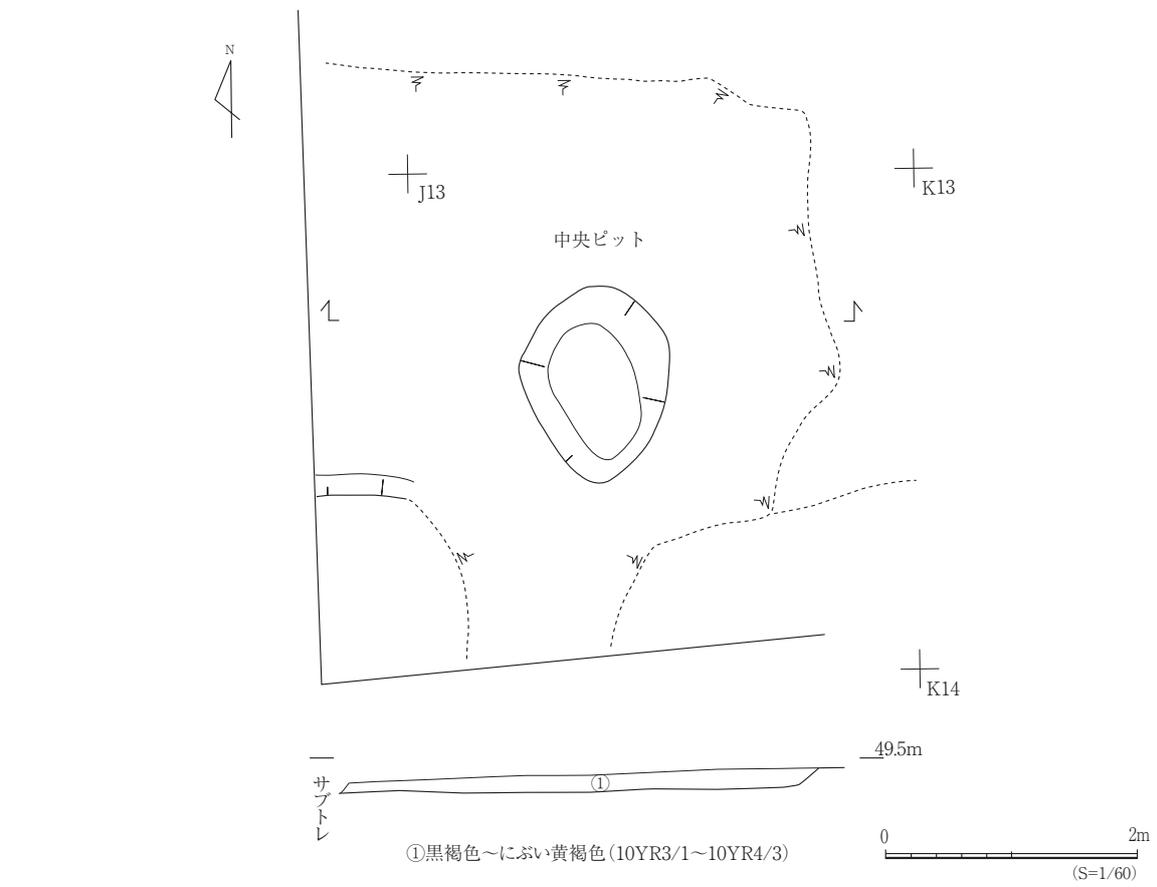


図 170 SX15 平面図・断面図・出土遺物実測図

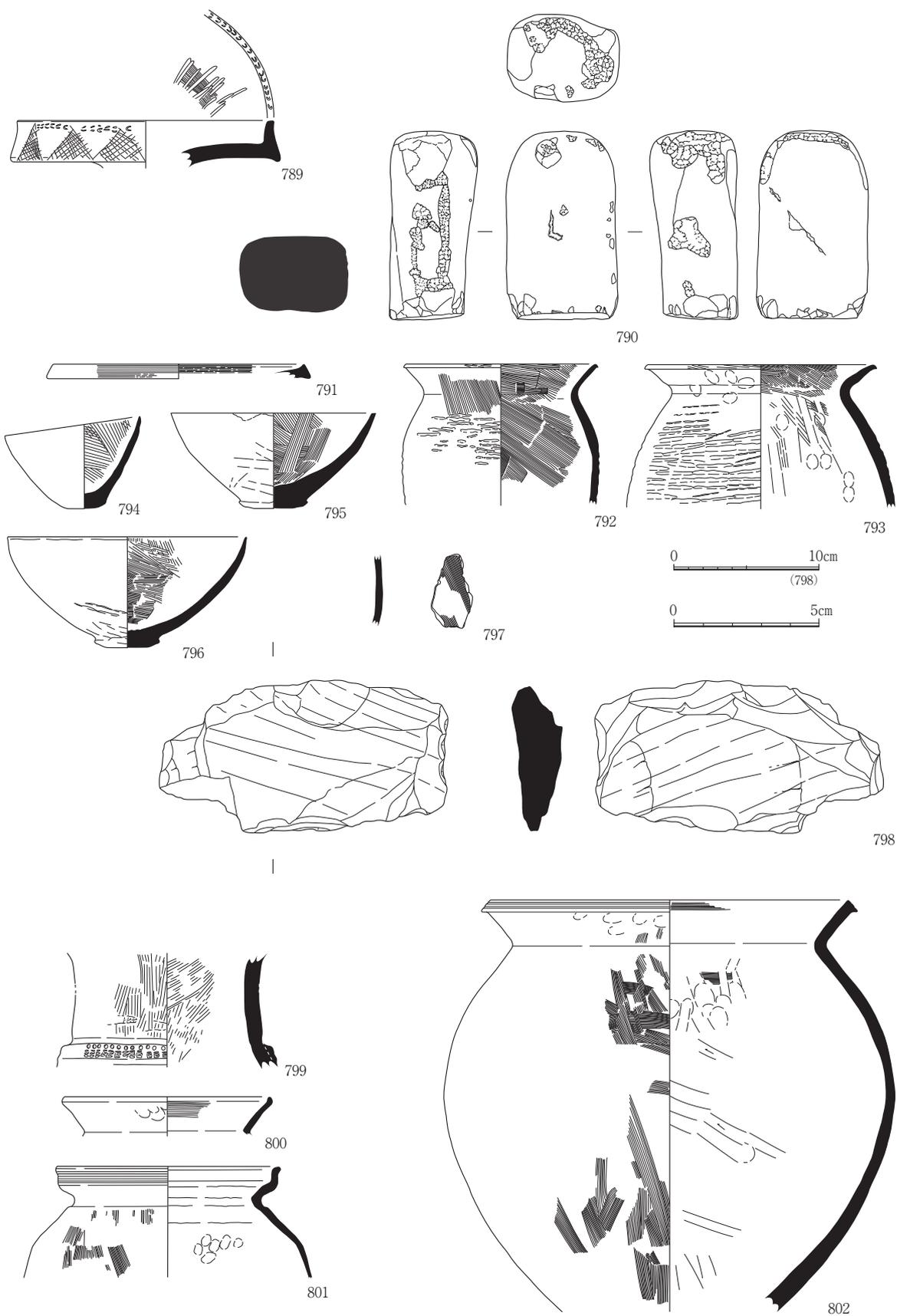


图 171 SX21·23·24 出土遺物実測図

(6)石垣

石垣1

V区で検出した土留めのための石積みである。図示した出土遺物は、五輪塔である。738は五輪塔の風輪,739と740は火輪である。740の上面の窪みは深い。すべて石垣を構築する築石に転用されていた。

(7)SX

SX1

I区西端にある性格不明遺構である。南と西は調査区外に出ているが、南北約7.5m、東西約0.9mまで検出した。検出面からの深さは約0.3mである。埋土は円礫を多く含む締まりのない褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルトである。

741は須恵器の杯蓋である。内外面には回転ナデ調整を施す。天井部は狭い範囲に回転ヘラケズリ調整を施した後、ナデ調整を施す。742は石臼である。中央付近に軸受部が認められる。上面は凹凸がみられ、凸部は使用により平滑となる。側面は工具痕跡が残存し、凹凸が認められる。743・744は五輪塔の火輪である。743は欠損している。

SX3

I区西南角に位置し、SD3に切られる。南側と西側が調査区外に出しており、東西、南北ともに7.6mまでしか検出できなかった。住居跡が重複している可能性があり、正確な平面形は不明である。検出面から床面までの深さは約0.2mを測る。埋土は基本的に黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。SK1は中央ピットと考えられる。平面形は不整形を呈し、規模は長軸約0.9m、短軸約0.6m、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は住居跡の埋土と同一である。床面からピットが7基検出されたが、P1、P4、P5、P6、P7はシミであった。P2、P3はその規模から支柱穴であると考えられる。壁溝と考えられる溝が二条検出されたが浅く、また方向もずれており、住居跡に伴うものか判然としない。

745は土師器の甕である。内面にはケズリ調整を施す。746は支却と考えられる。指頭圧痕が顕著に認められる。747は金銅製の耳環である。純銅に金メッキを施す。内側に金メッキが残る。「C」字状に加工する時にきれいに円弧を描かずに多角形状を呈する。断面形は楕円形を呈する。中空であるものの中に芯のようなものが存在することが、X線写真及びCTスキャン画像から判明した。

SX4

I区中央部に位置する。平面形は隅丸方形を呈しており、竪穴住居跡の可能性はある。規模は南北約3.2m、東西約4.0m、検出面から床面までの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトである。床面からピットが9基、土坑3基が検出されたが、SX4に伴うものか判然としないものが多い。P5、P9、SK3はその規模や配置から支柱穴の可能性はある。東辺と西辺では壁溝が検出されたが、全周しているものか判然としない。図示していないが、手づくねの皿形のミニチュア土器が出土している。

SX5

I区中央部で検出したが、包含層が残っていたものである。

SX6

I区東部で検出したが、包含層が残っていたものである。

SX7

I区中央部南端で検出したが、包含層が残っていたものである。

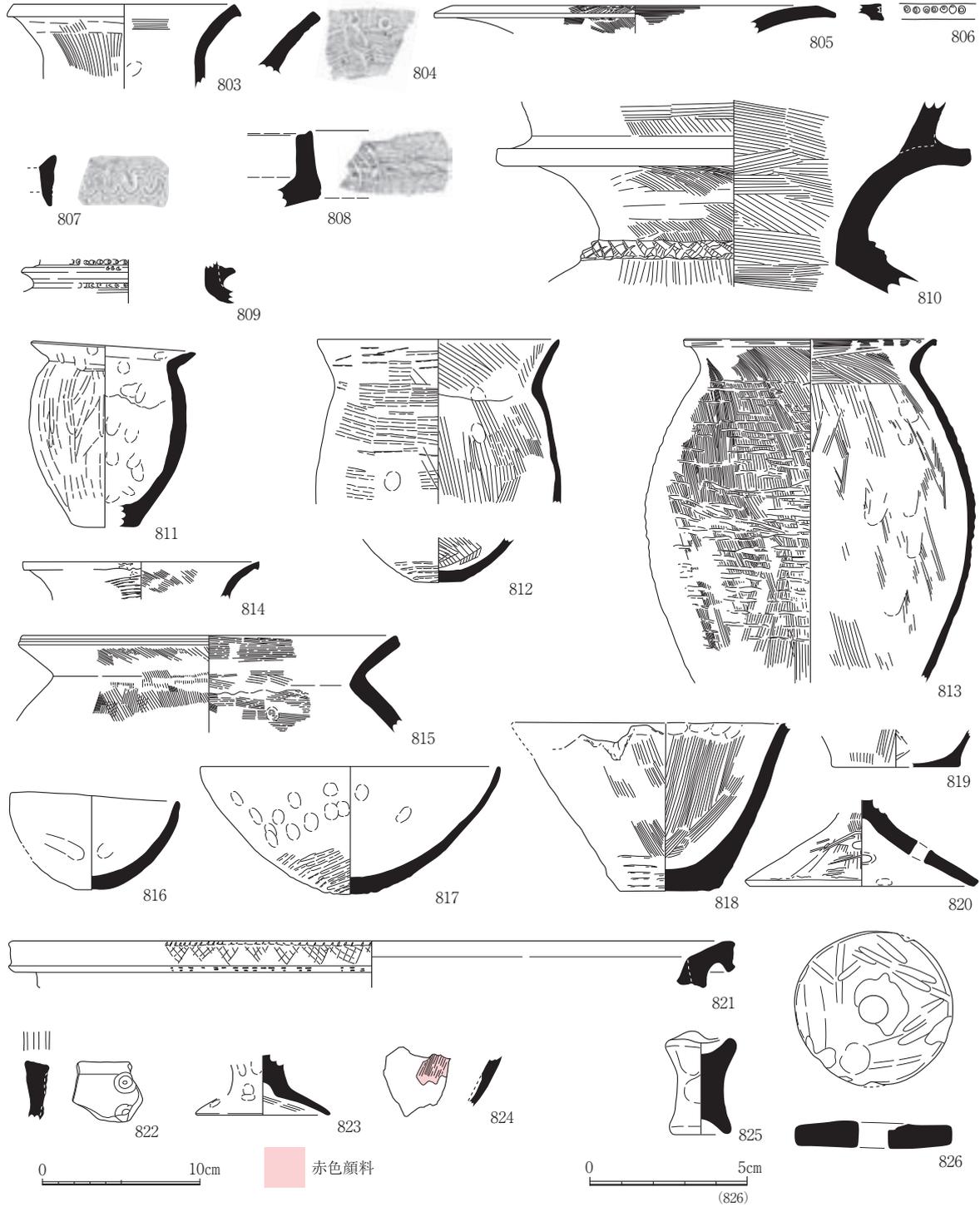


図 172 包含層出土遺物実測図 (弥生土器)

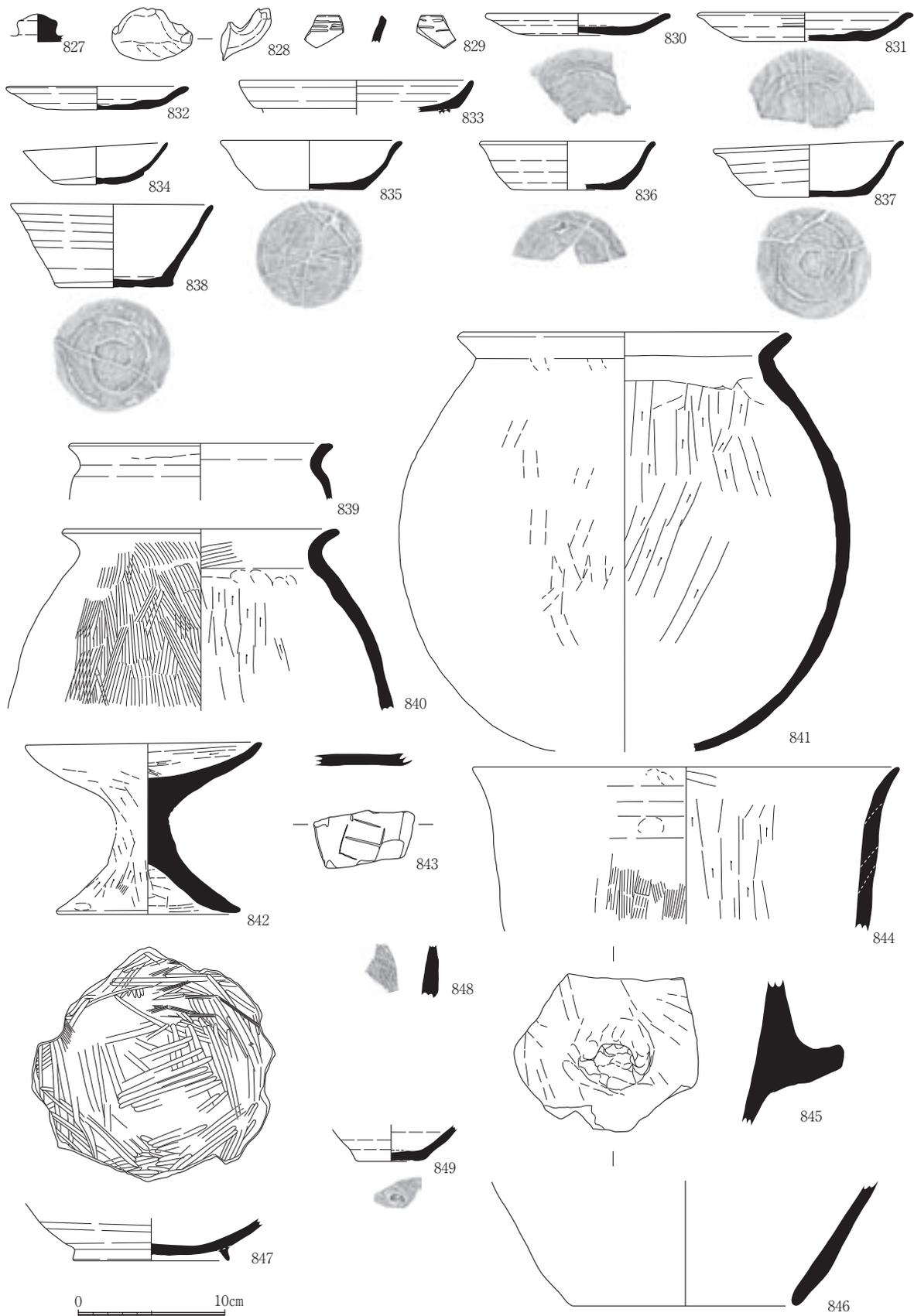


図 173 包含層出土遺物実測図（土師器・黒色土器・土師質土器・製塩土器）

SX8

I 区東部南端で検出したが、包含層が残っていたものである。

SX9

II 区南西部～中央部(E8・E9～G8・H7・I6 周辺)にかけて、複数の遺構が重複しており各遺構の平面形、新旧関係が不明瞭であったため、全体的に 5cm 掘削し精査した。SK77 及び遺物包含層 [II 層] が低地に残存していたものと考えられる。埋土は直径 3cm 大の河原石をごく少量含む黒色 (10YR2/1) 細砂混じりシルトである。SK77 の平面形が隅丸方形とすれば、須恵器の杯蓋 (755)、石製紡錘車 (763) は SK77 の範囲からの出土となる。

図示した出土遺物は、弥生土器、庄内式土器、土師器、須恵器、石器である。748 は弥生土器の体部片である。平行した二条の沈線が認められ、線刻の可能性もある。749 は庄内式甕である。口縁部は鋭く外反し、端部を摘み上げる。口縁部の内外面にはハケメ状の痕跡がみられる。搬入品である。750～752 は土師器の甕である。750・751 の口縁部は短く外反し、胴部はあまり張らない。750 の内面には粘土帯の接合痕跡が認められる。751 の内面にはヘラケズリ調整を施す。752 の口縁部は外方にのび、口径が最大径となる。753 は甑の底部か。754 は土師質土器の杯である。内外面にはロクロ目がみられ、底部は回転糸きり痕跡が残る。755・756 は須恵器の杯蓋である。内外面には回転ナデ調整を施す。757 は須恵器の杯身である。受け部は短く水平方向にのびる。立ち上がりは短い。758 は須恵器の無蓋高杯である。杯部は内湾気味にのび、口縁部は外反する。759 は須恵器の壺である。肩部は稜を持ち、屈曲する。外面に沈線を巡らせる。760・761 は須恵器の壺である。760 の口縁部は短く外反し、突帯を一条巡らせる。762 は打製の石包丁である。主要剥離面を大きく残す。片刃である。両端部にはわずかに抉りを入れ、紐かけとする。763 は滑石の紡錘車である。側面には沈線と 13 単位の鋸歯文を施し、裏面にも 9 単位の鋸歯文を施す。加飾性に富んだ優品である。764 は叩き石である。楕円形の

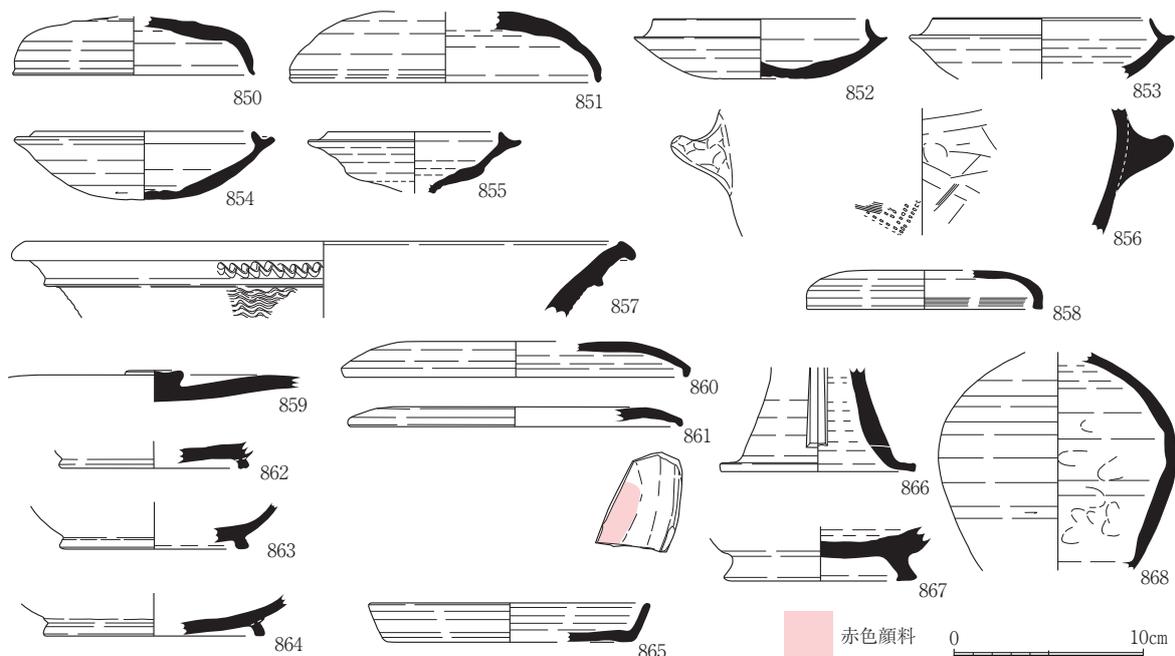


図 174 包含層出土遺物実測図 (須恵器)

扁平な河原石を利用する。側面と中央部に使用痕跡が認められる。

SX10

Ⅱ区南西部に位置する溝状の遺構である。平面形は不整形を呈し、規模は南北約2.6m、東西約1.6m、検出面からの深さは約0.1mを測る。

765は薄い鉄片である。766は椀形滓である。

SX11

Ⅱ区北東部に位置し、SD13に切られる。平面形は一辺が約5.6mの隅丸方形を呈する。幅約1.2m、深さ約0.5mの溝が全周している。埋土は基本的に黒色～黒褐色細砂混じりシルトである。溝の東辺と北辺において検出面からの深さが0.2～0.3mで拳大の礫を列状に検出したが、意図的に並べられたようではなかった。

図示した出土遺物は、弥生土器の底部、須恵器、土師質土器、緑釉陶器、青磁、鉄器である。773は緑釉陶器である。釉調はオリブ黄色を呈する。猿投産であり、平安Ⅱ期中段階である。県内では猿投産の緑釉陶器は珍しく、土佐市の西鴨地遺跡で出土している。774は青磁の碗である。釉薬は厚めにかかる。外底面は露胎である。貫入がはいる。775は須恵器の体部であり、壺と考えられる。外面は叩き成形後、ナデ調整を施す。776は針状を呈した鉄器である。幅約3mmの棒状を呈する。これらの他に図化していないが、緑釉陶器、底部糸切り痕跡が残る土師質土器、かえりの付いた須恵器の蓋等が出土している。埋没は中世段階と考えられる。

SX12

V区西部に位置する。長軸5.0m、短軸1.5m、深さ0.07mを測る。北側の溝の影響によりグライ化したものか。

777は青磁の稜花皿である。内面には不明瞭ながら文様が見られる。二次被熱を受ける。

SX13

検出当初、複数の遺構が重複しており不明瞭であったため、SX13として掘削したものである。約5cm掘削し、精査した結果、竪穴住居跡3棟(ST17・19・20)が重複しているものと判明した。

778は土製紡錘車である。円盤の中央部に円孔を穿つ。直径約4.1cm、重量17.3gを測る。779は蛇紋岩の勾玉である。全長約5.1cmであり、大形である。780は打製の石包丁である。片刃である。両端には紐かけのための抉りを入れる。両面とも主要剥離面を大きく残す。781はサヌカイトの刃器である。自然面を一部に残す。片刃である。782は磨石である。撥形にひらく自然石を利用する。両端とも磨ることで平滑面となる。これらの他に図示していないが、サヌカイト片、円形のスタンプが施された弥生土器片、櫛描波状文を施した加飾壺の口縁部片、讃岐からの搬入土器片が出土している。

SX14

Ⅲ区北東部に位置する。北側は調査区外にのび、南側はSK102に切られる。正確な平面形は不明であるが、南北2.8m、東西1.6mまで検出した。検出面からの深さは約0.1mを測る。

SX15

Ⅳ区中央部南端に位置する。住居跡であると考えが、プランは明瞭でない。埋土は黒褐色(10YR3/1)～にぶい黄褐色(10YR4/3)シルトである。検出面からの深さは約0.1mを測る。床面からは中央ピット状の遺構が検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸約1.6m、短軸約1.2m、検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

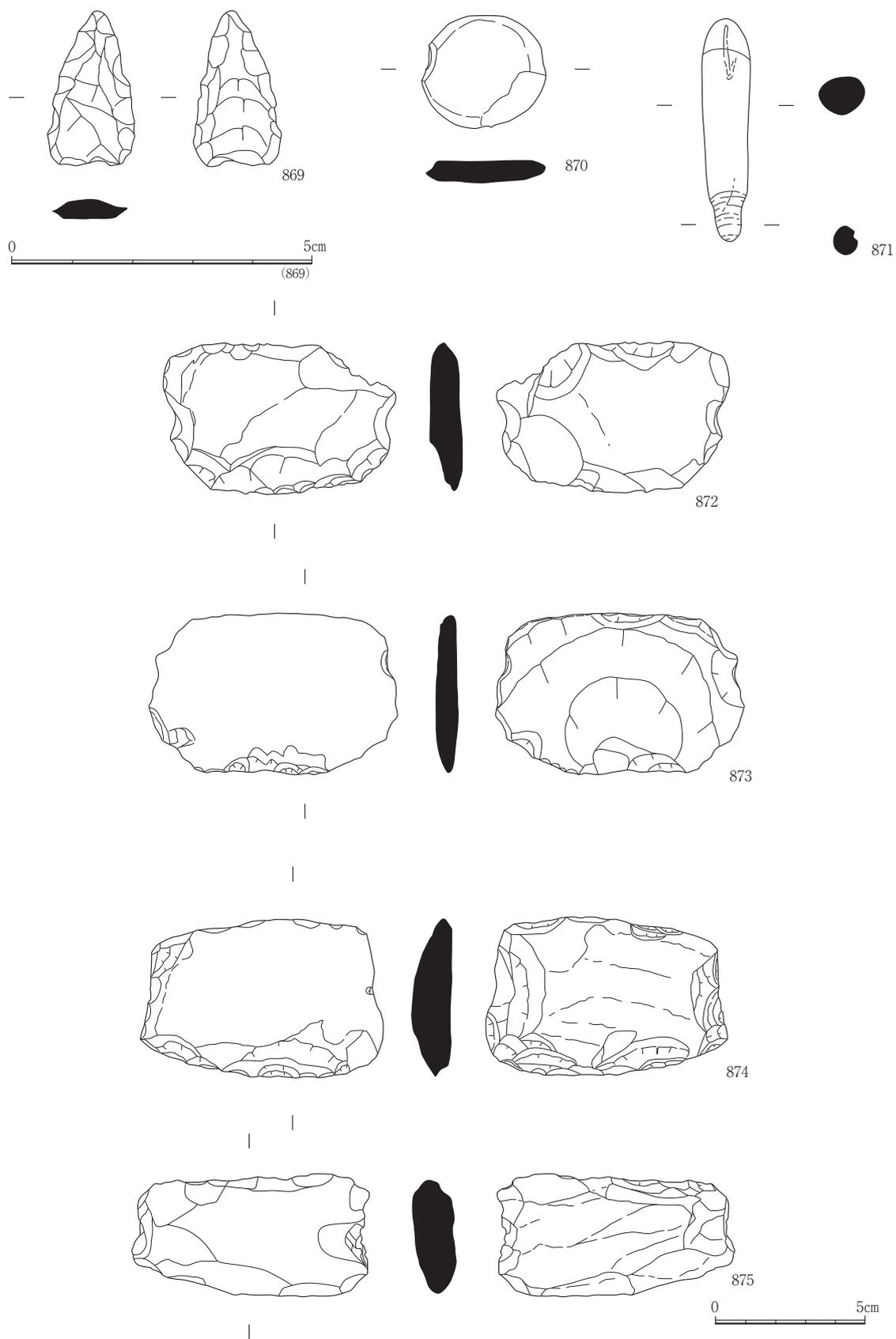


图 175 包含層出土遺物实测图 (石器 1)

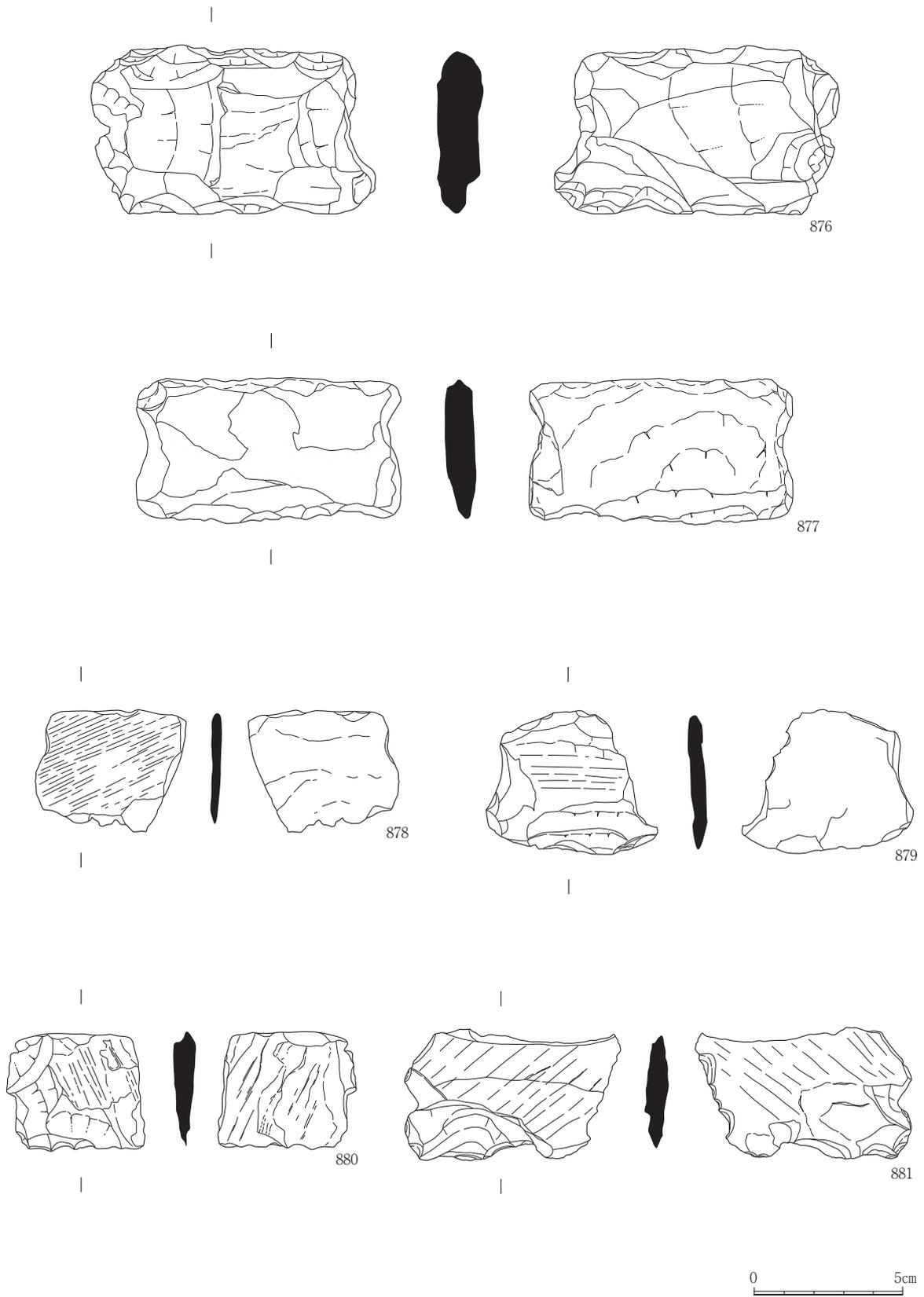


図 176 包含層出土遺物実測図（石器 2）

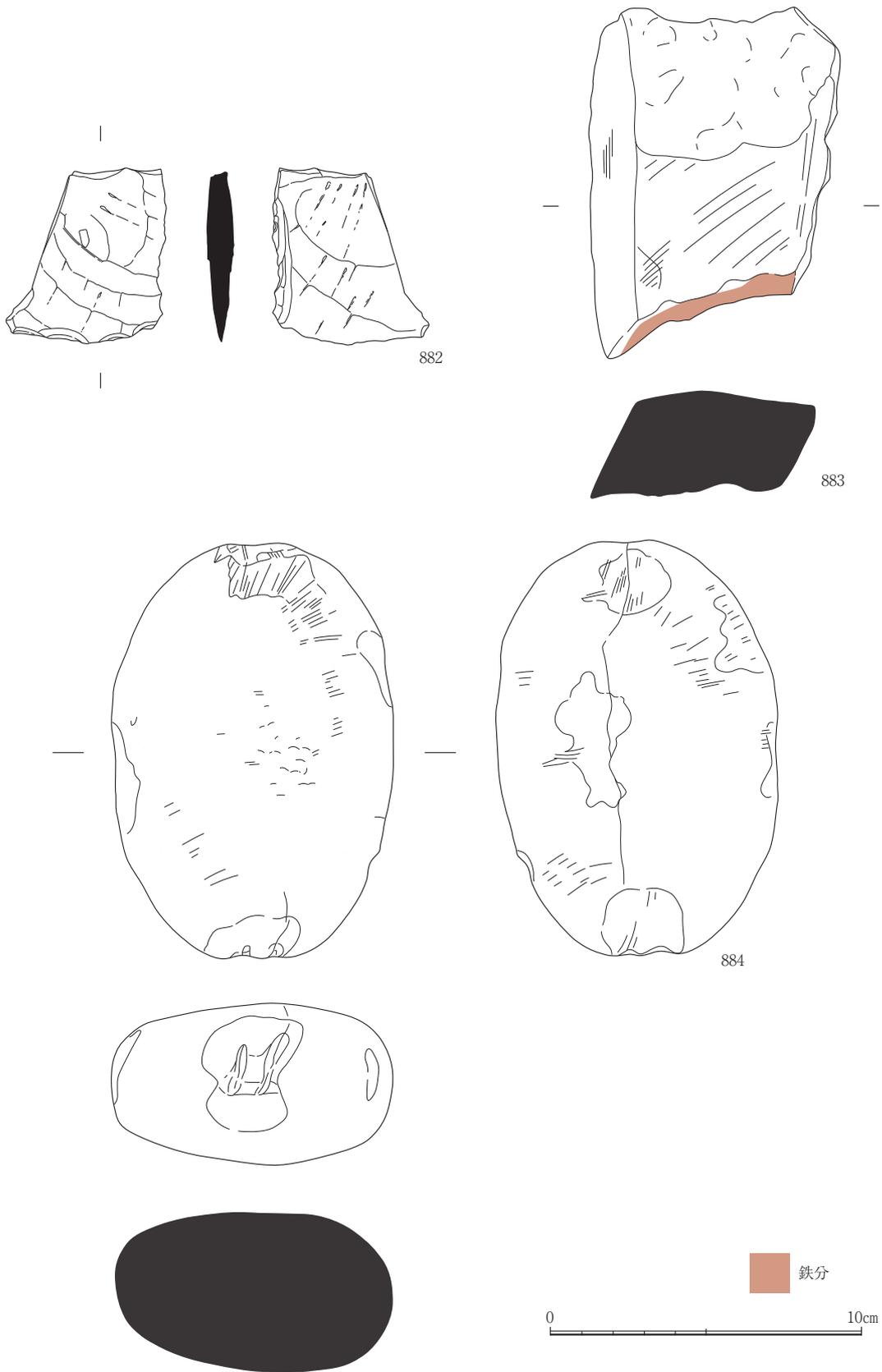


图 177 包含層出土遺物実測図（石器 3）

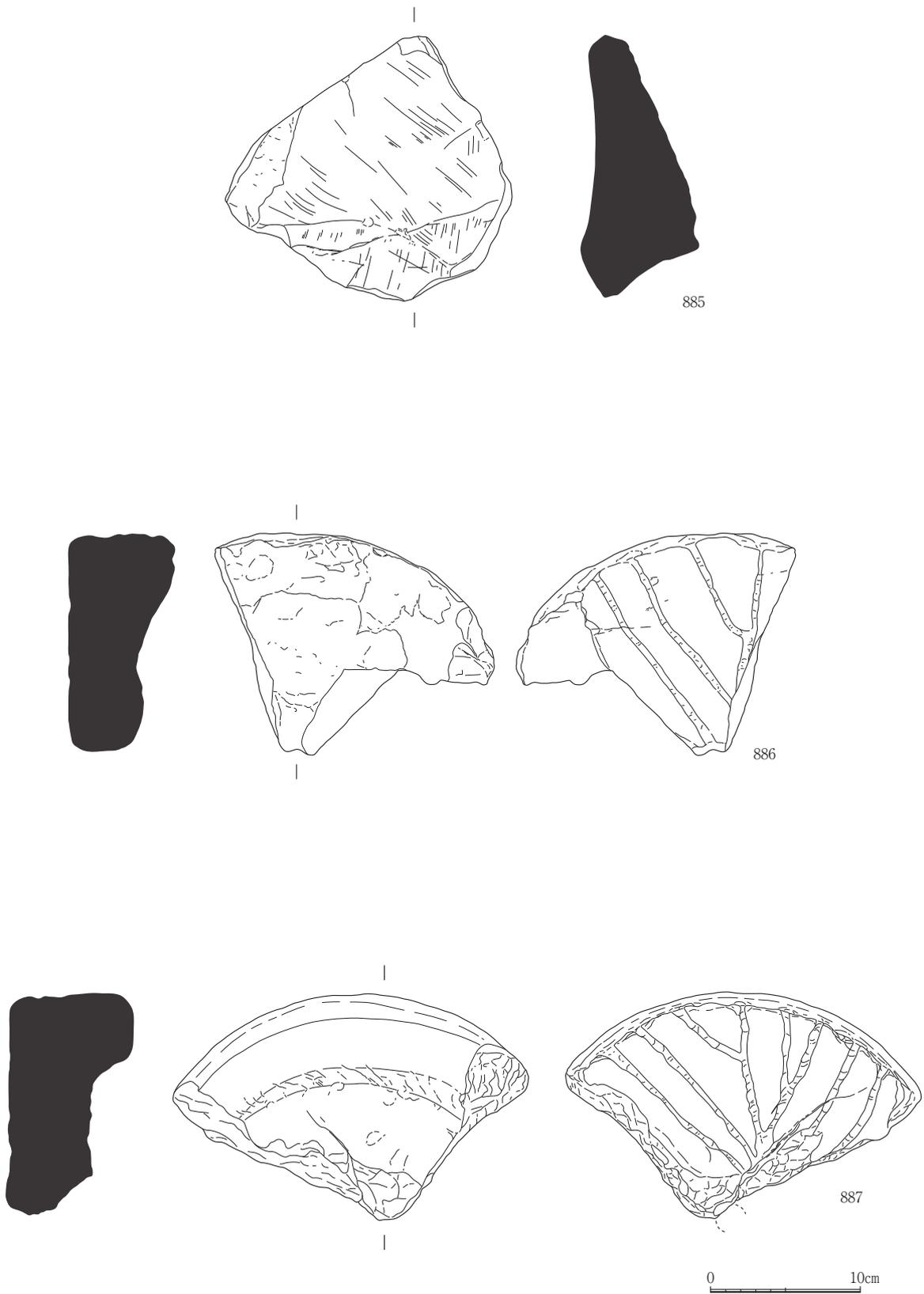


图 178 包含層出土遺物実測図（石器 4）

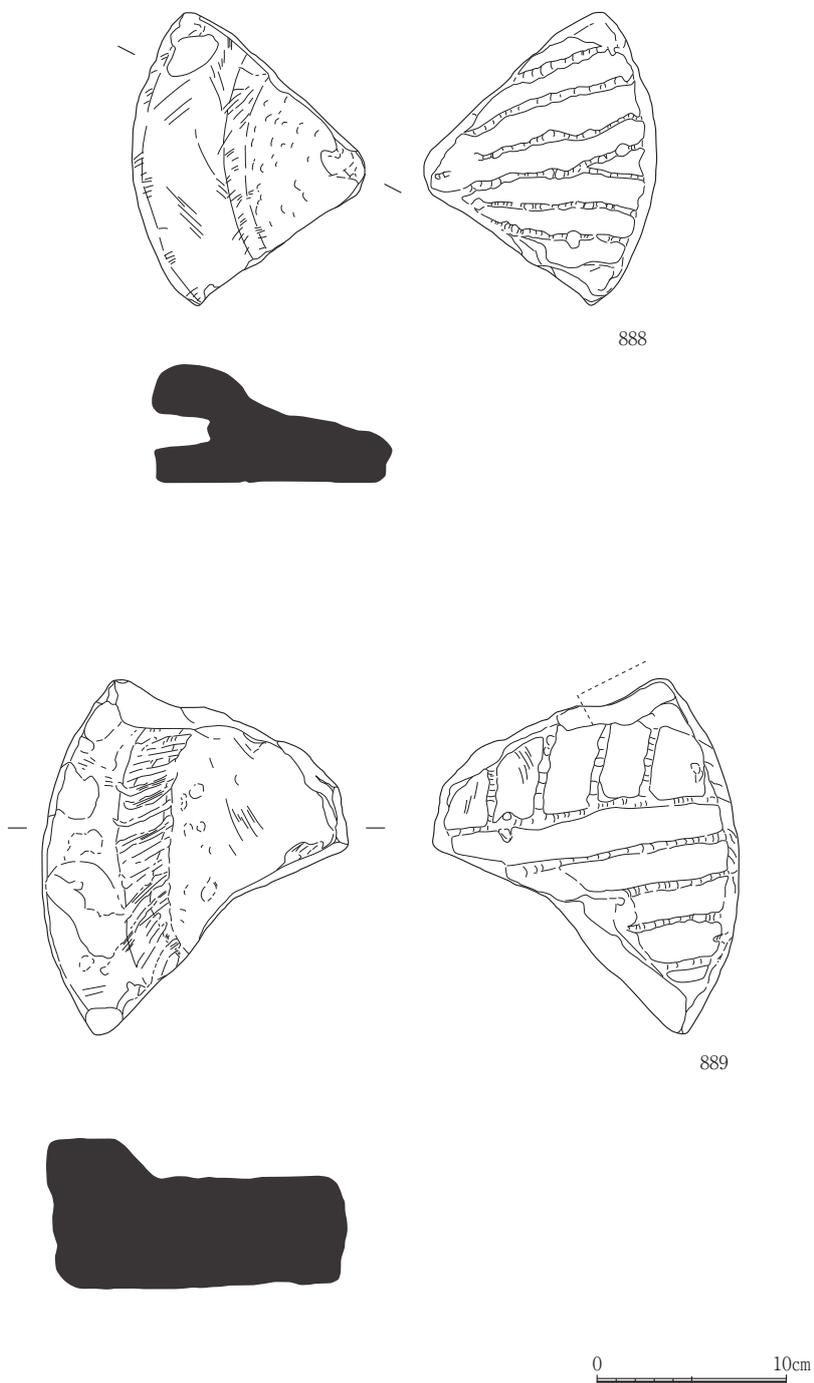


图 179 包含層出土遺物実測図（石器 5）

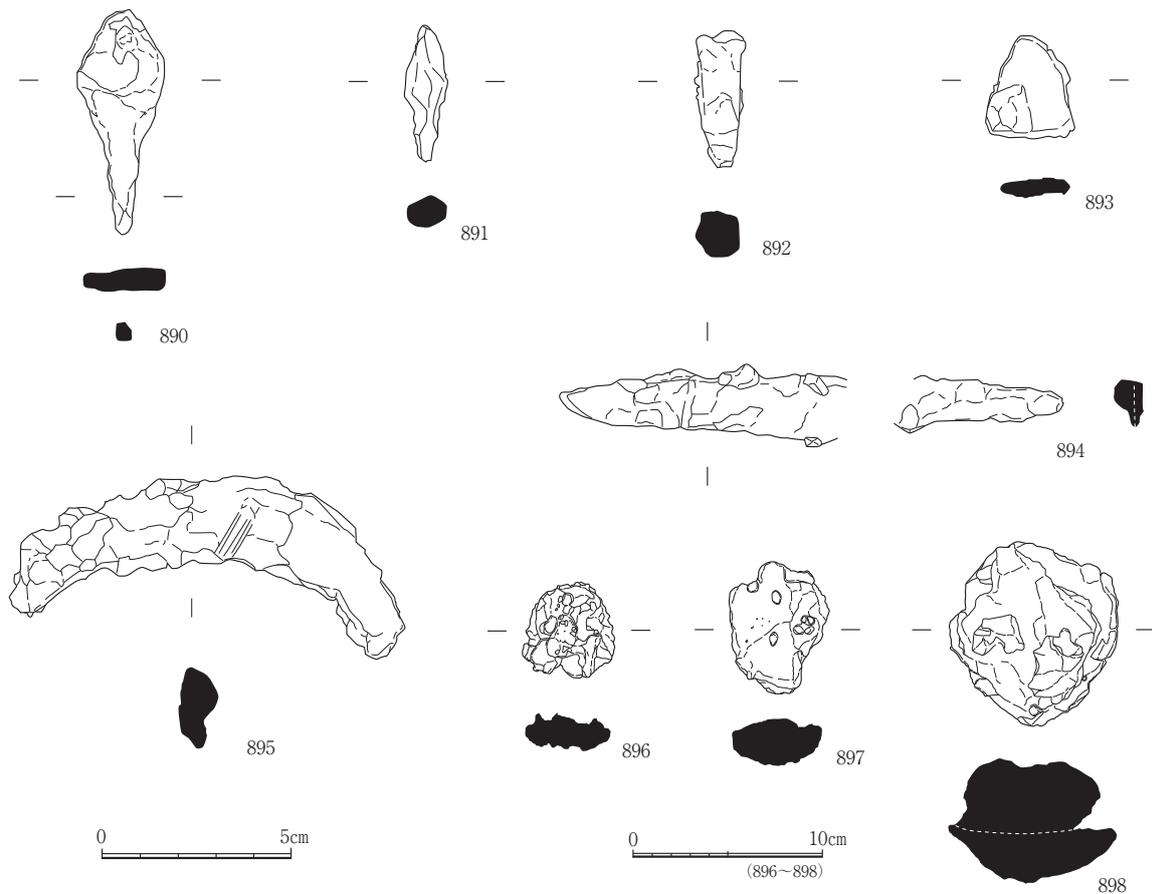


図 180 包含層出土遺物実測図（鉄器類）

図示した出土遺物は、弥生土器の甕、鉢、鉄器である。783は弥生土器の法量のやや大きな甕である。体部の中位付近に最大径を持ち、口縁部は「く」の字状に外反する。底部は角のとれた平底である。外面は叩き成形後、ハケメ調整を施す。ハケメ調整は比較的丁寧に施されている。784～786は鉢である。784は口径が小さく、深い。内外面ともハケメ調整を施す。785口径が大きく、やや浅めである。内面はハケメ調整を施す。786の口縁部は大きく外反する。787・788は棒状を呈した鉄器である。

SX16

5cm掘削し精査した結果、SX17とST24を検出した。

SX17

谷状地形にアカホヤ等が二次的に堆積したものである。

SX18

IV区東部に位置する。平面形は不整長楕円形を呈する。規模は長軸約2.4m、短軸約0.7m、検出面からの深さは約0.2mを測る。埋土は黒色(10YR2/1)シルトである。

SX20

SX20・21は検出時一連のものとして調査を進めていたが、便宜上Gグリッドラインより西をSX20とする。約10cm掘削し精査した結果、ST28、ST29を検出した。

SX21

SX20・21は検出時には一連のものとして調査を進めていたが、便宜上Gグリッドラインより東をSX21として分けた。

789は弥生土器の壺である。一次口縁部は大きく外反し、二次口縁部がやや内傾気味に付く。口唇部には半裁竹管状の刺突文を施す。二次口縁部外面には、口唇部と同様の半裁竹管状の刺突文と鋸歯文を施す。一次口縁部の内面はハケメ調整後、ミガキ調整を施す。残存部から復原すると、頸部径はかなり細くなる。790は砂岩の叩き石である。

SX22

IV区西部南端(SD31より南)で黒褐色土を掘削し、ST31とSD35を出した。

SX23

V区中央部に位置する。不整形な円形である。10cm大の礫を多く含み、石垣状に組んだものが倒壊したものと思われる。全体がシミ状にひろがっており、グライ化したものの可能性が高い。

791は壺である。口唇部を拡張させ、面取りを施す。792・793は甕である。794～796は鉢である。795・796の底部は突出する。798は頁岩の打製石包丁である。身部は厚く、刃部は明瞭ではない。挟りも明瞭ではないが、紐かけによる磨滅痕跡をわずかではあるが確認できたので、石包丁とした。

SX24

II区中央北部が不明瞭で遺構検出が困難であったため、約20cm掘削してST11が検出できた。

799は壺である。頸部と体部の境目に突帯を貼付する。突帯には刺突文を施す。800～802は甕である。800は庄内式の甕であり、口縁端部を摘み上げる。河内地域からの搬入品である。802は球形の体部に「く」の字状の口縁部が付く。801は吉備型の甕である。口頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は直立し端部を外方へ摘み出す。口縁部外面には櫛描きの沈線文を施す。外面はハケメ調整を施す。内面肩部には指頭圧痕が認められる。吉備地域からの搬入品である。

(8)包含層

803～810は弥生土器の壺である。803～806は素口縁壺である。803・804の口縁部は短くあまりひらかない。口唇部には面取りを行う。804の外面には竹管文と波状文を施す。805の口縁部は大きくひらき、端部を下方に引き出す。口唇部に鋸歯文を施す。806の口唇部は面取りし、竹管文を施す。807は口唇部に貼付する粘土帯であり、接合面から剥離している。外面には波状文、円形の刺突文を施す。808・810は複合口縁壺である。808は内傾し、端部は凹面状を呈する。外面には櫛描文を施す。810は頸部と体部の境目に斜格子刻みの突帯を貼付する。一次口縁は大きく外反し、端部よりも内側から二次口縁が外上方にのびる。一次口縁部は突帯状を呈する。809は頸部の破片である。頸部と体部の境目に突帯を貼付、突帯を挟んだ上下に刺突文を巡らせる。811～815は弥生土器の甕である。811は小形に属する。812の口頸部の屈曲度合は弱い。813は丸みを帯びた長胴部に口唇部は短く外反する。816～818は弥生土器の鉢である。816・817は半球形の体部を持つ。818の体部は直線的に外上方へのびる。口縁部の作りは雑であり、折り曲げたり、波打つ。819は甕の底部であり、搬入品である。820は高杯の脚部である。脚柱部はほとんどなく、裾部は「ハ」の字状にひらく。裾部に円孔を穿つ。821は器台あるいは壺の口縁部と考えられる。端部付近で屈曲し、口唇部を下方に拡張する。外面に

は鋸歯文を配置し、口縁部の上端と下端に刻み目を施す。822は器台の口縁部と考えられる。口唇部は拡張し、凹線文を施す。外面には円形浮文を上下に貼付する。823は脚部である。短い脚柱部から裾部が大きくひろがる。824は弥生土器の体部片である。内面にベンガラが付着している。825はミニチュア土器である。円柱状を呈し、上面と下面の端部をそれぞれ外方にひろげる。826は土製紡錘車である。円盤状を呈し、側面は比較的丁寧に面取りされている。外面にはミガキ調整を施し、丁寧な作りである。827は土師器の蓋の摘みである。扁平な擬宝珠を呈する。828は土師器の把手である。ミガキ調整を施し、赤彩されていることから壺の把手と考えられる。829～833は土師器の皿あるいは杯である。829は皿あるいは杯の口縁部である。口唇部をわずかにつまみ上げる。内外面ともミガキ調整が施され、赤彩される。830～832は皿である。内外面とも回転ナデ調整を施す。底部外面にはヘラ切り痕跡が認められる。831には煤が付着する。832の口縁部内面には凹線状に凹む。833は高台付きの皿である。内外面とも回転ナデ調整を施す。834～838は土師器の杯である。全体的に摩耗している。内外面とも回転ナデ調整を施す。底部外面にはヘラ切り痕跡が認められる。838には煤が付着する。839・840は土師器の甕である。839の口縁部は緩やかに外反し、端部を水平につまみ出す。上面は平坦面となる。内外面ともナデ調整を施す。胎土に火山ガラス片を少量含む。840は球形の体部から口縁部が短く、外反する。外面はハケメ調整を施す。内面は頸部付近までケズリ調整を施す。842は土師器の高杯である。浅い皿状の杯部、中実の脚柱部から器壁の厚い裾部が「ハ」の字状にひろがる。外面及び杯部内面にはケズリ調整を施す。ほぼ完形である。843は土師器の皿あるいは杯の底部である。全体的に摩耗している。外面には「日」という刻書が認められる。844～846は土師器の甌である。844は口縁部であり、端部をわずかに外反させる。内面にはケズリ調整を施す。845は把手である。846は底部である。847は黒色土器の椀である。内黒である。高台は細めである。外面はケズリ調整およびナデ調整である。内面はヘラミガキ調整を施す。外底面はヘラ切り後、ナデ調整を施す。また、内面には何重にも楕円形状に使用痕跡が認められる。848は製塩土器である。内面には布目の圧痕が認められる。849は土師質土器の杯である。内外面ともロクロナデ調整を施す。外底面には糸切りの痕跡が認められる。850・851は須恵器の蓋である。851は天井部から口縁部はわずかにひらきながら下がり、口縁端部を外反させる。内外面とも回転ナデ調整を施す。天井部付近にケズリ状の痕跡が認められる。851は丸みを持った天井部から口縁部はわずかに屈曲してひろがる。口縁端部付近には一条の沈線がめぐる。内外面とも回転ナデ調整を施す。852～855は須恵器の杯身である。852の受け部は短く水平にのび、立ち上がりは内湾し、端部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面にはヘラ切り痕跡が明瞭に残る。853の受け部は短く水平にのび、立ち上がりは内湾し、端部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。全体的にシャープな作りである。854の杯部はやや深めである。受け部、立ち上がりとも器壁は厚くシャープさに欠ける。外底面は回転ヘラケズリ調整を施す。外面体部、内面には回転ナデ調整を施す。焼成不良であり、全体的に摩耗する。855の底部から外反するように体部はひろがり受け部へと続く。立ち上がりは短くわずかに内傾する。底部外面は回転ケズリ調整を施す。体部外面から内面にかけては回転ナデ調整を施す。856は須恵器の甌である。外面は格子目叩き後、ナデ調整を施す。内面は当て具痕跡がわずかに残る程度であり、丁寧にナデ消されている。857は須恵器の甕である。口縁部からやや下がった位置に断面三角形の突帯が付く。口唇部には面取りを施し、外方に肥厚させる。外面には波状文を二条施す。858は須恵器の蓋である。天井部は平らであり、口縁部は直線的に下がり、端部は面取りを施す。外面は回転ケズリ調整・

回転ナデ調整を施す。内面は回転ナデ調整である。859～861は須恵器の蓋である。859は扁平な擬宝珠様のつまみをつける。861の内面にはベンガラが付着する。862～864は須恵器の高台付き杯である。862の外底面にはベンガラが付着する。863の体部は若干丸みを持ち、立ちあがる。865は須恵器の皿である。平らな底部から口縁部が直線的に立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施す。866は須恵器高杯の脚部である。長方形の透孔を四方向に穿つ。867は高台付き壺である。器壁の厚い丈夫な高台が付く。868は須恵器の壺である。胴部中位に最大径を持ち、全体的に丸みを持つ。外面は回転ケズリ調整・回転ナデ調整を施す。内面は回転ナデ調整である。869はサヌカイトの打製石鏃である。縁辺部のみ微細剥離調整を施す。870は石錘と考えられる。紐かけのための抉りを片方のみに入れる。もう一方は敲打による抉りはないが、若干凹む程度である。871は穿孔具である。細長い棒状の自然石を利用する。先端部が回転運動による細くなっている。磨製石包丁の穿孔に使用されていたと推測される。872～881は打製石包丁である。片刃であり、両端に紐かけのための抉りを入れる。882はサヌカイトの刃器である。883・885は砂岩の砥石である。883には鉄分の付着が認められる。884は叩き石であり、両先端部を中心に使用痕跡が認められる。886～889は石臼である。890は圭頭式の鉄鏃である。891は棒状を呈した鉄器である。断面形は半裁竹管状か。892は鉤の基部と考えられる。893は三角形を呈する。894は鉄製の刀子である。895は湾曲しており、小形の鉄鎌か。896～898は椀形鍛冶滓である。

第Ⅳ章 まとめ

調査成果でも述べたように、弥生時代中期末～古墳時代前期、古墳時代後期、古代、中世、近世の遺構を検出した。ここでは時期毎にその概要および周辺の調査成果を合わせ、述べてみたい。調査区、遺構名だけを記している場合は伏原遺跡Ⅱの調査区、遺構である。

1. 弥生時代中期末(Ⅳ期)～弥生後期後半(V-4期)

弥生時代中期末～後期初頭では、ST17,SK108,SD27が該当する。遺構の分布はⅢ区とⅣ区に偏在する傾向がみられるが、遺物についてはⅠ区、Ⅱ区、Ⅴ区でもみることができる。また、『伏原遺跡Ⅰ』のST3も当該期の竪穴住居跡であり⁽¹⁾、『伏原遺跡Ⅱ』で検出した遺構群とはやや離れて分布していることには注意する必要がある。遺構密度、遺物量ともに少なく、小規模な集落が営まれていたと推測できる。周辺部も含め、検出された弥生時代の遺構では最も古い段階に属し、当該期から本格的な開発が行われたと考えられる。ST17の中央ピット埋土から水洗別、検出された炭化材は同定の結果、マツ属複雑管束亜属、コナラ属クヌギ節、広葉樹であったことが報告されている⁽²⁾。前二者は二次林の構成種であり、すでにST17の段階である程度の開発が周辺で行われていたことを示唆する。

弥生時代後期前半ではST21、P34が該当し、後期中葉～後半ではST23、ST27、ST32が該当する。各小期では、竪穴住居跡は1棟程度であり、前段階と変化はあまりない。P34がⅠ区にある以外は、Ⅲ・Ⅳ区が中心であることも前段階と変わらない。



図 181 弥生集落概念図

以上のように、弥生時代中期末から弥生後期中葉までは、小規模な集落が継続的に営まれてきた。周辺の遺跡をみても、中期末では稲荷前遺跡で竪穴住居跡が1棟検出されている⁽³⁾。伏原遺跡と同様に小規模な集落跡と推測される。ただ、稲荷前遺跡は中期末以降、古代まで遺構はみられない点は伏原遺跡とは異なる。後期中葉になると隣接しているひびのき遺跡⁽⁴⁾、物部川を挟んだ対岸の林田遺跡⁽⁵⁾でも竪穴住居跡が確認されるようになる。周辺に集落が増加することは一つの画期として捉えることができるが、伏原遺跡内では上述のように大きな変化はみられない。

2. 弥生時代後期後半 (V -5) ～古墳時代初頭(古式土師器 I)

伏原遺跡が最盛期を迎える時期であり、『伏原遺跡 I』⁽⁶⁾の調査区を含めて検出遺構は全調査区にわたる。居住域の拡大期ととらえることができる。当該期は高知平野においては、集落数、竪穴住居数も増加する時期であり、当遺跡の事象も大きくは高知平野全体の動向のなかに位置づけることができる。I～IV区では竪穴住居跡(ST1, ST2, ST7～9, ST11, ST13, ST15, ST16, ST19, ST20, ST24, ST26, ST28, ST29, ST30, ST31), V区では土器棺群を検出した。

竪穴住居跡の平面形態、重複を含む配置関係、出土土器から2～3小期に区分できる。大型住居(ST1・ST7)とそれぞれの周辺にある中規模の円形の住居跡あるいは隅丸方形の住居跡が群を構成していると考えられ、2グループ程度が存在していたと推測される。ST1は張り出し部を有する住居跡であり、ST7もその可能性がある。ST1では不明瞭であるが、ST7ではST10等がグループの候補となる。次の段階では竪穴住居跡の主体は隅丸方形のものとなり、ST2, ST8, ST16が集落を構成すると考えられる。

土器棺群は土器の大きさからすべて乳幼児のものと考えられ、成人を葬ったものは今次調査でも確認されていない。ひびのき遺跡において、成人用の土坑墓が竪穴住居跡に近接して4基検出されている⁽⁷⁾。ひびのきサウジ遺跡では居住域の中に乳幼児の墓域が存在していたが⁽⁸⁾、伏原遺跡の場合は土器棺群の周辺からは同時期の竪穴住居跡は検出されていない。地理的にも、時期的にも近接する集落跡でありながら、乳幼児の墓域のありかたにおいて異なった状況を示している。

出土した多くの石包丁や竪穴住居跡の中央ピット埋土からイネ科の胚乳と穎(果)の破片が得られたことから⁽⁹⁾、稲作を行っていたと推測される。第I章でも述べたように、遺跡北側の崖下と北の山塊の間には土生川が流れており、この周辺を水田の候補地の一つとしてあげておきたい。

また、庄内式甕、讃岐地域の土器、東阿波型土器、吉備型甕、その他の地域の搬入土器が出土している。これら搬入土器の出土量は少なく、在地産の土器に占める割合は極めて少ない。同時期のほとんどすべての遺跡で量の多寡はあるものの搬入土器は出土する。ただし、複数地域のもものが出土する遺跡は限定される。居徳遺跡群⁽¹⁰⁾、西分増井遺跡群⁽¹¹⁾、小籠遺跡⁽¹²⁾等をあげることができる。それぞれの遺跡は地域を代表する遺跡であり、伏原遺跡についても同様である。

土器の胎土分析では、同時期のミトロ遺跡(高知市)と介良野遺跡(高知市)の分析結果と比較し、ミトロ遺跡とは類似するが、介良野遺跡のものとは異なるという結果だった⁽¹³⁾。経験的あるいは感覚的に土器は各集落で製作されているだろうとは考えていたが、分析結果でもそのことが証明された。付編3の第2図～第4図で、伏原遺跡・ミトロ遺跡の分布範囲と介良野遺跡の分布範囲にお互いの土器が入り込んでいることは、両遺跡で製作された土器が他方の遺跡で廃棄されたことを示しているのだろうか。考古学的には両者を峻別することは難しく、各集落間の人の動き、モノの動きを復原で

きる手掛かりになりそうである。高知県では土器の胎土分析はほとんど行われていない。今後、分析資料が増加すれば、土器生産と消費について検討することができるようになる。

竪穴住居跡の分布をみると、『伏原遺跡Ⅰ』と『伏原遺跡Ⅱ』を一つのグループ、ひびのき遺跡とひびのきサウジ遺跡を一つのグループに区分できる。伏原遺跡ⅠとⅡのグループの居住域は直径約200mの規模を持つ。一方、ひびのき遺跡とひびのきサウジ遺跡のグループについても、直径約200mの居住域を想定できる。両者の間は約200m離れており、この二つの集団は有機的な関係を有し、さらに大きな集落を形成していたと推測される。

3. 古墳時代前期(古式土師器Ⅱ期)

ST18が該当し、前段階に比べ急速に遺構数は減少する。

4. 古墳時代後期(6世紀末～7世紀前半)

ST3, ST12, ST14が該当し、分布はⅠ区とⅡ区に限定される。平面形は方形、長方形を呈し、カマドを持つようになる。削平を考慮しなければならないが、他の時期に比べ検出面から床面までの深さは浅い。これらの他に、SK77等竪穴住居跡の可能性のある遺構が存在していることから竪穴住居跡の数は増えるものと考えられる。

高知県の場合、カマドは北壁に設置されることが圧倒的に多い。上記の三住居跡においても、北壁付近で焼土等を検出したが、カマドを構築していた石等は無く、判然としなかった。

特筆すべき出土遺物に、滑石製の紡錘車、耳環等がある。

第Ⅰ章でも述べたが、周辺には伏原大塚古墳を始め⁽⁴⁾、多くの後期古墳が築造される。伏原大塚古墳は規模、副葬品等から「盟主的な」と位置づけられている⁽⁵⁾。台地の縁辺部に立地しており、眺望が非常に良く、物部川が平野部へと流れ出る地点にあること等、重要な位置に存在する。伏原大塚古墳の存在は古墳時代後期の伏原遺跡の位置づけには欠かせない。

5. 古代

Ⅰ区を中心に遺構および遺物が分布する。遺構では柱穴列に復原できる柱穴等を検出した。○-P251-P298-P281, ○-P209-○, P19-P20-P38-P40, P22-P21-P23, P23-P37-P39, ST3-SK1-P175-P145-P28, ST5-P2-P140-P130, P58-SK19-P74, P58-P63, P74-P102をあげることができる。ピットの平面形は不整形円形を呈するものが多い。本来は掘立柱建物を構成すると考えられる。

出土遺物は、須恵器、土師器、緑釉陶器、椀状鍛冶滓等が出土しており、多くは8世紀後半～10世紀代に属する。「日」と刻書された土師器、ベンガラが付着した須恵器が出土している。蓋の内面、底部外面に付着していることから、パレット的な使用法が推測される。土師器の生産に関連していた可能性がある。また、椀状鍛冶滓は包含層や混入品として検出しているため時期を確定できないが、出土地点の状況からその多くは古代に属すると推測する。分析の結果、すべて鍛錬鍛冶滓であった⁽⁶⁾。

6. 近世

近世ではいわゆるハンダ土坑を主として検出した。Ⅰ区～Ⅴ区まで全調査区で検出した。複数の

ものが一組となる。例えば、SK1とSK2、SK3とSK4等をあげることができる。規模、平面形態、作り方により分類が可能である。SK40、SK49、SK52、SK55等、砥石が出土するハンダ土坑が複数見らる。分布域も限定され、意図的に遺棄されたものだろうか。

7.まとめ

以上、主な時期毎に述べてきた。縄文時代に属する可能性があるチャートの石核、弥生時代中期中葉の壺の胴部片が出土しているが、遺構が確認できるのは弥生時代中期末からである。また、中世に属する明確な遺構はないが、青磁、土師質土器等が出土している。

伏原遺跡の弥生集落においては、継続期間、竪穴住居数、複数地域からの搬入土器等から拠点的な集落の一つであると考えられる。最盛期を迎える弥生時代終末期～古墳時代初頭には、大規模な集落を形成していたものと推測される。遺跡の最盛期の時期、古墳時代中期が空白期となり後期になり再び竪穴住居跡が営まれるようになること等は高知平野の集落動向と類似する。その一方で、伏原遺跡の消長は、今まで把握されてきた集落遺跡の消長パターンとは異なり、様々なパターンが存在していたと考えられる。

註

- (1) 『伏原遺跡Ⅰ』2010(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
- (2) 本書付編1参照
- (3) 『稲荷前遺跡発掘調査報告書』1990 土佐山田町教育委員会
- (4) 『高知県ひびのき遺跡』1977 高知県土佐山田町教育委員会
- (5) 『林田遺跡発掘調査報告書』1985 土佐山田町教育委員会
『林田遺跡』Ⅰ～Ⅲ 2002～2005(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
- (6) 前掲註(1)
- (7) 前掲註(4)
- (8) 『ひびのきサウジ遺跡』1990 高知県土佐山田町教育委員会
- (9) 前掲註(2)
- (10) 『居徳遺跡群』Ⅰ～Ⅵ 2001～2004(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
- (11) 『西分増井遺跡』1990 高知県春野町教育委員会
『西分増井遺跡』Ⅰ・Ⅱ 2004(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
- (12) 『小籠遺跡』Ⅰ～Ⅲ 1995～1997(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
- (13) 本書付編3参照
- (14) 1993 『伏原大塚古墳』高知県土佐山田町教育委員会
- (15) 清家 章 2008 「第四章 考察：土佐山田における古墳築造と大元神社古墳」
『大元神社古墳発掘調査報告書 -総括編-』高知大学人文学部考古学研究室
- (16) 本書付編2参照

遺構一覽表

ST

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模 (m)	バッド高	時期	備考	
ST1	I 区	V4・V5・V6 他	隅丸方形	48.4	8.1 × 7.7 × 0.2	0.1	弥生時代後期末～ 古墳時代初頭		
ST1-中央P		W4・W5・X4 他	不整円形	48.1	1.4 × 1.6 × 0.1				
ST1-P1		X5	円形	48.2	0.3 × 0.3 × 0.2				
ST1-P2		X5	円形	48.2	0.3 × 0.3 × 0.3				
ST1-P3		X5	円形	48.1	0.2 × 0.2 × 0.2				
ST1-P4		W5	楕円形	48.1	0.3 × 0.4 × 0.2				
ST1-P5		X5	円形	48.1	0.4 × 0.4 × 0.2				
ST1-P6		X5	円形	48.1	0.3 × 0.3 × 0.2				
ST1-P7		X4	楕円形	48.2	0.4 × 0.6 × 0.3				
ST1-P8		X4	不整楕円形	48.1	0.4 × 0.6 × 0.3				
ST1-P9		W4	円形	48.1	0.3 × 0.3 × 0.3				
ST1-P10		W3・W4	円形	48.2	0.3 × 0.4 × 0.2				
ST1-P11		W4	円形	48.2	0.5 × 0.5 × 0.2				
ST1-P12		—	—	—	—				欠番
ST1-P13		W4	円形	48.1	0.5 × 0.4 × 0.2				
ST1-P14		W4・V4	楕円形	48.2	0.4 × 0.3 × 0.3				
ST1-P15		W4	不整楕円形	48.1	0.5 × 0.3 × 0.3				
ST1-P16		W4	円形	48.1	0.4 × 0.4 × 0.1				
ST1-P17		—	—	—	—				欠番
ST1-P18		—	—	—	—				欠番
ST1-P19		—	—	—	—				欠番
ST1-P20		X5	不整形	48.2	0.5 × 0.3 × 0.2				
ST1-P21		W5	不整楕円形	48.1	0.5 × 0.3 × 0.3				
ST1-P22		W5	円形	48.1	0.3 × 0.3 × 0.1				
ST1-SK1		W5・X5	円形	48.2	0.6 × 0.6 × 0.4				
ST1-SD1		X4・X5	—	48.1	0.2 × 4.2 × 0.05				
ST1-SD2		W4・X4	—	48.1	0.4 × 4.5 × 0.05				
ST1-SD3		W4・X4	—	48.1	0.2 × 1.9 × 0.07				
ST2	I 区	Z3・Z4・Z5 他	隅丸方形	48.4	6.2 以上 × 4.1 以上 × 0.4	0.2	弥生時代後期末～ 古墳時代初頭		
ST2-P1		Z4	円形	48.0	0.2 × 0.3 × 0.4				
ST2-P2		Z4	不整円形	48.2	0.4 × 0.3 × 0.1				
ST2-P3		Z5	不整形	48.1	0.3 × 0.3 以上 × 0.1				
ST2-P4		Z5	楕円形	48.0	0.4 × 0.6 × 0.1				
ST2-P5		Z4	楕円形	48.1	0.5 × 0.3 × 0.4				
ST2-P6		Z4	不整円形	47.9	0.2 × 0.2 × 0.2				
ST2-P7		Z5・A5	不整楕円形	48.0	0.4 × 0.6 × 0.2				
ST2-SK1		Z5・A5	不整形	48.0	0.7 × 0.3 × 0.1				
ST2-SK2		Z5	円形	48.0	0.5 × 0.4 × 0.1				
ST2-SK3		Z5	円形	48.2	0.6 × 0.6 × 0.3				
ST2-SD1		Z4・A4	—	48.0	0.5 × 0.2 × 0.1				
ST2-SD2		Z4	—	48.0	3.4 × 0.2 × 0.1				
ST2-SD3		Z4	—	48.1	3.1 × 0.2 × 0.05				
ST3	I 区	X6・Y6	隅丸方形	48.3	3.6 以上 × 5.2 × 0.1			無し	古墳時代後期
ST3-SK1		X6・Y6	隅丸方形	48.2	0.6 × 0.6 × 0.3				
ST4		—	—	—	—	—		欠番	
ST5	I 区		隅丸方形	48.5	6.4 × 6.4 × 0.1	無し	弥生時代後期末～ 古墳時代初頭		
ST5-P1		D4	円形	48.3	0.4 × 0.4 × 0.2				
ST5-P2		D4	不整楕円形	48.3	0.7 × 0.5 × 0.2				
ST5-P3		D4	不整円形	48.3	0.3 × 0.3 × 0.07				
ST5-P4		E4	不整楕円形	48.4	0.7 × 0.8 × 0.3				
ST5-P5		E4	円形	48.3	0.2 × 0.2 × 0.2				
ST5-P6		E4	不整円形	48.3	0.4 × 0.4 × 0.1				
ST5-P7		D4	円形	48.2	0.2 × 0.2 × 0.2				
ST5-P8		D4	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.2				
ST5-P9		D4	楕円形	48.3	0.2 × 0.1 × 0.1				
ST5-SD1			—	48.3	— × 0.2 × 0.1				
ST6	I 区		隅丸方形	48.5	5.4 × 5.4 × 0.3	無し	弥生時代後期末～ 古墳時代初頭		
ST6-P1		E5	不整円形	48.2	0.3 × 0.3 × 0.2				
ST6-P2		E5	円形	48.1	0.3 × 0.2 × 0.3				
ST6-P3		E5	円形	48.2	0.2 × 0.3 × 0.3				
ST6-P4		E5	不整円形	48.2	0.5 × 0.5 × 0.1				
ST6-P5		E5	不整円形	48.2	0.3 × 0.3 × 0.2				
ST6-P6		E5	円形	48.2	0.2 × 0.2 × 0.1				
ST6-P7		E5	不整形	48.2	0.3 × 0.6 × 0.1				
ST6-P8		E5	不整楕円形	48.2	0.7 × 0.4 × 0.1				
ST6-P9		D5	円形	48.2	0.2 × 0.2 × 0.1				
ST6-P10		D5	円形	48.2	0.3 × 0.3 × 0.1				
ST6-P11		D5	不整円形	48.2	0.5 × 0.5 × 0.3				
ST6-P12		D5	円形	48.2	0.3 × 0.3 × 0.2				
ST6-P13		D5	円形	48.2	0.1 × 0.1 × 0.07				
ST6-P14		D5	楕円形	48.2	0.1 × 0.1 × 0.07				
ST6-P15		D5	不整円形	48.2	0.3 × 0.4 × 0.2				
ST6-P16		D5	円形	48.1	0.2 × 0.2 × 0.3				

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模 (m)	ベッド高	時期	備考
ST6-P17	I 区	D5	円形	48.2	0.4 × 0.4 × 0.1			
ST6-P18		D4	不整円形	48.2	0.6 × 0.6 × 0.2			
ST6-P19		D4	楕円形	48.2	0.3 × 0.6 × 0.06			
ST6-P20		D4	不整円形	48.2	0.4 × 0.3 × 0.2			
ST6-P21		D4	不整形	48.2	0.3 以上 × 0.2 × 0.08			
ST6-P22		D5	不整形	48.3	0.2 以上 × 0.1 × 0.1			
ST6-P23		E5	円形	48.1	0.3 × 0.3 × 0.1			
ST6-P24		E5	円形	48.0	0.1 × 0.1 × 0.08			
ST6-P25		—	—	—	—			欠番
ST6-P26		E4	円形	48.1	0.2 × 0.2 × 0.2			
ST6-P27		E4	円形	48.2	0.2 × 0.2 × 0.2			
ST6-P28		D5	不整楕円形	48.1	0.6 × 0.7 × 0.2			
ST6-P29		D5	不整円形	48.1	0.6 × 0.3 以上 × 0.1			
ST6-P30		—	—	—	—			欠番
ST6-P31		E5	楕円形	48.0	0.7 × 0.4 × 0.1			
ST6-P32		—	—	—	—			欠番
ST6-P33		—	—	—	—			欠番
ST6-P34		—	—	—	—			欠番
ST6-P35		E5	円形	48.3	0.1 × 0.1 × 0.1			
ST6-P36		D5	不整形	48.2	0.2 × 0.2 以上 × 0.06			
ST6-P37		D5	不整円形	48.2	0.4 × 0.4 × 0.1			
ST6-P38		D4・D5	円形	48.2	0.3 × 0.3 × 0.1			
ST6-SK1		E5	不整長楕円形	48.2	2.0 × 0.7 × 0.1			
ST6-SD1		—	—	—	—			
ST6-SD2		—	—	—	—			
ST7	I・II区	D6・D7・E6 他	円形	48.3	9.3 × 8.8 × 0.3	0.1	弥生時代後期末～ 古墳時代初頭	
ST7-中央P		E7	不整円形	47.9	0.9 × 0.9 × 0.1			
ST7-P1		F7	円形	48.0	0.3 × 0.3 × 0.2			
ST7-P2		F8	円形	48.2	0.5 × 0.5 × 0.3			
ST7-P3		F6	円形	48.0	0.3 × 0.3 × 0.3			
ST7-P4		F7	不整円形	48.0	0.5 × 0.5 × 0.1			
ST7-P5		F7	円形	48.0	0.4 × 0.3 × 0.2			
ST7-P6		F7	円形	48.0	0.4 × 0.4 × 0.1			
ST7-P7		E7	円形	48.1	0.1 × 0.1 × 0.2			
ST7-P8		F6	円形	48.0	0.5 × 0.5 × 0.2			
ST7-P9		F7	不整円形	48.0	0.3 × 0.3 × 0.1			
ST7-P10		E7	円形	48.0	0.2 × 0.2 × 0.1			
ST7-P11		E6	不整円形	48.0	0.3 × 0.3 × 0.2			
ST7-P12		D6	円形	48.0	0.3 × 0.3 × 0.3			
ST7-P13		D7	楕円形	48.0	0.3 × 0.2 × 0.1			
ST7-P14		E7	円形	48.0	0.3 × 0.3 × 0.3			
ST7-P15		E7・F7	楕円形	47.9	0.3 × 0.2 × 0.2			
ST7-P16		F7	円形	48.0	0.3 × 0.3 × 0.2			
ST7-P17		F6	不整円形	48.1	0.2 × 0.2 × 0.1			
ST7-SK1		E6・E7・F6	不整形	48.0	1.0 × 0.8 × 0.07			
ST7-SK2		D7・E7	楕円形	48.1	0.4 × 0.7 × 0.3			
ST7-SD1		D6・D7・E6 他	—	48.0	0.3 × 1.8 × 0.05			
ST7-SD2		E8・F8	—	48.2	0.3 × 1.8 × 0.05			
ST8	II区	G7・G8・H6 他	隅丸方形	48.4	5.6 × 3.9 以上 × 0.4	0.1	弥生時代後期末～ 古墳時代初頭	
ST8-中央P		H7	長楕円形	48.1	0.5 × 1.2 × 0.1			
ST8-P1		H7	円形	48.1	0.2 × 0.3 × 0.2			
ST8-P2		H7	円形	48.3	0.2 × 0.2 × 0.1			
ST8-P3		H7	円形	48.2	0.2 × 0.2 × 0.1			
ST8-P4		H8	円形	48.3	0.2 × 0.2 × 0.1			
ST8-P5		H7・H8	楕円形	48.1	0.5 × 0.7 × 0.2			
ST8-P6		H7	円形	48.1	0.2 × 0.2 × 0.2			
ST8-P7		G7・H7	楕円形	48.1	0.4 × 0.3 × 0.2			
ST8-P8		H7	円形	48.2	0.5 × 0.5 × 0.2			
ST8-P9		H7	円形	48.2	0.4 × 0.4 × 0.3			
ST8-P10		H6	円形	48.3	0.5 × 0.5 × 0.1			
ST8-P11		H7	楕円形	48.1	0.3 × 0.4 × 0.1			
ST8-P12		H7	不整円形	48.1	0.3 × 0.3 × 0.3			
ST8-P13		G7・H7	円形	48.1	0.3 × 0.3 × 0.3			
ST8-P14		G7	円形	48.2	0.5 × 0.5 × 0.2			
ST8-P15		G7・G8	不整楕円形	48.2	0.6 × 0.8 × 0.1			
ST8-P16		H8	円形	48.1	0.4 × 0.4 × 0.2			
ST8-P17		H8	円形	48.2	0.2 × 0.2 × 0.1			
ST8-P18		G8・H8	円形	48.3	0.4 × 0.4 × 0.2			
ST8-P19		H7	不整形	48.1	0.6 × 0.5 × 0.2			
ST8-P20		G7	円形	48.2	0.1 × 0.1 × 0.1			
ST8-P21		—	—	—	—			欠番
ST8-P22		H7	円形	48.1	0.2 × 0.2 × 0.2			
ST8-SK1		H7	長楕円形	48.0	0.5 × 1.3 × 0.04			
ST8-SD1		G7・H7	—	48.3	0.1 × 0.7 × 0.06			

遺構一覧表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模 (m)	ベッド高	時期	備考
ST8-SD2	Ⅱ区	—	—	—	—			欠番
ST8-SD3		H7・H8	—	48.1	0.1 × 1.9 × 0.06			
ST8-SD4		G7	—	48.2	0.2 × 1.0 × 0.06			
ST9	Ⅱ区	I6・I7・J6 他	楕円形	48.4	4.4 × 5.1 × 0.1	0.08	弥生時代後期末～ 古墳時代初頭	
ST9-中央P		I7	円形	48.3	0.6 × 0.5 × 0.2			
ST9-P1		I7	円形	48.3	0.2 × 0.2 × 0.1			
ST9-P2		I7	不整円形	48.3	0.3 × 0.3 × 0.3			
ST9-P3		I7	円形	48.3	0.3 × 0.3 × 0.06			
ST9-P4		I6	円形	48.3	0.3 × 0.3 × 0.1			
ST9-P5		I6	楕円形	48.3	0.2 × 0.3 × 0.04			
ST9-P6		J7	円形	48.3	0.3 × 0.3 × 0.1			
ST9-P7		J7	円形	48.3	0.3 × 0.3 × 0.2			
ST9-P8		J7	円形	48.3	0.5 × 0.5 × 0.2			
ST9-P9		J7	不整円形	48.3	0.3 × 0.2 × 0.4			
ST9-P10		I7	不整円形	48.3	0.2 × 0.3 × 0.08			
ST9-P11		I7	円形	48.3	0.3 × 0.3 × 0.1			
ST9-P12		I7	円形	48.3	0.2 × 0.3 × 0.3			
ST9-P13		I7	不整円形	48.4	0.2 × 0.3 × 0.2			
ST9-P14		I7	円形	48.3	0.4 × 0.4 × 0.1			
ST9-P15		J7	不整円形	48.3	0.6 × 0.5 × 0.2			
ST9-P16		I7	円形	48.3	0.3 × 0.3 × 0.2			
ST10	—	—	—	—	—			欠番
ST11	Ⅱ区	I4・I5・J4 他	円形	48.4	4.4 × 4.3 × 0.3	無し	弥生時代後期末～ 古墳時代初頭	
ST11-中央P		I5	楕円形	48.1	0.3 × 0.5 × 0.1			
ST11-P1		I4	円形	48.3	0.2 × 0.1 以上 × 0.08			
ST11-P2		I5	不整楕円形	48.2	0.3 × 0.2 × 0.2			
ST11-SD1		I4・J4・J5	—	48.2	0.2 × 3.9 × 0.07			
ST11-SD2		I5	—	48.2	0.2 × 3.1 × 0.03			
ST12	Ⅱ区	L6・L7・M6 他	隅丸方形	48.5	5.2 × 5.2 × 0.1	0.1	古墳時代後期	
ST12-中央P		L7・M7	楕円形	48.4	0.6 × 1.2 × 0.1			
ST12-P1		M7	円形	48.4	0.2 × 0.2 × 0.3			
ST12-P2		M7	円形	48.5	0.4 × 0.4 × 0.1			
ST12-P3		M7	円形	48.5	0.3 × 0.3 × 0.1			
ST12-P4		M6	円形	48.3	0.2 × 0.2 × 0.3			
ST12-P5		L7	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.3			
ST12-P6		L7	円形	48.4	0.3 × 0.2 以上 × 0.03			
ST12-P7		L6	円形	48.4	0.2 × 0.2 × 0.3			
ST12-SD1		L7・M7	—	48.4	0.6 × 4.2 × 0.06			
ST12-SD2		L6・L7	—	48.4	2.5 × 0.2 × 0.1			
ST12-SD3		L6・M6	—	48.4	0.2 × 2.4 × 0.08			
ST13	Ⅱ区	H4・I4	円形	48.3	2.0 以上 × 5.4 × 0.1	無し	弥生時代後期末～ 古墳時代初頭	
ST13-P1		H4	楕円形	48.2	0.4 × 0.3 × 0.1			
ST13-P2		H4	円形	48.2	0.2 × 0.2 × 0.1			
ST13-P3		H4	円形	48.2	0.2 × 0.2 × 0.1			
ST13-P4		H4	円形	48.3	0.2 × 0.2 × 0.2			
ST13-P5		I4	円形	48.2	0.2 × 0.2 × 0.2			
ST13-SD1		H4	—	48.2	1.0 × 0.1 以上 × —			
ST14	Ⅱ区	K8・K9・L8 他	隅丸方形	48.5	5.1 × 5.4 × 0.2	無し	古墳時代後期	
ST14-P1		L9	円形	48.3	0.3 × 0.3 × 0.3			
ST14-P2		L9	不整円形	48.3	0.3 × 0.4 × 0.2			
ST14-P3		L9	不整円形	48.3	0.4 × 0.4 × 0.1			
ST14-P4		L9	楕円形	48.4	0.2 × 0.3 × 0.2			
ST14-P5		L9	不整楕円形	48.3	0.4 × 0.6 × 0.2			
ST14-P6		L8・M8	円形	48.4	0.4 × 0.4 × 0.1			
ST14-P7		L8	—	—	—			
ST14-P8		L8	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.1			
ST14-P9		K8	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.2			
ST14-P10		L8	楕円形	48.4	0.3 × 0.4 × 0.2			
ST14-P11		L8	円形	48.3	0.2 × 0.2 × 0.2			
ST15	Ⅱ区	M8・N8	円形	48.6	1.2 × 5.0 以上 × 0.2	無し	弥生時代後期末～ 古墳時代初頭	
ST15-P1		M8	不整円形	48.4	0.6 × 0.5 × 0.1			
ST15-P2		N8	楕円形	48.5	0.5 × 0.3 × 0.2			
ST15-P3		N8	円形	48.5	0.4 × 0.4 × 0.3			
ST16	Ⅱ区	L9・M8・M9 他	隅丸方形	48.4	5.2 以上 × 6.4 以上 × 0.5	0.3	弥生時代後期末～ 古墳時代初頭	
ST16-P1		M8	円形	48.1	0.4 × 0.4 × 0.2			
ST16-P2		M8	楕円形	48.1	0.3 × 0.2 × 0.06			
ST16-P3		M8	楕円形	48.3	0.6 × 0.8 × 0.2			
ST16-P4		N9	円形	48.3	0.4 × 0.4 × 0.2			
ST16-P5		N8	楕円形	48.3	0.3 × 0.2 × 0.1			
ST16-P6		N9	円形	48.3	0.2 × 0.3 × 0.1			
ST16-P7		M9	円形	48.1	0.3 × 0.3 × 0.08			
ST16-P8		M9	楕円形	48.3	0.3 × 0.2 × 0.4			
ST16-P9		M9	円形	48.3	0.3 × 0.3 × 0.4			
ST16-P10		M9	—	—	—			

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模 (m)	ベッド高	時期	備考
ST16-P11	Ⅱ区	M9	円形	48.3	0.4 × 0.4 × 0.4			
ST16-P12		M9	楕円形	48.3	0.3 × 0.6 × 0.1			
ST16-P13		M9	円形	48.3	0.4 × 0.4 × 0.1			
ST16-P14		M9・M10	円形	48.3	0.3 × 0.3 × 0.1			
ST16-P15		M9	円形	48.4	0.4 × 0.4 × 0.1			
ST16-P16		M9	円形	48.1	0.2 × 0.2 × 0.2			
ST16-P17		M9	円形	48.1	0.2 × 0.2 × 0.2			
ST16-P18		N8	円形	48.3	0.3 × 0.3 × 0.2			
ST16-P19		M9	円形	48.1	0.2 × 0.2 × 0.4			
ST16-SK1		M9	楕円形	48.1	0.4 × 0.8 × 0.1			
ST16-SD1		M8・N8・N9	—	48.3	0.2 × 3.8 × 0.04			
ST17	Ⅲ区	Y11・Y12・Z11 他	楕円形	49.0	5.1 × 4.6 × 0.2	無し	弥生時代中期末	
ST17-中央P		Z12	楕円形	48.9	0.8 × 1.0 × 0.1			
ST17-P1		A12	円形	48.9	0.3 × 0.3 × 0.2			
ST17-P2		—	—	—	—			欠番
ST17-P3		—	—	—	—			欠番
ST17-P4		A12	不整形	48.8	0.3 × 0.4 × 0.2			
ST17-P5		Z12	円形	48.9	0.2 × 0.2 × 0.1			
ST17-P6		Z12	円形	48.9	0.2 × 0.2 × 0.2			
ST17-P7		Z12	円形	48.9	0.3 × 0.3 × 0.2			
ST18	Ⅲ区	Z9・Z10・A8 他	不整形	49.0	5.7 × 6.7 × 0.3	無し	古墳時代前期	
ST18-中央P		A9	不整形楕円形	48.7	0.7 × 0.5 × 0.1			
ST18-P1		A9	不整形	48.8	0.4 × 0.4 × 0.4			
ST18-P2		A9	楕円形	48.8	0.2 × 0.4 × 0.3			
ST18-P3		A9	円形	48.7	0.3 × 0.2 × 0.4			
ST18-P4		A9	円形	48.7	0.4 × 0.4 × 0.1			
ST18-P5		A9	円形	48.8	0.3 × 0.3 × 0.3			
ST18-P6		A9	不整形楕円形	48.8	0.3 × 0.4 × 0.1			
ST18-P7		A9	不整形楕円形	48.8	0.5 × 0.4 × 0.1			
ST18-P8		A9・Z9	不整形円形	48.8	0.6 × 0.5 × 0.3			
ST18-P9		A9	不整形円形	48.8	0.3 × 0.3 × 0.3			
ST18-P10		A9	円形	48.8	0.3 × 0.3 × 0.3			
ST18-SD1		Z8・Z9・Z10 他	—	48.8	0.3 × 15.1 × 0.1			
ST18-SD2		Z8・Z9	—	48.8	0.2 × 2.8 × 0.05			
ST18-SD3		A8・A9	—	48.8	0.1 × 0.9 × 0.06			
ST19	Ⅲ区	Z12・A11・A12 他	不整形円形	49.1	3.1 以上 × 7.2 × 0.2	0.1	弥生時代後期末～ 古墳時代初頭	
ST19-中央P		A12	不整形楕円形	48.9	0.8 × 2.1 × 0.1			
ST19-P1		A12	円形	48.9	0.3 × 0.3 × 0.1			
ST19-P2		A11	円形	48.9	0.4 × 0.4 × 0.1			
ST19-P3		B11	円形	48.9	0.2 × 0.2 × 0.3			
ST19-P4		B11	円形	48.9	0.2 × 0.2 × 0.2			
ST19-P5		B12	円形	48.9	0.2 × 0.3 × 0.2			
ST19-P6		A12	円形	48.9	0.3 × 0.3 × 0.2			
ST19-P7		A12	円形	49.0	0.2 × 0.2 × 0.2			
ST19-P8		B12	円形	49.0	0.2 × 0.2 × 0.2			
ST19-P9		—	—	—	—			欠番
ST19-P10		Z12	不整形	48.9	0.4 × 0.2 以上 × 0.2			
ST19-SK1		A11	楕円形	48.9	0.4 × 0.6 × 0.3			
ST19-SD1		A12・B11・B12	—	49.0	7.6 × 0.1 × 0.05			
ST19-SD2		他	—	48.9	6.0 × 0.1 × 0.1			
ST20	Ⅲ区	Z10・Z11・A10 他	楕円形	49.1	5.4 × 6.0 × 0.2	無し	弥生時代後期末～ 古墳時代初頭	
ST20-中央P		A11	不整形楕円形	48.8	0.6 × 1.4 × 0.2			
ST20-P1		A11	円形	48.9	0.4 × 0.4 × 0.1			
ST20-P2		A11	円形	48.8	0.2 × 0.2 × 0.2			
ST20-P3		A11	楕円形	48.8	0.3 × 0.3 × 0.3			
ST20-P4		A10・A11	円形	48.9	0.2 × 0.2 × 0.1			
ST20-P5		A11	円形	48.8	0.1 × 0.1 × 0.1			
ST20-P6		Z10・A10	円形	48.9	0.3 × 0.3 × 0.3			
ST20-P7		Z10・A10	不整形円形	48.8	0.3 × 0.3 × 0.2			
ST20-P8		Z11	円形	48.8	0.1 × 0.1 × 0.1			
ST20-P9		Z10・A10	円形	48.9	0.3 × 0.3 × 0.3			
ST20-P10		Z10	円形	48.9	0.4 × 0.4 × 0.1			
ST20-P11		Z11	不整形円形	48.8	0.3 × 0.4 × 0.1			
ST20-P12		Z11	不整形楕円形	48.8	0.3 × 0.5 × 0.2			
ST20-P13		Z11	楕円形	48.8	0.3 × 0.5 × 0.1			
ST20-P14		Z12・A12	不整形円形	48.8	0.3 × 0.3 × 0.2			
ST20-P15		A11	円形	48.6	0.3 × 0.2 × 0.2			
ST20-SK1		Z11・A11	楕円形	48.8	0.8 × 0.6 × 0.2			
ST20-SK2		A11	楕円形	48.8	0.9 × 0.7 × 0.1			
ST21	Ⅲ区	Y8・Y9・Z8 他	円形	49.1	4.7 以上 × 5.1 以上 × 0.2	無し	弥生時代後期前半	
ST21-P1		Z8	円形	48.8	0.3 × 0.3 × 0.4			
ST21-P2		Y8	円形	48.7	0.3 × 0.3 × 0.5			
ST21-P3		Y8	円形	48.8	0.2 × 0.2 × 0.5			
ST21-P4		Y8	円形	48.8	0.2 × 0.2 × 0.09			
ST21-P5		Y8	円形	48.8	0.2 × 0.2 × 0.1			

遺構一覧表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模 (m)	ベッド高	時期	備考
ST21-P6		Y8	楕円形	48.8	0.2 × 0.3 × 0.4			
ST21-SD1		Y8・Y9	—	48.8	0.3 × 3.5 × 0.08			
ST22	Ⅲ区	Z13・A13・B13 他	不整形	49.0	0.8以上 × 6.3以上 × 0.2	無し	弥生時代後期末～ 古墳時代初頭	
ST22-P1		A13	楕円形	48.9	0.3以上 × 0.5 × 0.1			
ST22-P2		A13	不整形	49.0	0.2以上 × 0.4 × 0.1			
ST22-P3		A13・B13	不整形	49.0	0.3以上 × 0.6 × 0.4			
ST22-P4		B13・B14	円形	48.9	0.3 × 0.3 × 0.1			
ST23	Ⅳ区	E9・E10・E11 他	隅丸方形	49.3	5.4以上 × 5.4 × 0.2	無し	弥生時代後期中業～ 後半	
ST23-P1		F10	円形	49.2	0.3 × 0.3 × 0.4			
ST23-P2		F10・F11	円形	49.2	0.4 × 0.4 × 0.5			
ST23-P3		E10	円形	49.1	0.3 × 0.3 × 0.4			
ST23-P4		F10	円形	49.1	0.3 × 0.3 × 0.2			
ST23-P5		E10	円形	49.1	0.3 × 0.3 × 0.1			
ST23-P6		F10	円形	49.2	0.3 × 0.3 × 0.2			
ST23-P7		E10	楕円形	49.2	0.3 × 0.5 × 0.3			
ST23-P8		E10	円形	49.1	0.3 × 0.3 × 0.2			
ST23-P9		F10	不整形楕円形	49.2	0.7 × 0.3 × 0.1			
ST23-P10		E10	不整形楕円形	49.1	0.4 × 0.3 × 0.3			
ST23-P11		F10	楕円形	49.1	0.3 × 0.4 × 0.2			
ST23-P12		F10	円形	49.1	0.4 × 0.4 × 0.3			
ST23-SK1		F10・F11	不整形	49.2	0.9 × 0.7 × 0.3			
ST23-SK2		F10	楕円形	49.2	0.9 × 0.6 × —			
ST23-SK3		F10	長楕円形	49.1	1.3 × 0.8 × 0.1			
SK23-SD1		E10・E11・F11	—	49.1	0.1 × 4.9 × 0.05			
ST23-SD2		E10・E11	—	49.1	0.1 × 3.0 × 0.05			
ST24	Ⅳ区	J10・J11・K10 他	隅丸方形	49.5	3.9 × 4.3 × 0.2	無し	弥生時代後期末～ 古墳時代初頭	
ST24-P1		J11	円形	49.2	0.6 × 0.6 × 0.1			
ST24-P2		—	—	—	—			
ST24-P3		K10	円形	49.3	0.2 × 0.2 × 0.1			
ST24-P4		J10	円形	49.3	0.2 × 0.2 × 0.2			
ST24-P5		J10	不整形	49.3	0.2 × 0.3 × 0.08			
ST25	Ⅳ区	G10・G11	隅丸方形	49.3	3.2以上 × 2.6以上 × 0.1	0.02	弥生時代後期末～ 古墳時代初頭か	
ST26	Ⅳ区	G11・G12・H11 他	隅丸方形	49.3	4.0 × 2.9以上 × 0.2	無し	弥生時代後期末～ 古墳時代初頭	
ST26-P1		G11	円形	49.1	0.4 × 0.4 × 0.2			
ST26-P2		G12	円形	49.0	0.3 × 0.3 × 0.2			
ST26-P3		H12	円形	49.0	0.3 × 0.3 × 0.08			
ST26-P4		H12	円形	49.0	0.3 × 0.3 × 0.07			
ST26-SK1		H11・H12	不整形	49.0	1.5 × 0.8以上 × 0.05			
ST27	Ⅳ区	F13・G12・G13 他	隅丸方形	49.3	4.7 × 5.4 × 0.2	無し	弥生時代後期中業～ 後半	
ST27-P1		G13	円形	49.2	0.2 × 0.2 × 0.1			
ST27-P2		H13	円形	49.1	0.3 × 0.3 × 0.05			
ST27-P3		G13	円形	49.1	0.3 × 0.3 × 0.05			
ST27-P4		G13	不整形	49.2	0.2 × 0.3 × 0.07			
ST27-SK1		G12・G13	円形	49.1	0.6 × 0.6 × 0.1			
ST27-SK2		G13	楕円形	49.1	0.6 × 0.4 × 0.2			
ST27-SK3		G13	不整形楕円形	49.1	0.3 × 1.0 × 0.3			
ST27-SK4		G13	不整形楕円形	49.2	0.2 × 0.5 × 0.1			
ST27-SK5		G13	不整形楕円形	49.2	0.9 × 0.5 × 0.3			
ST27-SK6		G13・H13	不整形楕円形	49.2	0.9 × 0.7 × 0.3			
ST27-SK7		H13	不整形楕円形	49.2	0.8 × 0.6 × 0.2			
ST28	Ⅳ区	E12・E13・F12 他	不整形	49.3	3.3以上 × 5.4 × 0.3	無し	弥生時代後期末～ 古墳時代初頭	
ST28-中央P		E12	楕円形	49.0	0.7 × 0.6 × 0.1			
ST28-P1		E13・F13	円形	49.0	0.4 × 0.4 × 0.3			
ST28-P2		E12	不整形	49.1	0.3 × 0.4 × 0.1			
ST28-P3		E12	不整形	49.0	0.4 × 0.4 × 0.1			
ST28-P4		E13	円形	49.0	0.4 × 0.3 × 0.3			
ST28-P5		E13	円形	49.1	0.3 × 0.3 × 0.1			
ST28-P6		E12	楕円形	49.1	0.5 × 0.4 × 0.2			
ST29	Ⅳ区	E11・E12・F11 他	隅丸方形	49.3	4.3 × 4.6 × 0.2	無し	弥生時代後期末～ 古墳時代初頭	
ST29-中央P		E12・F12	不整形楕円形	49.0	0.7 × 1.3 × 0.3			
ST29-P1		F12	楕円形	49.0	0.3 × 0.2 × 0.2			
ST29-P2		E12	円形	49.1	0.2 × 0.2 × 0.2			
ST29-P3		E12	不整形	49.1	0.3 × 0.4 × 0.2			
ST29-P4		E12	円形	49.0	0.3 × 0.3 × 0.1			
ST29-P5		F12	円形	49.0	0.3 × 0.3 × 0.1			
ST29-SK1		E11・E12	不整形楕円形	49.0	0.6 × 1.0 × —			
ST29-SD1		E12	—	49.1	0.2 × 4.3 × 0.05			
ST30	Ⅳ区	C12・C13・C14 他	不整形	49.2	3.1以上 × 6.0 × 0.1	無し	弥生時代後期末～ 古墳時代初頭	
ST30-P1		C13	円形	49.1	0.3 × 0.3 × 0.4			
ST30-P2		C13	円形	49.1	0.2 × 0.2 × 0.2			
ST30-P3		C13	円形	49.1	0.3 × 0.3 × 0.4			
ST30-P4		C13	楕円形	49.1	0.3 × 0.4 × 0.2			
ST30-SK1		C13・D13	不整形楕円形	49.1	0.8 × 1.3 × 0.2			
ST30-SD1		C12・C13・C14 他	—	49.1	0.2 × 11.5以上 × 0.05			

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模 (m)	ベッド高	時期	備考
ST31	IV区	C13・C14・D13 他	不整円形	49.2	4.5以上×5.2×0.2	無し	弥生時代後期末～ 古墳時代初頭	
ST31-中央P		D14	不整円形	49.0	1.2×1.3×0.1			
ST31-P1		D13	不整円形	49.0	0.3×0.2×0.1			
ST31-P2	IV区	D14	円形	49.0	0.3×0.3×0.1			
ST31-P3		D14	円形	49.0	0.3×0.3×0.1			
ST31-P4		D14	長楕円形	49.0	0.2×0.5×0.1			
ST31-P5		D14	円形	49.0	0.4×0.3×0.2			
ST31-P6		D14	円形	49.0	0.4×0.3×0.06			
ST31-P7		C14・D14	不整円形	49.0	0.4×0.3×0.2			
ST31-P8		D14	円形	48.9	0.3×0.3×0.06			
ST31-P9		C13	円形	49.0	0.3×0.3×0.2			
ST31-P10		C13・D13	円形	49.0	0.2×0.2×0.1			
ST31-P11		D14	円形	49.0	0.2×0.2×0.1			
ST31-P12		E14	円形	49.0	0.3×0.3×0.1			
ST32	IV区	U16・V16	円形	49.9		無し	弥生時代後期中葉～ 後葉	
ST32-P1		V16	円形	49.7	0.3×0.3×0.4			
ST32-P2		V16	円形	49.7	0.3×0.3×0.4			
ST32-P3		V16	円形	49.7	0.3×0.3×0.3			
ST32-P4		V16	楕円形	49.7	0.3×0.4×0.4			
ST32-SD1		U16・V16	—	49.7	0.4×2.2以上×0.3			

SK

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模 (m)	時期	備考
SK1	I区	V3・W3	円形	48.5	1.2×1.2×0.4	近世以降	ハンダ土坑
SK2	I区	V3・W3・V4 他	円形	48.5	1.2×1.2×0.5	近世以降	ハンダ土坑
SK3	I区	V5	円形	48.6	1.1×1.0×0.4	近世以降	ハンダ土坑
SK4	I区	V5	円形	48.6	1.3×1.1×0.4	近世以降	ハンダ土坑
SK5	I区	Y3・Y4	楕円形	48.5	0.7×0.6×0.1	近世以降	ハンダ土坑
SK6	I区	Y3・Y4・Z3 他	円形	48.5	1.2×1.4×0.3	近世以降	ハンダ土坑
SK7	I区	Z3・Z4	円形	48.5	0.7以上×1.3×0.2	時期比定困難	
SK8	I区	Y4・Z4	円形	48.5	0.8×0.8×0.3	近世以降	ハンダ土坑
SK9	I区	X4	隅丸長方形	48.5	0.9×1.3×0.1	時期比定困難	
SK10	I区	V4・V5	円形	48.5	1.3×1.4×0.4	近世以降	ハンダ土坑
SK11	I区	X4	不整形	48.6	1.0×1.7×0.1		攪乱
SK12	I区	W3・W4	楕円形	48.5	1.9×1.5×0.3	近世以降	
SK13	I区	Y3・Z3	円形	48.5	0.2以上×1.0以上×0.3	近世以降	ハンダ土坑
SK14	I区	V5・V6	楕円形	48.5	1.0×1.7×0.1	時期比定困難	
SK15	I区	E4	不整円形	48.8	2.4×1.9×0.08	時期比定困難	
SK16	I区	C4	円形	48.7	0.9×1.0×0.1	近世以降	ハンダ土坑
SK17	I区	B6・C6	円形	48.5	1.9×1.8×0.4	近世以降	ハンダ土坑
SK18	I区	C6	円形	48.7	1.6×1.6×0.5	近世以降	ハンダ土坑
SK19	I区	B3・B4	円形	48.6	1.3×1.3×0.2	近世以降	ハンダ土坑
SK20	I区	E4	円形	48.7	0.7×0.7×0.1	近世以降	ハンダ土坑
SK21	I区	B6	円形	48.4	0.9×0.9×0.1	近世以降	ハンダ土坑
SK22	I区	B6	円形	48.4	1.1×1.0×0.2	近世以降	ハンダ土坑
SK23	I区	B5・B6	円形	48.8	1.3×1.3×0.3	近世以降	ハンダ土坑
SK24	I区	—	—	—	—		攪乱
SK25	I区	C8	隅丸方形	48.7	3.1×3.1×0.3	古代か	
SK25-中央P		C8	隅丸方形	48.3	0.5×0.5×0.1		
SK25-P1		C8	円形	48.3	0.2×0.2×0.06		
SK25-SD1		C8	—	48.3	0.2×5.8×0.06		
SK26	I区	C6・G6	—	48.6	—	古代か	
SK27	I区	V5・V6	円形	48.2	1.6×1.5×0.3	近世以降	
SK28	I区	X3	不整形	48.5	0.7以上×1.1×0.3	時期比定困難	
SK29	I区	V3	不整形	48.4	1.1以上×1.1×0.2	時期比定困難	
SK30	I区	—	—	—	—	時期比定困難	
SK31	I区	B4	円形	48.4	1.2×1.2×0.2	古代か	
SK32	I区	C3	楕円形	48.5	1.0×0.9×0.1	時期比定困難	
SK33	I区	—	—	—	—	時期比定困難	
SK34	I区	B5・C5	楕円形	48.4	1.5以上×1.5×0.2	時期比定困難	
SK35	I区	B5・B6・C5 他	円形	48.3	1.4×1.4×0.1	時期比定困難	
SK36	I区	B5	不整形	48.4	1.3×0.6×0.1	時期比定困難	
SK37	I区	C4・C5・D4 他	隅丸方形	48.4	3.7×2.6以上×0.1	弥生時代後期末	堅穴住居跡
SK37-P1		C5	楕円形	48.3	0.3×0.4×0.2		
SK37-P2		C5	円形	48.3	0.3×0.3×0.2		
SK37-P3		C5	円形	48.3	0.3×0.3×0.1		
SK37-P4		C5	円形	48.3	0.3×0.3×0.2		
SK37-P5		C4	円形	48.3	0.4×0.4×0.3		
SK37-P6		C4	隅丸方形	48.3	0.3×0.3×0.1		
SK37-P7		C4	不整楕円形	48.3	0.3×0.2×0.3		
SK37-P8		C4・C5	円形	48.3	0.3×0.3×0.05		
SK37-P9		C4	楕円形	48.3	0.3×0.3×0.2		

遺構一覧表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模 (m)	時期	備考
SK37-SD1	I 区	C4・C5・D5	—	48.3	6.5 以上 × 0.2 × 0.1		
SK38	I 区	X4	円形	48.4	0.5 × 0.5 × 0.2	時期比定困難	
SK39	I 区	C7・D7	隅丸方形	48.3	3.2 × 2.8 以上 × 0.1	古代か	
SK40	II 区	O5・O6	円形	48.9	1.4 × 1.4 × 0.5	近世以降	ハンダ土坑
SK41	II 区	N6	円形	48.8	1.6 × 1.6 × 0.08	近世以降	
SK42	II 区	M6	円形	48.8	1.8 × 1.8 × 0.5	近世以降	ハンダ土坑
SK43	II 区	M8・N8	円形	48.8	2.0 × 1.7 × 0.2	近世以降	
SK44	II 区	K5・K6	円形	48.8	0.8 × 0.7 × 0.1	古代か	ハンダ土坑
SK45	II 区	O6・P6・O7	不整形	48.9	4.2 × 1.3 × 0.1		攪乱
SK46	II 区	I9・I10	隅丸長方形	48.8	1.0 × 1.5 × 0.3	近世以降	ハンダ土坑
SK47	II 区	J6・J7・K6 他	不整形	48.8	0.8 × 1.1 以上 × 0.2		攪乱
SK48	II 区	H6・I6	長方形	48.7	0.8 × 2.2 × 0.3		攪乱
SK49	II 区	H5・H6	長方形	48.7	3.2 × 2.0 × 0.2		攪乱
SK50	II 区	G5	不整形	48.8	1.4 × 0.4 以上 × 0.2		攪乱
SK51	II 区	G5・G6	長方形	48.8	2.5 × 1.0 × 0.2	近世以降	礫溜り
SK52	II 区	I5	円形	48.8	1.8 × 1.6 × 0.5	近世以降	礫溜り
SK53	II 区	F5・G5	円形	48.7	1.2 × 1.1 × 0.4	近世以降	
SK54	II 区	F5・G5	楕円形	48.8	1.2 × 0.9 × 0.4	近世以降	ハンダ土坑
SK55	II 区	F4・G4	円形	48.8	1.0 × 1.2 × 0.5	近世以降	ハンダ土坑
SK56	II 区	F4・G4	円形	48.8	1.3 × 1.3 以上 × 0.3	近世以降	ハンダ土坑
SK57	II 区	G4	円形	48.8	1.1 × 0.6 以上 × 0.3	近世以降	ハンダ土坑
SK58	II 区	G4	円形	48.8	0.9 × 1.0 × 0.2	近世以降	ハンダ土坑
SK59	II 区	G4	円形	48.8	1.3 × 1.4 × 0.5	近世以降	ハンダ土坑
SK60	II 区	J6・J7	不整形	48.8	1.2 × 0.4 以上 × 0.2		攪乱
SK61	II 区	H4	円形	48.8	0.8 × 0.7 × 0.3	近世以降	ハンダ土坑
SK62	II 区	G4	不整形	48.8	0.4 以上 × 0.9 以上 × 0.5	近世以降	ハンダ土坑
SK63	II 区	K5	円形	48.9	0.8 × 0.9 × 0.2	時期比定困難	
SK64	II 区	K7	円形	48.8	0.8 × 0.8 × 0.2	時期比定困難	
SK65	II 区	H9	円形	48.6	1.2 × 1.2 × 0.4	近世以降	ハンダ土坑
SK66	II 区	I8	円形	48.7	1.1 × 1.1 × 0.3	時期比定困難	
SK67	II 区	I4	楕円形	48.9	1.2 × 0.5 × 0.1	時期比定困難	
SK68	II 区	H5	不整形	48.8	0.8 × 0.8 以上 × 0.1	時期比定困難	
SK69	II 区	F5・F6・G5 他	隅丸方形	48.3	4.5 × 3.5 × 0.5	弥生時代後期末 ～古墳時代初頭	竪穴住居跡
SK69-P1		F5	楕円形	47.9	0.3 × 0.4 × 0.1		
SK69-P2		F6	楕円形	48.0	0.4 × 0.3 × 0.06		
SK69-SD1		F6・G6	—	47.9	0.2 × 2.0 × 0.05		
SK69-SD2		F6・G6	—	47.9	0.1 × 1.9 以上 × 0.05		
SK69-SD3		F5・F6	—	47.9	0.1 × 2.9 × 0.08		
SK69-SD4		F5・G5	—	47.9	0.1 × 3.7 × 0.07		
SK69-SD5		F5・F6	—	47.9	0.2 × 2.4 × 0.07		
SK69-SD6		F5・G5	—	47.9	— × 3.2 × —		
SK70	II 区	F3	不整形	48.3	0.5 × 0.9 × 0.2	時期比定困難	
SK71	II 区	F4	不整形	48.3	0.5 × 0.9 × 0.3	古代か	
SK72	II 区	F4・F5	長楕円形	48.3	0.7 × 1.8 × 0.2	古墳後期か	
SK73	II 区	F5・G5	円形	48.6	1.3 × 1.4 × 0.3	近世以降	ハンダ土坑
SK74	II 区	D8	長方形	48.3	1.0 × 1.3 × 0.2	時期比定困難	
SK75	II 区	F5・F6			3.6 × 1.4 以上 × 0.3	時期比定困難	
SK76	II 区	H9・I9・H10 他	隅丸方形	48.3	4.0 以上 × 5.1 × 0.1	古代か	
SK77	II 区	F7・F8・F9 他	不整形	48.3	7.7 以上 × 5.7 以上 × 0.05	古墳時代後期か	
SK78	II 区	G8	隅丸方形	48.2	0.7 × 0.8 × 0.3	時期比定困難	
SK79	II 区	K9・L9	円形	48.5	1.3 × 1.3 × 0.2	古代か	
SK80	II 区	J5	不整形	48.3	0.7 × 0.4 以上 × 0.1	時期比定困難	
SK81	II 区	K5	円形	48.6	0.9 × 0.9 × 0.2	古代か	
SK82	II 区	L5	円形	48.6	1.0 × 1.1 × 0.3	時期比定困難	
SK83	II 区	M5・N5	不整形	48.6	1.0 以上 × 4.3 × 0.1	時期比定困難	
SK84	II 区	J5	不整形	48.4	0.5 以上 × 0.5 以上 × 0.1	古代か	
SK85	II 区	—	—	—	—		欠番
SK86	II 区	K6	不整形	48.4	0.9 × 1.3 × 0.2	近世以降か	
SK87	II 区	K8	不整形楕円形	48.5	0.7 × 0.4 以上 × 0.1	古墳時代後期	
SK88	II 区	N7・N8	隅丸方形	48.6	0.8 × 0.7 以上 × 0.1	近世以降	
SK89	II 区	O5・P5	不整形	48.7	2.0 以上 × 0.7 以上 × 0.1	時期比定困難	
SK90	II 区	M6	円形	48.5	0.5 以上 × 0.7 × 0.2	時期比定困難	
SK91	II 区	M8	不整形	48.6	0.3 × 0.7 × 0.2	時期比定困難	
SK92	II 区	K5	不整形楕円形	48.5	0.5 × 0.7 × 0.3	時期比定困難	
SK93	II 区	I9・J9	円形	48.3	0.7 × 0.7 × 0.1	時期比定困難	
SK94	V 区	Z・A16	楕円形	50.0	0.5 × 0.6 × 0.1	古代か	
SK95	V 区	A17・18	楕円形	50.2	0.8 × 0.5 × 0.1	時期比定困難	
SK96	V 区	B16・17	楕円形	50.2	0.6 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
SK97	V 区	C・D17	隅丸長方形	50.3	1.3 × 1.5 × 0.1	中世か	
SK98	V 区	C17	—	—	—	時期比定困難	
SK99	V 区	C・D17	不整形円形	50.3	1.6 × 1.0 × 0.1	古墳時代後期か	
SK100	V 区	C17	—	—	—	時期比定困難	
SK101	III 区	C9	隅丸長方形	48.5	1.1 × 2.0 × 0.1	時期比定困難	
SK102	III 区	X9	不整形楕円形	48.9	1.0 × 0.7 × 0.1	時期比定困難	

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模 (m)	時期	備考
SK103	Ⅲ区	Y8	円形	49.0	1.4 × 1.3 × 0.2	近世以降	
SK104	Ⅲ区	Z12	楕円形	48.9	0.5 × 0.7 × 0.1	弥生時代後期末～古墳時代初頭	ST19の貯蔵穴か
SK105	Ⅲ区	Z12・A12	不整形楕円形	48.9	0.6 × 0.5 × 0.3	弥生時代後期末～古墳時代初頭	ST19の貯蔵穴か
SK106	Ⅲ区	B11	円形	49.1	0.6 × 0.6 × 0.5	弥生時代後期末～古墳時代初頭	ST19の貯蔵穴か
SK107	V区	B・C16	不整形				攪乱
SK108	Ⅳ区	L11・L12・M11他	不整形	49.5	4.3以上 × 1.3 × 0.3	弥生時代中期末～後期初頭	
SK109	Ⅳ区	N12	隅丸長方形	49.6	1.5 × 0.7 × 0.3	近世以降	ハンダ土坑
SK110	Ⅳ区	N13	不整形	49.6	0.9以上 × 0.9以上 × 0.2	時期比定困難	
SK111	Ⅳ区	D10	隅丸長方形	49.1	2.3 × 1.0 × 0.3	近世以降	ハンダ土坑
SK112	Ⅳ区	G10	長楕円形	49.3	0.4 × 1.2 × 0.4		攪乱
SK113	Ⅳ区	D11・E11	隅丸長方形	49.3	2.1 × 2.6 × 0.2	時期比定困難	
SK113-P1		E11	円形	49.2	0.2 × 0.2 × 0.3	時期比定困難	
SK114	Ⅳ区	C12	長方形	49.2	0.9 × 2.1 × 0.1	時期比定困難	

SD

遺構名	調査区	グリッド	断面形	検出標高	規模 (m)	時期	備考
SD1	I区	Z3～Z7	U字状	48.5	16.0 × 0.7 × 0.4	近世以降	
SD2	I区	B3～B6	—	48.5	1.3 × 9.7 × 0.2		攪乱
SD3	I・Ⅱ区	K4・A5～K5・U6～E6	U字状	48.3	0.4 × 71.2 × 0.2	古代	
SD4	I区	C6・C7	皿状	48.5	0.4 × 7.3 × 0.1	古代か	
SD5	I区	C5・C6	—	48.4	2.1 × 0.5 × 0.1	時期比定困難	
SD6	I区	D5・D6	皿状	48.5	5.1 × 0.3 × 0.1	古代か	
SD7	Ⅱ区	L5～O5	—	48.9	13.0 × 0.6 × 0.3	時期比定困難	
SD8	Ⅱ区	I7～I10・J4～J10	—	48.7	22.9 × 1.1 × 0.1	近世以降	
SD9	Ⅱ区	K4～K10	—	48.7	22.7 × 0.6 × 0.2	近世以降	
SD10	Ⅱ区	D7・D8・E8	U字状	48.3	0.3 × 6.1 × 0.2	時期比定困難	
SD11	Ⅱ区	D6	—	48.3	0.2 × 1.7 × 0.07	時期比定困難	
SD12	Ⅱ区	I5・I6・J7	半球形	48.5	0.2 × 8.3以上 × 0.07	時期比定困難	
SD13	Ⅱ区	J4・K4～K10	台形	48.5	21.4 × 0.5 × 0.2	時期比定困難	
SD14	Ⅱ区	J10～L10	皿状	48.5	1.5以上 × 9.2以上 × 0.2	古代か	
SD15	Ⅱ区	K8・L8	皿状	48.6	0.4 × 2.7 × 0.07	古代	
SD16	Ⅱ区	L5	皿状	48.6	1.4 × 0.7 × 0.1	時期比定困難	
SD17	Ⅱ区	L6	—	48.6	0.3 × 1.9以上 × 0.1	時期比定困難	
SD18	Ⅱ区	N5・N6	—	48.6	3.5以上 × 0.8 × 0.2	近世以降	
SD19	Ⅱ区	L5	—	48.5	0.5以上 × 1.8以上 × 0.2	時期比定困難	
SD20	Ⅱ区	N7	—	48.6	0.2 × 0.7 × 0.07	時期比定困難	
SD21	Ⅱ区	O5・O6	—	48.7	1.7 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
SD22	Ⅱ区		—	—	—		
SD23	V区	X14・Y14・15	—	50.0	7.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
SD24	V区	X14・Y14・15他	皿状	—	—	時期比定困難	
SD25	V区	B16・Y17・C16他	皿状	—	—	時期比定困難	
SD26	V区	E・F・G17	皿状	—	—	時期比定困難	
SD27	Ⅲ区	A8・A9・B8・B9	台形	49.1	0.9 × 2.2以上 × 0.4	弥生時代中期末～後期初頭	
SD28	V区	—	—	—	—	時期比定困難	シミ
SD29	V区	G18	皿状	50.3	1.7 × 0.5 × 0.2	時期比定困難	
SD30	Ⅳ区	G10～G14	皿状	49.4	16.7以上 × 0.7 × 0.07	時期比定困難	
SD31	Ⅳ区	D13・E13・C14～H14	—	49.4	0.6 × 18.4以上 × 0.2	時期比定困難	
SD32	Ⅳ区	F13・F14・G13・G14	—	49.4	0.5 × 4.7以上 × 0.1		攪乱
SD33	Ⅳ区	C13・D13・D14	皿状	49.3	0.3 × 6.5 × 0.1	時期比定困難	
SD34	Ⅳ区	D12・E12	皿状	49.2	0.3 × 5.6 × 0.08	時期比定困難	
SD35	Ⅳ区	E14	—	—	—		攪乱

P

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模 (m)	時期	備考
P1	I区	Y4	円形	48.5	0.5 × 0.5 × 0.2	時期比定困難	
P2	I区	X4・Y4	楕円形	48.5	0.9 × 0.7 × 0.1	近世以降	
P3	I区	W6	円形	48.5	0.9 × 0.9 × 0.2	古墳後期	
P4	I区	Y7	円形	48.5	0.6 × 0.6 × 0.5	時期比定困難	
P5	I区	Y7	円形	48.5	0.4 × 0.4 × 0.4	時期比定困難	
P6	I区	V5	円形	48.5	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P7	I区	W5	円形	48.5	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P8	I区	X3	円形	48.5	0.5 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	
P9	I区	Y4	円形	48.6	0.5 × 0.5 × 0.3	古墳後期	
P10	I区	Y5	楕円形	48.5	0.5 × 0.8 × 0.2	時期比定困難	
P11	I区	V6	円形	48.5	0.3 × 0.3 × 0.3	時期比定困難	
P12	I区	V6	円形	48.5	0.2 × 0.2 × 0.1	古代	
P13	I区	V6	円形	48.5	0.4 × 0.4 × 0.1	時期比定困難	
P14	I区	D4	円形	48.6	0.4 × 0.4 × 0.3	古墳後期か	
P15	I区	C3	円形	48.6	0.4 × 0.4 × 0.4	時期比定困難	
P16	I区	C3・C4	円形	48.6	0.4 × 0.4 × 0.2	時期比定困難	
P17	I区	D4	円形	48.7	0.2 × 0.2 × 0.4	時期比定困難	

遺構一覧表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模 (m)	時期	備考
P18	I 区	C5	円形	48.7	0.3 × 0.3 × 0.1	古墳後期	
P19	I 区	Z7	円形	48.3	0.6 × 0.6 × 0.5	時期比定困難	
P20	I 区	Z6	円形	48.3	0.8 × 0.8 × 0.4	時期比定困難	
P21	I 区	Z7	円形	48.3	0.6 × 0.6 × 0.1	時期比定困難	
P22	I 区	Z7・Z8・A7 他	円形	48.3	0.6 × 0.7 × 0.1	時期比定困難	
P23	I 区	Z6	円形	48.3	0.4 × 0.4 × 0.3	時期比定困難	
P24	I 区	Y5	楕円形	48.3	0.4 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	
P25	I 区	Y5	円形	48.4	0.4 × 0.4 × 0.3	時期比定困難	
P26	I 区	Y5	円形	48.4	0.7 × 0.7 × 0.1	古代	
P27	I 区	Y5	楕円形	48.4	0.6 × 0.7 × 0.4	時期比定困難	
P28	I 区	X5・Y5	楕円形	48.4	0.8 × 0.6 × 0.4	時期比定困難	
P29	I 区	X4・Y4	円形	48.4	0.7 × 0.7 × 0.1	時期比定困難	
P30	I 区	X4・Y4	円形	48.4	0.4 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P31	I 区	Y4	円形	48.4	0.4 × 0.4 × 0.4	時期比定困難	
P32	I 区	Z5	円形	48.1	0.4 × 0.4 × 0.2	時期比定困難	
P33	I 区	Y5・Z5	円形	48.4	0.4 × 0.4 × 0.2	時期比定困難	
P34	I 区	X4・Y4	円形	48.4	0.9 × 0.9 × 0.3	弥生時代後期前半	
P35	I 区	Y3	円形	48.3	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P36	I 区	V4	円形	48.4	0.4 × 0.4 × 0.4	時期比定困難	
P37	I 区	Z6	円形	48.3	0.4 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P38	I 区	Z6	円形	48.2	0.6 × 0.6 × 0.4	時期比定困難	
P39	I 区	Z5	円形	48.3	0.4 × 0.4 × 0.3	時期比定困難	
P40	I 区	Z5	円形	48.3	0.5 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	
P41	I 区	C7	円形	48.4	0.8 × 0.8 × 0.1	時期比定困難	
P42	I 区	C7	円形	48.4	0.6 × 0.6 × 0.6	時期比定困難	
P43	I 区	B7・B8	楕円形	48.4	0.4 × 0.6 × 0.1	古代	
P44	I 区	B7	不整形円形	48.4	0.7 × 0.6 × 0.4	古代	
P45	I 区	B7	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.2	古代	
P46	I 区	B7	円形	48.4	0.9 × 0.9 × 0.3	古代	
P47	I 区	B7	楕円形	48.4	0.5 × 0.7 × 0.2	古代	
P48	I 区	A7・B7	不整形	48.3	0.6 × 0.8 以上 × 0.1	時期比定困難	
P49	I 区	B7	楕円形	48.4	0.7 × 0.5 × 0.4	時期比定困難	
P50	I 区	B8	円形	48.3	0.4 × 0.4 × 0.2	古代	
P51	I 区	B8	隅丸方形	48.4	0.5 × 0.5 × 0.4	時期比定困難	
P52	I 区	B8	円形	48.3	0.9 × 0.9 × 0.2	古代	
P53	I 区	A6・A7・B6 他	円形	48.3	0.6 × 0.6 × 0.1	時期比定困難	
P54	I 区	Z7	円形	48.3	0.3 × 0.3 × 0.06	時期比定困難	
P55	I 区	Z7	円形	48.3	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P56	I 区	Y5	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P57	I 区	Y6	楕円形	48.3	0.4 × 0.5 × 0.1	時期比定困難	
P58	I 区	B4	不整形円形	48.4	0.5 × 0.7 × 0.5	弥生後期後半	
P59	I 区	B3・B4	円形	48.4	0.5 × 0.4 × 0.3	時期比定困難	
P60	I 区	B4	円形	48.4	0.4 × 0.3 × 0.3	時期比定困難	
P61	I 区	B3・B4	不整形	48.3	0.6 × 0.5 × 0.2	時期比定困難	
P62	I 区	B4	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P63	I 区	B4	楕円形	48.3	0.4 × 0.7 × 0.5	時期比定困難	
P64	I 区	B4	楕円形	48.3	0.4 × 0.7 × 0.3	古代	
P65	I 区	B5	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P66	I 区	B5	円形	48.4	0.2 × 0.2 × 0.05	時期比定困難	
P67	I 区	B4・C4	円形	48.4	0.6 × 0.6 × 0.1	時期比定困難	
P68	I 区	B4・C4	隅丸方形	48.3	0.5 × 0.5 × 0.1	時期比定困難	
P69	I 区	C4	—	—	—	時期比定困難	P102 と結合
P70	I 区	C4	隅丸方形	48.4	0.6 × 0.7 × 0.3	時期比定困難	
P71	I 区	C4	楕円形	48.4	0.3 × 0.4 × 0.2	時期比定困難	
P72	I 区	B4・C4	不整形	48.4	0.7 × 0.6 × 0.3	時期比定困難	P73・P97 と結合
P73	I 区	B4・C4	—	—	—	時期比定困難	P72・P97 と結合
P74	I 区	B3・C3	円形	48.4	0.5 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	
P75	I 区	C3	円形	48.4	0.6 × 0.6 × 0.5	時期比定困難	
P76	I 区	B3	円形	48.4	0.4 × 0.4 × 0.3	時期比定困難	
P77	I 区	C3	円形	48.4	0.8 × 0.7 × 0.4	時期比定困難	
P78	I 区	C3	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P79	I 区	C3	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P80	I 区	C3	楕円形	48.5	0.9 × 0.6 × 0.1	時期比定困難	
P81	I 区	C5	円形	48.4	0.4 × 0.5 × 0.2	時期比定困難	
P82	I 区	C5	円形	48.4	0.5 × 0.5 × 0.1	時期比定困難	
P83	I 区	C3	隅丸方形	48.5	0.4 × 0.4 × 0.2	時期比定困難	
P84	I 区	C4	不整形円形	48.4	0.6 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	P179 と結合
P85	I 区	D3	円形	48.5	0.7 × 0.7 × 0.3	時期比定困難	
P86	I 区	D3	円形	48.5	0.4 × 0.4 × 0.3	近世以降	
P87	I 区	D4	円形	48.5	0.4 × 0.4 × 0.3	時期比定困難	
P88	I 区	D4	円形	48.5	0.5 × 0.5 × 0.2	時期比定困難	
P89	I 区	D3	楕円形	48.5	0.8 × 0.5 × 0.4	時期比定困難	
P90	I 区	C4	楕円形	48.4	0.5 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P91	I 区	B4・B5・C4 他	楕円形	48.4	0.7 × 0.5 × 0.5	時期比定困難	

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模 (m)	時期	備考
P92	I区	B5・C5	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P93	I区	C5	円形	48.4	0.2 × 0.2 × 0.4	時期比定困難	
P94	I区	B4	楕円形	48.4	0.5 × 0.3 × 0.4	時期比定困難	
P95	I区	C3	円形	48.5	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P96	I区	C3	円形	48.5	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P97	I区	B4・C4	—	—	—	時期比定困難	P72・P73と結合
P98	I区	B5	不整円形	48.4	0.6 × 0.7 × 0.4	時期比定困難	
P99	I区	C5	不整形	48.4	0.4 × 0.3 × 0.06	時期比定困難	
P100	I区	C5	円形	48.4	0.3 × 0.2 × 0.3	時期比定困難	
P101	I区	C3	円形	48.5	0.1 × 0.1 × 0.1	時期比定困難	P69と結合
P102	I区	C4	隅丸方形	48.4	0.6 × 0.6 × 0.4	時期比定困難	
P103	I区	C4	—	—	—	時期比定困難	
P104	I区	B6	円形	48.3	0.5 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	
P105	I区	C5	円形	48.4	0.5以上 × 0.7 × 0.4	時期比定困難	
P106	I区	C6	円形	48.3	0.5 × 0.5 × 0.4	時期比定困難	
P107	I区	B6	円形	48.3	0.9 × 0.5以上 × 0.1	古代	
P108	I区	C7	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.3	古代	
P109	I区	B5	楕円形	48.3	0.9 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	
P110	I区	A5	円形	48.3	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P111	I区	A5・B5	円形	48.4	0.4 × 0.4 × 0.1	時期比定困難	
P112	I区	B5	円形	48.3	0.1 × 0.1 × 0.1	時期比定困難	
P113	I区	B5・C5	円形	48.4	0.6 × 0.6 × 0.6	時期比定困難	
P114	I区	B5	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.3	時期比定困難	
P115	I区	A6	円形	48.3	0.2 × 0.2 × 0.2	時期比定困難	
P116	I区	C6	円形	48.3	0.5 × 0.5 × 0.7	時期比定困難	
P117	I区	B6・C6	円形	48.3	0.3 × 0.4 × 0.2	時期比定困難	
P118	I区	B7	円形	48.3	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P119	I区	C7	円形	48.5	0.6 × 0.6 × 0.6	時期比定困難	
P120	I区	C7	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P121	I区	C8	円形	48.5	0.5 × 0.4以上 × 0.3	時期比定困難	
P122	I区	C8	円形	48.5	0.4 × 0.5以上 × 0.3	時期比定困難	
P123	I区	B8	円形	48.4	0.7 × 0.7 × 0.4	時期比定困難	
P124	I区	C6	隅丸方形	48.5	0.7 × 0.7 × 0.1	古代	
P125	I区	B8	円形	48.2	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P126	I区	D6	隅丸方形	48.5	0.6 × 0.6 × 0.5	時期比定困難	
P127	I区	C7	円形	48.5	0.5 × 0.5 × 0.1	古代	
P128	I区	E3	円形	48.5	0.6 × 0.6 × 0.4	時期比定困難	
P129	I区	E3	円形	48.5	0.3 × 0.3 × 0.3	時期比定困難	
P130	I区	E3	不整円形	48.5	0.7 × 0.6 × 0.3	時期比定困難	
P131	I区	E3	円形	48.5	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P132	I区	E4	円形	48.5	0.6 × 0.6 × 0.4	時期比定困難	
P133	I区	E5	不整形	48.5	0.2以上 × 0.5 × 0.2	時期比定困難	
P134	I区	E5	不整形	48.4	0.2以上 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P135	I区	C5	—	—	—	時期比定困難	
P136	I区	E3	円形	48.5	0.5 × 0.5 × 0.4	時期比定困難	
P137	I区	D4	円形	48.5	0.6 × 0.6 × 0.4	時期比定困難	
P138	I区	E4	円形	48.4	0.4 × 0.4 × 0.1	時期比定困難	
P139	I区	E4	円形	48.4	0.2 × 0.2 × 0.07	時期比定困難	
P140	I区	E4	隅丸方形	48.4	0.6 × 0.6 × 0.5	時期比定困難	
P141	I区	E4	隅丸方形	48.4	0.5 × 0.4 × 0.2	時期比定困難	
P142	I区	C4	円形	48.3	0.2 × 0.2 × 0.3	時期比定困難	
P143	I区	E5	円形	48.5	0.6 × 0.6 × 0.5	時期比定困難	
P144	I区	E6	円形	48.4	0.5 × 0.5 × 0.5	時期比定困難	
P145	I区	X5・Y5	円形	48.4	0.5 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	
P146	I区	X5	楕円形	48.3	0.3 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	
P147	I区	W6	円形	48.3	0.2 × 0.2 × 0.2	時期比定困難	
P148	I区	X5	円形	48.3	0.2 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P149	I区	X4	円形	48.3	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P150	I区	D5	楕円形	48.4	0.2 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P151	I区	D6	円形	48.4	0.2 × 0.2 × 0.2	時期比定困難	
P152	I区	D6	円形	48.4	0.4 × 0.4 × 0.1	時期比定困難	
P153	I区	—	—	—	—		欠番
P154	I区	—	—	—	—		欠番
P155	I区	—	—	—	—		欠番
P156	I区	D6	隅丸方形	48.4	0.6 × 0.6 × 0.5	時期比定困難	P159と結合
P157	I区	X3	円形	48.4	0.6 × 0.6 × 0.2	時期比定困難	
P158	I区	X3	不整楕円形	48.4	0.9 × 0.6 × 0.2	時期比定困難	
P159	I区	—	—	—	—	時期比定困難	P156と結合
P160	I区	X4	楕円形	48.4	0.3 × 0.5 × 0.2	時期比定困難	
P161	I区	B8	円形	48.3	0.4 × 0.4 × 0.02	古代	
P162	I区	C8	円形	48.4	0.5 × 0.5 × 0.2	時期比定困難	
P163	I区	C8	円形	48.3	0.8 × 0.8 × 0.2	古代	
P164	I区	C8	楕円形	48.4	0.3 × 0.4 × 0.2	時期比定困難	
P165	I区	C8	不整楕円形	48.3	0.6 × 0.8 × 0.3	時期比定困難	

遺構一覧表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模 (m)	時期	備考
P166	I区	C8	不整円形	48.3	0.6 × 0.6 × 0.2	時期比定困難	P170 と結合
P167	I区	D7・D8	円形	48.5	0.7 × 0.7 × 0.2	時期比定困難	
P168	I区	E7	隅丸方形	48.4	0.7 × 0.7 × 0.3	時期比定困難	
P169	I区	E7	隅丸方形	48.4	0.7 × 0.7 × 0.2	時期比定困難	
P170	I区	C8	—	—	—	時期比定困難	P166 と結合
P171	I区	D7	不整円形	48.4	0.4 × 0.5 × 0.1	時期比定困難	
P172	I区	D7	楕円形	48.4	0.6 × 0.8 × 0.3	時期比定困難	
P173	I区	Z6	不整形	48.3	0.4 以上 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P174	I区	E4	円形	48.5	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P175	I区	X6・Y6	不整円形	48.3	0.5 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	
P176	I区	E4	不整形	48.5	0.5 以上 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P177	I区	C3・C4	円形	48.4	0.4 × 0.4 × 0.2	時期比定困難	
P178	I区	C3	円形	48.5	0.4 × 0.4 × 0.1	時期比定困難	
P179	I区	C4	—	—	—	時期比定困難	P84 と結合
P180	I区	D6	円形	48.5	0.5 × 0.4 × 0.3	時期比定困難	
P181	I区	E5	円形	48.5	0.7 × 0.7 × 0.4	時期比定困難	
P182	I区	D7	—	—	—	時期比定困難	P245 と結合
P183	I区	A8・B8	円形	48.4	0.4 × 0.4 × 0.2	時期比定困難	
P184	I区	A8・B8	円形	48.4	0.4 × 0.4 × 0.4	時期比定困難	
P185	I区	A8・B8	不整楕円形	49.0	1.1 × 0.8 × 0.3	古代	
P186	I区	C6	円形	48.3	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P187	II区	G6	円形	48.6	0.2 × 0.2 × 0.05	時期比定困難	
P188	II区	G6	円形	48.7	0.7 × 0.6 × 0.4	時期比定困難	
P189	II区	G7	円形	48.7	0.6 × 0.6 × 0.2	時期比定困難	
P190	II区	G6	円形	48.7	0.4 × 0.4 × 0.4	時期比定困難	
P191	II区	G7	楕円形	48.7	0.6 × 0.9 × 0.4	時期比定困難	P197 と結合
P192	II区	H7	円形	48.7	0.4 × 0.4 × 0.2	時期比定困難	
P193	II区	G8	円形	48.6	0.6 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	
P194	II区	G9	円形	48.6	0.4 × 0.4 × 0.2	時期比定困難	
P195	II区	H4・H5	円形	48.8	0.2 × 0.2 × 0.2	時期比定困難	
P196	II区	H5	楕円形	48.8	0.5 × 0.6 × 0.1	時期比定困難	
P197	II区	G7	—	—	—	時期比定困難	P191 と結合
P198	II区	F5	円形	48.6	0.6 × 0.6 × 0.6	時期比定困難	
P199	II区	F4	楕円形	48.3	0.2 × 0.3 × 0.07	時期比定困難	
P200	II区	F4	円形	48.3	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P201	II区	G6	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P202	II区	G6	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.4	時期比定困難	
P203	II区	G6	円形	48.4	0.4 × 0.4 × 0.2	時期比定困難	
P204	II区	G6	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.4	時期比定困難	
P205	II区	G6	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.3	時期比定困難	
P206	II区	G6	円形	48.5	0.7 × 0.6 × 0.4	時期比定困難	
P207	II区	F6・G6	不整円形	48.4	0.7 × 0.6 × 0.4	時期比定困難	
P208	II区	G7	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P209	II区	G7	円形	48.4	0.6 × 0.6 × 0.3	時期比定困難	
P210	II区	G6	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P211	II区	F3	不整形	48.4	0.6 以上 × 1.0 × 0.1	時期比定困難	P212 と結合
P212	II区	F3	—	—	—	時期比定困難	P211 と結合
P213	II区	G5	円形	48.4	0.3 以上 × 0.4 × 0.1	時期比定困難	
P214	II区	E8	円形	48.4	0.6 × 0.6 × 0.4	時期比定困難	
P215	II区	D8	不整楕円形	48.3	0.6 × 0.7 × 0.1	時期比定困難	
P216	II区	D6・E6	不整円形	48.4	0.6 × 0.6 × 0.1	時期比定困難	
P217	II区	D6	不整楕円形	48.4	0.4 × 0.6 × 0.1	古代	
P218	II区	D7	円形	48.2	0.3 × 0.2 × 0.3	時期比定困難	
P219	II区	D7	楕円形	48.2	0.6 × 0.7 × 0.3	時期比定困難	
P220	II区	—	—	—	—	—	欠番
P221	II区	D7	不整円形	48.2	0.5 × 0.5 × 0.1	時期比定困難	
P222	II区	C7	不整楕円形	48.2	0.6 × 0.8 × 0.2	古代	P232 と結合
P223	II区	C7	円形	48.2	0.5 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	
P224	II区	D7	円形	48.2	0.3 × 0.3 × 0.05	時期比定困難	
P225	II区	C7	長楕円形	48.2	0.4 × 0.7 × 0.1	時期比定困難	
P226	II区	D8・E8	不整長楕円形	48.3	0.5 × 1.1 × 0.3	古代	
P227	II区	D7	円形	48.2	0.1 × 0.1 × 0.1	時期比定困難	
P228	II区	C7	楕円形	48.2	0.1 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P229	II区	D7	円形	48.2	0.3 × 0.3 × 0.07	時期比定困難	
P230	II区	D7	円形	48.2	0.3 × 0.4 × 0.2	古代	
P231	II区	C7	円形	48.2	0.1 × 0.1 × 0.1	時期比定困難	
P232	II区	C7	—	—	—	時期比定困難	P222 と結合
P233	II区	C7	円形	48.2	0.3 × 0.3 × 0.04	時期比定困難	
P234	II区	F4	円形	48.3	0.5 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	
P235	II区	F4	円形	48.3	0.7 × 0.7 × 0.08	時期比定困難	
P236	II区	F4	円形	48.3	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P237	II区	F4	円形	48.3	0.4 × 0.4 × 0.4	時期比定困難	
P238	II区	F4	楕円形	48.3	0.4 × 0.2 × 0.2	時期比定困難	
P239	II区	F4	不整形	48.3	0.2 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模 (m)	時期	備考
P240	II区	F4	楕円形	48.3	0.3 × 0.5 × 0.2	時期比定困難	
P241	II区	F4	不整形	48.3	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P242	II区	D8	円形	48.3	0.2 × 0.2 × 0.3	時期比定困難	
P243	II区	D8	不整形楕円形	48.2	0.9 × 0.8 × —	時期比定困難	
P244	II区	D8	不整形楕円形	48.3	0.5 × 0.7 × 0.3	時期比定困難	
P245	II区	D8	楕円形	48.3	0.4 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P246	II区	E9	楕円形	48.1	0.4 × 0.6 × 0.2	時期比定困難	
P247	II区	E9	楕円形	48.1	0.6 × 0.9 × 0.4	時期比定困難	
P248	II区	—	—	—	—		欠番
P249	II区	F8	円形	48.2	0.5 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	
P250	II区	F8	円形	48.1	0.6 × 0.5 × 0.1	時期比定困難	
P251	II区	F8	円形	48.1	0.5 × 0.4 × 0.3	時期比定困難	
P252	II区	D9	円形	48.3	0.2 × 0.2 × 0.2	時期比定困難	
P253	II区	F4	隅丸方形	48.5	0.5 × 0.6 × 0.3	時期比定困難	
P254	II区	F5	不整形楕円形	48.4	0.8 × 0.7 × 0.4	時期比定困難	
P255	II区	H8	円形	48.4	0.6 × 0.6 × 0.3	時期比定困難	
P256	II区	H8	円形	48.4	0.5 × 0.5 × 0.2	時期比定困難	
P257	II区	I9	隅丸方形	48.3	0.6 × 0.6 × 0.4	古代	
P258	II区	I9	隅丸方形	48.4	0.7 × 0.6 × 0.4	古代	
P259	II区	H7	円形	48.6	0.4 × 0.4 × 0.3	時期比定困難	
P260	II区	H7	円形	48.6	0.2 × 0.2 × 0.3	時期比定困難	
P261	II区	H7	円形	48.6	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P262	II区	H7	円形	48.6	0.4 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	
P263	II区	G7	不整形	48.2	0.4 × 0.4 × 0.1	時期比定困難	
P264	II区	H7	楕円形	48.4	0.3 × 0.4 × 0.1	時期比定困難	
P265	II区	I8	円形	48.4	0.7 × 0.7 × 0.2	時期比定困難	
P266	II区	I8	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P267	II区	H8・I8	円形	48.4	0.6 × 0.6 × 0.2	時期比定困難	
P268	II区	I8	円形	48.4	0.5 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	
P269	II区	H8	不整形	48.4	0.4 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P270	II区	H8	不整形	48.4	1.0 × 1.0 × 0.1	時期比定困難	
P271	II区	H9	不整形	48.4	0.5 × 0.4 × 0.3	時期比定困難	
P272	II区	H9	隅丸方形	48.4	0.6 × 0.6 × 0.3	時期比定困難	
P273	II区	H9	不整形	48.4	0.3 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P274	II区	I9	隅丸方形	48.3	0.6 × 0.5 × 0.2	時期比定困難	
P275	II区	J10	円形	48.5	0.7 × 0.7 × 0.2	時期比定困難	
P276	II区	J9	円形	48.5	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P277	II区	J9	円形	48.5	0.5 × 0.5 × 0.1	時期比定困難	
P278	II区	J9	円形	48.5	0.7 × 0.7 × 0.4	時期比定困難	
P279	II区	J8	不整形楕円形	48.5	0.8 × 0.4 × 0.4	時期比定困難	
P280	II区	J8	円形	48.5	0.6 × 0.6 × 0.4	古代	
P281	II区	F9・G9	楕円形	48.3	0.7 × 0.5 × 0.2	時期比定困難	
P282	II区	H6・H7	円形	48.7	0.6 × 0.6 × 0.4	時期比定困難	
P283	II区	H8・H9	円形	48.4	0.8 × 0.9 × 0.2	時期比定困難	
P284	II区	I8	—	—	—		
P285	II区	J9	円形	48.4	0.4 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P286	II区	K9	円形	48.4	0.4 × 0.4 × 0.4	時期比定困難	
P287	II区	G9	円形	48.3	0.4 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P288	II区	—	—	—	—		欠番
P289	II区	K9	円形	48.4	0.5 × 0.5 × 0.2	時期比定困難	
P290	II区	J9	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P291	II区	K8・K9	不整形楕円形	48.5	0.5 × 0.4 × 0.4	時期比定困難	
P292	II区	K8	楕円形	48.5	0.3 × 0.5 × 0.2	時期比定困難	
P293	II区	H8	円形	48.4	0.6 × 0.6 × 0.3	時期比定困難	
P294	II区	G9	円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P295	II区	J8・K8	円形	48.5	0.2 × 0.2 × 0.2	時期比定困難	
P296	II区	G8	不整形楕円形	48.2	0.5 × 0.6 × 0.5	時期比定困難	
P297	II区	F8・G8	楕円形	48.2	0.5 × 0.6 × 0.3	時期比定困難	
P298	II区	F9	円形	48.2	0.6 × 0.6 × 0.3	時期比定困難	
P299	II区	I6	円形	48.5	0.3 × 0.3 × 0.3	時期比定困難	
P300	II区	I6	円形	48.5	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P301	II区	I6	円形	48.5	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P302	II区	F8・G8	不整形楕円形	48.3	0.3 × 0.4 × 0.1	時期比定困難	
P303	II区	G8	不整形楕円形	48.1	0.3 × 0.4 × 0.1	時期比定困難	
P304	II区	H9	隅丸方形	48.4	0.4 × 0.5 × 0.1	時期比定困難	
P305	II区	H4	円形	48.8	0.2 × 0.2 × 0.2	近世以降	
P306	II区	H4	円形	48.8	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P307	II区	H6	楕円形	48.5	0.4 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	
P308	II区	H9	楕円形	48.4	0.3 × 0.4 × 0.1	時期比定困難	
P309	II区	H9・I9	不整形	48.3	0.5 × 0.5 × 0.1	時期比定困難	
P310	II区	H5	円形	48.7	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P311	II区	H4・H5	円形	48.8	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P312	II区	K8	円形	48.5	0.3 × 0.4 × 0.4	時期比定困難	
P313	II区	J6	楕円形	48.5	0.3 × 0.4 × 0.1	時期比定困難	

遺構一覧表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模 (m)	時期	備考
P314	Ⅱ区	J6	円形	48.5	0.4 × 0.4 × 0.2	時期比定困難	
P315	Ⅱ区	J5	円形	48.5	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P316	Ⅱ区	J5	円形	48.6	0.2 × 0.2 × 0.2	時期比定困難	
P317	Ⅱ区	I5	円形	48.7	0.3 × 0.3 × 0.3	時期比定困難	
P318	Ⅱ区	K7	円形	48.5	0.5 × 0.5 × 0.4	時期比定困難	
P319	Ⅱ区	K8	円形	48.5	0.5 × 0.5 × 0.4	時期比定困難	
P320	Ⅱ区	J8	楕円形	48.5	0.4 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P321	Ⅱ区	I5・I6	不整形円形	48.5	0.4 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P322	Ⅱ区	I7・J7	円形	48.3	0.4 × 0.4 × 0.2	時期比定困難	
P323	Ⅱ区	J6	不整形円形	48.4	0.3 × 0.3 × 0.2	古代	
P324	Ⅱ区	I6	円形	48.5	0.3 × 0.3 × 0.2		掘乱
P325	Ⅱ区	H6	円形	48.7	0.5 × 0.4 × 0.2	時期比定困難	
P326	Ⅱ区	H8	楕円形	48.2	0.7 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	
P327	Ⅱ区	G5・G6	円形	48.3	0.6 × 0.6 × 0.4	時期比定困難	
P328	Ⅱ区	H4	隅丸方形	48.3	0.6 × 0.7 × 0.3	時期比定困難	
P329	Ⅱ区	K8	円形	48.5	0.2 × 0.2 × 0.2	時期比定困難	
P330	Ⅱ区	L6	不整形円形	48.5	0.6 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	
P331	Ⅱ区	L5・L6	円形	48.6	0.5 × 0.5 × 0.5	時期比定困難	
P332	Ⅱ区	—	—	—	—		欠番
P333	Ⅱ区	—	—	—	—		欠番
P334	Ⅱ区	M5	楕円形	48.6	0.3 × 0.2 × 0.3	時期比定困難	
P335	Ⅱ区	—	—	—	—		欠番
P336	Ⅱ区	M5	不整形楕円形	48.4	0.3 × 0.2 × 0.2	時期比定困難	
P337	Ⅱ区	H4	円形	48.2	0.6 × 0.6 × 0.2	時期比定困難	
P338	Ⅱ区	—	—	—	—		欠番
P339	Ⅱ区	N5・N6	円形	48.6	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P340	Ⅱ区	I4	円形	48.3	0.6 × 0.6 × 0.5	時期比定困難	
P341	Ⅱ区	I5	円形	48.5	0.3 以上 × 0.4 × 0.2	時期比定困難	
P342	Ⅱ区	J5	不整形	48.4	0.1 × 0.2 × 0.06	時期比定困難	
P343	Ⅱ区	J5	円形	48.5	0.3 × 0.3 × 0.3	時期比定困難	
P344	Ⅱ区	J4	楕円形	48.4	0.4 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	
P345	Ⅱ区	I6	円形	48.5	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P346	Ⅱ区	I4	円形	48.4	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P347	Ⅱ区	—	—	—	—		欠番
P348	Ⅱ区	K5	円形	48.6	0.3 以上 × 0.4 × 0.05	時期比定困難	
P349	Ⅱ区	H5	不整形円形	48.4	0.6 × 0.6 × 0.5	時期比定困難	
P350	Ⅱ区	H5	円形	48.3	0.2 × 0.2 × 0.3	時期比定困難	
P351	Ⅱ区	—	—	—	—		欠番
P352	Ⅱ区	L7	円形	48.5	0.2 × 0.2 × 0.3	時期比定困難	
P353	Ⅱ区	K8	円形	48.4	0.5 × 0.5 × 0.4	時期比定困難	
P354	Ⅱ区	L9	円形	48.5	0.4 × 0.4 × 0.5	時期比定困難	
P355	Ⅱ区	L9	円形	48.5	0.3 × 0.3 × 0.3	時期比定困難	
P356	Ⅱ区	L10	不整形楕円形	48.4	0.5 × 0.6 × 0.2	時期比定困難	
P357	Ⅱ区	P5	円形	48.7	0.2 以上 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P358	Ⅱ区	P5	不整形円形	48.7	0.3 以上 × 0.4 × 0.1	時期比定困難	
P359	Ⅱ区	O6・P6	円形	48.7	0.3 × 0.3 × 0.05	時期比定困難	
P360	Ⅱ区	N7	円形	48.6	0.4 × 0.4 × 0.2	時期比定困難	
P361	Ⅱ区	K5	円形	48.5	0.4 × 0.4 × 0.3	時期比定困難	
P362	Ⅱ区	K5	円形	48.5	0.4 × 0.4 × 0.1	時期比定困難	
P363	Ⅱ区	M7	円形	48.6	0.2 × 0.2 × 0.4	時期比定困難	
P364	Ⅱ区	L6	不整形	48.5	0.3 以上 × 0.1 以上 × 0.1	時期比定困難	
P365	Ⅱ区	L6	不整形	48.5	0.1 以上 × 0.1 以上 × 0.1	時期比定困難	
P366	Ⅱ区	L6	楕円形	48.4	0.4 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P367	Ⅱ区	L5	不整形円形	48.4	0.5 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	
P368	Ⅱ区	—	—	—	—		欠番
P369	Ⅱ区	I8	楕円形	48.3	0.1 × 0.2 × 0.2	時期比定困難	
P370	Ⅱ区	I8	円形	48.4	0.3 × 0.2 以上 × 0.2	時期比定困難	
P371	Ⅱ区	J8	楕円形	48.3	0.1 × 0.3 × 0.07	時期比定困難	
P372	Ⅱ区	J8	不整形円形	48.4	0.5 × 0.5 × 0.2	時期比定困難	
P373	Ⅱ区	G8	円形	48.4	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P374	Ⅱ区	H8	—	—	—	時期比定困難	
P375	Ⅱ区	G7	円形	48.4	0.2 × 0.2 × 0.4	時期比定困難	
P376	Ⅱ区	G4	円形	48.3	0.4 × 0.4 × 0.3	時期比定困難	
P377	Ⅱ区	F5	楕円形	48.3	0.3 × 0.5 × 0.2	時期比定困難	
P378	V区	X15	円形	50.1	0.1 × 0.1 × 0.1	時期比定困難	
P379	V区	Y15	円形	50.1	0.1 × 0.1 × 0.1	時期比定困難	
P380	V区	Y15	円形	50.1	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P381	V区	Y15	楕円形	50.0	0.3 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P382	V区	X17	円形	49.9	0.2 × 0.2 × 0.04	時期比定困難	
P383	V区	Y17	円形	50.0	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P384	V区	Y17	円形	50.1	0.2 × 0.2 × 0.07	時期比定困難	
P385	V区	Z17	円形	50.2	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P386	V区	Z17	円形	50.2	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P387	V区	Z17	円形	50.2	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模 (m)	時期	備考
P388	V区	Z17	円形	50.2	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P389	V区	Z16	円形	50.2	0.2 × 0.3 × 0.03	時期比定困難	
P390	V区	A16	円形	50.0	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P391	V区	B17	円形	50.3	0.3 × 0.3 × 0.04	時期比定困難	
P392	V区	A17	不整形	50.2	0.7 × 0.7 × 0.07	時期比定困難	
P393	V区	A17	円形	50.2	0.1 × 0.1 × 0.07	時期比定困難	
P394	V区	A16	円形	50.2	0.1 × 0.1 × 0.1	時期比定困難	
P395	V区	A16	円形	50.2	0.1 × 0.1 × 0.07	時期比定困難	
P396	V区	A18	円形	50.2	0.3 × 0.3 以上 × 0.3	時期比定困難	
P397	V区	A18	円形	50.2	0.3 × 0.3 以上 × 0.4	時期比定困難	
P398	V区	B18	円形	50.3	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P399	V区	B18	円形	50.2	0.3 × 0.3 × 0.3	時期比定困難	
P400	V区	C18	円形	50.3	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P401	V区	B17	円形	50.3	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P402	V区	B・C17	円形	50.3	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P403	V区	B17	円形	50.2	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P404	V区	—	—	—	—		
P405	V区	B17	円形	50.3	0.2 × 0.2 × 0.2	時期比定困難	
P406	V区	B・C17	楕円形	50.3	0.5 × 0.6 × 0.06	時期比定困難	
P407	V区	C18	円形	50.3	0.3 × 0.3 × 0.05	時期比定困難	
P408	V区	C18	円形	50.3	0.4 × 0.4 × 0.04	時期比定困難	
P409	V区	C18	円形	50.2	0.3 × 0.2 × 0.3	時期比定困難	
P410	V区	C17	—	—	—	時期比定困難	
P411	V区	C17	円形	50.3	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P412	V区	X16・17	円形	50.0	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P413	V区	B16	円形	50.2	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P414	V区	D17	—	50.2	0.5 × (0.5) × 0.1	時期比定困難	
P415	V区	—	—	—	—		
P416	V区	D17	—	—	—	時期比定困難	
P417	V区	D17	円形	50.3	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P418	V区	E18	—	—	—	時期比定困難	
P419	V区	E18	—	—	—	時期比定困難	
P420	V区	E17	—	—	—	時期比定困難	
P421	V区	F18	円形	50.4	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P422	V区	F18	円形	50.4	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P423	V区	F18	円形	50.4	0.1 × 0.1 × 0.05	時期比定困難	
P424	V区	F18	円形	50.4	0.1 × 0.1 × 0.05	時期比定困難	
P425	V区	F18	円形	50.4	0.4 × 0.4 × 0.1	時期比定困難	
P426	V区	D18	楕円形	50.3	0.6 × 0.9 × 0.1	時期比定困難	
P427	V区	F17	—	—	—	時期比定困難	
P428	V区	G18	円形	50.4	0.1 × 0.1 × 0.1	時期比定困難	
P429	V区	—	—	—	—	時期比定困難	
P430	V区	G18	不整楕円形	50.4	0.3 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P431	V区	Y15	不整円形	50.0	0.2 × 0.2 × 0.07	時期比定困難	
P432	V区	B18	不整形	50.2	— × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P433	V区	G18	不整円形	50.4	0.1 × 0.1 × 0.07	時期比定困難	
P434	V区	Y15	円形	49.9	0.1 × 0.1 × 0.08	時期比定困難	
P435	V区	E17	—	—	—	時期比定困難	
P436	V区	E17	—	—	—	時期比定困難	
P437	V区	E17	—	—	—	時期比定困難	
P438	V区	D17・18	—	—	—	時期比定困難	
P439	V区	F18	円形	50.3	0.1 × 0.1 × 0.1	時期比定困難	
P440	V区	F17	円形	50.3	0.1 × 0.1 × 0.1	時期比定困難	
P441	V区	F17	不整円形	50.3	0.3 × 0.3 以上 × 0.08	時期比定困難	
P442	V区	Y15	—	—	—	時期比定困難	
P443	V区	Y15	—	—	—	時期比定困難	
P444	Ⅲ区	Y9	円形	49.0	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P445	Ⅲ区	Z9	円形	49.0	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P446	Ⅲ区	Z9	円形	49.0	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P447	Ⅲ区	Y9	楕円形	49.0	0.4 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P448	Ⅲ区	Z10	円形	49.1	0.4 × 0.4 × 0.3	時期比定困難	
P449	Ⅲ区	Z10	楕円形	49.1	0.4 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P450	Ⅲ区	Z10	円形	49.1	0.2 × 0.2 × 0.3	時期比定困難	
P451	Ⅲ区	A10	不整楕円形	49.1	0.4 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P452	Ⅲ区	A10	円形	49.1	0.4 × 0.4 × 0.3	時期比定困難	
P453	Ⅲ区	B10	円形	49.1	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P454	Ⅲ区	B10	円形	49.1	0.3 × 0.3 × 0.3	時期比定困難	
P455	Ⅲ区	B10	円形	49.2	0.6 × 0.5 × 0.2	時期比定困難	
P456	Ⅲ区	C10	楕円形	49.1	0.3 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P457	Ⅲ区	C10	円形	49.1	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P458	Ⅲ区	C9・C10	楕円形	49.1	0.2 × 0.4 × 0.3	時期比定困難	
P459	Ⅲ区	C9	円形	48.5	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P460	Ⅲ区	C9	円形	48.6	0.4 × 0.4 × 0.3	時期比定困難	
P461	Ⅲ区	C9・D9	円形	48.6	0.2 × 0.2 × 0.5	時期比定困難	

遺構一覽表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模 (m)	時期	備考
P462	Ⅲ区	Z12	楕円形	49.0	0.4 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P463	Ⅲ区	X12	楕円形	49.0	0.4 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P464	Ⅲ区	X11	円形	49.0	0.2 × 0.2 × 0.2	時期比定困難	
P465	Ⅲ区	Y10	楕円形	49.0	0.4 × 0.3 × 0.3	時期比定困難	
P466	Ⅲ区	Y13	円形	49.1	0.5 × 0.5 × 0.1	時期比定困難	
P467	Ⅲ区	Y13・Z13	円形	49.1	0.5 × 0.5 × 0.1	時期比定困難	
P468	Ⅳ区	L11	円形	49.5	0.3 × 0.2 × 0.3	時期比定困難	
P469	Ⅳ区	I12	円形	49.2	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P470	Ⅳ区	K11	円形	49.5	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P471	Ⅳ区	K11	円形	49.5	0.2 × 0.2 × 0.4	時期比定困難	
P472	Ⅳ区	K11	円形	49.5	0.2 × 0.2 × 0.3	時期比定困難	
P473	Ⅳ区	K11	円形	49.5	0.2 × 0.2 × 0.4	時期比定困難	
P474	Ⅳ区	K11	長楕円形	49.5	0.3 × 0.6 × 0.2	時期比定困難	
P475	Ⅳ区	J12	円形	49.5	0.3 × 0.3 × 0.4	時期比定困難	
P476	Ⅳ区	L12	円形	49.6	0.3 × 0.3 × 0.3	時期比定困難	
P477	Ⅳ区	L12	円形	49.6	0.3 × 0.3 × 0.3	時期比定困難	
P478	Ⅳ区	M11	楕円形	49.5	0.4 × 0.3 × 0.3	時期比定困難	
P479	Ⅳ区	L12	楕円形	49.6	0.4 × 0.3 × 0.4	時期比定困難	
P480	Ⅳ区	L12	不整楕円形	49.6	0.4 以上 × 0.4 × 0.1	時期比定困難	
P481	Ⅳ区	M13	円形	49.6	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P482	Ⅳ区	M13	円形	49.6	0.2 × 0.2 × 0.06	時期比定困難	
P483	Ⅳ区	J10	円形	49.3	0.2 × 0.2 × 0.2	時期比定困難	
P484	Ⅳ区	K11	楕円形	49.5	0.6 × 0.4 × 0.4	時期比定困難	
P485	Ⅳ区	L11	楕円形	49.5	0.4 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P486	Ⅳ区	J10	楕円形	49.4	0.4 × 0.3 × 0.4	時期比定困難	
P487	Ⅳ区	J10	楕円形	49.4	0.3 × 0.2 × 0.3	時期比定困難	
P488	Ⅳ区	F9・F10	楕円形	49.2	0.2 × 0.4 × 0.1	時期比定困難	
P489	Ⅳ区	F10	円形	49.2	0.2 × 0.2 × 0.5	時期比定困難	
P490	Ⅳ区	E10	円形	49.2	0.3 × 0.3 × 0.3	時期比定困難	
P491	Ⅳ区	F10	円形	49.2	0.3 × 0.3 × 0.3	時期比定困難	
P492	Ⅳ区	E11	円形	49.3	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P493	Ⅳ区	E11・F11	円形	49.3	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P494	Ⅳ区	F10・F11	円形	49.2	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P495	Ⅳ区	F11	楕円形	49.3	0.6 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P496	Ⅳ区	F11	円形	49.3	0.3 × 0.4 × 0.2	時期比定困難	
P497	Ⅳ区	F11	円形	49.3	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P498	Ⅳ区	E9	円形	49.2	0.1 × 0.1 × 0.1	時期比定困難	
P499	Ⅳ区	G10	円形	49.3	0.2 × 0.2 × 0.2	時期比定困難	
P500	Ⅳ区	G10	円形	49.3	0.3 × 0.3 × 0.06	時期比定困難	
P501	Ⅳ区	G10	隅丸方形	49.3	0.4 × 0.4 × 0.3	時期比定困難	
P502	Ⅳ区	G10	円形	49.3	0.2 × 0.2 × 0.3	時期比定困難	
P503	Ⅳ区	D11	円形	49.3	0.2 × 0.2 × 0.3	時期比定困難	
P504	Ⅳ区	E10	楕円形	49.2	0.2 × 0.3 × 0.3	時期比定困難	
P505	Ⅳ区	G11	円形	49.3	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P506	Ⅳ区	D11・E11	円形	49.3	0.4 × 0.4 × 0.1	時期比定困難	
P507	Ⅳ区	D10	円形	49.2	0.3 × 0.2 × 0.2	時期比定困難	
P508	Ⅳ区	D9	円形	49.2	0.2 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P509	Ⅳ区	D10	円形	49.2	0.2 × 0.2 × 0.2	時期比定困難	
P510	Ⅳ区	D10	円形	49.2	0.3 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P511	Ⅳ区	D10	円形	49.2	0.4 × 0.4 × 0.3	時期比定困難	
P512	Ⅳ区	E10	円形	49.2	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P513	Ⅳ区	D9	楕円形	49.2	0.6 × 0.7 × 0.3	時期比定困難	
P514	Ⅳ区	E9	円形	49.2	0.3 × 0.3 × 0.4	時期比定困難	
P515	Ⅳ区	D10	円形	49.1	0.3 × 0.3 × 0.2	時期比定困難	
P516	Ⅳ区	D9	円形	49.2	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P517	Ⅳ区	D9	不整形	49.2	0.1 以上 × 0.5 × 0.05	時期比定困難	
P518	Ⅳ区	D9	不整円形	49.2	0.2 以上 × 0.3 × 0.05	時期比定困難	
P519	Ⅳ区	D9	円形	49.2	0.2 以上 × 0.3 × 0.1	時期比定困難	
P520	Ⅳ区	D10	円形	49.1	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P521	Ⅳ区	C14	楕円形	49.2	0.4 × 0.7 × 0.3	時期比定困難	
P522	Ⅳ区	G11	円形	49.3	0.2 × 0.2 × 0.06	時期比定困難	
P523	Ⅳ区	G12	円形	49.3	0.2 × 0.2 × 0.3	時期比定困難	
P524	Ⅳ区	—	—	—	—		欠番
P525	Ⅳ区	G13	円形	49.1	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P526	Ⅳ区	G13	円形	49.1	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P527	Ⅳ-4区	—	楕円形	49.7	0.7 × 0.5 × 0.3	時期比定困難	
P601	I区	C6	不整円形	48.3	0.5 × 0.4 × 0.2	時期比定困難	
P602	II区	H8	不整楕円形	48.7	0.4 × 0.5 × 0.1	時期比定困難	
P603	II区	D7	円形	48.2	0.2 × 0.2 × 0.1	時期比定困難	
P604	II区	G5	不整円形	48.4	0.3 以上 × 0.4 × 0.3	時期比定困難	
P605	II区	F5	不整円形	48.3	0.5 × 0.6 × 0.2	時期比定困難	
P606	II区	I6	楕円形	48.5	0.3 × 0.4 × 0.3	時期比定困難	
P607	II区	J6	不整形	48.5	0.4 × 0.1 以上 × 0.3	時期比定困難	
P608	II区	M8	円形	48.6	0.3 × 0.3 × 0.3	時期比定困難	

SG

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模 (m)	時期	備考
SG1	V区	D18	円形	50.4	0.5 × 0.6 × 0.2	弥生時代末～古墳時代初頭	
SG2	V区	C18・D18	円形	50.4	0.5 × 0.4 × 0.1	弥生時代末～古墳時代初頭	
SG3	V区	C17	不整形	50.3	0.6 × 0.6 × 0.1	弥生時代末～古墳時代初頭	
SG4	V区	C17	—	50.2	—		土器溜り
SG5	V区	E17	円形	50.4	0.3 × 0.4 × 0.1	弥生時代末～古墳時代初頭	
SG6	V区	E18・F18	不整形	50.4	0.3 × 0.4 × 0.1	弥生時代末～古墳時代初頭	
SG7	V区	E18	不整形	50.3	0.3 × 0.4 × 0.2	弥生時代末～古墳時代初頭	
SG8	V区	E18	不整形	—	0.4 × 0.4 × 0.1	弥生時代末～古墳時代初頭	
SG9	V区	E18	円形	50.4	1.2 × 1.2 × 0.1	弥生時代末～古墳時代初頭	
SG10	V区	E18	不整形	50.4	1.4 × 1.8 × 0.1	弥生時代末～古墳時代初頭	
SG11	V区	E18	不整形	50.4	0.8 × — × 0.07	弥生時代末～古墳時代初頭	
SG12	V区	D18	円形	50.3	0.4 × 0.4 × 0.1	弥生時代末～古墳時代初頭	
SG13	V区	D17	楕円形	50.2	0.4 × 0.5 × 0.2	弥生時代末～古墳時代初頭	
SG14	V区	D18	楕円形	50.3	0.4 × 0.3 × 0.1	弥生時代末～古墳時代初頭	
SG15	V区	E18	不整形	50.3	— × 0.5 × 0.4	弥生時代末～古墳時代初頭	
SG16	V区	C18	楕円形	50.2	0.5 × 0.7 × 0.2	弥生時代末～古墳時代初頭	

SX

遺構名	調査区	グリッド	平面形	検出標高	規模 (m)	備考
SX0	I区	D5・D6・D7・E5・E6・E7	不整形	48.5	—	ST5, 6, SK37
SX1	I区	U4・U5・U6・V5・V6	不整形	48.5	7.5 以上 × 0.9 以上 × 0.3	
SX2	I区	—	—	—	—	欠番
SX3	I区	U5・U6・V4・V5・V6・W5・W6	不整形	48.3	7.6 以上 × 7.6 以上 × 0.2	竪穴住居跡か。古墳時代後期か。
SX3-P1	I区	U6	円形	48.1	0.4 × 0.4 × 0.02	
SX3-P2	I区	U6・V6	円形	48.1	0.5 × 0.5 × 0.3	
SX3-P3	I区	U6	不整形	48.0	0.2 × 0.3 × 0.3	
SX3-P4	I区	V6	円形	48.1	0.4 × 0.5 × 0.04	
SX3-P5	I区	V6	円形	48.1	0.3 × 0.3 × 0.07	
SX3-P6	I区	V6	不整形	48.1	0.3 × 0.4 × 0.02	
SX3-P7	I区	V6	円形	48.2	0.3 × 0.3 × 0.08	
SX3-SK1	I区	V6	不整形	48.1	0.9 × 0.6 × 0.1	
SX3-SD1	I区	V6・W6	—	48.1	2.8 × 0.4 × 0.03	
SX4	I区	A6・A7・B6・B7・C6・C7	隅丸方形	48.4	3.2 × 4.0 × 0.1	竪穴住居跡
SX4-P1	I区	B6	円形	48.3	0.3 × 0.3 × 0.02	
SX4-P2	I区	B6	円形	48.3	0.5 × 0.3 × 0.1	
SX4-P3	I区	B6	不整形	48.3	0.7 × 0.5 × 0.1	
SX4-P4	I区	B6	楕円形	48.3	0.4 × 0.2 × 0.1	
SX4-P5	I区	B7	不整形	48.3	0.5 × 0.5 × 0.3	
SX4-P6	I区	B7	不整形	48.3	0.3 × 0.3 × 0.2	
SX4-P7	I区	C7	楕円形	48.3	0.1 × 0.2 × 0.1	
SX4-P8	I区	C6	楕円形	48.3	0.1 × 0.2 × 0.1	
SX4-P9	I区	B6	円形	48.3	0.3 × 0.3 × 0.2	
SX4-SK1	I区	B7	隅丸方形	48.3	1.2 × 1.0 × 0.06	
SX4-SK2	I区	B7	隅丸方形	48.3	1.5 × 1.5 × 0.1	
SX4-SK3	I区	B7	隅丸方形	48.3	0.5 × 0.7 × 0.3	
SX4-SD1	I区	C6・C7	—	48.3	3.0 × 0.2 × 0.05	
SX5	I区	B8・C8・C9・D8・D9	不整形	48.4	2.0 以上 × 2.0 以上 × 0.05	遺物包含層 [II層] か
SX6	I区	D3・D4・E3・E4	不整形	48.5	— × — × 0.05	
SX7	I区	A8・B8	不整形	48.3	— × — × —	
SX8	I区	C9	不整形	48.4	— × — × —	
SX9	II区	—	不整形	48.3	— × — × —	SK77, 遺物包含層 [II層] か
SX10	II区	C8・C9・D8	不整形	48.3	2.6 × 1.6 × 0.1	
SX11	II区	K4・K5・L4・L5	隅丸方形	48.5	5.6 × 5.6 × 0.5	
SX12	V区					
SX13	III区	Y11・Y12・Z10・Z11・Z12・A10・A11・A12・B11・B12	不整形	—	—	ST17, 19, 20
SX14	III区	X9	不整形	48.9	2.8 以上 × 1.6 × 0.1	
SX15	IV区	I12・I13・J12・J13	不整形	49.4	3.6 × 4.0 以上 × 0.1	竪穴住居か
SX15-中央P	IV区	J13	楕円形	49.2	1.6 × 1.2 × 0.1	
SX16	IV区	I10・I11・I12・J10・J11・J12・K10・K11	不整形	—	—	SX17, ST24
SX17	IV区	I10・I11・I12・J10・J11・J12	不整形	49.3	6.5 × 2.7 以上 × 0.1	
SX18	IV区	L11	不整形楕円形	49.5	0.7 × 2.4 × 0.2	
SX19	IV区	H10・H11・H12・H13・H14	—	—	—	
SX20	IV区	E11・E12・E13・F11・F12・F13	—	—	—	ST28, 29
SX21	IV区	G11・G12	不整形	49.3	—	SX20, 21
SX22	IV区	E14・F14	不整形	49.4	2.0 以上 × 5.0 以上 × 0.1	
SX23	V区					
SX24	II区	G4・H4・H5・I4・I5	不整形	—	—	遺物包含層 [II層] か

遺物觀察表

凡例

器種：以下のように略記した。

弥生	弥生土器
ミニ	ミニチュア土器
土師	土師器
土師質	土師質土器
須恵	須恵器

層位等：以下のように略記した。

バ	バンク
サ	サブトレ
ベ	ベッド

法量：()内は復原値

色調：標準土色帖を使用した。

胎土：最大粒径(mm)と砂粒の含有量で表し、以下のように略記した。

火山ガ	火山ガラス
角	角閃石

特徴：調整は、外面の調整と内面の調整を「/」でわけて記した。

備考：黒斑	黒斑有り。
キレッツ	器面に亀裂が認められる。
搬入()	搬入品(制作候補地)
スス	スス付着。
おこげ	おこげ付着。
完	完形。
ほぼ完	ほぼ完形。
ヘラ	ヘラ切り。
糸	糸切り。

「/」で併記した。

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器種	器形	調査区	法量			色調			胎土	特徴	備考
							口径	器高	底径	内面	外面	断面			
13	1	ST1	下層	弥生	壺		(17.7)			7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	4/少	ハケ/ハケ	
〃	2	ST1	中層	弥生	壺	X4・5	(20.4)			5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	5Y5/1 灰色	2/少	ハケ後ナデ/ハケ	
〃	3	ST1	No.13/ 下層	弥生	複合 口壺		13.4			5YR6/6 橙色	7.5YR5/4 にぶい褐色	5Y4/1 灰色	2/少	ハケ・ナデ/ ナデ・ハケ	若干スス
〃	4	ST1	中層	弥生	壺					5YR5/6 明赤褐色	5YR6/6 橙色	5Y4/1 灰色	2/やや多	ナデ/摩耗	
〃	5	ST1	下層	弥生	複合 口壺	W・X5	(16.0)			2.5YR6/6 橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	5Y5/1 灰色	2/少	ナデ・ハケ/ナデ	
〃	6	ST1	上層	弥生	複合 口壺	W5	19.7			7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR6/6 橙色	7.5YR5/2 灰褐色	2/少	鋸歯・擬口縁。 ハケ/ハケ	
〃	7	ST1		弥生	甕	V5	15.0	21.0	20	5Y3/1 オリブ黒色	10YR5/2 灰黄褐色	2.5Y6/1 黄灰色	6/多 ウンモ/少	叩き後ナデ/ ハケ・底部、ナデ	穿孔/ やや歪む
〃	8	ST1	中層	弥生	甕		(17.0)			5YR6/6 橙色	7.5YR7/6 褐色	5YR6/6 褐色	2/少	叩き/ハケ後ナデ	
〃	9	ST1	No.3	弥生	甕	W4				7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	5Y6/1 灰色	3/少	叩き/ハケ・ナデ	
〃	10	ST1	バ	弥生	鉢		8.8	8.6	2.4	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	5YR6/6 褐色	2/少	叩き後ハケ/ナデ	
〃	11	ST1-P11	中層	弥生	鉢	W4	9.4	9.8	0.8	5YR6/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	2.5Y5/1 黄灰色	5/少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	黒斑
〃	12	ST1-P11		弥生	鉢		14.4			7.5YR6/6 褐色	7.5YR5/6 明褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	3/少	叩き後ナデ/ハケ	黒斑
〃	13	ST1/Ⅱ層	上層/中層/ バ	弥生	鉢	W4	(19.7)			5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	10YR5/2 灰黄褐色	3/少	ナデ/ 工具ナデ・ハケ	
〃	14	ST1/Ⅱ層	下層/ サ	弥生	鉢	W4	24.8			10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR4/1 褐色	1/ごく少	工具ナデ/ ナデ・ミガキ	キレット
〃	15	ST1-P20		弥生	鉢		9.4			5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	2/少 ウンモ/ごく少	ナデ・ハケ/ ハケ・ケズリ	スス
〃	16	ST1	No.6	弥生	壺 底部	W4			(5.4)	2.5Y4/1 黄灰色	5YR5/6 明赤褐色	7.5YR5/2 灰褐色	3/少 ウンモ/ごく少	ハケ/ ハケ・ケズリ・ナデ	黒斑
〃	17	ST1	No.10/ 中層	弥生	壺	W4			5.0	7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR6/4 にぶい黄褐色	7.5YR5/1 褐色	5/少	ナデ・叩き/ハケ	
〃	18	ST1-SK1	上層	弥生	底部	X5			3.1	2.5Y5/2 暗灰黄色	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR4/1 褐色	2/少	ハケ/ハケ	
〃	19	ST1	No.5	弥生	底部	V4			3.4	5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	10YR5/2 灰黄褐色	4/少	ハケ・叩き/ナデ	黒斑
〃	20	ST1	No.7	弥生	甕 底部	W4			4.2	10YR5/2 灰黄褐色	10YR4/1 褐色	10YR4/1 褐色	2/少 火山ガ/ごく少	ハケ/工具ナデ	葉脈痕/ 被熱変色
〃	21	ST1	サ	弥生	甕				3.8	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR4/1 褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	4/少	ハケ/ナデ	
〃	22	ST1	No.15	弥生	鉢か					7.5YR5/6 明褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR6/6 褐色	2/少	ナデ/ナデ	黒斑
〃	23	ST1	No.4	弥生	底部	X4			(3.0)	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	10YR5/1 褐色	4/少 火山ガ/ごく少	ハケ/ハケ・ナデ	
〃	24	ST1	No.14	弥生	高杯					7.5YR6/6 褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	5YR4/1 褐色	3/少 ウンモ/ごく少	ハケ後ミガキ/ 脚しぼり目・裾ハケ	
〃	25	ST1	上層	弥生	高杯	X4				7.5YR6/4 にぶい褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	N4/0 灰色	2/やや多	ナデ・ハケ/ ナデ・しぼり目	
〃	26	ST1	上層/ 下層	弥生	高杯	W・X5				5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	N4/0 灰色	2/ごく少	ハケ後ミガキ/ ナデ・ハケ	四方向に 円孔
〃	27	ST1	上層/ 下層	弥生	高杯	WX5/ X4				5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	5Y6/1 灰色	3/ごく少	ミガキ/ハケ	円孔
〃	28	ST1	バ/ 下層	弥生	ミニ	W・X5	(5.9)	3.9	2.7	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	7.5YR4/4 褐色	1/ごく少	ナデ・ミガキ/ ナデ	
〃	29	ST1	No.1	弥生	脚部	W4			9.6	7.5YR5/6 明褐色	7.5YR5/6 明褐色	10YR4/1 褐色	8/少	ナデ/ナデ	
17	35	ST2-P1		弥生	壺		(14.4)			7.5YR7/6 褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR5/1 褐色	4/少	ハケ後ミガキ/ ハケ	スス
〃	36	ST2		弥生	壺		(21.2)			7.5Y6/4 にぶい褐色	7.5Y6/4 にぶい褐色	7.5Y5/1 褐色	2/少 ウンモ/ごく少	ハケ後ミガキ/ ハケ後ナデ	
〃	37	ST2/ST2- SK1		弥生	壺	P3/Z3/ A3~5	(30.5)			5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	10YR5/1 褐色	4/少	ハケ後ミガキ/ ナデ	
〃	38	ST2		弥生	壺	A3・4				7.5YR6/4 にぶい褐色	5YR5/6 明赤褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2/少	ハケ/ハケ後ナデ	
〃	39	ST2/ST2- SK1	べ内	弥生	壺		(22.0)			7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR5/1 褐色	3/少	波状。ハケ/ハケ	
〃	40	ST2	べ内	弥生	壺		(27.4)			5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	2.5Y4/1 黄灰色	5/少	斜格子。ハケ/ 摩耗	
〃	41	ST2	べ内	弥生	壺					7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR5/1 褐色	3/少	ハケ/摩耗	
〃	42	ST2		弥生	壺	Z3				5YR6/6 褐色	5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/1 褐色	2/少	波状・竹管。ハケ/ ナデ	
〃	43	ST2		弥生	複合 口壺		14.2			7.5YR7/6 褐色	5YR7/6 褐色	7.5YR8/4 浅黄褐色	5/やや多く	ナデ/ナデ	

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器種	器形	調査区	法量			色調			胎土	特徴	備考
							口径	器高	底径	内面	外面	断面			
17	44	ST2		弥生	壺	Z4	(22.2)			7.5YR5/6 明褐色	7.5YR5/6 明褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	2/少 ガ/少	線刻。ナデ/ナデ	
〃	45	ST2	No.14/ No.15/床	弥生	壺	Z4	7.9	23.1		10YR6/4 にぶい黄褐色	7.5YR7/6 橙色	10YR6/4 にぶい黄褐色	3/少 ウンモ/ごく少	ハケ後ミガキ/ ハケ・ナデ	スス
〃	46	ST2		弥生	壺					5YR4/2 灰褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/3 にぶい赤褐色	2/少 ウンモ/ごく少	ミガキ/工具ナデ	搬入か
〃	47	ST2		弥生	甕	Z4	13.5			7.5YR6/6 橙色	10YR4/2 灰黄褐色	7.5YR5/1 褐灰色	2/少	叩き後ナデ/ハケ	スス
〃	48	ST2	べ内	弥生	甕		(16.3)			7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR5/1 褐灰色	4/少	叩き後ハケ/ハケ	
〃	49	ST2	No.8/べ 上	弥生	甕	Z4	15.5			10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	4/少	叩き/ハケ後ナデ	スス
〃	50	ST2	No.6/ No.7/べ	弥生	甕	Z4	(12.6)	19.6	3.3	7.5YR6/4 にぶい橙色	5Y3/1 オリーブ黒色	5Y5/1 灰色	3/少 火山ガ/ごく少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	スス
〃	51	ST2	No.2/べ 上	弥生	甕	Z4	(15.1)	22.6		7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR6/6 褐色	5/やや多 火山ガ/ごく少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	スス
〃	52	ST2		弥生	鉢		8.6	6.9	2.5	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	2/少 ウンモ/ごく少	叩き後ハケ/ハケ	
〃	53	ST2	べ内	弥生	鉢		10.5	6.3	3.4	5Y3/1 オリーブ黒色	7.5YR7/4 にぶい褐色	5Y3/1 オリーブ黒色	1/ごく少 ウンモ/ごく少	ナデ/ハケ	ほぼ完/ キレット
〃	54	ST2	べ内	弥生	鉢		13.2	7.3	3.7	5YR6/6 褐色	10YR6/6 明黄褐色	10YR4/1 褐灰色	3/少	叩き後ナデ/ハケ	
〃	55	ST2-SK1		弥生	鉢		(17.8)	7.4		10YR7/4 にぶい黄褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR5/1 褐灰色	5/少	ハケ/ハケ	黒斑
〃	56	ST2	No.1/べ 上	弥生	鉢	Z4	10.7	5.4		7.5YR6/6 褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	5YR4/1 褐灰色	3/少	ナデ/ハケ	ほぼ完
〃	57	ST2	No.1/べ 上	弥生	鉢	Z4	(14.0)	5.5	3.0	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	2.5Y6/2 灰黄色	3/少	叩き後ナデ/ハケ	
〃	58	ST2	No.7/べ 上	弥生	鉢	Z4	(10.5)	7.6	2.1	5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	3/少	ナデ/ナデ	キレット
〃	59	ST2	No.5/べ 上	弥生	鉢	Z4	19.9	11.8	3.7	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	4/少 火山ガ/ごく少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	ほぼ完/ 黒斑
〃	60	ST2		弥生	鉢		12.0	7.2	2.0	10YR7/4 にぶい黄褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	5Y2/1 黒色	6/やや多 火山ガ/ごく少	ハケ・ナデ/ナデ	ほぼ完/ 黒斑
〃	61	ST2	No.3/べ 上	弥生	鉢	Z4	(13.3)	8.7		5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	10YR4/1 褐灰色	5/少	叩き後・ナデ/ ハケ	
〃	62	ST2		弥生	脚部 鉢	Z3・4			(4.3)	7.5YR7/6 褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	4/少	ナデ/ナデ	
18	63	ST2	サ	弥生	鉢	Z4	(27.0)			7.5YR7/6 褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	2.5Y6/2 灰黄色	10/少	叩き/粗いハケ	
〃	64	ST2	No.14/ べ内	弥生	鉢	A3・4	35.2			7.5YR6/6 褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/1 褐灰色	3/少 火山ガ/ごく少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	
〃	65	ST2	べ内	弥生	甕				(5.9)	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	3/少 角・火山ガ/ごく少	ミガキ・ナデ/ ナデ	搬入(讀) /スス
〃	66	ST2	べ内	弥生	底部				4.8	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	2.5Y4/1 黄灰色	2/少	叩き後ナデ/ハケ	
〃	67	ST2		弥生	壺底 部	A3・4			5.0	5YR6/6 褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	10YR5/2 灰黄褐色	3/少 ウンモ/ごく少	ハケ/ナデ	
〃	68	ST2-SK3		弥生	高杯					5YR6/6 褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	2.5Y5/1 黄灰色	2/少	ミガキナデ/ ナデ	四方向に 円孔
〃	69	ST2	べ内	弥生	高杯					7.5YR7/6 褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	3少 ウンモ/ごく少	ミガキ・ハケ/ ナデ・(ハケメ)	四方向に 円孔
〃	70	ST2	べ内	弥生	不明					7.5YR5/6 明褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR3/1 黒褐色	3/少	ナデ/ナデ	
〃	72	ST2		弥生	不明	Z4				7.5YR6/6 褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR4/1 褐灰色	2/少 ウンモ/ごく少	線刻。ナデ/ハケ	
〃	73	ST2		須恵	蓋					10YR5/2 灰黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	2.5Y6/1 黄灰色	1/少	回転ケズリ。ヨコ ナデ/ヨコナデ	焼け歪む /混入
〃	74	ST2		弥生	高杯				(14.0)	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR5/1 褐灰色	3/少	凹線・羽状。ナデ/ ケズリ・ナデ	混入
20	75	ST3	No.1/バ	土師	甕	X6	(20.7)			7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7/多 ウンモ/ごく少	ナデ/ケズリ	
〃	76	ST3		須恵	蓋	X6				5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	精良	回転ナデ/ 回転ナデ	
〃	77	ST3	No.3	須恵	杯		11.8	4.9	6.8	10YR8/4 浅黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	2/ごく少	摩耗/摩耗	
〃	78	ST3	No.2	須恵	甕					2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	1/ごく少	叩き後カキメ/ 当て具痕	
〃	79	ST3-SK1		土師 か	不明					7.5YR4/2 灰褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	10YR4/2 灰黄褐色	2/少	ナデ/ナデ	ST3には 伴わない
24	81	ST5		弥生	複合 口壺	D4	(13.0)			7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	2.5Y6/1 黄灰色	3/少	ナデ/ハケ	
〃	82	ST6	バ	弥生	甕	D5	(15.5)			7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR4/1 褐灰色	3/少	叩き後ナデ/ ナデ・ハケ	スス
〃	83	ST6	バ	弥生	甕	E4				2.5Y3/1 黒褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	3/やや多	叩き後ハケ/ハケ	

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器種	器形	調査区	法量			色調			胎土	特徴	備考
							口径	器高	底径	内面	外面	断面			
24	84	ST5		弥生	鉢	E4・5/ D・E5	11.1	7.5		7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	5Y4/1 灰色	6/少	ナデ/ナデ	
25	85	ST6		弥生	鉢	D・E5	13.5			5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	10YR5/1 褐灰色	7/少	工具ナデ/ナデ	
26	86	ST5		弥生	高杯 か鉢	D4				5YR6/8 橙色	7.5YR7/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	3/少	ハケ/ナデ	
27	87	ST5	バ	弥生	高杯	E4				7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/5 橙色	7.5YR2/1 黒色	3/少 ウンモ/ごく少	ハケ/ナデ	四方向に 円孔
28	88	ST6		弥生	高杯	D4		(14.8)		7.5Y6/8 橙色	7.5Y6/8 橙色	2.5Y3/1 黄灰色	4/少 ウンモ/ごく少	ハケ/ナデ・ハケ	
29	89	ST5		弥生	高杯	D・E5				5YR6/8 橙色	5YR6/6 橙色	5Y5/2 灰オリーブ色	3/少 ウンモ/ごく少	ミガキ/ナデ	四方向に 円孔
30	90	ST6	バ	弥生	高杯	D5				5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	2.5Y6/1 黄灰色	3/少	ナデ/ナデ	四方向に 円孔
31	92	ST6	バ	弥生	壺	D5				7.5YR7/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	2.5Y3/2 黒褐色	1/少	籬状文。ハケ後ナ デ/ナデ	
32	93	ST5		弥生	壺	D4				5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	2.5Y5/1 黄灰色	2/少	7条の凹線。ナデ /ナデ	混入
33	94	ST6		土師	椀	E4	(13.6)			5YR6/8 橙色	5YR6/8 橙色	7.5YR7/6 橙色	1/ごく少 ウンモ/ごく少	ミガキ/ナデ	
34	95	ST5-P8		土師	杯	D4	(12.6)	3.2	9.1	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	5YR7/6 橙色	2/ごく少 火山ガ/ごく少	回転ケズリ後ミガキ/ 回転ナデ後ミガキ	赤彩 (ベンガラ)
35	96	ST4~6	サ	土師	甕	E5	(22.6)			5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	2/少	ハケ/ナデ	
36	97	ST5	No.3	土師	甕	E4	(29.6)			7.5YR6/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	10YR7/3 にぶい黄褐色	6/少 火山ガ/ごく少	ナデ・ハケ/ ケズリ	
37	98	ST5	No.2	弥生	甕か	E4				7.5YR7/6 橙色	7.5YR8/6 浅黄褐色	7.5YR7/4 にぶい橙色	3/やや多 火山ガ/ごく少	工具ナデ/ケズリ	黒斑
38	99	ST5		須恵	杯身	D4	11.0	3.4		2.5YR8/3 淡黄色	2.5Y7/1 灰白色	—	2/ごく少	回転ケズリ・ナデ /回転ナデ	ほぼ完
39	101	ST7	上層	弥生	壺	E7	18.6			5YR5/8 明赤褐色	7.5YR6/6 橙色	10YR5/2 灰黄褐色	4/少	ハケ/ハケ	
40	102	ST7	ベ/サ/ バ/上層	弥生	壺	E6・7	(21.2)			5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	7.5YR4/1 褐灰色	3/少	ハケ/ハケ	
41	103	ST7	No.22/ No.28	弥生	壺	E・F6	(22.3)			10YR7/6 明黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR5/1 褐灰色	3/やや多	ハケ/ハケ	
42	104	ST7		弥生	壺	E7				7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	7.5YR2/1 黒色	2/少	刻目。ナデ/ナデ	
43	105	ST7		弥生	壺か					7.5YR7/6 橙色	10YR5/2 灰黄褐色	7.5YR7/6 橙色	3/少	鋸歯・刻目。ナデ/ ナデ	
44	106	ST7		弥生	二重 口壺	E7	(17.8)			7.5YR6/6 橙色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR3/1 黒褐色	1/少	ナデ・ハケ/ ナデ・ハケ	
45	107	ST7	バ/ベ	弥生	壺	D・E7				10YR6/6 橙色	10YR4/3 にぶい黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	3/少	刺突。ハケ/ ナデ・ハケ	
46	108	ST7	上層	弥生	壺	E7				5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	2/少	刻目突帯。ハケ/ ナデ	
47	109	ST7	No.24	弥生	壺	F7				7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	2.5Y5/1 黄灰色	3/少	ハケ/ハケ	
48	110	ST7		弥生	壺	E8				5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	7.5YR5/1 褐灰色	10/少	ハケ/ハケ・ナデ	
49	111	ST7	上層	弥生	壺	D・E6				10YR5/3 にぶい黄褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	1/やや多 ウンモ/ごく少	ミガキ/ケズリ・ ナデ・しほり目	搬入/ スス
50	112	ST7	サ	弥生	細頸 壺	E8				5Y2/1 黒色	10YR6/6 明黄褐色	7.5YR6/6 橙色	4/少 火山ガ/ごく少	ミガキ/ ナデ・ハケ	黒斑
51	113	ST7	上層/ サ	弥生	壺	E7/D・ E6				7.5YR4/6 褐色	7.5YR4/6 褐色	10YR3/1 黒褐色	1/多	叩き後ハケ/ナデ	黒斑
52	114	ST7		弥生	壺	F7				10YR5/1 褐灰色	7.5YR6/6 褐色	10YR5/1 褐灰色	3/少 ウンモ/ごく少	叩き後ハケ/ハケ	
53	28	115	ST7		弥生	甕	F6	(10.2)		5YR6/6 橙色	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2/ごく少	叩き後ハケ/ナデ	スス
54	116	ST7	No.30	弥生	甕	E6	(14.2)			5YR6/6 橙色	5YR6/6 褐色	5YR5/3 にぶい赤褐色	4/やや多	叩き/ナデ	
55	117	ST7	サ	弥生	甕		17.5			10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR4/1 褐灰色	3/少	叩き後ハケ/ハケ	
56	118	ST7	ベ内	弥生	甕	E6・7	(12.9)			10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	3少	工具ナデ/ナデ	スス
57	119	ST7	No.31/ サ	弥生	甕	E6	15.5			10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR4/1 褐灰色	4/少	叩き後ハケ/ハケ	
58	120	ST7-SD1		弥生	甕		(17.7)			10YR7/6 明黄褐色	7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR7/6 明黄褐色	4/少 火山ガ/ごく少	ハケ/ハケ	スス
59	121	ST7/ II層	No.13/ No.14	弥生	甕	E7	(15.1)			10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR5/1 褐灰色	10YR5/1 褐灰色	5/やや多	叩き後ナデ/ハケ	
60	122	ST7	No.9	弥生	甕	E7	(16.8)			10YR5/8 黄褐色	10YR5/6 黄褐色	10YR4/1 褐灰色	4/やや多	叩き/摩耗	スス
61	123	ST7	No.2	弥生	甕	F7	(13.2)	21.5	(1.6)	5YR5/6 明赤褐色	5YR6/8 褐色	10YR4/1 褐灰色	6/少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器種	器形	調査区	法量			色調			胎土	特徴	備考
							口径	器高	底径	内面	外面	断面			
28	124	ST7	サ	弥生	鉢	D・E・F7	(13.1)	11.1	2.6	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	10YR5/1 褐灰色	6/少	叩き後ハケ/ ハケ後ナデ	黒斑
〃	125	ST7/II層	No.3/ No.7	弥生	鉢	E8/F7・8	10.8	7.0	3.5	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	—	4/少	ナデ/ハケ	ほぼ完
〃	126	ST7		弥生	鉢	E6	(16.4)			10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR4/1 褐灰色	2/ごく少	ナデ/ハケ	
〃	127	ST7	No.27	弥生	鉢	F7	17.0	8.0	3.5	5YR5/6 明赤褐色	7.5YR7/6 橙色	7.5YR5/1 褐灰色	5/少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	ほぼ完
〃	128	ST7	No.23	弥生	鉢	F6	(21.6)	8.2	4.2	5YR5/8 明赤褐色	5YR5/8 明赤褐色	2.5Y5/2 暗灰黄色	5/多	ナデ/ハケ	黒斑
〃	129	ST7	サ	弥生	鉢	D・E・F7	(18.7)			7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	10YR4/1 褐灰色	3/少	叩き後ナデ/ ハケ後ナデ	
〃	130	ST7	No.3/ No.5/No.6	弥生	鉢	E・F7・8	21.8	12.4	6.0	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	10YR3/1 黒褐色	3/やや多	叩き後ナデ/ハケ	黒斑
〃	131	ST7	No.19	弥生	鉢	F7	(23.5)	11.6	2.5	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR8/4 浅黄褐色	7.5YR8/4 浅黄褐色	3/少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	黒斑
〃	132	ST7	No.25	弥生	底部	F7			3.4	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR5/1 褐灰色	3/少	ナデ/ハケ	黒斑
〃	133	ST7	バ	弥生	底部	E・7・8			3.8	10YR2/1 黒色	7.5YR4/6 褐色	7.5YR3/3 暗褐色	2/少 火山ガ/ごく少	ナデ/ハケ	
〃	134	ST7	No.1	弥生	脚付 鉢	F7	(12.2)	7.4	3.4	5YR5/6 明赤褐色	5YR6/6 褐色	5Y5/1 灰色	4/多	ナデ/不明	歪む
〃	135	ST7		弥生	脚部	E7			(5.6)	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR4/1 褐灰色	3/少	擬口縁、ハケ・ ナデ/ナデ	
〃	136	ST7	バ	弥生	脚部	E・F7			(5.0)	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/4 にぶい橙色	5Y4/1 灰色	5/少	ナデ/ナデ	
29	137	ST7		弥生	高杯	E・F7・8	(12.6)			5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	10YR5/1 褐灰色	3/ごく少	ハケ後ミガキ/ ミガキ	精製
〃	138	ST7	バ	弥生	鉢	F7	(19.7)			7.5YR7/6 褐色	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	4/少	ハケ・ナデ/ ハケ・ナデ	
〃	139	ST7		弥生	高杯	E8				10YR7/4 にぶい黄褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR4/1 褐灰色	5/やや多 ウンモ/ごく少	ミガキか/ ミガキか	
〃	140	ST7		弥生	高杯	F6				10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	4/多	ナデ/ナデ	
〃	141	ST7	べ内/ 上層	土師 か	高杯	E6・7/ D6				5YR5/8 明赤褐色	5YR5/8 明赤褐色	7.5YR6/6 褐色	5/ごく少	ミガキ/ハケ	
〃	142	ST7		弥生	高杯	F7			(17.9)	10YR4/4 褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	2/少 角・火山ガ/ごく少	脚端部、一条の沈 線。ナデ/ケズリ	搬入 (高松)
〃	143	ST7		弥生	不明	F6				10YR4/2 灰黄褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/8 明褐色	4/少	細かな凹凸/ ナデ・ハケ	
〃	144	ST7		弥生	鉢	F7	(8.2)	5.4		7.5YR2/1 黒色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	3/少	ハケ/ハケ	
〃	145	ST7		製塩		E8				7.5YR7/6 褐色	5YR7/8 褐色	7.5YR7/6 褐色	3/ごく少	摩耗/布目痕跡	
32	151	ST8		弥生	壺	H7・8	(18.4)			2.5YR5/8 明赤褐色	2.5YR5/6 明赤褐色	5Y4/2 灰褐色	2/少	ハケ/ハケ	
〃	152	ST8	バ	弥生	壺	H7・8	(20.6)			10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	5Y6/1 灰色	3/少	擬口縁。ミガキ/ ミガキ	
〃	153	ST8	No.22	弥生	甕	H8	(15.4)			7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR4/1 褐灰色	6/少	ハケ/ハケ	
〃	154	ST8	サ	弥生	複合 口壺	H7・8	(15.3)			5YR6/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	2.5YR5/2 暗灰黄色	3/少	波状。ハケ/ナデ	
〃	155	ST8	バ	弥生	壺					7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	2/少	波状	
〃	156	ST8	サ	弥生	壺	H7				7.5YR5/6 明褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	3/少	ナデ/ナデ	
〃	157	ST8/SX9	No.6	弥生	壺	H7・8	(19.2)			7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR7/6 褐色	10YR5/1 褐灰色	3/少	ハケ/ハケ	
〃	158	ST8	バ	弥生	壺	H7	(13.0)			5YR6/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR4/1 褐灰色	4/少	ハケ/ナデ	
〃	159	ST8/SX9	No.21/ べ内/バ	弥生	壺	H7・8				7.5YR7/6 褐色	5YR6/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	4/少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	
〃	160	ST8-中央P		弥生	甕	H7	(12.5)			5YR6/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR3/1 黒褐色	3/少	叩き後ナデ/ ハケ・ナデ	黒斑
〃	161	ST8	No.12～ 14/べ内	弥生	甕	H7	13.1	23.5	2.8	10YR7/6 明黄褐色	10YR7/6 明黄褐色	5Y5/1 灰色	3/少	叩き後ハケ/ ナデ・ハケ	スス
〃	162	ST8	No.13	弥生	甕	H7	(18.1)			5YR6/8 褐色	5YR5/6 明赤黄色	5YR5/1 褐灰色	4/少	叩き/ハケ	スス
33	163	ST8	No.7	弥生	鉢	H8	11.3			5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	2.5Y5/1 黄灰色	5/少	叩き後ナデ/ナデ	ほぼ完
〃	164	ST8	No.16	弥生	鉢	H7	12.1	7.1	3.7	7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	10YR4/1 褐灰色	3/少	ナデ/ハケ	黒斑
〃	165	ST8		弥生	鉢	H7・8	(11.8)	5.5	4.6	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	5Y5/1 灰色	3/少	ナデ/ハケ	
〃	166	ST8	No.12	弥生	鉢	H7	(13.5)	7.0	(3.8)	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	5Y6/1 灰色	2/少	ナデ/ハケ後ナデ	

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器種	器形	調査区	法量			色調			胎土	特徴	備考
							口径	器高	底径	内面	外面	断面			
33	167	ST8	No12/ No14/ベ内	弥生	鉢	H7	(11.0)	5.6	3.4	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	5YR4/1 褐灰色	2/少	ナデ/ハケ	
〃	168	ST8-P22		弥生	鉢	H7	(10.8)	6.1		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR4/1 褐灰色	5/少	叩き後ナデ/ハケ	黒斑
〃	169	ST8-P5		弥生	鉢	H7・8	(12.8)	6.5	3.2	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	7.5YR4/1 褐灰色	3/少	叩き後ナデ/ハケ	
〃	170	ST8	No.17/ サ	弥生	鉢	H7	(12.1)		2.2	5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	2/少	ナデ/ナデ	スス
〃	171	ST8-P18		弥生	鉢	H8	(12.6)	5.6	4.2	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	3/少	ナデ/ハケ	
〃	172	ST8		弥生	鉢	H7・8	(18.0)	7.9	(5.8)	10YR6/4 にぶい黄橙色	7.5YR6/6 橙色	10YR5/2 灰黄褐色	4/少	ナデ/ナデ	
〃	173	ST8-P14		弥生	鉢	H7	(16.5)	7.9	4.5	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR6/2 灰黄褐色	2/少	ナデ/ハケ・ナデ	キレット
〃	174	ST8-P13	No.14	弥生	鉢	H7	(14.8)	7.1	4.2	2.5YR5/6 明赤褐色	2.5YR6/6 橙色	2.5YR6/6 橙色	5/やや多	ナデ/ナデ	キレット/ 被熱変色
〃	175	ST8	No.19/ No.26	弥生	鉢	H8	16.2	7.7		5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	—	8/少	叩き後ナデ/ナデ	黒斑
〃	176	ST8	No.23	弥生	鉢	H8	(16.6)			7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR4/1 褐灰色	3/少	ナデ/ハケ	キレット
〃	177	ST8	No.27	弥生	鉢	H8	13.3	5.4	8.5	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	6/少	叩き後ナデ/ハケ	ほぼ完
〃	178	ST8	No.25	弥生	鉢	H8	10.4	5.6	4.1	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	5YR5/1 褐灰色	3/少	ナデ/ナデ	キレット
〃	179	ST8	バ	弥生	鉢	H7	(11.2)			5YR6/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	2/少	ナデ・ハケ/ナデ	
〃	180	ST8-中央P	No.31/ バ	弥生	鉢	H7	20.8	10.5	7.2	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	7.5YR3/1 黒褐色	5/少	叩き後ナデ/ハケ	スス
〃	181	ST8	バ	弥生	鉢	H7	(28.0)			10YR5/2 灰黄褐色	7.5YR6/6 橙色	7.5YR5/1 褐灰色	2/少	叩き後ナデ/ハケ	
〃	182	ST8	No.10	弥生	壺	H8			2.8	10YR7/6 明黄褐色	7.5YR6/6 橙色	2.5Y6/3 にぶい黄色	5/少	ハケ/ナデ	黒斑
〃	183	ST8	No.15	弥生	壺	H7			(7.3)	7.5YR7/6 橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	5Y5/1 灰色	8/少	叩き後ハケ/ハケ	
〃	184	ST8	バ	弥生	壺	H7・8				7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	7.5YR3/1 黒褐色	7/少	叩き後ハケ/ナデ	
34	185	ST8		弥生	高杯	H8				5YR6/8 橙色	5YR6/6 橙色	5YR4/1 褐灰色	5/やや多	摩耗/摩耗	
〃	186	ST8	ベ内	弥生	甌	H7・8				7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR4/1 褐灰色	5/少	焼成前穿孔。ハケ /ナデ	
〃	187	ST8		弥生	脚部	H8			(4.4)	10R6/8 赤褐色	2.5YR6/6 橙色	10R5/6 赤色	2/少	ナデ/ナデ	被熱変色
〃	188	ST8-P5		弥生	鉢	H7・8	7.5	2.1		7.5YR7/6 橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR4/1 褐灰色	2/少	摩耗/摩耗	
〃	189	ST8	ベ内/ バ	弥生	ミニ	H7	7.0	4.2	2.8	7.5YR6/6 橙色	7.5YR5/2 灰褐色	7.5YR6/6 橙色	2/少	ナデ/ナデ	
〃	192	ST8		弥生	ミニ	H7	(6.1)	8.3		7.5YR7/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	5/少	手捏ね/ハケ	黒斑
〃	193	ST8	No.18	弥生	鉢	H7	7.2	3.5	3.2	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	3/少	ハケ/ナデ	
36	201	ST9		弥生	壺		(14.4)			7.5YR7/4 にぶい橙色	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	4/少	ナデ/ハケ	
〃	202	ST9		弥生	壺		(19.0)			5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	7.5YR4/2 灰褐色	4/少	ハケ/ハケ	
〃	203	ST9		弥生	壺		(16.4)			7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄褐色	2/少	ハケ/ハケ・ナデ	キレット
〃	204	ST9		弥生	壺	I6			1.7	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	7/少	ナデ/ナデ・ハケ	
〃	205	ST9	No.8	弥生	鉢	E7	(26.0)			7.5YR5/3 にぶい褐色	5YR5/6 明赤褐色	7.5YR8/6 浅黄褐色	3/少	叩き後ナデ/ハケ	内面, 黒色
〃	206	ST9		弥生	甕		(13.0)			7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR4/1 褐灰色	4/少	ハケ/ハケ	
〃	207	ST9		弥生	壺				(5.0)	7.5YR6/3 にぶい褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR5/2 灰褐色	5/やや多	上げ底。ナデ・ ナデ	被熱変色
〃	208	ST9		弥生	底部				4.8	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	5YR6/6 橙色	13/少	上げ底。叩き後 ナデ/ナデ	
38	210	ST11/ SX24	バ	弥生	壺	I・J5			(4.2)	10YR3/1 黒褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	7/少	ハケ後ミガキ/ ナデ	
〃	211	ST11	バ	弥生	鉢	H4・5	(10.1)	3.7	2.6	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	7.5YR4/2 灰褐色	3/少	叩き後ナデ/ハケ	
〃	212	ST11	バ	弥生	鉢	H4・5	(16.0)			7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	10YR5/1 褐灰色	4/少	叩き後ハケ/ハケ	黒斑
40	213	ST12		弥生	壺	L7	(20.8)			7.5YR6/6 橙色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	3/少	ハケ/ハケ	
〃	214	ST12		弥生	壺	L6	(14.0)			7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR6/3 にぶい褐色	10YR4/1 褐灰色	1/少	斜格子。ナデ・ ハケ/ナデ	

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器種	器形	調査区	法量			色調			胎土	特徴	備考
							口径	器高	底径	内面	外面	断面			
40	215	ST12		弥生	複合口壺	L7	(13.0)			7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	2/少	ナデ/ナデ	
〃	216	ST12/ II層		弥生	鉢	L7	(14.8)	7.7	(4.4)	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR5/1 褐灰色	5/少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	
〃	217	ST12		弥生	高杯	L7				10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	5/少	ミガキ/ ミガキ・ナデ	
〃	218	ST12		弥生	甕	L6				7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/6 明褐色	7.5YR5/6 明褐色	1/少 火山ガ/少	2条の沈線。ナデ/ ハケ	スス/ 搬入(讀)
〃	219	ST12		サ	弥生 甕	M6・7	(18.6)			7.5YR4/3 褐色	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR4/2 灰褐色	2/やや多	4条の凹線。ナデ/ ナデ	混入
〃	220	ST12-中央 P		弥生	体部片	L7				7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	7.5YR5/2 灰褐色	2/少	ナデ/ハケ	赤色顔料 (未分析)
〃	221	ST12		弥生	体部片	M6				10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	2/少	ハケ/ハケ・ナデ	水銀朱/ スス
42	223	ST13	ベッド 内	弥生	甕	H・I4	(14.0)			5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	2/少	叩き後ナデ/ ハケ・ナデ	黒斑
〃	224	ST13	ベッド 内	弥生	甕	H・I4	(18.2)			7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR5/2 灰褐色	4/少	叩き後ナデ/ハケ	
44	226	ST14		土師	甕	K・L8	(14.6)			7.5YR6/8 橙色	7.5YR6/8 橙色	10YR6/6 明黄褐色	2/やや多	ナデ/ナデ	
〃	227	ST14	No.1	須恵	蓋	L8	12.0	4.0		7.5Y6/2 灰オリーブ色	7.5Y6/2 灰オリーブ色	7.5Y6/2 灰オリーブ色	2/少	回転ケズリ後ナデ。 回転ナデ/回転ナデ	
〃	228	ST14-P3		須恵	蓋	L9	(16.2)			7.5Y6/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	2/ごく少	回転ナデ/ 回転ナデ	
〃	229	ST14		須恵	杯身	M8	(12.6)			2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y5/1 黄灰色	5Y6/1 灰色	2/ごく少	回転ナデ/ 回転ナデ	
〃	230	ST14		須恵	杯身	K・L8				5Y5/1 灰色	5Y6/3 オリーブ黄色	5Y5/1 灰色	精良	回転ナデ/ 回転ナデ	
〃	231	ST14	No.2	須恵	高杯	L8	11.4	7.0	8.5	7.5YR8/6 浅黄褐色	10YR8/2 灰白色	7.5YR8/6 浅黄褐色	2/少	摩耗/摩耗	
〃	232	ST14		須恵	壺	L・M9	(21.4)			2.5Y7/2 灰黄色	5Y5/1 灰色	5Y7/1 灰白色	1/ごく少	回転ナデ/ 回転ナデ	
〃	233	ST14		弥生	壺	K・L8	(12.6)			10YR4/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	3/少	ハケ/ハケ	混入
〃	234	ST14		弥生	底部	K・L8			4.2	2.5YR6/6 褐色	2.5YR6/6 褐色	5Y5/1 褐灰色	4/少	上げ底。ナデ/ ハケ	混入
46	236	ST15	上層	弥生	複合口壺	M9	(18.5)			7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR5/2 灰黄褐色	4/少	ナデ/ナデ	
〃	237	ST15		サ	弥生 甕	M9	(17.0)			5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR4/6 赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	4/少	ハケ/ハケ	
〃	238	ST15	No.2	弥生	鉢		12.3	6.6	2.9	7.5YR6/6 褐色	7.5YR7/4 にぶい橙色	5Y6/1 灰色	5/やや多	ハケ/ナデ	ほぼ完/ 黒斑
〃	239	ST15/ ST16		サ	弥生 鉢	M9	12.4	4.9		7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR6/2 灰褐色	5/少	叩き後ナデ/ハケ	
〃	240	ST15	上層	弥生	鉢	M9	(13.9)	8.6	(4.0)	10YR6/4 にぶい黄褐色	7.5YR6/4 にぶい黄褐色	10YR4/1 褐灰色	4/少	叩き後ナデ/ハケ	
〃	241	ST15	No.3	弥生	鉢	M9	21.2	12.7	5.8	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	5YR6/4 N5/0 灰色	5/少	叩き後ハケ/ハケ	ほぼ完
〃	242	ST15		弥生	脚付鉢	M8	(8.8)			10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	2/少	ハケ・ナデ/ ミガキ・ナデ	
48	244	ST16		弥生	壺か	M9	(15.5)			7.5YR4/2 灰褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	2/少	ハケ/ハケ	
〃	245	ST16		バ	弥生 壺	M9	(20.0)			7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR5/2 灰褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	5/やや多	斜格子。ハケ/ ナデ	
〃	246	ST16		弥生	二重口壺	M9	(18.2)			10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/1 褐灰色	4/少	ハケ/ナデ・ハケ	
〃	247	ST16	No.4/床	弥生	壺	M9	18.5	27.0		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR2/1 黒色	3/少	叩き後ハケ/ハケ	スス
〃	248	ST16		バ	弥生 複合口壺	M8				2.5YR5/2 暗灰黄色	5YR6/8 褐色	2.5YR5/2 暗灰黄色	2/少	波状。摩耗/摩耗	
〃	249	ST16		弥生	壺	N9	(20.8)			7.5YR6/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR4/1 褐灰色	3/少	ハケ/ナデ	
〃	250	ST16/ ST15	No.28/ No.31	弥生	壺	M9			(2.8)	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR4/1 褐灰色	6/少	叩き後ナデ・ミガ キ/ケズリ・ナデ	黒斑
〃	251	ST16/ ST15		サ	弥生 壺	M9	(14.0)			7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	10YR6/1 褐灰色	4/少	叩き後ハケ/ナデ	被熱変色
〃	252	ST16	ベッド 上	弥生	甕	M8・9	(13.0)			10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	4/少	叩き後ナデ/ナデ	
〃	253	ST16	ベッド 内	弥生	甕	M8	(15.6)			7.5YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR3/1 黒褐色	4/少	叩き後ナデ/ハケ	
〃	254	ST16	No.17/ バ	弥生	甕	M8・9	(16.2)			10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	4/少	叩き/ナデ	キレツ/ 黒斑
〃	255	ST16	No.4/床	弥生	甕	M9	(15.8)			7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	2/少	叩き後ハケ・ナデ /ハケ	スス
〃	256	ST16	No.22/ ベ上	弥生	甕	M8・9	(18.6)			7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR5/1 褐灰色	5/やや多	叩き後ナデ/ハケ	被熱変色

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器種	器形	調査区	法量			色調			胎土	特徴	備考
							口径	器高	底径	内面	外面	断面			
48	257	ST16	No.2/ベ 上	弥生	甕	M8・9	(16.2)			7.5YR6/4 にぶい 橙色	10YR7/4 にぶい 黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	5/やや多	叩き/ナデ・ハケ	
〃	258	ST16-P3		弥生	甕	N8	(15.4)			7.5YR6/6 橙色	7.5YR5/4 にぶい 褐色	7.5YR4/1 褐灰色	4/少	叩き/ハケ	スス
〃	259	ST16		弥生	甕	M・N8				5YR5/6 明赤褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR5/1 褐灰色	5/少	叩き後ハケ・ナデ /ハケ	
〃	260	ST16	ベ内	弥生	甕	M8	(13.3)			10YR6/3 にぶい 黄褐色	10YR6/3 にぶい 黄褐色	10YR4/1 褐灰色	3/少	叩き後ナデ/ ハケ・ナデ	スス
〃	261	ST16		弥生	甕	M8	(17.4)			5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	5YR4/1 褐灰色	4/少	叩き/ナデ・ハケ	スス
49	262	ST16	No.21	弥生	鉢	M9	10.5	7.1	2.9	10YR6/4 にぶい 黄褐色	2.5YR5/2 暗灰黄色	2.5Y6/3 にぶい 黄色	4/少	叩き後ナデ/ナデ	黒斑/ スス
〃	263	ST16	No.13/ 床	弥生	鉢	M9	(11.9)	5.6		7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	5/少	ナデ/ナデ	黒斑
〃	264	ST16	ベ内	弥生	鉢	M8	(13.4)	6.6	3.5	7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	2.5YR4/1 黄灰色	4/少	叩き後ナデ/ハケ	
〃	265	ST16	バ	弥生	鉢	N9	(10.6)	5.1	2.8	7.5YR6/4 にぶい 褐色	10YR6/3 にぶい 黄褐色	10YR4/1 褐灰色	5/少	叩き後ナデ/ナデ	
〃	266	ST16	No.33	弥生	鉢	M9	9.8	5.3	2.3	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/4 にぶい 黄褐色	10YR5/1 褐灰色	3/少	ナデ/ナデ	黒斑
〃	267	ST16		弥生	鉢	N9	(11.0)	5.3	3.5	7.5YR7/4 にぶい 褐色	7.5YR7/4 にぶい 褐色	7.5YR4/1 褐灰色	4/少	叩き後ナデ/ ハケ・ナデ	被熱変色
〃	268	ST16	No.26	弥生	鉢	M9	(11.6)	6.4	2.4	7.5YR6/4 にぶい 褐色	10YR6/3 にぶい 黄褐色	10YR5/1 褐灰色	6/少	叩き後ナデ/ナデ	黒斑
〃	269	ST16	No.8	弥生	鉢	M9	10.6			10YR6/4 にぶい 黄褐色	7.5YR7/4 にぶい 褐色	10YR4/1 褐灰色	3/少	ナデ/ナデ	黒斑
〃	270	ST16	No.23	弥生	鉢	M9	(10.6)	4.9	(20)	10YR3/2 黒褐色	7.5YR5/2 灰褐色	N4/0 灰色	2/少	ナデ/ハケ	
〃	271	ST16	No.10	弥生	鉢	M9	(10.2)	5.2	1.0	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	2.5YR5/2 暗灰黄色	3/少	叩き後ナデ/ナデ	
〃	272	ST16	バ	弥生	鉢	M9	(16.0)			10YR7/4 にぶい 黄褐色	10YR7/4 にぶい 黄褐色	10YR4/1 褐灰色	4/少	ナデ/ナデ	赤色顔料
〃	273	ST16	No.32	弥生	鉢	M9	15.5	10.1		7.5YR6/4 にぶい 褐色	7.5YR7/4 にぶい 褐色	10YR6/2 灰黄褐色	5/少	叩き後ナデ/ナデ	黒斑/スス /被熱変色
〃	274	ST16	No.10/ No.33	弥生	鉢	M9	(13.2)	7.1	4.0	10YR6/4 にぶい 黄褐色	10YR6/3 にぶい 黄褐色	10YR4/1 褐灰色	5/少	ナデ/ハケ・ナデ	黒斑
〃	275	ST16-SK1		弥生	鉢	M9	(16.4)	10.9	2.8	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	10YR5/1 褐灰色	5/少		
〃	276	ST16	No.14	弥生	鉢	M8	(17.2)	8.0	4.1	10YR6/4 にぶい 黄褐色	7.5YR6/4 にぶい 褐色	10YR4/1 褐灰色	5/やや多	叩き後ナデ/ハケ	
〃	277	ST16	No.3	弥生	鉢か	M8	15.6			10YR7/3 にぶい 黄褐色	10YR7/3 にぶい 黄褐色	10YR3/1 黒褐色	5/やや多	叩き後ナデ/ ハケ・ナデ	黒斑
〃	278	ST16		弥生	鉢	M9	(20.6)			10YR7/4 にぶい 黄褐色	10YR7/4 にぶい 黄褐色	10YR4/1 褐灰色	5/少	ナデ/ナデ・ハケ	
〃	279	ST16	No.18	弥生	鉢	M8	(23.6)			5YR7/8 褐色	5YR7/6 褐色	5YR7/6 褐色	3/少	ナデ/ナデ	
〃	280	ST16	バ	弥生	底部	N9			3.7	10YR7/4 にぶい 黄褐色	10YR7/4 にぶい 黄褐色	10YR4/1 褐灰色	4/少	ナデ/ハケ	搬入か
〃	281	ST16-P14		弥生	底部	M9				10YR3/1 黒褐色	10YR7/3 にぶい 黄褐色	10YR4/1 褐灰色	3/少	叩き後ナデ/ ハケ後ナデ	
〃	282	ST16		弥生	底部	M9			2.0	7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR4/1 褐灰色	3/少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	黒斑
〃	283	ST16	ベ内	弥生	鉢	M8			3.1	10YR5/3 にぶい 黄褐色	10YR5/3 にぶい 黄褐色	10YR6/3 にぶい 黄褐色	4/少	ナデ/ナデ	
〃	284	ST16	No.5/バ	弥生	壺	M8・9				10YR6/4 にぶい 黄褐色	7.5YR6/6 褐色	10YR5/1 褐灰色	9/少	叩き後ハケ/ナデ	黒斑
〃	285	ST16		弥生	甕	M9			2.7	7.5YR7/4 にぶい 褐色	7.5YR7/4 にぶい 褐色	7.5YR4/1 褐灰色	4/少	叩き後ナデ/ナデ	黒斑/ 被熱変色
〃	286	ST16	バ	弥生	壺	M8/L・ M9				7.5YR7/4 にぶい 褐色	7.5YR7/4 にぶい 褐色	7.5YR7/4 にぶい 褐色	5/少	叩き後ハケ・ナデ /ハケ	
〃	287	ST16	No.6	弥生	体部 片	M9				10YR7/3 にぶい 黄褐色	10YR7/4 にぶい 黄褐色	N3/0 暗灰色	3/少	ナデ/ナデ	水銀朱/ スス
〃	288	ST16		弥生	高杯	M9				7.5YR6/4 にぶい 褐色	10YR5/3 にぶい 黄褐色	10YR4/1 褐灰色	4/少	ハケ/ナデ	
〃	289	ST16-P12		弥生	高杯	M9				5YR6/6 褐色	5YR7/8 褐色	7.5YR4/1 褐灰色	3/少	ミガキ/ナデ	三方向に 円孔
〃	290	ST16	ベ内	弥生	高杯	M9				5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	3/少	ハケ/ハケ	円孔
〃	291	ST16	バ	弥生	高杯	M9				7.5YR7/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR5/2 灰褐色	5/少	ハケ後ミガキ/ ナデ・ハケ	円孔/ス ス
〃	293	ST16	バ	弥生	ミニ	M・N9	(4.6)	2.9		7.5YR7/4 にぶい 褐色	10YR7/4 にぶい 黄褐色	10YR2/1 黒色	3/少	手握ね	黒斑
53	300	ST17/ SX13	上層	弥生	甕	Z12	12.0		4.6	7.5YR6/3 にぶい 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR6/3 にぶい 褐色	2/やや多	3条の凹線。ナデ/ ケズリ	
〃	301	ST17		弥生	甕	Z12	(13.0)			7.5YR7/4 にぶい 褐色	7.5YR7/4 にぶい 褐色	7.5Y3/1 オリープ 黒色	1/少	凹線。ハケ後ミガ キ/ナデ・ケズリ	スス

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器種	器形	調査区	法量			色調			胎土	特徴	備考
							口径	器高	底径	内面	外面	断面			
55	303	ST18・SD27		弥生	壺か	A・B9	(18.6)			10YR2/1 黒色	10YR2/1 黒色	10YR2/1 黒色	1/少	ハケ/ハケ	
〃	304	ST18		弥生	壺	Z・A9	(17.0)			10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR3/1 黒褐色	3/少	ナデ/ハケ	
〃	305	ST18	No.15/ No.23	弥生	二重 口壺	A9・10	17.6			5YR7/4 にぶい橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	5YR7/4 にぶい橙色	2/少	ナデ/ハケ	
〃	306	ST18	バ	弥生	壺	Z9				10YR7/4 にぶい黄橙色	5YR6/4 にぶい橙色	10YR4/1 褐灰色	4/少	刺突。ナデ/ナデ	
〃	307	ST18		弥生	壺	Z・A9				7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR5/2 灰褐色	3/少	刻み目突帯。ハケ /ハケ	
〃	308	ST18/ SD27	No.4	弥生	壺	A8・9	17.2			2.5YR7/3 浅黄色	2.5Y5/1 黄灰色	5Y5/1 灰色	6/少	ハケ/ナデ	黒斑/ スス
〃	309	ST18/ SX13		弥生	壺	Z・A9/ A11	(26.8)			7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/8 黄橙色	7.5YR4/1 褐灰色	3/少	鋸歯。線刻。ハケ/ ハケ	
〃	310	ST18	No.12	弥生	壺	A9・10			2.4	7.5YR6/6 褐色	7.5YR5/6 明褐色	7.5YR4/1 褐灰色	5/少	叩き後ハケ/ハケ・ ナデ	スス/ 被熱変色
〃	311	ST18		弥生	壺	Z・A9				10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	3/少	ハケ・ミガキ/ ナデ	
〃	312	ST18	No.5/サ	弥生	甕	A8・9	15.0	21.8		10YR6/3 にぶい黄褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR4/1 褐灰色	3/少	叩き後ナデ/ ハケ・ナデ	スス
〃	313	ST18	サ	弥生	甕	Z・A9/ A10	(13.5)	22.0	3.6	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	5/少	叩き後ハケ/ハケ	スス (帯状)
〃	314	ST18/ ST18SD1		弥生	甕	A9	12.5	22.4	5.0	2.5YR5/6 にぶい褐色	2.5YR5/6 にぶい褐色	2.5YR17/1 赤黒色	3/少	叩き後ハケ/ハケ	黒斑/ 被熱変色
〃	315	ST18	No.9	弥生	甕	Z9/10	(13.5)	15.1		10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR2/1 黒色	4/少	叩き後ハケ/ナデ	黒斑
〃	316	ST18		弥生	甕	A9・10	(18.1)			10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい褐色	10YR6/1 褐灰色	2/少	2条の凹線。ナデ/ ナデ	
〃	317	ST18		弥生	甕	Z・A9/ Z10	(13.6)			10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	N4/0 灰色	2/少	叩き/ハケ	
〃	318	ST18		弥生	甕	Z・A9/ Z10	(14.0)			5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	3/少	叩き後ハケ/ハケ	
〃	319	ST18		弥生	甕	Z9・10	(14.4)			10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	N5/0 灰色	5/少	叩き後ハケ/ ケズリ	スス
〃	320	ST18	No.21	弥生	甕	A9	(13.4)	17.6		7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	5/少	叩き後ナデ/ ケズリ	スス
〃	321	ST18		弥生	甕	A9	(14.4)			2.5Y6/2 灰黄色	7.5Y2/1 黒色	N2/0 黒色	3/少	ハケ後ミガキ/ ナデ	
56	322	ST18	上層	弥生	鉢	A9	9.4	2.5		10YR7/3 にぶい黄褐色	N3/0 暗灰色	2.5Y5/3 黄褐色	3/少	手握ね	黒斑/ ほぼ完
〃	323	ST18	No.8	弥生	鉢	Z9	(8.9)	5.1		5YR7/8 褐色	5YR7/8 褐色	5YR4/1 褐灰色	3/少	ナデ/ハケ	黒斑
〃	324	ST18	No.1	弥生	鉢	A10	(8.4)	4.4		10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR4/1 褐灰色	3/少	ナデ/ナデ	歪む/ キレット
〃	325	ST18	No.22	弥生	鉢	A9	11.6	5.2	3.8	7.5YR7/6 褐色	7.5YR6/3 にぶい褐色	7.5YR7/6 褐色	3/少	叩き後ナデ/ハケ	ほぼ完
〃	326	ST18	No.2	弥生	鉢	A10	10.4	4.8		7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/6 褐色	—	2/少	ナデ/ナデ	黒斑/ ほぼ完
〃	327	ST18	No.13	弥生	鉢	A10	(9.9)	7.5	1.3	7.5YR6/6 褐色	5YR5/6 明赤褐色	7.5Y5/1 褐灰色	4/少	ナデ/ハケ・ナデ	黒斑
〃	328	ST18		弥生	鉢	A9・10	(11.4)	5.6		7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR4/1 褐灰色	3/少	ナデ/ハケ後ナデ	
〃	329	ST18	上層	弥生	鉢	Z9・10	12.3	6.5	3.0	7.5YR6/6 褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	N3/0 暗灰色	2/少	ナデ/ハケ	ほぼ完
〃	330	ST18	上層	弥生	鉢	Z9・10	12.1	6.1	2.8	7.5YR6/4 にぶい褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	7.5Y3/1 オリーブ黒色	3/少	ナデ/ナデ	キレット
〃	331	ST18	No.14	弥生	鉢	A9	(11.9)	7.7	3.3	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	7.5Y4/1 灰色	5/少	叩き後ナデ・ハケ /ナデ	スス
〃	332	ST18	サ/バ	弥生	鉢	A9	15.5	8.6	5.0	7.5YR6/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR4/1 褐灰色	2/少	ナデ/ナデ	黒斑/ ほぼ完
〃	333	ST18	No.8	弥生	鉢	Z9	13.7	6.1	3.2	5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR4/1 褐灰色	3/少	ナデ/ハケ・ナデ	黒斑
〃	334	ST18	No.19	弥生	鉢	A9	12.9	7.1		5YR7/8 褐色	5YR7/6 褐色	7.5YR8/6 浅黄褐色	5/少	叩き後ナデ/ ハケ	ほぼ完
〃	335	ST18		弥生	鉢	A8・9	(40.0)			7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	4/少	ナデ/ナデ	
〃	336	ST18		弥生	底部	A9・10			2.3	7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR5/1 褐灰色	3/少	ナデ/ハケ	葉脈痕有 り
〃	337	ST18		弥生	甕	Z9・10				10YR7/6 明黄褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR5/1 褐灰色	2/少	叩き後ハケ/ハケ	スス/ おこげ
〃	338	ST18	No.7	弥生	壺	Z9			(5.4)	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	5Y5/1 灰色	5/少	ハケ/ナデ・ハケ	
〃	339	ST18	No.8	弥生	高杯	Z9/Z・ A9/Z10	19.4	12.0	12.2	10YR8/6 黄褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR5/1 褐灰色	2/やや少	ナデ・ミガキ/ ナデ・ミガキか	五方向に 円孔
〃	340	ST18		弥生	高杯	Z10	(12.4)			7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR5/1 褐灰色	2/少	ハケ後ナデ/ナデ	

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器種	器形	調査区	法量			色調			胎土	特徴	備考
							口径	器高	底径	内面	外面	断面			
56	341	ST18		弥生	高杯	A9・10	(22.8)			7.5YR7/6 橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	7.5YR7/6 橙色	3/少	ハケ/ ハケ後ミガキ	
〃	342	ST18	No.10	弥生	高杯	A9				7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR8/3 浅黄橙色	N6/0 灰色	3/少	ミガキ/ミガキ	
〃	343	ST18		弥生	高杯	A8・9				7.5YR5/4 にぶい褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2/少	ハケ/ ハケ後ミガキ	
〃	344	ST18-SD1		弥生	高杯			(20.0)		5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	2.5Y5/2 暗灰黄色	5/少	ハケ後ミガキ/ ハケ	円孔
〃	345	ST18	No.3	弥生	高杯	A9		17.6		10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/6 明黄褐色	10YR4/1 褐灰色	4/少	ハケ後ミガキ/ ハケ・ナデ	黒斑/ スス
〃	346	ST18		弥生	高杯	A9		(22.0)		10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR3/1 黒褐色	3/少	ハケ後ミガキ/ ナデ	四方向に 円孔
〃	347	ST18	No.6	弥生	ミニ	Z9	6.9	4.8	3.6	7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	5/少	ナデ/ハケ	キレツ/ ほぼ完
〃	348	ST18	サ	弥生	ミニ	Z・A9			2.6	7.5YR4/1 褐灰色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	精良	ナデ/ナデ	
〃	349	ST18	バ	弥生	壺か	Z9				10YR4/1 褐灰色	10YR2/1 黒色	10YR5/2 灰黄褐色	4/少	ナデ・ミガキ/ ケズリ	編み物痕 有り
59	355	ST19/ SX13/Ⅱ層	上層	弥生	壺	Z・A・ B12・13	(16.0)			10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR5/1 褐灰色	N4/0 灰色	3/少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	
〃	356	ST19		弥生	壺	A・B11	(22.8)			7.5YR7/4 にぶい褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	N3/0 暗灰色	4/少	ハケ/ハケ	
〃	357	ST19		弥生	壺	A・B11	(24.8)			7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	N5/0 灰色	3/少	ハケ/ハケ	
〃	358	ST19		弥生	壺	A・B11				7.5YR5/4 にぶい褐色	5YR6/6 褐色	5YR4/1 褐灰色	10/少	斜格子の突帯。 ミガキ/ナデ・ハケ	
〃	359	ST19.20/ ST20		弥生	甕	Z・ A11・12	(15.4)	19.1	2.4	7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR4/1 灰色	3/少	叩き後ハケ/ハケ	スス
〃	360	ST19.中央 P		弥生	鉢	A12	(10.2)			7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR8/4 浅黄褐色	2/少	ミガキ/ミガキ・ ハケ・ナデ	
〃	361	ST19		弥生	鉢	A・B11	(11.2)	6.3	(3.5)	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR4/1 褐灰色	3/少	叩き後ナデ/ハケ	
〃	362	ST17・19・ 20/SX13	バ/サ/ 上層	弥生	鉢	Z・ A11・12	13.5	7.1	3.4	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	10YR5/1 褐灰色	3/少	叩きか。後ナデ/ ハケ	キレツ/ 黒斑
〃	363	ST19	床	弥生	高杯					7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/3 にぶい褐色	2/少	ハケ/ハケ	ローリ ング
〃	364	ST19		弥生	高杯	A・B11				7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	10YR4/1 褐灰色	2/少	ミガキ/ハケ	円孔
60	366	ST20	バ	弥生	壺	Z・A11	(9.6)			5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	5Y4/2 灰オリーブ色	6/少	摩耗/摩耗	
〃	367	ST20	No.6	弥生	壺	A11	(19.0)			10YR7/6 明黄褐色	7.5YR8/4 浅黄褐色	7.5YR3/1 黒褐色	6/やや多	波状。摩耗/摩耗	
〃	368	ST20		弥生	複合 口壺	Z11				10YR7/6 明黄褐色	10YR7/6 明黄褐色	10YR3/1 黒褐色	4/少	波状。ハケ/不明	
〃	369	ST20/ ST19.20	No.8/べ 上/床	弥生	壺	A11	(20.6)	29.1	3.0	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/6 明黄褐色	10YR6/1 褐灰色	5/少	叩き/ナデ	
〃	370	ST20	バ	弥生	甕	Z・ A10・11	(14.0)	25.8	(3.0)	10YR5/1 褐灰色	10YR6/3 にぶい黄褐色	N4/0 灰色	2/少	叩き後ハケ/ナデ	スス
〃	371	ST17.20	バ	弥生	甕	Z・ A11・12	(12.4)		(2.4)	5YR6/6 褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	3/少	叩き後ハケ・ナデ /ハケ	黒斑/ 被熱変色
〃	372	ST20	No.2	弥生	甕	Z・ A10・11	(14.0)	18.7	2.3	7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	5Y5/1 灰色	5/少	叩き後ハケ/ハケ	スス/ 歪む
〃	373	ST20		弥生	甕	Z・A11	(18.0)			10YR6/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	3/少	叩き/ハケ	
〃	374	ST19.20/ ST20	バ	弥生	甕	A11・12	(16.2)			7.5YR5/3 にぶい褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	7.5YR5/2 灰褐色	4/少	叩き/ハケ	
〃	375	ST20/ SX13	上層	弥生	甕	Z・ A10・11				10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	N5/0 灰色	5/少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	
〃	376	ST20	バ	弥生	鉢	Z・A11	11.5	6.2		5YR7/6 褐色	5YR7/6 褐色	5YR4/1 褐灰色	4/少	ハケ/ハケ	黒斑/ ほぼ完
〃	377	ST20	No.3	弥生	鉢	Z・ A10・11	(11.8)	7.5	1.5	7.5YR6/8 褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR4/2 灰褐色	2/少	叩き後ナデ/ハケ	黒斑
〃	378	ST20	バ	弥生	片口 鉢	Z・A11				10YR7/6 明黄褐色	10YR7/6 明黄褐色	10YR4/1 褐灰色	2/少	ハケ/ハケ	
〃	379	ST20	No.7	弥生	甕	Z11			1.6	5YR7/6 褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR4/1 褐灰色	3/少	叩き後ハケ/ナデ	
〃	380	ST20	No.5	弥生	甕	Z11			3.2	7.5YR8/6 浅黄褐色	5Y7/4 にぶい褐色	5Y17/1 黒色	5/少	叩き後ハケ/ハケ	黒斑/スス /被熱変色
62	384	ST19.20		弥生	複合 口壺	A11				5YR6/6 褐色	5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	2/少	波状/ハケ	擬口縁
〃	385	ST19.20	べ上	弥生	鉢	A11	(11.8)	4.8	(1.8)	7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	N3/0 暗灰色	3/少	ナデ/ハケ・ナデ	
〃	386	ST19.20		弥生	底部	A11・12			(7.0)	10R5/6 赤色	7.5YR5/4 にぶい褐色	2.5YR6/4 にぶい褐色	5/少	ハケ/ナデ	被熱変色
64	388	ST21	No.5~7	弥生	壺	Y8・9/ Z8	15.6			10YR6/4 にぶい黄褐色	5YR6/8 褐色	N5/0 灰色	4/少	ハケ後ミガキ/ ハケ・ナデ	

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器種	器形	調査区	法量			色調			胎土	特徴	備考
							口径	器高	底径	内面	外面	断面			
64	389	ST21	No.2/ No.3/ 卍	弥生	甕	Y・Z9	(14.0)	17.0	4.3	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	5YR7/6 橙色	4/少	叩き後ナデ/ナデ	スス
◇	390	ST21	No.7	弥生	小形 甕	Z8	(9.9)	11.8	3.4	5YR5/6 明赤褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	2.5Y5/1 黄灰色	5/少	叩き後ナデ/ ナデ・ハケ	黒斑
◇	391	ST21/ II層		弥生	甕	Y・Z8	12.7	16.8	3.7	5B1.7/1 青黒色	7.5YR6/6 褐色	10YR6/8 明黄褐色	5/少	ハケ・ケズリ/ ハケ・ナデ	スス/ 被熱変色
◇	392	ST21・ SK103		弥生	甕	Y8	(14.6)			7.5YR6/6 褐色	7.5YR2/1 黒色	7.5YR4/1 褐色	3/少	ハケ/ハケ	スス
◇	393	ST21	No.2	弥生	甕	Y・Z9	13.5	19.2	5.0	2.5YR6/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	5/少	叩き後ナデ/ ナデ・ケズリ	スス/ 被熱変色
◇	394	ST21	バ	弥生	鉢		(8.4)	2.1	2.0	5YR6/6 褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	5YR6/6 褐色	5/少	ナデ/ナデ	黒斑
◇	395	ST21	No.4	弥生	鉢	Y9	11.0	6.2	3.1	7.5YR7/6 褐色	5YR6/8 褐色	7.5YR8/8 黄褐色	5/少	工具ナデ/ ナデ・ハケ	黒斑/ 線刻か
◇	396	ST21/ II層		弥生	鉢	Y・Z8	12.6	5.4	3.8	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	10YR7/6 明黄褐色	4/少	ナデ/ハケ	
◇	397	ST21	バ	弥生	鉢		(32.0)			7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR5/1 褐色	2/少	ナデ・ハケ/ ハケ後ミガキ	
◇	398	ST21・ SK103		弥生	壺	Y8				10YR6/4 にぶい黄褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR4/1 褐色	5/少	櫛描き直線・波状。 ナデ/ナデ	
◇	399	ST21・ SK103		弥生	甕か	Y8				10YR4/1 褐色	10YR4/1 褐色	5YR5/3 にぶい赤褐色	3/少	ナデ/ナデ	
◇	400	ST21	バ	弥生	ミニ		(6.3)			10YR5/3 にぶい黄褐色	N2/0 黒色	2.5Y5/1 黄灰色	1/少	ナデ/ナデ	黒斑
◇	401	ST21	No.1	弥生	ミニ	Y8		4.3	2.4	—	7.5YR6/6 褐色	7.5YR4/2 灰褐色	3/少	手握ね	黒斑
67	403	ST22		弥生	甕	Z8	(19.2)			10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	2/少	ハケ/ナデ	スス
◇	404	ST22		弥生	壺	A13			(4.2)	2.5Y7/3 浅黄色	7.5YR7/6 褐色	N3/0 暗灰色	4/やや多	叩き後ハケ/ハケ	
70	406	ST23	No.3	弥生	壺	E11	13.2			5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	10YR4/1 褐色	4/少	ハケ・ナデ/ナデ	
◇	407	ST23-SK2		弥生	壺	F10				5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	4/少	ハケ/ナデ	
◇	408	ST23		弥生	壺	F10・11	(13.6)	27.2	2.4	7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR8/4 浅黄褐色	3/少	ハケ/ハケ・ ケズリ	スス/ 搬入
◇	409	ST23-SK2		弥生	甕	F10	(12.3)			7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR6/6 褐色	3/少	ハケ/ナデ	スス
◇	410	ST23		弥生	甕	E10				7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	1/少	ナデ/ナデ	搬入 (高松)
◇	411	ST23		弥生	鉢	E11	(10.4)	4.8	2.4	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	2.5Y5/1 黄灰色	2/少	ナデ/ハケ	
◇	412	ST23-P1		弥生	鉢	F10	(14.0)	7.8	3.8	5YR6/4 にぶい褐色	5YR6/6 褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	3/少	ナデ/ハケ・ナデ	黒斑
◇	413	ST23		弥生	鉢	E11	(11.6)			5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	3/少	ハケ/ナデ	
◇	414	ST23		弥生	鉢	F10・11	(11.4)	12.0	(3.2)	5YR6/6 褐色	5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	3/少	ケズリ/ナデ	
◇	415	ST23		弥生	鉢	F10・11	23.6			7.5YR6/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	3/少	叩き後ナデ/ハケ	
◇	416	ST23-SK2		弥生	底部	F10			(4.4)	5Y4/1 灰色	10YR5/2 灰黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	2/少	ハケ/ ケズリ・ナデ	搬入か/ スス
◇	417	ST23	No.3	弥生	壺	E11			6.8	7.5YR6/6 褐色	7.5YR5/2 灰褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	4/少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	スス
◇	418	ST23		弥生	高杯	E10	(29.6)			10YR6/6 明黄褐色	7.5YR5/6 明褐色	7.5YR4/1 褐色	2/少	ナデ/ ナデ・ミガキ	
◇	419	ST23		弥生	高杯	F10・11			(19.6)	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR5/1 褐色	2/少	ハケ後ミガキ/ ハケ・ナデ	
◇	420	ST23-P12		弥生	高杯					5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	10YR6/2 灰黄褐色	4/少	摩耗/ 摩耗・しぼり目	
◇	421	ST23	No.1	弥生	ミニ	F10	5.4	4.4	1.9	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	2.5Y5/2 暗黄褐色	3/少	ハケ・ナデ/ナデ	ほぼ完
71	423	ST24		弥生	壺	J11				5YR6/8 褐色	5YR6/6 褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2/少	竹管。摩耗/摩耗	
◇	424	ST24-P1/ ST24	バ	弥生	甕	J11	(13.6)			10YR7/3 にぶい黄褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	N5/0 灰色	2/少	叩き/ハケ	
◇	425	ST24	No.2	弥生	甕	K11	(17.8)			10YR8/4 浅黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	N5/0 灰色	5/少	叩き/ハケ	スス
◇	426	ST24/ ST24-P1	バ	弥生	甕	J・K10・ 11				7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	N5/0 灰色	5/少	叩き/ハケ	スス
◇	427	ST24-P1/ ST24	バ	弥生	甕	J・K10・ 11	(17.8)	26.6		10YR7/4 にぶい黄褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	N5/0 灰色	5/少	叩き後ハケ/ハケ	スス
◇	428	ST24-P1		弥生	鉢	J11	(12.5)	5.5	3.5	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR6/1 褐色	3/少	ナデ/ハケ	
◇	429	ST24	No.1	弥生	鉢	J11	(10.4)			7.5YR6/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR4/1 褐色	3/少	ナデ/ハケ	

遺物観察表

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器種	器形	調査区	法量			色調			胎土	特徴	備考
							口径	器高	底径	内面	外面	断面			
71	430	ST24		弥生	鉢	J11	10.7	5.2	3.0	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	5Y4/1 灰色	5/少	ナデ/ハケ・ナデ	スス/ 歪む
〃	431	ST24	No.1	弥生	鉢	J11	(13.3)	7.3	3.6	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	7.5Y5/1 灰色	3/少	ナデ/ハケ	
〃	432	ST24		弥生	鉢	J10	14.6	7.7	4.1	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	3/少	ナデ/ハケ	キレット
〃	433	ST24		弥生	鉢	J・K10	(16.2)	7.6	3.4	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	2.5Y4/1 黄灰色	4/少	叩き後ナデ/ ナデ・ハケ	黒斑
75	435	ST26		弥生	壺	H12	(18.0)			7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	7.5YR4/2 灰褐色	3/少	ハケ/ハケ	
〃	436	ST26		弥生	壺	G12				7.5YR4/1 褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	5/少	突帯・押捺突帯。 —/ナデ	
〃	437	ST26	バ	弥生	甕	G12	(15.6)			5YR5/6 明赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	10YR5/1 褐色	2/少	叩き・ハケ/ ハケ・ナデ	スス
〃	438	ST26-P4		弥生	甕	H12	(17.2)			5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	5YR4/1 褐色	3/少	叩き後ハケ/ ハケ・ケズリ	スス
〃	439	ST26		弥生	甕	G11			3.4	5YR6/6 橙色	5YR6/4 にぶい橙色	2.5Y6/2 灰黄色	5/少	叩き後ハケ/ ナデ・ケズリ	スス
〃	440	ST26	バ	弥生	鉢	G12	(12.8)			5YR5/6 明赤褐色	5YR6/6 橙色	5YR7/4 にぶい橙色	2/少	ケズリ後ミガキ/ ハケ・ナデ	
〃	441	ST26	床/バ/ サ	弥生	鉢	G12	19.4	7.7	2.8	5YR6/6 橙色	2.5YR6/6 褐色	2.5YR3/1 黒褐色	3/少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	キレット
〃	442	ST26	バ	弥生	鉢	G11	22.0	10.3	3.7	2.5YR5/6 明赤褐色	2.5YR5/6 明赤褐色	2.5YR5/6 明赤褐色	3/少	叩き後ナデ/ハケ	キレット/ 黒斑
〃	443	ST26	サ	弥生	鉢	G11	(22.8)			7.5YR7/6 橙色	10YR7/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	2/少	叩き後ハケ/ハケ	
〃	444	ST26	サ/バ	弥生	鉢	H12	(28.4)			7.5YR5/6 明褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/1 褐色	3/少	叩き後ナデ/ナデ	
〃	445	ST26	サ	弥生	鉢				3.5	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/6 明褐色	7.5YR4/1 褐色	2/少	ナデ/ナデ	
〃	446	ST26	床	弥生	壺	G12			5.6	10YR7/4 にぶい黄褐色	5YR6/6 褐色	N4/0 灰色	7/やや多	ハケ/ナデ	黒斑
〃	447	ST26		弥生	底部	G12				5YR6/8 褐色	5YR5/6 明赤褐色	7.5YR8/4 浅黄褐色	3/少	ナデ/ナデ	キレット
77	449	ST27		弥生	壺	H13	(14.0)			7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR4/1 褐色	3/少	ハケか/ナデ	
〃	450	ST27		弥生	壺か	G13・14				5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR4/1 褐色	2/少	竹管・刺突。ナデ/ ナデ	
〃	451	ST27		弥生	不明	G13				7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR5/1 褐色	3/少	ナデ/ナデ	
〃	452	ST27		弥生	甕	G・H13	(14.6)			7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/3 にぶい褐色	5Y4/1 灰色	3/少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	スス
〃	453	ST27		弥生	甕	G13	(20.0)			5YR6/6 褐色	5YR6/4 にぶい褐色	10YR5/1 褐色	3/少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	スス
〃	454	ST27		弥生	鉢	G12・13	(11.8)	8.1	3.8	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/1 褐色	5/少	ナデ/ナデ	キレット
〃	455	ST27		弥生	鉢	G・H13			3.8	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	10YR5/1 褐色	3/少	ナデ/ハケ・ナデ	黒斑/ キレット
〃	456	ST27		弥生	底部	G13			3.6	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	5YR6/6 褐色	3/少	ミガキ/ ナデ・ハケ	
〃	457	ST27		弥生	底部	H13			(4.0)	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR6/1 褐色	4/少	ハケ後ミガキ/ ナデ	搬入か
〃	458	ST27		弥生	壺	G13			7.2	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	7.5YR5/2 灰褐色	4/少	叩き後ミガキ/ ケズリ	
〃	459	ST27		弥生	高杯	G13				2.5Y5/2 暗黄灰色	10YR6/3 にぶい黄褐色	2.5Y5/1 黄灰色	2/少	ミガキ・ハケ/ ナデ	円孔/ 黒斑
〃	460	ST27		弥生	高杯	G13				5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	5Y3/1 オリーブ黒色	3/少	ハケ・ミガキ/ ナデ	四方向に 円孔
80	465	ST28		弥生	壺	E・F13				7.5YR6/6 褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR4/1 褐色	3/少	斜格子。ナデ/ ナデ	
〃	466	ST28	バ	弥生	壺か	E・F13				7.5YR5/4 にぶい褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	10YR6/1 褐色	2/少	ミガキ/ハケ	
〃	467	ST28	バ	弥生	壺					10YR7/4 にぶい黄褐色	2.5YR6/4 にぶい褐色	10YR4/1 褐色	1/少	半裁竹管・波状。 ナデ/ナデ	擬口縁
〃	468	ST28		弥生	壺	E・F13	(13.1)			10YR7/4 にぶい黄褐色	5YR7/3 にぶい褐色	10YR2/1 黒色	3/少	叩き後ナデ/ハケ	
〃	469	ST28	バ	弥生	壺	E12・13				10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	2/少 火山ガ/少	ミガキ・ハケ/ ナデ	
〃	470	ST28		弥生	甕	E・F13	(12.8)			7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/6 明褐色	7.5YR5/6 明褐色	2/少 ウンモ/少	ハケ・ナデ/ナデ	搬入(讚) /スス
〃	471	ST28		弥生	甕	E12・13				7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	1/少 角・火山ガ/少	ナデ/ナデ	搬入 (高松)
〃	472	ST28		弥生	甕	E・F13	16.0			7.5YR7/6 褐色	7.5YR1/1 黒色	7.5YR7/6 褐色	6/少 ウンモ/少	ハケ・ナデ/ハケ	搬入か
〃	473	ST28		弥生	甕	E・F13	(12.3)			10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	4/少 ウンモ/少	ハケ/ケズリ	搬入

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器種	器形	調査区	法量			色調			胎土	特徴	備考
							口径	器高	底径	内面	外面	断面			
80	474	ST28/ ST29	バ	弥生	鉢	E・ F11・12	(19.2)			7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/2 灰褐色	3/少	叩き後ナデ/ハケ	
80	475	ST28	バ	弥生	甕				26	10YR5/3 にぶい黄褐色	2.5Y4/1 黄灰色	10YR5/3 にぶい黄褐色	2/少 火山ガ・ウンモ/少	ミガキカ/ケズリ	搬入(讀 か)/スス
80	476	ST28		弥生	体部 片	E12				7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR7/4 にぶい黄褐色	2.5Y6/1 黄灰色	3/少	線刺。ナデ/ナデ	
80	477	ST28		弥生	高杯	E12	(15.8)			7.5YR6/4 にぶい橙色	5YR6/6 褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2/少	ナデ/ ミガキ・ナデ	
80	478	ST28/ SX20	上層	弥生	高杯	E13・ D13			(19.2)	7.5YR6/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	4/少	ハケ/ ナデか・しほり目	
81	480	ST29		弥生	甕	F12	(13.8)			7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR7/1 明褐色	2/少	ナデ/ハケ	
81	481	ST29		弥生	甕	E・F11				10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	2/少 角・火山ガ/少	ナデ/ナデ	搬入(高 松)スス
81	482	ST29		弥生	ミニ	E12	8.2	3.1	3.2	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR2/1 黒色	2/少	叩き後ナデ/ハケ	キレット
81	483	ST29	バ下層	弥生	鉢	E12	10.7	4.7	3.5	10YR7/6 明黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR4/1 褐灰色	3/少	ナデ/ハケ	
81	484	ST29		弥生	鉢	F11	11.0	5.6	1.9	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	7/少	叩き後ナデ/ハケ	キレット
81	485	ST29		弥生	鉢	F12	(10.2)	7.6		10YR7/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	10YR7/6 明黄褐色	3/少	叩き後ナデ/ハケ	黒斑
81	486	ST29/ SX20	サ	弥生	鉢	E・ F11・12	(22.5)	5.7		7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR8/4 浅黄褐色	10/少	叩き後ナデ/ ハケ・ナデ	
81	487	ST29	バ上層	弥生	底部	E12			2.9	10YR7/6 明黄褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR3/1 黒褐色	3/少	叩き/ハケ	
81	488	ST29		弥生	高杯	F11・12				7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	2/少	ミガキ/ミガキ	
82	491	ST28.29		弥生	壺	F12	(16.0)			7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	3/少	ナデ・ハケ/ ナデ・ハケ	
82	492	ST28.29		弥生	底部	E12			2.7	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR5/1 褐灰色	1/少	ナデ/ナデ	黒斑
82	493	ST28.29		弥生	壺	E12			(5.5)	7.5YR4/3 褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR5/1 褐灰色	5/少	ナデ/摩耗	
84	494	ST30	上層	弥生	壺か	C12・13	(13.2)			5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	5YR4/1 褐灰色	3/少	叩き後ナデ/ ナデ・ケズリ	
84	495	ST30	バ	弥生	鉢	D12・13	(9.4)	5.8	1.8	7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	3/少	ナデ/ハケ	キレット
84	496	ST30		弥生	高杯	D13				7.5YR4/1 褐灰色	7.5YR6/3 にぶい褐色	10YR5/2 灰黄褐色	3/少	ハケ/ハケ	
84	497	ST30		弥生	高杯	D13	(15.2)			7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR5/1 褐灰色	3/少	ハケ/ナデ	
84	498	ST30	上層	弥生	不明	C12・13				7.5YR5/2 灰褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	4/少	半裁竹管・浮文。 ナデ/ナデ	擬口縁
86	499	ST31		弥生	壺	D13	(15.1)			10YR8/3 浅黄褐色	7.5YR8/4 浅黄褐色	N3/0 暗灰色	6/やや多	叩き後ナデ/ナデ	
86	500	ST31		弥生	不明	D13				7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR3/1 黒褐色	2/少	刻み目。ハケ/ ナデ	
86	501	ST31	バ	弥生	鉢	D13	(10.1)			5YR7/6 褐色	5YR6/6 褐色	10YR8/4 浅黄褐色	3/少	ナデ/ハケ	
86	502	ST31		弥生	高杯	D13				7.5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	2/少	ハケ後ミガキ/ ナデ・しほり目	四方向に 円孔
86	503	ST31		弥生	高杯	D13			(12.2)	7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	2/少	ハケ・ナデ/ナデ	
86	504	ST31		弥生	器台 か	D13	(28.0)			5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	2.5Y6/2 灰黄色	3/少	波状。ハケ/ ハケ後ミガキ	擬口縁
87	510	ST30.31	バ	弥生	壺	D13・14	(15.4)			10YR8/4 浅黄褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR4/1 褐灰色	3/少	ハケ後ナデ/ナデ	
87	511	ST30.31		弥生	複合 口壺	E・D13	(19.1)			10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR5/1 褐灰色	4/少	ハケ・ナデ/ ハケ・ミガキ	
87	512	ST30.31		弥生	甕	C・D13・ 14/E14	(13.8)			7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	5Y4/1 褐灰色	2/少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	スス
87	513	ST30.31	バ	弥生	甕	D14				10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR5/1 褐灰色	10/少	叩き後ハケ/ナデ	スス
87	514	ST30.31	バ	弥生	不明					2.5Y6/4 にぶい黄色	7.5YR 6/6褐色	7.5YR6/6 褐色	3/少	櫛描/ナデ・ハケ	
87	515	ST30.31	バ	弥生	高杯	D14			(14.2)	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	4/少 角・ウンモ/少	ナデ/ケズリ	搬入 (高松)
87	516	ST30.31	上層	須恵	壺	D14	(20.2)			2.5Y5/2 暗灰黄色	2.5Y5/2 暗灰黄色	2.5Y5/1 黄灰色	3/少	回転ナデ/ 回転ナデ	
89	518	IV区-2区		弥生	壺					7.5YR7/6 褐色	5YR6/6 褐色	5YR5/1 褐灰色	5/少	竹管。ナデ/ハケ	
89	519	IV区-2区		弥生	壺					10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/6 明黄褐色	10YR2/1 黒色	4/少	ハケ・ナデ/ナデ	スス
89	520	ST32-P4		弥生	甕		(14.2)			10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR7/6 明黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	4/少	ハケ/ナデ	スス

遺物観察表

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器種	器形	調査区	法量			色調			胎土	特徴	備考
							口径	器高	底径	内面	外面	断面			
89	521	IV区-2区		弥生	高杯		(21.6)			7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	N4/0 灰色	2/少	ナデ/ ナデ・ミガキ	
89	522	IV区-2区		弥生	高杯		(20.6)			7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	N5/0 灰色	5/少	ミガキ後ナデ/ ミガキ・ナデ	
89	523	IV区-2区		弥生	高杯			(16.7)		10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	2/少 角/少	ミガキ/ケズリ	搬入 (高松)
89	524	IV区-2区		弥生	脚付 鉢		(5.5)			5YR5/6 明赤褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR5/1 褐灰色	6/少 ウンモ/少	ナデ/ナデ	
89	525	IV区-2区		弥生	高杯					5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	2/少	ミガキ・ナデ/ ナデ	スス
92	527	SK25-SD1		土師	蓋	C8	(18.7)			7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	3/少	ミガキ/ミガキ	赤彩
92	528	SK25	上層	土師	杯	C8	(13.1)			10YR7/6 明黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	精良	ロクロナデ/ ロクロナデ	
92	529	SK25		土師	甕	C8	(30.0)			10YR8/4 浅黄褐色	7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR8/4 浅黄褐色	3/やや多	ハケ/ハケ	スス
92	530	SK25	バ	黒色	椀	C8		(8.2)		10YR2/1 黒色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR5/1 褐灰色	1/ごく少	内黒。ナデ/ ミガキ	
92	531	SK25		須恵	蓋	C8	(15.4)	1.6		2.5Y6/3 にぶい黄色	2.5Y6/2 灰黄色	2.5Y6/2 灰黄色	2/少	回転ナデ/ 回転ナデ	焼け歪む
92	532	SK25	上層	須恵	杯	C8		(9.0)		2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y6/1 黄灰色	1/少	回転ナデ/ 回転ナデ	ローリン グ
92	533	SK25	上層	須恵	甕	C8	23.2			5Y5/1 灰色	2.5Y6/2 灰黄色	2.5Y6/2 灰黄色	6/少	カキ目/ カキ目・ヨコナデ	
92	534	SK25		須恵	杯身	C8				2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y6/3 にぶい黄色	2.5Y6/1 黄灰色	1/少	回転ケズリ・ナデ /回転ナデ	混入か
92	535	SK25		須恵	高杯	C8				5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	2/少	回転ナデ/ 回転ナデ	透孔。 混入か
93	537	SK26	バ	土師	杯	C6		(6.0)		7.5YR7/4 にぶい橙色	2.5Y6/1 黄灰色	7.5YR7/4 にぶい橙色	精良	回転ナデ/ 回転ナデ	
93	538	SK26		土師	椀	C6				7.5YR6/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	10YR8/6 黄褐色	1/少	ナデ/不明	
93	539	SK26	バ	須恵	甕	C6				10YR4/2 灰黄褐色	2.5Y6/1 黄灰色	10YR5/2 灰黄褐色	1/少	叩き/ナデ	
94	540	SK29		須恵	杯身	V3	(8.2)			2.5Y6/2 灰黄色	2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y6/2 灰黄色	精良	回転ナデ/ 回転ナデ	自然釉
95	541	SK31		土師	杯B	B4		(8.4)		5YR7/6 橙色	5YR7/6 橙色	10YR7/4 にぶい黄褐色	精良	回転ナデ/ナデ	
95	542	SK31		須恵	蓋	B4	(13.8)			2.5Y7/1 灰白色	2.5Y7/1 灰白色	2.5Y7/1 灰白色	2/ごく少	摩耗/摩耗	焼成不良
96	543	SK33		須恵	杯	B5・6	(13.1)			2.5Y6/2 灰黄色	5Y6/1 灰色	2.5Y6/2 灰黄色	1/ごく少	回転ナデ/ 回転ナデ	
96	544	SK34		須恵	壺	B5				2.5Y6/3 にぶい黄色	10YR6/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	3/少	回転ナデ/ 回転ナデ	
96	545	SK34		弥生	鉢	B5	12.0	4.6		7.5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	7/少	摩耗/摩耗	ほぼ完
96	546	SK34	上層	弥生	不明	B5				7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	3/少	ナデ/ナデ	
97	547	SK39		土師	甕	C・D7	(31.1)			10YR7/3 にぶい黄褐色	7.5YR7/3 にぶい黄褐色	5Y5/1 灰色	3/少	ハケ・ナデ/ハケ	
97	548	SK39		須恵	蓋	C・D7	(13.2)	2.5		2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y6/1 黄灰色	5/少	摩耗/摩耗	焼成不良
97	549	SK39		須恵	杯B	C・D7		(13.4)		2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	2.5YR8/2 灰白色	2/少	摩耗/摩耗	焼成不良
97	550	SK39/II層		須恵	甕	C・D7/ D7	(11.6)			5Y5/1 灰色	5Y5/1 灰色	10YR5/3 にぶい黄褐色	2/少	回転ナデ/ 回転ナデ	
99	554	SK65		土師	杯			(9.2)		7.5YR7/6 橙色	5YR6/6 橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	3/少	ミガキ/ミガキ	
99	555	SK65		須恵	杯B			(9.2)		5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	1/少	回転ナデ/ 回転ナデ	
103	556	SK69		弥生	高杯	G6	(19.6)			5YR6/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	10YR5/2 灰黄褐色	3/少	ハケ・ナデ/摩耗	
103	557	SK69	バ	弥生	壺	F5	(17.4)			7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR8/3 浅黄褐色	2/少	ハケ/ハケ	
103	558	SK69		弥生	壺	F6	(18.5)			7.5YR7/4 にぶい橙色	5YR6/4 にぶい橙色	10YR7/4 にぶい黄褐色	3/少	ハケ/ナデ	
103	559	SK69	バ	弥生	壺	F・G6	(11.3)			7.5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	10YR5/2 灰黄褐色	2/少	ハケ/ハケ	
103	560	SK69		弥生	二重 口壺	G6	(19.6)			10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	N6/0 灰色	2/少	ナデ/ナデ	
103	561	SK69	No.12	弥生	甕		15.9			7.5YR7/6 橙色	5YR7/6 橙色	5Y5/1 灰色	3/少	叩き/ナデ	スス
103	562	SK69		弥生	甕	F5	(15.8)			7.5YR6/3 にぶい褐色	7.5YR6/3 にぶい褐色	7.5YR5/2 灰褐色	3/少	叩き・ナデ/ハケ	スス
103	563	SK69		弥生	甕か 鉢か	F5・6	(26.0)			7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR6/2 灰黄褐色	3/少	叩き後ハケ/ハケ	

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器種	器形	調査区	法量			色調			胎土	特徴	備考
							口径	器高	底径	内面	外面	断面			
103	564	SK69-P2/ SK69	No.18	弥生	甕	F6・G5			1.6	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	N3/0 暗灰色	3/少	叩き後ナデ/ ハケ・ナデ	被熱変色
104	565	SK69	No.1	弥生	鉢	G6	9.9	2.4		5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	6/少	ナデ/ハケ・ナデ	ほぼ完
〃	566	SK69		弥生	鉢	F5	(10.0)			7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	3/少	ナデ/ナデ	キレット
〃	567	SK69	バ	弥生	鉢	F5	11.8		1.9	10YR7/4 にぶい黄橙色	7.5YR7/6 橙色	7.5YR4/1 褐色	5/少	ナデ/ナデ	黒斑
〃	568	SK69		弥生	鉢	F5・6	(11.1)	5.0	4.3	7.5YR6/6 橙色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	3/少	ナデ/ナデ	キレット
〃	569	SK69	バ	弥生	鉢	F5	10.4	4.7	1.5	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	3/少	ナデ/ハケ・ナデ	ほぼ完
〃	570	SK69-P2	No.16	弥生	鉢	F6	11.2	5.7	2.7	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR7/3 にぶい黄褐色	4/少	ナデ/ナデ・ハケ	キレット
〃	571	SK69-P2	No.17	弥生	鉢	F6	(10.4)	6.6	3.2	2.5YR6/4 にぶい橙色	5YR7/4 にぶい橙色	5YR7/4 にぶい橙色	3/少	ナデ/ハケ	キレット
〃	572	SK69	No.4	弥生	鉢	F6	11.3	6.2	1.6	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	5Y5/1 灰色	3/やや多	叩き後ナデ/ナデ	黒斑/キレット/ ほぼ完
〃	573	SK69-P2	No.18	弥生	鉢	F6	(15.2)	7.7	3.5	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	3/少	ナデ/ハケ	
〃	574	SK69	No.14	弥生	鉢		9.4	5.2	1.7	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR4/1 褐色	2/少	摩耗/摩耗	黒斑/ ほぼ完
〃	575	SK69	No.13	弥生	鉢	F5・6	12.1	5.5		7.5YR6/4 にぶい橙色	5YR6/6 褐色	2.5YR6/6 褐色	5/少	ナデ/ハケ・ナデ	黒斑/ 被熱変色
〃	576	SK69	No.5	弥生	鉢		11.2		3.1	7.5YR8/6 浅黄褐色	7.5YR8/4 浅黄褐色	7.5YR5/1 褐色	3/少	摩耗/ナデ	黒斑
〃	577	SK69	No.11	弥生	鉢		(13.0)	5.9	3.2	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	4/少	ナデ/ナデ	キレット
〃	578	SK69	No.9	弥生	鉢		13.5	7.7	2.9	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	5/少	叩き後ナデ/ナデ	スス
〃	579	SK69	No.10	弥生	鉢		17.4	8.4	2.5	2.5YR6/6 褐色	2.5YR6/6 褐色	2.5YR6/6 褐色	5/少	摩耗/工具ナデ	
〃	580	SK69		弥生	鉢	F5・6	(19.9)			10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	2.5Y6/1 黄灰色	3/少	ナデ/ナデ	
〃	581	SK69		弥生	鉢	F5	(13.8)			10YR6/4 にぶい黄褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	1/少	叩き後ナデ/ナデ	穿孔か
〃	582	SK69	No.7	弥生	鉢	F5・6	(13.4)			10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	5Y5/1 灰色	3/少	ハケ/ナデ	
〃	583	SK69	バ	弥生	鉢	F5	(12.4)			5Y5/1 灰色	10YR7/4 にぶい橙色	5Y5/1 灰色	2/少	ナデ/ナデ	キレット
〃	584	SK69		弥生	鉢	F5・6	(16.2)	8.4		5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	5/少	ナデ/ハケ	
〃	585	SK69		弥生	鉢	G6	(15.7)			10YR5/2 灰黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2/少	叩き後ナデ/ナデ	黒斑
〃	586	SK69/P204	バ	弥生	鉢	F・G6	16.2			5YR6/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	3/少	叩き後ナデ/ナデ	
〃	587	SK69		弥生	底部	G5			3.7	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	10YR5/1 褐色	2/少	ナデ/ナデ	葉脈痕
〃	588	SK69	バ	弥生	大形壺	F5			9.9	7.5YR7/6 褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	5YR6/6 褐色	6/少 火山ガ/少	叩き後ナデ/ハケ	被熱変色 か
〃	589	SK69	バ	弥生	大形壺	F5			(5.1)	7.5YR6/4 にぶい橙色	N4/0 灰色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7/少	叩き後ナデ/ハケ	黒斑
〃	590	SK69	No.15	弥生	壺				2.7	2.5YR7/3 淡赤褐色	2.5YR7/6 褐色	2.5Y5/1 黄灰色	3/少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	被熱変色
105	591	SK69	バ	弥生	高杯	G6	(17.6)			2.5YR6/8 褐色	2.5YR6/8 褐色	5YR6/6 褐色	3/少	摩耗/摩耗	
〃	592	SK69	バ	弥生	高杯	F5	(20.4)			7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR4/1 褐色	3/少	ハケ後ナデ/ ナデ・ハケ	擬口縁
〃	593	SK69	バ	弥生	高杯	F5				7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR8/3 浅黄褐色	3/少	ミガキ/ナデ	四方向に 円孔
〃	594	SK69	No.15	弥生	高杯				(12.2)	7.5YR7/6 褐色	5YR7/6 褐色	10YR4/1 褐色	3/少	ハケ/摩耗	円孔
〃	595	SK69	No.3	弥生	高杯	F5			13.6	5YR6/8 褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	3/少 火山ガ/少	ハケ/ 摩耗・しほり目	四方向に 円孔
〃	596	SK69	No.6	弥生	脚部				(10.5)	10YR7/4 にぶい黄褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR5/1 褐色	3/少	ナデ/ナデ・ハケ・ しほり目	
〃	597	SK69	バ	弥生	脚部	F5			4.6	5YR7/6 褐色	5YR7/6 褐色	10YR6/4 にぶい赤褐色	3/少	ナデ/ナデ	被熱変色
〃	598	SK69		弥生	鉢	F5・6	(7.9)	2.5	2.6	5YR5/8 明赤褐色	5YR5/8 明赤褐色	5YR2/1 黒褐色	3/少	ナデ/ナデ	歪む
〃	599	SK69	No.2	弥生	ミニ	G6			1.6	5YR7/8 褐色	5YR7/6 褐色		3/少	叩き後ナデ/ナデ	ほぼ完
〃	600	SK69	No.8	弥生	ミニ		5.6	5.4	1.2	7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	4/少	ナデ/ナデ	ほぼ完
〃	601	SK69	バ	製塩		F5				7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	3/少	ナデ/ 荒れる、不明	

遺物観察表

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器種	器形	調査区	法量			色調			胎土	特徴	備考
							口径	器高	底径	内面	外面	断面			
105	602	SK69	バ	弥生	鉢か	F5				5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	10YR5/1 褐灰色	3/少	叩き後ナデ/ ハケ・ナデ	赤色顔料
〃	604	SK69	バ	弥生	高杯	F5				10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR4/1 褐灰色	2/少やや多	凹線。ナデ/ナデ	
108	607	SK72	上層	弥生	脚部	F4・5			(7.4)	2.5Y4/1 黄灰色	7.5YR7/4 にぶい橙色	2.5Y4/1 黄灰色	5/少	ナデ/ナデ	
109	608	SK74		土師	杯	D8	(11.2)	3.0	(6.8)	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	精良	回転ナデ/ 回転ナデ	
〃	609	SK74		土師	杯	D8	(12.4)	3.5	(7.6)	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	N4/0 灰色	精良	回転ナデ/ 回転ナデ	
〃	610	SK74		土師	杯	D8			(6.8)	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/2 灰白色	10YR7/1 灰白色	精良	摩耗/摩耗	
〃	611	SK74		土師	杯	D8				7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	精良	摩耗/摩耗	
〃	612	SK74		土師	杯	D8			10.1	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	7.5Y6/1 灰色	2/少	回転ナデ/ 回転ナデ	
〃	613	SK74		黒色	椀	D8	(15.5)	4.0	高台径 (7.6)	10YR4/1 褐灰色	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR4/1 褐灰色	1/ごく少	内黒。ミガキ/ 回転ナデ	スス
〃	614	SK74		土師	甕	D8	(14.2)			10YR7/4 にぶい黄橙色	7.5YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	精良	摩耗/摩耗	スス
〃	615	SK74		土師	甕	D8	(21.0)			7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	2/少 ウンモ/少	ナデ・ハケ/ ナデ・ハケ	スス
〃	616	SK74		土師	甕	D8	(17.6)			10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	2/少	ナデ・ハケ/ ナデ・ハケ	
〃	617	SK74		土師	不明	C8				10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	精良	ナデ/ー	
110	618	SK75		弥生	鉢		(13.2)	5.8	2.7	5YR7/6 橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	2.5Y6/3 にぶい黄色	3/少	ナデ/ハケ	
〃	619	SK69・75		弥生	甕	F5	(13.9)			10YR7/4 にぶい黄橙色	7.5YR6/3 にぶい褐色	2.5Y5/1 黄灰色	4/少	叩き後ハケ/ハケ	スス
〃	620	SK75	バ	弥生	底部	F6			(6.4)		7.5YR6/4 にぶい橙色	5YR6/6 褐色	2/少	叩き後ナデ/ー	図624と同 一物体か
111	621	SX9/SK76		土師	甕	H・I9	(19.1)			7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	4/やや多	ナデ/ケズリ	
〃	622	SK76		須恵	壺	I9	8.1			2.5Y6/2 灰黄色	5Y5/1 灰色	5YR5/1 褐灰色	2/少	回転ナデ/ 回転ナデ	
〃	623	SK76		弥生	甕	H・I9	(19.2)			7.5YR7/6 褐色	5YR6/6 褐色	7.5YR4/1 褐灰色	3/少	ハケ/ハケ	
112	624	SK77	バ	弥生	底部	G8・9			(6.4)		7.5YR6/4 にぶい橙色	5YR6/6 褐色	2/少	叩き後ナデ/ー	図620と同 一物体か
114	625	SK83		弥生	鉢	M5	11.0	5.4		7.5YR7/4 にぶい褐色	10YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	2/少	ナデ/ハケ・ナデ	黒斑
116	626	SK93		弥生	不明	J9				5YR6/6 褐色	5YR7/6 褐色	10YR3/1 黒褐色	2/少	叩き後ナデ/ハケ	
〃	627	SK94		土師	皿	E16	(16.6)	2.1	(13.3)	5YR6/8 褐色	5YR6/8 褐色	5YR6/8 褐色	2/少	摩耗/摩耗	
117	628	SK102		弥生	甕	X9				7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR5/2 灰褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	2/少	ハケ・ナデ/ハケ	
118	629	SK104		弥生	鉢	Z12	(11.4)	6.3	2.6	7.5YR8/4 浅黄褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR6/1 褐灰色	4/少	ナデ/ハケ	
119	630	SK105		弥生	壺	Z12	(24.7)			5YR6/4 にぶい褐色	5YR6/6 褐色	10YR4/1 褐灰色	2/少	ハケ/ハケ	
〃	631	SK105		弥生	鉢	Z12	10.3	7.1	2.2	7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR2/1 黒色	4/少	叩き後ナデ/ハケ	黒斑/ ほぼ完
120	632	SK106		弥生	甕	B11	(16.5)			10YR7/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	10YR5/1 褐灰色	3/少	叩き後ハケ/ ケズリ	スス
〃	633	SK106		弥生	不明	B11				7.5YR7/6 褐色	5YR7/6 褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	5/少	ハケ/ハケ・ナデ	
122	634	SK108		弥生	壺	L・M11	(22.8)			7.5YR7/4 にぶい褐色	5YR6/6 褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2/少	斜格子。ナデ/ ハケ	
〃	635	SK108		弥生	壺	L12	(20.6)			10YR7/4 にぶい褐色	10YR7/4 にぶい褐色	N5/0 灰色	2/少	刺突・斜格子。 ナデ/ナデ	
〃	636	SK108		弥生	甕	L・M11	(14.3)			5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	7.5YR4/1 褐灰色	2/少	張付口縁。ナデ/ ナデ・しほり目	
〃	637	SK108		弥生	甕	L・M11	(12.4)			7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR4/1 褐灰色	2/少	張付口縁。ナデ・ ハケ/ナデ・ハケ	
〃	638	SK108		弥生	甕	L・M11	(15.6)	25.6	4.2	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR4/1 褐灰色	2/少	張付口縁・刻目。 ハケ/ナデ	スス
〃	639	SK108		弥生	甕	L・M12	(15.2)			10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	10YR3/1 黒褐色	3/少	2条の凹線。ハケ/ ナデ	スス/ 被熱変色
〃	640	SK108		弥生	鉢	L・M11	(10.0)	6.8	2.4	7.5YR5/4 にぶい褐色	5YR5/6 明赤褐色	7.5YR2/1 黒色	1/少	ナデ/ハケ	黒斑
〃	641	SK108	上層/ サ	弥生	高杯	L・ M11・12	(27.4)			5YR5/2 灰褐色	5YR7/6 褐色	N4/0 灰色	3/少	ハケ/ミガキ	
125	645	SD3		土師	把手	G5				7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR5/1 褐灰色	5/やや多	ナデ/ナデ	

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器種	器形	調査区	法量			色調			胎土	特徴	備考
							口径	器高	底径	内面	外面	断面			
125	646	SD3		須恵	高杯	B5				2.5Y6/2 灰黄色	2.5Y5/2 暗灰黄色	2.5Y6/2 灰黄色	2/少	回転ナデ/ 回転ナデ	透孔
〃	648	SD10		土師	皿	C8				10YR6/4 にぶい黄橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR5/2 灰黄褐色	2/少	ヨコナデ/ミガキ	
〃	650	SD24		土師	把手	Y15				10YR7/6 明黄褐色	10YR7/6 明黄褐色	10YR7/6 明黄褐色	4/少	ナデ/ナデ	
〃	651	SD25		弥生	甕	D17	(15.4)			7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR6/3 にぶい褐色	7.5YR5/1 褐灰色	6/やや多	叩き後ナデ/ハケ	
127	652	SD27		弥生	小形 壺	B9	10.1	7.5	4.2	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄褐色	7.5Y5/1 灰色	2/少	貼付口縁。ハケ/ ハケ・ナデ	口縁部に 円孔
〃	653	SD27/ II層		弥生	壺	B8.9	(26.6)			10YR8/4 浅黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	N5/0 灰色	4/やや多	貼付口縁。刻目。 ハケ/ハケ・ナデ	
〃	654	SD27/ ST18/ II層		弥生	甕	B8・9/ A9	(15.2)			5YR6/6 橙色	5YR6/4 にぶい橙色	5Y5/1 灰色	2/少	凹線。ミガキ・ナ デ/ケズリ・ナデ	スス
〃	655	SD27		弥生	甕	B8・9	(17.8)			10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/6 明黄褐色	10YR4/1 褐灰色	2/少	3条の凹線文。 ナデ/ナデ	
〃	656	SD27		弥生	甕	B9	(18.4)			7.5Y6/3 にぶい褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	2/やや多	3条の凹線文。 ナデ/ナデ	
〃	657	SD27/ II層		弥生	鉢	B8・9	(36.6)	33.0	11.9	7.5YR7/6 橙色	10YR7/3 にぶい黄褐色	5Y4/1 灰色	3/少	ハケ/ケズリ	黒斑 胎土分析
〃	658	ST18・ SD27		弥生	甕	A8・9			6.4	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい橙色	2/少	ミガキカ/ケズリ	被熱変色
〃	659	SD27		弥生	壺か 甕	B9			(5.4)	10YR6/1 褐灰色	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	2/少	ハケ/ハケか	スス
〃	660	SD27/ II層		弥生	壺	B8・9			10.2	7.5YR6/6 橙色	10YR6/3 にぶい黄褐色	5Y4/1 灰色	3/少	ミガキ/ケズリ	黒斑
〃	661	SD27/ ST18		弥生	壺	A・B8・ 9/Z・A9			(9.2)	10YR7/4 にぶい黄褐色	7.5YR6/6 褐色	N5/0 灰色	2/少	ミガキ/ナデ	
129	663	P5		土師	杯					7.5YR8/4 浅黄褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	精良	ナデ/ナデ	
〃	664	P5		須恵	杯B				(11.0)	2.5Y5/1 黄灰色	10YR5/1 褐灰色	2.5Y5/2 暗灰黄色	3/少	ヨコナデ/ ヨコナデ	
130	665	P20		弥生	高杯	Z6				5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	3/少	ナデ/ナデ	
〃	666	P20		弥生	高杯	Z6				7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5Y4/1 灰色	3/少	ナデ/ナデ	三方向に 円孔
131	667	P34	No.6~ 8/No.10	弥生	壺	Y4			5.4	5YR6/6 褐色	5YR5/6 明赤褐色	10YR6/1 褐灰色	5/少	ミガキ/ナデ	スス
〃	668	P34	上層/ No.3	弥生	甕	Y4	15.5	25.0	5.2	5YR6/6 褐色	5YR5/6 明赤褐色	5YR6/4 にぶい褐色	5/少	叩き後ナデ/ ナデ・ケズリ	スス
〃	669	P34	No.2/ No.7/No.9	弥生	甕	Y4	16.3	28.0	5.0	5YR6/8 褐色	5YR5/6 明赤褐色	7.5YR4/1 褐灰色	4/やや多 ウンモ・火山ガ/少	叩き後ハケ/ ケズリ・ナデ	スス/ 搬入品か
〃	670	P34	No.1	弥生	甕	Y4	(16.9)			7.5YR6/4 にぶい褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR5/1 褐灰色	4/少	ハケ・ナデ/ ナデ・ケズリ	
〃	671	P34		弥生	鉢	Y4	(12.9)	9.0	3.6	5YR5/4 にぶい赤褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	5/少	ナデ/ナデ	スス
〃	672	P34/ II層	No.4	弥生	底部	Y4			4.3	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	4/少	ハケ・ナデ/ ケズリ	
〃	673	P34		弥生	底部	Y4			6.2	7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	2.5Y4/1 黄灰色	4/少	ナデ/ナデ	黒斑
133	674	P43	上層	須恵	皿	B7	(13.5)	2.2	(11.5)	7.5YR7/6 褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	7.5YR7/6 褐色	1/少	摩耗/摩耗	焼成不良
〃	675	P44	上層	土師	皿	B7	(18.7)	3.2	(11.0)	5YR6/6 褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	精良	ミガキ/ミガキ	
〃	676	P44		弥生	脚付 鉢か	B7				2.5YR5/6 明赤褐色	2.5YR6/6 褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2/少	ミガキ/ミガキ	
〃	677	P46		須恵	杯B	B7			9.2	2.5Y7/3 浅黄色	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y5/1 黄灰色	5/少	摩耗/摩耗	焼成不良
〃	678	P46	上層	須恵	杯B	B7			(11.2)	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	2.5Y4/2 暗灰黄	1/少	ヨコナデ/ ヨコナデ	
〃	679	P49		土師	皿	B7	(23.2)	3.4	(20.6)	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	10YR8/3 浅黄褐色	精良	ヨコナデ/ ヨコナデ	内外面 赤彩
〃	681	P82		弥生	脚部	C5			(5.8)	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	1/少	ナデ/ナデ	
〃	682	P88	上層	須恵	杯身	D4				7.5Y6/1 灰色	5Y6/2 灰オリーブ色	5Y6/2 灰オリーブ色	3/少		
〃	683	P91		弥生	壺	C5	(16.5)			10YR8/4 浅黄褐色	5YR6/6 褐色	10YR8/4 浅黄褐色	4/少	ハケ/ハケ	
〃	684	P94		弥生	壺	B4	21.3			10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR4/1 褐灰色	4/少 ウンモ/少	ミガキ/ナデ	
〃	685	P102		弥生	甕	C4	(15.0)			7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	4/少	ハケ/ハケ	スス
〃	686	P128		弥生	甕	E3				2.5Y5/2 暗灰黄色	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2/少	叩き後ハケ/ハケ	スス
〃	687	P130		弥生	高杯	E3				7.5YR6/4 にぶい褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	6/少	ナデ/ナデ	スス

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器種	器形	調査区	法量			色調			胎土	特徴	備考
							口径	器高	底径	内面	外面	断面			
133	688	P140		弥生	鉢	E4	(11.1)			7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	4/少	ナデ/ハケ	
〃	689	P146/Ⅱ層		弥生	甕	X5/X6	(16.5)			5YR6/6 橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	2.5Y5/2 暗灰黄色	3/少	ナデ/ハケ後ナデ	スス
〃	690	P146		弥生	高杯	X6				5YR7/6 橙色	5YR7/6 橙色	10YR5/2 灰黄褐色	5/少	ハケ・ミガキ/ ミガキ	
〃	691	P159		不明	不明	D6				7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/3 にぶい橙色	7.5YR5/4 にぶい褐色	2/少	ハケ/ハケ	スス
〃	692	P162		須恵	杯B	C8			(8.8)	2.5Y6/2 灰黄色	2.5Y6/2 灰黄色	2.5Y6/2 灰黄色	2/少	ヨコナデ/ ヨコナデ	
〃	693	P163		土師	杯	C8	(14.5)	3.8	9.0	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	2/少	ヨコナデ/ ヨコナデ	
〃	695	P168		弥生	壺	E7	(15.8)			10YR7/4 にぶい黄褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR4/1 褐灰色	4/少	ハケ/ナデ	
〃	696	P168		弥生	底部	E7			3.9	7.5YR5/3 にぶい褐色	2.5Y5/3 黄褐色	2.5Y5/3 黄褐色	3/少	ハケ/ナデ	
〃	697	P169		須恵	高杯	E7			(9.0)	N6/ 灰色	N6/ 灰色	5Y5/1 灰色	2/少	ヨコナデ/ ヨコナデ	
134	698	P183		土師	甕	A・B8			5.5	7.5YR7/8 黄褐色	10YR7/6 明黄褐色	7.5YR5/1 褐灰色	5/やや多	叩き後、ハケ/ ハケ	スス/ おこげ
〃	699	P183/Ⅱ層	上層 下層	弥生	鉢	A・B8/ B8	28.6			5YR5/4 にぶい赤褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	2.5YR5/2 暗灰黄色	7/少	ハケ/ハケ・ナデ	黒斑
〃	700	P183/Ⅱ層 /Ⅲ層		弥生	鉢	A・B8/ B8	(43.8)			5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	5/少	ハケ/ハケ	片口
135	701	P184/Ⅱ層 /Ⅲ層		弥生	甕	A・B8	(22.6)			10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR4/1 褐灰色	5/少	叩き後ハケ/ナデ	黒斑
136	702	P185		弥生	甕	A・B8			1.5	7.5YR7/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	2.5Y4/1 黄灰色	2/少	摩耗/ナデ	穿孔
143	704	P214		須恵	不明	E8	(12.2)			2.5Y7/1 灰白色	5Y4/2 灰オリーブ色	2.5Y7/2 灰黄色	2/少	2条の凹線。ヨコ ナデ/ヨコナデ	
〃	705	P246		弥生	複合 口壺	D8				5YR5/6 明赤褐色	5YR6/6 褐色	2.5Y5/1 黄灰色	3/少 ウンモ/少	波状。ハケ/摩耗	
〃	707	P248		弥生	底部	E9			(6.3)	10YR5/1 褐灰色	7.5YR7/6 褐色	10YR5/1 褐灰色	4/少	叩き/ナデ	
〃	710	P356			ミニ	L10	7.0	5.4	2.0	7.5YR3/1 黒褐色	7.5YR3/1 黒褐色	7.5YR4/2 灰褐色	2/少	叩き後ナデ/ナデ	
〃	712	P414		弥生	鉢	D17	(12.0)			5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	5YR6/1 褐灰色	3/少	ナデ/ ハケ後ミガキ	
〃	713	P426		弥生	甕	D18	(15.0)			10YR4/4 褐色	10YR2/1 黒色	10YR5/4 にぶい黄褐色	1/少 角/少	ナデ/ナデ	スス/ 搬入
〃	714	P427		弥生	甕	F17	(16.4)			10YR6/4 にぶい黄褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	10YR4/1 褐灰色	3/少	張付口縁。ハケ/ ハケ	スス
〃	715	P427		弥生	底部	F17			(5.9)	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR5/1 褐灰色	3/少	ハケ・ナデ/ナデ	スス
〃	716	P427		弥生	高杯	F17				5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	2/少	ミガキ/ナデ	
147	719	SG1		弥生	壺	D18				2.5Y4/1 黄灰色	7.5YR7/6 褐色	2.5Y4/1 黄灰色	7/少	ミガキ/ナデ	黒斑
〃	720	SG2		弥生	壺	D18				10YR4/1 褐灰色	7.5YR7/6 褐色	10YR4/1 褐灰色	5/やや多	叩き後ナデ/不明	
148	721	SG3		弥生	壺	C17			(6.0)	2.5Y4/1 黄灰色	7.5YR6/6 褐色	2.5Y4/1 黄灰色	4/少	叩き後ハケ・ ミガキ/ハケ	黒斑
149	722	SG5		弥生	壺	E17			5.4	N4/0 灰色	10YR7/4 にぶい黄褐色	N4/0 灰色	5/少	叩き後ハケ/ ハケ後ナデ	黒斑
150	723	SG6		弥生	壺	E17			9.5	7.5YR7/6 褐色	5Y5/6 明赤褐色	7.5YR2/1 黒色	10/少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	黒斑
151	724	SG7		弥生	壺		(21.0)			5YR6/8 褐色	5YR7/6 褐色	2.5Y5/1 黄灰色	3/少	斜格子文。ハケ/ ナデ	
〃	725	SG7		弥生	甕	E18			5.0	10YR6/6 明黄褐色	5YR6/8 褐色	5YR4/1 褐灰色	5/少	叩き後ハケ/ ナデ・ハケ	スス
152	726	SG8		弥生	壺	E18				10YR7/6 明黄褐色	5YR6/6 褐色	5YR4/1 褐灰色	5/少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	黒斑
154	727	SG9		弥生	鉢	E18	(22.0)			7.5YR5/4 にぶい褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	7.5YR6/6 褐色	5/少	叩き後ナデ/ハケ	
〃	728	SG9/10		弥生	壺	E18				7.5YR6/4 にぶい褐色	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	5/少	叩き後ハケ/ハケ	黒斑
〃	729	SG9		弥生	壺	E18			8.0	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR4/1 褐灰色	4/少	叩き後ミガキ/ ハケ	黒斑
〃	730	SG9		弥生	壺	E18			(6.4)	5YR6/6 褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR5/2 灰褐色	3/少	叩き後ミガキ・ ナデ/ハケ・ナデ	
155	731	SG10		弥生	壺				5.0	10YR6/6 明黄褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR5/2 灰褐色	5/少	叩き後ハケ/ハケ	黒斑
156	732	SG12		弥生	壺	E18				10YR7/4 にぶい黄褐色	5YR6/6 褐色	10YR4/1 褐灰色	5/少	叩き後ハケ/ナデ	
157	733	SG13		弥生	壺	D17			5.0	2.5Y7/2 灰黄色	10YR7/4 にぶい黄褐色	N5/0 灰色	12/やや多	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	黒斑

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器種	器形	調査区	法量			色調			胎土	特徴	備考
							口径	器高	底径	内面	外面	断面			
158	734	SG14		弥生	壺	D・E18			(10.0)	10YR7/4 にぶい黄橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR4/1 褐灰色	6/やや多	叩き後ハケ/ハケ	黒斑
160	735	SG15		弥生	壺					7.5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR5/1 褐灰色	5/少	叩き後ハケ/ハケ	擬口縁
〃	736	SG15		弥生	壺	E18			8.5	5YR6/6 橙色	5YR5/6 明赤褐色	5YR6/6 橙色	5/やや多	叩き後ハケ/ハケ	
161	737	SG16		弥生	壺				7.2	10YR2/1 黒色	5YR6/6 橙色	10YR5/2灰 黄褐色	5/少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	黒斑
163	741	SX1		須恵	杯身	V5・6	(12.9)	3.7	(7.4)	5Y6/2 灰オリーブ色	2.5Y7/3 浅黄色	2.5Y6/2 灰黄色	2/少	回転ナデ・回転ケ ズリ/回転ナデ	混入
164	745	SX3	ハ	土師	甕	V6	(20.0)			7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	7.5YR5/1 褐灰色	3/少	ナデ/ケズリ	黒斑
165	748	SX9		弥生	甕	I7				7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/1 褐灰色	2/少	叩き後ハケ/ハケ	線刻
〃	749	SX9		庄内 式	甕	H7	(18.2)			7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	2/やや少 角/少	ナデ・ハケ/ ナデ・ケズリ	搬入 (庄内)
〃	750	SX9		土師	甕	G8	21.3			10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR6/1 褐灰色	3/少	ハケ/ナデ・ハケ	黒斑
〃	751	SX9/II層		土師	甕	F・G8	(19.4)			10YR5/3 にぶい黄褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR6/1 褐灰色	2/少	ナデ/ ナデ・ケズリ	
〃	752	SX9/II層		土師	甕	I9	(23.2)			7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR5/1 褐灰色	8/やや多	ハケ/ケズリ	スス
〃	753	SX9		土師	甕	G8				2.5 Y 8/3 淡黄色	2.5Y8/2 灰白色	2.5 Y 8/3 淡黄色	2/少	ナデ/磨耗	
〃	754	SX9		土師 質	杯	I6	(11.0)	4.2	(5.0)	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	精良	回転ナデ/ 回転ナデ	糸
〃	755	SX9		須恵	杯蓋	G8	13.2	3.2		5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	5/少	回転ナデ/ 回転ナデ	ほぼ完
〃	756	SX9		須恵	杯蓋	F9	(13.8)			5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	1/少	回転ナデ/ 回転ナデ	
〃	757	SX9		須恵	杯身	G8	(10.7)			7.5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	1/少	回転ナデ/ 回転ナデ	
〃	758	SX9		須恵	高杯	F7・8	(12.2)			2.5YR6/1 黄灰色	2.5YR5/1 黄灰色	2.5Y6/2 灰黄色	精良	回転ナデ/ 回転ナデ	
〃	759	SX9		須恵	壺	F9				2.5Y7/1 灰白色	2.5Y5/2 暗灰黄色	10YR6/2 灰黄褐色	2/少	2条の凹線。回転 ナデ/回転ナデ	
〃	760	SX9		須恵	壺	D9	(23.6)			5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	3/少	回転ナデ/回転ナ デ・当て具痕	
〃	761	SX9		須恵	不明	I9				5Y5/1 灰色	10Y5/1 灰色	10Y5/1 灰色	5/少	カキメ/回転ナデ	
168	767	SX11		弥生	底部	K6			(6.2)	7.5YR6/4 にぶい褐色	10YR3/1 黒褐色	10YR5/1 褐灰色	2/少	ハケ/ナデ	
〃	768	SX11		須恵	杯身 か	K5・6			(7.2)	2.5Y7/1 灰白色	5YR4/1 褐灰色	2.5Y7/1 灰白色	精良	回転ナデ/ 回転ナデ	
〃	769	SX11		土師 質	皿	L6	(13.2)			5YR6/4 にぶい褐色	5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR7/3 にぶい褐色	精良	ナデ/ナデ	スス
〃	770	SX11		須恵	杯B	L5			(10.0)	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y5/1 黄灰色	2.5Y7/2 灰黄色	2/少	回転ナデ/ 回転ナデ	ローリ ング
〃	771	SX11		須恵	壺	L6	(19.9)			7.5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	2.5Y6/2 灰黄色	2/少	回転ナデ/ 回転ナデ	
〃	772	SX11		須恵	壺	L6				2.5Y5/2 暗灰黄色	2.5Y4/1 黄灰色	2.5Y6/1 黄灰色	2/少	回転ナデ/ 回転ナデ	
〃	773	SX11		緑釉 陶器		K5				7.5Y6/3 オリーブ黄色	7.5 Y 6/3 オリーブ黄色	10YR6/2 灰黄褐色	精良		
〃	774	SX11	No.2	青磁	椀	L6			(6.2)	10Y5/2 オリーブ灰色	10Y5/2 オリーブ灰色	5Y7/1 灰白色	1/少	外底面。露胎。 貫入有	
〃	775	SX11	No.3	須恵	底部	L6				10YR7/1 灰白色	2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y6/1 黄灰色	2/少	叩き後ナデ/ 回転ナデ	
169	777	SX12		青磁	稜花 皿		(13.0)	3.2	(5.8)	2.5Y5/2 暗灰黄色	2.5Y5/2 暗灰黄色	2.5Y6/1 黄灰色	精良		
170	783	SX15	No.1	弥生	壺	I・J12/ J13	20.8	34.1	7.2	7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR6/2 灰褐色	6/少	叩き後ハケ/ ハケ・ナデ	スス/ 黒斑
〃	784	SX15	No.3	弥生	鉢	J13	9.7	6.9	1.1	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	3/少	ハケ/ハケ・ナデ	黒斑/ ほぼ完
〃	785	SX15	No.7	弥生	鉢	I・J13	17.4	7.0	1.8	7.5YR7/6 褐色	5YR6/6 褐色	5Y6/1 灰色	5/少	ナデ/ハケ	黒斑
〃	786	SX15	No.6	弥生	鉢	J13	(19.8)			7.5YR6/2 灰褐色	5YR6/6 褐色	5Y4/1 灰色	5/少	ナデ/ ハケ・ケズリ	
171	789	SX21		弥生	壺	G12	(17.6)			5YR4/2 灰褐色	5YR5/6 明赤褐色	7.5YR4/1 褐灰色	2/少	鋸歯・竹管。ハケ・ミ ガキ/ハケ後ミガキ	
〃	791	SX23		弥生	壺	C17	(17.2)			7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	2/少	剥離/ハケ	
〃	792	SX23		弥生	甕	D16・17	(13.0)			7.5YR6/6 褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR4/1 褐灰色	5/少	叩き後ナデ/ハケ	スス
〃	793	SX23		弥生	甕	C17	(15.4)			5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/1 褐灰色	4/少	叩き/ハケ・ナデ	スス

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器種	器形	調査区	法量			色調			胎土	特徴	備考
							口径	器高	底径	内面	外面	断面			
171	794	SX23		弥生	鉢	C17	9.3	5.3	2.8	5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	2/少	ナデ/ハケ	黒斑/ ほぼ完
172	795	SX23		弥生	鉢	C17	(14.1)	6.6	4.7	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	10YR5/2 灰黄褐色	2/少	ナデ/ハケ	黒斑
173	796	SX23		弥生	鉢	C17	(16.3)	7.7	3.0	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	7.5Y5/1 灰色	4/少	叩き後ナデ/ハケ	
174	797	SX23		弥生	甕	C17				10YR5/4 にぶい黄橙色	10YR2/1 黒色	10YR5/4 にぶい黄橙色	3/少	ハケ/ナデ	スス/ 搬入
175	799	SX24		弥生	壺	I4・J5				7.5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	5Y6/1 灰色	5/少	刺突・竹管・突帯。 ハケ/ハケ	
176	800	SX24		庄内 式	甕	H4・5	(14.0)			7.5YR3/1 黒褐色	7.5YR2/1 黒色	7.5YR5/3 にぶい褐色	1/やや多 角/やや多	ナデ/ハケ	搬入 (河内)
177	801	SX24		土師	甕	H4・5	(15.2)			10YR6/6 明黄褐色	5YR6/6 橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	2/少	ハケ/ナデ	スス/搬 入(吉備)
178	802	SX24/ SD3/II層	バ	弥生	甕	I・J5	(24.6)			10YR6/4 にぶい黄褐色	7.5YR5/4 にぶい橙色	10YR6/4 にぶい黄褐色	3/少	ハケ/ハケ後ナデ・ ケズリ	スス/ 搬入か
179	803	II区II層		弥生	壺	K8・M8	(14.0)			7.5YR6/6 橙色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR5/1 褐灰色	3/少	ハケ/ナデ	
180	804	I区II層		弥生	壺	W5				7.5YR3/1 黒褐色	7.5YR7/6 橙色	7.5YR4/1 褐灰色	3/少	竹管・波状。ナデ・ ハケ/ナデ・ハケ	
181	805	III区II層		弥生	壺		(25.4)			7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR4/1 褐灰色	2/少	鋸齒・ハケ/ハケ	
182	806			弥生	壺か					7.5YR8/6 浅黄褐色	7.5YR8/6 浅黄褐色	7.5YR8/4 浅黄褐色	1/少	口唇・竹管。ハケ・ ナデ/ハケ・ナデ	
183	807	III区II層		弥生	壺					10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR4/1 褐灰色	2/少	波状・刺突	
184	808	I区II層		弥生	複合 口壺	V3				5YR7/6 橙色	5YR7/6 橙色	10YR8/3 浅黄褐色	3/少	櫛描・ハケ・ナデ /ナデ	
185	809	III区II層		弥生	壺か					7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/6 明褐色	3/少	刺突・ナデ/ナデ	
186	810	I区II層		弥生	複合 口壺	X4				10YR7/6 明黄褐色	7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR5/1 褐灰色	6/少	刻目突帯・ハケ/ ハケ	
187	811	III区II層		弥生	甕		(10.4)	11.8	4.0	10YR7/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	10YR4/1 褐灰色	5/少	ナデ/ナデ	スス/ 被熱変色
188	812	III区II層		弥生	甕		(15.2)		(3.0)	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR4/1 褐灰色	3/少	叩き後ナデ/ハケ	
189	813	III区II層		弥生	甕	Z・A9・ 10	(15.4)			10YR5/4 にぶい黄褐色	7.5YR6/6 橙色	10YR4/1 褐灰色	3/少	叩き後ハケ/ハケ	スス
190	814	II区II層		弥生	甕	L6	(15.0)			10YR8/4 浅黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	2/少	叩き後ナデ/ハケ	ベンカラ か/スス
191	815	II区II層		弥生	甕	M8	(23.5)			5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	7.5YR7/4 にぶい橙色	10/少	叩き後ハケ/ハケ	
192	816	II区II層		弥生	鉢	L9	10.5	6.0	2.3	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR7/6 橙色	7.5YR5/1 褐灰色	4/少	ナデ/ナデ	黒斑・ キレット
193	817	II区II層		弥生	鉢	L9	(18.8)	8.2	2.8	10YR6/4 にぶい黄褐色	7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR2/1 黒色	5/やや多	叩き後ナデ/摩耗	
194	818	III区II層	サ	弥生	鉢		(16.9)	10.7	5.7	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/3 にぶい赤褐色	3/少	叩き後ハケ/ハケ	キレット
195	819	III区II層		弥生	甕				(8.0)	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	2/少 角/少	ハケ/ケズリ	搬入(讚)
196	820	I区II層		弥生	高杯	W5			14.3	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/6 橙色	10YR4/1 褐灰色	3/少	ハケ後、ミガキ/ ナデ	穿孔。 搬入(讚)
197	821	II区II層		弥生	器台 か	L9/M7	(44.6)			7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	10YR7/3 にぶい黄褐色	3/少	刻目・鋸齒。ナデ/ ナデ	
198	822	III区II層		弥生	器台					5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	5YR5/1 褐灰色	2/少	凹線・円形。ナデ/ ナデ	
199	823	I区II層		弥生	脚部	X5				10YR6/2 にぶい黄褐色	7.5YR6/6 橙色	10YR4/1 褐灰色	5/少	ナデ/ナデ	
200	824	II区II層		弥生	体部 片	M7				7.5YR6/6 橙色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/6 明褐色	2/少	ナデ/ハケ	ベンカラ
201	825	III区II層		弥生	ミニ		1.9	2.9	1.7	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR2/1 黒色	1/少	手握ね	ほぼ完
202	173	827	I区II層	土師	蓋	D2				2.5Y6/4 にぶい黄褐色	2.5Y6/4 にぶい黄褐色	2.5Y6/4 にぶい黄褐色	1/ごく少	ナデ/ナデ	
203	828	I区II層上 層		土師	把手	E3				5YR7/6 橙色	5YR6/6 橙色	10YR8/4 浅黄褐色	2/少	ナデ/ミガキ	赤彩
204	829	II区II層		土師	皿or 杯					2.5YR5/6 明赤褐色	2.5YR5/6 橙色	2.5YR6/6 褐色	精良	ミガキ/ミガキ	内外面 ベンカラ
205	830	I区II層		土師	皿	D8	(12.6)	2.0	(8.3)	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR5/1 褐灰色	1/少	回転ナデ/ 回転ナデ	ヘラ
206	831	I区II層		土師	皿	D8	(14.3)	2.0	(9.0)	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	7.5YR7/3 にぶい褐色	精良	回転ナデ/ 回転ナデ	スス
207	832	II区II層		土師	皿	H4	(12.2)	1.6	7.3	7.5YR8/4 浅黄褐色	7.5YR8/4 浅黄褐色	7.5YR8/4 浅黄褐色	3/少	回転ナデ/ 回転ナデ	摩耗/ ヘラ
208	833	I区II層下 層		土師	高台 付皿	D9	(15.7)			7.5YR7/3 にぶい褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	2.5Y8/3 淡黄色	精良	回転ナデか/ 回転ナデか	

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器種	器形	調査区	法量			色調			胎土	特徴	備考
							口径	器高	底径	内面	外面	断面			
173	834	I区II層		土師	杯	W4	9.9	2.6	6.2	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	精良	回転ナデ/ 回転ナデ	摩耗/ ヘラ
◇	835	I区II層		土師	杯	W4	(12.1)	3.4	7.2	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	精良	回転ナデ/ 回転ナデ	ヘラ
◇	836	I区II層		土師	杯	D8	(11.6)	3.4	(7.8)	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	2/少	回転ナデ/ 回転ナデ	ヘラ
◇	837	I区II層		土師	杯	D8	12.2	3.6	7.7	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	2/少	回転ナデ/ 回転ナデ	ヘラ
◇	838	I区II層		土師	杯	D8	13.6	5.7	7.8	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	2/少	回転ナデ/ 回転ナデ	スス
◇	839	II区II層		土師	甕	K8	(18.0)			2.5YR5/6 明赤褐色	2.5YR5/6 明赤褐色	7.5YR4/2 灰褐色	3/少 火山ガ/少	ナデ/ナデ	
◇	840	I区II層		土師	甕	Z7	(18.5)			10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	7/多	ハケ/ケズリ	
◇	841	II区II層上 層/P184		土師	甕	A・B8	(22.0)			7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	2.5YR5/2 暗灰黄色	3/やや多	ナデ/ケズリ	黒斑
◇	842	I区II層	No.3/ No.4	土師	高杯	Z7	16.1	11.7	12.3	7.5YR7/6 褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/1 褐灰色	3/少	ケズリ/ ケズリ・ナデ	ほぼ完
◇	843	V区II層		土師	杯か 皿	A16				5YR5/8 明赤褐色	5YR3/1 黒褐色	5YR5/8 明赤褐色	5/少	刻書。摩耗/摩耗	
◇	844	II区II層		土師	甕	F4	(28.9)			5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	7.5YR7/8 黄褐色	4/少	ナデ/ケズリ	
◇	845	I区II層		土師	甕	V6				5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	5YR7/6 褐色	3/少	ナデ/ケズリ	
◇	846	I区II層		土師	甕	V6			(15.2)	5YR6/8 褐色	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	3/少	ナデ/ケズリ	
◇	847	I区II層下 層		黒色	椀	B8			(10.4)	7.5YR2/1 黒色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR2/1 黒色	4/少	内黒。回転ナデ/ ミガキ	
◇	848	I区II層		製塩		D7				7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	7.5YR5/1 褐灰色	2/少	摩耗/布目	
◇	849	I区II層		土師 質	杯	C6			4.8	7.5YR6/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	6/少	ロクロナデ/ ロクロナデ	糸
174	850	I区II層下 層		須恵	蓋	E5	(12.6)			10YR6/1 褐灰色	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/1 褐灰色	1/少	回転ナデ/ 回転ナデ	
◇	851	II区II層		須恵	蓋	F・G8	(16.0)			7.5YR5/2 灰褐色	7.5YR5/2 灰褐色	7.5YR5/2 灰褐色	2/少	回転ナデ/ 回転ナデ	
◇	852	I区II層		須恵	杯身	D9	(11.2)	3.2	(5.4)	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	2/少	回転ナデ/ 回転ナデ	
◇	853	I区II層		須恵	杯身	E9	(11.5)			N5/ 灰色	5YR3/2 暗赤褐色	7.5YR5/1 褐灰色	精良	回転ナデ/ 回転ナデ	
◇	854	I区II層下 層		須恵	杯身	C8	11.4	3.6	2.7	2.5YR7/3 浅黄褐色	2.5YR7/2 灰黄色	2.5Y7/1 灰白色	7/少	回転ナデ・ヘラケ ズリ/回転ナデ	摩耗
◇	855	I区II層		須恵	杯身	E4	(9.1)			5Y6/1 灰色	5Y5/1 灰色	5Y6/1 灰色	3/少	回転ナデ/ 回転ナデ	
◇	856	I区II層		須恵	把手	D7				N5/ 灰色	2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y6/1 黄灰色	2/少	叩き後ナデ/ナデ	
◇	857	I区II層		須恵	甕	B7	(31.2)			2.5Y5/2 暗灰黄色	5Y4/1 灰色	2.5Y6/1 黄灰色	精良	波状。回転ナデ/ 回転ナデ	
◇	858	I区II層下 層		須恵	蓋	D7・9	12.4	2.1		10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR8/1 灰白色	2/少	回転ケズリ・ナデ /回転ナデ	
◇	859	I区II層下 層		須恵	蓋	D9				10YR6/2 灰黄褐色	2.5Y6/2 灰黄色	7.5YR7/3 にぶい褐色	2/少	回転ケズリ・ナデ /回転ナデ	
◇	860	I区II層上 層		須恵	蓋	D5			(18.0)	2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y6/1 黄灰色	3/少	回転ケズリ・ナデ /回転ナデ	
◇	861	I区		須恵	蓋		(17.3)			5Y6/1 灰色	2.5Y6/2 黄灰色	N6/0 灰色	2/少	回転ナデ/ 回転ナデ	ベンガラ
◇	862	I区I層		須恵	杯B				(9.0)	2.5Y6/1 黄灰色	5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	2/少	ナデ/回転ナデ	ベンガラ /ヘラ
◇	863	II区II層上 面		須恵	杯B か				(10.0)	2.5YR6/1 黄灰色	2.5YR6/1 黄灰色	2.5YR6/1 黄灰色	2/少	回転ナデ/ 回転ナデ	
◇	864	IV区II層		須恵	杯B	E13			(11.6)	2.5Y5/1 黄灰色	2.5Y5/2 暗灰黄色	10YR5/1 褐灰色	2/少	回転ナデ/ 回転ナデ	
◇	865	I区II層		須恵	皿	B7	(14.6)	2.1	(12.9)	10YR7/1 灰白色	10YR7/1 灰白色	10YR7/1 灰白色	1/少	回転ナデ/ 回転ナデ	
◇	866	I区II層		須恵	高杯	E9			(5.2)	2.5Y5/1 黄灰色	2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y5/1 黄灰色	精良	回転ナデ/ 回転ナデ	透孔
◇	867	I区II層上 層		須恵	壺	B4			(10.2)	N4/ 灰色	N6/ 灰色	N6/ 灰色	1/少	回転ナデ/ 回転ナデ	
◇	868	I区II層		須恵	壺	D8				10YR7/1 灰白色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2/少	回転ケズリ・ナデ /回転ナデ	

挿図番号	図版番号	遺構	層位等	器種	器形	調査区	法量				色調			胎土	特徴	備考	
							口径	器高	底径	重量	内面	外面	断面				
18	71	ST2	ベ内	弥生	支脚か			3.1	5.7			5Y2/1 黒色	7.5YR6/6 橙色	5Y2/1 黒色	5/やや多	叩き/ナデ	
20	80	ST3-SK1			土錘		全長 5.0	全幅 1.5	全厚 1.4	10.9g	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色		精良		
24	91	ST6		弥生	支脚	D・E5		3.2	(8.4)		7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR4/3 褐色	7.5YR4/3 褐色	4/少	ナデ/ナデ		
34	190	ST8	No.2	弥生	支脚	H8	5.1	7.2	5.3			7.5YR6/6 橙色	2.5YR5/1 黄灰色		4/少	ナデ/ナデ	ほぼ完
〃	191	ST8	No.4	弥生	支脚	H8	7.4	7.1	6.8		7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/6 橙色	2.5Y4/1 黄灰色	6/多	ナデ/ナデ	完/スス	
〃	194	ST8	No.1		土玉	I8		全幅 2.2	全厚 1.9			5YR6/6 橙色			1/ごく少		
42	225	ST13	床		紡錘車	H4	全長 5.4	全幅 5.3	全厚 1.1			10YR6/3 にぶい黄褐色			3/少	ナデ/ナデ	
49	292	ST16	No.36	弥生	支脚	M9					10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR5/1 褐灰色	4/やや多		スス/ 被熱変色	
73	434	ST25	バ/上層/床	弥生	支脚	G10・11/ H10・11		15.0	9.0		5YR6/8 褐色	5YR6/8 褐色	7.5Y5/1 褐灰色	5/少	叩き/ナデ	被熱変色	
75	448	ST26		弥生	支脚	H12	7.2	3.9	7.2		7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色		5/少	ナデ/ナデ	スス/完	
92	536	SK25	サ		土錘	C8	全長 3.5	全幅 1.2	全厚 1.3	5.0g	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	1/ごく少			
105	603	SK69			紡錘車	F5					2.5Y6/3 にぶい黄色	2.5Y6/4 にぶい黄色	2.5Y4/1 黄灰色	1/少	ナデ/ナデ	線刻か	
133	680	P59		弥生	支脚	B3・4						10YR7/3 にぶい黄褐色	2.5Y4/1 黄灰色		精良		
136	703	P185			土錘	B8	全長 3.7	全幅 1.8	全厚 1.2	4.2g	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	2/ごく少		赤彩か	
143	717	P466			土錘	Y13	全長 5.2	全幅 1.6	全厚 1.6	12.3g	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	2/少			
164	746	SX3		弥生	支脚				(15.4)		7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	2.5Y4/1 黄灰色	4/少	ナデ/ナデ		
169	778	SX13	上層		紡錘車	Z12	全長 4.2		全厚 1.1	17.3g	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色		2/少	手捏ね		
172	826	I区II層			紡錘車	X5	全長 5.0		全厚 0.8	21.9g	2.5YR5/6 明赤褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色		3/少	ミガキ	ほぼ完	

挿図番号	図版番号	遺構	層位等	器形	調査区	法量				石材	特徴	備考
						全長	全幅	全厚	重量			
14	30	ST1	上層	打製石包丁	X4	8.4	4.4	1.0	49.1g	頁岩	片刃。両端に抉り。剥離面を残す。	
〃	31	ST1	上層	砥石	X4	14.0	8.5	4.2	860.0g	砂岩	欠損。砥石の一部。	被熱変色
〃	32	ST1	No.8	台石	X4	29.1	17.9	8.8	4,860.0g	砂岩	欠損。線状の使用痕。	被熱変色
〃	33	ST1-中央P		砥石		30.7	12.4	4.6	2,820.0g	砂岩	四面使用。	鉄さび
24	100	ST5		砥石	D・E5	7.5	9.5	2.7	300.0g	砂岩	欠損。砥石の一部。	
29	146	ST7		磨製石包丁	F7	7.7	4.5	0.7	26.7g	頁岩	欠損。両面からの穿孔。	
34	195	ST8	ベ内	石核		2.6	3.3	2.5	6.1g	緑色チャート	剥片素材。	縄文早期
〃	196	ST8	No.35	叩き石	H7	13.7	6.7	4.7	540.0g	砂岩	両端、側面に敲打痕。	被熱変色
〃	197	ST8	No.36	叩き石	H7	11.4	10.4	6.0	1,020.0g	砂岩	一部に敲打痕。	被熱変色
〃	198	ST8-中央P	No.32	台石	H7	30.9	21.7	11.0	9,100.0g	礫岩	敲打痕有り。	
〃	199	ST8-P8		砥石	H7	16.4	14.5	5.3	1,730.0g	砂岩	欠損。砥石の一部。	
36	209	ST9-P11		磨石	J7	12.2	11.0	4.2	1,000.0g	砂岩	側面を使用。敲打痕、磨痕有り。	ベンガラ
40	222	ST12	サ	砥石	L・M6・7	7.4	3.1	2.5	56.9g	砂岩	欠損。四面使用。	
44	235	ST14		石鏃	L・M9	4.0	2.3	0.4	3.6g	サスカイト	平基式。刃部、微細剥離痕。	
50	296	ST16	No.1	打製石包丁	M8	7.3	4.8	1.4	72.1g	砂岩	片刃。抉り有り。自然面、剥離面を残す。	
〃	297	ST16		砥石	M9	4.0	2.5	2.5	28.6g	石英粗面岩	欠損。四面使用。	
〃	298	ST16	No.19	叩き石	L8	16.6	7.4	5.7	1,060.0g	砂岩	両端に使用痕。	ベンガラ
〃	299	ST16	バ	叩き石	M9	16.5	7.4	5.7	1,050.0g	砂岩	両端に敲打痕。	
53	302	ST17		台石	Z12	34.2	29.4	13.5	16,650.0g	礫岩	敲打痕有り。	
57	351	ST18	No.20	叩き石	A9	18.0	9.4	6.5	1,400.0g	砂岩	一部に敲打痕。	
〃	352	ST18	No.17	砥石	A9	21.0	16.9	6.3	3,960.0g	砂岩	欠損。砥石の一部。	被熱変色
58	353	ST18	No.16	台石	A10	37.9	25.6	10.2	14,400.0g	礫岩	使用により一部凹む。	
〃	354	ST18	No.18	台石	A9	29.4	30.4	8.7	12,300.0g	砂岩	被熱により破裂。	
59	365	ST19	No.1	砥石	A11	16.6	8.7	5.6	1,060.0g	砂岩	欠損。使用面は凹状。	
61	382	ST20	No.1	砥石	A11	10.9	6.4	4.7	300.0g	砂岩	欠損。七面で使用。溝状の使用痕。	
〃	383	ST20		台石	A11	26.2	21.9	9.4	6,550.0g	砂岩	敲打痕有り。	
62	387	ST19.20		砥石	Z・A12	8.1	6.7	1.9	105.1g	砂岩	欠損。砥石の一部。	
65	402	ST21	床	砥石	Y8	25.5	18.2	8.2	6,550.0g	砂岩	欠損。大形砥石。	被熱変色
68	405	ST22		叩き石	A・B13	12.1	9.8	3.2	540.0g	砂岩	側面、敲打により欠損。	
70	422	ST23	No.2	砥石	F11	9.8	4.5	2.6	160.0g	流紋岩	欠損。四面使用。	
77	461	ST27	サ床	打製石包丁	G13	9.0	4.5	0.7	49.4g	頁岩	片刃。両端に抉り。背部、刃潰し。	
〃	462	ST27		打製石包丁	G・H13	8.9	4.7	0.8	52g	結晶片岩	片刃。両端に抉り。	

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器形	調査区	法量				石材	特徴	備考
						全長	全幅	全厚	重量			
77	463	ST27		叩き石	G13	6.8	7.3	2.2	180.0g	砂岩	側面を使用。	
78	464	ST27		台石	G13	43.5	29.4	12.9	22,500.0g	砂岩	敲打痕有り。	
80	479	ST28		台石	E13	20.8	22.2	8.2	5,800.0g	砂岩	弱い敲打痕有り。	
81	489	ST29	No.2	台石		25.2	18.9	10.1	8,760.0g	砂岩	特に顕著な使用痕はみられない。	
86	505	ST31		磨製石包丁	E14	5.2	5.4	0.8	33.0g	頁岩	欠損。片刃。円孔有り。	
87	517	ST30.31		打製石包丁	D・E14	6.5	4.9	0.8	41.3g	頁岩か	欠損。片刃。挟り。階段状剥離。	
89	526	ST32		磨製石包丁		4.1	3.0	—	4.8g	頁岩	欠損。円孔有り。	
98	552	SK40		砥石		9.9	7.3	4.4	600.0g	砂岩	四面使用。端部に線状痕跡有り。	
106	605	SK69		叩き石	F6	16.8	7.8	5.3	1,210.0g	砂岩	欠損。先端部に使用痕跡。	
〃	606	SK69		台石	F4・5	34.8	35.1	10.8	22,000.0g	砂岩	中央部使用により凹む。	
122	642	SK108		打製石包丁	L・M12	11.5	5.4	1.1	109.6g	粘板岩か	片刃。両端に挟り。	
〃	643	SK108		大形直刃石器	L・M11	13.4	10.2	1.1	130.4g	サヌカイト	平基式。刃部、微細剥離痕。	
125	644	SD1	ハ	石臼		16.8	17.2	10.5	5,040.0g	砂岩	完形。	
〃	647	SD3		砥石	H5	2.3	2.5	1.6	14.7g	石英粗面岩	欠損。四面使用。	
〃	649	SD18		砥石	N5・6	5.9	4.4	1.6	97.1g	石英粗面岩	欠損。四面使用。	
133	694	P163		根石		32.8	19.1	8.0	7,170.0g	砂岩	欠損。中央部凹む。	
143	706	P247		磨石	E9	15.0	5.8	3.6	500.0g	砂岩	両端を使用。敲打痕、磨痕。	水銀朱付着
〃	708	P265		根石	I8	19.2	14.5	11.3	3,900.0g	砂岩	欠損。	
〃	709	P267		根石	I8	38.2	20.4	8.6	2,500.0g	砂岩	欠損。	被熱変色
〃	711	P406		打製石包丁	C17	6.6	3.1	0.6	22.6g	頁岩	欠損。背部、磨き。微細剥離。	
162	738	V区石垣1		風輪	Y14	27.0	27.5	17.3	19,000.0g	砂岩	ほぼ完形。	
〃	739	V区石垣1		火輪	Y14	21.8	24.0	16.8	11,900.0g	砂岩	完形。	
〃	740	V区石垣		火輪		20.8	23.3	17.5	11,500.0g	砂岩	完形。頭部は大きく凹む。	
163	742	SX1		石臼		(15.2)	(20.5)	5.8	2,350.0g	砂岩	欠損。	
〃	743	SX1		風輪		23.4	16.0	14.7	6,580.0g	砂岩	欠損。側縁の一部を磨く。	
〃	744	SX1		風輪		20.4	21.0	11.6	7,400.0g	砂岩	ほぼ完形。	
166	762	SX9		打製石包丁	I9・10	8.3	5.7	1.2	73.6g	片岩	片刃。両端に弱い挟り。	
〃	763	SX9		紡錘車	G7	—	4.7	2.2	71.5g	滑石	完形。鋸歯文。	
〃	764	SX9		叩き石	E9	10.5	8.3	3.4	460g	砂岩	側面、中央部を使用。	
169	779	SX13	上層	勾玉	E1	5.1	3.1	2.0	35g	蛇紋岩	完形。大形。	
〃	780	SX13	No.1	打製石包丁	Z12	10.9	4.7	0.7	66.3g	結晶片岩	片刃。両端に挟り。主要剥離面を残す。	
〃	781	SX13	上層	刃器	A12	9.9	5.3	0.9	43.4g	サヌカイト	主要剥離面を残す。刃部、微細加工。	
〃	782	SX13	No.3	磨石		12.0	9.1	4.4	800.0g	砂岩	両端、使用により平坦面。	
171	790	SX21	上層	叩石	G13	13.0	7.6	5.9	1,100.0g	砂岩	欠損。敲打痕有り。煤付着。	
〃	798	SX23		打製石包丁	C17	9.9	5.3	1.6	104.2g	頁岩	欠損。挟り。自然面、剥離面、残す。	
175	869	IV区II層		打製石鎌	E13	2.7	1.5	0.3	1.4g	サヌカイト	縁辺部のみ微細剥離。	
〃	870	II区	攪乱	石錘	H4	4.1	3.8	0.8	16.7g	赤色頁岩か	一端に挟り。	
〃	871	I区II層		穿孔具	X5	7.5	1.6	1.3	23.9g	頁岩	先端部を使用。	
〃	872	V区III層		打製石包丁	C17	7.7	5.1	1.1	56.6g	頁岩	片刃。両端に挟り。刃部、微細剥離。	
〃	873	IV区II層		打製石包丁	E12	8.3	5.5	0.8	48.0g	砂岩	片刃。両端に挟り。自然面を残す。	
〃	874	III区II層		打製石包丁		8.0	5.3	1.3	81.0g	頁岩	片刃。両端に挟り。主要剥離面を残す。	
〃	875	V区II層		打製石包丁	E17	7.9	4.2	1.3	66.7g	頁岩か	片刃。刃部、摩擦。両端に挟り。	
176	876	II区II層		打製石包丁		9.5	5.8	1.6	134.1g	頁岩	主要剥離面を残す。両端に挟り。	
〃	877	I区II層		打製石包丁	B5	8.9	5.1	1.0	73g	結晶片岩	片刃。両端に挟り。直接打法か。	
〃	878	III区II層		打製石包丁	L8	5.0	4.1	0.3	14.1g	結晶片岩	欠損。挟り。両面とも剥離する。	
〃	879	I区II層		打製石包丁	E4	5.7	4.9	0.5	20g	結晶片岩	片刃。挟り。背部、刃潰し加工。	
〃	880	II区II層		打製石包丁	N5	4.7	4.0	0.7	21.2g	結晶片岩	欠損。挟り。片刃。背部、磨き。	
〃	881	IV区II層		打製石包丁	F13	7.2	4.4	0.7	28.1g	泥岩か頁岩か	挟り。打製石包丁の欠損品か。	
177	882	IV区II層		刃器	E11	5.1	5.7	0.8	30.6g	サヌカイト	欠損。主要剥離面を残す。摩擦痕有り。	
〃	883	II区II層		砥石	K6	11.0	7.9	3.2	420.0g	砂岩(礫岩)	欠損。	鉄分付着
〃	884	I区II層上層		叩き石	C7	13.5	9.0	5.2	900g	砂岩	敲打痕跡有り。線状。	
178	885	I区II層		砥石	D8	17.6	19.0	7.9	2,650g	砂岩	欠損。砥石の一部。	
〃	886	I区II層		石臼	V4	14.5	15.2	7.1	2,040g	砂岩	欠損。白目有り。	
〃	887	II区I層		上臼		—	—	8.5	3,590.0g	花崗岩	花崗岩。白目有り。	
179	888	V区表採		石臼		(15.6)	(12.6)	(6.3)	1,290g	砂岩	欠損。白目有り。	
〃	889	V区表採		石臼		18.7	16.0	8.0	2,580g	砂岩	欠損。白目有り。	

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器形	調査区	法量				特徴	備考
						全長	全幅	全厚	重量		
14	34	ST1	中層	鉄鎌		4.1	1.7	0.5	5.6g	圭頭式。茎、欠損。	
29	147	ST7	No.21	椀形滓	E8	9.0	7.9	3.3	200.0g	欠損。上面、下面、凹凸少ない。	
〃	148	ST7		鉄鎌	E6	4.1	1.7	0.9	5.7g	圭頭式。茎、欠損。	
〃	149	ST7	No.20	刀子	E7	4.8	2.7	0.3	11.6g	欠損。	
〃	150	ST7		鉄鎌	D7	9.1	3.5	0.3	45.8g	折り曲げる。	
34	200	ST8-P1		鉄鎌	H7	14.2	5.0	1.1	119.2g	基部、折り曲げる。	
46	243	ST15	No.1	鉄鎌	M9	4.1	1.9	0.9	6.8g	圭頭式。茎、欠損。	
49	294	ST16	No.35	鉄鎌	M9	3.7	1.4	0.4	3.4g	鉄鎌の茎か。	
〃	295	ST16		袋状鉄斧	M9	6.1	4.8	1.4	46.0g	袋部、折り曲げる。	
56	350	ST18	上層	鉄片	Z9	6.2	1.5	1.0	7.1g	棒状。	

遺物観察表

挿図 番号	図版 番号	遺構	層位等	器形	調査区	法量				特徴	備考
						全長	全幅	全厚	重量		
60	381	ST20	No.4	鉄鏃	Z11	6.5	2.4	0.6	13.5g	柳葉式。茎、欠損。	
81	490	ST29		鈍	F12	3.9	1.2	0.7	5.1g	刃部、反る。	
86	506	ST31	バ	摘み鎌	D14	2.3	5.2	0.5	14.4g	端部、折り曲げる。	
〃	507	ST31		刀子	D13	4.1	3.1	1.0	12.1g	欠損。刃部か。	
〃	508	ST31		刀子	C14	6.3	2.6	0.6	17.1g	欠損。基部か。	
〃	509	ST31		鉄片	D13	4.6	3.2	1.4	15.6g	欠損。台形状。	
97	551	SK39		不明	D7				99.5g	完存。柄か。	
99	553	SK42		鉄釘	M6	6.8	0.8		12.0g	棒状。	
128	662	SD30		腕形滓	G11	10.7	6.2	3.6	320g	鍛錬鍛冶滓。	
143	718	P501		不明	G10	3.9	1.7	0.4	6.2g	断面、方形。	
164	747	SX3		耳環	W6				4.4g	中空か。銅地。金メッキ。	
167	765	SX10		不明	H4・5	3.9	2.4	0.8	8.5g	鉄片。	
〃	766	SX10		腕形滓	H4・5	7.1	5.0	1.7	50.0g	鍛錬鍛冶滓。	
168	776	SX11		不明	L6	5.7	1.1	0.7	3.7g	針状。	
170	787	SX15-中央P		不明	J13	3.7	1.1	0.5	2.9g	棒状。	
〃	788	SX15-中央P		不明	J13	3.7	0.9	0.6	2.7g	棒状。	
180	890	Ⅲ区Ⅱ層		鉄鏃		6.0	2.3	0.6	11.5g	圭頭式。	
〃	891	I区Ⅱ層		鉄鏃	X4	3.6	1.1	0.8	2.8g	棒状。	
〃	892	V区Ⅱ層		鈍		3.6	1.2	1.2	9.0g	基部。	
〃	893	Ⅱ区下面		不明	H4	2.7	2.4	0.3	5.7g	三角形。	
〃	894	V区Ⅱ層		刀子	C18	11.5	1.7	0.2	18.1g	ほぼ完存。	
〃	895	Ⅳ区Ⅱ層		不明		10.4	2.2	1.0	44.0g	湾曲する。	
〃	896	Ⅱ区Ⅱ層		腕形滓	I8	5.1	4.9	1.8	50.0g	鍛錬鍛冶滓。	
〃	897	Ⅱ区Ⅱ層		腕形滓	L5	7.0	5.2	2.5	100.0g	鍛錬鍛冶滓。	
〃	898	I区Ⅱ層		腕形滓	E8	9.7	8.8	6.2	540.0g	二点が廃棄後、固着。二点とも鍛錬鍛冶滓。	

付 編

1. 伏原遺跡Ⅱ自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

松元 美由紀・高橋 敦・辻 康男

はじめに

本報告では、人間が利用し廃棄したと考えられる種実の回収を目的として、竪穴住居跡の中央ピットを埋積する堆積物の水洗別の分析結果について述べる。分析の結果、イネおよびアワ、イネ科の炭化種実が検出された。しかし、検出数が極僅かであったために、今回の分析では、さらに同時に回収された炭化材片についても、各試料ごとに数点の同定を行い、人間の燃焼行為にかかわる植物利用の検討も併せて試みた。

1. 試料

試料は、I区C8のSK25中央P、I区のST1中央P、ST6中央P、II区のST8北の中央P・南の中央P、II区L7のST12中央P、III区のST17中央P、ST19中央P、ST20中央P、III区A9のST18中央P、SX15中央P、ST31中央Pから採取された土壌(炭片を含む淘汰不良の褐色泥混じり砂)12点である。各試料の詳細は、結果と共に表1に示す。遺構の時期は、弥生時代中期末のST17を除き、すべて弥生時代後期末～古墳時代初頭である。

2. 分析方法

(1) 微細物分析

試料を常温乾燥後、水を満たした容器に投入し、容器を傾斜させて浮いた炭化物を粒径0.5mmの篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く攪拌した後、容器を傾斜させて炭化物を回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す(20～30回程度)。残土を粒径0.5mmの篩を通して水洗する。篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定可能な種実や炭化材(主に径4mm以上)を抽出する。現生標本および石川(1994)、中山ほか(2000)等との対照から、種実の種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。炭化材と土器は、70℃24時間乾燥後の重量(g)を表示する。分析後は、種類毎に容器に入れて保管する。

(2) 炭化材同定

微細物分析で抽出された炭化材は、各試料別に重量を計測し、乾燥機で乾燥させる。同定可能な炭化材は、木口(横断面)・柎目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴については、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

表1 微細物分析結果

グリッド	地区	遺構	位置	時代	炭化物						
					種実					不明	炭化材
					イネ		アワ?	イネ科			
分析量	穎(果)	胚乳	胚乳	胚乳							
07-15KF	I区C8	SK25	中央P	弥生後期末～古墳初頭	250.3g						0.04g
07-15KF	I区	ST1	中央P	弥生後期末～古墳初頭	50.2g						0.05g
07-15KF	I区	ST6	中央P	弥生後期末～古墳初頭	100.8g						0.03g
08-15KF	II区	ST8	北の中央P	弥生後期末～古墳初頭	150.3g	1個			1個		0.15g
08-15KF	II区	ST8	南の中央P	弥生後期末～古墳初頭	150.3g	2個					0.05g
08-15KF	II区L7	ST12	中央P	弥生後期末～古墳初頭	150.7g					1個	0.06g
08-15KF	III区	ST17	中央P	弥生時代中期末	400.2g	2個					0.19g
08-15KF	III区	ST19	中央P	弥生後期末～古墳初頭	250.4g	1個	1個				0.04g
08-15KF	III区	ST20	中央P	弥生後期末～古墳初頭	150.3g	3個		1個			0.10g
08-15KF	III区A9	ST18	中央P	弥生後期末～古墳初頭	200.7g	1個					0.02g
		SX15	中央P	弥生後期末～古墳初頭	150.8g						0.08g
		ST31	中央P	弥生後期末～古墳初頭	300.5g						0.21g

3. 結果

(1) 微細物分析

結果を表1に示す。炭化物は、種実3分類群（イネ、アワ？、イネ科）13個、炭化材1.02g、不明炭化物（木材組織が確認されない、種類・部位共に不明の炭化物）1個が検出された。その他に、土器が10個確認された。炭化材は、一部を樹種同定対象とし、詳細を次項に記す。

種実は、栽培種のイネの穎10個（ST8北の中央P:1個、南の中央P:2個、ST17:2個、ST19:1個、ST20:3個、ST18:1個）と胚乳1個（ST19）、栽培種のアワと思われる胚乳1個（ST20）、イネ科の胚乳1個（ST8北の中央P）が同定された。以下に、形態的特徴等を記す。

・イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

胚乳と穎(果)の破片が検出された。炭化しており黒色。長楕円形でやや偏平。胚乳は長さ4.0mm、幅2.5mm、厚さ2.0mm程度。基部一端に胚が脱落した斜切形の凹部がある。表面はやや平滑で、2～3本の隆条が縦列する。胚乳を包む穎(果)は、完形ならば長さ6.0～7.5mm、幅3.0～4.0mm、厚さ2.0mm程度。基部に斜切状円柱形の果実序柄と1対の護穎を有し、その上に外穎（護穎と言う場合もある）と内穎がある。外穎は5脈、内穎は3脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや偏平な長楕円形の稲朶を構成する。果皮は柔らかく、表面には顆粒状突起が縦列する。破片は基部の果実序柄部で、大きさ1.0mm程度。

・アワ (*Setaria italica* (L.) P.Beauv.) ? イネ科エノコログサ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色、長さ1.0mm、幅1.3mm、厚さ1.0mm程度の半偏球体で背面は丸みがあり腹面は平ら。基部正中線上に馬蹄形の胚の凹みがある。表面はやや平滑で、同定根拠となる穎(果)の付着は認められない。

表2 炭化材樹種同定結果

グリッド	地区	遺構	位置	時代	点数	樹種()内は同定点数
07-15KF	I 区C8	SK25	中央P	弥生後期末～古墳初頭	2	マツ属複維管束亜属(2)
07-15KF	I 区	ST1	中央P	弥生後期末～古墳初頭	3	コナラ属コナラ亜属クスギ節(1) クリ近似種(2)
07-15KF	I 区	ST6	中央P	弥生後期末～古墳初頭	1	コナラ属コナラ亜属クスギ節(1)
08-15KF	II 区	ST8	北の中央P	弥生後期末～古墳初頭	3	クリ近似種(1) イネ科(2)
08-15KF	II 区	ST8	南の中央P	弥生後期末～古墳初頭	4	コナラ属コナラ亜属クスギ節(1) イネ科(3)
08-15KF	II 区L7	ST12	中央P	弥生後期末～古墳初頭	5	マツ属複維管束亜属(1) コナラ属コナラ亜属クスギ節(1) サカキ(3)
08-15KF	III 区	ST17	中央P	弥生中期末	5	マツ属複維管束亜属(1) コナラ属コナラ亜属クスギ節(3) 広葉樹(1)
08-15KF	III 区	ST19	中央P	弥生後期末～古墳初頭	1	カヤ(1)
08-15KF	III 区	ST20	中央P	弥生後期末～古墳初頭	1	サカキ(1)
08-15KF	III 区A9	ST18	中央P	弥生後期末～古墳初頭	3	クリ近似種(3)
		SX15	中央P	弥生後期末～古墳初頭	4	マツ属複維管束亜属(1) 広葉樹(1) イネ科(2)
		ST31	中央P	弥生後期末～古墳初頭	5	コナラ属コナラ亜属クスギ節(2) コナラ属アカガシ亜属(2) モモ(1)

・イネ科 (Gramineae)

胚乳が確認された。炭化しており黒色、長さ 1.3mm、径 0.6mm 程度の楕円体。背面は丸みがあり、腹面は平ら。基部正中線上に胚の凹みがある。表面はやや平滑。

(2) 炭化材同定

樹種同定結果を表2に示す。炭化材は、合計 37 点が抽出された。これらの炭化材は、針葉樹 2 分類群 (マツ属複維管束亜属・カヤ)、広葉樹 5 分類群 (コナラ属コナラ亜属クスギ節・コナラ属アカガシ亜属・クリ近似種・サカキ・モモ) とイネ科に同定された。なお、ST17 と SX15 には、道管が認められることから広葉樹であるが、微細片で組織配列が観察できないために種類の同定ができなかった試料が各 1 点ある。同定された各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・マツ属複維管束亜属 (Pinus subgen. Diploxyton) マツ科

試料はいずれも年輪界や早材部の多くを欠く。軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成されるが、水平樹脂道とエピセリウム細胞は全て破損しており、板目面で大きな空壁として確認できるのみである。分野壁孔は窓状となり、1 分野に 1 個。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められるが、顕著ではない。放射組織は単列、1～10 細胞高。

・カヤ (*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.) イチイ科カヤ属

軸方向組織は仮道管のみで構成され、樹脂道および樹脂細胞は認められない。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。仮道管内壁には2本が対をなしたらせん肥厚が認められるが、あまり顕著ではない。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に1～4個。放射組織は単列、1～5細胞高。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

・クリ近似種 (cf. *Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

試料は微細片で電子顕微鏡による観察および写真撮影ができない。環孔材であるが、年輪界付近で割れており、孔圏部の列数は不明である。晩材部の道管は火炎状に配列する。放射組織は、観察した範囲では単列のみで構成される。

以上の特徴からクリが最も近いが、観察範囲が狭いために、よく似た組織を有するコナラ節の可能性もある。そのため、本報告ではクリ近似種とした。

・サカキ (*Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.) ツバキ科サカキ属

散孔材で、小径の道管が単独または2～3個が複合して散在する。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、単列、1～20細胞高。

・モモ (*Prunus salicina* Lindley) バラ科サクラ属

環孔性を帯びた散孔材で、年輪のはじめにやや大型の道管が4～5列配列する。孔圏外で急激に管径を減じ、単独または2～5個が複合して散在し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1～3細胞幅、1～40細胞高。

・イネ科 (*Gramineae*)

2対4個の道管が四葉状に配置し、その外側に師部細胞がある。これらを厚壁の繊維細胞(維管束鞘)が囲んで維管束を形成する。維管束は柔組織中に散在し、不斉中心柱をなす。

保存状態が悪いが、いずれの試料も稈の厚さが5mm以上あること、ヨシ属やススキ属とは維管束の形状が異なること等から、稈が木質化するタケ亜科の可能性が高い。タケ亜科は、いわゆるタケ・ササ類であるが、組織構造から種類を細分することは困難である。

4. 考察

(1) 中央ピットから検出された炭化種実

弥生時代後期末～古墳時代初頭の住居跡の中央ピットの水洗別により、栽培植物としてイネの胚乳と穎およびアワの可能性が高い胚乳が検出された。弥生時代中期末の住居跡では、イネのみ検出された。確認された部位は、これら穀類の可食部に相当する。栽培植物以外では、遺構周辺に生育していた野生種の可能性も含まれるイネ科が存在する。今回検出されたイネ、アワ (?), イネ科の種実は、全て炭化している。炭化材片を含む中央ピット内からの検出されたことから、これらの種実は、ピット内へ廃棄され、そこで火を受けたものと推測される。このような産状および部位と本分析地点が居住域内に相当することをふまえると、イネ、アワ (?) は、人間が住居内に持ち込み利用された後に、廃棄・燃焼された栽培植物の残滓に由来すると推定される。

なお、弥生時代後期末～古墳時代初頭におけるイネとアワ (?) ないしアワ－ヒエからなる栽培植物の組み合わせについては、高知市介良野遺跡の住居跡埋土の水洗別で回収された炭化種実でも確認される (辻ほか, 2007)。伏原遺跡と介良野遺跡では、種実の回収率が極めて低調であり、試料や分析量により結果の変動が激しいことが予想されるが、双方の遺跡ともにイネが優占する。ただし、両遺跡の立地は大きく異なり、伏原遺跡が長岡台地上、介良野遺跡が土壌発達の進行する離水した扇状地性の氾濫原上に位置する (図1)。このため、双方の遺跡では、水田などの耕作地の在り方についても、かなり異なっていたことが予想される。両遺跡での可耕地の存在可能領域分布に関する検討については、遺跡をとりまく地形発達史の検討をふまえ、検討を進めていくことが今後の課題と思われる。また、イネとそれ以外の穀類の種類構成やその量比については、様々な立地や地域での時空間的な比較検討を試みていくことで、高知県下での栽培史の一端がより明らかになっていくものと思われる。

(2) 中央ピットから検出された炭化材

中央ピット埋土からは、微細な破片の産状を示す炭化材が僅かであるが検出された。樹種につい

表3 遺構別種類構成

分類群\遺構	I区			II区			III区				不明		合計
	SK25	ST1	ST6	ST8		ST12	ST17	ST19	ST20	ST18	ST31	SX15	
	中央P	中央P	中央P	南の 中央P	北の 中央P	中央P							
マツ属複維管束亜属	2					1	1					1	5
カヤ								1					1
コナラ属クヌギ節		1	1	1		1	3				2		9
コナラ属アカガン亜属											2		2
クリ近似種		2			1					3			6
サカキ						3			1				4
モモ											1		1
広葉樹							1					1	2
イネ科				3	2							2	7
合計	2	3	1	4	3	5	5	1	1	3	5	4	37

ては、針葉樹のマツ属複維管束亜属が松脂を多く含み、燃焼性が良い。カヤは重硬で強度が高い材質を有する。広葉樹では、いずれの種類も重硬で強度が高い材質を有する。このような組成から、重硬な材質の種類を中心に、少なくとも7種類の樹木とタケ亜科の可能性のあるイネ科が利用されていたことが判る。このうち、カヤ、アカガシ亜属、サカキは、暖温帯常緑広葉樹林の構成種、マツ属複維管束亜属、クヌギ節、クリ近似種は二次林の構成種である。また、モモは、大陸から渡来した栽培種である。今回検出された種実に核は確認されていないが、本来は果実を食用とする種類であることから、本遺跡で食用として利用されていたとも想定される。

遺構別に見ると、単一の種類で構成されている遺構もあるが、3点以上観察した遺構では、ST18が全てクリ近似種に同定された他は全て2～3種類が確認されている(表3)。この結果から、各遺構の炭化材は、複数の木材が混在して利用されていたことが推定される。なお、遺構によって多く確認された種類が異なるが、いずれも微細片で本来は同一個体であった炭化材を複数点同定している可能性がある。

以上のような分析結果では、渡来種である栽培植物を含み二次林の構成種が比較的目立つ点が注目される。また、アカガシ亜属についても、萌芽更新し照葉二次林を構成する種を含む。今回同定した炭化材片は、遺構の性格に基づく、燃料材に由来する蓋然性が高い。そのため、炭化材については、遺跡の周囲に存在する森林資源から獲得したものと判断される。このような炭化材の性状および樹種と、伏原遺跡、ひびのきサウジ遺跡、さらにその周辺遺跡の動態をふまえると、弥生時代終末期～古墳時代初頭に本遺跡周辺の長岡台地上では、人為による二次林化が進行していた可能性が示唆される。なお、上記した介良野遺跡における住居跡埋土の水洗別で回収された炭化材では、アカガシ亜属、スダジイと暖温帯常緑広葉樹林の構成種が優先し、今回の分析結果と大きく異なる。このような両遺跡での分析結果の差異は、調査区周辺の局地的な植生を反映したものと推測されるが、現時点において事例の蓄積および検討段階にあり、当該期の景観復原にまでは至っていない。この点は、今後の課題として深く認識される。

ところで、伏原遺跡などが立地する台地上では、花粉・種実分析に適した湿地などの湿潤な堆積環境下で形成された泥質堆積物が非常に得にくい地形的特徴が存在する。そのため、本台地面では、これまで古植生に関する分析がほとんど実施されておらず、その植生史について不明な点が多かった。このようななか、今回の分析で同定された炭化材は、人間の植物利用だけでなく、本地域の古植生を考えるうえにおいても貴重なデータとして位置づけられ、その重要性が指摘される。

引用文献

- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
石川 茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑.石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
伊東 隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
伊東 隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
伊東 隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

伊東 隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.

伊東 隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

高知県,1966,土地分類基本調査 高知 5万分の1 国土調査,経済企画庁.

中山 至大・井之口希秀・南谷 忠志,2000,日本植物種子図鑑.東北大学出版会,642p.

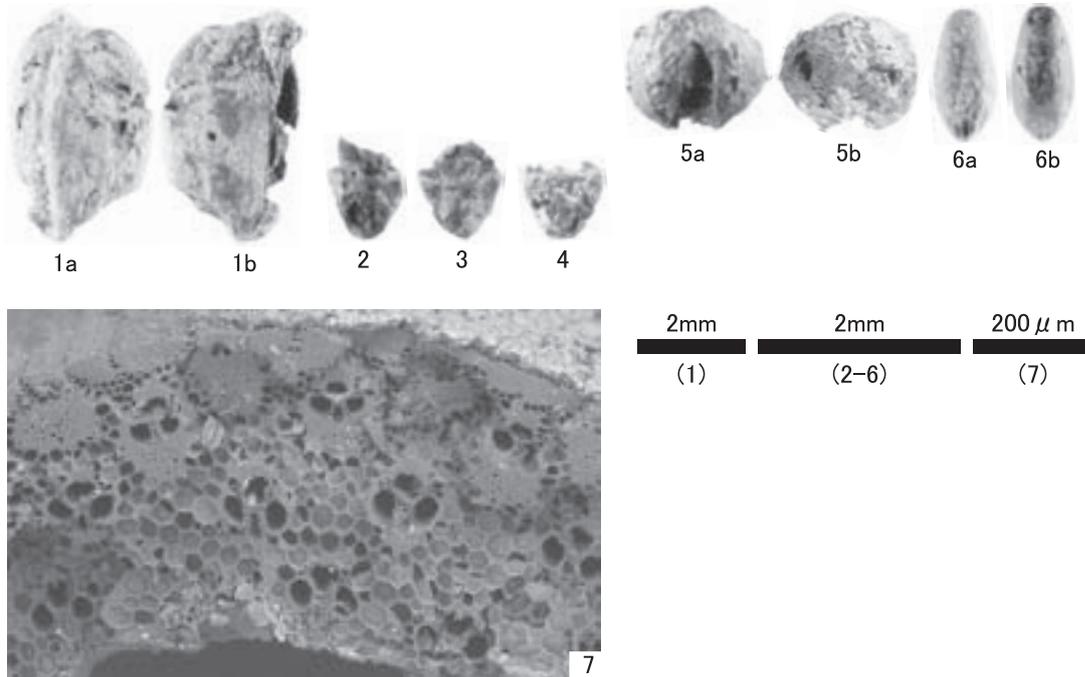
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (編),2006,針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東 隆夫・藤井 智之・佐野 雄三・安部 久・内海 泰弘(日本語版監修),海青社,70p.
 [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].

島地 謙・伊東 隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.

辻 康男・田中 義文・馬場 健司・松元美由紀・高橋 敦,2007,介良野遺跡の自然科学分析.高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第100集 介良野遺跡-県道高知東インター線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-,(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター,163-194.

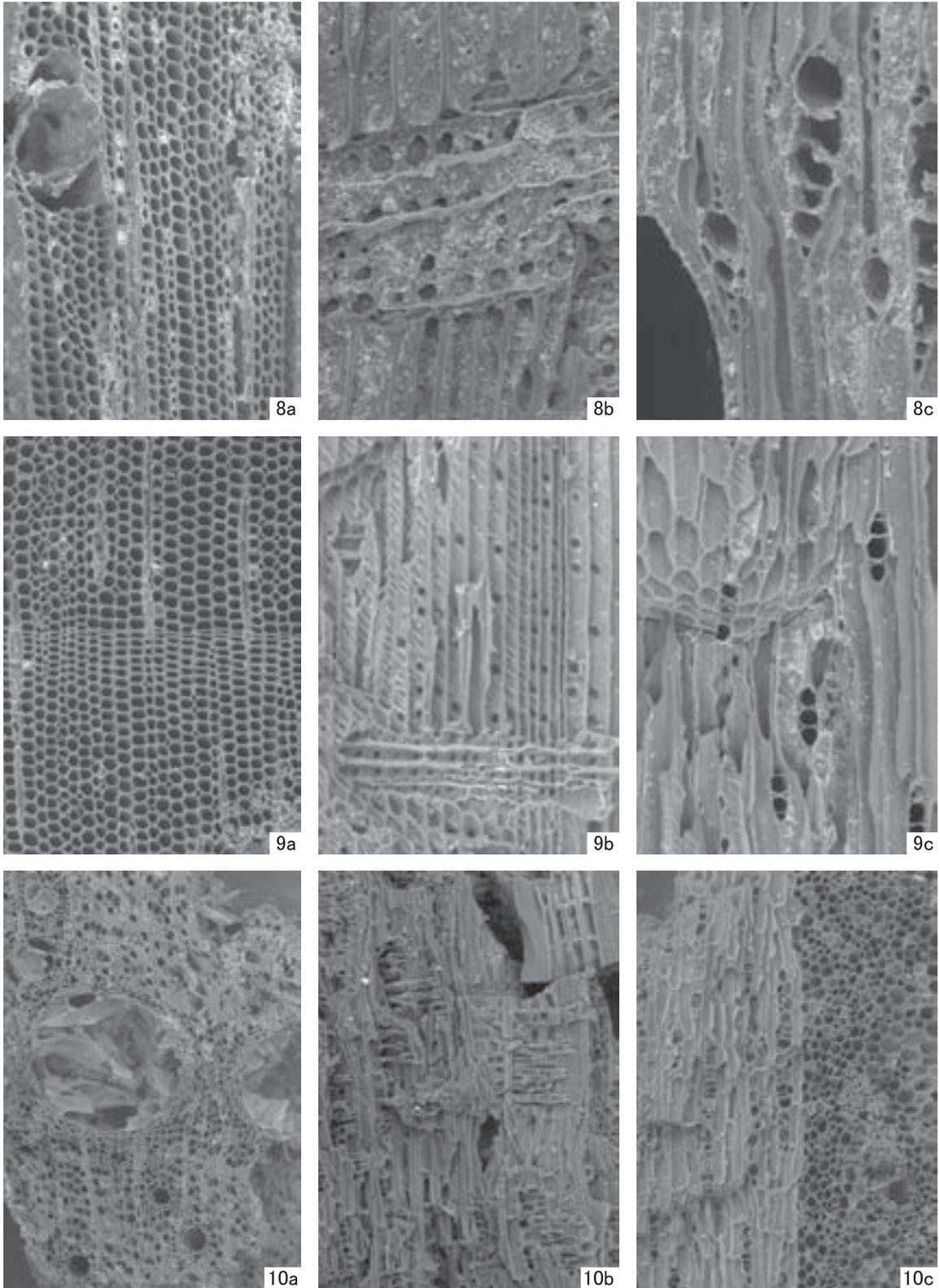
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p.
 [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

図版1 種実遺体・炭化材(1)



- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1. イネ 胚乳(Ⅲ区ST19;中央P) | 2. イネ 穎(Ⅱ区ST8;南の中央P) |
| 3. イネ 穎(Ⅲ区ST19;中央P) | 4. イネ 穎(Ⅲ区ST20;中央P) |
| 5. アワ? 胚乳(Ⅲ区ST20;中央P) | 6. イネ科 胚乳(Ⅱ区ST8;北の中央P) |
| 7. イネ科(Ⅱ区ST8;南の中央P) 横断面 | |

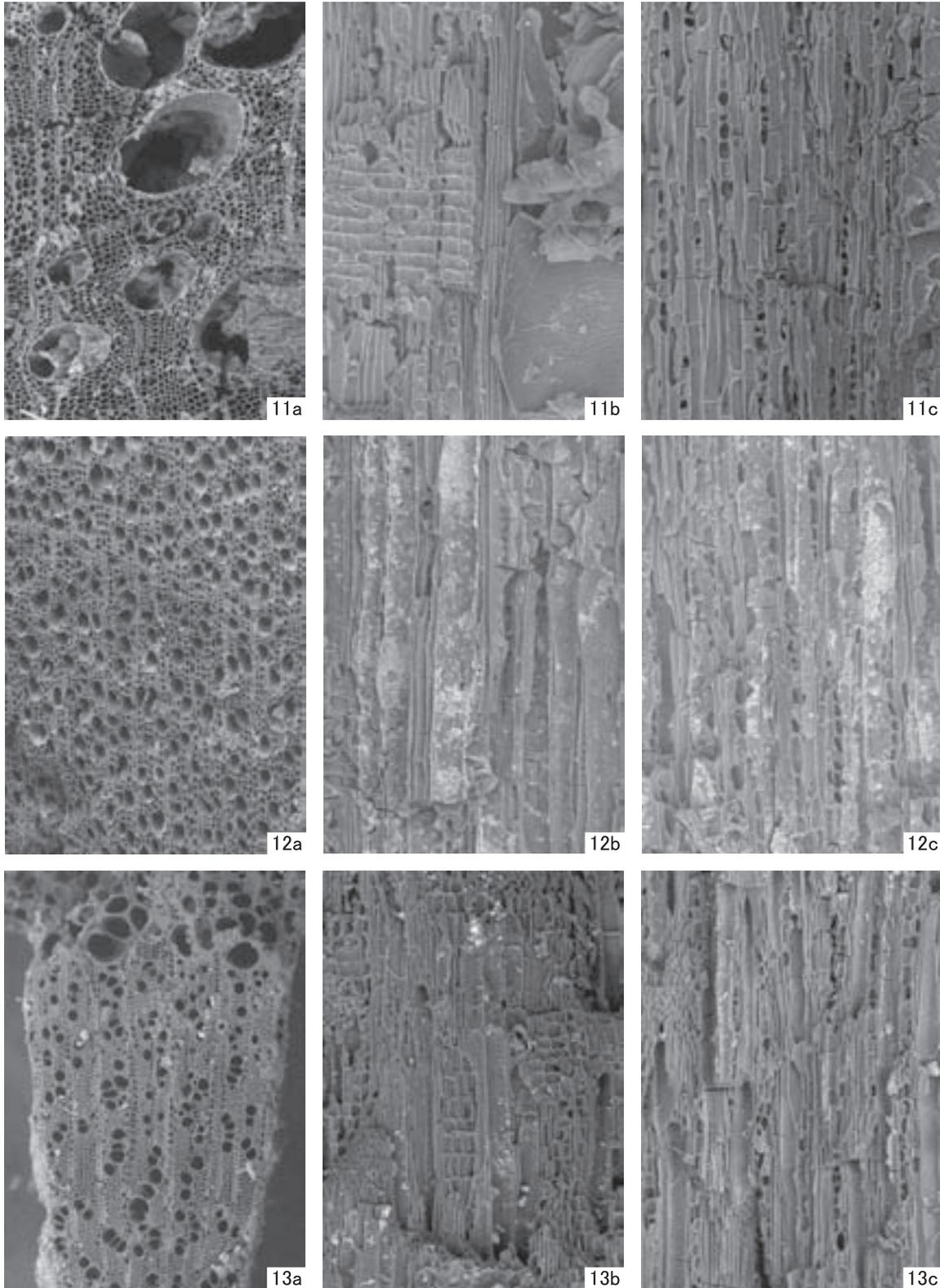
図版2 炭化材(2)



- 8 . マツ属複維管束亜属 (I 区SK25; 中央P)
 9 . カヤ(Ⅲ区ST19; 中央P)
 10 . コナラ属コナラ亜属クヌギ節(Ⅲ区ST17; 中央P)
 a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μ m: 10a
 200 μ m: 8-9a, 10b, c
 100 μ m: 8-9b, c

図版3 炭化材(3)



11 . コナラ属アカガシ亜属(ST31;中央P)

12 . サカキ(Ⅲ区ST20;中央P)

13 . モモ(ST31;中央P)

a:木口,b:柁目,c:板目

200 μ m:a
200 μ m:b,c

許諾手続き中

3. 伏原遺跡Ⅱ出土土器の胎土分析

－ヒビノキ式土器の胎土比較－

岡山理科大学自然科学研究所

白石 純

1. はじめに

この胎土分析では伏原遺跡より出土している「ヒビノキ式土器」(出原 2000)の自然科学的な胎土分析を実施し、以前分析した他の遺跡出土のヒビノキ式土器の胎土と比較することで、この土器の生産地を推定する。比較する遺跡はこれまで分析した高知県南国市介良野遺跡(久家隆芳ほか 2007)とミトロ遺跡である。

そして、各遺跡におけるヒビノキ式土器の胎土の特徴・類似・相違などを検討し、今後のヒビノキ式土器の生産地と流通に向けての基礎データの蓄積を行うことを目的としている。

2. 分析方法と試料

分析方法は、蛍光X線分析法と実体顕微鏡による土器表面の胎土観察の2つの方法で検討した。

蛍光X線分析法では、胎土の成分(元素)量を測定し、その成分量から分析試料の違いについて調べた。測定した成分(元素)は、Si、Ti、Al、Fe、Mn、Mg、Ca、Na、K、Pの10成分である。測定装置はエネルギー分散型蛍光X線分析計(セイコーインスツルメンツ社製 SEA2010L)を使用した。分析試料は、乳鉢で粉末にしたものを加圧成形機で約15トンの圧力をかけ、コイン状に成形したものを測定試料とした。従って、一部破壊分析である。

実体顕微鏡による土器表面の観察では、土器の胎土中に含まれる砂粒(岩石・鉱物)の種類、大きさなどの大まかな含有量を調べた。なお、砂粒の含有量は、やや曖昧な表現であるが、多量・中量・少量・まれに、の4段階で表した。

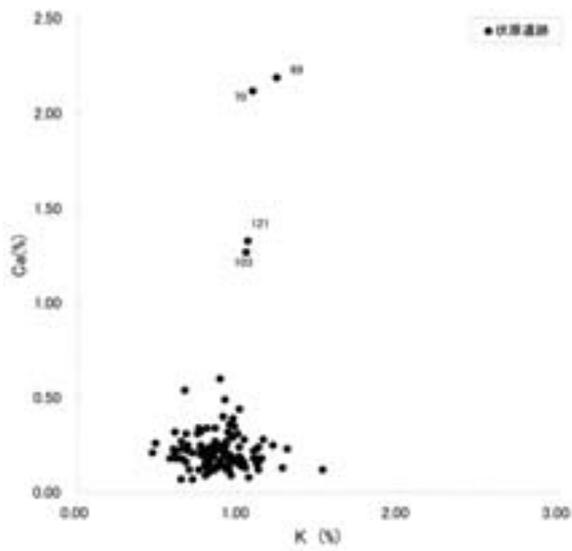
伏原遺跡出土土器は分析試料(ヒビノキ式土器)は、121点である。試料の時期はほとんどが「ヒビノキⅢ式」で、弥生時代中期末、後期前半のものもごくわずかに含む。器種はほとんどが甕である。また、比較したヒビノキ式土器の遺跡は高知市介良野遺跡、ミトロ遺跡である。

3. 分析結果

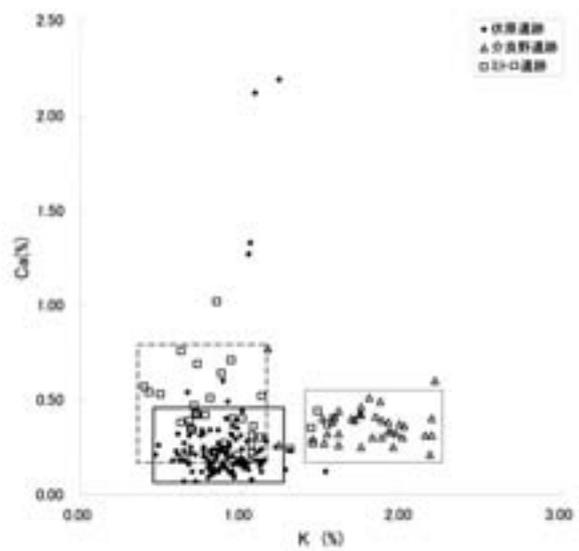
(1) 蛍光X線分析結果について

この分析では測定した10成分のうち、分析試料に顕著な差が見られたのは、Ti、Ca、Kの3成分であった。この3成分を用いて散布図を作成し、胎土の違いを検討した。

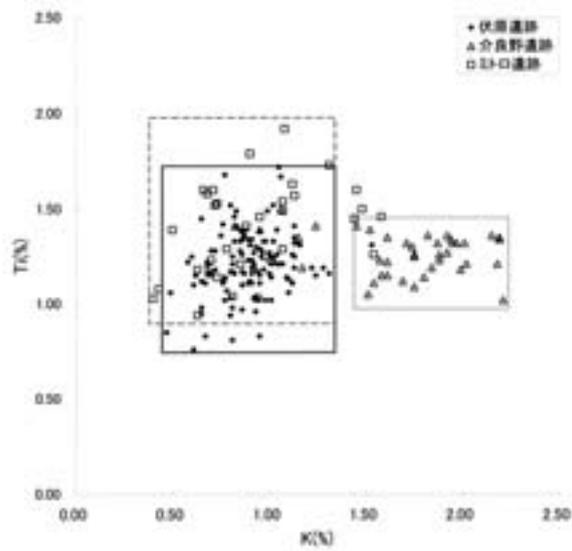
第1図 K-Ca 散布図では、伏原遺跡から出土したヒビノキ式土器の比較を行った。その結果、Ca量の違いで、大きく3つのグループに分類が可能である。それは、Ca量が2.00%以上に分布するもの(試料番号69・70)。Ca量が1～1.5%の間に分布するもの(試料番号103・121)。Ca量が0.6%



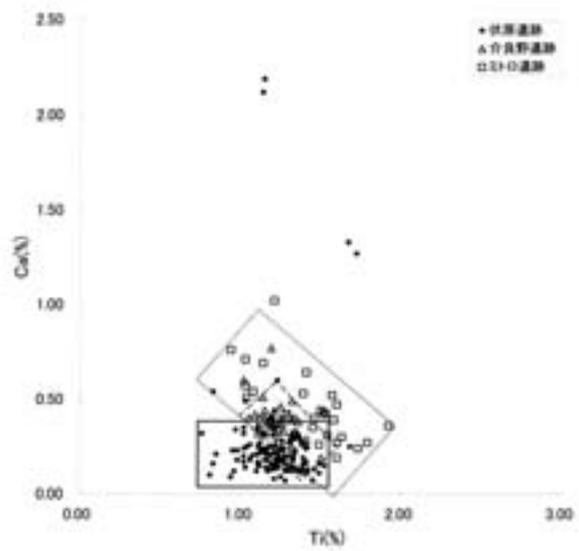
第1図 伏原遺跡内出土土器の比較 (K-Ca散布図)



第2図 各遺跡出土土器の比較 (K-Ca散布図)



第3図 各遺跡出土土器の比較(K-Ti散布図)



第4図 各遺跡出土土器の比較 (Ti-Ca散布図)

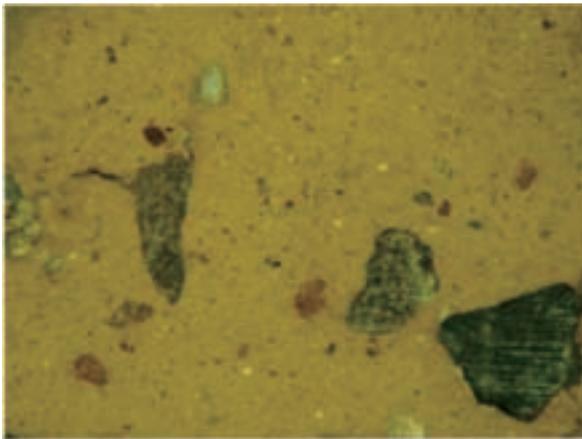


写真1. 試料番号8 (1類)

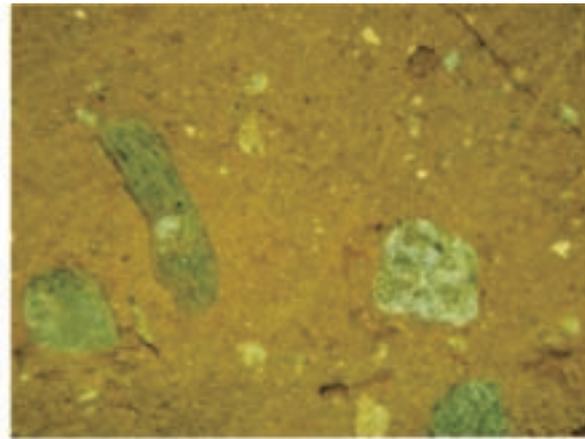


写真2. 試料番号85 (1類)

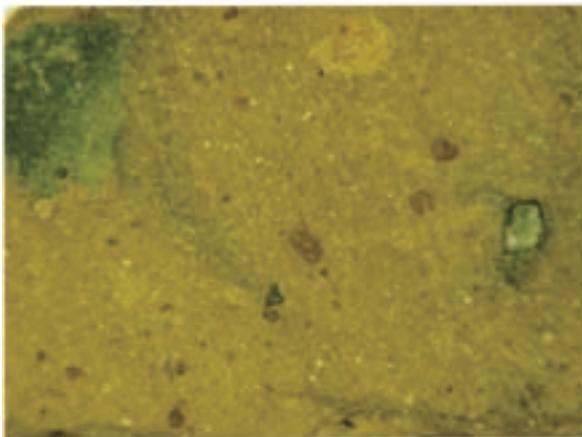


写真3. 試料番号69 (2類)



写真4. 試料番号103 (2類)

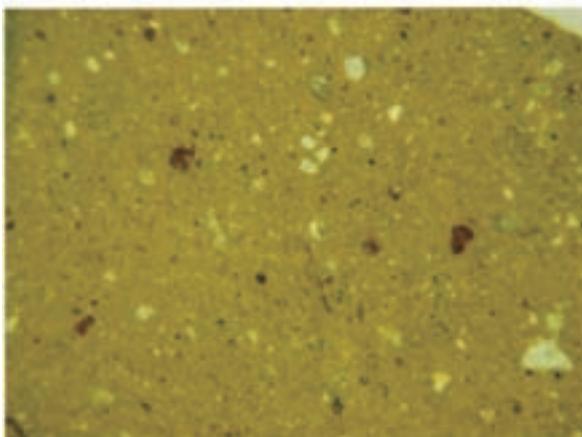


写真5. 試料番号70 (3類)



写真6. 試料番号121 (4類)

0 3mm

第5図 伏原遺跡ヒビノキ式土器実体顕微鏡写真

以下に分布するもの（前者の4点以外のすべての試料はこの領域に分布している）。

第2図 K-Ca, 第3図 K-Ti, 第4図 Ti-Ca の各散布図では, 伏原遺跡と介良野遺跡, ミトロ遺跡の両遺跡出土のヒビノキ式土器の胎土比較を行った。すると, 第2・4図で, 伏原遺跡とミトロ遺跡の間で完全に分布範囲が識別できず, 分布域が半分ほど重なることがわかった。しかし伏原, ミトロの分布の集中域（平均値）はそれぞれ異なる結果となった。

(2) 実体顕微鏡観察結果について

伏原遺跡出土土器の胎土を観察した結果、4つの胎土に分類される。

1類 …… 1mm 以下の石英を多量～中量程度含み, 3mm 以下のチャート, 砂岩, 片岩を少量含む。0.5mm 以下の火山ガラスも含む。素地土は 0.5mm 以下の石英を含む精緻な粘土が使用されている。（第5図-写真1・2, 試料番号8・85）

2類 …… 1mm 以下の石英を多量～中量程度含み, 3mm 以下のチャート, 砂岩を少量含む。素地土は 0.5mm 以下の石英・長石を含む精緻な粘土が使用されている。（第5図-写真3・4, 試料番号69・103）

3類 …… 1mm 以下の石英を多量に含み, 0.5mm 以下の長石・雲母を少量含む。1mm 以下の花崗岩の岩片をまれに含む。（第5図-写真5, 試料番号70）

4類 …… 1mm 以下の石英・金雲母を中量程度含み, 0.5mm 以下の長石・角閃石を少量含む。（第5図-写真6, 試料番号121）

以上の観察結果から, 伏原遺跡の主体をしめる胎土は1類で, 素地土に精製されたきめが細かく, 火山ガラスを含む粘土を使用し, 3mm 以下の亜円礫の砂粒（チャート, 砂岩, 片岩）を含んでいる。また試料番号69・103は2類の胎土で, 1類とほとんど異なる砂粒はみられないが, 精緻な素地土の粘土に微細な長石がやや多く含まれていた。試料番号70は3類の胎土で, 花崗岩起源の砂粒で構成されていた。試料番号121は4類のような砂粒構成で, 特徴として金雲母を多く含み花崗岩起源の岩片もみられた。したがって, 3・4類は火成岩起源の砂粒構成であることが推定された。

4. 考 察

蛍光X線分析と実体顕微鏡観察により伏原遺跡出土土器の胎土分析を行った結果, 以下のことが推定された。

(1) 蛍光X線分析では, 伏原遺跡出土土器のなかに明らかに胎土の異なる土器があった。それは, 試料番号69・70・103・121である。また伏原遺跡とミトロ遺跡, 介良野遺跡から出土したヒビノキ式土器は伏原・ミトロと介良野の2つの胎土に明確に分類できる。そして伏原とミトロは, 胎土が類似しており明確に識別はできず, 分布域が半分ほど重なる結果となったが, 分布域の集中はそれぞれ異なるような分布であった。

(2) 実体顕微鏡による砂粒観察では, 伏原遺跡出土のヒビノキ式土器の主体を占める胎土は1類で, これはミトロ遺跡（久家隆芳ほか2007）の胎土とほぼ同じであった。また2類の胎土には素地土に0.3mm 以下の長石がやや多く含まれる特徴があった。そして3類・4類は, 砂粒構成から火成岩起源と考えられた。

以上の分析結果から, 伏原遺跡が立地する扇状堆積層には, 地質的に古生代末～中生代の秩父帯

および中生代末～新第三紀の四万十帯に含まれる砂岩・泥岩などの砂礫や粘土が堆積しており、同遺跡出土のヒビノキ式土器は砂粒観察で同じ砂粒がみられ、また胎土分析でも、介良野遺跡やミトロ遺跡と分析値が異なっていることから、伏原遺跡周辺で生産されたと考えられる。そして、砂粒分類で、3・4類と分類された土器は、県外からの搬入品と推定される。

この分析の機会を与えていただいた久家隆芳氏をはじめ、高知県埋蔵文化財センターの職員の方々には、いろいろとお世話になった。末筆ではありますが記して感謝いたします。

引用文献

- (1) 出原恵三「土佐地域」『弥生土器の様式と編年』四国編 木耳社 2000
- (2) 久家隆芳, 坂本幸繁『介良野遺跡』高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書100集 2007

写真図版



空中写真遠景

図版 2



空中写真遠景



空中写真遠景

図版 4



空中写真遠景



I・II区調査前風景



I・II区調査前風景

図版 6



I 区東半上面遺構完掘状況



II 区上面遺構完掘状況全景



Ⅱ区上面遺構完掘状況



Ⅰ区下面遺構完掘状況全景

图版 8



I 区東半下面遺構完掘狀況



I 区東半下面遺構完掘狀況



Ⅱ区下面遺構完掘状況



Ⅱ区下面遺構完掘状況

图版 10



I 区西半完掘状况



I 区西半完掘状况



I 区東半上面遺構完掘状況



I 区西半北壁

图版 12



I 区東半北壁



II 区北壁



Ⅱ区北壁



Ⅱ区調査風景



ST7完掘状况



ST8完掘状况



ST8 遺物出土状況



ST8 遺物出土状況



ST8 遺物出土状況



ST8 遺物出土状況



ST8-P5 半掘状況



ST9完掘状况



ST11完掘状况



ST12完掘状況



ST13完掘状況



ST14完掘状況



ST15・16完掘状況



ST1 遺物出土状況



ST1 東西断面西半



ST2 完掘状況



ST2 遺物出土状況



ST2 調査区壁断面



ST2 南北断面



ST3 完掘状況



ST3 カマド付近遺物出土状況



ST3 南北断面



ST4~6 南北断面



ST4~6 断面



ST5 遺物出土状況



ST7 床面遺物出土状況



ST7 遺物出土状況



ST7 遺物出土状況



ST7 東西断面



ST9-P4 根石出土状況



ST12 カマド断ち割り状況



ST12 カマド断ち割り状況



ST12 カマド断ち割り状況



ST14 南北断面



ST14 南北断面



ST14 遺物出土状況



ST15・16 断面



ST16 東西断面



ST16 遺物出土状況



ST16 遺物出土状況



ST16 遺物出土状況



ST16 床面遺物出土状況



SK1・2 断ち割り状況



SK8 断ち割り状況



SK10 断ち割り状況



SK25 完掘状況



SK25 断面



SK25 断面



SK26 断面



SK26 断面



SK26 礫検出状況



SK39 遺物 (鉄製品) 出土状況



SK40 断ち割り状況

图版 24



SK69床面遺物出土狀況



SK69床面遺物出土狀況



SK69床面遺物出土狀況



SK69遺物出土狀況



SK69床面遺物出土狀況



SK69床面遺物出土狀況



SK69床面焼土・台石出土狀況



SK69断面



SK74 半掘状況



SK76 断面



SK76 北東隅部のピット根石



SK77 内焼土断面



SK81 半掘状況



SK81 完掘状況



SD1 南半礫・遺物出土状況



SD1 完掘状況



SD3完掘状況



SD3 H5グリッド断面



SD3 I5グリッド断面



SD10断面



SD13 K6グリッド断面



SD15断面



P19柱痕跡検出状況



P145半掘状況



P163 根石出土状況



P163 根石出土状況



P183・P184 遺物出土状況



P183・P184 遺物出土状況



P183・P184 遺物出土状況



P183 遺物出土状況



P247 遺物(朱付着石器) 出土状況



P278 根石出土状況



SX3 遺物(耳環) 出土状況



SX3 東西断面



SX9 断面



SX9 遺物出土状況



SX9 遺物出土状況



SX11 西断面



SX11 東断面



SX11 南北断面



Ⅲ区完掘状況全景



Ⅳ区西半完掘状況全景

图版 30



IV区西半完掘状况



IV区西半完掘状况



IV区東半完掘状況全景



IV区東半完掘状況



IV区東半完掘状況



IV区東半完掘状況



ST18 遺物出土状況



ST18 遺物出土状況



ST18 遺物出土狀況



ST18 完掘狀況



ST19完掘状況



ST20完掘状況



ST21 床面遺構検出状況



ST21 完掘状況



ST23完掘状況



ST26完掘状況



ST28完掘状况



ST29完掘状况



ST31 遺物出土状況



ST30・ST31 完掘状況

图版 40



Ⅲ・Ⅳ区調査前風景



Ⅲ区北壁



Ⅳ区東半北壁



Ⅳ区東半西壁



ST17 断面



ST18 断面



ST18 断面



ST18 断面



ST18 遺物出土状況



ST18 遺物出土状況



ST18 遺物出土状況



ST18 遺物出土状況



ST18 遺物出土状況



ST18 遺物出土状況



ST19 遺物出土状況



ST20 遺物出土状況



ST21 断面



ST23 遺物出土状況



ST25 断面



ST25 断面



ST26 遺物出土状況



ST26 遺物出土状況



ST29-SK1 礫出土状況



ST29 焼土跡検出状況



SX13 遺物出土状況



SX21 遺物出土状況



ST32 完掘状況



IV-3区完掘状況



IV-4区完掘状況



包含層Z7グリッド遺物出土状況



D6グリッド焼土検出状況



包含層D8グリッド遺物出土状況



V区調査前風景



V区完掘状況全景



V区完掘状况全景



V区土器棺墓群検出状况



SG1 断面



SG2 出土状况



SG3 出土状况



SG5 断面



SG6 断面



SG7 断面



SG8 出土状况



SG9~11 出土状况



SG9 出土状况



SG10 出土状况



SG12 断面



SG13 断面



SG14 検出状况



SG15 出土状况



石垣遺物出土状况



V区刀子出土状况

图版 48





图版 50





图版 52





图版 54





图版 56





图版 58

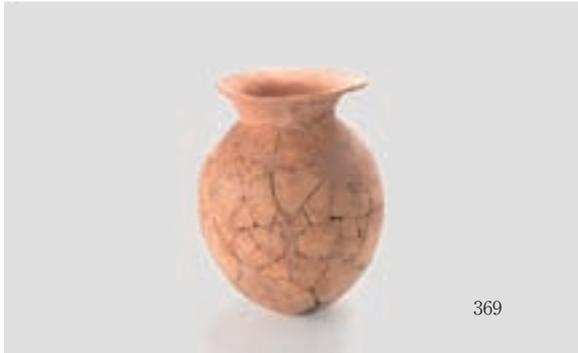




图版 60

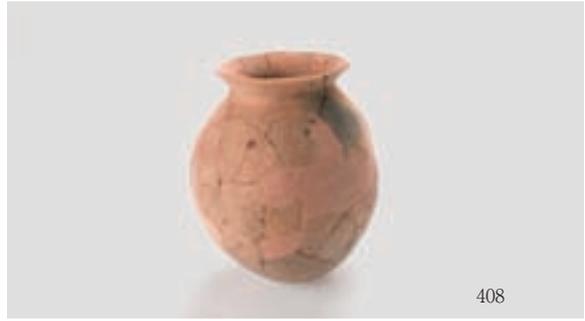








图版 64





图版 66





图版 68





图版 70





图版 72





图版 74





图版 76





图版 78





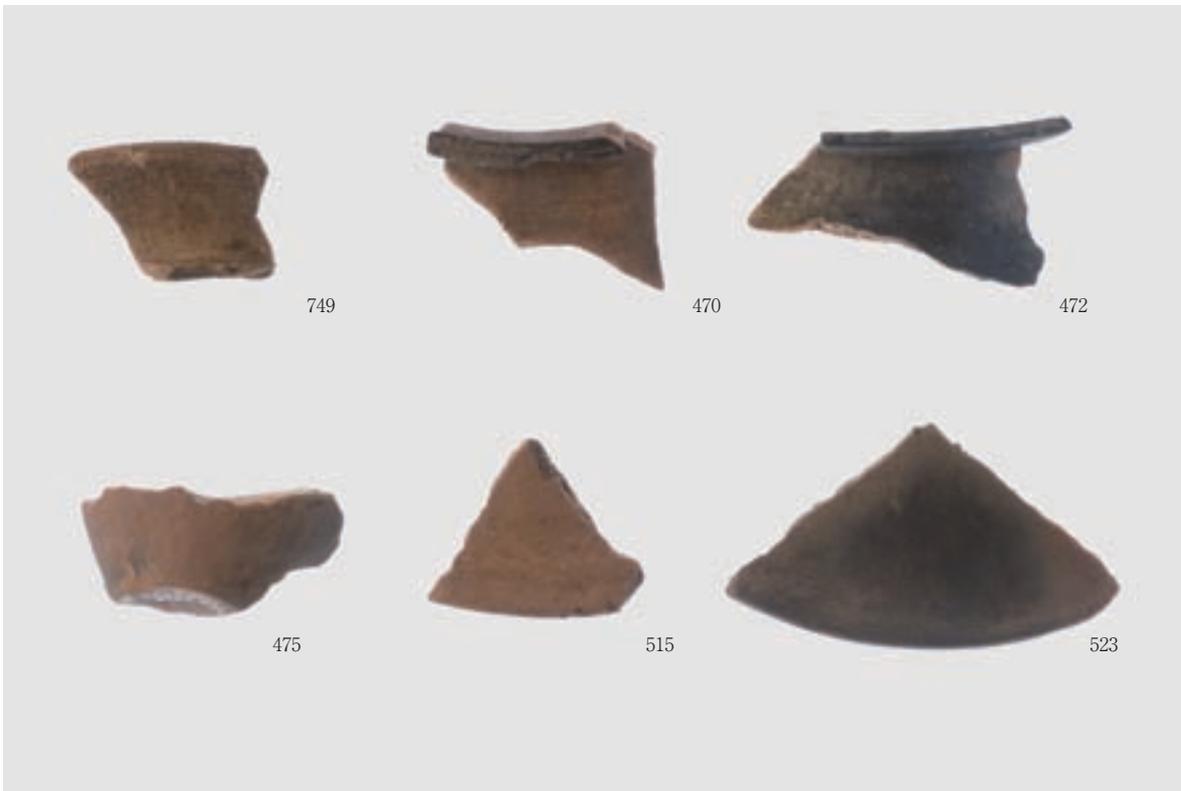
图版 80





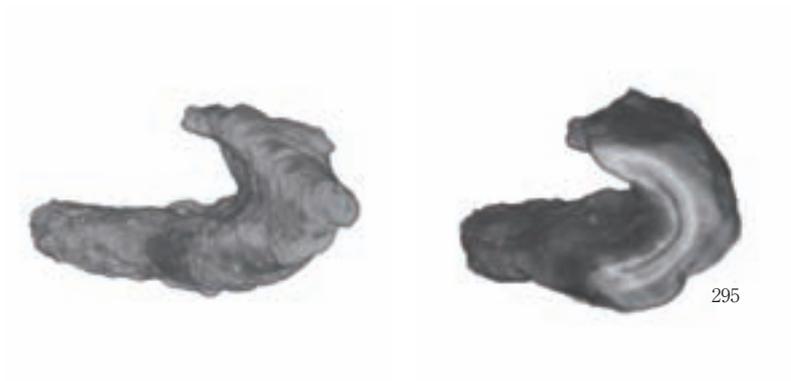
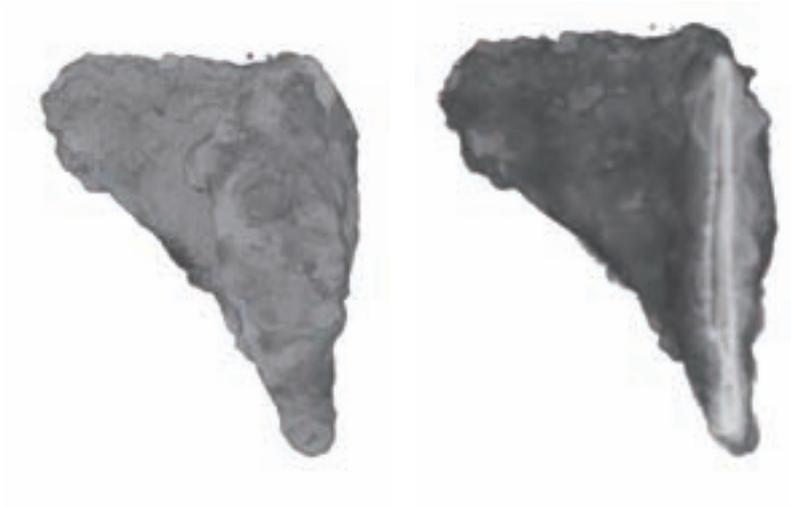
图版 82





图版 84





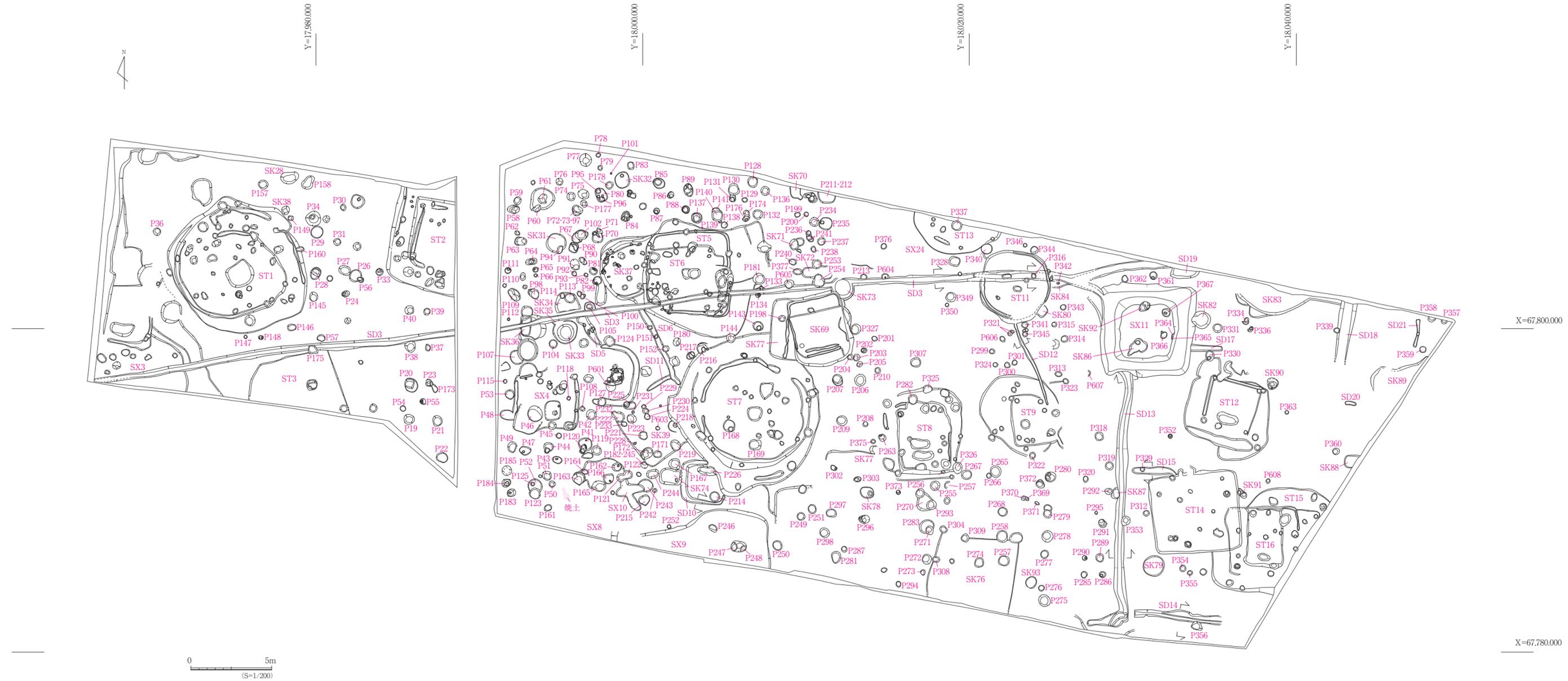


報告書抄録

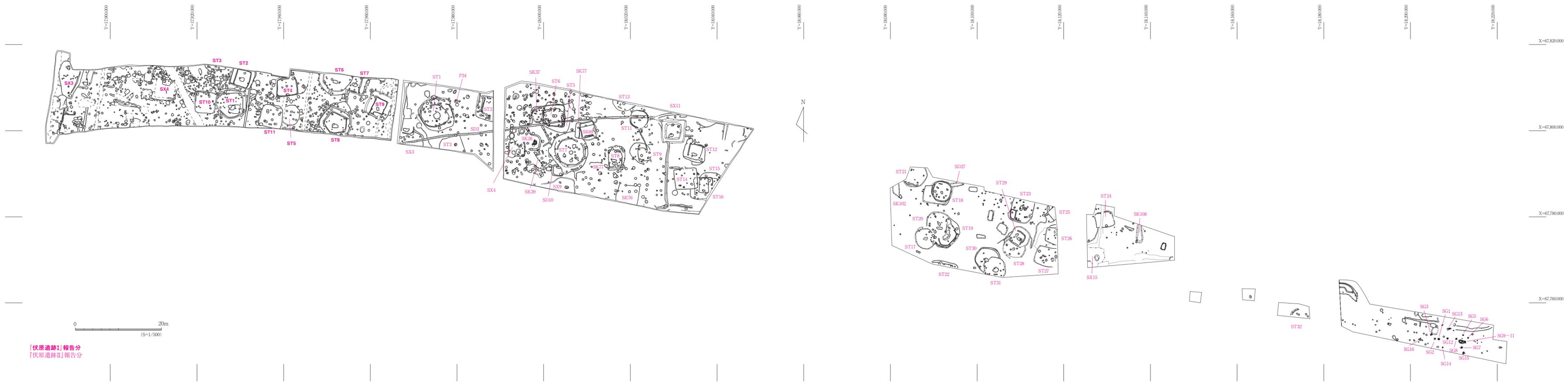
ふりがな	ふしはらいせきに							
書名	伏原遺跡Ⅱ							
副書名	都市計画道路高知山田線発掘調査報告書							
巻次	Ⅱ							
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第109集							
編著者名	久家隆芳・中石 忍・島内洋二							
編集機関	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター							
所在地	高知県南国市篠原1437-1							
発行年月日	2010年2月26日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯 〃	東経 〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふしはらいせき 伏原遺跡	〒782-0051 高知県 香美市 土佐山田町 楠目	39212	190119	33° 36' 42"	133° 41' 41"	2007.12.17) 2008.8.21	4,729㎡	都市計画道路高知山田線建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
伏原遺跡	集落跡	弥生時代	堅穴式住居跡 土坑 土器棺	29棟 5基 14基	弥生土器, 土製品, 石器, 鉄器		縄文時代, 弥生時代, 古墳時代, 古代, 中世, 近世の遺物が出土した。 弥生集落は, 拠点集落である。土器棺墓群の墓域を伴う。 古代では, 緑釉陶器, 灰釉陶器, 黒色土器, 刻書土器等の遺物が出土した。	
		古墳時代	堅穴式住居跡 土坑	5棟 4基	土師器, 須恵器, 石製紡錘車			
		古代	土坑 溝跡	11基 5条	土師器, 須恵器, 黒色土器, 緑釉陶器, 灰釉陶器			
		近世	土坑 溝跡	39基 4条	陶器, 磁器, 瓦			
要約	<p>弥生時代中期末～古墳時代前期, 古墳時代後期の堅穴住居跡, 弥生時代後期後半～古墳時代初頭の土器棺墓群, 古代の掘立柱建物跡, 近世のハンダ土坑等を検出した。遺跡の最盛期は弥生時代後期末～古墳時代初頭にかけてである。</p> <p>特筆すべき出土遺物は, 弥生時代後期末～古墳時代初頭では香川県, 岡山県, 大阪府等からの搬入土器, 大形勾玉, 古墳時代後期では耳環, 鋸歯文が施された紡錘車, 古代では灰釉陶器, 猿投産の緑釉陶器をあげることができる。</p>							



付図1 I・II区上面遺構配置図

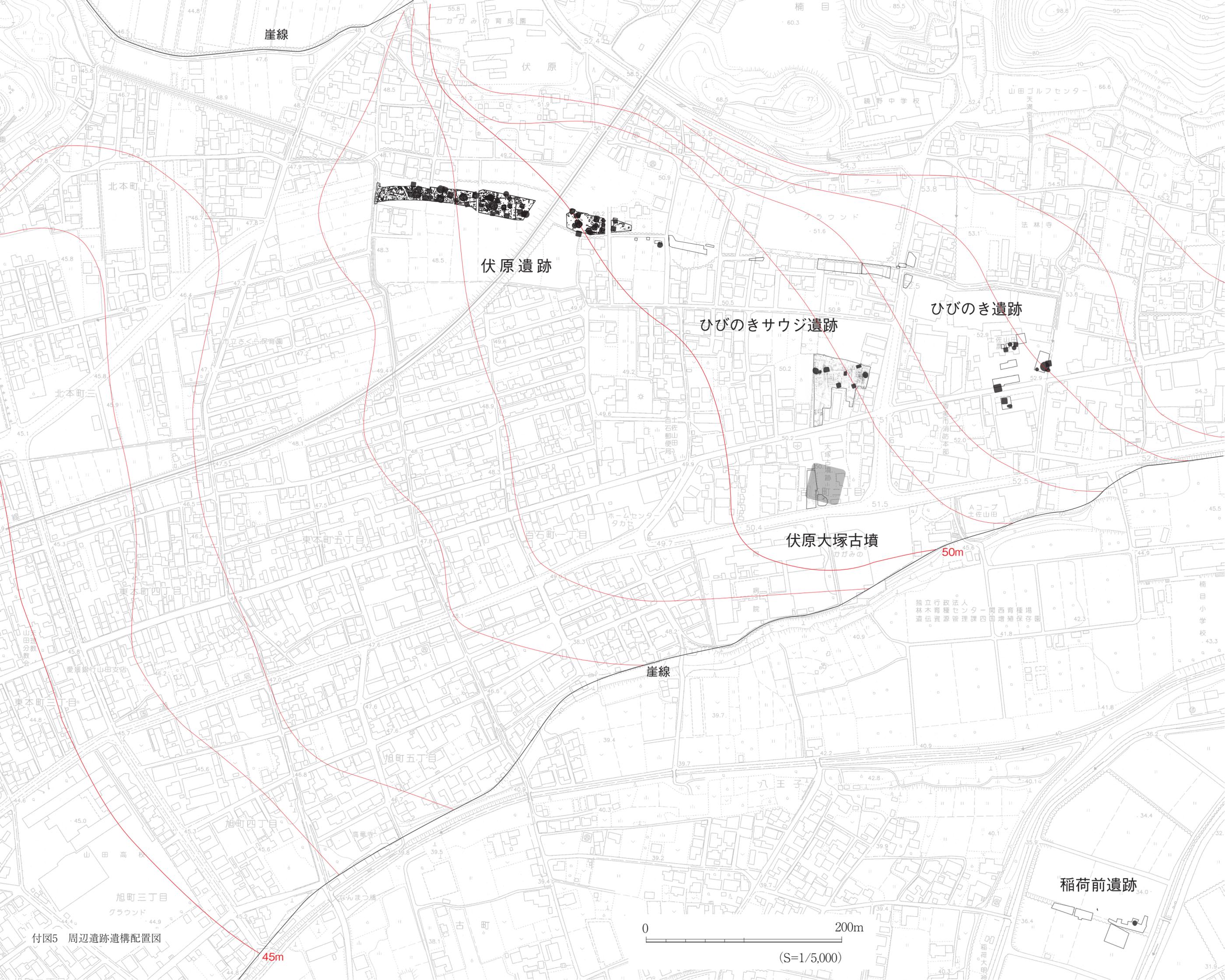


付図2 I-II区下面遺構配置図



【伏原遺跡Ⅰ】報告分
 【伏原遺跡Ⅱ】報告分

付図4 伏原遺跡遺構全体図



崖線

伏原遺跡

ひびのきサウジ遺跡

ひびのき遺跡

伏原大塚古墳

50m

崖線

稲荷前遺跡

付図5 周辺遺跡遺構配置図

45m

0 200m
(S=1/5,000)

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第109集

伏原遺跡Ⅱ

都市計画道路高知山田線発掘調査報告書Ⅱ

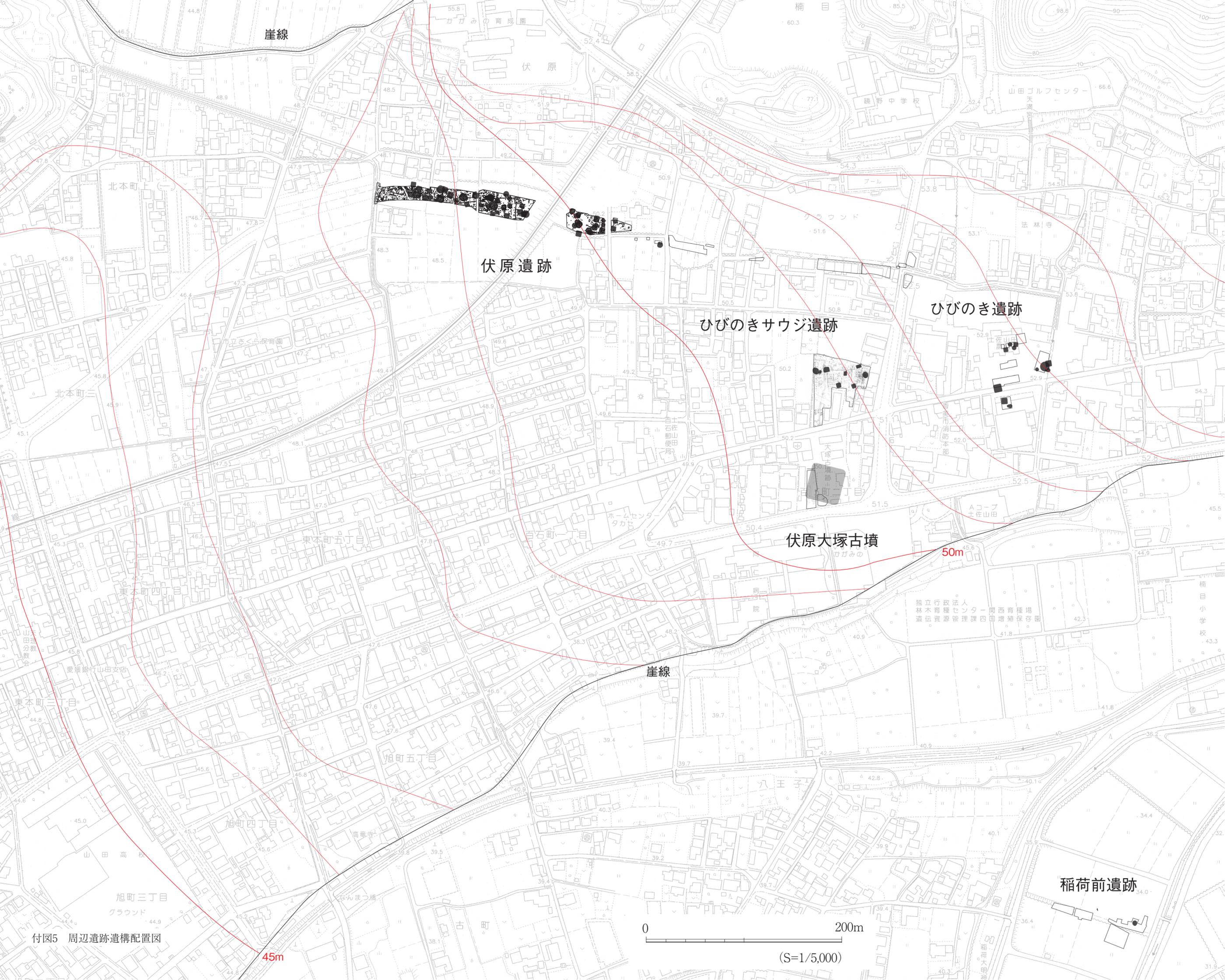
2010年2月26日

発行 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原南泉1437-1

Tel. 088-864-0671

印刷 共和印刷株式会社



崖線

伏原遺跡

ひびのきサウジ遺跡

ひびのき遺跡

伏原大塚古墳

50m

崖線

稲荷前遺跡

付図5 周辺遺跡遺構配置図

45m

